石和第一保育所建設工事(建築主体)(債務)

笛吹市

意 匠 図

図面番号	図 面 名 称
A-０１	図面リスト
A-０２	特記仕様書（1）
A-０３	特記仕様書（2）
A-０４	特記仕様書（3）
A-０５	特記仕様書（4）
A-０６	工事区分表
A-０７	敷地面積及び建物面積求積図、求積表
A-０８	外部仕上表
A-０９	内部仕上表（１）
A-１０	内部仕上表（２）
A-１１	内部仕上表（３）
A-１２	配置図
A-１３	１階 平面図
A-１４	２階 平面図
A-１５	屋根伏図
A-１６	立面図
A-１７	断面図（１）
A-１８	断面図（２）
A-１９	矩計図（１）
A-２０	矩計図（２）
A-２１	矩計図（３）
A-２２	矩計図（４）
A-２３	屋内階段詳細図
A-２４	１階 平面詳細図（１）
A-２５	１階 平面詳細図（２）
A-２６	１階 平面詳細図（３）
A-２７	１階 平面詳細図（４）
A-２８	２階 平面詳細図（１）
A-２９	２階 平面詳細図（２）
A-３０	展開図（１）
A-３１	展開図（２）
A-３２	展開図（３）
A-３３	展開図（４）
A-３４	展開図（５）
A-３５	展開図（６）
A-３６	展開図（７）
A-３７	展開図（８）
A-３８	展開図（９）
A-３９	展開図（１０）
A-４０	展開図（１１）
A-４１	展開図（１２）
A-４２	天井伏図
A-４３	建具キープラン
A-４４	建具表（１）
A-４５	建具表（２）
A-４６	建具表（３）
A-４７	建具表（４）

意 匠 図

図面番号	図 面 名 称
A-４８	建具表（５）
A-４９	建具表（６）
A-５０	建具表（７）
A-５１	建具表（８）
A-５２	厨房機器リスト
A-５３	厨房機器レイアウト図
A-５４	床暖房詳細図（１）
A-５５	床暖房詳細図（２）
A-５６	避難用滑り台詳細図（１）
A-５７	避難用滑り台詳細図（２）
A-５８	避難用滑り台詳細図（２）
A-５９	家具キープラン
A-６０	家具詳細図（１）
A-６１	家具詳細図（２）
A-６２	家具詳細図（３）
A-６３	家具詳細図（４）
A-６４	収納台車詳細図
A-６５	舞台吊物装置詳細図
A-６６	床下地（遊戯室・ステージ）詳細図（１）
A-６７	床下地（遊戯室・ステージ）詳細図（２）
A-６８	屋根詳細図（１）
A-６９	屋根詳細図（２）
A-７０	テラス膜屋根　特記仕様書
A-７１	テラス膜屋根　鉄筋コンクリート特記仕様書
A-７２	テラス膜屋根　鉄筋コンクリート構造配筋標準図
A-７３	テラス膜屋根　屋根伏図、小屋伏図、立面図
A-７４	テラス膜屋根　軸組図
A-７５	テラス膜屋根　基礎伏図、基礎詳細図
A-７６	テラス膜屋根　矩計図
A-７７	テラス膜屋根　柱脚詳細図
A-７８	テラス膜屋根　雑詳細図
A-７９	防火区画平面図

構 造 図

図面番号	図 面 名 称
S-０１	新構造特記仕様書　その1
S-０２	新構造特記仕様書　その2
S-０３	新鉄筋コンクリート構造配筋標準図（1）
S-０４	新鉄筋コンクリート構造配筋標準図（2）
S-０５	新鉄筋コンクリート構造配筋標準図（3）
S-０６	鉄骨構造標準図（1）
S-０７	鉄骨構造標準図（2）
S-０８	基礎伏図
S-０９	２階 梁伏図
S-１０	Ｍ２階 梁伏図
S-１１	ＲＦ 梁伏図
S-１２	軸組図（１）
S-１３	軸組図（２）
S-１４	基礎断面リスト
S-１５	地中梁断面リスト　配筋リスト
S-１６	床版リスト　機械基礎リスト　階段詳細図
S-１７	柱脚詳細図リスト　剛接合リスト(SCSSH-97)　ピン接合部リスト
S-１８	ＱＬデッキ合成スラブ設計・施工標準（参考図）
S-１９	ＱＬデッキ納まり詳細図（参考図）
S-２０	ベースパック柱脚工法設計施工標準図
S-２１	地盤調査図
S-２２	Ｘ６通 鉄骨詳細図
S-２３	角形鋼管柱･H形鋼はり接合工法 NDコア設計･施工標準仕様書

附 帯 外 構 図

図面番号	図 面 名 称
F-０１	擁壁工 計画図
F-０２	水路工 計画図
F-０３	舗装工 計画図
F-０４	フェンスエ 計画図
F-０５	遊具レイアウト図
F-０６	遊具詳細図（１）
F-０７	遊具詳細図（２）
F-０８	遊具詳細図（３）
F-０９	プール詳細図
F-１０	ＬＰＧ庫詳細図
F-１１	各詳細図
F-１２	プールシェード詳細図

共 通 図

図面番号	図 面 名 称
K-０１	仮設計画図

特記事項 訂正事項						承認	設計	担当		縮尺 S=Non 設計年月日	工事名称 石和第一保育所建設工事（建築主体）（債務） 図面名称 図面リスト	No. A －０１

石和第一保育所建設工事(建築主体)(債務)　設計図

令和　７年　月(金　　枚)

仕 様 書

Ⅰ　工事概要

敷地所在地	山梨県笛吹市石和町八田178番地
都市計画区域	都市計画内　区域区分非設定
防火指定	指定なし
その他の地域地区	なし
道路	市道　幅員　6.00m
敷地面積	2,999.28㎡
用途地域	第１種住居地域
建蔽率	60%
容積率	200%
建物の主要用途	保育所
工事の種類	新築
棟数	1棟
構造・階数	鉄骨造　2階建て
建築面積	1,155.46㎡
延べ床面積	1,320.58㎡
最高の高さ	8.52m（平均地盤面から）
最高の軒高さ	8.16m(平均地盤面から)
消防法上の有窓階・無窓階	有窓階
下水の放流形式	下水道放流

工事種目　図示の内容全て

Ⅱ　工事範囲

※「工事種目」全てを工事範囲とする。

Ⅲ　建築工事仕様

1. 共通仕様

（1）図面及び特記仕様書に記載されていない事項は、全て国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書（令和７年版）」による。
工事関係提出書類等については、「工事関係提出書類一覧表」（笛吹市HPに掲載）を熟読し、遺漏の無いように提出すること。（特に留意すべき事項については、特記仕様書に重複して記載している。）

2. 特記仕様

（1）項目は、番号に　○　印の付いたものを適用する。
（2）特記事項は、☉ 印の付いたものを適用する。
　☉ 印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。
　☉ 印と ※ 印の付いた場合は、共に適用する。
（3）特記事項に記載の（　　）内表示番号は、様仕の当該項目、当該図又は当該表を示す。
（4）特記事項に記載の（別　　）は（5.3.7）による別図「各部配筋」の当該項目を示す。
（5）製造所名は、五十音順とし「株式会社」等の記載は省略する。また（　）内は製品名を示す。
（6）🄶 印は「国等による環境物品等の調達の推進に関する法律（グリーン購入法）」の特定調達品目を示す。

① 電子納品
☉ 「山梨県県土整備部電子納品要領【営繕工事編】」、「山梨県県土整備部電子納品運用ガイドライン【営繕編】」、「山梨県県土整備部営繕工事写真撮影要領・同解説」による。（県ホームページ：トップ ＞ 県政情報・統計 ＞ 入札・公共事業関係〉電子納品 ＞ 電子納品要領（営繕課）・営繕工事写真撮影要領　参照）
☉ 完成図（製本版）　3部（A3縮小版）　注）その他の紙媒体による提出物については、監督職員と協議すること。

② 技能士の活用を積極的に図ること。また、施工計画書に技能士の氏名・資格証明書を添付すること。
なお、防水工事及び塗装工事については、技能士の活用を必須とする。

③ 現場への搬入路は、破損のないよう留意し、もし破損した場合は速やかに復旧すること。

④「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律」（グリーン購入法）に基づき、「山梨県グリーン購入の推進を図るため方針」により定められた次の資材に関しては、同法の判断基準を満たすものの採用に努め、建設機械については原則使用すること。
なお、採用が困難な場合は理由書を添付して報告すること。（コスト、納期、使用部位へ適応性など）

再生木質ボード（パーティクルボード、繊維板、木質系セメント板）
陶磁器質タイル、高炉セメント、フライアッシュセメント、再生加熱アスファルト混合物
再生骨材等、小径丸太材（間伐材）、排出ガス対策型建設機械

注）高炉セメント、フライアッシュセメントは鉄筋コンクリート造には使用しない。
注）再生加熱アスファルト混合物は積極的に採用する。（プラントから４０km以内の現場）

次の製品に関しては同法の判断基準を満たすものから選定すること。

掲示板、黒板、ホワイトボード、カーテン、カーペット

工事完了後、実績を報告すること。

５　高炉セメントB種を以下の部位に使用すること。
・　ラップルコンクリート
・　捨てコンクリート
・　場所打ちコンクリート杭地業
・　外構工事等に伴う地中部分のコンクリート工作物

⑥ 環境対策及び再生資源の利用の促進と建設副産物の適正処理方法を書面等により、明確にすること。
注）　建設機械については、排ガス対策型の建設機械の使用を原則とする。

⑦ 工事特性・創意工夫・社会性等実施状況について（請負工事費５００万円以上）
工事成績評定の対象工事について、請負者は、自ら立案・実施した創意工夫や技術力に関する項目、地域社会への貢献として評価出来る項目に関する事項を、所定の様式により事前に提出することができる。

⑧ 工事の着手に先立ち、次の施工計画書を提出すること。
・　工事の総合的な計画をまとめた総合施工計画書
・　品質計画、一工程の施工の確認及び施工の具体的な計画を定めた工種別の施工計画書
注）　軽微な工種など、あらかじめ監督職員の承諾を受けた場合は必要としない。
注）　安全対策、使用材料、施工体制（下請け施工者の責任者等）を記載すること。

⑨ 建設副産物実態調査について（請負工事費１００万円以上）
請負者は、「再生資源利用計画書及び再生資源利用促進計画書」を作成し、総合施工計画書に添付すること。
注）　「建設リサイクル報告様式（計画書・実施書）（Excel様式）」の最新版（国土交通省ホームページ）で作成すること。

工事完了後は、「再生資源利用実施書及び再生資源利用促進実施書」を作成し、完成書類に添付すること。
また、電子データを電子媒体（CD,DVD）により監督職員に提出すること。なお、提出に当たっては、事前に「記入内容チェックツール」によるエラーチェックを行うこと。

なお、建設副産物情報交換システム（COBRIS）の利用することも可能であり、その場合は電子データの提出は不要とする。
（入力内容については、システム上でチェックした上で、自社で１年間保管しておくこと。）

⑩ 暴力団等からの不当要求及び工事妨害の排除について
請負者は、工事の施工に当たり、暴力団等からの不当要求及び工事妨害を受けた場合は、その旨を直ちに監督職員に報告するとともに、所轄の警察署に届け出を行い、捜査上必要な協力を行うこと。
この場合において、工程等を変更せざるをえなくなったときは、速やかに監督職員と協議すること。
なお、請負者が不当要求等に関する報告を怠った場合は、「山梨県建設工事に係る指名停止等措置要領」に基づき、指名停止措置を行うこととする。

⑪ 地中埋設物について
設計図書を参考に、詳細に現地調査を行うこと。

12　居ながら工事について
施設利用者等の安全に十分に配慮すること。
外壁等の吹付工事を行う場合は、十分な飛散防止対策を行うとともに、駐車車両についても車両用ビニールカバーで覆うなどの対策を行うこと。なお、飛散等による苦情及び被害があった場合は、施工者にて誠実に対応すること。

⑬ ワンデーレスポンスについて（請負工事費５０００万円以上）
このエ事は、ワンデーレスポンス試行対象工事とする。
受注者は、余裕を挿した最適な工程を、作業ごとの関連、進捗状況が把握できる方法により作成し、監督職員と協議する。
効果・課題等を把握するため、フォローアップ調査に協力すること。
注）ワンデーレスポンス　　受注者からの質問、協議への回答について、原則１日（24時間）以内に回答すること。

⑭ 主任技術者又は監理技術者の専任について（請負工事費4000万円以上 建築一式は8000万円以上）
請負契約の締結後、現場施工に着手するまでの期間については、主任技術者又は監理技術者の工事現場への専任を要しない。
なお、現場施工に着手する日については、請負契約の締結後、監督職員との打合せにおいて定める。
工事完成後、検査が終了し（発注者の都合により検査が遅延した場合を除く。）事務手続き、後片付け等のみが残っている期間については、主任技術者又は監理技術者の工事現場への専任を要しない。なお、検査が終了した日は、発注者が工事の完成を確認した旨、請負者に通知した日（「完成検査結果通知書」等における日付）とする。

⑮ 低騒音型建設機械の使用について
本工事において、原則「建設工事に伴う騒音振動対策技術指針（昭和62年3月30日建設省経機第58号）」に基づき、低騒音型建設機械を使用する。
なお、低騒音型建設機械については、「低騒音型・低振動型建設機械の指定に関する規程（平成9年建設省告示第1536号最終改正平成20年国土交通省告示第361号）」に基づき指定された低騒音型建設機械を使用するものとする。
また、施工現場において指定機械であることを識別するラベルが確認できるように、建設機械を写真撮影し、監督員に提出するものとする。

⑯ 公共事業労務費調査について
当該工事が公共事業労務費調査の対象工事となった場合には、監督員の指示によりこれに協力しなければならない。

⑰ ゴム製品等について
（１）ゴム製品等の品質確認等
東洋ゴム化工品（株）、ニッタ化工品（株）で製造された製品や材料を用いる場合には、契約時点で同社が製造するゴム製品等に対して受注者が指定した第三者（東洋ゴム化工品（株）、ニッタ化工品（株）と資本面・人事面で関係がない者）によって作成された品質を証明する書類を提出し、監督員の確認を得るものとする。
なお、必要な品質証明書は、以下の試験および検査において、製品に応じて必要な規格について取得するものとする。
（２）ゴム製品等の品質確認をした場合における瑕疵担保の取扱い
第三者による品質証明書類を提出し監督員の確認を得た場合であっても、後に製品不良等が判明した場合の受注者の瑕疵担保責任が免責されるものではない。

⑱ 週休２日制適用工事について
この工事は笛吹市が指定する発注者指定型「週休2日制適用工事」であり、その取扱いに当たっては、令和7年5月1日から適用する「週休2日制適用工事実施要領」及び「営繕工事における週休2日促進工事の実施について（改定）（令和7年4月1日付、国土交通省大臣官房官庁営繕部）」の「6.積算方法等」によるものとする。
☉発注者指定型　☉月単位

⑲ 法定外の労災保険の付保について
本工事において、受注者は法定外の労災保険に付さなければならない。

⑳ 特例監理技術者について（請負工事費8000万円以上３億円未満（JV等除く））
本工事において、建設業法第２６条第３項ただし書の規定の適用を受ける監理技術者（以下、「特例監理技術者」という。）の配置を行う場合は以下の（１）～（８）の要件を全て満たさなければならない。
（１）建設業法第２６条第３項ただし書による監理技術者の職務を補佐する者（以下、「監理技術者補佐」という。）を専任で配置すること。
（２）監理技術者補佐は、一級施工管理技士補、又は一級施工管理技士等の国家資格者、学歴や実務経験により監理技術者の資格を有する者であること。なお、監理技術者補佐の建設業法第２７条の規定に基づく技術検定種目は、特例監理技術者に求める技術検定種目と同じであること。規定に基づく技術検定種目は、特例監理技術者に求め
（３）監理技術者補佐は受注者と直接的かつ恒常的な雇用関係にあること。
（４）同一の特例監理技術者が配置できる工事の数は、本工事を含め同時に２件までとする。（ただし、同一あるいは別々の発注者が、同一の建設業者と締結する契約工期の重複する複数の請負契約に係る工事であって、かつ、それぞれの工事の対象となる工作物等に一体性が認められるもの（当初の請負契約以外の請負契約が随意契約により締結される場合に限る。）については、これら複数の工事を一の工事とみなす。）
（５）特例監理技術者が兼務できる工事は山梨県内の工事であること。
（６）特例監理技術者は、施工における主要な会議への参加、現場の巡回及び主要な工程の立会等の職務を適正に遂行できること。
（７）特例監理技術者と監理技術者補佐との間で常に連絡が取れる体制であること。
（８）監理技術者補佐が担う業務等について、書面により明らかにすること。

特例監理技術者及び監理技術者補佐の配置を行う場合、又は配置を要しなくなった場合は適切にコリンズ（CORINS）への登録を行うこと。

㉑ 現場環境の整備（快適トイレ）について
本工事は、快適トイレ設置の対象工事とする。実施にあたっては、「建設現場における快適トイレ設置に関する実施要領」に基づき、取り組むものとする。　なお、受注者は同要領（実施方法）第４（２）により原則、工事着手前までに工事打合せ簿により発注者へ協議を行い、監督職員の承諾を得て実施するものとする。

㉒ デジタル工事写真の小黒板情報電子化について
デジタル工事写真の小黒板情報電子化は、受発注者双方の業務効率化を目的に、被写体画像の撮影と同時に工事写真における小黒板の記載情報の電子的記入および、工事写真の信憑性確認を行うことにより、現場撮影の省力化、写真整理の効率化、工事写真の改ざん防止を図るものである。
本工事でデジタル工事写真の小黒板情報電子化を行う場合は、工事契約後、監督職員の承諾を得たうえでデジタル工事写真の小黒板情報電子化対象工事（以降、「対象工事」と称する）とすることができる。対象工事では、以下の１．から４．の全てを実施することとする。

（１）対象機器の導入
受注者は、デジタル工事写真の小黒板情報電子化の導入に必要な機器・ソフトウェア等（以降、「使用機器」と称する）については、山梨県県土整備部営繕工事写真撮影要領・同解説「3.工事写真の撮影」に示す項目の電子的記入ができること、かつ信憑性確認（改ざん検知機能）を有するものを使用することとする。
信憑性確認（改ざん検知機能）は、「電子政府における調達のために参照すべき暗号のリスト（CRYPTREC 暗号リスト）（URL「http://www.cryptrec.go.jp/list.html」）に記載している技術を使用していること。また、受注者は監督員に対し、工事着手前に、本工事での使用機器について提示するものとする。
なお、使用機器の事例として、URL「http://www.cals.jacic.or.jp/CIM/sharing/index_digital.html」記載の「デジタル工事写真の小黒板情報電子化対応ソフトウェア」を参照されたい。ただし、この使用機器の事例からの選定に限定するものではない。

（２）デジタル工事写真における小黒板情報の電子的記入黒板情報を電子画像として同時に記録
受注者は、28-(1)の使用機器を用いてデジタル工事写真を撮影する場合は、被写体と小黒板情報を電子画像として同時に記録」してもよい。小黒板情報の電子的記入を行う項目は、山梨県県土整備部営繕工事写真撮影要領・同解説「3.工事写真の撮影」による。
ただし、対象工事において、高温多湿、粉じん等の現場条件の影響により、対象機器の使用が困難な工種については、使用機器の利用を限定するものではない。

（３）小黒板情報の電子的記入の取扱い
本工事の工事写真の取扱いは、山梨県県土整備部営繕工事写真撮影要領・同解説及び国土交通省大臣官房官庁営繕部営繕工事写真撮影要領に準ずるが28-2に示す小黒板情報の電子的記入については、山梨県県土整備部営繕工事写真撮影要領・同解説「4.編集の禁止」及び国土交通省大臣官房官庁営繕部営繕工事写真撮影要領「4.編集の禁止」で規定されている写真編集には該当しない。

（４）小黒板情報の電子的記入を行った写真の納品
受注者は、28-(2)に示す小黒板情報の電子的記入を行った写真（以下、「小黒板情報電子化写真」と称する。）を、工事完成時に監督員へ納品するものとする。なお納品時に、受注者は URL（https://www.jcomsia.org/kokuban/）のチェックシステム（信憑性チェックツール）又はチェックシステム（信憑性チェックツール）を搭載した写真管理ソフトウェアや工事写真ビューアソフトを用いて、小黒板情報電子化写真の信憑性確認を行い、その結果を併せて監督職員 へ提出するものとする。
なお、提出された信憑性確認の結果を、監督職員が確認することがある。

23　営繕工事の建設現場における遠隔臨場に関する試行工事
本工事は、『営繕工事の建設現場における遠隔臨場に関する試行要領』の試行対象工事（以下、「本試行工事」という。）である。
本試行工事は、工事受注者における「監督職員の立会い、監督職員と協議、監督職員の検査及び関連工事の調整（以下、「監督職員の立会い等」という。）に伴う手待ち時間の削減や確認書類の簡素化」や発注者（監督職員）における「従来の臨場の削減による効率的な時間の活用」と Web 会議システム等を使用して監督職員の立会い等の遠隔臨場を行うものである。なお、本試行工事は、『営繕工事の建設現場における遠隔臨場に関する試行要領』の内容に従い実施する。
（参照：https://www.pref.yamanashi.jp/eizen/enkakurinzyou.html）
（１）「監督職員の立会い等」の実施
・工事受注者が動画撮影用のカメラ等により撮影した映像と音声を Web 会議システムを利用しながら確認するものである。
　試行内容については、受注者との協議により実施するものとする。
・工事受注者は、遠隔臨場を実施している状況の記録・保存については、監督職員と協議するものとする。
（２）機器の準備
・本試行工事に要する動画撮影用のカメラ等や Web 会議システム等は工事受注者が手配、設置するものとし、発注者側にて準備している動画撮影用のカメラ等や既に使用している Web 会議システム等を含め詳細については、監督職員と協議し決定するものとする。
（３）遠隔臨場を中断した場合の対応
・電波状況等により遠隔臨場が中断された場合の対応について、事前に受発注者間で協議を行う。対応方法に関しては確認箇所を画像・映像で記録したものをメール等の代替手段で共有し、監督職員等は机上確認することも可能とする。なお、本項目は受発注者間で協議し、別日の現場臨場に変更することを妨げるものではない。
（４）利用期間について
・本試行工事で利用する機器の費用はリースとし、その利用期間は○ヶ月間を見込んでいる。実際の利用期間が異なる場合は、協議の上、変更するものとする。
（５）不正行為
・遠隔臨場において故意に不良箇所を撮影しない等の不正行為等を行った場合は、『建設業を営む者の不正行為等に対する監督処分の基準』等に従い、監督処分を実施する場合がある。

章	項　目	特　記　事　項
① 一般共通事項	① 適用基準等	☉建築工事標準詳細図（国土交通省大臣官房官庁営繕部建築課監修　最新版） ☉工事写真の撮り方（改訂第３版）建築編（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修）
	② 工事実績情報の登録	※適用する　(1.1.4)
	③ 施工計画書	☉工事の着手に先立ち、工事の総合的な計画をまとめた施工計画書を作成し、監督職員に提出する。　(1.2.2) ☉施工計画の内容を変更する必要が生じた場合は、監督職員に報告するとともに、施工に支障がないよう適切な措置を講ずる。
	④ 電気保安技術者	工事現場におく電気保安技術者は、電気事業法に基づく電気主任技術者の職務を補佐し、電気工作物の保安の業務を行うものとする。　(1.3.3) ☉要　　・不要
	⑤ 施工条件	工事着手については監督職員と協議し着手する。　(1.3.5)
	⑥ 発生材の処理等	※現場説明書による　☉構外搬出適切処理　(1.3.11)
	⑦ 建築材料等	本工事に使用する材料等は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有するものとし、ＪＩＳ及びＪＡＳマークの表示のない材料及びその製造者等は、次の（１）～（６）の事項を満たすものとする。 （1）品質及び性能に関する試験データが整備されていること （2）生産施設及び品質の管理が適切に行われていること （3）安定的な供給が可能であること （4）法令等で定める許可、認可、認定又は免許等を取得していること （5）製造又は施工の実績があり、その信頼性があること （6）販売、保守等の営業体制が整えられていること なお、これらの材料を使用する場合は、設計図書に定める品質及び性能を有することの証明となる資料又は外部機関（（社）公共建築協会　他）が発行する資料等の写しを監督職員に提出して承諾を受けるものとする。ただし、あらかじめ監督職員の承諾を受けた場合はこの限りではない。 また、備考欄に商品名が記載された材料は、当該商品又は同等品を使用するものとし、同等品を使用する場合は、監督職員の承諾を受ける。
	⑧ 化学物質を放散する建築材料等	建築材料の使用制限 建築材料等について、規制の対象となる範囲は下地、仕上げ材共にＦ☆☆☆☆または規制対象外の建材を用いることとし、該当する材料が無い場合は監督職員の承諾を受けＦ☆☆☆のものを採用すること。 標仕に記載されていない特別な材料の工法については、材料製造所の指定する工法とする。
	⑨ 特別な材料の工法	
	⑩ 技能士	(1.5.2) 適用工事種別 ／ 技能検定の職種 鉄筋工事 ／ ☉鉄筋施工（鉄筋組立て作業） コンクリート工事 ／ ☉型枠施工 鉄骨工事 ／ ☉とび ブロック・ALCパネル工事 ／ ・ブロック建築　・ALCパネル施工 防水工事 ／ ・アスファルト防水工事作業　☉合成ゴム系シート防水工事作業 ☉塗膜防水工事作業　☉シーリング防水工事作業 石工事 ／ ・石材施工（石張り施工） タイル工事 ／ ☉タイル張り 木工事 ／ ☉建築大工 屋根及びとい工事 ／ ☉建築板金（内外装板金作業） 金属工事 ／ ☉内装仕上げ施工（鋼製下地工事作業） 左官工事 ／ ☉左官 建具工事 ／ ☉サッシ施工　☉ガラス施工　・自動ドア施工 カーテンウォール工事 ／ ・カーテンウォール施工　・サッシ施工　・ガラス施工 塗装工事 ／ ☉塗装（建築塗装作業） 内装工事 ／ ☉プラスチック系床仕上げ工事作業 ☉ボード仕上げ工事作業　☉表装（壁装作業） 植栽工事 ／ ☉造園

① 一般共通事項	⑪ 化学物質の濃度測定	(1.5.9) 施工完了時に室内空気中のホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼン、スチレンの５物質について測定し、厚生労働省で定める指針値以下の濃度であることを確認し、測定結果報告書を監督員に提出すること。（測定結果が指針値を超えた場合は、発生源を特定し、換気などの措置を講じた後、再度測定を行う。） 測定対象科学物質 ／ 厚生労働省の指針値（25℃の場合） ホルムアルデヒド ／ 0.08 ppm（　100μg/㎥） トルエン ／ 0.07 ppm（　260μg/㎥） キシレン ／ 0.05 ppm（　200μg/㎥） エチルベンゼン ／ 0.88 ppm（ 3,800μg/㎥） スチレン ／ 0.05 ppm（　220μg/㎥） 測定はパッシブ型採取機器により行う。 着工前の測定　・行う 測定対象室　・図示　☉事務室、医務室、休憩室、下処理室、教材室、食育ルーム&プリールーム(2か所)、0歳室(2か所)、2歳室(2か所)、4歳室(2か所)、一時預かり室、遊戯室(2か所)、会議室 測定箇所数　・図示　☉17ヶ所 測定結果の報告　3部提出
	⑫ 完成写真	分類・規格 ／ 撮影箇所数 ／ 提出部数 ／ 原板の大きさ（mm） ☉カラー ※キャビネ版 ／ 外部（４）内部（主要室） ／ ※2　☉1 ／ ※100×125以上 ・カラー半切木製パネル 324×400（mm） ／ 外部（　）内部（　） ／ ※ 2 ・電子データ ／ 外部（　）内部（　） ／ ※ 2 ／ ※200万画素以上 ※300dpi以上 100×125以上の原板を使う場合は、監督職員にあらかじめ大きな焼を提出し確認を受ける。 電子データは、RGB（フルカラー）、JPEG形式最高画質とし、CD-Rにて提出とする。 撮影業者　※監督職員の承諾する撮影業者（ただし、建築完成写真撮影の実績のある業者とする）
	⑬ 設備工事との取合い	設備機器の位置、取合い等の検討できる施工図を提出して、監督職員の承諾を受ける。
	⑭ 設計ＧＬ	☉図示
	⑮ 工事写真	・「山梨県県土整備部営繕工事写真撮影要領・同解説（最新版）」による。
② 仮設工事	① 監督職員事務所	※設ける　(2.3.1) 規模　・１号　・２号　・３号　・４号　・５号 ☉設けない ・備品（必要備品は適宜設置）
	② 工事用水	構内既存の施設 ・利用できる（　※有償　・無償　）　※利用できない　・監督職員と協議の上、決定する
	③ 工事用電力	構内既存の施設 ・利用できる（　※有償　・無償　）　※利用できない　・監督職員と協議の上、決定する
③ 土工事	① 埋戻し及び盛土	種別　・Ａ種　　※Ｂ種　　・Ｃ種　　・Ｄ種　(3.2.3)（表3.2.1） ・建設汚泥から再生した処理土　🄶
	② 建設発生土の処理	※現場説明書による　(3.2.5) ☉構外搬出適切処理　・構内指示の場所にたい積　・構内指示の場所に敷き均し
④ 地業工事	1　既製コンクリート杭地業	種類　(4.3.1～3) ※高強度プレストレストコンクリート杭 杭径（mm）／杭長（m）及び種別／継手数／セット数／備考 試験杭／／／／／ 本　杭／／／／／ 杭頭の処理　※切断しない　・　(4.3.8) 先端部形状　※開放形　・閉そく平たん形 杭の継手　建築基準法に基づく指定又は認定を受けた継手を使用してもよい。　(4.3.6) 施工法　(4.3.4～5) ・特定埋込み杭工法 工法　・プレボーリング拡大根固め工法　・中堀拡大根固め工法 H13国交告1113号第6による支持力算定式でα=250程度を採用できる工法 杭周固定液　・使用する セメントの種類　6章コンクリート工事のセメントの種類による
	2　場所打ちコンクリート杭地業	コンクリートの種別及び設計基準強度　(4.5.4)（表4.5.1） （　　）種かつ（　　）N/mm²以上 鉄筋の種類　5章鉄筋工事の鉄筋の種類による　(4.5.4) 堀削工法　・アースドリル工法（・安定液使用　・無水堀削）　(4.5.5) ・リバース工法 ・オールケーシング工法（孔内の水張　・行う　・行わない） ・場所打ち鋼管コンクリート杭工法　(4.5.6) ・拡底杭工法（※安定液使用　・　　） 側壁測定　・行う（　　）　・行わない　(4.5.5) セメントの種類　6章コンクリート工事のセメントの種類による
	③ 砂利地業	※再生クラッシャラン　🄶　・切込み砂利及び切込み砕石　(4.6.3)
	④ 床下防湿層	施工箇所　※建物内の土間スラブ及び土間コンクリート下（ピット下を除く）　(4.6.5)

特記事項 訂正事項		承認	設計	担当	縮尺 S=Non 設計年月日	工事名称　石和第一保育所建設工事（建築主体）（債務） 図面名称　特記仕様書（１）	No. A －02

⑤ 鉄筋工事

① 鉄筋の種類 (5.2.1) (表5.2.1)

種類の記号	呼び名（mm）
⊙SD295	※D16以下 ・
⊙SD345	※D19以上 ・

② 鉄筋の継手 呼び名19mm以上の柱、梁の主筋 ※ガス圧接 ・重ね継手 (5.3.4)

③ 鉄筋の最小かぶり厚さ 最小かぶり厚さは目地底から算定する。 (5.3.5)
・耐久性上不利な箇所の鉄筋の最小かぶり厚さは下表による。

施工箇所	表5.3.6 の値に加える寸法（mm）
・柱、梁、壁及び庇などの外気に接する打放し面	※10 ・

④ 既製コンクリート杭の杭頭補強 ・A形 ・B形 ※図示

⑤ 最上階柱頭補強 ※行う ・行わない (別2.1)

⑥ 帯筋 ※Ｈ形（口は除く） (別2.2)

⑦ 壁開口部の補強 一般壁 ・A形 ※B形 ・図示 (別4.4) (別表4.3～4)
耐震壁 ※図示

⑧ 梁貫通孔の補強形式 ※Ｈ形 ・ＭＨ形 ・Ｍ形 ⊙図示 (別7.1) (別表7.1～3)

⑨ 機械吊上げ用フック ・A種 ・B種 ・C種 （ ヶ所）

⑩ 圧接完了後の試験 ※超音波探傷試験 ・引張試験 (5.6.5)

⑥ コンクリート工事

① 普通コンクリートの設計基準強度 (6.2.2)

設計基準強度Ｆｃ（N/mm²）	施工箇所
※ 30	
⊙ 24	床版、基礎、地中梁、土間
⊙ 18	捨てコンクリート

② レディーミクストコンクリートの類別 ※ Ⅰ類 ・ Ⅱ類 (6.2.1) (6.4.1～2) (表6.2.1)

③ スランプ 18cm (6.2.4)

④ セメントの種類 (6.3.1) (6.13.2) (表6.3.1)
※普通ポルトランドセメント又は混合セメントのＡ種
・高炉セメントＢ種 G （・ ）

普通ポルトランドセメントの品質は、JIS R 5210に示された規定の他、次の規定の全てに適合するものとする。ただし、無筋コンクリートに用いる場合を除く。

水和熱	7 d	352Ｊ/ｇ以下
	28 d	402Ｊ/ｇ以下

⑤ 骨材の種類 アルカリシリカ反応による区分 (6.3.1)
※Ａ
・Ｂ（※コンクリート中のアルカリ総量Ｒt＝3.0kg/m³以下）

⑥ 混和材料 混和材 仕様箇所

⑦ 無筋コンクリート 設計基準強度 ※18N/mm² (6.14.1)

⑧ コンクリート躯体表面の処理 外装タイル後張り面の躯体表面の処理
MCR工法を行う場合は、せき板面にMCR工法用気泡ポリエチレンシート張りとし、仕上がり面凹凸状態とする。高圧水洗工法の目荒しを行う場合は、水圧50N/mm²以上かつ、2.5分/㎡以上とし、施工計画書を監督に提出し承諾を受ける。また、目荒しの状態は、事前に監督職員に承諾を受ける。
コンクリートの増打ち厚さ ※20mm
※施工範囲は図示による。

⑨ 断熱材兼用型枠 適用及び適用個所について
標仕19章内装工事9断熱材による。

⑦ 鉄骨工事

① 鉄骨の製作工場 製作工場の加工能力 (7.1.3)
：監督職員の承諾する製作工場
・建築基準法第77条の45第1項に基づき国土交通大臣から性能評価機関として認可を受けた（株）日本鉄骨評価センター又は（社）全国鐵構工業協会の「鉄骨製作工場の性能評価基準」に定める「（Ｒ）グレード」として国土交通大臣から認定を受けた工場又は同等以上の能力のある工場。

入熱、パス間温度の溶接条件
適用箇所 ・図示 ・柱、梁、ブレースのフランジ端部の完全溶け込み溶接部
鋼材と溶接材料の組み合わせと溶接条件
※図示 ・

② 施工管理技術者 適用する (7.1.4)

③ 鋼材 鋼材の材質 (7.2.1) (7.2.10) (表7.2.1)

種類の記号	使用箇所	規格等
	構造特記仕様書による	※ＪＩＳ規格による
		※ＪＩＳ規格による
		※ＪＩＳ規格による
		※ＪＩＳ規格による
		※ＪＩＳ規格による

④ スカラップ 改良型スカラップ

⑤ エンドタブ 鋼製エンドタブ
切断する個所（ ）

⑥ 高力ボルト ※トルシア形高力ボルト ・JIS形高力ボルト ・溶融亜鉛めっき高力ボルト (7.2.2) (7.12.4)

⑦ 溶接部の試験 A0QL ※4.0% ・2.5% (7.6.12)
検査水準 ※第6水準 ・図示 (7.6.12) (表7.6.2)

試験の種別	試験箇所	試験方法
※超音波探傷試験	完全溶込み溶接部	※標仕7.6.12（1）（イ）による ・図示
・放射線試験		
・マクロ試験		

⑧ 耐火被覆 (7.9.2～8)

種 別		所要性能及び適用構造部位
・ラス張りモルタル塗り		
・耐火吹付け	・乾式吹付けロックウール	
	・半乾式吹付けロックウール	
	・湿式ロックウール	
・耐火板張り		
・耐火塗料		

⑨ アンカーボルトの保持及び埋込み工法 ⊙構造用アンカーボルト （※図示 ・ ）
・建方用アンカーボルト （・Ａ種 ※Ｂ種） (7.10.3) (表7.10.1)

⑩ 柱底均しモルタル工法 ※Ａ種 ・Ｂ種 (7.2.9) (7.10.3) (表7.10.2)
無収縮モルタル

混和材	セメント系膨張材（酸化カルシウム及びカルシウム・サルフォ・アルミネート等によって膨張する性質を利用するもの）とする。
セメント	JIS R 5210（ポルトランドセメント）による普通または早強ポルトランドセメントとする。
砂	土木学会コンクリート標準示方書に定められた品質を有するもので、特に精選されたものを絶対乾燥状態で使用する。
配合比	（各重量比） （セメント＋混和材）：砂＝1：1

無収縮モルタルの品質及び試験方法

コンシステンシー	Ｊロートによる流下時間 練混ぜ完了から3分以内の値は 8±2秒
ブリージング	練り混ぜ2時間後のブリージング率 ： 2.0%以下
凝結時間	凝結開始時間 1時間以上 終結時間 10時間以内
無収縮性	材齢7日 収縮しないこと
圧縮強度	材齢3日 25.0N/mm²以上 材齢28日 45.0N/mm²以上
付着強度	材齢28日 3.0N/mm²以上
塩化物量	0.30kg/m³以下
試験方法	１）ＮＥＸＣＯ試験方法「無収縮モルタル品質管理試験方法」312-1999による。 ２）塩化物量は、JIS A 5308「レディミクストコンクリート」付属書5（規定）「フレッシュコンクリート中の水の塩化物イオン濃度試験方法」による。

⑪ 溶融亜鉛めっき工法 (7.12.4) (表14.2.2)

亜鉛めっきの種別	材 料	適用部位
A種	最低板厚6.0mm以上の形鋼、鋼板	
B種	最低板厚3.2mm以上、6.0mm未満の形鋼、鋼板	
C種	普通ボルト、アンカーボルト 最低板厚1.6mm以上、3.2mm未満の形鋼、鋼板	

素地ごしらえは、JIS H 9124溶融亜鉛めっき作業指針による。

⑧ コンクリートブロック・ＡＬＣパネル・押出成形セメント板工事

① 補強コンクリートブロック造 ※空洞ブロック16 ・空洞ブロック16－Ｗ (8.2.2)

② コンクリートブロック帳壁及び塀 ※標仕表8.3.1及び下表による (8.3.2)

適用箇所		厚さ（mm）
・間仕切壁 ・地下二重壁 ・外壁		・
・塀	高さ 2ｍ以下	・120
	高さ 2ｍを超える	・150
・衛生配管用裏積みブロック		・100 ・

③ ＡＬＣパネル (8.4.2～5) (表8.4.2～4)

種 類	単位荷重（N/m²）	厚さ（mm）	取付け工法種別
・外壁パネル	・1180 ・1960	※100 ・	・Ａ種 ・Ｂ種
・間仕切壁パネル		※100 ・	・Ｃ種 ・Ｄ種 ・Ｅ種
・屋根パネル	・980	※100 ・	・Ｆ種
・床パネル	・2350 ・3530	・100 ・150	

・床パネルの耐火性能（・1時間 ・2時間）

④ 押出成形セメント板（ECP） (8.5.2～4) (表8.5.1～2)

種 類	表面形状	厚さ（mm）	幅（mm）	工法種別
・外壁パネル	※Ｆ ・Ｆ－Ｒ			・Ａ種 ・Ｂ種
	・Ｄ ・Ｄ－Ｒ			
	・Ｔ ・Ｔ－Ｒ			
・間仕切壁パネル	※Ｆ ・Ｆ－Ｒ			・Ｂ種 ・Ｃ種
	・Ｄ ・Ｄ－Ｒ			
	・Ｔ ・Ｔ－Ｒ			

耐火性能 ・有り（ ）
・無し

⑨ 防水工事

1 アシファルト防水 (9.2.2～3) (表9.2.3～9)

種 別	施工箇所
・Ａ－１ ・Ａ－２ ・Ａ－３	
・ＡＩ－１ ・ＡＩ－２ ・ＡＩ－３	
・Ｂ－１ ・Ｂ－２	
・ＢＩ－１ ・ＢＩ－２	
・Ｄ－１ ・Ｄ－２	
・ＤＩ－１ ・ＤＩ－２	
・Ｅ－１ ・Ｅ－２	

アスファルト ※３種 ・４種 (9.2.2)
断熱工法の断熱材 厚さ（mm） ※25 ・
ただし、特定フロンを含まないもの。
立上り部の保護
・乾式保護材 ※押出成形セメント板（厚さ 15mm） (9.2.5)

2 改質アスファルトシート防水 (9.3.2～3) (表9.3.1～3)

種 別	厚 さ	施工箇所
・ＡＳ－Ｔ１ ・ＡＳ－Ｔ２		
・ＡＳ－Ｔ３ ・ＡＳ－Ｔ４ ・ＡＳ－Ｊ１		
・ＡＳＩ－Ｔ１ ・ＡＳＩ－Ｊ１		

3 合成高分子系ルーフィングシート防水 (9.4.2～3) (表9.4.1～3)

種 別	厚さ（mm）	施工箇所	仕上げ塗料塗り	使用分類
・Ｓ－Ｆ１	※1.2 ・1.5	屋根	・シルバー	※非歩行
・Ｓ－Ｆ２	※2.0 ⊙1.5	陸屋根（立上り）	・カラー	⊙軽歩行
・Ｓ－Ｍ１	※1.5 ・			
・Ｓ－Ｍ２	※1.5 ⊙2.0	陸屋根（平場）		
・ＳＩ－Ｆ１	※1.2 ・1.5		・シルバー	※非歩行
・ＳＩ－Ｆ２	※2.0 ・1.5		・カラー	・軽歩行
・ＳＩ－Ｍ１	※1.5 ・			
・ＳＩ－Ｍ２	※1.5 ・			
・Ｓ－Ｃ１	※ ・			

4 塗膜防水 (9.5.2～3) (表9.5.1～2)

種 別	施工個所	備 考
・Ｘ－１		仕上げ塗料塗り
⊙Ｘ－２	設備基礎開天端	⊙シルバー
		・カラー
・Ｙ－１		Ｙ－２工法の保護シート
・Ｙ－２		※適用する ・適用しない

脱気装置
・設ける 材質（ ） 設置数量（ ㎡当たり１箇所）

5 ケイ酸質系塗布防水 (9.6.2) (表9.6.1)

種 別	施工個所	備 考
⊙Ｃ－ＳＵＩ	ビット外部	
・Ｃ－ＳＵＰ		

6 シーリング 下表以外は、標仕表9.7.1による (9.7.2) (表9.7.1)

施工箇所	シーリング材の種類（記号）

⑩ 石工事

1 天然石張り 石の種類・表面仕上げ (10.2.1) (表10.2.1～2)

施工箇所	種 類	産地・名称	厚さ（mm）	仕上げの種類

2 テラゾ張り 種石の種類 ※大理石 ・ (10.2.1) (表10.2.2)
表面仕上げ ※本磨き ・
形状・寸法 ※図示

3 壁の石張り工法 外壁石張り (10.3.2～3) (10.5.2～3)
工法
・外壁湿式工法（※あと施工アンカー横筋流し工法 ・流し筋工法 ・あと施工アンカー工法）
・乾式工法
石裏面処理 ・行う（・小口共）
裏打ち処理 ・行う
ドレンパイプ ※ステンレスSUS304 ・
内壁石張り (10.4.2～3) (10.5.2～3)
工法
・内壁空積工法（※あと施工アンカー横筋流し工法 ・あと施工アンカー工法）
・乾式工法

4 床及び階段の石張り 床石張りの裏面処理 ・行う (10.6.2～3)
屋内のワックス掛け ・行う (10.1.5)

⑪ タイル工事

① 陶磁器質タイル (11.2.2)

施工箇所	形状寸法（mm）	きじ		うわぐすり		役物		色		再生材の適用 G	備考
		磁器	せっ器	陶器	施ゆう	無ゆう	あり	なし	標準	特注	
ﾎﾞｰﾁ・玄関床	150	○			○		○		○		

役物：標準的な曲がり（小口、標準、二丁、屏風）の役物は一体成形とする
タイルの見本焼き ※行わない ・行う（※外壁タイル ・ ） (11.1.4)

② 張り付け用材料 既製調合モルタル（仕上げ表の仕様により合成樹脂を添加する） (11.2.3)

保水率（%）	単位容積質量（kg/l）	接着強さ（N/mm²） 標準時	接着強さ（N/mm²） 温冷繰返し後	長さ変化率（%）	曲げ強さ（N/mm²）
70.0以上	1.80程度	0.60以上	0.40以上	0.20以下	4.0以上

接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 ・第３種 (11.3.3)

③ 壁タイル張りの工法 内装タイル ※壁タイル接着剤張り ・積上げ張り (11.3.5) (表11.3.2)

外装タイル ※密着張り ・マスク張り
躯体表面の処理 ・行わない ※行う（施工範囲 ※図示 ・ ）
躯体表面の処理方法 ＭＣＲ工法（６章８節［型枠］）又は目荒し工法（15.3.4［下地処理］（4））
下地モルタル塗り ※標仕15.3.5［工法］（4）（イ）（a）
タイルの試験張り ※行わない ・行う（※外壁タイル ・ ） (11.1.4)

⑫ 木工事

① 木材の品質 ※標仕12.2.1 ・市販品 (12.2.1)
・保存処理木材を適用する箇所（ ）

② 樹種 ⊙図示 (12.2.1)
・代用樹種を適用しない箇所（ ）
・県産材指定箇所（ 母屋、垂木、内装材 ） (12.2.1)

③ 集成材等 G

品 名	規格・品質	芯材の種類	化粧単板の樹種
※集成材	※一般材	・たも ・なら ・しおじ	
・構造用集成材	・１種 ※２種 ・３種	・	
・造作用集成材	※１等 ・２等	・県産唐松	
・化粧ばり造作用集成材	※１等 ・２等	・	・

ホルムアルデヒドの放散量 ※規制対象外 ・第３種

④ 接着剤 接着剤に含まれる可塑剤は、難揮発性のものとする。 (12.2.2)
ユリア樹脂、メラミン樹脂、フェノール樹脂、レゾルシノール樹脂又はホルムアルデヒド系防腐剤（以下、「ユリア樹脂等」という）を用いた接着剤のホルムアルデヒドの放散量
※規制対象外 ・第３種

⑤ 防腐・防蟻処理 行う箇所（ ）
防腐・防蟻処理 ※行う（※図示 ・ ） (12.3.1)
防虫処理 ・行う（※図示 ・ ） (12.3.2)
防腐・防蟻処理の種類、品質
表面処理用木材保存剤（防腐・防蟻剤）は監督職員の承諾するものとする。

⑥ 床板張り フローリング及び縁甲板張り床 (12.6.1) (表12.6.1)

下張り用床板	※無し		
	・有り	※合板張り	ホルムアルデヒドの放散量 ※規制対象外 ・第３種
		・板張り	
床板	※単層フローリング（標仕19.5.2による）		ホルムアルデヒドの放散量 ※規制対象外 ・第３種
	・縁甲板		※ひのき ・

⑬ 屋根及びとい工事

① 長尺金属板葺 (13.2.2～3) (表13.2.1)

屋根葺形式	長尺金属板の種類	板厚（mm）
・段葺き ⊙たて葺き	※塗装溶融55%アルミニウム－亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯（CGLCCR-20-AZ150）	※0.4以上

② 折板葺 (13.3.2～3) (表13.2.1)

形 式	※重ね形 ・はぜ締め形 ・かん合形
形状（mm）	山高（ ） 山ピッチ（ ） 板厚※0.6 ・0.8
材 料（規格等）	※塗装溶融55%アルミニウム－亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯（CGLCCR-20-AZ150）
軒先面戸板	※有り ・無し
断 熱 材	※有り（種別： 厚さ： mm） ・無し
耐火性能	※30分耐火 ・無し

③ とい 材 種 ※配管用鋼管 ・硬質塩化ビニル管 (13.5.2) (表13.5.1)
・ステンレスJIS G4305 G
⊙図示
鋼管製といの防露 ※標仕表13.5.4による (13.5.3)
防露材のホルムアルデヒド放散量
※規制対象外 ・第３種
掃 除 口 ※有り ・無し

⑭ 金属工事

① アルミニウム及びアルミニウム合金の表面処理 (14.2.1) (表14.2.1)

種 別	施工箇所
・ＢＢ－１種（無着色）	
⊙ＢＢ－２種（・ブラウン系 ・ブラック ・ステンカラー）	図示

② 鉄鋼の亜鉛めっき (14.2.2) (表14.2.2)

表面処理方法	種 別	施工箇所
溶融亜鉛めっき	・Ａ種	
	・Ｂ種	
	・Ｃ種	
電気亜鉛めっき	・Ｄ種	
	・Ｅ種	
	・Ｆ種	

③ 金属成形板張り (14.6.2) (表14.2.1)

形 状	製 法	材 種	寸法（mm）	厚さ（mm）	表面処理
・スパンドレル形	・押出し ・ロール	※アルミニウム製			・ＢＢ－１種 ・ＢＢ－２種（ ）
・パネル形	※プレス				

伸縮調整継手 ※設けない ・設ける（施工箇所は図示）

④ アルミニウム製笠木 (14.7.2) (表14.2.1) (表14.7.1)

種 類	呼称肉厚（mm）	表面処理	固定間隔	備 考
⊙250形	1.6以上	※ＢＡ－１又は	固定方法及び間隔は品質計画で定めたもの	隅角部及び突当たり部等の役物は本体製造所の仕様による。
・300形	1.8以上	ＢＢ－１種		
・350形	2.0以上	・ＢＢ－２種		
		（ ）		

⑤ ステンレスの表面仕上げ

種 類	施工箇所
※ＨＬ程度	下記以外の見え掛かり全て
・No.２Ｂ程度	
・鏡面仕上げ	

特記事項 訂正事項		承認	設計	担当		縮尺 S=Non 設計年月日	工事名称 石和第一保育所建設工事（建築主体）（債務）	No. A－03
							図面名称 特記仕様書（２）	

⑮ 左官工事

1 モルタル塗り材料

吸水調整材 (15.3.2) (表15.3.2)

全固形分（%）	吸水量（g）	接着強度（N/mm²）	界面破断率（%）
表示値±1.0以内	30分で1g以下	1.00以上	50以下

均質で有害と認められる異物の混入がないこと。

防水剤（防水モルタル塗りの混入剤) (15.3.2)

防水剤の種類　建築用のモルタルに用いるセメント防水剤

混合割合	凝結時間	曲げ及び圧縮強度比	吸水比	透水比
セメント重量の5%以下	JIS R 5201の試験において 始発　1時間以上 終結　10時間以内	70%以上	95%以下	80%以下

膨張性のひび割れ及びそりがないこと。

② 床コンクリートの直均し仕上げ

下表以外は標仕表6.2.5及び標仕15.4.2による (表6.2.5) (15.4.2)

施工箇所	平たんさ（mm）	備　考
ピット	1mにつき10以下	
	3mにつき7以下	

3 仕上塗材仕上げ (15.6.2) (表15.6.1)

種　類	呼び名	仕上げの形状等
・薄付け仕上塗材	・外装薄塗材Ｓｉ	・砂壁状　・ゆず肌状
	・可とう形外装薄塗材Ｓｉ	・砂壁状　・ゆず肌状
	・外装薄塗材Ｅ	・砂壁状　・着色骨材砂壁状
	・内装薄塗材Ｅ	・砂壁状じゅらく　・ゆず肌状
	・可とう形外装薄塗材Ｅ	・砂壁状　・ゆず肌状　・さざ波状
	・防水形外装薄塗材Ｅ	・ゆず肌状　・さざ波形　・凹凸状
	・外装薄塗材Ｓ	砂壁状
	・内装薄塗材Ｃ	・凹凸上　・ゆず肌状
	・内装薄塗材Ｌ	・凹凸上　・ゆず肌状
	・内装薄塗材Ｓｉ	・砂壁状じゅらく　・ゆず肌状
	・内装薄塗材Ｗ	京壁状じゅらく
・複層仕上塗材	・複層塗材ＣＥ	・ゆず肌状　・凸部処理　※凹凸模様
	・可とう形複層塗材ＣＥ	耐候性　※3種　・
	・複層塗材Ｓｉ	上塗材
	・複層塗材Ｅ	溶媒　※水系　・溶剤系
	※複層塗材ＲＥ	樹脂　※アクリル系
	・防水形複層塗材ＣＥ	外観　※つやあり　・つやなし
	・防水形複層塗材Ｅ	・メタリック
	・防水形複層塗材ＲＥ	
・軽量骨材仕上塗材	・吹付用軽量塗材	砂壁状
	・こて塗用軽量塗材	平たん状

建物内部に使用するユリア樹脂等を用いた塗料のホルムアルデヒド放散量
※規制対象外　・第三種

防火材料の指定
※屋内の壁、天井の仕上げ材は防火材料とする。
※吹付の下地調整塗材は、JIS A 6916（建築用下地調整塗材）によるセメント系下地調整塗材1種（下地調整塗材C-1）とする。

⑯ 建具工事

1 見本の製作等

・特殊な建具の仮組（建具符号：　　) (16.1.4)

② アルミニウム製建具

外部に面する建具 (16.2.2) (16.2.4) (表16.2.1)

種　別	耐風圧性	気密性	水密性	枠見込み（mm）	施工箇所
⊙Ａ種	Ｓ－４	※Ａ－３	※Ｗ－４	⊗70 ⊙100	※図示　・
・Ｂ種	Ｓ－５				※図示　・
・Ｃ種	Ｓ－６	Ａ－４	Ｗ－５	特記による	※図示　・

（注）形式が引き違い・片引き・上げ下げ窓で複層ガラスを使用する場合は枠の見込み100mmとする。

断熱等級・
枠・障子　：
ガラス　：

表面処理　※ＢＢ－1種　⊙ＢＢ－2種（・ブラウン系　⊙ホワイト　・ステンカラー）　(表14.2.1)

屋内建具
表面処理　※ＢＣ－１種又はＢＣ－２種　(表14.2.1)
・Ｃ２種（・ブラウン系　・ブラック　・ステンカラー）

網戸　防虫網　(16.2.3)
網の種別　※ガラス繊維入り合成樹脂製　・合成樹脂製　・ステンレス製（SUS316）
形　式　※外部可動式　・固定式

3 樹脂製建具

建具の性能及び構造の適用は建具表による (16.3.2)
製造所標準仕様による (表16.3.3)

④ 鋼製建具

簡易気密型ドアセットの適用は特記による (16.4.2) (表16.4.1)
耐風圧性の適用は建具表による
特定防火設備の戸　⊙適用あり

⑤ 鋼製軽量建具

簡易気密型ドアセットの適用は建具表による (16.5.2)
特定防火設備の戸　⊙適用あり

6 ステンレス製建具

簡易気密型ドアセットの適用は建具表による
耐風圧性の適用は建具表による
表面仕上げ　※ＨＬ程度　・鏡面仕上げ　・ (16.6.4)
曲げ加工　※普通曲げ　・角出し曲げ（補強あり） (16.6.5)
特定防火設備の戸　・適用あり (表16.6.1)

⑦ 木製建具

かまち戸の樹種　かまち（　　）　鏡板（　　） (16.7.2)

ふすまの上張り (表16.7.3～10)
※新鳥の子又はビニル紙程度（押入等の裏面は除く）　・鳥の子
建物内部の木製建具に使用する表面材及び接着剤のホルムアルデヒドの放散量 (16.7.2)
※規制対象外　・第三種

⑧ 建具用金物

マスターキー　※製作する　・製作しない (16.8.4)
建具用金物 (16.4.6) (16.5.6)
錠類はシリンダー箱錠（レバーハンドル）とする (表16.8.1～5)
なお、錠前類は建具製作所の指定するものとし、監督職員の承諾を受ける (16.8.2)

吊金物
・丁番（内部建具については、軸を鉄芯としてもよい）
・ピボットヒンジ
・フロアヒンジ

9 自動ドア開閉装置 (16.9.2～3) (表16.9.1～3)

開閉方法	センサの種類
※スライディングドア ・スイングドア	・マットスイッチ　・電子マットスイッチ　⊙タッチスイッチ ※光線スイッチ　・音波スイッチ ・熱線スイッチ　・光電スイッチ

・凍結防止措置（適用箇所は建具表による）

⑩ 自閉式上吊り引戸装置

品質規格　※標仕表16.10.1による (16.10.2～3)
・製造所標準仕様による

17 カーテンウォール工事

1 メタルカーテンウォール

設計図書による規定の他、特記無き事項は（社）日本建築学会JASS14による。

カーテンウォール材料の種類 (17.2.2)

種　類	規格等
※アルミニウム製	※標仕16.2.3のアルミニウム製建具の材料による

カーテンウォール方式
・方立方式
・バックマリオン方式　（・単純２辺支持構法　・ＳＳＧ構法）
・スパンドレル方式
・パネル方式
・小型パネル組み合わせ方式　（・ノックダウン方式　・ユニット方式）

シーリング材及びガラス取付け材料
下記以外は標仕表9.7.1による (9.7.2) (17.2.2) (表9.7.1)

被着体の組合せ		シーリング材の種別		
		記　号	主成分による区分	耐久性による区分
金属	ガラス			
	石、タイル			
ガラス	ガラス			

構造用ガスケット　※適用しない (17.2.2)
・適用する（施工箇所：図示　　）
断熱材　※適用しない (17.2.2)
・適用する（種類：　厚さ（mm）　：施工個所※図示　）
製品の寸法許容差　※標仕表17.2.1による (17.2.3) (表17.2.1)
・製造所標準製作規定寸法許容差による
・取付け (17.2.5) (表17.2.2～3)
アルミニウムの表面処理 (17.2.3) (表14.2.1)

種　別	色彩等
・ＢＢ－１種　・ＢＢ－２種	無着色
・Ｃ種	各ブラウン系　・ブラック　・ステンカラー　・
・着色塗膜	塗装材料（　　）焼付け方法（　　）コート（　　）ベーク

耐風圧性能 (17.1.3)
性能値　※建築基準法施行令第87条及び建設省告示第1454号に定められた風圧力に対して
安全であること。
・正圧　N/㎡以上及び負圧　N/㎡以上に対して安全であること。

主要部材のたわみ

支点間距離（h）	たわみ量	状　態
※4m以下	※±（1/150）×h かつ絶対量20mm以下	※各部の破損、残留変形 有害な変形が起こらないこと
・4mを超える		

耐震性能 (17.1.3)
設計用震度　水平方向（ＫＨ）　※1.0　・
垂直方向（ＫＶ）　※0.5　・

建物の構造種別	層間変位量（h=支点間距離）	状　態
鉄骨造	※±（1/100）×h以上	※部材の脱落、ガラスの破損及び主要部材に有害な歪みが起こらないシーリングは補修程度
鉄筋コンクリート造 鉄骨鉄筋コンクリート造	※±（1/200）×h以上	

水密性　・Ｗ－４　・Ｗ－５　・ (17.1.3)
気密性　・Ａ－３　・Ａ－４　・ (17.1.3)
耐火性能　※適用しない　・適用する（　　時間、施工箇所：図示）
映像調整　※行わない　・行う（建具表による）
製造所　性能等の確認できる資料を提出し監督職員の承諾を受ける

11 重量シャッター (16.11.2)

シャッターの種類	
・一般重量シャッター	耐風圧性能（　　）N/㎡
・外壁用防火シャッター	耐風圧性能（　　）N/㎡
・屋内用防火シャッター	
・屋内用防煙シャッター	

開閉機能　※上部電動式（手動併用）　・上部手動式 (16.11.2)　(表16.11.1)

危害防止機構
※障害物感知装置（自動閉鎖型）
・シャッター二段降下方式
一般重量シャッターのシャッターケース　※設ける　・設けない (16.11.2)

12 軽量シャッター

開閉形式　※手動式　・上部電動式（手動併用） (16.12.2)　(表16.12.1)
スラット　材質　※塗装溶融亜鉛めっき鋼板　・鋼板 (16.12.3)
形状　※インターロッキング形　・オーバーラッピング形 (16.12.4)
ガイドレール等　※鋼板製　・ステンレス製SUS304（厚さ1.5mm) (表16.12.2)
耐風圧性能（　　）N/㎡

13 オーバーヘッドドア (16.13.2～3)

セクション材料	開閉方式	収納形式	ガイドレール
※スチールタイプ ・アルミニウムタイプ ・ファイバーグラスタイプ	※バランス式 ・チェーン式 ・電動式	・スタンダード形 ・ローヘッド形 ・ハイリフト形 ・バーチカル形	・溶融亜鉛めっき鋼板 ※ステンレス鋼板 （SUS304）

耐風圧性能（　　）N/㎡

⑭ ガラス

※建具表による (16.14.2)
・ガラスブロック　標仕16.14.5による (16.14.5)

表面形状	呼び寸法（mm）	厚さ（mm）	色調	防火性能
・正方形 ・長方形			※クリア	※無し ・有り

ガラス留め材及び溝

ガラス留め材 (16.14.2)　(表9.7.1)

建具の種類	材　種
アルミニウム製	※シーリング材　・ガスケット（FIX部はシーリング材）
鋼製及び鋼製軽量	※シーリング材
ステンレス製	※シーリング材

防火戸のガラス留め材は建築基準法に基づく防火性能を有するものとする。
板ガラスをはめ込む溝の大きさ (16.14.3)
標仕16.14.3 以外のアルミニウム製建具及び板ガラスの場合は（社）日本建築学会JASS 17ガラス工事「3.1納まり寸法標準」によるほか、性能値が確認できる資料を監督職員に提出する

名　称	種　類	張り面	性能値
※ガラス飛散防止フィルム	第2種	※内張り　・外張り	飛散防止率　Ｄ１

品質　JIS A 5759による

18 塗装工事

① 材　料
② 素地ごしらえ

屋内の壁及び天井の塗装の仕上げは、建築基準法に基づく基材同等の認定のあるものとする。 (18.1.3)
各部の素地ごしらえ (18.2.1～7) (表18.2.1～7)

木　部	※Ａ種（不透明塗料塗）※Ｂ種（透明塗料塗）	
鉄鋼面	・Ａ種　・Ｂ種　※Ｃ種	
亜鉛めっき鋼面	・Ａ種　※Ｂ種	塗り工法に応じた節の規定
モルタル・プラスター面	・Ａ種　※Ｂ種	
コンクリート・ＡＬＣパネル面	・Ａ種　※Ｂ種	
コンクリート・押出成形セメント板面	・Ａ種　・Ｂ種	塗り工法に応じた節の規定
ボード面	※Ａ種（縦目処理工法）※Ｂ種（その他）	

③ 錆止め塗料塗り

塗料の種別 (18.3.1～2)

鉄鋼面	※Ａ種　※Ｂ種（標準仕様書8節の場合）
亜鉛めっき鋼面	※Ａ種　・Ｂ種（標準仕様書8節の場合）

錆止め塗料塗り (18.3.3)

鉄鋼面	※Ａ種（見え掛り）　※Ｂ種（見え隠れ）
亜鉛めっき鋼面	※Ａ種（鋼製建具等）・Ｂ種

④ 合成樹脂調合ペイント塗り（ＳＯＰ）

合成樹脂調合ペイント塗り　木部　鉄鋼面　亜鉛めっき鋼板 (18.4.2)
塗料の種別　※１種　・２種 (表18.4.1～3)
合成樹脂調合ペイント塗り

鉄鋼面	・Ａ種　※Ｂ種
木部	※Ａ種（屋外）　※Ｂ種（屋内）

⑤ クリアラッカー塗り（ＣＬ）

木部のクリアラッカー塗り　・Ａ種　※Ｂ種 (18.5.1)　(表18.5.1)

6．アクリル樹脂系非水分散形塗料塗り（ＮＡＤ）

アクリル樹脂系非水分散形塗料塗り（屋内）・Ａ種　※Ｂ種 (18.6.1)　(表18.6.1)
コンクリート・モルタル面

⑦ 耐候性塗料塗り（ＤＰ）

耐候性塗料塗り　（屋外） (18.7.2～3)(表18.7.1～3)
上塗りの等級　～特記による
鉄鋼面　工程く下塗り→研磨→中塗り→上塗り→は表１８．７．２による
亜鉛めっき鋼面　工程く下塗り→研磨→中塗り→上塗り→は表１８．７．３による
コンクリート面及び押出成形セメント板面の種別 (18.7.4)(表18.7.3)
・Ａ種　・Ｂ種　・Ｃ種　種別は表１８．７．３の特記による

⑧ つや有り合成樹脂エマルションペイント塗り（ＥＰ－Ｇ）

つや有り合成樹脂エマルションペイント塗り (18.8.1～4)
コンクリート・モルタル・プラスター・石こうボード・その他のボード面
・Ａ種　※Ｂ種
木部（屋内）（多孔質広葉樹を除く）→仕様工程等は、表１８．８．２による
鉄鋼面（屋内）　・Ａ種　※Ｂ種

9．合成樹脂エマルションペイント塗り（ＥＰ）

合成樹脂エマルションペイント塗り
コンクリート・モルタル・プラスター・石こうボード・その他のボード面 (18.9.2)(表18.9.1)
・Ａ種　※Ｂ種

10．ウレタン樹脂ワニス塗り（ＵＣ）

木部のウレタン樹脂ワニス塗り　・Ａ種　※Ｂ種 (18.10.2)

⑪ ステイン塗り（ＯＳ）

オイルステイン塗りは特記による。 (18.11.2)

12．木材保護塗料塗り（ＷＰ）

木材保護塗料塗り　・Ａ種　※Ｂ種 (18.12.1)

19 内装工事

① ビニル床シート張り　ビニル床タイル及びゴム床タイル張り

⊙ビニル床シート　JIS A5705のJIS表示認証製品 (19.2.1～4)(表19.2.1-2)

種　類	記号	色　柄	厚さ(mm)	特殊機能	工法
⊗ 発泡層のないもの	⊙ＦＳ	・無地	※ 2.0	・帯電防止	※熱溶接
	・ＴＳ	⊙マーブル	⊙ 2.5	・帯動荷重	・突付け
⊙ 発泡層のあるもの	⊙ＨＳ		・ 2.3	⊙衝撃吸収	
	・ＫＳ		⊙ 3.2		

⊙化粧ビニル床シート　JIS A5705のJIS表示認証製品で、表面は印刷シートに透明表層を有した木目又は石目調のもの

種類の記号	色　柄	厚さ(mm)	特殊機能	工　法
ＦＳ	・木目調	※ 2.0	・帯電防止	※熱溶接
	・石目調	⊙ 2.5	・帯動荷重	・突付け

上記以外はすべてビニル床シートに同じ

⊙ビニル床タイル　JIS A5705のJIS表示認証製品

種　類	記号	寸法	厚さ(mm)	特殊機能
※ コンポジションビニル床タイル	※ＫＴ	※300×300	・ 2.0	・帯電防止 ・耐動荷重
⊙ ホモジニアスビニル床タイル	・ＦＴ	・300×300 ・450×450	・ 2.0	・帯電防止 ・耐動荷重
	⊙ＦＯＡ	⊙600×500	⊙ 4.5	⊙帯電防止 ・耐動荷重

⊙特殊機能床材　帯電防止
・　帯電防止性能評価（JIS A 1445）1.2～3.1程度
又は耐電圧（JIS L 1023）3kv以下
・　帯電防止性能評価（JIS A 1445）3.2～5.1程度
又は漏えい抵抗値(JIS A 1454)0.1×1010オーム未満
・　帯電防止性能評価（JIS A 1445）5.2以上
又は漏えい抵抗値(JIS A 1454)0.1×107オーム未満
耐動荷重
JIS A 1454によるへこみ試験、残留へこみ試験、滑り性試験、層間剥離強度試験(発泡層のあるビニルシートのみ)およびキャスター性試験等の試験後異常がないこと。

・視覚障害者用床タイル

材　質	寸　法（mm）
・塩化ビニル系・せっ器質タイル系	３００×３００

⊙ビニル幅木　材　種　※ 軟質　・ 硬質　・ 溶接
高　さ（mm）　※ ６０　・ ７５　・ １００
厚　さ（mm）　※ １．５　・ ２．０

⊙接着剤　ＪＩＳ　Ａ　5536（床仕上げ材接着剤）により、種別は表19.2.1による施工箇所に応じたものとする。
ホルムアルデヒド放散量は特記による。特記がなければＦ☆☆☆とする。

2 カーペット敷き

・繊じゅうたん (19.3.1～4)　(表19.3.1)

種　別	パイル形状	色柄等	備　考
・Ａ種	・カットパイル	※無地	
・Ｂ種	・ループパイル	・柄物（標準品）	
・Ｃ種	・カット、ループパイル併用		

耐電性　※人体帯電圧3kV以下　・

・タフテッドカーペット (19.3.3～4)　(表19.3.2)

パイル形状	パイル長（mm）	工　法	備　考
・カットパイル	※5～7　・	※全面接着工法 ・グリッパー工法	下敷き材を敷く。
・ループパイル	※4～6　・		
・レベルループパイル	※4　・		
・カット、ループ併用			

・タイルカーペット (表19.3.2)

パイル形状	種　類	寸法（mm）	総厚さ（mm）	備　考
※ループパイル	※第一種 ・第二種	※500×500	※6.5	粘着はく離形接着剤を使用する。
・カットパイル				
・カット、ループ併用				

耐電性　・人体帯電圧3kV以下（フリーアクセスフロア敷設範囲）

3 合成樹脂塗床

(19.4.1～4)　(表19.4.1～8)

種　別	仕上げの種類	
・弾性ウレタン塗床材	※平滑仕上げ　・防滑仕上げ　・つや消し仕上げ	
⊙エポキシ樹脂塗床材	・薄膜流し展べ仕上げ ・厚膜流し展べ仕上げ（・平滑　・防滑） ・樹脂モルタル仕上げ（・平滑　・防滑） ・防滑仕上げ	特記による

4 フローリング張り

・単層フローリング (19.5.1～7)　(表19.5.1～6)

種　別	樹種	厚さ(mm)	工法	塗装
・フローリングボード	※ナラ	※１５　幅　７５ 長さ900以上	・釘止め工法 ・接着工法	※ウレタン樹脂ワニス塗り
・フローリングブロック	※ナラ	１５　303×303	・ ・接着工法	・オイルステン塗りの上ワックス ・生地のままワックス
・モザイクパーケット	※ナラ	・６　・８　・９	・接着工法	・既塗装品

⊙複層フローリング

種　別	樹種	種別	防湿処理	工法	塗装
⊙ 複合１種フローリング	※ナラ ・サクラ	・Ａ種 ・Ｂ種	⊙行う ・行わない	⊙釘止め工法 ⊙接着工法	※ウレタン樹脂ワニス塗り ・オイルステン塗りの上ワックス ・生地のまま
・ 複合２種フローリング	・ヒノキ ⊙カバ	※Ｃ種			
⊙ 複合３種フローリング					
・ 大型積層フローリング	・ナラ ・サクラ		・行う ・行わない	・特殊張り工法 （体育館床）	ワックス ⊙既塗装品

5 畳敷き

畳の種別　・Ａ種　・Ｂ種 (19.6.2)(表19.6.1)
・Ｃ種　⊙Ｄ種（ KT-N ）

特記事項
訂正事項

承　認	設　計	担　当	

縮尺　S=Non
設計年月日

工事名称　石和第一保育所建設工事（建築主体）（債務）
図面名称　特記仕様書（３）

No. Ａ－０４

⑲ 内装工事

⑦ せっこうボード その他ボード及び合板張り

(19.7.2～3) (表19.7.1～5)

種類	JISの記号	厚さ（mm）、規格等
・硬質木毛セメント板	HW Ⓖ	・15 ・20 ・25 ・
・普通木毛セメント板	NW Ⓖ	・15 ・20 ・25 ・
⊙けい酸カルシウム板	0.8ＦＫ	タイプ2（無石綿） ○6 ・8 ・ ）
⊙ロックウール化粧吸音板	ＤＲ	※フラットタイプ（※9（不燃）・12 ・ ） ・凹凸タイプ（※12（不燃）・15・19・ ）
・ロックウール化粧吸音板（軒天井用）	ＤＲ ＤＲ（凹凸） ＤＲ（軒天） ＤＲ（軒天凹凸）	※フラットタイプ 9（不燃） ・凹凸タイプ（※12 ・15）（不燃）
⊙せっこうボード	ＧＢ－Ｒ	※12.5（不燃） ⊙9.5（準不燃）
・押入用吸放湿せっこうボード	ＧＢ－Ｄ－Ｈｃ	※12.5（準不燃） ・9.5（準不燃）
⊙シージングせっこうボード	ＧＢ－Ｓ	※12.5（準不燃） ・9.5（準不燃）
・強化せっこうボード	ＧＢ－Ｆ	12.5（不燃） 15.0（不燃）
・せっこうラスボード	ＧＢ－Ｌ	9.5
⊙化粧せっこうボード	ＧＢ－Ｄ	※12.5（不燃） ⊙9.5（準不燃）
・難燃合板	Ⓖ	・生地、透明塗料塗り（ラワン合板程度） ・不透明塗料塗り（しな合板程度）
⊙メラミン樹脂化粧板		JIS Ｋ 6903による 厚さ1.2
・ミディアムデンシティファイバーボード	ＭＤＦ Ⓖ	・3 ・7 ・9 ・12 ・
・単板張りパーティクルボード	Ⓖ	・無研磨板 ・研磨板 ・10 ・12 ・15 ・18 ・
・ハードボード（素地）	ＨＢ Ⓖ	・無研磨板（・スタンダード ・テンパード） ・研磨板 （・スタンダード ・テンパード）
・インシュレーションボード	ＩＢ Ⓖ	Ａ級（・天井仕上 ・内装仕上 ・ ） ・9 ・12 ・15 ・18 ・

合板類、繊維板、及びパーティクルボードのホルムアルデヒドの放散量
※規制対象外 ・第三種
軽量鉄骨下地ボード遮音壁の遮音シール材
※適用する ・適用しない

吸音材 (表19.7.1)

種類	JISの記号	厚さ（mm）
・ロックウール吸音ボード1号	ＲＷ－Ｂ	※25
※グラスウール吸音ボード32Ｋ	ＧＷ－Ｂ	※25

⑧ 壁紙張り (19.8.2)

施工箇所	壁紙の種類 紙	繊維（織物）	プラ（ビニル）	その他（化学繊維）	無機質	防火性能	備考
図示						・不燃・準不燃・難燃	
						・不燃・準不燃・難燃	

素地ごしらえ (表18.2.4～5) (表18.2.7)
モルタル、プラスター面 ※Ｂ種 ・Ａ種（施工箇所： ）
せっこうボード面 ※Ｂ種 ・Ａ種（施工箇所： ）
壁紙のホルムアルデヒドの放散量 ※規制対象外 ・第三種 (19.8.2)

⑨ 断熱・防露 (19.9.2～3)

種類	施工箇所	厚さ（mm）	品質等
⊙押出法ポリスチレンフォーム保温板	※1種ｂ	・一般部分	・25 ・50	特定フロンを使用しないもの
	※2種ｂ	⊙屋根部分	⊙25 ・50	特定フロンを使用しないもの
⊙硬質ウレタンフォーム保温板	※2種2号	⊙1階土間下 ⊙基礎立上り	⊙30 ⊙60	特定フロンを使用しないもの
	・	・ ・接地部分	・ ・	
・現場発泡断熱材		※断熱材補修部分	——	特定フロンを使用しないもの
		・一般部	・15 ・40	難燃性 ・3級 ・2級
		製造所 性能の確認できる資料を監督職員に提出する		

ロックウール、グラスウール、フェノールフォーム、ユリア樹脂又はメラミン樹脂を使用した
断熱材のホルムアルデヒドの放散量 ※規制対象外 ・第三種

⑳ ユニットその他の工事

1 フリーアクセスフロア (20.2.2)

施工箇所	構法	仕上り高（mm）	適用地震時水平力	耐荷重性能	表面仕上げ材	備考
	・パネル構法 ・溝構法		・1.0Ｇ ・0.6Ｇ	・3,000Ｎ ・5,000Ｎ	・帯電防止床タイル ・タイルカーペット	
	・パネル構法 ・溝構法		・1.0Ｇ ・0.6Ｇ	・3,000Ｎ ・5,000Ｎ	・帯電防止床タイル ・タイルカーペット	
	・パネル構法 ・溝構法		・1.0Ｇ ・0.6Ｇ	・3,000Ｎ ・5,000Ｎ	・帯電防止床タイル ・タイルカーペット	

5,000Ｎについては、平成元年建設省告示第1322号「耐震型フリーアクセスフロアの開発」の建設技術評価において評価を取得したもの又は同等品とする。

表面仕上げ材の品質・規格等は、19章内装工事による
スロープ及びボーダー ※製造所の標準仕様 ・図示
コンセント等の取付け対応 ※製造所の標準仕様 （コンセント本体は別途設備工事）
コンセントの箇所数は図示
配線用取り出しパネル 配線取り出し開口：パネル１枚につき40mm×80mm程度の開口１ヶ所以上
フリーアクセスフロア全体面積に対する設置割合
※20～30% ・
空調用吹き出しパネル ※無し
・有り（※固定式 ・可変式 ：施工箇所は図示）

2 可動間仕切 (20.2.3)

構造形式	パネル部の総厚さ（mm）	表面材種 厚さ（mm）	表面仕上げ	遮音性能	防火性能
・スタッド式 ・スタッドパネル式 ・パネル式	・６０	※鋼板（※0.6 ・0.8）	※メラミン樹脂又はアクリル樹脂焼付け ・	・あり（ ） ・なし	・あり ・なし

③ 移動間仕切 (20.2.4)

遮音性能	厚さ（mm）	表面材	表面仕上げ	操作方法
⊙一般タイプ		※鋼板	⊙焼付け塗装 ・壁紙張り	⊙手動式 ・電動式 ・部分電動式
・遮音タイプ（36db以上）		※鋼板	・焼付け塗装 ・壁紙張り	・手動式 ・電動式 ・部分電動式

表面仕上げの壁紙張りの品質は19章内装工事による
遮音性能はJIS Ａ 6512の遮音試験に準拠する

④ トイレブース (20.2.5)

表面仕上げ材
※メラミン樹脂系化粧板（標準色 アルミ製コーナーエッジ付き）
・ポリエステル樹脂系化粧板
足形状 ※幅木型 ・足金物型

5 手すり

・段鼻ﾉﾝｽﾘｯﾌﾟ:ｱﾙﾐ製(ｺﾞﾑﾀｲﾔ入り)

(20.2.6)

種別	施工箇所
※集成材クリアラッカー仕上げ（市販品 径 約45mm）	
・既成品	共用廊下、屋外階段、エントランスホール、EVホール玄関、洗面脱衣室、便所、UB

⑥ 階段滑止め

材 種 ⊙アルミ製 ⊙硬軟同時成型塩ビ製 (20.2.7)
形 状 ビニルタイヤ入り
両端フラットエンド ※有り（・ステンレス製 ※ビニル製） ・無し
幅（mm） 約35
取付け工法 ※接着工法 ・埋込み工法

⑦ 床目地棒

材 種 ステンレスSUS304 (20.2.8)

8 黒板及び ホワイトボード

(20.2.9)

種類		寸法（mm）	色彩	備考
・黒板	※焼付け		※緑 ・黒	※平面 ・曲面 ・スクリーン付引分
			※緑 ・黒	
・ホワイトボード	※ほうろう		※白	※平面 ・曲面 ・スクリーン付引分

⑨ 鏡

寸法（mm） ⊙図示 ・ (20.2.10)
厚さ（mm） ※5 ・

10 表 示

衝突防止表示 (20.2.11)
※図示（市販品 ※ステンレス製 径約30mm ・ ）
（・両面 ・片面）
・無し
表示標識、案内用図記号についてはJIS Ｚ 8210による
誘導標識、非常用進入口表示等は市販品とし、その他は共通詳細図による。

⑪ タラップ

種類・仕上げ材は仕上表による (20.2.12)

12 煙突用成形ライニング

・煙突用成形ライニング材 (20.2.13)
最高使用温度 ※650℃ ・400℃

・キャスタブル耐火材
工 法 ※こて押さえ
最高使用温度 ※400℃

13 ブラインド

(20.2.14)

形式	種類	スラットの材質	スラットの幅（mm）
※横型	※ギヤ式 ・コード式 ・操作棒式	※アルミニウム合金製	※25
・縦型	・１本操作コード ・２本操作コード	・アルミスラット ・クロススラット	・80 ・100

14 ロールスクリーン

防炎性能 ※有り (20.2.15)

施工箇所	装置 電動	装置 手引	備考

⑮ カーテン

(20.2.16)

施工箇所	形式 片引	形式 引分	装置 電動	装置 ひも引	装置 手引	ひだの種類	性能	備考
保育室、事務室他	○	○			○			

⑯ カーテンレール

材 種 ※アルミニウム製 ⊙ステンレス製 (20.2.16)
形 式 ○片引き ⊙引分け（※暗幕用は300mm以上の召合せの重掛けとする）

⑰ ブラインドボックス及びカーテンボックス

・市販品（アルミニウム製 押出し型材）
溝幅×深さ（mm） ・90×150 ※120×80 ・120×150 ・150×80 ・
色彩 ※Ｂ－１ ・Ｂ－２（※ブラウン系 ・ブラック ・ステンカラー）
⊙図示

18 耐震スリット

方向	タイプ	耐火性能	防水性能
・垂直方向 ・水平方向	※完全（全貫通型）スリット	・耐火型 ・非耐火型	・有り ・無し

目地	内壁（幅×深さ）	外壁（幅×深さ）
目地材	シーリング材（見え掛かりのみ）	シーリング材（内外とも）
目地寸法（mm）	※20×10 ・	※20×10 ・

19 止水板

形 状 ・据置式 ・壁張り式 ・差込式
寸 法
製造所

⑳ 天井点検口

材 質 アルミニウム製（※額縁タイプ ・目地タイプ）

㉑ 床点検口

材 質 アルミニウム製（受け枠 ※アルミ製 ⊙ステンレス製）

22 鋼製書架及び物品棚

種類	規格等	耐荷重による種類
・鋼製書架	JIS Ｓ 1039の規格による	水平荷重Ⅰ又は水平荷重Ⅱ
・鋼製物品棚	JIS Ｓ 1040の規格による	※１種 ・２種 ・３種

23 かぎ箱

市販品
形 式 ・30組用 ・60組用 ⊙80組用 ・120組用

24 くつふきマット

市販品
材 質 ・塩化ビニル製（コイル状 ステンレス製受枠） ・ビニル製（ステンレス製受枠）
・硬質アルミニウム製（受枠とも） ・ステンレス製（受枠とも）

㉕ 流し台ユニット

種類	寸法（Ｌ＝ mm）			適用内容	規格・品質等
⊙流し台	※1200	⊙1800	⊙900	トラップ付き	・優良住宅部品（セクショナルキッチンⅠ型）
・コンロ台	※600	・700		バックガード ※有り	
・つり戸棚	※1200	・1350	・600		
・水切り棚	※1200	・900		ステンレス製 ※１段式	※市販品

26 屋内掲示板

枠の材質 ※アルミニウム製
表面の材質 ※塩ビ発泡シート張り ・鉄粉含有マグネットシート張り

27 洗面カウンター

材 種 ・メラミン樹脂化粧板張り（心材：集成材） ・人工大理石
奥行き（mm） ・約450 ・約600

・固定式

材質	厚さ（mm）	高さ（mm）	備考
※網入り磨板ガラス ・線入り磨板ガラス	※6.8	※500	アルミ製枠付き

・可動式

種類	材質	高さ（mm）	備考
・垂直降下式（巻取り型）	※不燃布（不燃認定品）	※500 ・800	ガイドレール ※固定式（壁埋込型） ・可動式（天井収納型）
・回転降下式	鋼板製又はアルミ製	※500 ・800	表面仕上げ ※天井材張り

降下機構 煙感知器連動及び手動開放装置（埋込型）

28 防煙垂れ壁

29 視覚障害者用床タイル（誘導用及び注意喚起用床材）

ブロックパターンはJIS Ｔ 9251による (19.2.2)
色彩は黄色を原則とする
屋 内 ※塩化ビニル製 ・磁器又はせっ器質タイル（※300 ・ ）
・レジンコンクリート製
屋 外 ※レジンコンクリート製 ・磁器又はせっ器質タイル（※300 ・ ）

30 旗竿

材 質 ※アルミニウム合金製
形 式 ※テーパー型 ・同一断面型
地上高さ（m） ・6 ・8 ・10 ・12
操作方法 ※ハンドル式 ・ロープ式
固定方法 ・埋込式 ・ベース式 ・バンド式
製造所

31 旗竿受金物

材 種 ステンレス製SUS304

㉜ フェンス

・ビニル被覆エキスパンドフェンス
⊙樹脂塗装メッシュフェンス

㉝ 屋外掲示板

照明器具 ※有り ⊙無し
施 錠 ※有り ・無し
製造所

34 車止め支柱

※ステンレス製 固定式

㉟ 収納家具

材質
形状・寸法 ※図示
ホルムアルデヒドの放散量 ※規制対象外 ・第三種

36 エキスパンション・ジョイント金物

材質 ・アルミ ・ステンレス
クリアランス ・50 ・100 ・150 ・400
耐火性能 ・有り（ ） ・無し
防水型 ※適用する ・適用しない

37 プレキャストコンクリート工事

コンクリートは表6.2.1［コンクリートの種別］のⅠ類に準ずる (20.3.2)
材料は6章3節［コンクリートの材料及び調合］による

38 間知石及びコンクリート間知ブロック積み

間知石は表面がほぼ方形に近いもので、控えは四方落としとし、控え長さは面の最小辺の1.2倍とし、材種は特記材料はによる (20.4.2)
コンクリート間知ブロックはJIS Ａ 5371（プレキャスト無筋コンクリート製品）の積み
ブロックに基づき、種類及び異量区分は特記による

㉑ 排水工事

① 排水管

排水管用材料 (21.2.3)（表21.2.1）(21.3.1～3.2)

材種	管の種類	管形状（接合方法）
※遠心力鉄筋コンクリート管	※外圧管（※１種 ・２種）	Ｂ形（ゴム接合）
⊙硬質ポリ塩化ビニル管	※ＶＰ ・ＶＵ	
・排水用リサイクル硬質ポリ塩化ビニル管	・ＲＥＰ－ＶＵ Ⓖ	
・硬質ポリ塩化ビニル管	・ＤＶ	

車道部の排水管の敷設 (21.3.1～2)
※図示
・砂基礎（地業厚さ20cm以上 材料 山砂の類）

② 排水桝及びふた

鋳鉄製マンホールふた (21.2.2)

種類	適用荷重
・水封形 ・簡易気密形（パッキン式）	・密閉形（テーパー・パッキン式） ・中ふた付密閉形	・Ｔ－２用 ・Ｔ－６用 ・Ｔ－１４用 ・Ｔ－２０用

グレーチングふた (21.2.2)

材質	形式	種類	適用荷重	メンバーピッチ	上面形状
⊙鋼製 ⊙ステンレス製	※受枠付き	⊙溝ふた用 ⊙桝ふた用 ・かさ上げ用 ⊙Ｕ字溝用	⊙歩行用 ・Ｔ－２用 ・Ｔ－６用 ・Ｔ－１４用 ⊙Ｔ－２５用	※細目 ※普通目 ・細目	※凹凸形 ※平形 ・凹凸形
	ボルト固定 ※無し ⊙図示				

③ 埋戻し土

※Ｂ種 ・ (21.2.2～3)（表3.2.1）

4 浸透管及び浸透桝

製造所

5 その他

㉒ 舗装工事

① 盛り土に用いる材料

・Ａ種 ※Ｂ種 ・Ｃ種 ・Ｄ種 (22.2.3)（表3.2.1）

2 遮断層及び凍上抑制層の材料

・遮断層 ※川砂、海砂又良質な山砂 ・ (22.2.2～3)
厚さは図示
・凍上抑制層 ※再生クラッシャラン ・クラッシャラン 切り込み砂利 ・砂
厚さは図示
・フィルター層 ※透水性舗装 車道部150mm・歩道部50mm

3 路床安定処理

※添加材料による安定処理 (22.2.2～3)（表22.2.1）
種類 ・普通ポルトランドセメント ・高炉セメントＢ種 ・フライアッシュセメントＢ種
・生石灰（ ） ・消石灰（ ）
添加量 kg/m³（目標ＣＢＲ ※5以上 ・ ）

④ 路床上の支持力比試験

※行う（※乱した土 ・乱さない土） (22.2.5)

⑤ 路床締固め度の試験

※行う (22.2.5)

⑥ 路盤材料 Ⓖ

※再生クラッシャラン（RC-40） (22.3.3)
・クラッシャラン（C-40）又はクラッシャランスラグ（CS-40）
透水性アスファルト舗装にもちいる場合は透水性の高いもの

⑦ アスファルト舗装

(22.4.2)（表22.4.1）

舗装の種類	車道部の基層	カラー舗装の種類
※アスファルト舗装	※無し ・有り	※顔料混入加熱アスファルト混合物
⊙カラー舗装	※無し ・有り	

カラー舗装の着色骨材 ・有色骨材（焼成） ・着色骨材（樹脂被覆）
アスファルト ※再生アスファルト Ⓖ ・ストレートアスファルト (22.4.3)

加熱アスファルト混合物の種類 (22.4.4)（表22.4.4）

区分	※一般地域	・寒冷地域
表層	※密粒度アスファルト混合物（13） ・細粒度アスファルト混合物（13） ・再生密粒度アスファルト混合物（13）	※密粒度アスファルト混合物（13F） ・細粒度ギャップアスファルト混合物（13F）
基層	・粗粒度アスファルト混合物（20）	

シールコート ※行わない ・行う（施工範囲： ） (22.4.5)

アスファルト混合物の抽出試験 ※行わない ・行う (22.4.6)

⑧ コンクリート舗装

早強セメント ※使用しない ・使用する (22.5.3)
注入材料 ※低弾性タイプ ・高弾性タイプ (22.5.3)（表22.5.2）
溶接金網 ※有り ・無し (22.5.3～4)
厚さ試験 ※行わない ・行う (22.5.6)

⑨ 透水性アスファルト舗装

アスファルト混合物の抽出試験 ※行わない ・行う (22.7.4) (22.7.6)

10 ブロック系舗装

・コンクリート平板舗装 (22.8.2～4)

種類	寸法（mm）	厚さ（mm）	目地材
※普通平板（Ｎ） ・カラー平板（Ｃ） ・洗出平板（Ｗ） ・擬石平板（Ｓ）	※300角	※60	※砂 ・モルタル

・インターロッキングブロック舗装 (22.8.2～4)

種類	厚さ（mm）	色彩及び表面加工等
※標準ブロック ・透水性ブロック ・誘導、注意喚起用ブロック	車道部 ※80 ・ 歩道部 ※60 ・	※標準品 誘導、注意喚起用は黄色系とする
・植生ブロック	※80 ・100	

インターロッキングブロック

項目		品質・性能		
素地	セメント	JIS Ｒ 5210ポルトランドセメント、JIS Ｒ 5211高炉セメント、JIS Ｒ 5212シリカセメント、JIS Ｒ 5213フライアッシュセメント、白色ポルトランドセメントとする。		
	骨材	清浄、強硬、耐久性で、適当な粒度をもち、ごみ、泥、有機物、薄い石片、鱗長の石片を含んでいない。		
	混和材料	インターロッキングブロックの品質に有害な影響を及ぼさない。		
	着色材料	無機質材料を用い、耐候性に優れ、かつインターロッキングブロックの品質及び環境上有害な影響を及ぼさない。		
外観		使用上有害なきず、ひびわれ、欠け、変形等がない。		
寸法許容差（mm）		長さ	幅	厚さ
普通タイプ		±3	±3	±3
透水性タイプ		±3	±3	+5～－1
植生用タイプ		±3	±3	±3
曲げ強度（N/mm²）		普通タイプ	5.0以上	
		透水性タイプ	3.0以上	
		植生用タイプ	4.0以上	
透水係数（cm/sec）		透水性タイプ	1×10^{-2}以上	
圧縮強度（N/mm²）		普通タイプ	32.0以上	
		透水性タイプ	17.0以上	

・舗石舗装 (22.8.2～4)

種類	厚さ（mm）	施工方法	基層
※小舗石（花こう岩）	※80～100 ・	※うろこ張り	※コンクリート舗装 ・アスファルト舗装

⑪ 路面標示用塗料

JIS Ｋ 5665（路面標示用塗料）による

種類	施工	適用	色	幅（mm）	布厚さ（mm）	揮発性有機溶剤の含有率
・１種 Ⓖ	常温	液状	※白	※150	※1.0	塗料総質量に対して5%以下
・１種 Ⓖ	加熱					
・３種１号	溶融	粉体状				

㉓ 植栽工事

① 樹木の植栽基盤整備

芝及び地被類 (23.2.2～3)（表23.2.1～2）

適用	有効土層の厚さ（cm）	工法	整備範囲
※行う ・行わない	※20	※Ｂ種 ・Ｃ種	※植栽範囲 ・図示

樹木 (23.2.2～3)（表23.2.1～2）

樹木の樹高（m）	有効土層の厚さ（cm）	工法	整備範囲
・12以上	※100 ・	※Ａ種	⊙張り芝の範囲
・7超～12未満	※80 ・	・Ｂ種	ただし、低木は植栽範囲
・3超～7以下	※60 ・	⊙Ｃ種	・図示
⊙3以下	※50 ・	・Ｄ種	

工法Ｄ種以外の工法で、現状地盤高と計画地盤高が同一でない場合は、計画地盤高からを有効土層とする。ただし、計画地盤高が現状地盤高より高い場合は、計画地盤高まで植込み用土で盛土を行う。

② 植込み用土

※現場発生土の良質土 ⊙客土（※畑土 ・黒土） (23.2.3)

③ 土壌改良材 Ⓖ

※適用する (23.2.3～4)
施工箇所 ※植栽範囲 ・図示

パークたい肥
有機物の含有量（乾物） ：70%以上
炭素窒素比（C/N比） ：35以下
陽イオン交換容量（乾物） ：70meq/100g以上
pH ：5.5～7.5
水分 ：55～65%
幼植物試験の結果 ：生育阻害その他の異常を認めない
窒素全量（現物） ：0.5%以上
りん酸全量（現物） ：0.2%以下
加里全量（現物） ：0.1%以上

発酵下水汚泥コンポスト
「全国等を含む産業廃棄物に係る判定基準を定める省令」の別表第一の基準に適合する原料を使用したもので、植害試験の調査の結果、害が認められないものとする
ひ素 ：0.005%以下
カドミウム ：0.0005%以下
水銀 ：0.0002%以下
ニッケル ：0.03%以下
クロム ：0.05%以下
鉛 ：0.01%以下
有機物の含有量（乾物） ：35%以上
炭素窒素比（C/N比） ：20以下
pH ：8.5以下
水分 ：50%以下
窒素全量（現物） ：0.8%以上
りん酸全量（現物） ：1.0%以上
アルカリ分（現物） ：15%以下

④ 支柱材

※杉の焼丸太（間伐材） Ⓖ ・真竹 (23.3.2)

⑤ 幹巻き用材料

※幹巻き用テープ ・わら及びこも (23.3.2)

⑥ 芝張り

種類 ・こうらい芝 ・野芝 ⊙オーガスチン (23.4.2)

7 屋上緑化

屋上緑化システム Ⓖ (23.5.2)
・管理方法による区分 ・省管理型
質量の上限値 （ ） kg/m²
かん水装置 ・設ける（工事区分は図示）
透水層、保水層及び排水層等
保水層及び排水層の鉛直方向の排水性能：240ℓ/m²・h以上
耐荷重性能
省管理型：3×10⁻⁴N/m²以上の載荷重で異常のないこと。
耐根層の材料 (23.5.3)
合成樹脂耐根シート（厚さ3mm以上）又は抗根性剤とする（耐根性能の実績を有すること）
植込み用土 製造所の仕様による
植栽の種類 製造所の指定するものとする
・管理方法による区分 ・管理型

特記事項
訂正事項

承認	設計	担当	

縮尺 S=Non
設計年月日

工事名称 石和第一保育所建設工事（建築主体）（債務）
図面名称 特記仕様書（４）

No. Ａ－０５

No.	項　　目	建　築	電気設備	機械設備		別 途	備　考
1	雨水たて樋（ＧＬまで）	○					
2	同上　ＧＬ以降の地中埋設横引配管			○			立樋と横引配管の接続は 機械設備工事
3	点検口（床・壁・天井）	○					
4	設備配管、ダクトの躯体貫通スリーブ		○	○			
5	同上　穴埋め補修		○	○			
6	同上　鉄筋補強	○					
7	設備機器設置箇所の墨出し、アンカー取付、穴埋め補修 シーリング処理		○	○			
8	照明器具及び空調機、天井扇等のための天井ボード類下地開口補強	○					
9	同上　隅出し及びボードの切込み		○	○			
10	一般換気扇（排気ファン）			○			
11	同上　電源及びスイッチ配線工事		○				センサーを含むスイッチ共
12	全熱交換器、リモコン			○			リモコン取付は電気設備
13	同上　リモコン配線工事		○				
14	空調室内機制御線及び電源線（冷媒管共巻き部分）			○			
15	同上　室外機への電源供給（室内機電源共）		○				
16	エアコン用個別・集中リモコン			○			
17	同上　配線工事			○			
18	機械設備機器、付属制御盤への一次側電源供給		○				
19	便所　手洗い			○			水栓共
20	便所　補助手摺			○			
21	化粧鏡	○					
22	幼児用バス（トイレ･沐浴室）			○			水栓共
23	おむつ交換台（トイレ･沐浴室）	○					
24	ステンレス流し（トイレ･沐浴室）	○					
25	同上　水栓及び給排水接続			○			
26	幼児用手洗い	○					
27	同上　水栓及び給排水接続			○			
28	こどもキッチン	○					
29	同上　水栓、排水トラップ、調理器具、コンセント	○					
30	同上　給排水接続			○			
31	流し台（給湯室、調乳室）	○					
32	同上　水栓及び給排水接続			○			
33	電気温水器			○			

No.	項　　目	建　築	電気設備	機械設備		別 途	備　考
34	ロッカー（休憩室、更衣室）					○	
35	消火器ボックス、スタンド	○					
36	消火器					○	
37	カーテンレール	○					
38	カーテン（レース、ドレープ、暗幕共）	○					
39	ブラインド					○	
40	舞台装置	○					
41	椅子収納台車（ステージ下）	○					
42	厨房機器	○					
43	一次側電源工事		○				
44	厨房機器への電源接続工事		○				
45	電気プラグ		○				
46	一次側給排水、給湯、ｶﾞｽ配管工事			○			
47	厨房機器用の給水、給湯、排水用管の配管及び接続工事			○			
48	給水、給湯、排水用のバルブ及び水栓取り付け工事			○			
49	厨房内 各種手洗器及び、水栓類設置工事			○			
50	換気ダクト･フード工事			○			
51	機械警備用配管		○				
52	機械警備用機器、配線及び取付接続工事					○	
53	幼児用プール	○					
54	ユニットシャワー	○					
55	同上　給排水接続			○			
56	屋外手洗い場	○					
57	同上　水栓及び給排水接続			○			
58	地中埋設標		○	○			
59	受変電設備、屋外設備基礎	○					
60	工事中の使用電力料金	○	○	○			
61	受電後竣工引渡しまでの工事用電力、水道使用量	○	○	○			
62	床暖房工事（電熱パネル・結線・センサー工事等）	○					
63	同上　スリーブ工事	○					
64	同上　一次側電源工事（幹線）		○				
65	同上　配線工事	○					
66	同上　制御盤工事	○					取付共

特記事項
訂正事項

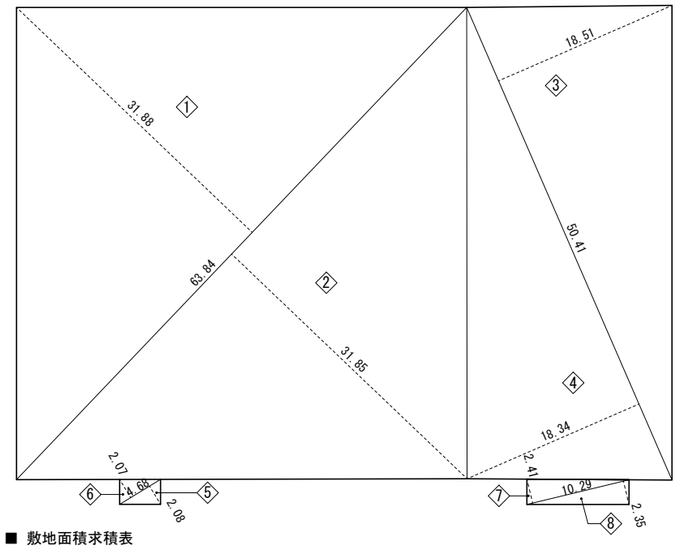
承　認	設　計	担　当	

縮 尺 S=Non
設計年月日

工事名称　石和第一保育所建設工事（建築主体）（債務）
図面名称　工事区分表

No.
Ａ －０６

敷地面積求積図・求積表　　S=1：300



敷地面積 求積図　S=1:300

■ 敷地面積求積表

符号	計算式					面積		エリア別
①	63.84	×	31.88	= 2,035.2192	× 1/2	1,017.60960	本敷地	2,963.065850
②	63.84	×	31.85	= 2,033.3040	× 1/2	1,016.65200		
③	50.41	×	18.51	= 933.0891	× 1/2	466.54455		
④	50.41	×	18.34	= 924.5194	× 1/2	462.25970		
⑤	4.68	×	2.08	= 9.7344	× 1/2	4.86720	メンテ用床版	9.711000
⑥	4.68	×	2.07	= 9.6876	× 1/2	4.84380		
⑦	10.29	×	2.41	= 24.7989	× 1/2	12.39945	メイン床版	24.490200
⑧	10.29	×	2.35	= 24.1815	× 1/2	12.09075		
計						2,997.267050		
敷地面積						2,997.27 （㎡）		

■ 建物面積求積表

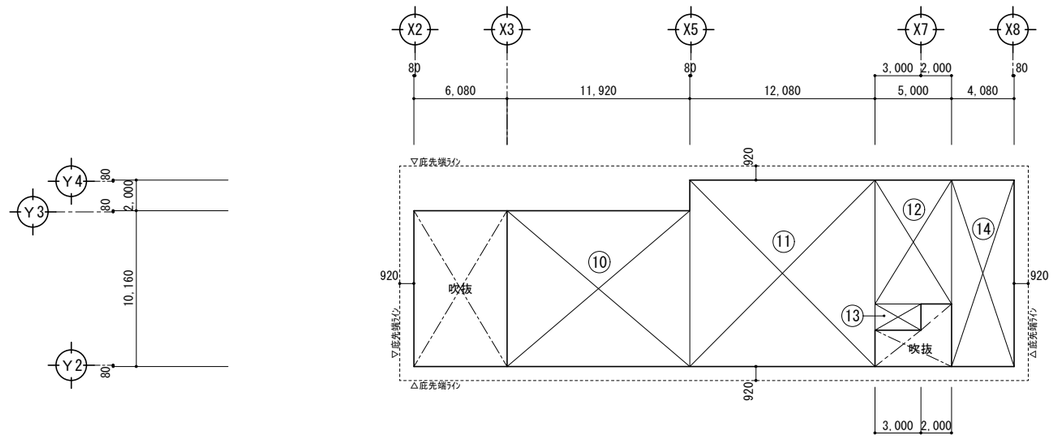
符号	計算式			面積
①	46.16	×	18.08	834.5728
②	12.16	×	2.00	24.3200
③	3.00	×	9.51	28.5300
④	9.16	×	1.08	9.8928
⑤	12.16	×	1.08	13.1328
⑥	19.16	×	1.08	20.6928
⑦	2.84	×	1.08	3.0672
⑧	2.84	×	1.08	3.0672
⑨	48.00	×	0.42	20.1600
計				957.4356
１階　床面積				957.44 （㎡）

符号	計算式			面積
Ⓐ	12.00	×	2.50	30.0000
Ⓑ	1.50	×	2.09	3.1350
Ⓒ	1.00	×	5.47	5.4700
Ⓓ	48.00	×	2.68	128.6400
Ⓔ	1.08	×	2.68	2.8944
Ⓕ	1.00	×	5.32	5.3200
Ⓖ	7.00	×	1.08	7.5600
Ⓗ	15.00	×	1.00	15.0000
	①	～	⑨	957.4356
計				1,155.4550
建築面積				1,155.46 （㎡）

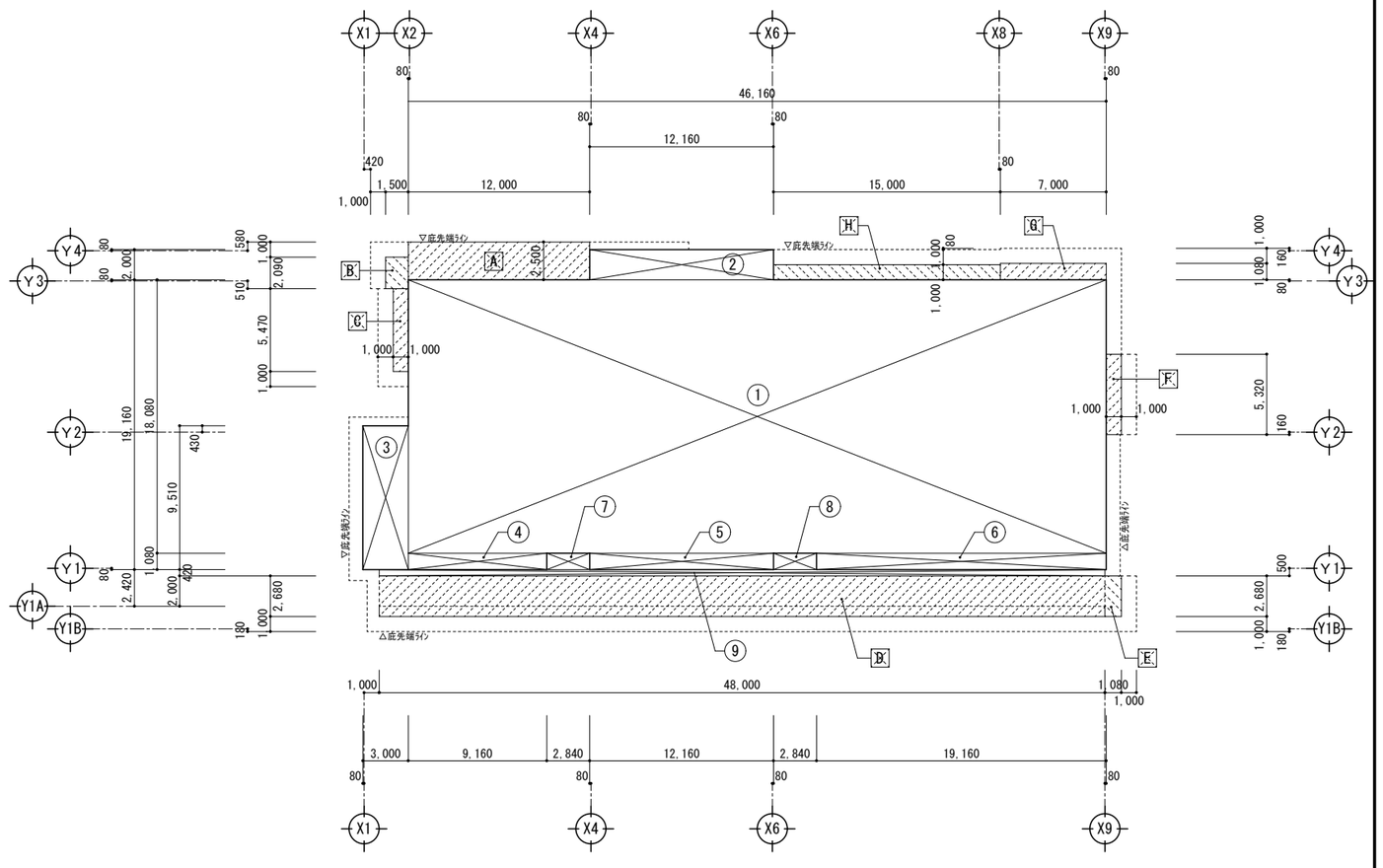
⑩	11.92	×	10.16	121.1072
⑪	12.08	×	12.16	146.8928
⑫	5.00	×	8.08	40.4000
⑬	3.00	×	1.71	5.1300
⑭	4.08	×	12.16	49.6128
計				363.1428
２階　床面積				363.14 （㎡）

延床面積	1,320.58 （㎡）

建物面積求積図・求積表　　S=1：200



２階床面積　求積図　S=1：200



１階床面積　求積図　S=1：200

特記事項 訂正事項	・道路斜線、隣地斜線について明らかに適合。 ・盛土規制法及び都市計画法の許可対象となる宅地造成等の工事無し。

承認	設計	担当	

縮尺　S=1：200、300(A1)
S=1：400、600(A3)
設計年月日

工事名称　石和第一保育所建設工事（建築主体）（債務）

図面名称　敷地面積及び建物面積　求積図、求積表

No.　A －07

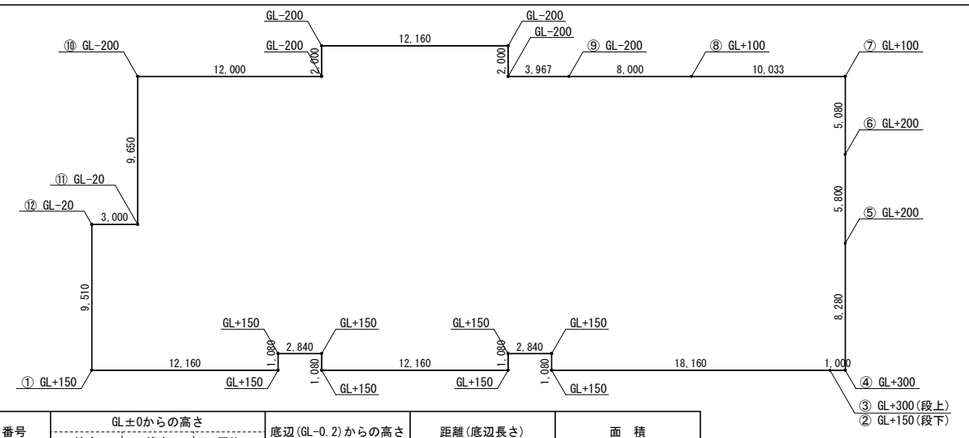
外部仕上表

屋　　根	【立ハゼ葺き】カラーガルバリウム鋼板t=0.4以上(ポリエチレンフォームt=2.0裏貼) 断熱材：押出法ポリスチレンフォームt=25 防水層：ゴムアスルーフィングt=1.0 野地板：高圧木毛セメント板 t=20 雪止:L-50X50X4（焼付塗装仕上） ※準耐火仕様（不燃材料）	テ　ラ　ス	【屋根(幕構造)】 幕材料：クリーンマックス220(酸化チタン光触媒コーティング)※不燃材料【不燃認定　NM-3032-1】 柱、梁材：鉄骨(STK400)の上、2液形ポリウレタンエナメル塗り 【床】 コンクリート金コテ下地(水勾配付) 合成木材ウッドデッキt=30（鋼製根太、鋼製支柱）　H=130～150
陸 屋 根	【平場】合成高分子系ルーフィングシート防水t=2.0　軽歩行用(機械固定工法)脱気有 【立上り】合成高分子系ルーフィングシート防水t=1.5　非歩行(接着工法)脱気無　硬質木片セメント板t=18下地 【設備基礎類天端】ウレタン塗膜防水 【シート防水末端】防水押えｱﾝｸﾞﾙ(L-10*25*1.2)、ｼｰﾘﾝｸﾞ処理	屋外通路	【床】陸屋根に同じ 【壁】外壁に同じ 【天井】軒天井に同じ 【手摺天端】アルミ既製品(W200)
外　　壁	窯業系サイディングt=16以上(横張り)【不燃 NM-1799】 通気金具(15㎜) 透湿防水シート C形鋼(縦) 下地 ※延焼部分は防火構造(内部側に石膏ボードt=9.5㎜張りとする)【防火構造　PC030BE-9202】 ※面積区画スパンドレル部分は1時間準耐火構造(内部側に石膏ボードt=12.5+12.5㎜張りとする)【1時間準耐火構造　QF060BE-9225】	避難用スベリ台	スベリ台(階段付)：スチールウレタン樹脂塗装（底面ステンレス製） 直線式 階高3800×全長3880×勾配30度 ※避難設備【認定番号たい-069号】
樋	【竪樋】アルミ製丸型（バンドタイプ）Φ89、Φ60 【軒樋】ガルバリウム大型軒樋(W165×H103) 【箱樋】カラーガルバリウム鋼板t=0.4+塩ビシートt=1.5（高圧木毛ｾﾒﾝﾄ板t=20+ｺﾞﾑｱｽﾙｰﾌｨﾝｸﾞt=1.0下地)曲げ加工 【ドレイン(横引き及びフロア及び中間)】鋳鉄製90用	プ　ー　ル	【幼児用プール】両階段、ＦＲＰ製組立式(W3,500×L6,000×H520) 【付属品】メッシュプールカバー、収納カバー 【ユニットシャワー】タンク、ポール、シャワーヘッド、ホースジョイントパーツ(ｼﾞｬｸｴﾘｰﾜﾝﾀｯﾁｼｬﾜｰⅡ[HFG0941]同等品) 【プールシェード】支柱:アルミ、梁：ステンレス、膜材：ポリエステル、パネル：ポリエチレン(L4,120×W3,120×H2,790)(ｼﾞｬｸｴﾘｰﾃﾞｨﾝｪｰﾄﾞﾚｰﾙ式同等品))
軒 天 井	ＬＧＳ(外部用)下地 ケイ酸カルシウム板 t=6(目透かし張り)　EP-G塗装	断　　熱	【屋根】押出法ポリスチレンフォームt=25(2種bA)　[熱伝導率0.034W/m･k] 【天井裏(最上階)】グラスウールt=100敷込み(24kg/m3)　[熱伝導率0.036W/m･k] 【外壁廻り】グラスウールt=100充填(24kg/m3)　[熱伝導率0.036W/m･k] 【1階土間下(床暖房エリア及び地下ピット以外)】硬質押出発砲ﾎﾟﾘｽﾁﾚﾝﾎﾞｰﾄﾞt=30(2種2号ＥⅠ)　[熱伝導率0.020W/m･k] 【基礎立上り(床暖房エリア全周)】硬質押出発砲ﾎﾟﾘｽﾁﾚﾝﾎﾞｰﾄﾞt=50(L=900)(2種2号ＥⅠ)　[熱伝導率0.020W/m･k]
ポーチ	【床】磁器質150角タイル 【壁】外壁に同じ 【天井】軒天井に同じ	そ　の　他	【パラペット(笠木)】アルミ既製品(W200) 【外壁下端(軒天取合い部)】アルミ下り壁見切(W150) 【外巾木】コンクリート打ち放し補修
バルコニー	【床】合成木材ウッドデッキt=30　H=500(ｱﾙﾐ製束柱、大引、根がらみ、基礎石共) 【壁】外壁に同じ 【天井】軒天井に同じ 【その他】デッキフェンスH=800(柱共) デッキ門扉　W690(錠金具付) デッキステップ　W650(2段)		

準耐火建築物（ロ-2）の仕様

部　位	仕　様	認定番号等
柱 ・ 梁	鉄骨造	不燃材料
壁	LGS65+PB12.5の上、ﾋﾞﾆｰﾙｸﾛｽ貼り	石膏ボードt=12.5(不燃材料[NM-8619]／ﾋﾞﾆｰﾙｸﾛｽ(準不燃材料)
外　壁	窯業系ｻｲﾃﾞｨﾝｸﾞt=16以上(横張り)	窯業系サイディング+石膏ボード裏張+鉄骨造（防火構造[PC030BE-9202]）
床	デッキプレート(t=1.2)+コンクリート(t=110)打設	不燃材料
屋　根	ﾙｰﾌﾃﾞｯｷ(GL鋼板) t=0.6 H=90(不燃断熱材t=4.0裏貼)	不燃材料
階　段	鉄骨造	不燃材料

平均地盤高さの算定



番号	GL±0からの高さ 始点	終点	平均	底辺(GL-0.2)からの高さ	距離(底辺長さ)	面　積
①～②	0.15	0.15	0.150	0.350	52.480	18.3680
③～④	0.30	0.30	0.300	0.500	1.000	0.5000
④～⑤	0.30	0.20	0.250	0.450	8.280	3.7260
⑤～⑥	0.20	0.20	0.200	0.400	5.800	2.3200
⑥～⑦	0.20	0.10	0.150	0.350	5.080	1.7780
⑦～⑧	0.10	0.10	0.100	0.300	10.033	3.0099
⑧～⑨	0.10	-0.20	-0.050	0.150	8.000	1.2000
⑨～⑩	-0.20	-0.20	-0.200	0.000	32.127	0.0000
⑩～⑪	-0.20	-0.02	-0.110	0.090	9.650	0.8685
⑪～⑫	-0.02	-0.02	-0.020	0.180	3.000	0.5400
⑫～①	-0.02	0.15	0.065	0.265	9.510	2.5202
合　計					Ⓐ 144.960	Ⓑ 34.8306

※平均地盤高さの算定式

・平均地盤高補正＝ Ⓑ ／ Ⓐ　＝0.240m

・ＧＬからの平均地盤高さ＝(-0.200)＋(0.240)
＝+0.040(m)　＝+40(mm)

特記事項 訂正事項		承認	設計	担当	縮尺 S=Non 設計年月日	工事名称	石和第一保育所建設工事（建築主体）（債務）	No. A －08
						図面名称	外部仕上表	

内部仕上表（１）

階	室名	床高	天井高	床			巾木		壁			天井			廻縁	備考
				下地組	下地	仕上	仕上	高さ	下地組	下地	仕上	下地組	下地	仕上		
１Ｆ	玄関	-100	2,700	―	モルタル下地 t=30	磁器質150角タイル	磁器質150角タイル 木製既製品	100 60	LGS	GB-R t=12.5	ビニルクロス	LGS	GB-R t=9.5	ビニルクロス	塩ビ	・上框:木製既製品(100*50) ・下駄箱:ｵｰﾘ合板(W2400*D380*H1400)
	エントランスホール	±0	2,600	―	セルフレベリング t=10	複合1種フローリング(直張り) t=13.5	木製既製品	60	LGS	GB-R t=12.5	ビニルクロス	LGS	GB-R t=9.5	ビニルクロス	塩ビ	・梁天板:集成材(D570*t30)OSCL ・腰板:集成材(D300*t30)OSCL
	廊下	±0	2,600	―	セルフレベリング t=10	複合1種フローリング(直張り) t=13.5	木製既製品	60	LGS	GB-R t=12.5	ビニルクロス(不燃)	LGS	GB-R t=9.5	ビニルクロス	塩ビ	・手摺笠木:集成材(W150*t30)OSCL
	事務室	±0	2,600	乾式2重床システム	合板 t=12	置敷きビニル床タイル t=4.5	ソフト巾木	60	LGS	GB-R t=12.5	ビニルクロス	LGS	―	化粧石膏ボードt=9.5	塩ビ	・ｶｳﾝﾀｰ天板:ｵｰﾘ合板ﾌﾗｯｼｭt=30(W1800*D600) ・窓下戸棚(W1800*D600*H800) ・ｶｰﾃﾝﾎﾞｯｸｽ+ｶｰﾃﾝﾚｰﾙ+ｶｰﾃﾝ(ﾄﾞﾚｰﾌﾟ+ﾚｰｽ)
	給湯室	±0	2,600	乾式2重床システム	合板 t=12	ビニル床シート(一般) t=2.5	ソフト巾木H60	60	LGS	GB-R t=12.5	ビニルクロス(不燃)	LGS	―	化粧石膏ボードt=9.5	塩ビ	・流し台(W900)
	医務室	±0	2,400	―	セルフレベリング t=10	ビニル床シート(一般) t=2.5	ソフト巾木	60	LGS	GB-R t=12.5	ビニルクロス	LGS	―	化粧石膏ボードt=9.5	塩ビ	・収納ﾍﾞｯﾄﾞ:ｵｰﾘ合板(W1500*D550*H2400) ・戸棚:ｵｰﾘ合板(W1800*D450*H1900)
	更衣室(Ｍ)	±0	2,400	―	セルフレベリング t=10	ビニル床シート(一般) t=2.5	ソフト巾木	60	LGS	GB-R t=12.5	ビニルクロス(不燃)	LGS	―	化粧石膏ボードt=9.5	塩ビ	・床見切:ｽﾃﾝﾚｽ(3*6) ・ﾛｯｶｰ4人用(別途)
	更衣室(Ｗ)	±0	2,200	―	セルフレベリング t=10	ビニル床シート(一般) t=2.5	ソフト巾木	60	LGS	GB-R t=12.5	ビニルクロス(不燃)	LGS	―	化粧石膏ボードt=9.5	塩ビ	・床見切:ｽﾃﾝﾚｽ(3*6) ・ﾛｯｶｰ18人用(別途)
	トイレ(職員)	±0	2,400	―	セルフレベリング t=10	ビニル床シート(一般)t=2.5	ソフト巾木	60	LGS	GB-R t=12.5	ビニルクロス(不燃)	LGS	GB-R t=9.5	ビニルクロス	塩ビ	
	書庫	±0	2,400	―	セルフレベリング t=10	ビニル床シート(一般) t=2.5	ソフト巾木	60	LGS	GB-R t=12.5	ビニルクロス(不燃)	LGS	―	化粧石膏ボードt=9.5	塩ビ	・下駄箱:ｵｰﾘ合板(W1040*D380*H1600)
	廊下(職員)	±0	2,400	―	セルフレベリング t=10	ビニル床シート(一般)t=2.5	ソフト巾木H60	60	LGS	GB-R t=12.5	ビニルクロス(不燃)	LGS	―	化粧石膏ボードt=9.5	塩ビ	
	玄関(職員)	-100	2,500	―	モルタル下地 t=30	磁器質150角タイル	磁器質150角タイル ソフト巾木	100 60	LGS	GB-R t=12.5	ビニルクロス(不燃)	LGS	―	化粧石膏ボードt=9.5	塩ビ	・上框:木製既製品(100*50) ・軽量棚(W1200*D450*H1800)
	教材室	±0	2,400	―	セルフレベリング t=22	ビニル床シート(一般) t=2.5	雑巾ズリ(既製品)	―	LGS	―	化粧押入石膏ボード t12.5	LGS	―	化粧石膏ボードt=9.5	塩ビ	
	収納庫	±0	2,400	―	セルフレベリング t=10	ビニル床シート(一般) t=2.5	雑巾ズリ(既製品)	―	LGS	―	化粧押入石膏ボード t12.5	LGS	―	化粧石膏ボードt=9.5	木製	
	相談室(授乳室)	±0	2,400	乾式2重床システム	合板 t=12	ビニル床シート(一般) t=2.5	ソフト巾木	60	LGS	GB-R t=12.5	ビニルクロス	LGS	―	化粧石膏ボードt=9.5	塩ビ	・ｶｰﾃﾝﾎﾞｯｸｽ+ｶｰﾃﾝﾚｰﾙ+ｶｰﾃﾝ(ﾄﾞﾚｰﾌﾟ+ﾚｰｽ)
	多機能トイレ	±0	2,400	―	セルフレベリング t=10	ビニル床シート(一般) t=2.5	ソフト巾木	60	LGS	GB-R t=12.5	メラミン化粧板t=3.0	LGS	―	ケイ酸カルシウム板 t6 EP-G塗装 目透かし張り	塩ビ	
	大人トイレ	±0	2,400	―	セルフレベリング t=10	ビニル床シート(一般) t=2.5	ソフト巾木	60	LGS	GB-R t=12.5	ビニルクロス	LGS	―	化粧石膏ボードt=9.5	塩ビ	
	調理室	-400	2,600	―	セルフレベリング t=10	ビニル床シート(特殊防滑) t=2.0	床材張上げ	370	LGS	GB-S t=12.5	化粧ケイ酸カルシウム板 t6	LGS	―	ケイ酸カルシウム板 t6 EP-G塗装 目透かし張り	塩ビ	・カウンター：ｽﾃﾝﾚｽt=1.0張り(630×30) ・床下点検口：ｽﾃﾝﾚｽ枠、防水仕様(600角) 2か所
	下処理室	-400	2,600	―	セルフレベリング t=10	ビニル床シート(特殊防滑) t=2.0	床材張上げ	370	LGS	GB-S t=12.5	化粧ケイ酸カルシウム板 t6	LGS	―	ケイ酸カルシウム板 t6 EP-G塗装 目透かし張り	塩ビ	・床下点検口：ｽﾃﾝﾚｽ枠、防水仕様(600角)
	検収室	-400	2,600	―	セルフレベリング t=10	ビニル床シート(特殊防滑) t=2.0	床材張上げ	370	LGS	GB-S t=12.5	化粧ケイ酸カルシウム板 t6	LGS	―	ケイ酸カルシウム板 t6 EP-G塗装 目透かし張り	塩ビ	

特記事項 訂正事項		承認	設計	担当		縮尺 S=Non 設計年月日	工事名称 石和第一保育所建設工事（建築主体）（債務） 図面名称 内部仕上表（１）	No. A －09

内部仕上表（２）

階	室名	床高	天井高	床			巾木		壁			天井			廻縁	備考
				下地組	下地	仕上	仕上	高さ	下地組	下地	仕上	下地組	下地	仕上		
１Ｆ	食品庫	-400	2,600	―	セルフレベリング t=10	ビニル床シート(特殊防滑) t=2.0	床材張上げ	370	LGS	GB-R t=12.5	ケイ酸カルシウム板 t6 EP-G 目透かし張り	LGS	―	ケイ酸カルシウム板 t6 EP-G塗装 目透かし張り	塩ビ	・床下点検口：ｽﾃﾝﾚｽ枠、防水仕様(600角)
	休憩室	-386	2,386	―	セルフレベリング t=10	ビニル床シート(一般)t=2.5の上 畳t=14(置敷き)	木製既製品	60	LGS	GB-R t=12.5	ビニルクロス	LGS	GB-R t=9.5	ビニルクロス	塩ビ	・ﾛｯｶｰ5人用(別途) ・ｶｰﾃﾝﾚｰﾙ(壁付)+ｶｰﾃﾝ(ﾄﾞﾚｰﾌﾟ+ﾚｰｽ)
	押入(調理)	-400	2,400	―	セルフレベリング t=10	ビニル床シート(一般)t=2.5	ソフト巾木	60	LGS		化粧押入石膏ボード t12.5	LGS	―	化粧石膏ボードt=9.5	木製	・中段:合板9.0張り(根太組下地)
	脱衣室	-400	2,400	―	セルフレベリング t=10	ビニル床シート(一般) t=2.5	ソフト巾木	60	LGS		ケイ酸カルシウム板 t6 EP-G 目透かし張り	LGS	―	ケイ酸カルシウム板 t6 EP-G塗装 目透かし張り	塩ビ	・床見切:ｽﾃﾝﾚｽ(3*6)
	トイレ(調理)	-400	2,400	―	セルフレベリング t=10	ビニル床シート(一般) t=2.5	ソフト巾木	60	LGS	GB-R t=12.5	ビニルクロス(不燃)	LGS	GB-R t=9.5	ビニルクロス	塩ビ	
	廊下(調理)	-400	2,400	―	セルフレベリング t=10	ビニル床シート(一般)t=2.5	ソフト巾木H60	60	LGS	GB-R t=12.5	ビニルクロス(不燃)	LGS	―	化粧石膏ボードt=9.5	塩ビ	・段鼻ﾉﾝｽﾘｯﾌﾟ:ｱﾙﾐ製(ｺﾞﾑﾀｲﾔ入り) ・床見切(踏込部):ｽﾃﾝﾚｽ(3*6) ・床下点検口：ｱﾙﾐ枠(600角) ・天井ｺｰﾅｰ見切:塩ビ製、
	玄関(調理)	-450	2,450	―	モルタル下地 t=30	磁器質150角タイル	磁器質150角タイル ソフト巾木	50 60	LGS	GB-R t=12.5	ビニルクロス(不燃)	LGS	―	化粧石膏ボードt=9.5	塩ビ	・上框:木製既製品(100*50) ・下駄箱:ｶﾞﾘ合板(W995*D410*H1400) ・笠木:集成材(D110*t30)OSCL
	ワゴンスペース	±0	2,600	乾式2重床システム	合板 t=12	ビニル床シート(特殊防滑) t=2.0	ビニル床シート(特殊防滑)	100	LGS	GB-R t=12.5	化粧ケイ酸カルシウム板 t6	LGS	―	ケイ酸カルシウム板 t6 EP-G塗装	塩ビ	・床付けｳｺﾞﾝｽﾄｯﾊﾟｰ:ｺﾞﾑ製(D150*H50)
	0歳室(10人)	±0	3,500	乾式2重床システム	合板 t=12	複合1種フローリング t=15 (流し前) 衝撃吸収ビニル床シート(耐水仕様)t=3.2	木製既製品	60	LGS	GB-R t=12.5 (一部:ﾏｸﾞﾎﾞｰﾄﾞt=12.9)	ビニルクロス 流し前:メラミン化粧板t=3.0	LGS	GB-R t=9.5	ロックウール吸音板t=9.0	塩ビ	・床見切:ｽﾃﾝﾚｽ(3*6) ・幼児用ﾛｯｶｰ:W1520*D410*H950 ・壁見切:木製(10*30)OSCL ・収納戸棚:W1800*D470*H1900 ・幼児用手洗い:W1540*D500*H400)・おひるねﾍﾞｯﾄﾞ収納:W1500*D730*H1320 ・ｶｰﾃﾝﾎﾞｯｸｽ+ｶｰﾃﾝﾚｰﾙ+ｶｰﾃﾝ(ﾄﾞﾚｰﾌﾟ+ﾚｰｽ)
	1歳室(12人)	±0	3,500	乾式2重床システム	合板 t=12	複合1種フローリング t=15 (流し前) 衝撃吸収ビニル床シート(耐水仕様)t=3.2	木製既製品	60	LGS	GB-R t=12.5 (一部:ﾏｸﾞﾎﾞｰﾄﾞt=12.9)	ビニルクロス 流し前:メラミン化粧板t=3.0	LGS	GB-R t=9.5	ロックウール吸音板t=9.0	塩ビ	・床見切:ｽﾃﾝﾚｽ(3*6) ・幼児用ﾛｯｶｰ:W2400*D360*H950 ・壁見切:木製(10*30)OSCL ・収納戸棚:W1800*D470*H1900 ・幼児用手洗い:W1540*D500*H500)・おひるねﾍﾞｯﾄﾞ収納:W3000*D730*H1320 ・ｶｰﾃﾝﾎﾞｯｸｽ+ｶｰﾃﾝﾚｰﾙ+ｶｰﾃﾝ(ﾄﾞﾚｰﾌﾟ+ﾚｰｽ)
	2歳室(16人)	±0	3,500	乾式2重床システム	合板 t=12	複合1種フローリング t=15 (流し前) 衝撃吸収ビニル床シート(耐水仕様)t=3.2	木製既製品	60	LGS	GB-R t=12.5 (一部:ﾏｸﾞﾎﾞｰﾄﾞt=12.9)	ビニルクロス 流し前:メラミン化粧板t=3.0	LGS	GB-R t=9.5	ロックウール吸音板t=9.0	塩ビ	・床見切:ｽﾃﾝﾚｽ(3*6) ・幼児用ﾛｯｶｰ:W2400*D360*H950 ・壁見切:木製(10*30)OSCL ・収納戸棚:W1800*D470*H1900 ・幼児用手洗い:W1540*D500*H500)・おひるねﾍﾞｯﾄﾞ収納:W3000*D730*H1320 ・ｶｰﾃﾝﾎﾞｯｸｽ+ｶｰﾃﾝﾚｰﾙ+ｶｰﾃﾝ(ﾄﾞﾚｰﾌﾟ+ﾚｰｽ)
	3歳室(17人)	±0	3,500	乾式2重床システム	合板 t=12	複合1種フローリング t=15 (流し前) 衝撃吸収ビニル床シート(耐水仕様)t=3.2	木製既製品	60	LGS	GB-R t=12.5 (一部:ﾏｸﾞﾎﾞｰﾄﾞt=12.9)	ビニルクロス 流し前:メラミン化粧板t=3.0	LGS	GB-R t=9.5	ロックウール吸音板t=9.0	塩ビ	・床見切:ｽﾃﾝﾚｽ(3*6) ・幼児用ﾛｯｶｰ:W1670*D390*H900【4か所】 ・壁見切:木製(10*30)OSCL ・収納戸棚:W1800*D470*H1900 ・幼児用手洗い:W1540*D500*H500)・おひるねﾍﾞｯﾄﾞ収納:W3600*D730*H1320 ・ｶｰﾃﾝﾎﾞｯｸｽ+ｶｰﾃﾝﾚｰﾙ+ｶｰﾃﾝ(ﾄﾞﾚｰﾌﾟ+ﾚｰｽ)
	4歳室(17人)	±0	3,500	乾式2重床システム	合板 t=12	複合1種フローリング t=15 (流し前) 衝撃吸収ビニル床シート(耐水仕様)t=3.2	木製既製品	60	LGS	GB-R t=12.5 (一部:ﾏｸﾞﾎﾞｰﾄﾞt=12.9)	ビニルクロス 流し前:メラミン化粧板t=3.0	LGS	GB-R t=9.5	ロックウール吸音板t=9.0	塩ビ	・床見切:ｽﾃﾝﾚｽ(3*6) ・幼児用ﾛｯｶｰ:W1670*D390*H900【4か所】 ・壁見切:木製(10*30)OSCL ・収納戸棚:W1800*D470*H1900 ・幼児用手洗い:W1540*D500*H600)・おひるねﾍﾞｯﾄﾞ収納:W3600*D730*H1320 ・ｶｰﾃﾝﾎﾞｯｸｽ+ｶｰﾃﾝﾚｰﾙ+ｶｰﾃﾝ(ﾄﾞﾚｰﾌﾟ+ﾚｰｽ)
	5歳室(18人)	±0	3,500	乾式2重床システム	合板 t=12	複合1種フローリング t=15 (流し前) 衝撃吸収ビニル床シート(耐水仕様)t=3.2	木製既製品	60	LGS	GB-R t=12.5 (一部:ﾏｸﾞﾎﾞｰﾄﾞt=12.9)	ビニルクロス 流し前:メラミン化粧板t=3.0	LGS	GB-R t=9.5	ロックウール吸音板t=9.0	塩ビ	・床見切:ｽﾃﾝﾚｽ(3*6) ・幼児用ﾛｯｶｰ:W1670*D390*H900【4か所】 ・壁見切:木製(10*30)OSCL ・収納戸棚:W1800*D470*H1900 ・幼児用手洗い:W1540*D500*H600)・おひるねﾍﾞｯﾄﾞ収納:W3600*D730*H1320 ・ｶｰﾃﾝﾎﾞｯｸｽ+ｶｰﾃﾝﾚｰﾙ+ｶｰﾃﾝ(ﾄﾞﾚｰﾌﾟ+ﾚｰｽ)
	押　入 収　納	±0	2,400	乾式2重床システム	―	合板 t=9	雑巾ズリ(既製品)	―	LGS		化粧押入石膏ボード t12.5	LGS	―	化粧石膏ボードt=9.5	木製	・中段:合板9.0張り(根太組下地)
	パネル収納庫	±0	3,000	乾式2重床システム	合板 t=12	複合1種フローリング t=15	ソフト巾木	60	LGS	GB-R t=12.5	ビニルクロス	LGS	GB-R t=9.5	ビニルクロス	塩ビ	
	一時預かり室(6人)	±0	2,600	乾式2重床システム	合板 t=12	複合1種フローリング t=15 (流し前) 衝撃吸収ビニル床シート(耐水仕様)t=3.2	木製既製品	60	LGS	GB-R t=12.5	ビニルクロス 流し前:メラミン化粧板t=3.0	LGS	GB-R t=9.5	ロックウール吸音板t=9.0	塩ビ	・幼児用手洗い:W1540*D500*H450) ・幼児用ﾛｯｶｰ:W1200*D360*H950 ・収納戸棚:W1800*D470*H1900 ・ｶｰﾃﾝﾎﾞｯｸｽ+ｶｰﾃﾝﾚｰﾙ+ｶｰﾃﾝ(ﾄﾞﾚｰﾌﾟ+ﾚｰｽ)
	調乳室	±0	2,400	―	セルフレベリング t=10	ビニル床シート(一般) t=2.5	ソフト巾木	60	LGS	GB-R t=12.5	ビニルクロス(不燃)	LGS	―	化粧石膏ボードt=9.5	塩ビ	・流し台:ｽﾃﾝﾚｽ製(W1800*D600*H800) ・床下点検口：ｱﾙﾐ枠(600角)
	食育ルーム＆フリールーム	±0	2,600 (7,000～7,350)	乾式2重床システム	合板 t=12	複合1種フローリング t=15	木製既製品	60	LGS	GB-R t=12.5	ビニルクロス	LGS	GB-R t=9.5	ビニルクロス	塩ビ	・こどもｷｯﾁﾝ:ﾒﾗﾐﾝ化粧板(W2400*D700*H600) ・床見切:ｽﾃﾝﾚｽ(3*6) ・天井ｺｰﾅｰ見切:塩ビ製 ・幼児用手洗い:W3160*D500*H450/550 ・膳板:集成材(D300*t30)OSCL ・壁見切:木製(10*30)OSCL ・ｶｰﾃﾝﾎﾞｯｸｽ+ｶｰﾃﾝﾚｰﾙ+ｶｰﾃﾝ(ﾄﾞﾚｰﾌﾟ+ﾚｰｽ)
	トイレ・沐浴室	±0	2,400	―	セルフレベリング t=10	衝撃吸収ビニル床シート(耐水仕様) t=3.2	ソフト巾木	60	LGS	GB-R t=12.5	メラミン化粧板t=3.0	LGS	―	ケイ酸カルシウム板 t6 EP-G塗装 目透かし張り	塩ビ	・ｽﾃﾝﾚｽ流し台:W1, 200*D450*H900 ・甲板:ｶﾞﾘ合板(100*30) ・おむつ交換台(縦型)※ｺﾝﾋﾞｽﾏｰﾄﾎｰﾙﾄﾞ同等 ・幼児用バス【設備工事】

特記事項 訂正事項					承認	設計	担当		縮尺 S=Non 設計年月日	工事名称 石和第一保育所建設工事（建築主体）（債務） 図面名称 内部仕上表（２）	No. Ａ－１０

内部仕上表（３）

階	室名	床高	天井高	床			巾木		壁			天井			廻縁	備考
				下地組	下地	仕上	仕上	高さ	下地組	下地	仕上	下地組	下地	仕上		
１Ｆ	トイレ(1～2歳)	±0	2,400	―	セルフレベリング t=10	衝撃吸収ビニル床シート(耐水仕様) t=3.2	ソフト巾木	60	LGS	GB-R t=12.5	メラミン化粧板t=3.0	LGS	―	ケイ酸カルシウム板 t6 EP-G塗装 目透かし張り	塩ビ	・甲板:ﾎﾟﾘ合板(100*30) ・床下点検口：ｽﾃﾝﾚｽ枠、防水仕様(600角)
	トイレ(3～5歳)	±0	2,400	―	セルフレベリング t=10	衝撃吸収ビニル床シート(耐水仕様) t=3.2	ソフト巾木	60	LGS	GB-R t=12.5	メラミン化粧板t=3.0	LGS	―	ケイ酸カルシウム板 t6 EP-G塗装 目透かし張り	塩ビ	・甲板:ﾎﾟﾘ合板(100*30) ・床下点検口：ｽﾃﾝﾚｽ枠、防水仕様(600角)
２Ｆ	遊戯室	±0	2,400 (2,850～ 3,650)	根太鋼 (30×45×1.2@303) 鋼製床下地 (束ﾎﾞﾙﾄ+根太鋼他)	構造用合板 t=12	積層フローリング t=15 ※制振ダンパ仕様	木製既製品	60	LGS	GB-R t=12.5	ビニルクロス	LGS	GB-R t=9.5	ロックウール吸音板t=9.0 一部(梁型及び立上り及びフラット部)： ビニールクロス張り	塩ビ	・ｱﾙﾐ製移動階段(W800*H400)2ヶ所 ・膳板:集成材(D250*t30)OSCL ・天井ｺｰﾅ-見切:塩ビ製 ・ｶｰﾃﾝﾎﾞｯｸｽ+ｶｰﾃﾝﾚｰﾙ+ｶｰﾃﾝ(暗幕+レース)
	ステージ	400	2,600 (2,200)	根太鋼 (30×45×1.2@303) 鋼製床下地 (束ﾎﾞﾙﾄ+根太鋼他)	構造用合板 t=12	積層フローリング t=15	木製既製品	60	LGS	GB-R t=12.5	ビニルクロス	LGS	―	化粧石膏ボードt=9.5	塩ビ	・ｽﾃｰｼﾞ框：ﾀﾓ、OSCL(W800*H400) ・舞台装置(ﾎﾞｯｸｽ、一文字幕他詳細図参照) ・天井ｺｰﾅ-見切:塩ビ製
	控室	±0	3,000 (2,400)	乾式2重床システム	合板 t=12	ビニル床シート(一般) t=2.5	ソフト巾木	60	LGS	GB-R t=12.5	ビニルクロス(不燃)	LGS	―	化粧石膏ボードt=9.5	塩ビ	・ｱﾙﾐ製移動階段(W800*H400)1ヶ所 ・膳板:集成材(D300*t30)OSCL ・天井ｺｰﾅ-見切:塩ビ製
	トイレ	±0	2,400	乾式2重床システム	合板 t=12	衝撃吸収ビニル床シート(耐水仕様) t=3.2	ソフト巾木	60	LGS	GB-R t=12.5	メラミン化粧板t=3.0	LGS	―	ケイ酸カルシウム板 t6 EP-G塗装 目透かし張り	塩ビ	・甲板:ﾎﾟﾘ合板(100*30) ・手洗い:W1540*D500*H450)
	廊下	±0	2,400	乾式2重床システム	合板 t=12	ビニル床シート(一般) t=2.5	ソフト巾木	60	LGS	GB-R t=12.5	ビニルクロス(不燃)	LGS	GB-R t=9.5	ビニルクロス	塩ビ	・手摺笠木：集成材(D150*t30)OSCL
	ノンコンタクトルーム	±0	2,400	乾式2重床システム	合板 t=12	ビニル床シート(一般) t=2.5	ソフト巾木	60	LGS	GB-R t=12.5	ビニルクロス	LGS	―	化粧石膏ボードt=9.5	塩ビ	・ｶｰﾃﾝﾎﾞｯｸｽ+ｶｰﾃﾝﾚｰﾙ+ｶｰﾃﾝ(ﾄﾞﾚｰﾌﾟ+レース)
	会議室	±0	2,600	乾式2重床システム	合板 t=12	ビニル床シート(一般)	ソフト巾木	60	LGS	GB-R t=12.5	ビニルクロス	LGS	―	化粧石膏ボードt=9.5	塩ビ	・ｶｰﾃﾝﾎﾞｯｸｽ+ｶｰﾃﾝﾚｰﾙ+ｶｰﾃﾝ(ﾄﾞﾚｰﾌﾟ+レース)

【凡例・内装不燃番号】

・石膏ボードt=12.5（GB-R）	NM-8619	不燃材料
・耐水石膏ボードt=12.5（GB-S）	NM-9639	不燃材料
・押入用石膏ボードt=12.5	NM-0530	不燃材料
・石膏ボードt=9.5	QM-9828	準不燃材料
・化粧石膏ボードt=9.5	QM-0524	準不燃材料
・ケイ酸カルシウム板 t=6	NM-1217	不燃材料
・化粧ケイ酸カルシウム板 t=6	NM-5037	不燃材料
・岩綿吸音板t=9.0	NM-8599	不燃材料
・ビニールクロス	(排煙告示適用室)	不燃認定品
・ビニールクロス	(上記以外)	準不燃認定品
・メラミン化粧板t=3.0	NM-2183	不燃材料

【使用材料同等品参考リスト】

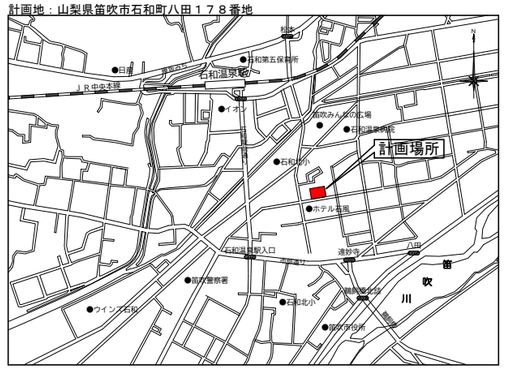
窯業系ｻｲﾃﾞｨﾝｸﾞ	(外壁)	ドレッセプレミアム（ファイナーウッド)同等品（神島化学工業）
ビニル床シート(特殊防滑) t=2.0	(厨房 床)	アルトロセーフティーフロアVM-20同等品（ABC商会）
化粧ケイ酸カルシウム板 t=6	(厨房 壁)	ルナライトＨＤ同等品（アイカ工業）
衝撃吸収ビニル床シート(耐水仕様)t=3.2	(幼児トイレ 床)	カルムパッソ同等品（ABC商会）
メラミン化粧板t=3.0	(幼児トイレ､流し前 壁)	セラールウィルテクトPlus同等品（アイカ工業）
畳t=14(置敷き)	(休憩室 床)	ここち和座同等品（大建工業）
コーナーボードt=12.5(R15)	(壁・天井の出隅部)	コーナーボード同等品（チヨダウーテ）
コーナー巾木(上記対応巾木)	(　〃　)	ＤＬＢＰ１Ｒ同等品（ウッドワン）
マグボードt=12.9	(保育室 壁)	チヨダＭＡＧ+ボード同等品（チヨダウーテ）
お知らせ掲示板	(外構)	ＰＨＫ-２-３４Ｐ同等品（プラスマークスマーケット）
ゴミ置き場	(外構)	ＤＣＮ-１８９Ｐ／ＤＢＮ-１０６Ｐ同等品（稲葉製作所）
外部倉庫	(外構)	ユーロ物置３０２９Ｆ２同等品（イーブラン）
屋外手洗い場	(外構)	ＦＲＰ手洗い場３連４５０･足洗い場付き同等品（チャイルドブック）
ＬＰＧ収納庫	(外構)	ボンベックＢＮ-９５０Ｗ(乙種防火仕様)同等品（ホクエイ）
プールシェード	(外構)	ソラカゼiori同等品（ＢＸテンパル）

【その他特記事項】

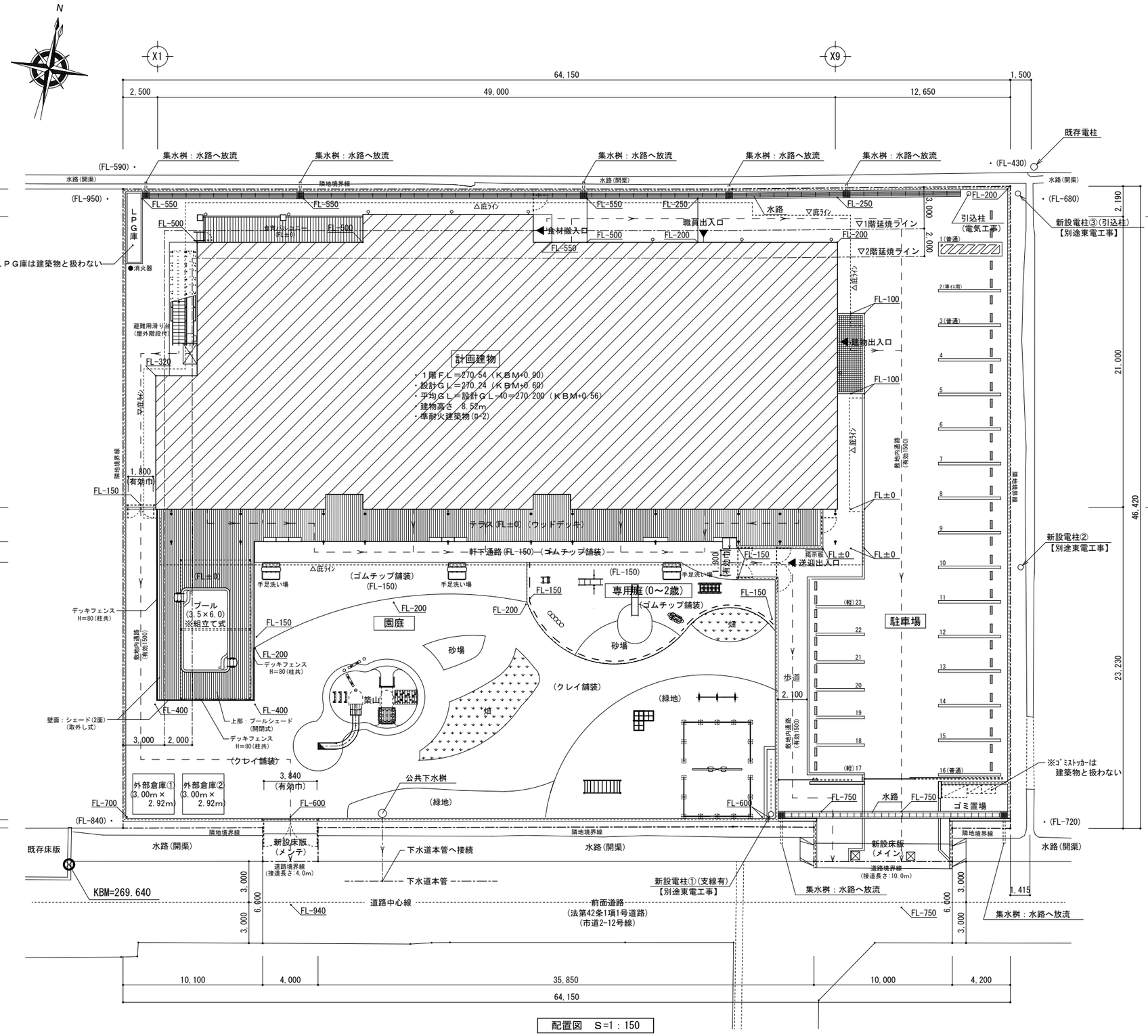
・内壁の外部面下地は全てＬＧＳ５０下地とする。
・内壁の柱型等のフカシ壁下地は全てＬＧＳ５０下地とする。
・シックハウス対象の使用建築材料は全て規制対象外（ＪＩＳ表示 Ｆ☆☆☆☆）とする。

特記事項 訂正事項					承認	設計	担当		縮尺 S=Non 設計年月日	工事名称 石和第一保育所建設工事（建築主体）（債務） 図面名称 内部仕上表（３）	No. Ａ－１１

計画地：山梨県笛吹市石和町八田１７８番地

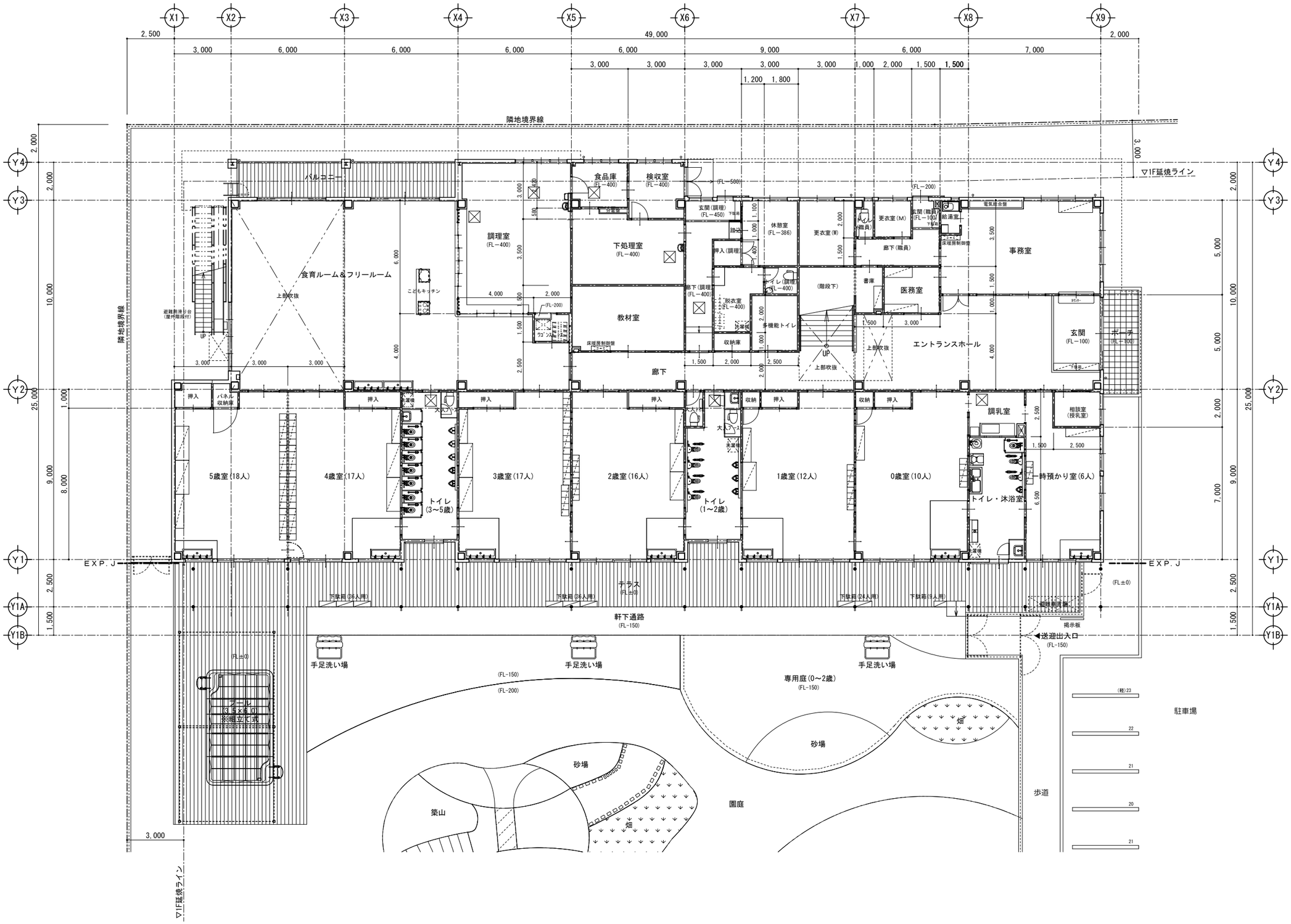


案　内　図

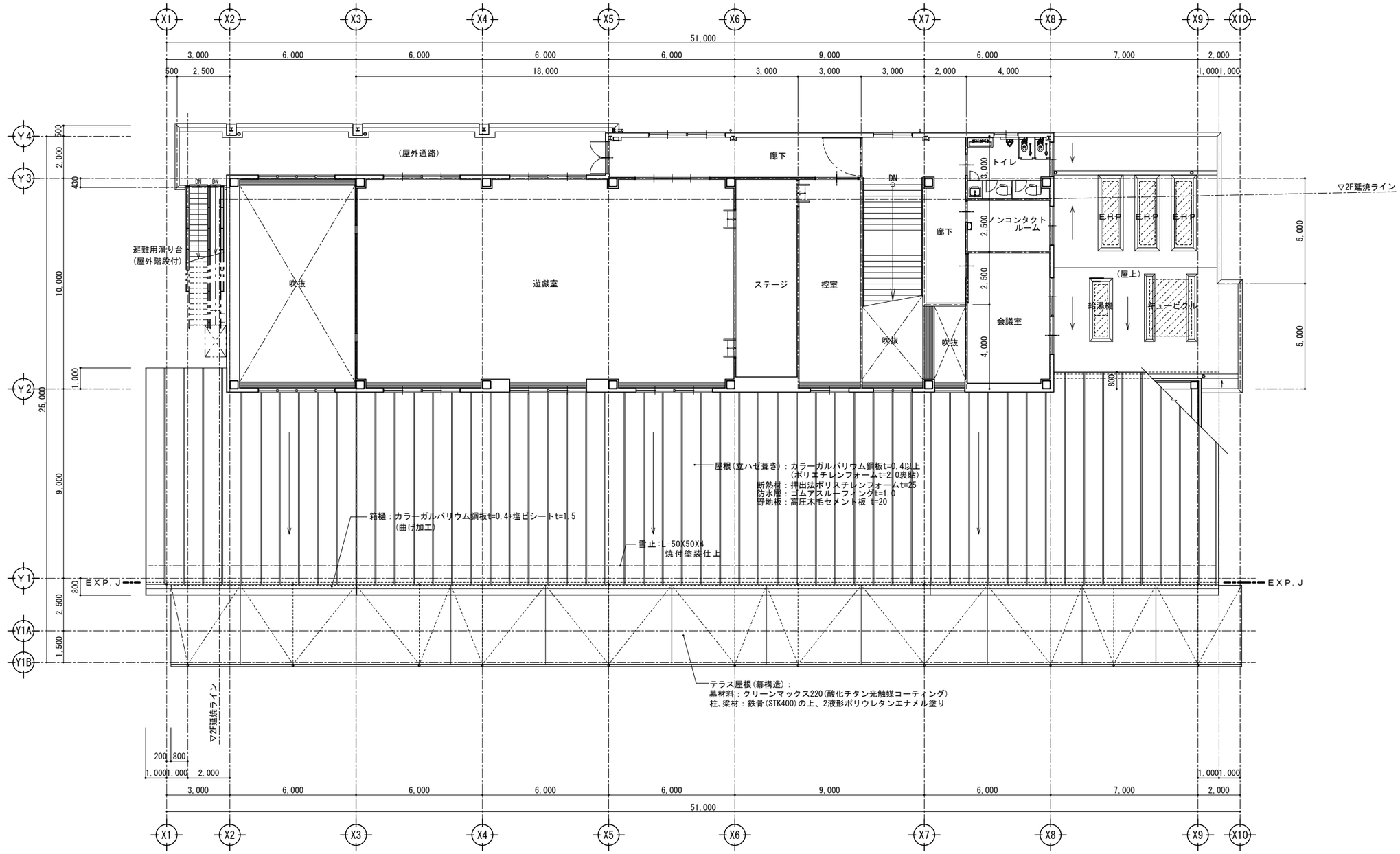


配置図　S=1：150

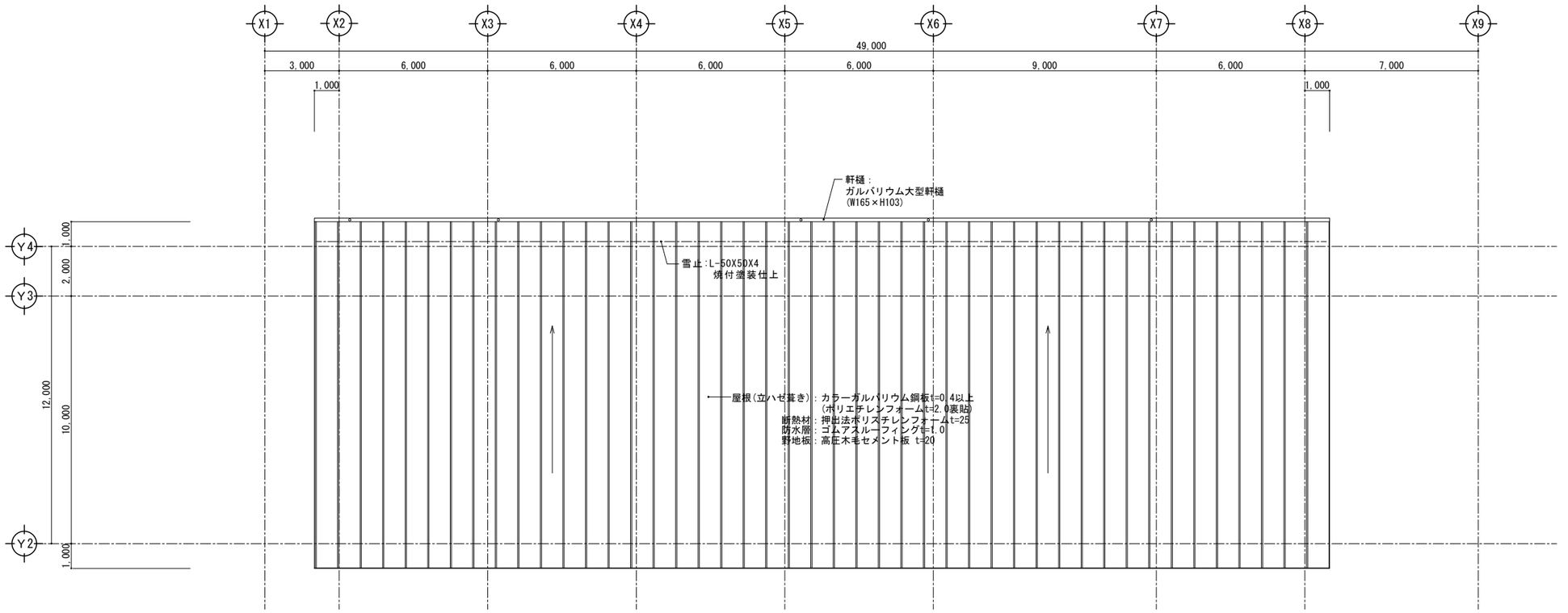
特記事項 訂正事項	・道路斜線、隣地斜線について明らかに適合。 ・盛土規制法及び都市計画法の許可対象となる宅地造成等の工事無し。				承認	設計	担当		縮尺 S=1：150(A1) S=1：300(A3) 設計年月日	工事名称	石和第一保育所建設工事（建築主体）（債務）	No.
										図面名称	案内図・配置図	A －１２



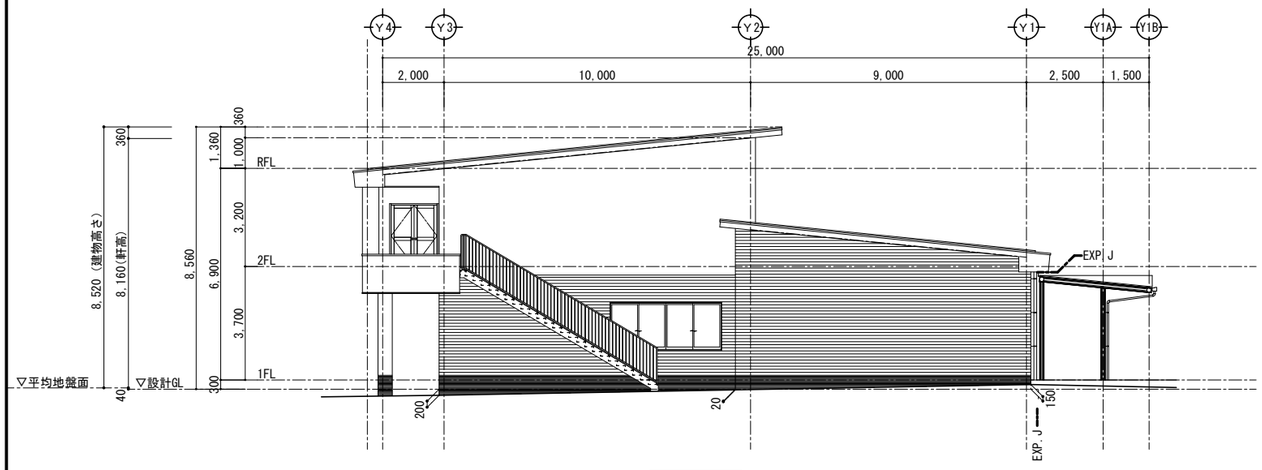
特記事項 訂正事項					承認	設計	担当		縮尺	S=1：100(A1) S=1：200(A3)	工事名称	石和第一保育所建設工事（建築主体）（債務）	No.
									設計年月日		図面名称	１階　平面図	Ａ－１３



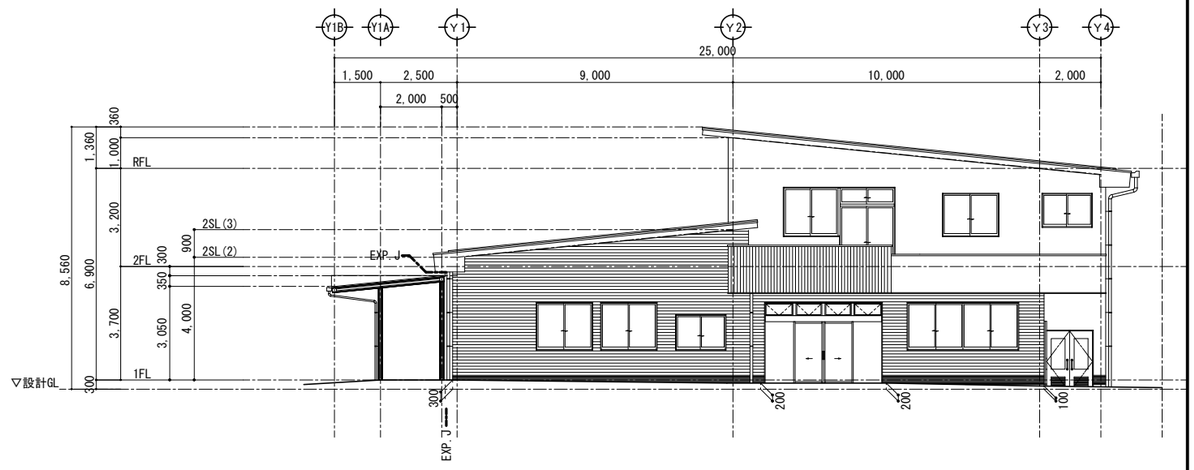
特記事項 訂正事項						承認	設計	担当		縮尺 S=1：100(A1) S=1：200(A3) 設計年月日	工事名称 石和第一保育所建設工事（建築主体）（債務） 図面名称 ２階　平面図	No. Ａ － １４



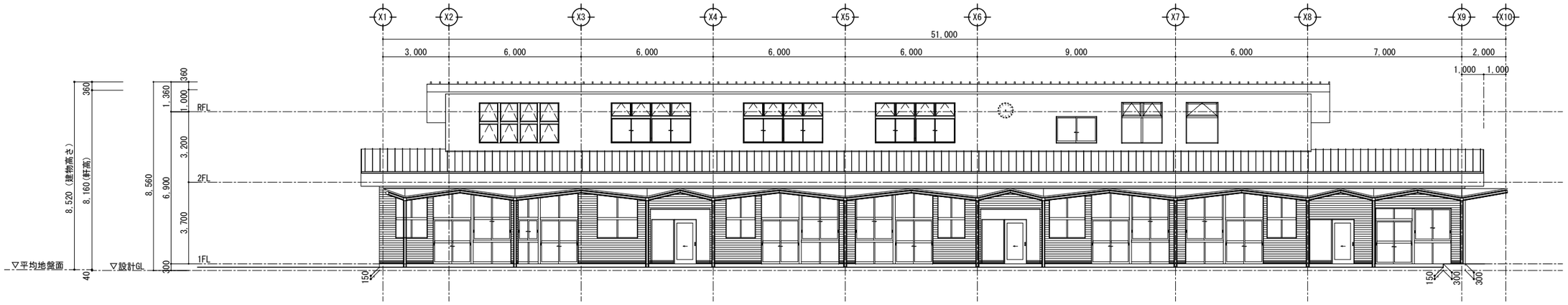
特記事項 訂正事項						承認	設計	担当		縮尺 S=1：100(A1) S=1：200(A3) 設計年月日	工事名称 石和第一保育所建設工事（建築主体）（債務） 図面名称 屋根伏図	No. A －15



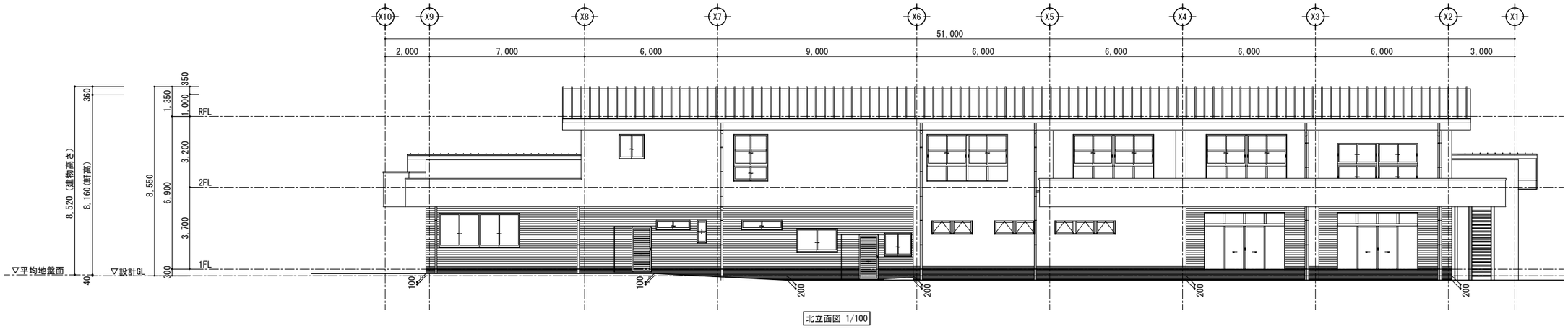
西立面図 1/100



東立面図 1/100

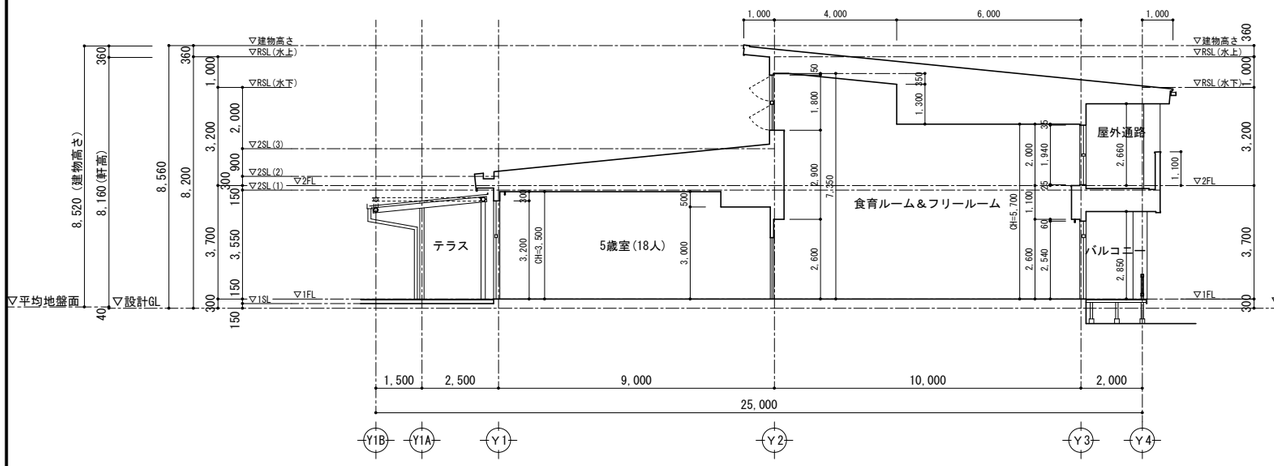


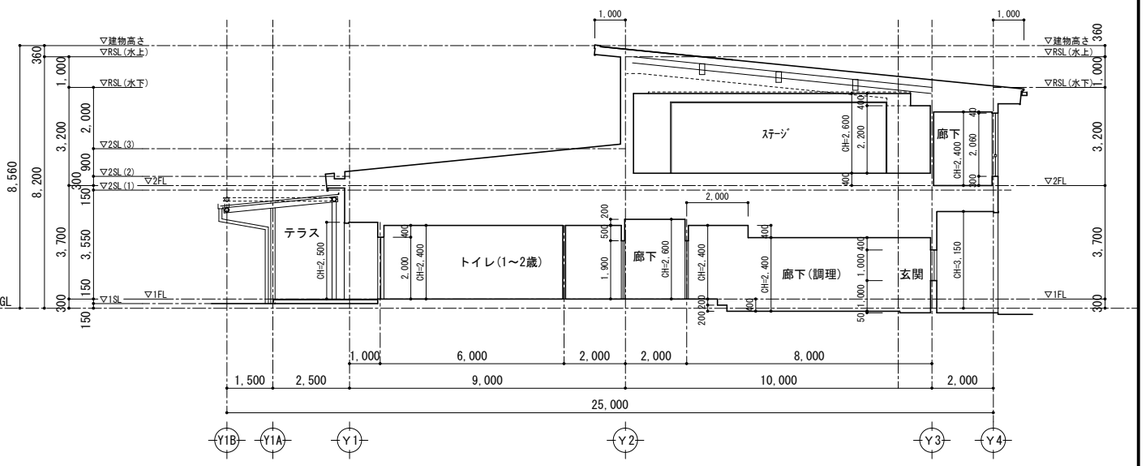
南立面図 1/100

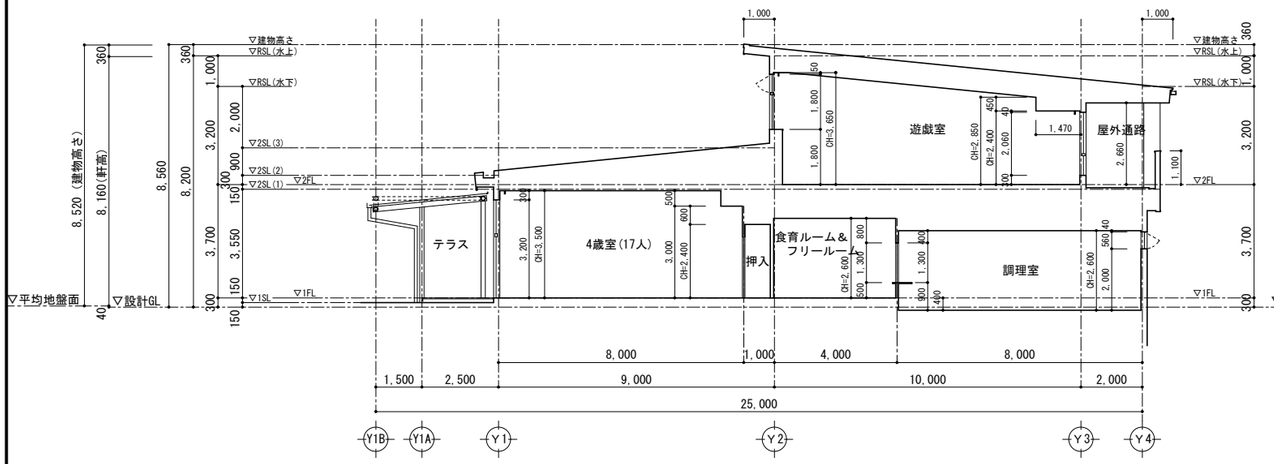


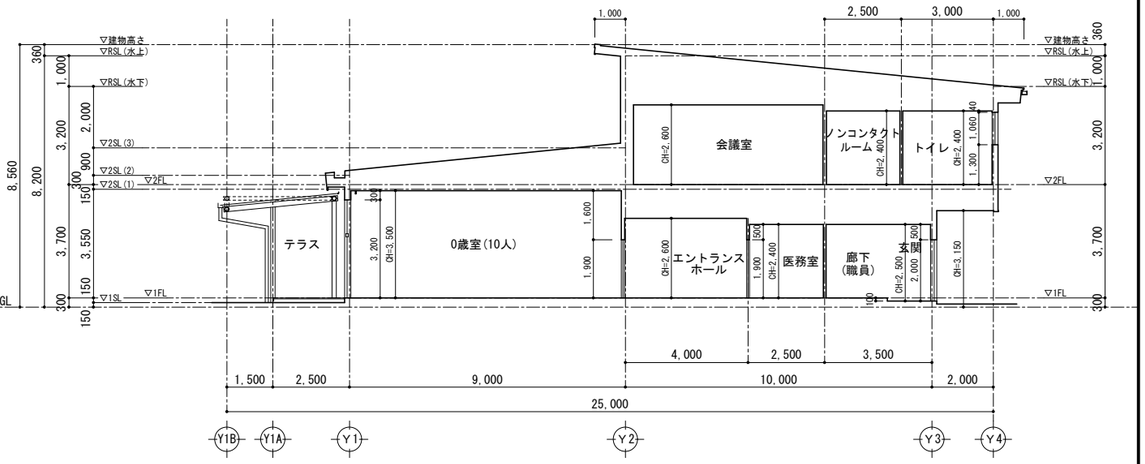
北立面図 1/100

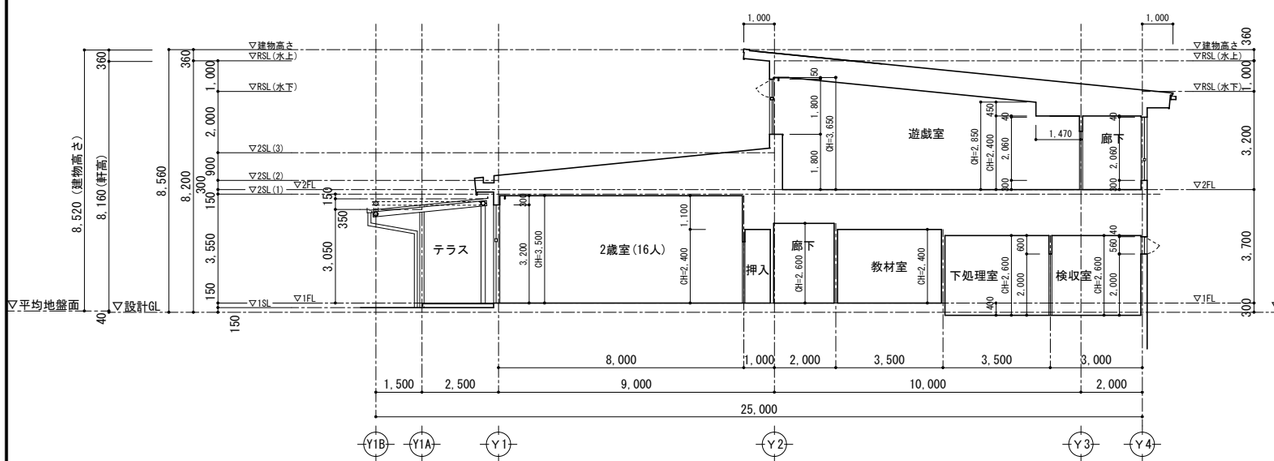
特記事項 訂正事項					承認	設計	担当		縮尺 S=1：100(A1) S=1：200(A3) 設計年月日	工事名称 石和第一保育所建設工事（建築主体）（債務） 図面名称 立面図	No. A－16

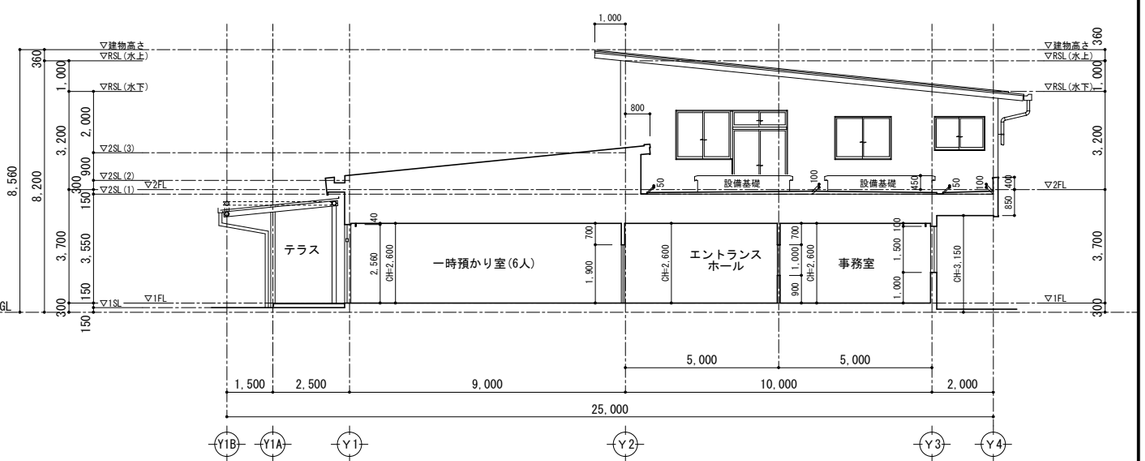




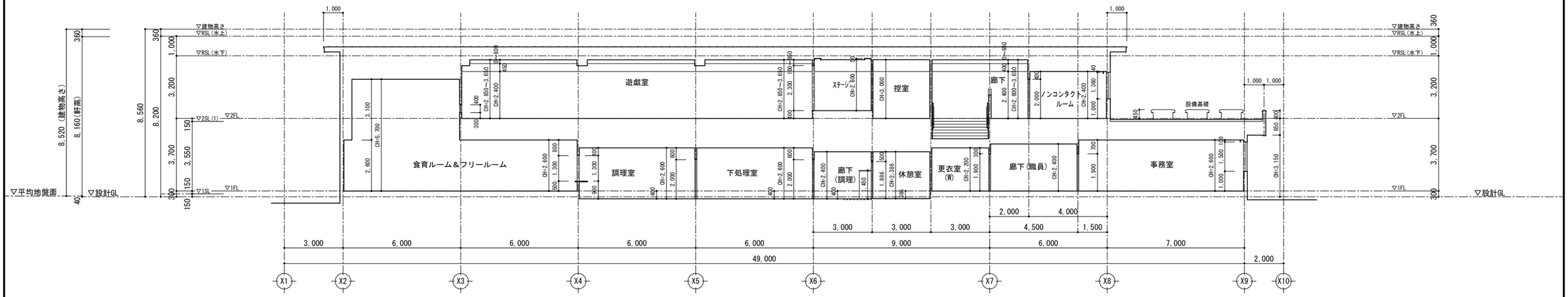


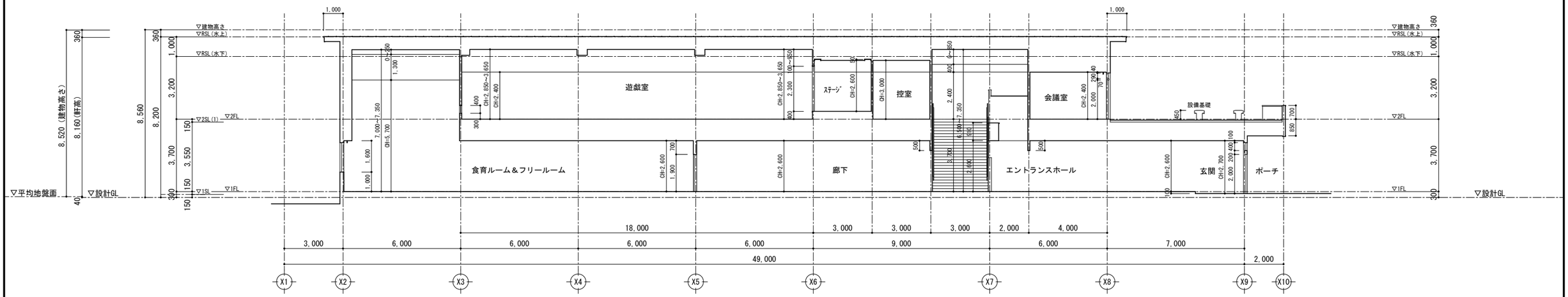


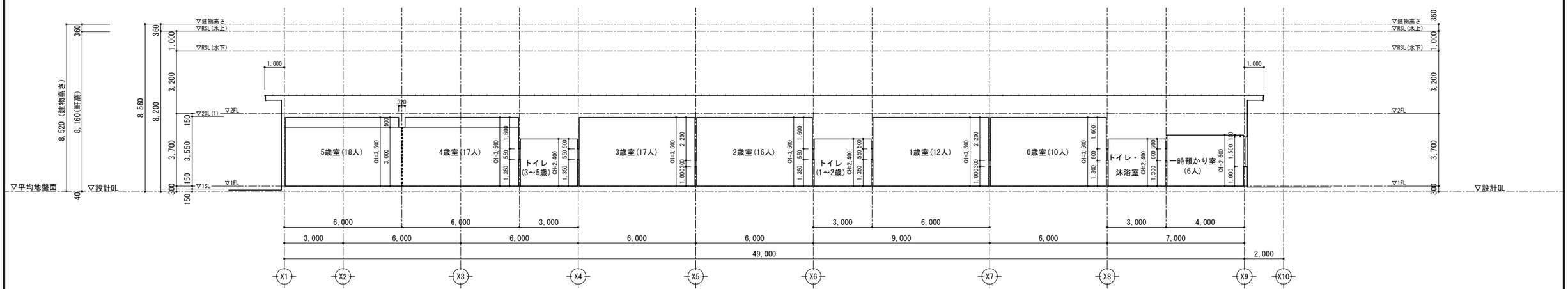




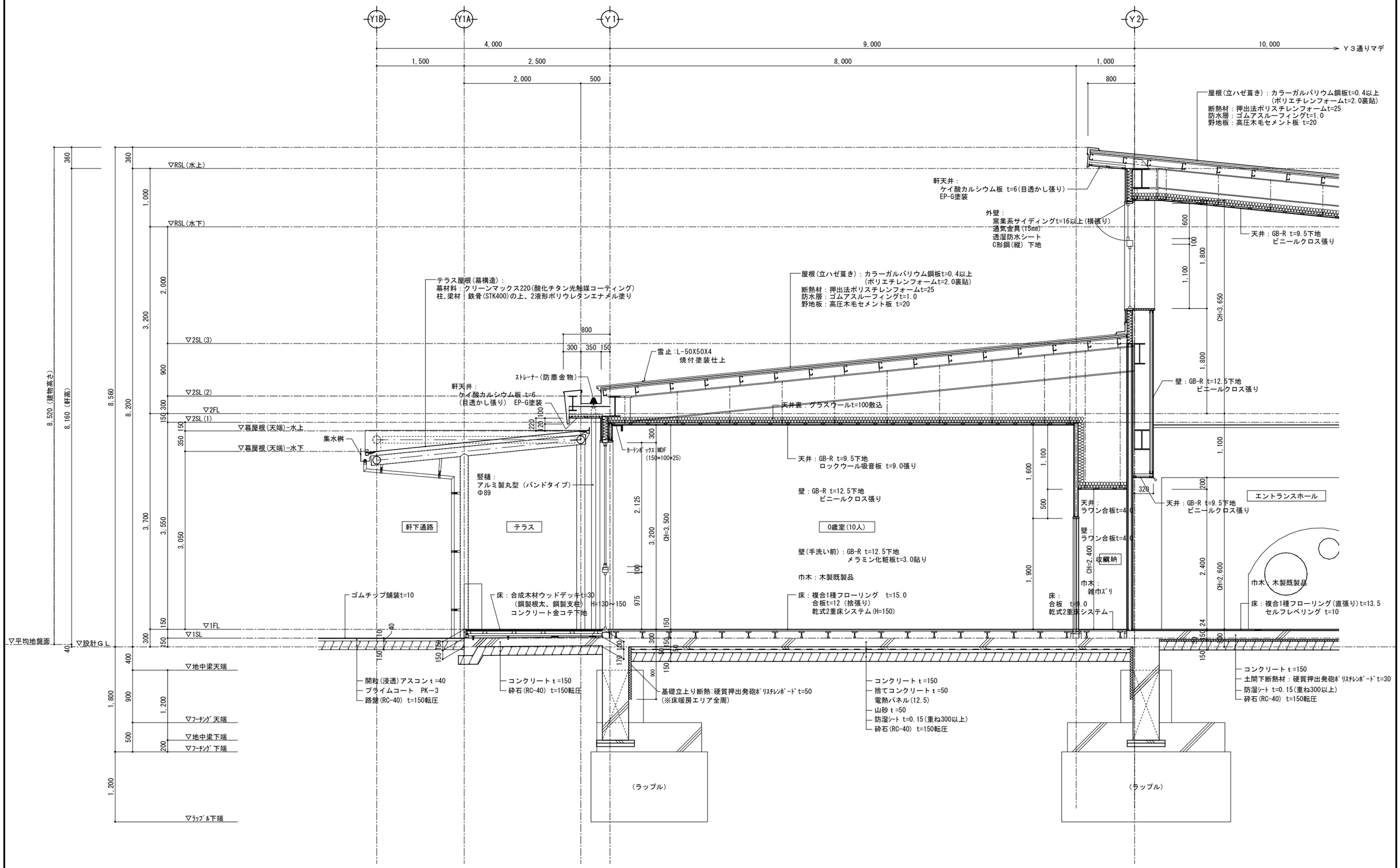
特記事項 訂正事項					承認	設計	担当		縮尺 S=1：100(A1) S=1：200(A3) 設計年月日	工事名称 石和第一保育所建設工事（建築主体）（債務） 図面名称 断面図（１）	No. A －17



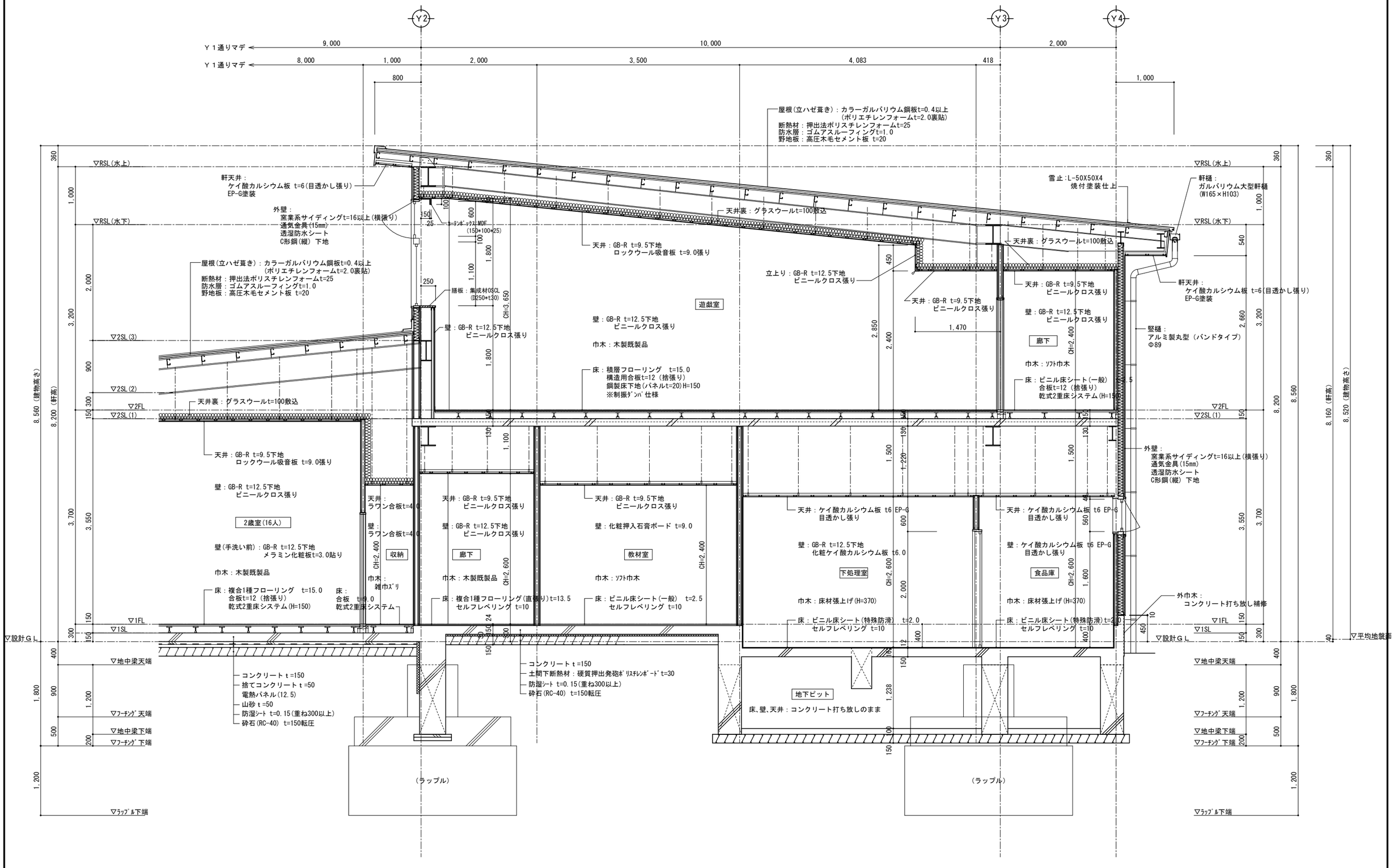




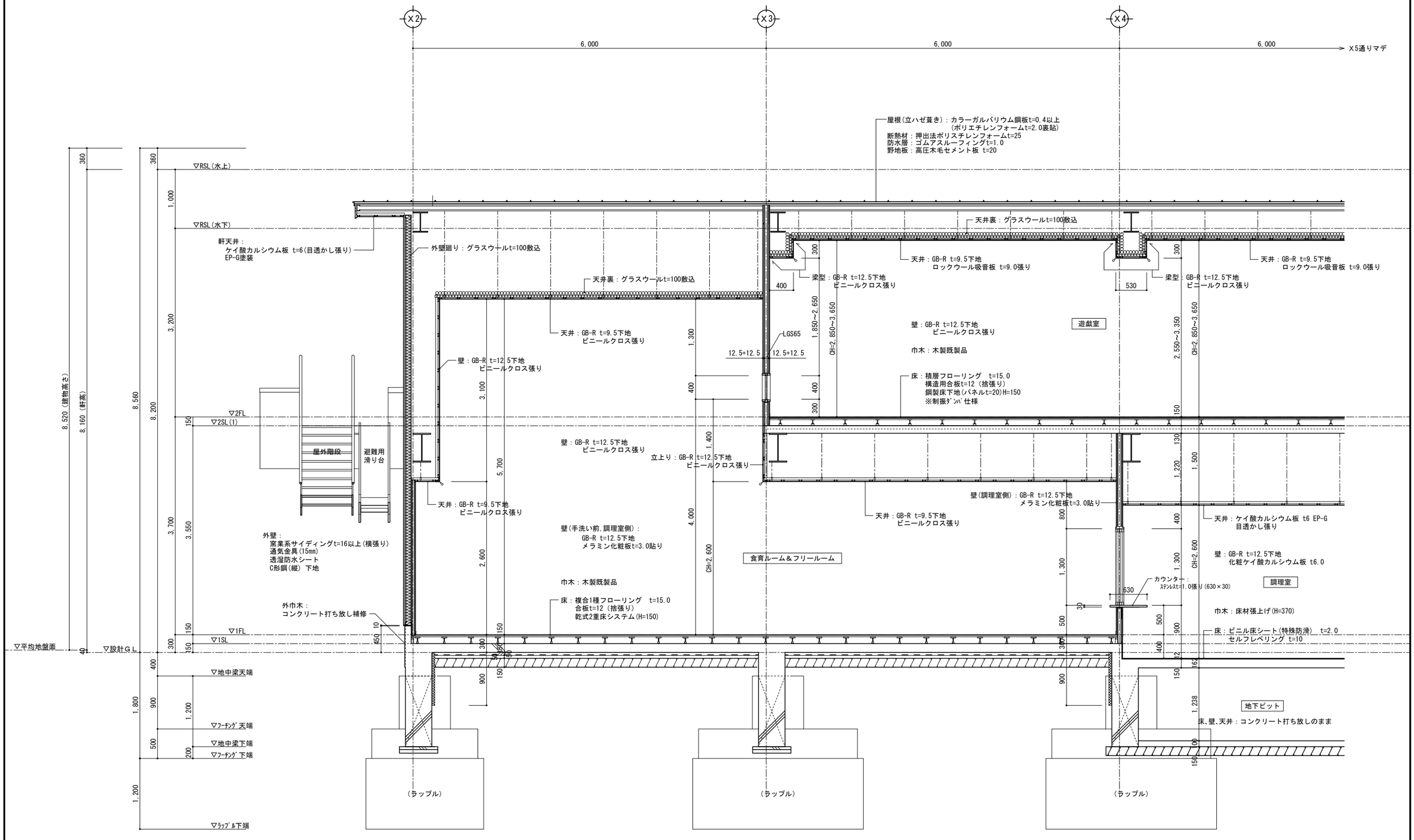
特記事項 訂正事項					承認	設計	担当		尾R 設計年月日	S=1：100(A1) S=1：200(A3)	工事名称 石和第一保育所建設工事（建築主体）（債務） 図面名称 断面図（２）	No. A －18



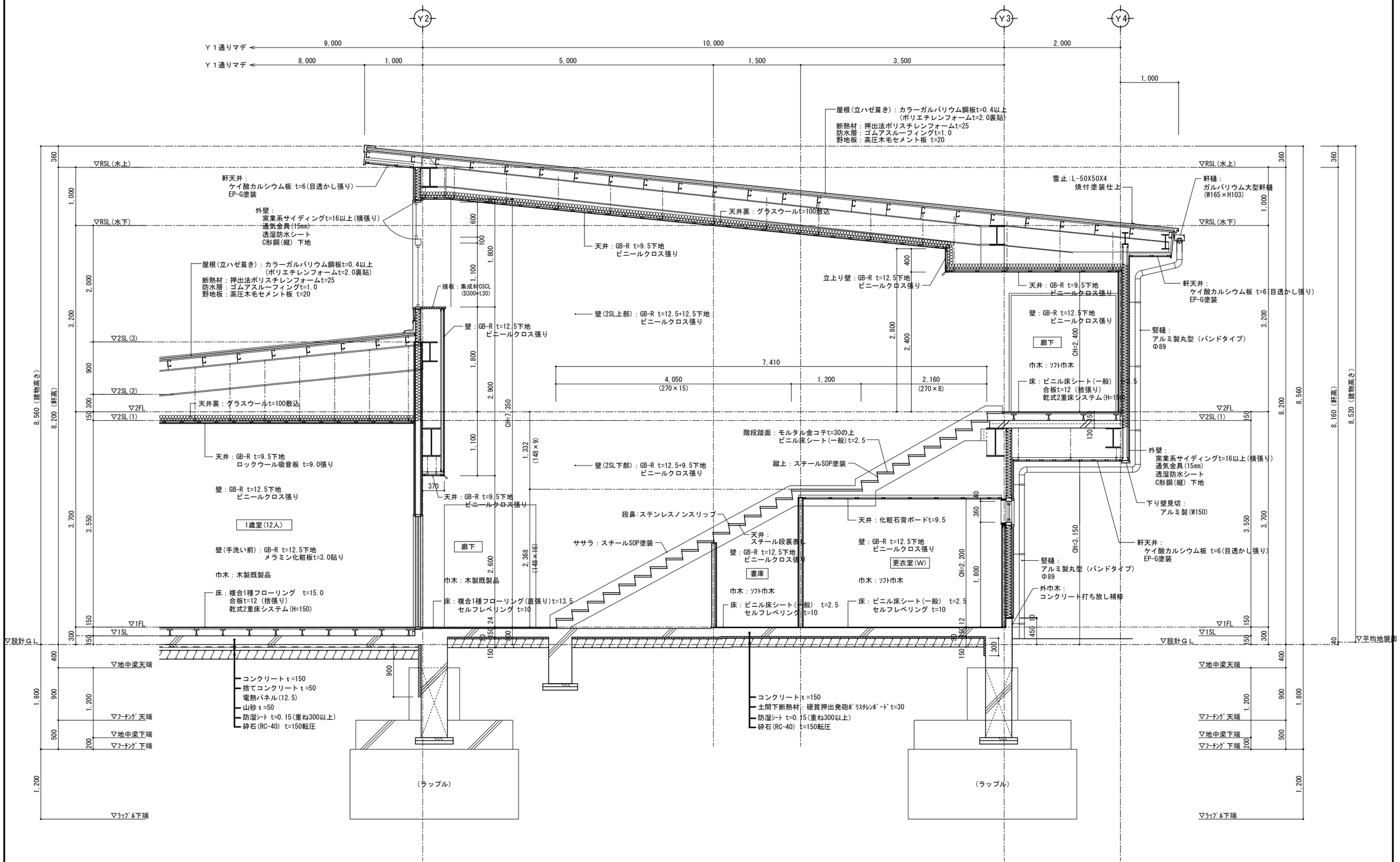
特記事項 訂正事項	・＼左記印部の出隅下地はコーナーボードt=12.5(R15)を示す。				承認	設計	担当		縮尺 S=1：30(A1) S=1：60(A3) 設計年月日	工事名称	石和第一保育所建設工事（建築主体）（債務）	No.
										図面名称	矩計図（１）	Ａ－１９

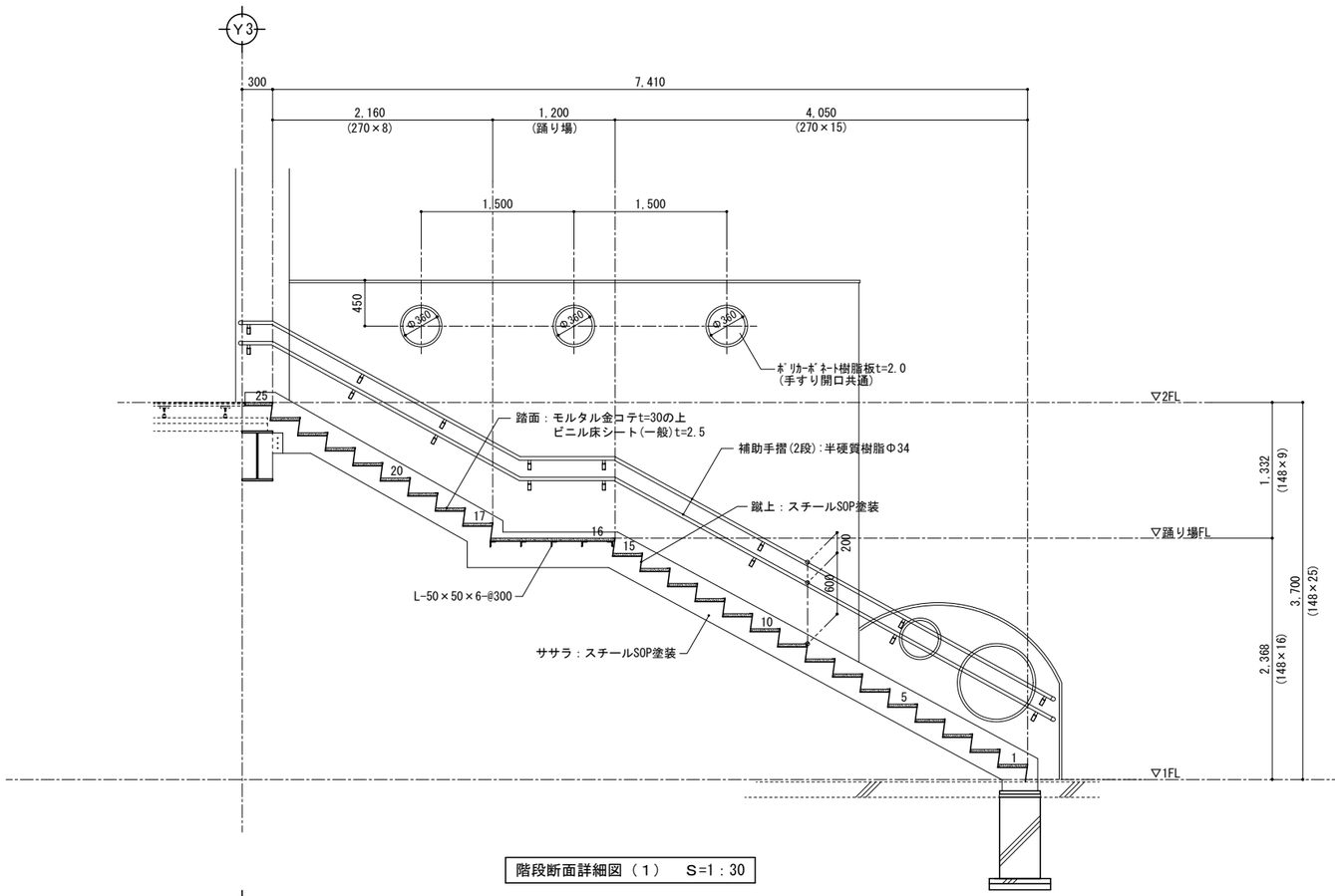


特記事項 訂正事項	・↖左記印部の出隅下地はコーナーボードt=12.5(R15)を示す。	承認	設計	担当	縮尺 S=1：30(A1) S=1：60(A3) 設計年月日	工事名称	石和第一保育所建設工事（建築主体）（債務）	No.
						図面名称	矩計図（２）	A －20

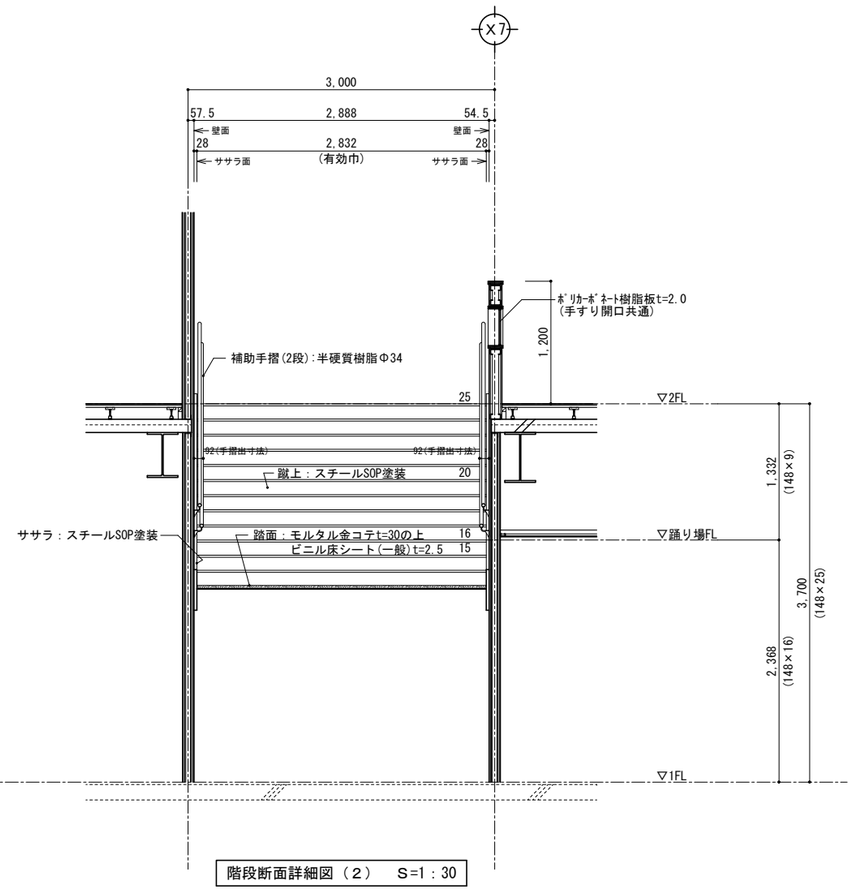


特記事項 訂正事項	・↖左記印部の出隅下地はコーナーボードt=12.5(R15)を示す。				承認	設計	担当		縮尺 S=1：30(A1) S=1：60(A3) 設計年月日	工事名称	石和第一保育所建設工事（建築主体）（債務）	No.
										図面名称	矩計図（３）	A －21

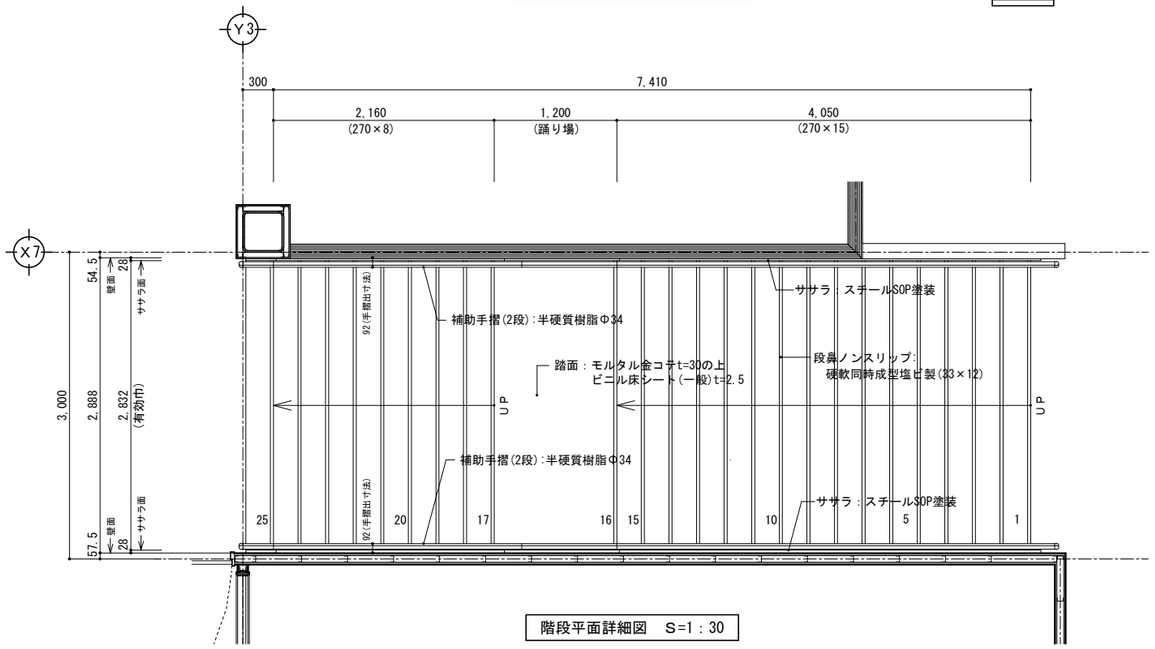

Y2
Y3
Y4
Y１通りマデ
9,000
10,000
2,000
8,000
1,000
5,000
1,500
3,500
1,000
屋根(立ハゼ葺き)：カラーガルバリウム鋼板t=0.4以上
(ポリエチレンフォームt=2.0裏貼)
断熱材：押出法ポリスチレンフォームt=25
防水層：ゴムアスルーフィングt=1.0
野地板：高圧木毛セメント板 t=20
▽RSL(水上)
▽RSL(水下)
軒天井：
ケイ酸カルシウム板 t=6(目透かし張り)
EP-G塗装
外壁：
窯業系サイディングt=16以上(横張り)
通気金具(15mm)
透湿防水シート
C形鋼(縦) 下地
天井裏：グラスウールt=100敷込
天井：GB-R t=9.5下地
ビニールクロス張り
雪止：L-50X50X4
焼付塗装仕上
軒樋：
ガルバリウム大型軒樋
(W165×H103)
立上り壁：GB-R t=12.5下地
ビニールクロス張り
天井：GB-R t=9.5下地
ビニールクロス張り
軒天井：
ケイ酸カルシウム板 t=6(目透かし張り)
EP-G塗装
壁：GB-R t=12.5下地
ビニールクロス張り
竪樋：
アルミ製丸型（バンドタイプ）
Φ89
廊下
CH=2,400
巾木：ｿﾌﾄ巾木
床：ビニル床シート(一般)
合板t=12（捨張り）
乾式2重床システム(H=150)
破線
破線
破線



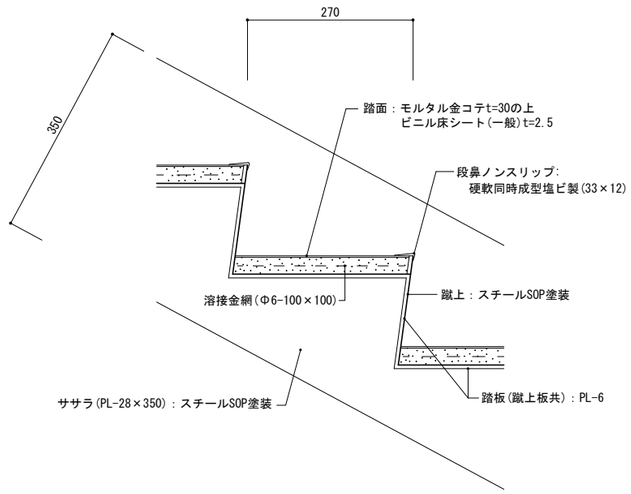
階段断面詳細図（１）　S=1：30



階段断面詳細図（２）　S=1：30



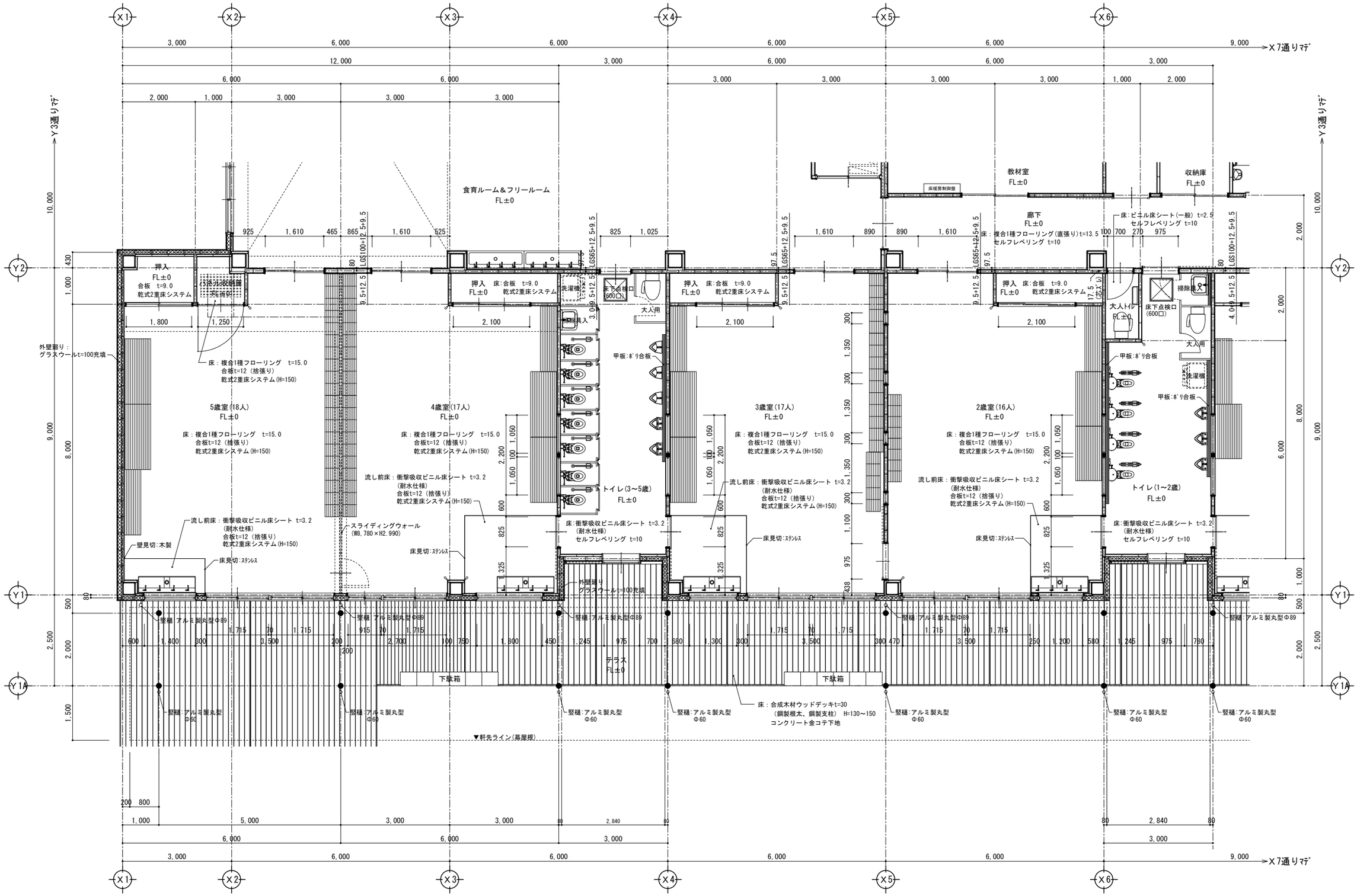
階段平面詳細図　S=1：30



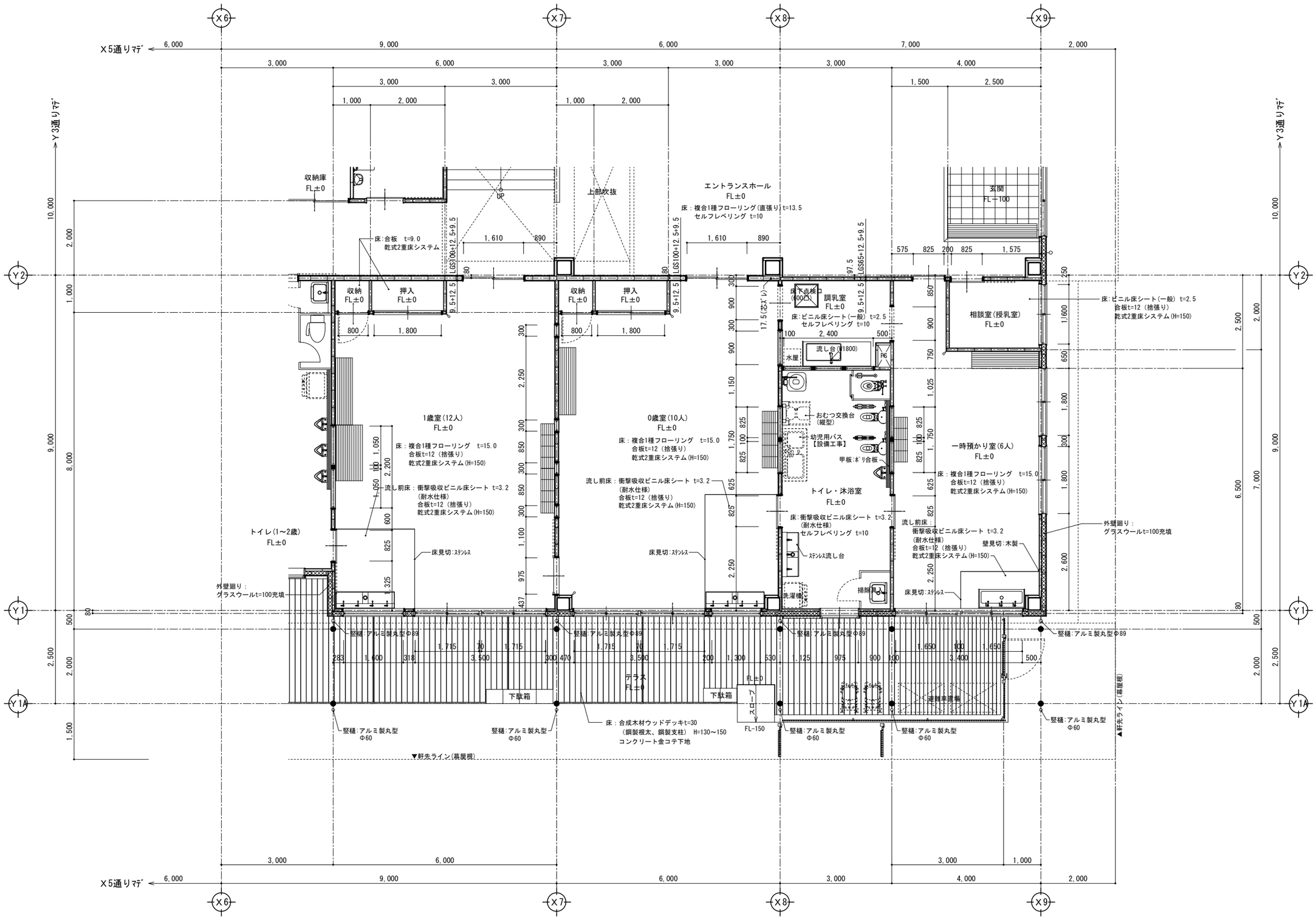
段板部詳細図　S=1：5

特記事項 訂正事項					承認	設計	担当		縮尺 A1 S=1：5、30 縮尺 A3 S=1：10、60	工事名称	石和第一保育所建設工事（建築主体）（債務）
									設計年月日	図面名称	屋内階段詳細図

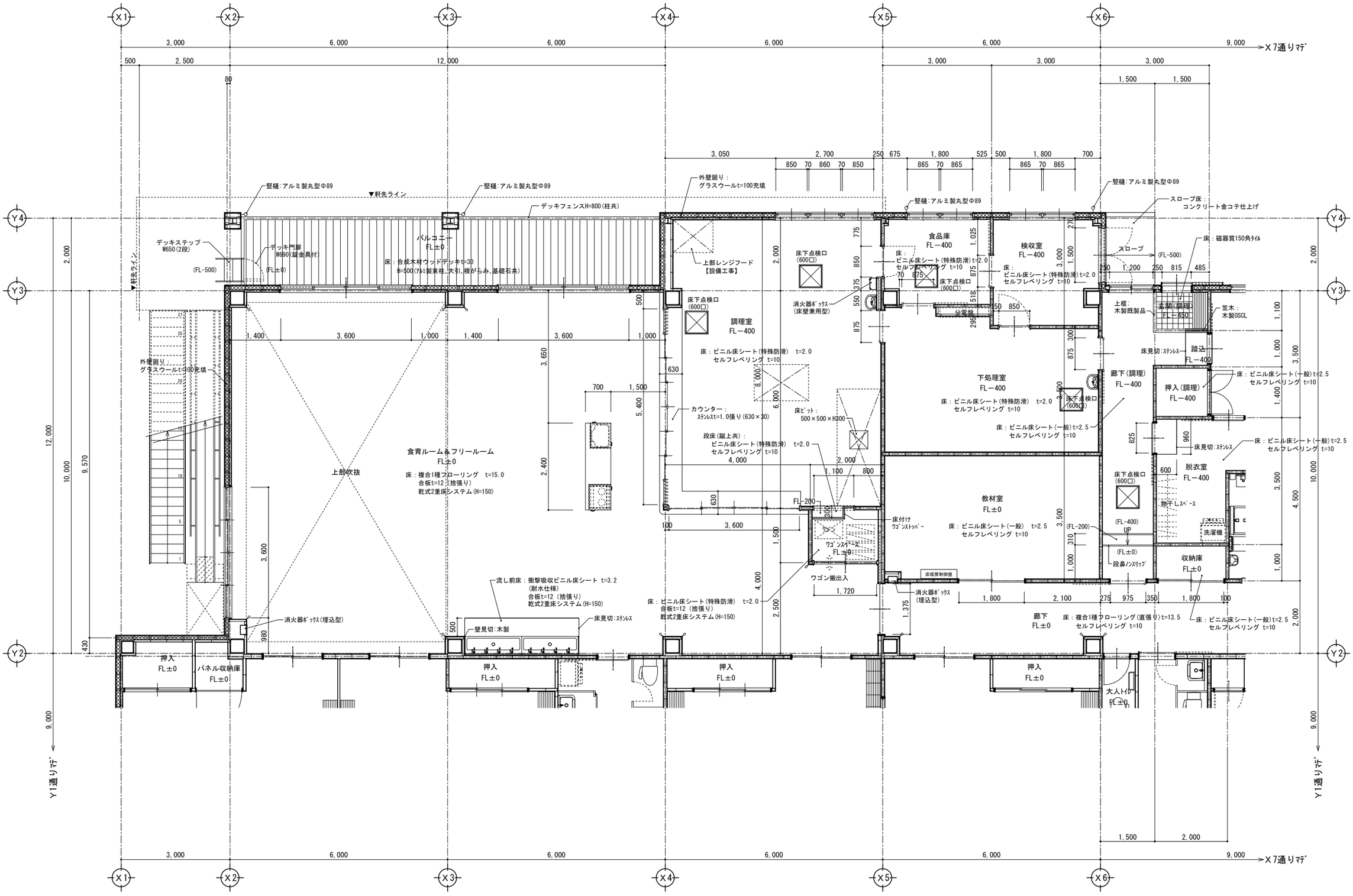
No. A－23



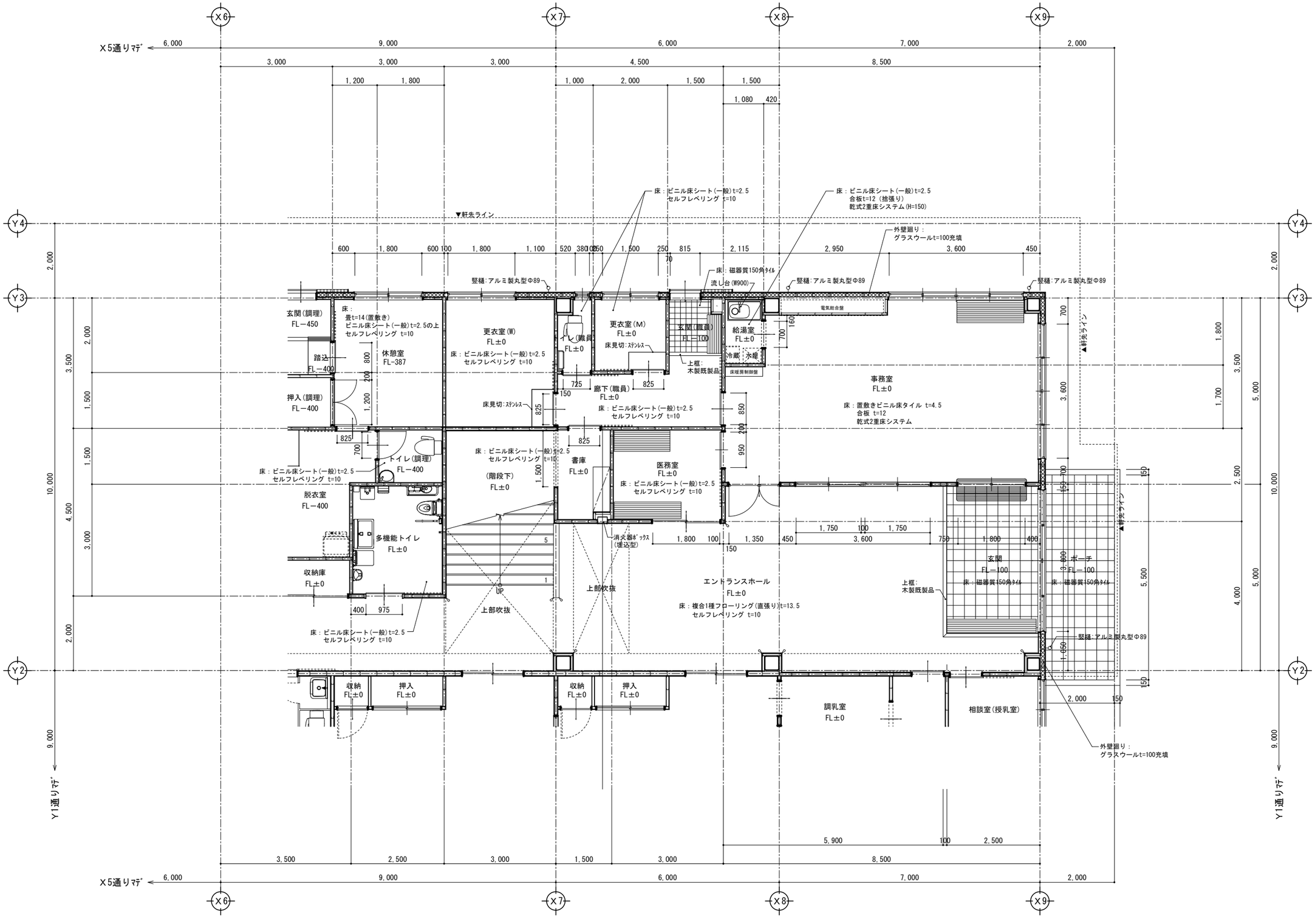
特記事項 訂正事項	・＼左記印部の出隅壁下地はコーナーボードt=12.5(R15)を示す。					承認	設計	担当		縮尺 S=1：50(A1) S=1：100(A3) 設計年月日	工事名称	石和第一保育所建設工事（建築主体）（債務）	No.
											図面名称	1階　平面詳細図（1）	A－24



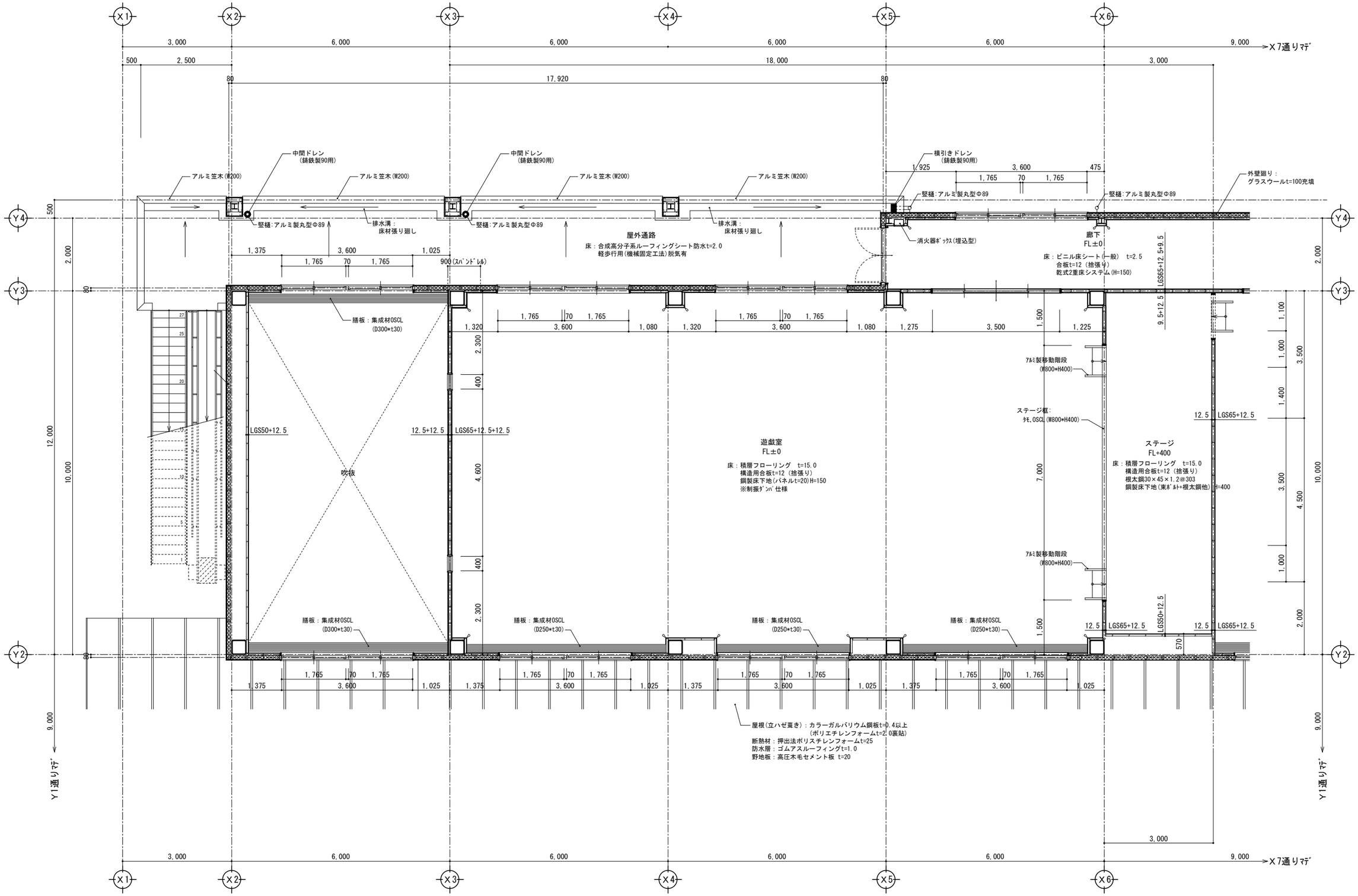
特記事項 訂正事項	・↖左記印部の出隅壁下地はコーナーボードt=12.5(R15)を示す。				承認	設計	担当		縮尺 S=1：50(A1) S=1：100(A3) 設計年月日	工事名称 石和第一保育所建設工事（建築主体）（債務） 図面名称 1階 平面詳細図（2）	No. A－25



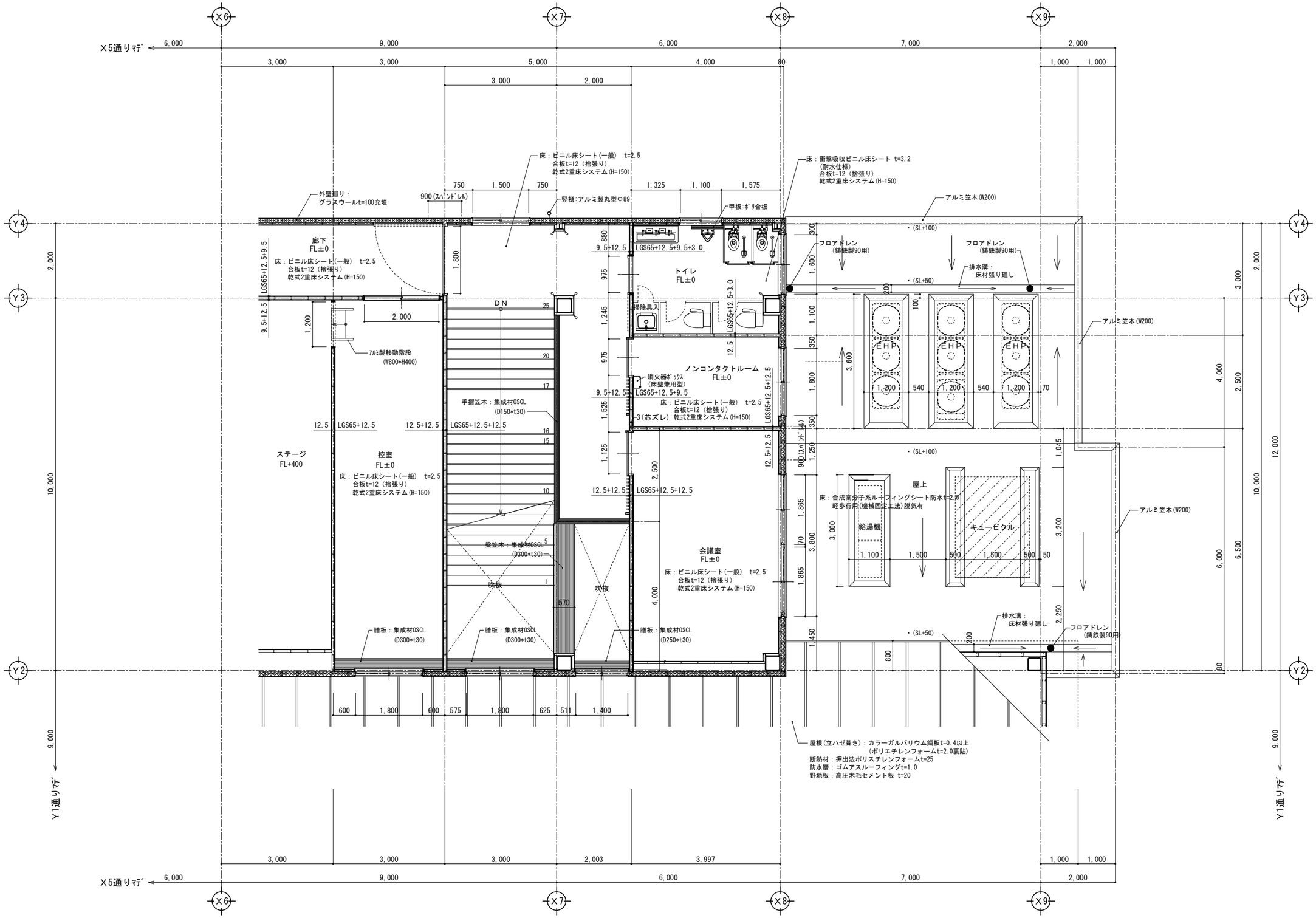
特記事項 訂正事項	・◹左記印部の出隅壁下地はコーナーボードt=12.5(R15)を示す。				承認	設計	担当		縮尺 S=1：50(A1) S=1：100(A3) 設計年月日	工事名称 石和第一保育所建設工事（建築主体）（債務）	No. A－26
										図面名称 1階 平面詳細図（3）	



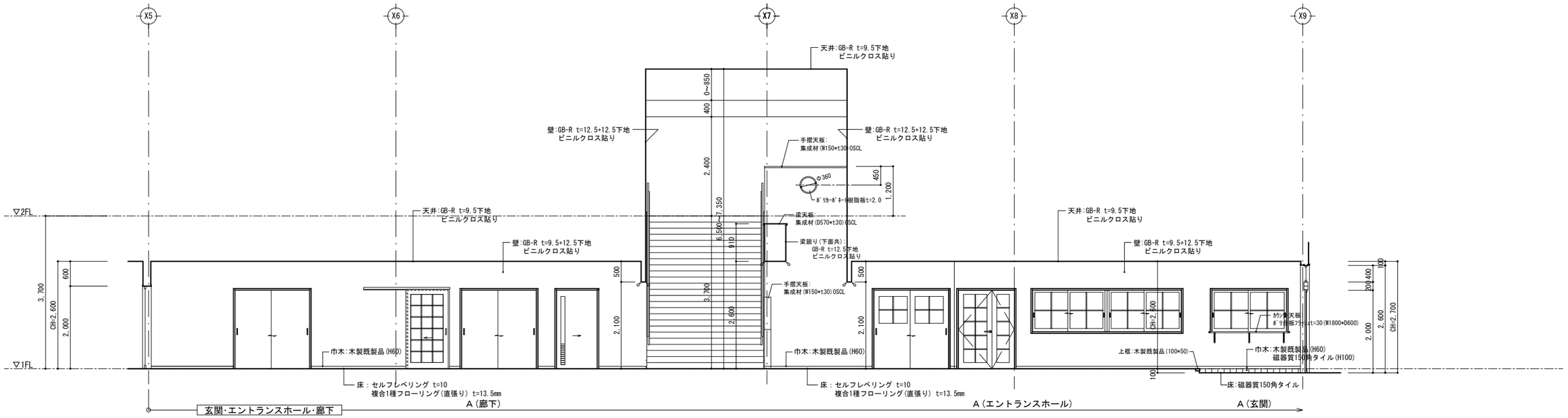
特記事項 訂正事項	・↖左記印部の出隅壁下地はコーナーボードt=12.5(R15)を示す。				承認	設計	担当		縮尺 S=1：50(A1) S=1：100(A3) 設計年月日	工事名称 石和第一保育所建設工事（建築主体）（債務） 図面名称 １階　平面詳細図（４）	No. A −27

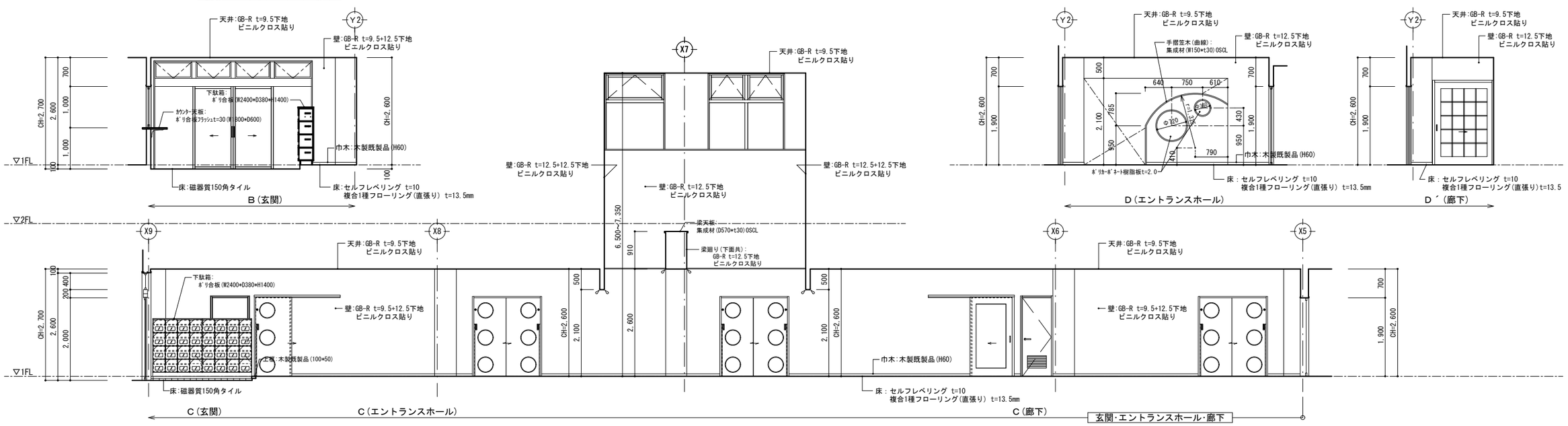


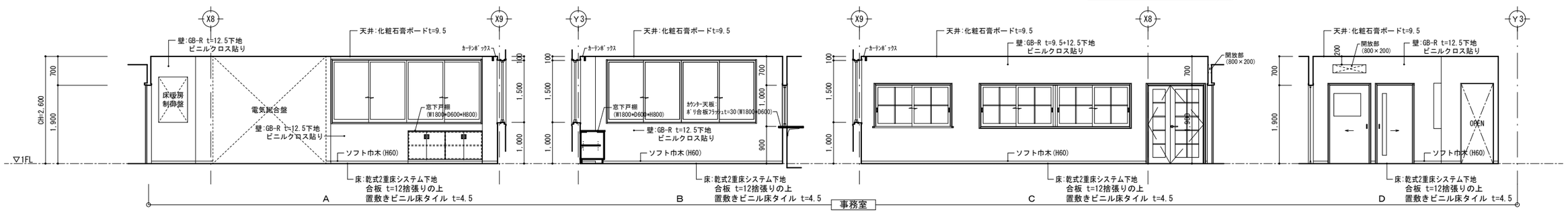
特記事項 訂正事項	・✎左記印部の出隅壁下地はコーナーボードt=12.5(R15)を示す。					承認	設計	担当		縮尺 S=1:50(A1) S=1:100(A3) 設計年月日	工事名称 石和第一保育所建設工事（建築主体）（債務） 図面名称 ２階 平面詳細図（１）	No. A－２８



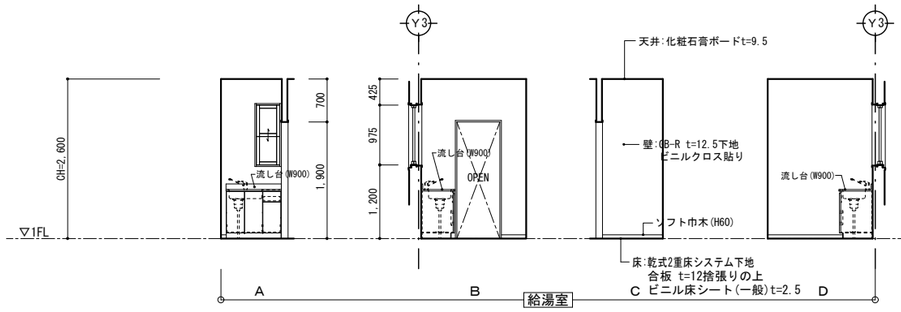
特記事項 訂正事項	・＼左記印部の出隅壁下地はコーナーボードt=12.5(R15)を示す。					承認	設計	担当		縮尺 S=1：50(A1) S=1：100(A3) 設計年月日	工事名称 石和第一保育所建設工事（債務） 図面名称 ２階　平面詳細図（２）	No. A－29

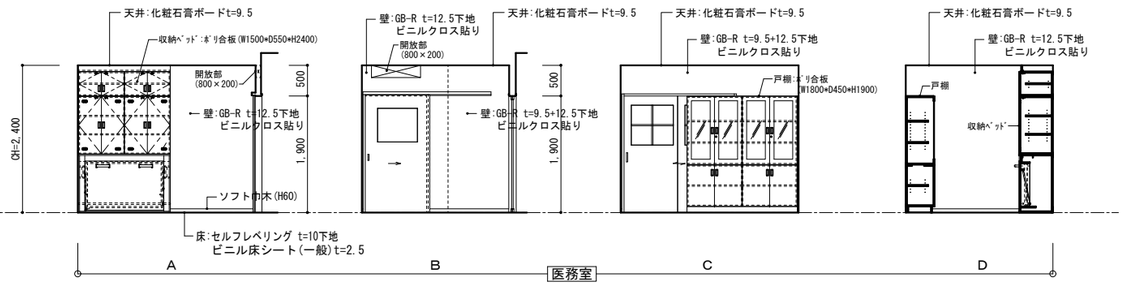


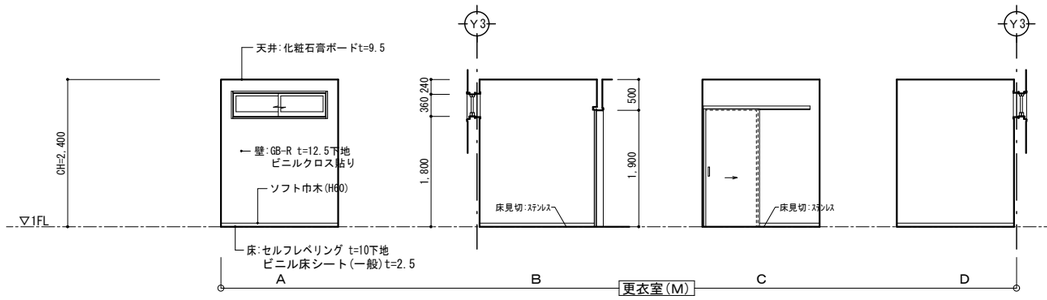


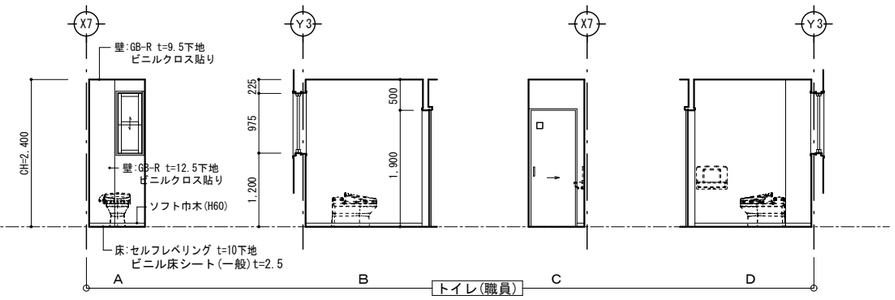


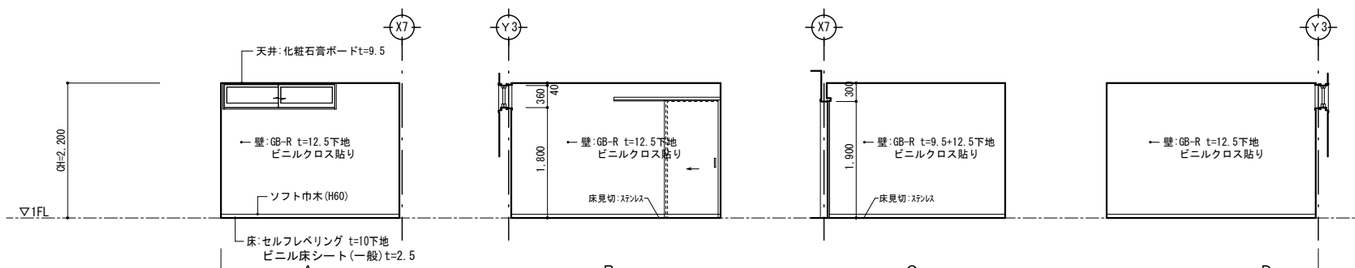
特記事項 訂正事項	・◹左記印部の出隅下地はコーナーボードt=12.5(R15)を示す。				承認	設計	担当	縮尺 S=1：50(A1) S=1：100(A3) 設計年月日	工事名称	石和第一保育所建設工事（建築主体）（債務）	No. A－30
									図面名称	展開図（1）	

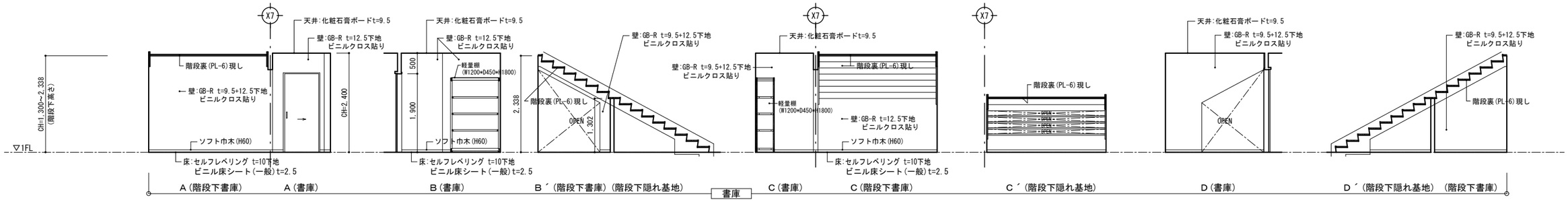


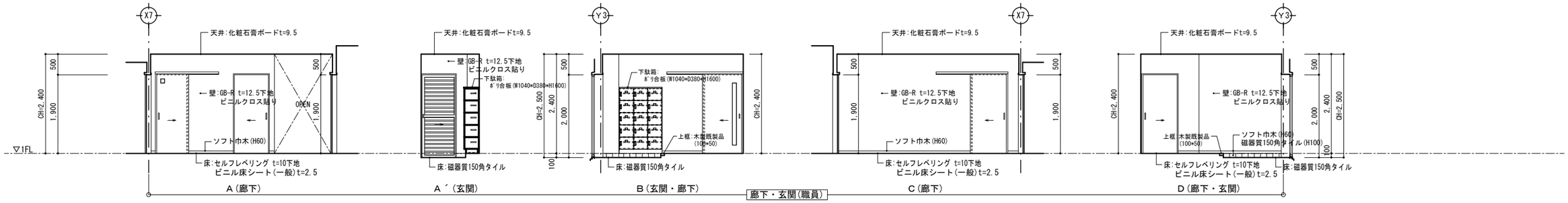




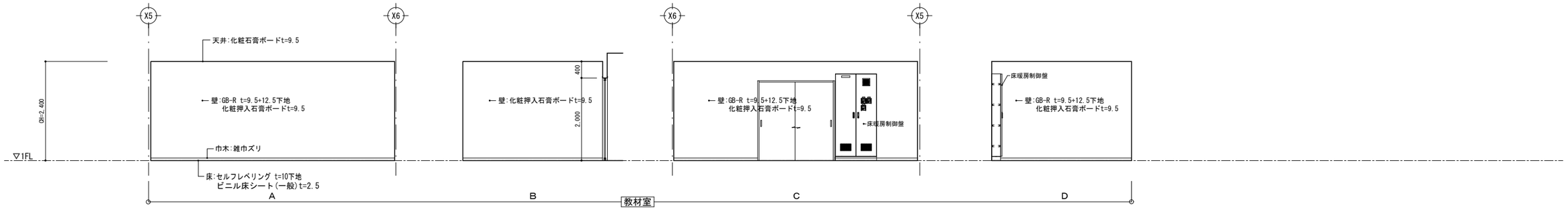


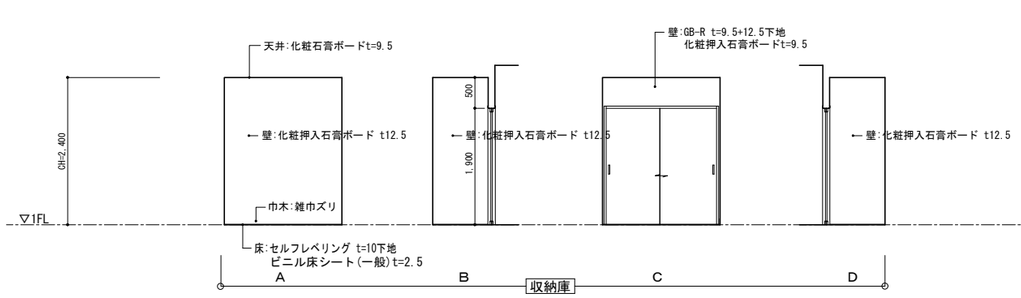


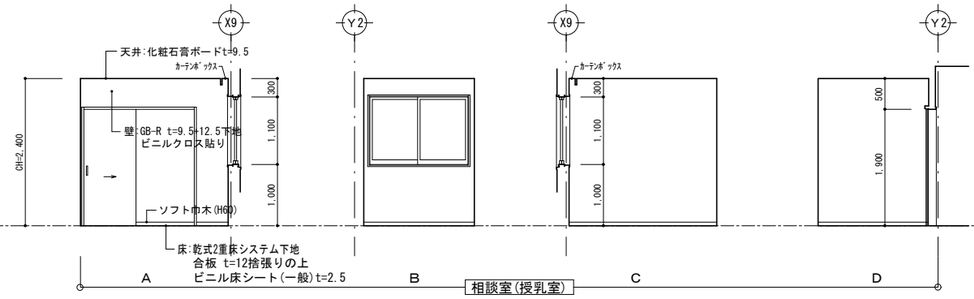


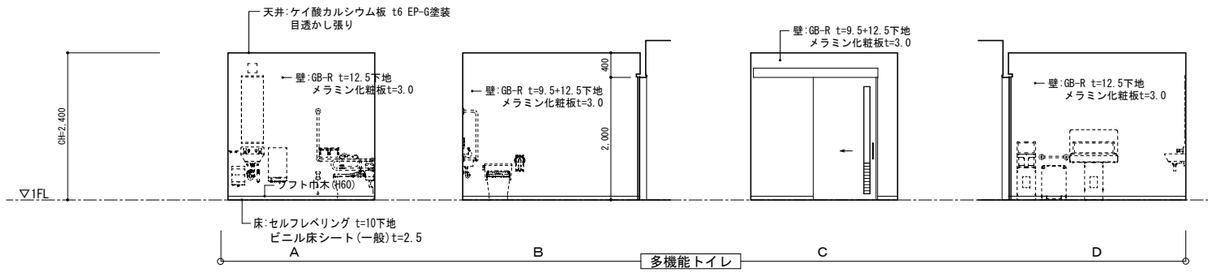


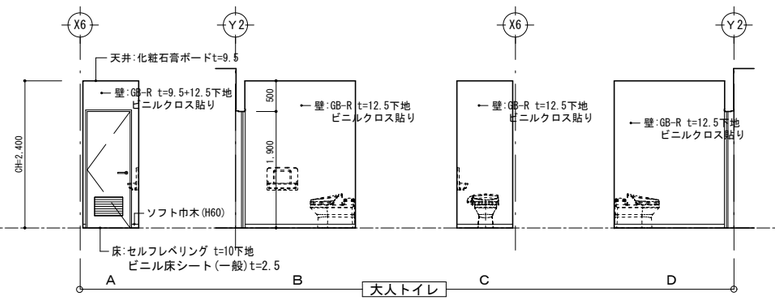
特記事項 訂正事項	・⇖左記印部の出隅下地はコーナーボードt=12.5(R15)を示す。				承認	設計	担当		縮尺 S=1：50(A1) S=1：100(A3) 設計年月日	工事名称 石和第一保育所建設工事（建築主体）（債務） 図面名称 展開図（２）	No. A－31



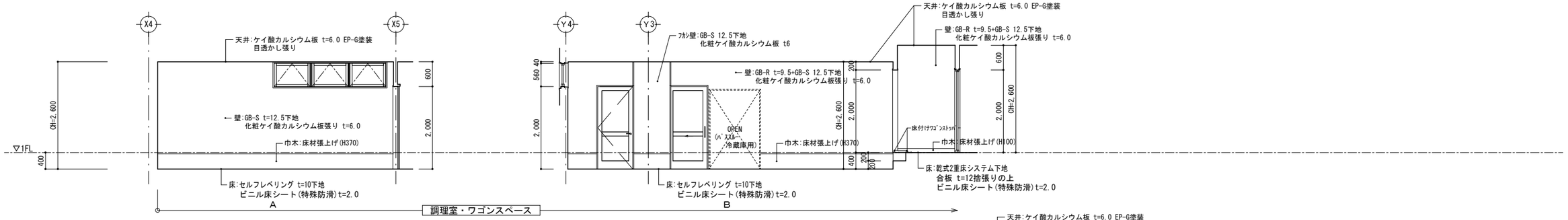






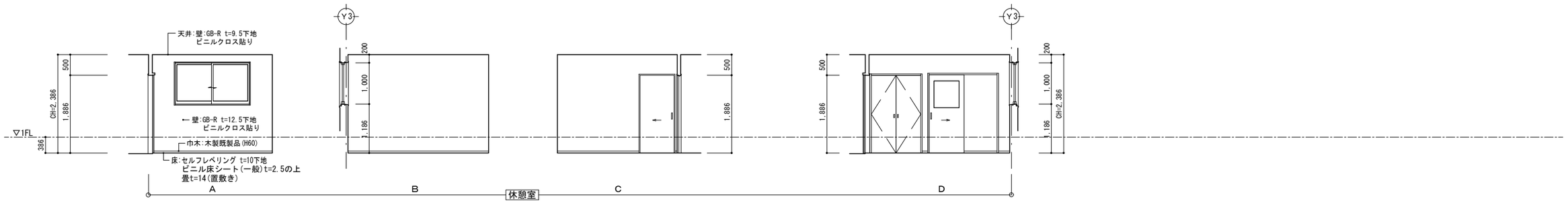


特記事項 訂正事項	・↖左記印部の出隅下地はコーナーボードt=12.5(R15)を示す。					承認	設計	担当		縮尺 S=1：50(A1) S=1：100(A3) 設計年月日	工事名称 石和第一保育所建設工事（建築主体）（債務） 図面名称 展開図（３）	No. A －３２

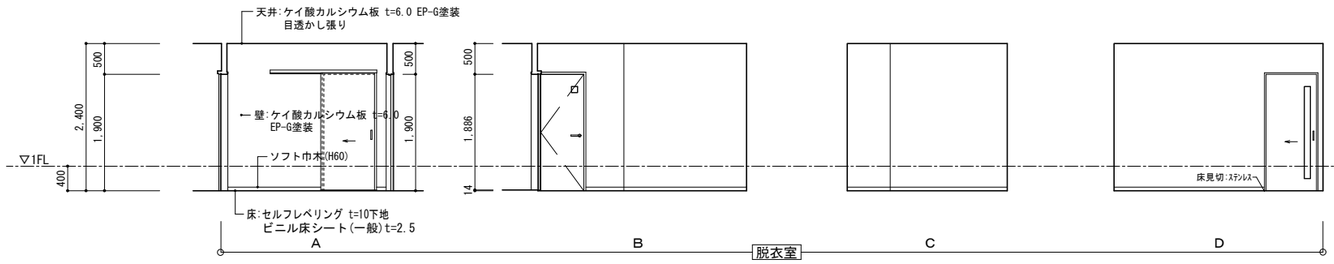


特記事項 訂正事項	・✎左記印部の出隅下地はコーナーボードt=12.5(R15)を示す。					承認	設計	担当		縮尺 S=1：50(A1) S=1：100(A3) 設計年月日	工事名称 石和第一保育所建設工事（建築主体）（債務） 図面名称 展開図（４）	No. A－33

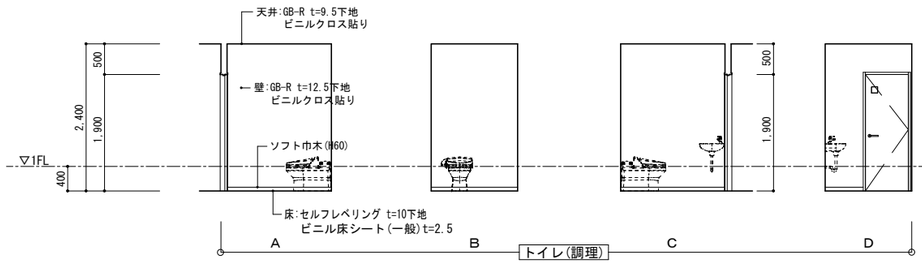
休憩室



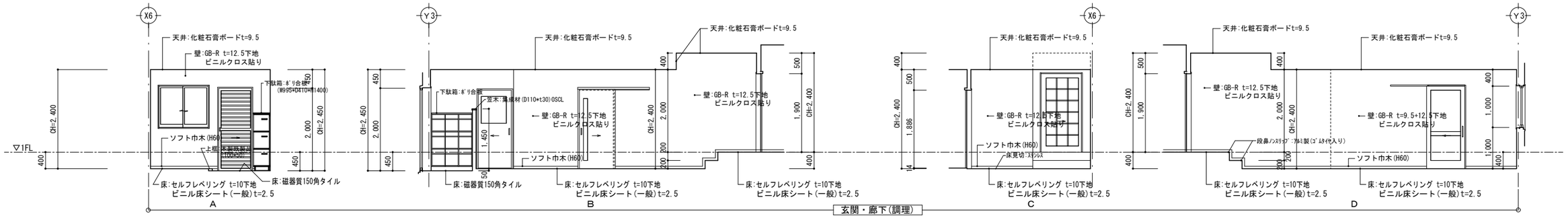
脱衣室



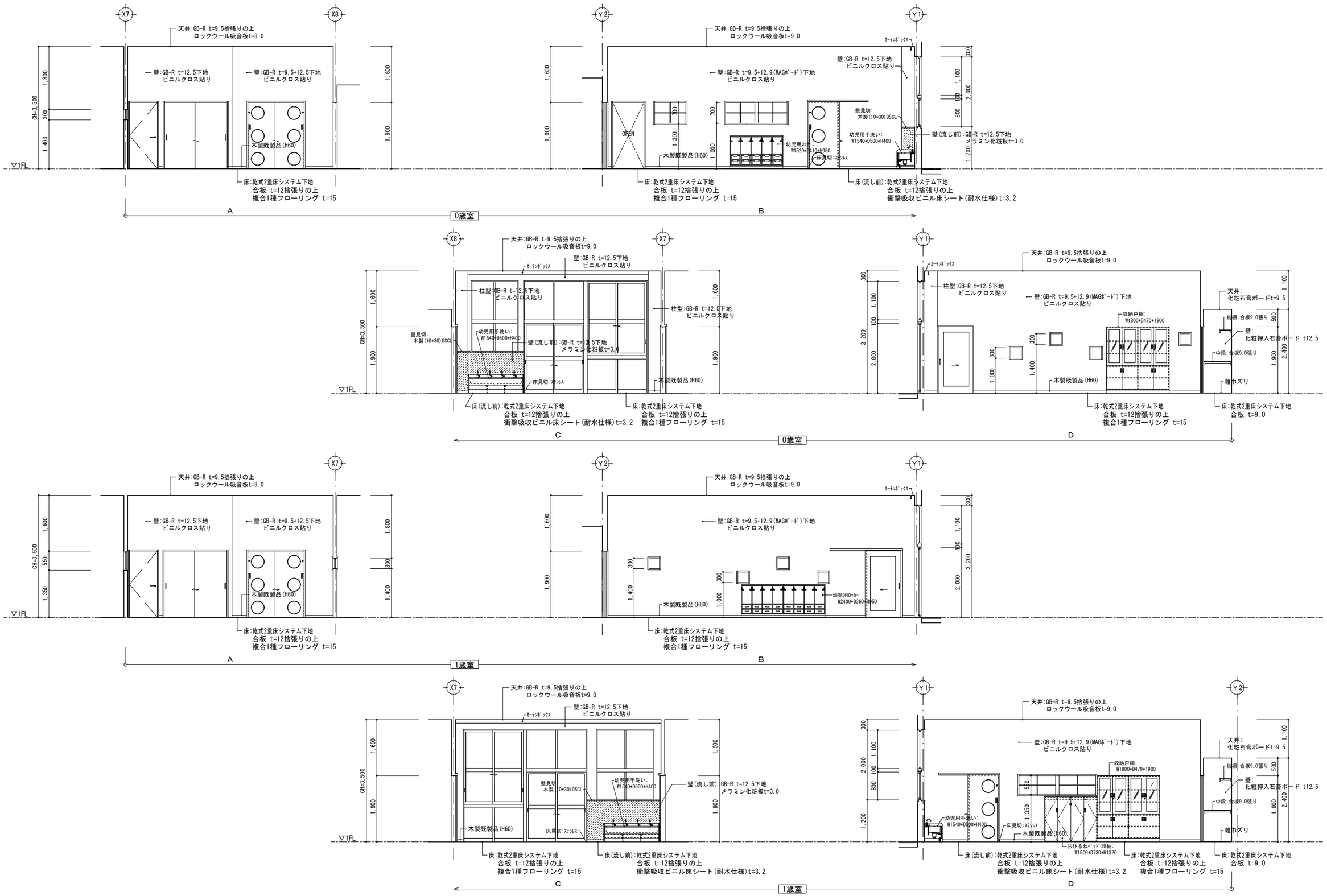
トイレ(調理)



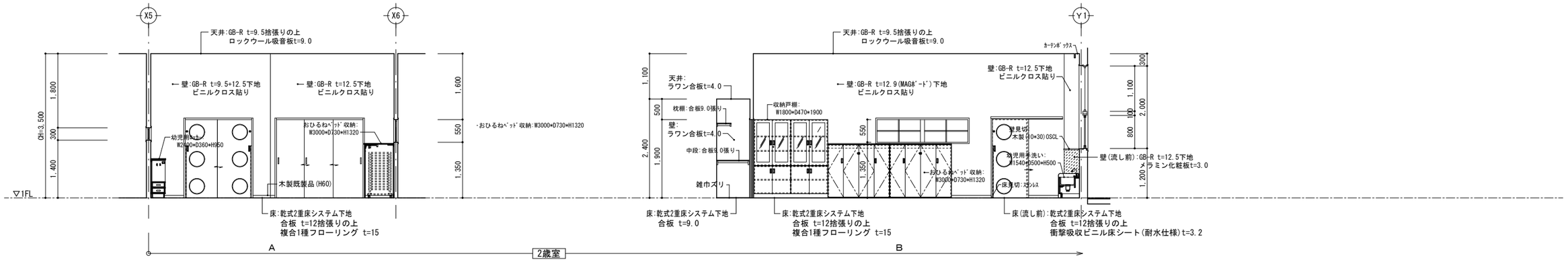
玄関・廊下(調理)

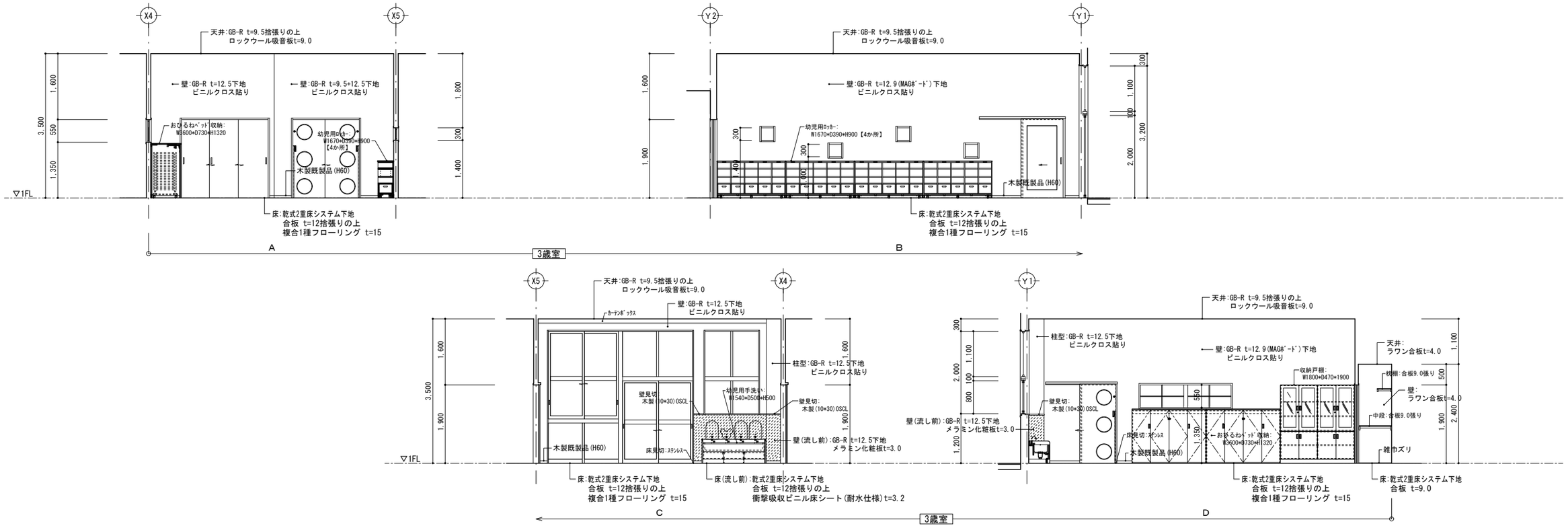


特記事項 訂正事項	・℄左記印部の出隅下地はコーナーボードt=12.5(R15)を示す。				承認	設計	担当		縮尺	S=1：50(A1) S=1：100(A3)	工事名称 石和第一保育所建設工事（建築主体）（債務） 図面名称 展開図（５）	No. A－34
									設計年月日			

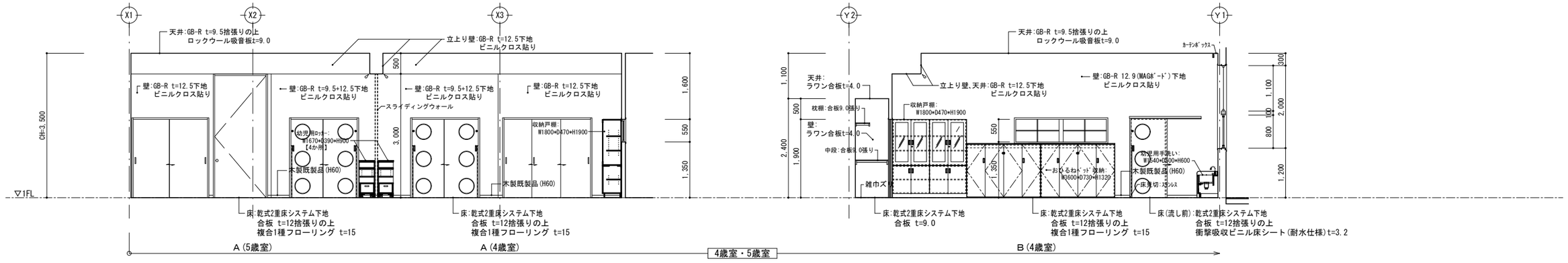


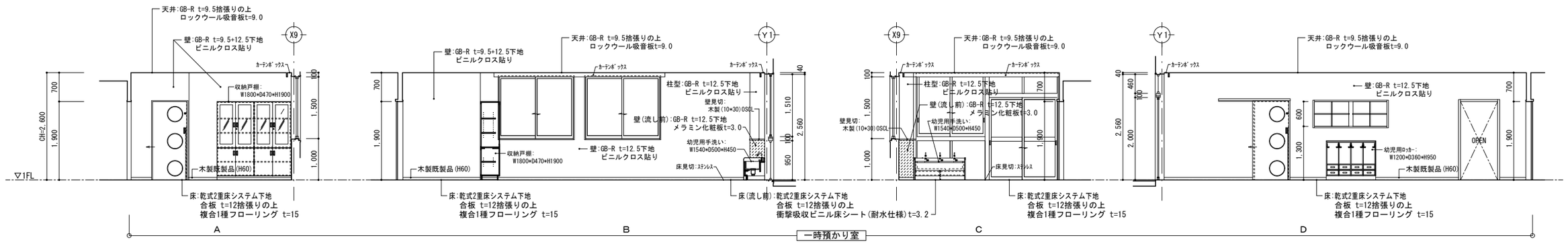
特記事項 訂正事項	・◥左記印部の出隅下地はコーナーボードt=12.5(R15)を示す。					承認	設計	担当		縮尺 S=1：50(A1) S=1：100(A3) 設計年月日	工事名称	石和第一保育所建設工事（建築主体）（債務） 図面名称 展開図（6）	No. A－35

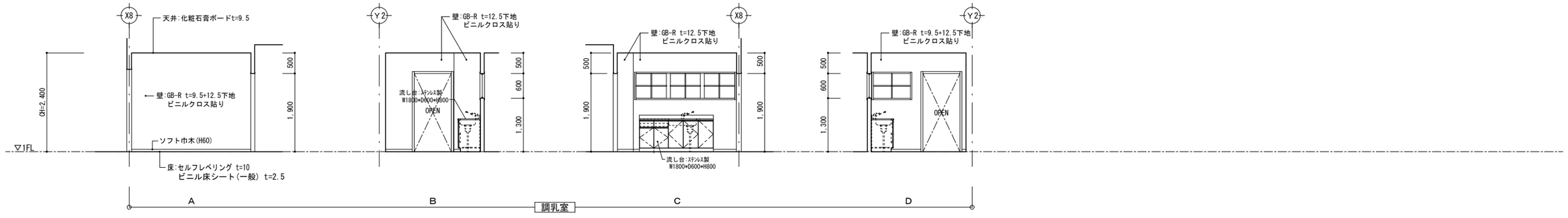




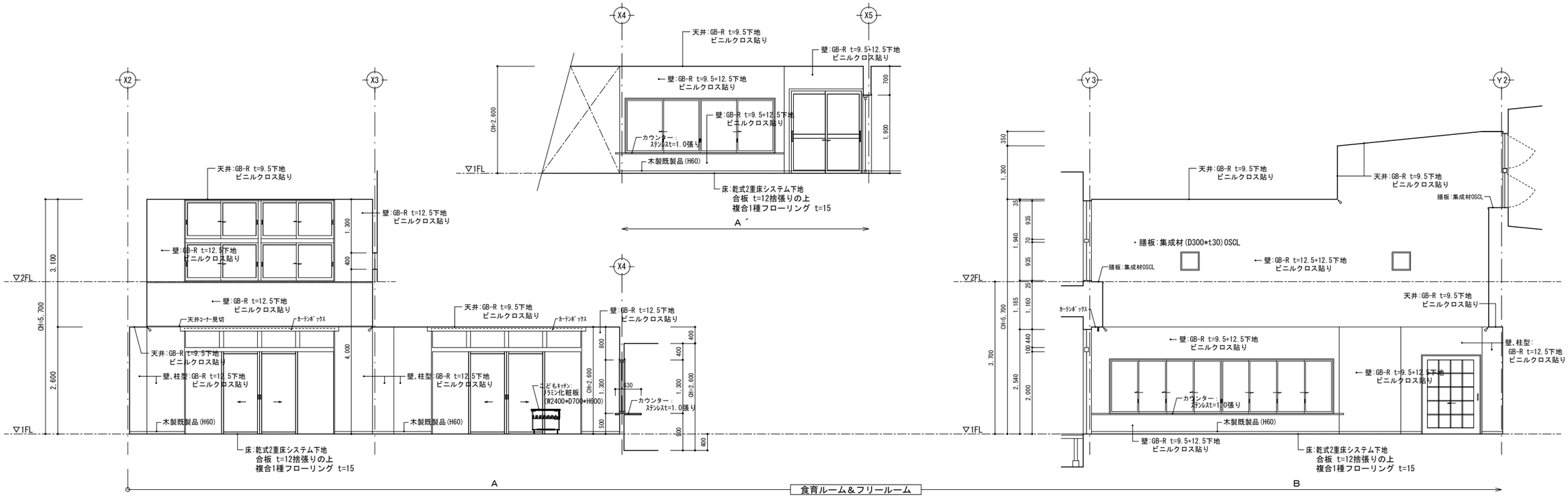
特記事項 訂正事項	・↖左記印部の出隅下地はコーナーボードt=12.5(R15)を示す。	承認	設計	担当	縮尺 S=1：50(A1) S=1：100(A3) 設計年月日	工事名称	石和第一保育所建設工事（建築主体）（債務）	No.
						図面名称	展開図（7）	A－36

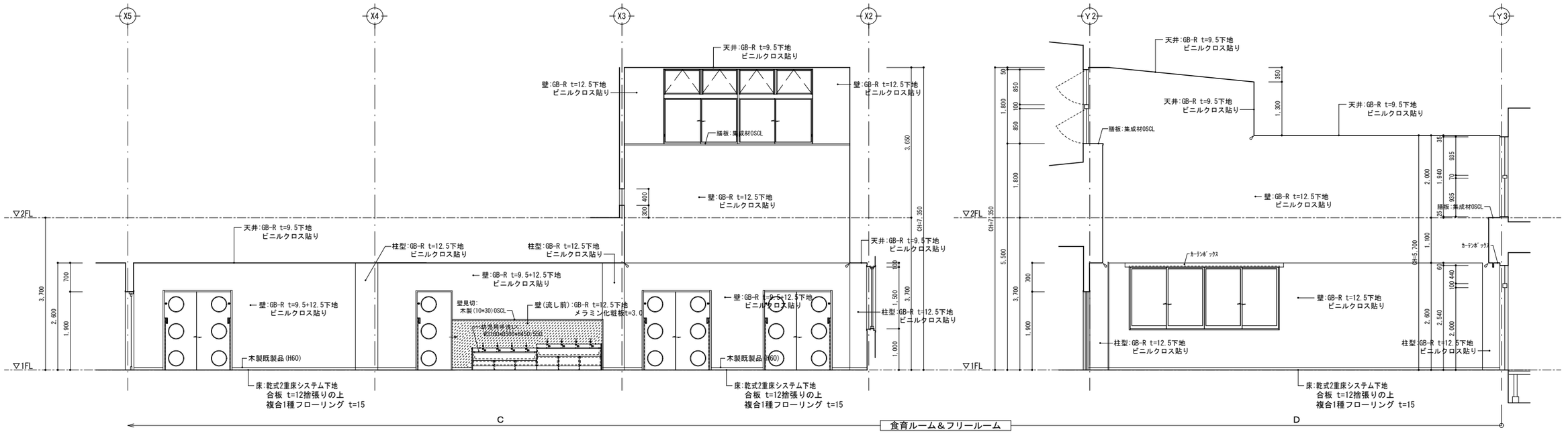




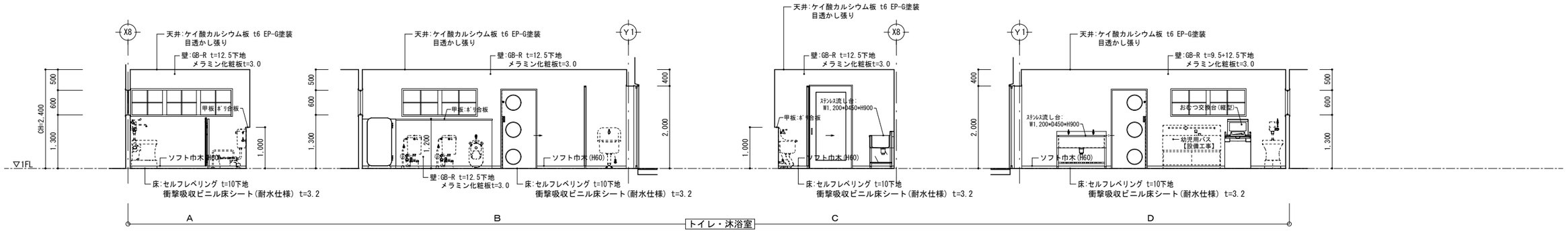


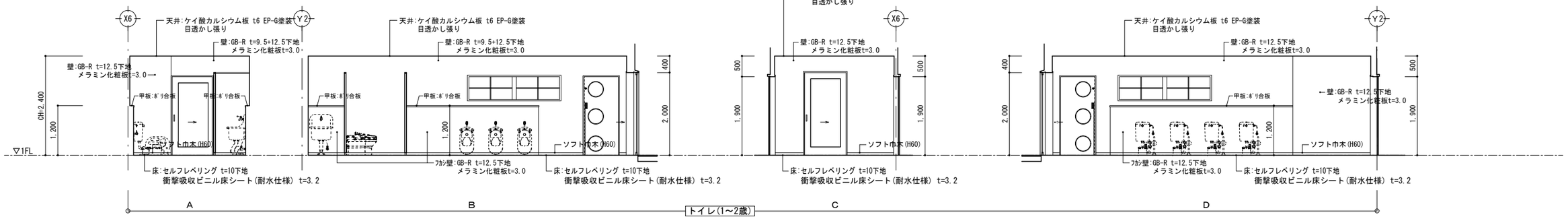
特記事項 訂正事項	・↖左記印部の出隅下地はコーナーボードt=12.5(R15)を示す。					承認	設計	担当		縮尺 S=1：50(A1) S=1：100(A3) 設計年月日	工事名称 石和第一保育所建設工事（建築主体）（債務） 図面名称 展開図（8）	No. A－37

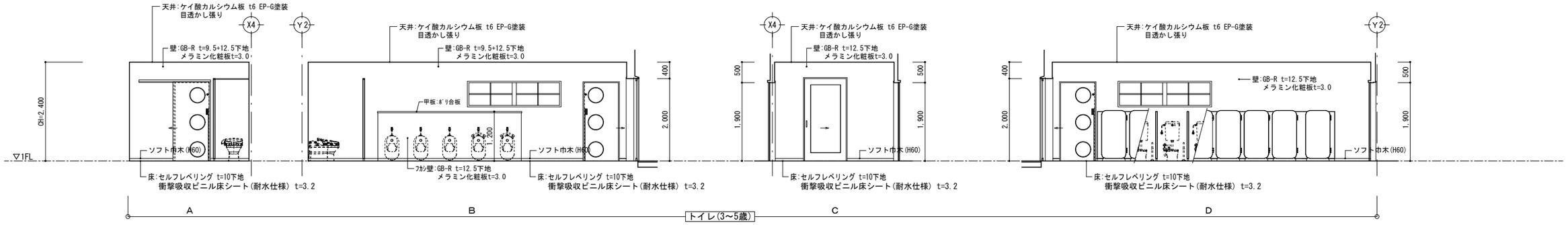




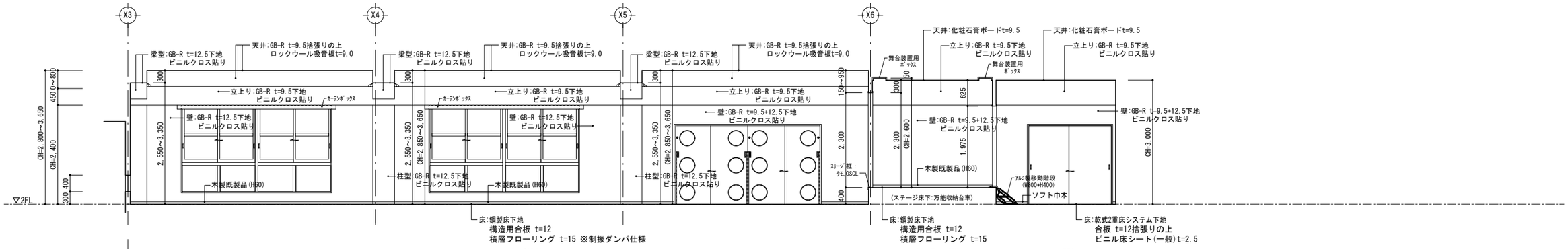
特記事項 訂正事項	・＼左記印部の出隅下地はコーナーボードt=12.5(R15)を示す。				承認	設計	担当		縮尺 S=1：50(A1) S=1：100(A3) 設計年月日	工事名称 石和第一保育所建設工事（建築主体）（債務） 図面名称 展開図（9）	No. A－38

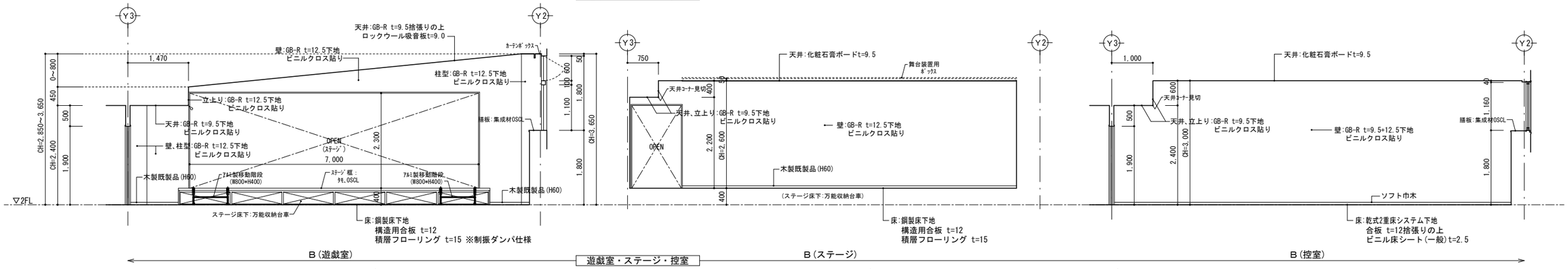


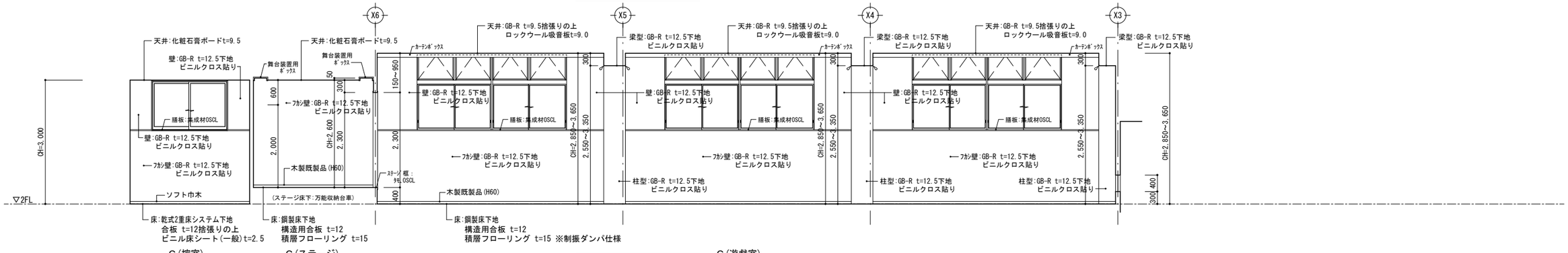


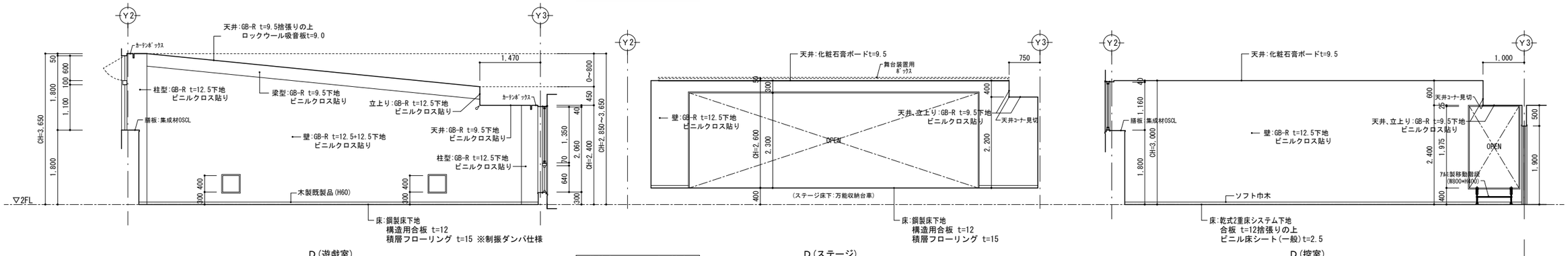


特記事項 訂正事項	・↖左記印部の出隅下地はコーナーボードt=12.5(R15)を示す。				承認	設計	担当		縮尺	S=1：50(A1) S=1：100(A3)	工事名称 石和第一保育所建設工事（建築主体）（債務） 図面名称 展開図（１０）	No. A －３９
									設計年月日			

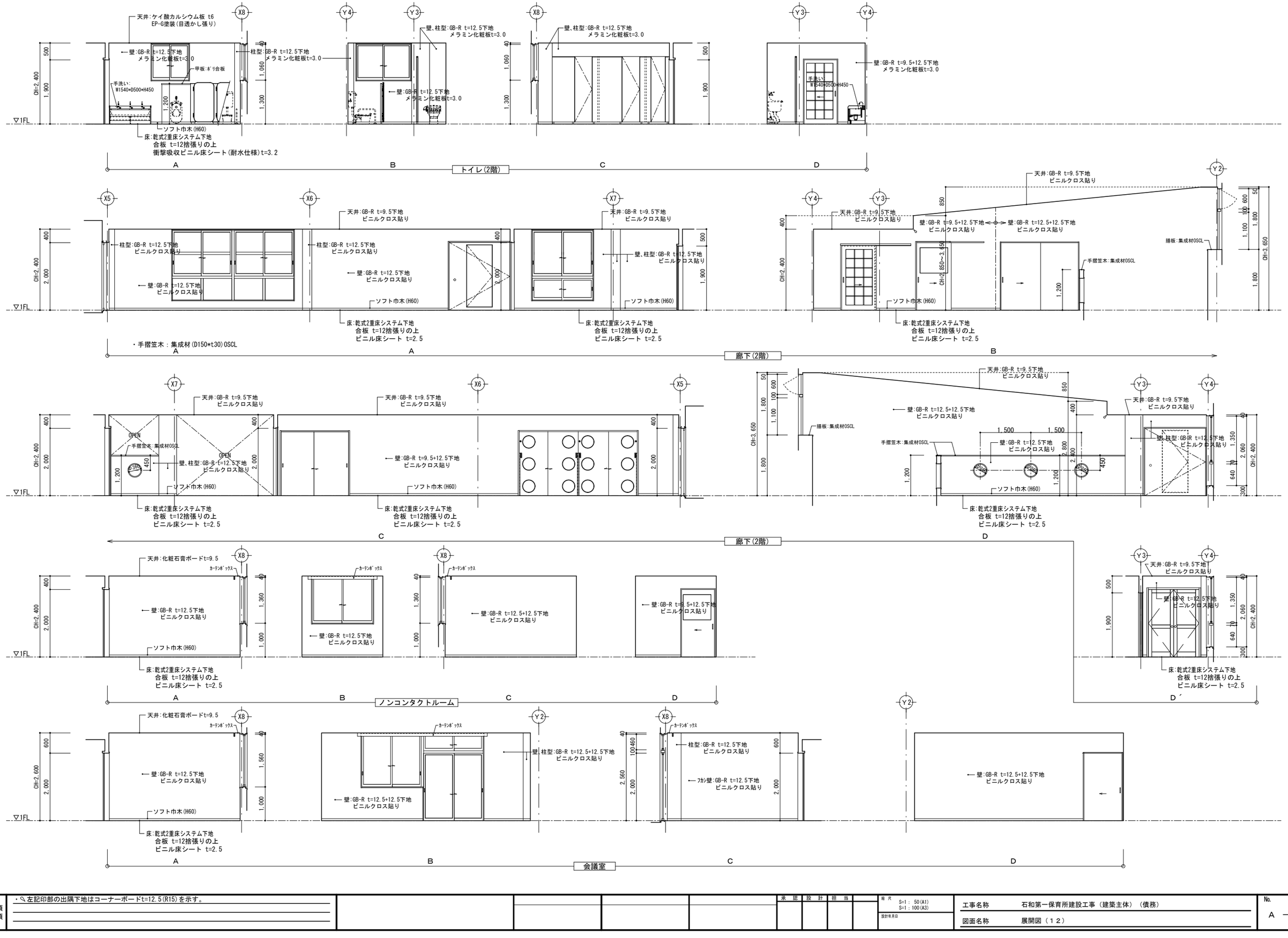




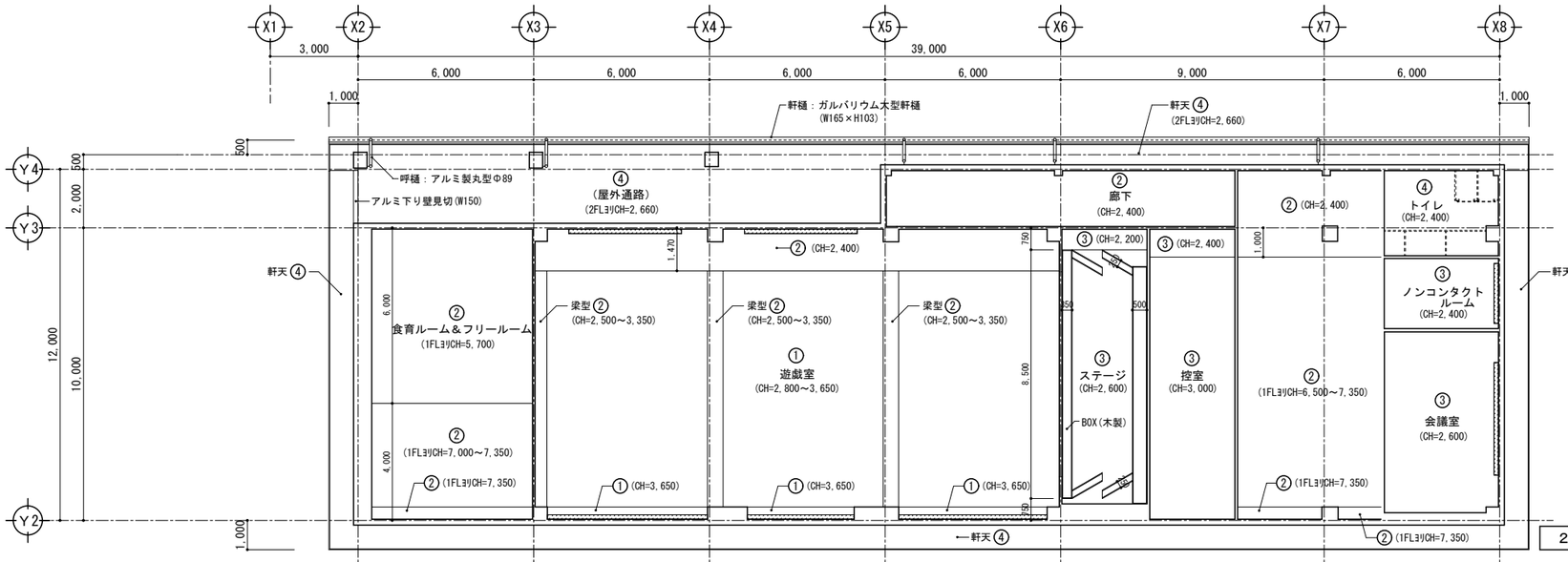




特記事項 訂正事項	・＼左記印部の出隅下地はコーナーボードt=12.5(R15)を示す。					承認	設計	担当	縮尺 S=1：50(A1) S=1：100(A3) 設計年月日	工事名称	石和第一保育所建設工事（建築主体）（債務）	No. A－40
										図面名称	展開図（１１）	

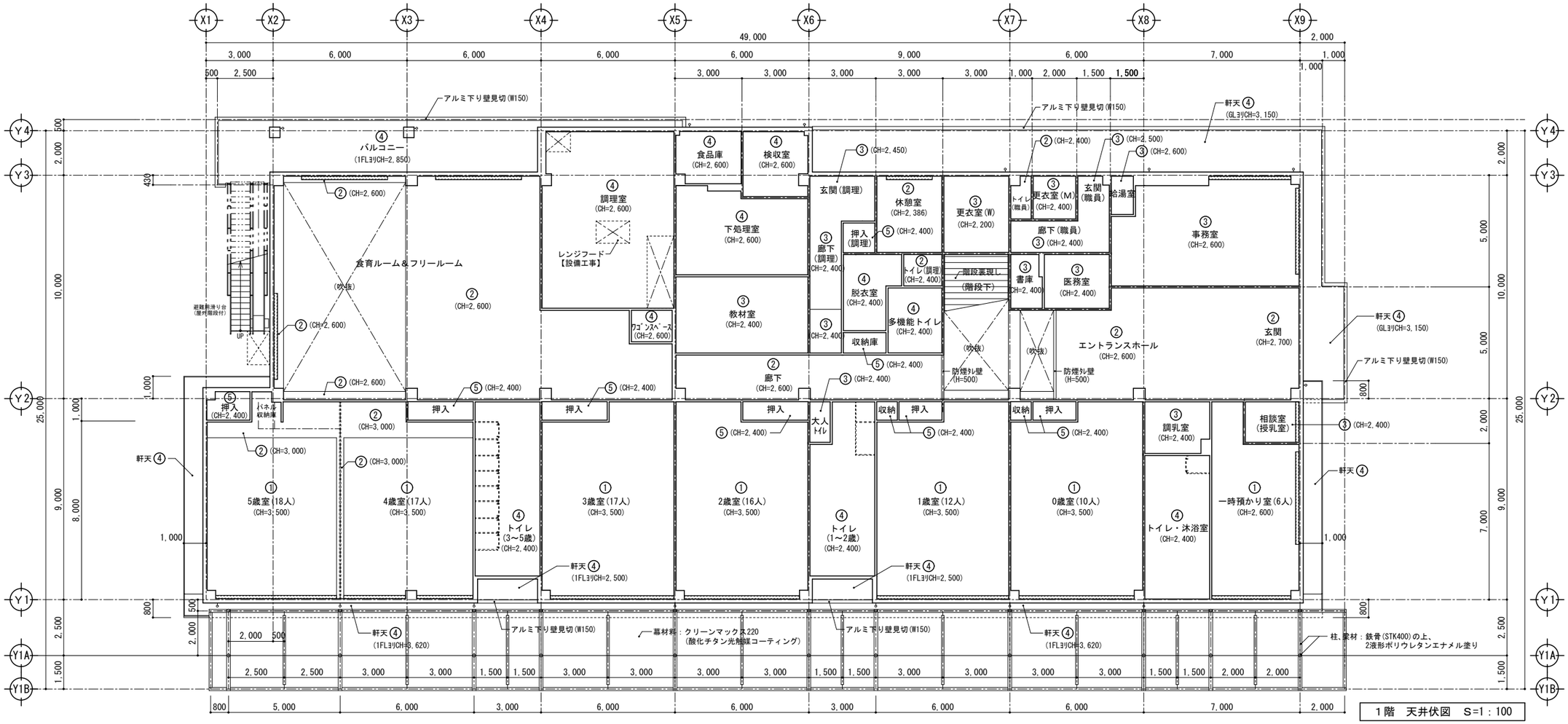


特記事項 訂正事項	・✎左記印部の出隅下地はコーナーボードt=12.5(R15)を示す。				承認	設計	担当		縮尺 S=1：50(A1) S=1：100(A3) 設計年月日	工事名称 石和第一保育所建設工事（建築主体）（債務） 図面名称 展開図（１２）	No. Ａ－４１



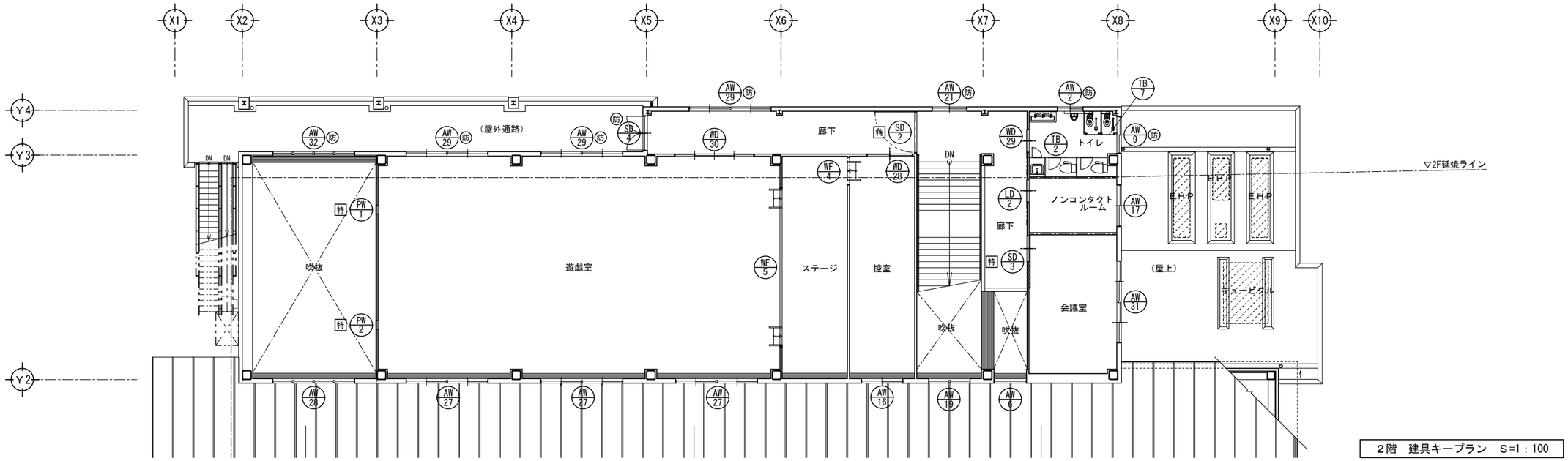
2階　天井伏図　S=1：100

天井仕上表		
①	GB-R t=9.5	ロックウール吸音板 t=9.5
②	GB-R t=9.5	ビニルクロス
③	—	化粧石膏ボード t=9.5
④	—	ケイ酸カルシウム板t=6 EP-G塗装(目透かし)
⑤	—	ラワン合板 t=4.0
		ｶｰﾃﾝﾎﾞｯｸｽ：MDF(幅150*高100*厚25)

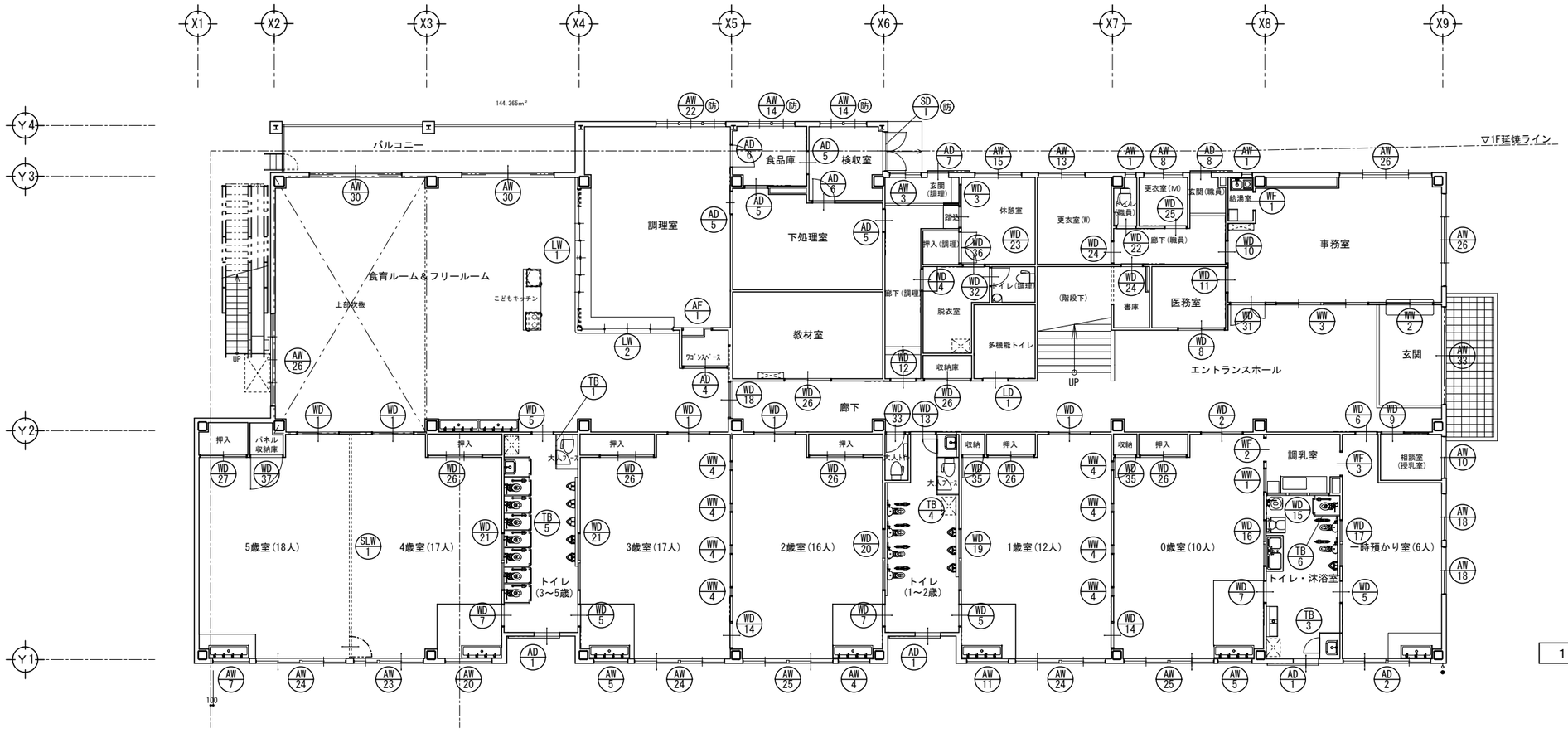


1階　天井伏図　S=1：100

特記事項 訂正事項					承認	設計	担当		縮尺	S=1：100(A1) S=1：200(A3)	工事名称	石和第一保育所建設工事（建築主体）（債務）	No.
									設計年月日		図面名称	天井伏図	A－42



２階　建具キープラン　S=1：100



１階　建具キープラン　S=1：100

特記事項
訂正事項

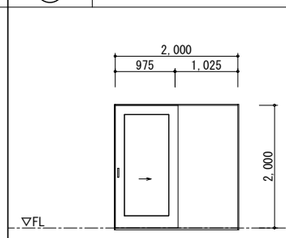
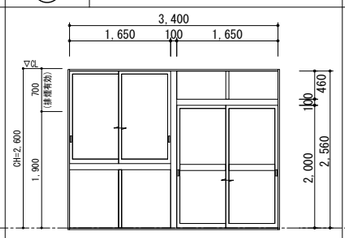
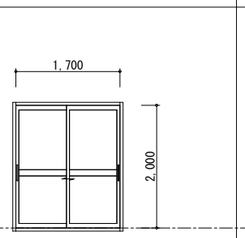
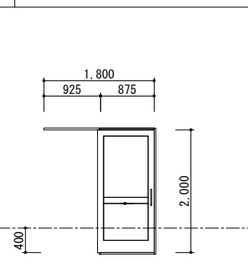
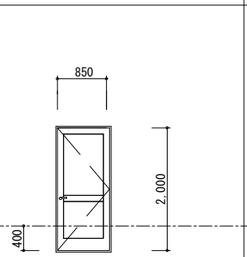
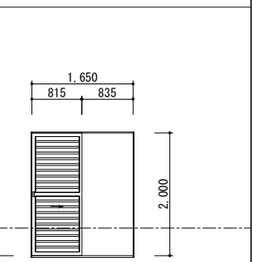
特・・・特定防火設備を示す。
防・・・防火設備を示す。

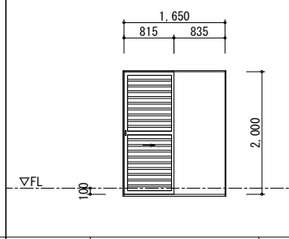
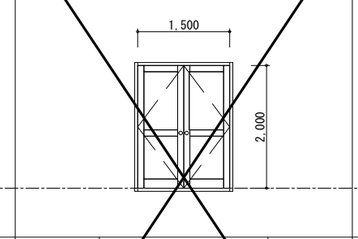
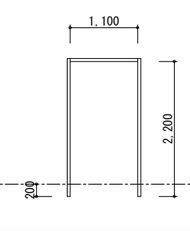
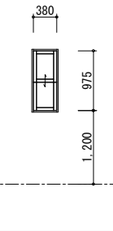
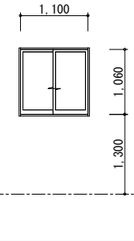
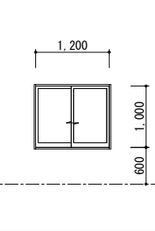
承認	設計	担当

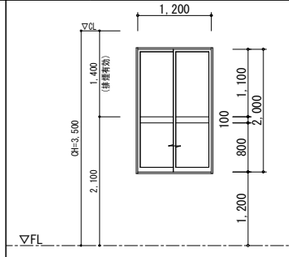
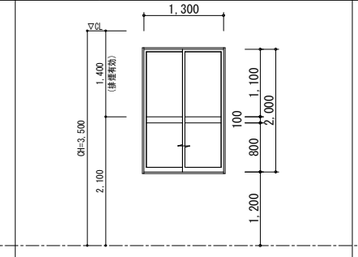
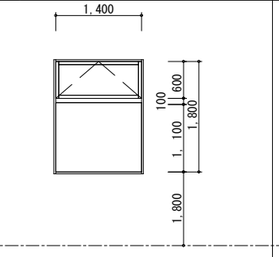
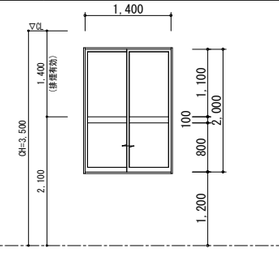
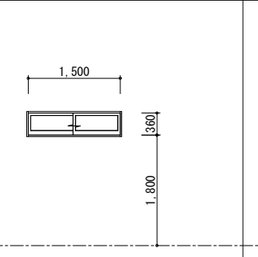
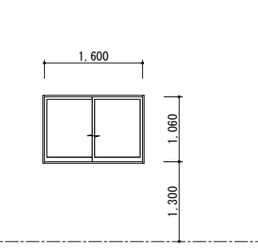
縮尺 S=1：100(A1) S=1：200(A3)
設計年月日

工事名称　石和第一保育所建設工事（建築主体）（債務）
図面名称　建具キープラン

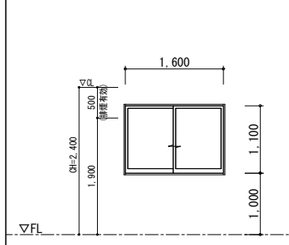
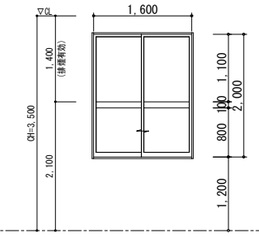
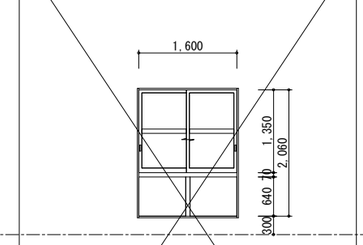
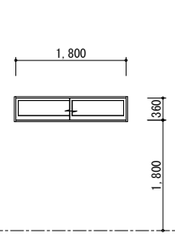
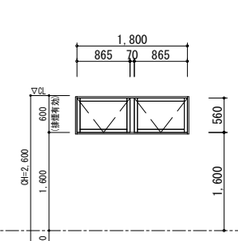
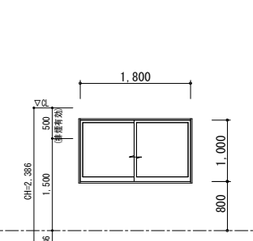
No. A －43

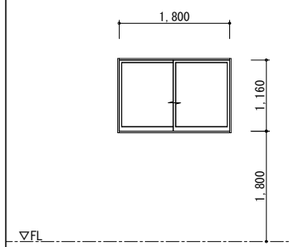
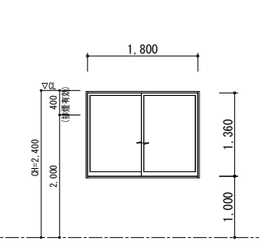
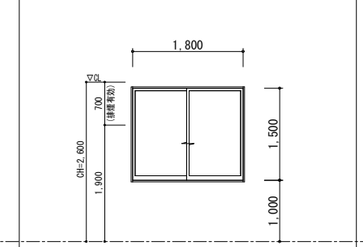
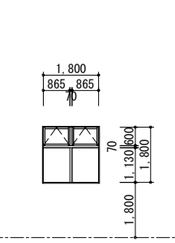
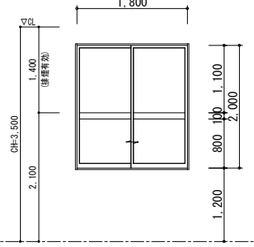
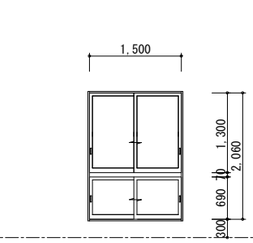
符号・名称	AD 1	ハンガー片引き戸		AD 2	引き違い掃き出し遮窓(ランマ付)		AD 4	引き違い戸		AD 5	ハンガー片引き框戸		AD 6	片開き戸		AD 7	玄関引き戸	
姿図														
取付階・室名・箇所数	1F	トイレ(3~5歳)	3	1F	一時預かり室	1	1F	ﾜｺﾞﾝｽﾍﾟｰｽ	1	1F	下処理室	4	1F	下処理室・食品庫	2	1F	休憩室	1
枠見込		100			100			70			70			70			70	
建具材質	建具仕上	アルミ	二次電解着色	アルミ		二次電解着色	アルミ		二次電解着色	アルミ		アルマイト処理	アルミ		アルマイト処理	アルミ		電解2次着色
ガラス種類	ガラス厚	強化透明5+A6+強化透明5	0	(網出部)強化透明5+A6+強化透明5、(その他)FL3+A6+FL3		0	FL		3	FL		3	FL		3	FL		5
額縁・召摺等		アルミ		木製(OSCL)			木製(OSCL)、調理側:アルミ)			アルミ(アルマイト処理)			アルミ(アルマイト処理)			木製(OSCL)		
附属金物		引き棒、シリンダー錠、サムターン、戸当たり、ハンガーレール		クレセント、水切り、網戸、フラット下枠仕様			クレセント、フラット下枠仕様			引き棒、戸当たり、ハンガーレール			レバーハンドル、戸当たり、ＤＣ			引手、シリンダー錠、サムターン、戸車、ステンレス容摺、戸当たり、他一式	
備考				カーテンボックス+カーテンレール+カーテン(ドレープ+レース)						腰部：アルミパネル			腰部：アルミパネル					

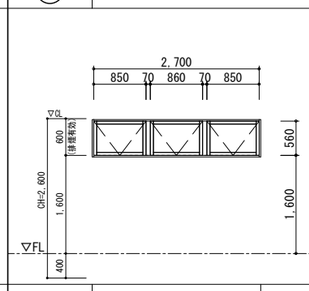
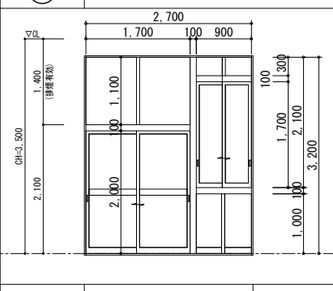
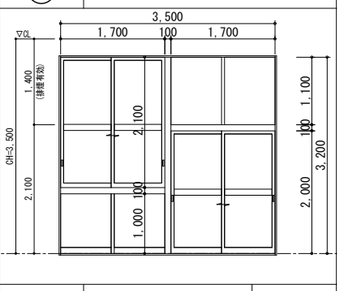
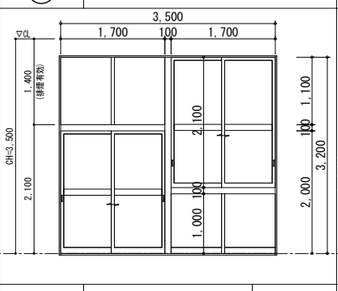
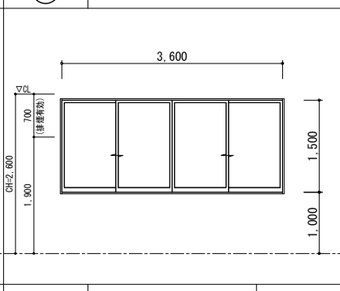
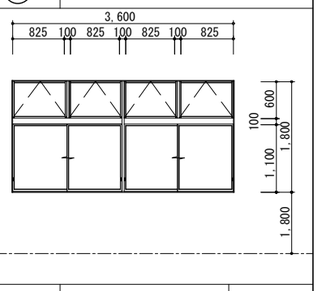
符号・名称	AD 8	玄関引き戸		AD 9	両開き戸 【防火設備】		AF 1	3方枠(アルミ)		AW 1	上げ下げ窓		AW 2	引き違い窓 【防火設備】(EB-3389同等品)		AW 3	引き違い窓	
姿図														
取付階・室名・箇所数	1F	玄関(職員)	1	2F	廊下	1	1F	調理室	1	1F	トイレ(職員)、給湯室	2	2F	トイレ	1	1F	玄関(調理)	1
枠見込		70			70			-			70			70			70	
建具材質	建具仕上	アルミ	電解2次着色	アルミ		二次電解着色	-		-	アルミ		二次電解着色	アルミ		二次電解着色	アルミ		二次電解着色
ガラス種類	ガラス厚	FL	5	PWG		6.8	-		0	F		4	FWG		6.8	FL		3
額縁・召摺等		木製(OSCL)		木製(OSCL)			アルミ(アルマイト処理)			木製(OSCL)			木製(OSCL)			木製(OSCL)		
附属金物		引手、シリンダー錠、サムターン、戸車、ステンレス容摺、戸当たり、他一式		握り玉、シリンダー錠、サムターン、戸当たり、ＤＣ			-			クレセント、水切り			クレセント、水切り、網戸			クレセント、水切り、網戸	
備考																		

符号・名称	AW 4	引き違い窓		AW 5	引き違い窓		AW 6	突き出し窓(FIX付)		AW 7	引き違い窓		AW 8	引き違い窓		AW 9	引き違い窓 【防火設備】(EB-3389同等品)	
姿図														
取付階・室名・箇所数	1F	2歳室	1	1F	0歳室、3歳室	2	2F	階段吹抜部	1	1F	5歳室	1	1F	更衣室(M)	1	2F	トイレ	1
枠見込		70			70			70			70			100			70	
建具材質	建具仕上	アルミ	二次電解着色	アルミ		二次電解着色	アルミ		二次電解着色	アルミ		二次電解着色	アルミ		二次電解着色	アルミ		二次電解着色
ガラス種類	ガラス厚	FL3+A6+FL3	12	FL3+A6+FL3		12	FL3+A6+FL3		12	FL3+A6+FL3		12	FL3+A6+F4		13	FWG		6.8
額縁・召摺等		木製(OSCL)		木製(OSCL)			木製(OSCL)			木製(OSCL)			木製(OSCL)			木製(OSCL)		
附属金物		水切り		水切り			排煙オペレーター(埋込型)、水切り			水切り			クレセント、水切り			クレセント、水切り		
備考		カーテンボックス+カーテンレール+カーテン(ドレープ+レース)		カーテンボックス+カーテンレール+カーテン(ドレープ+レース)						カーテンボックス+カーテンレール+カーテン(ドレープ+レース)								

特記事項 訂正事項					承認	設計	担当		縮尺 S=1：50(A1) S=1：100(A3) 設計年月日	工事名称	石和第一保育所建設工事（建築主体）（債務）	No.
										図面名称	建具表（１）	A －44

符号・名称	AW10	引き違い窓		AW11	引き違い窓		AW12	引き違い窓(FIX付) 【防火設備】		AW13	引き違い窓		AW14	外倒し連窓 【防火設備】(EB-3198同等品)		AW15	引き違い窓	
姿図																		
取付階・室名・箇所数	1F	相談室(授乳室)	1	1F	1歳室	1	2F	廊下	1	1F	更衣室(W)	1	1F	検収室	2	1F	休憩室	1
枠見込	100			70			100			100			70			100		
建具材質	アルミ		二次電解着色	アルミ		二次電解着色	アルミ		二次電解着色	アルミ		二次電解着色	アルミ		二次電解着色	アルミ		二次電解着色
ガラス種類 ガラス厚	FL3+A6+F4		13	FL3+A6+FL3		12	FL3+A6+PWC6.8		15.8	FL3+A6+F4		13	PWC		6.8	FL3+A6+FL3		12
額縁・沓摺等	木製(OSCL)			木製(OSCL)			木製(OSCL)			木製(OSCL)			アルミ(二次電解着色)			木製(OSCL)		
附属金物	クレセント、水切り			水切り			クレセント、水切り、網戸			クレセント、水切り、網戸			排煙オペレーター(露出型)、水切り			クレセント、水切り、網戸		
備考	カーテンボックス+カーテンレール+カーテン(ドレープ+レース)			カーテンボックス+カーテンレール+カーテン(ドレープ+レース)												カーテンレール(壁付)+カーテン(ドレープ+レース)		

符号・名称	AW16	引き違い窓		AW17	引き違い窓		AW18	引き違い窓		AW19	突き出し窓(FIX付)		AW20	引き違い窓		AW21	引き違い段窓 【防火設備】(EB-2903-1同等品)	
姿図																		
取付階・室名・箇所数	2F	控室	1	2F	ノンコンタクトルーム	1	1F	一時預かり室	2	2F	階段吹抜部	1	1F	4歳室	1	2F	廊下	1
枠見込	100			100			100			70			70			100		
建具材質	アルミ		二次電解着色	アルミ		二次電解着色	アルミ		二次電解着色	アルミ		二次電解着色	アルミ		二次電解着色	アルミ		二次電解着色
ガラス種類 ガラス厚	FL3+A6+FL3		12	FL3+A6+FL3		12	FL3+A6+FL3		12	FL3+A6+FL3		12	FL3+A6+FL3		12	Low-E3+A6+PWC6.8		15.8
額縁・沓摺等	木製(OSCL)			木製(OSCL)			木製(OSCL)			木製(OSCL)			木製(OSCL)			木製(OSCL)		
附属金物	クレセント、水切り、網戸			クレセント、水切り、網戸			クレセント、水切り、網戸			排煙オペレーター(埋込型)、水切り			水切り			クレセント、水切り、網戸		
備考				カーテンボックス+カーテンレール+カーテン(ドレープ+レース)			カーテンボックス+カーテンレール+カーテン(ドレープ+レース)						カーテンボックス+カーテンレール+カーテン(ドレープ+レース)					

符号・名称	AW22	外倒し連窓 【防火設備】(EB-3198同等品)		AW23	引き違い掃き出し連窓(ランマ付)		AW24	引き違い掃き出し連窓(ランマ付)		AW25	引き違い掃き出し連窓(ランマ付)		AW26	引き違い連窓		AW27	突き出し連窓(引き違い連窓付)	
姿図																		
取付階・室名・箇所数	1F	調理室	1	1F	4歳室	1	1F	1歳室	3	1F	0歳室	2	1F	事務室、食育ルーム	3	2F	遊戯室	3
枠見込	70			100			100			100			100			100		
建具材質	アルミ		アルマイト処理	アルミ		二次電解着色	アルミ		二次電解着色	アルミ		二次電解着色	アルミ		二次電解着色	アルミ		二次電解着色
ガラス種類 ガラス厚	PWC		6.8	(網出部)強化透明5+A6+強化透明5、(その他)FL3+A6+FL3		0	(網出部)強化透明5+A6+強化透明5、(その他)FL3+A6+FL3		0	(網出部)強化透明5+A6+強化透明5、(その他)FL3+A6+FL3		0	FL3+A6+FL3		12	FL3+A6+FL3		12
額縁・沓摺等	アルミ(アルマイト処理)			木製(OSCL)			木製(OSCL)			木製(OSCL)			木製(OSCL)			木製(OSCL)		
附属金物	排煙オペレーター(露出型)、水切り			クレセント、網戸、フラット下枠仕様			クレセント、網戸、フラット下枠仕様			クレセント、網戸、フラット下枠仕様			クレセント、水切り、網戸			排煙オペレーター(埋込型)、引き違いオペレーター、クレセント、水切り		
備考				カーテンボックス+カーテンレール+カーテン(ドレープ+レース)			カーテンボックス+カーテンレール+カーテン(ドレープ+レース)			カーテンボックス+カーテンレール+カーテン(ドレープ+レース)			カーテンボックス+カーテンレール+カーテン(ドレープ+レース)			カーテンボックス+カーテンレール+カーテン(暗幕+レース)		

建具表

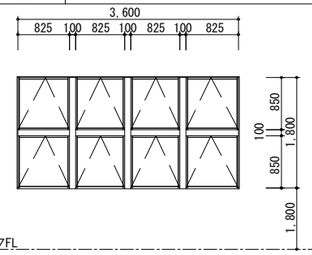
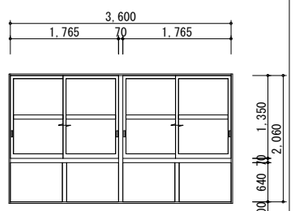
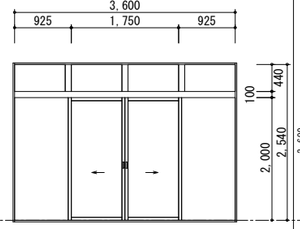
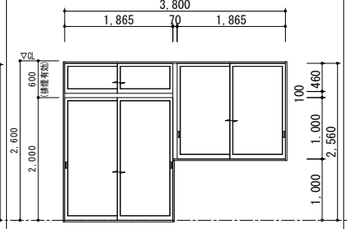
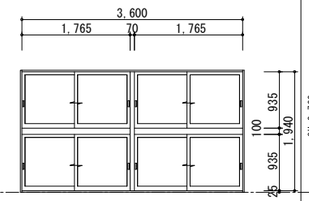
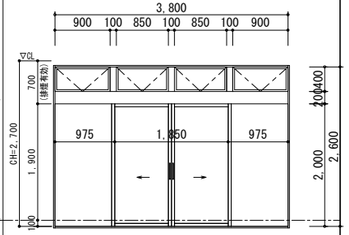
特記事項
訂正事項

承認	設計	担当	

縮尺 S=1：50(A1) S=1：100(A3)
設計年月日

工事名称 石和第一保育所建設工事（建築主体）（債務）
図面名称 建具表（２）

No. A－45

符号・名称	AW 28	突き出し連窓(引き違い連窓付)	AW 29	引き違い連窓(FIX付)　【防火設備】(EB-3436同等品)	AW 30	引き分け掃き出し窓	AW 31	引き違い掃き出し窓(ランマ､袖付)	AW 32	引き違い連段窓　【防火設備】(EB-3436同等品)	AW 33	引き分けドアー(ランマ外倒し窓付)
姿図												
取付階・室名・箇所数	2F	食育ルーム　1	2F	遊戯室、廊下　3	1F	食育ルーム＆フリールーム　2	2F	会議室　1	2F	食育ルーム　1	1F	玄関　1
枠見込	70		100		100		100		100		100	
建具材質	アルミ		アルミ		アルミ		アルミ		アルミ		アルミ	
建具仕上	二次電解着色		二次電解着色		二次電解着色		二次電解着色		二次電解着色		二次電解着色	
ガラス種類	FL3+A6＋FL3		Low-E3+A6＋PWC6.8		(掃出部)強化透明5+A6+強化透明5､(その他)FL3+A6+FL3		FL3+A6＋FL3		Low-E3+A6＋PWC6.8		(掃出部)強化透明5+A6+強化透明5､(その他)FL3+A6+FL3	
ガラス厚	12		15.8		0		12		15.8		0	
額縁・召摺等	木製(OSCL)		木製(OSCL)		木製(OSCL)		木製(OSCL)		木製(OSCL)		木製(OSCL)	
附属金物	排煙オペレーター(埋込型)、水切り		クレセント、水切り、網戸		クレセント、網戸、フラット下枠仕様		クレセント、水切り、網戸		排煙オペレーター(埋込型)、水切り		引き棒、シリンダー錠、サムターン、戸当たり、ハンガーレール、排煙オペレーター	
備考			【遊戯室2か所のみ】カーテンボックス+カーテンレール+カーテン(暗幕+レース)		カーテンボックス+カーテンレール+カーテン(暗幕+レース)		カーテンボックス+カーテンレール+カーテン(暗幕+レース)					
符号・名称												
姿図												
取付階・室名・箇所数												
扉見込												
建具材質												
建具仕上												
ガラス種類												
ガラス厚												
額縁・召摺等												
附属金物												
備考												
符号・名称												
姿図												
取付階・室名・箇所数												
扉見込												
建具材質												
建具仕上												
ガラス種類												
ガラス厚												
額縁・召摺等												
附属金物												
備考												

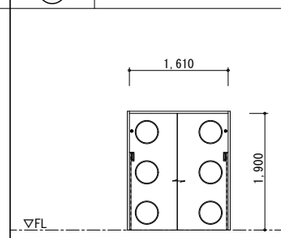
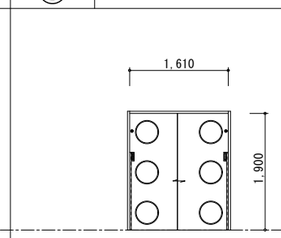
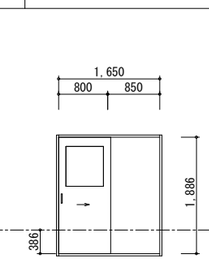
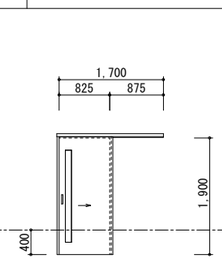
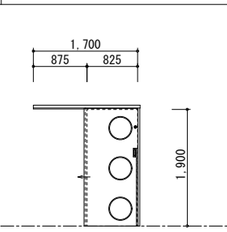
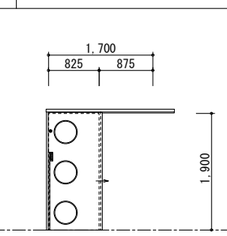
特記事項
訂正事項

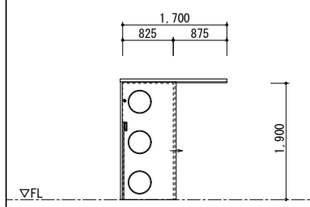
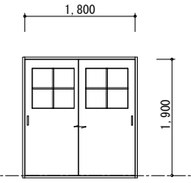
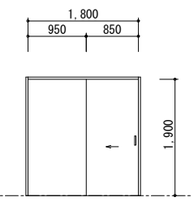
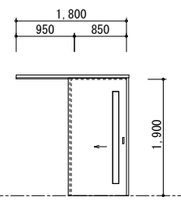
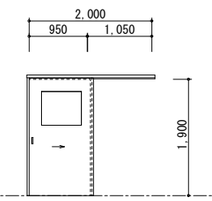
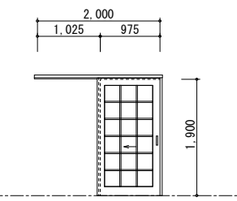
承認	設計	担当	

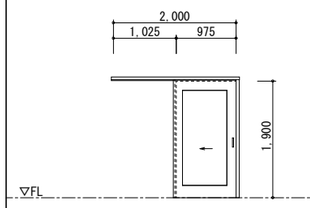
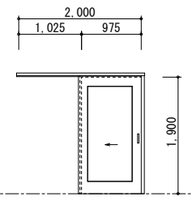
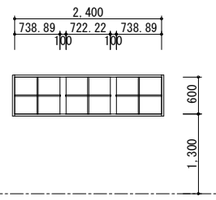
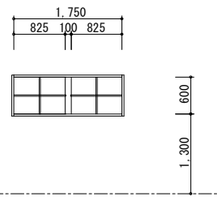
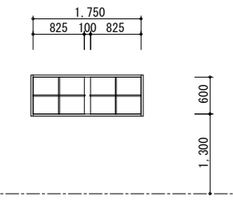
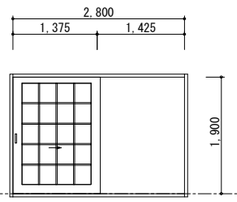
縮尺　S=1：50(A1)　S=1：100(A3)
設計年月日

工事名称　石和第一保育所建設工事（建築主体）（債務）
図面名称　建具表（３）

No.
A －４６

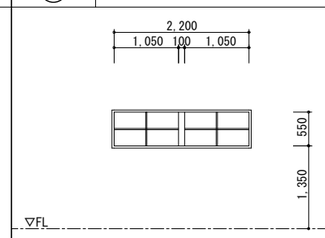
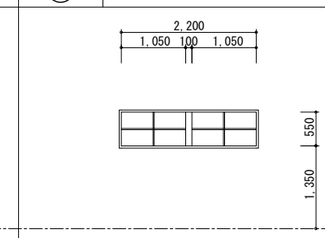
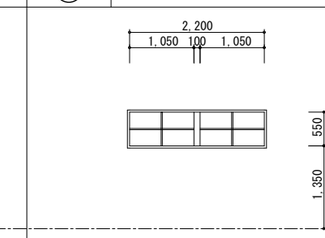
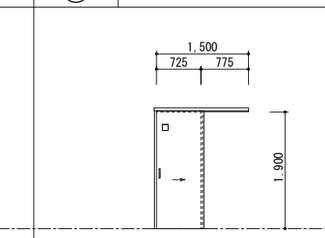
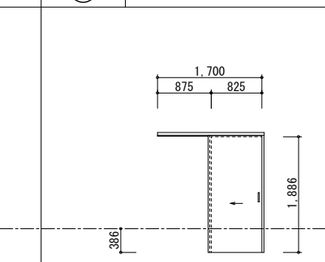
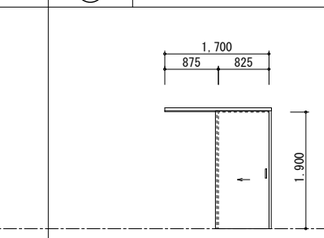
符号・名称	WD 1	引き違い戸（額付）【既製品】		WD 2	引き違い戸（額付）【既製品】		WD 3	片引き戸（額付）		WD 4	ハンガー片引き戸（額付）		WD 5	ハンガー片引き戸（額付）【既製品】		WD 6	ハンガー片引き戸（額付）【既製品】	
姿図																
取付階・室名・箇所数	1F	5歳室(18人)	5	1F	0歳室(10人)	1	1F	休憩室	1	1F	脱衣室	1	1F	トイレ(3~5歳)	4	1F	一時預かり室(6人)	1
扉見込	35			35			35			35			35			35		
建具材質	建具仕上	木製	既製品	木製	既製品		木製	ポリ合板		木製	ポリ合板		木製	既製品		木製	既製品	
ガラス種類	ガラス厚	強化透明(既製品に組込み)	0	強化透明(既製品に組込み)	0		FL	3		F	4		強化透明(既製品に組込み)	0		強化透明(既製品に組込み)	0	
額縁・召摺等	木製(既製品)			木製(既製品)			木製(OSCL)			木製(OSCL)			木製(既製品)			木製(既製品)		
附属金物	戸先クッション、両側サムターン錠、ソフトクローズ仕様、他標準金物一式			戸先クッション、両側サムターン錠、ソフトクローズ仕様、他標準金物一式			引手、戸車、戸当たり			引手、戸当たり、ハンガーレール			戸先クッション、両側サムターン錠、ソフトクローズ仕様、他標準金物一式			戸先クッション、両側サムターン錠、ソフトクローズ仕様、他標準金物一式		
備考	大建工業:おもいやりキッズドア同等品			大建工業:おもいやりキッズドア同等品									大建工業:おもいやりキッズドア同等品			大建工業:おもいやりキッズドア同等品		

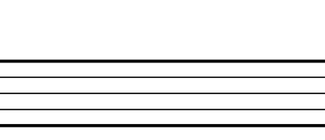
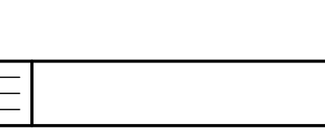
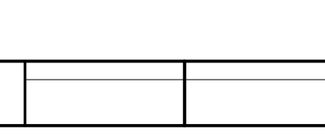
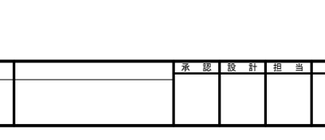
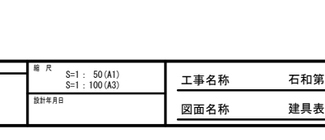
符号・名称	WD 7	ハンガー片引き戸（額付）【既製品】		WD 8	引き違い戸（額付）		WD 9	片引き戸		WD 10	ハンガー片引き戸（額付）		WD 11	ハンガー片引き戸（額付）		WD 12	ハンガー片引き框戸	
姿図																
取付階・室名・箇所数	1F	0歳室(10人)	3	1F	医務室	1	1F	相談室(授乳室)	1	1F	廊下(職員)	1	1F	医務室	1	1F	廊下(調理)	1
扉見込	35			35			35			35			35			35		
建具材質	建具仕上	木製	既製品	木製	ポリ合板		木製	ポリ合板		木製	ポリ合板		木製	OSCL		木製	OSCL	
ガラス種類	ガラス厚	強化透明(既製品に組込み)	0	FL	3		-	0		FL	3		FL	3		強化透明	5	
額縁・召摺等	木製(既製品)			木製(OSCL)			木製(OSCL)			木製(OSCL)			木製(OSCL)			木製(OSCL)		
附属金物	戸先クッション、両側サムターン錠、ソフトクローズ仕様、他標準金物一式			引手、戸車、戸当たり			引手、戸車、戸当たり			引手、戸当たり、ハンガーレール			引手、戸当たり、ハンガーレール			引手、戸当たり、ハンガーレール		
備考	大建工業:おもいやりキッズドア同等品																	

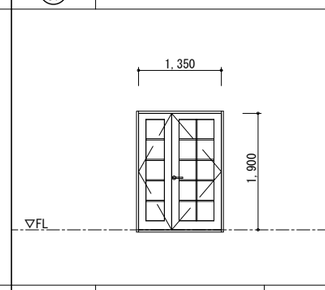
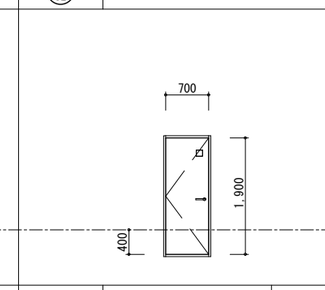
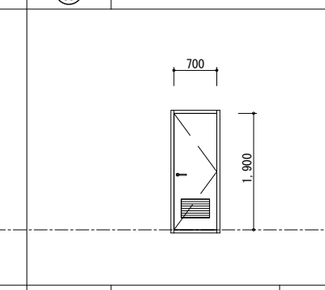
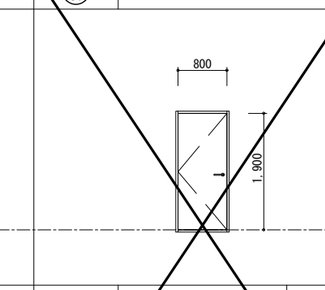
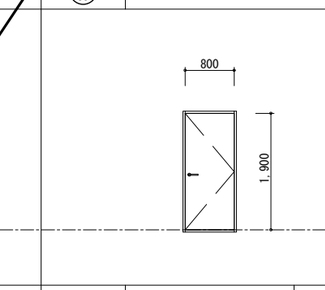
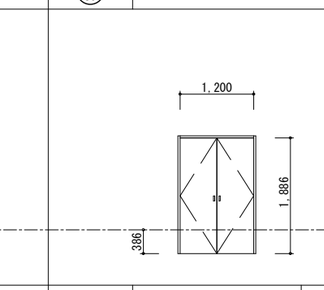
符号・名称	WD 13	ハンガー片引き框戸		WD 14	ハンガー片引き框戸		WD 15	ＦＩＸ窓		WD 16	ＦＩＸ窓		WD 17	ＦＩＸ窓		WD 18	片引き込み框戸	
姿図																
取付階・室名・箇所数	1F	トイレ(1~2歳)	1	1F	3歳室(17人)	2	1F	調乳室	1	1F	トイレ・沐浴室	1	1F	トイレ・沐浴室	1	1F	食育ルーム＆フリールーム	1
扉見込	35			35			35			35			35			35		
建具材質	建具仕上	木製	OSCL	木製	OSCL		木製	OSCL		木製	OSCL		木製	OSCL		木製	OSCL	
ガラス種類	ガラス厚	強化透明	5	強化透明	5		FL	3		FL	3		FL	3		強化透明	5	
額縁・召摺等	木製(OSCL)			木製(OSCL)			木製(OSCL)			木製(OSCL)			木製(OSCL)			木製(OSCL)		
附属金物	戸先クッション、両側サムターン錠、引き棒、戸当たり、ハンガーレール			戸先クッション、両側サムターン錠、引き棒、戸当たり、ハンガーレール			-			-			-			引手、戸車、戸当たり		
備考																		

建具表

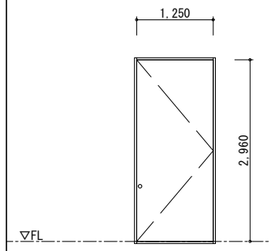
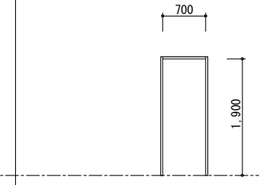
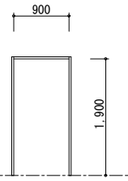
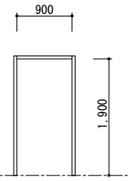
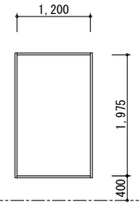
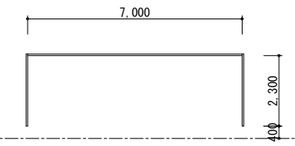
特記事項 訂正事項	承認	設計	担当		縮尺 S=1：50(A1) S=1：100(A3) 設計年月日	工事名称	石和第一保育所建設工事（建築主体）（債務）	No.
						図面名称	建具表（４）	A －４７

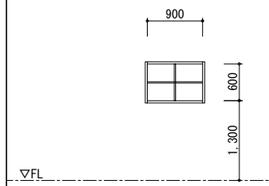
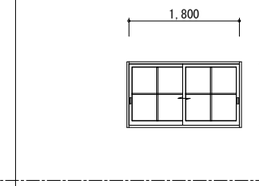
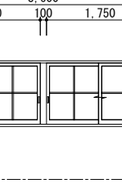
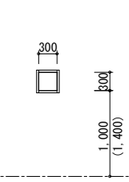
符号・名称	WD 19	ＦＩＸ窓		WD 20	ＦＩＸ窓		WD 21	ＦＩＸ窓		WD 22	ハンガー片引き戸（額付）		WD 23	ハンガー片引き戸		WD 24	ハンガー片引き戸	
姿図																	
取付階・室名・箇所数	1F	トイレ(1～2歳)	1	1F	トイレ(1～2歳)	1	1F	トイレ(3～5歳)	2	1F	トイレ(職員)	1	1F	脱衣室	1	1F	更衣室(Ⅲ)	2
扉見込			35			35			35			35			35			35
建具材質	建具仕上	木製	OSCL	木製	OSCL		木製	OSCL		木製	ポリ合板		木製	ポリ合板		木製	ポリ合板	
ガラス種類	ガラス厚	FL	3	FL	3		FL	3		F	4		-	0		-	0	
額縁・召摺等		木製(OSCL)		木製(OSCL)			木製(OSCL)			木製(OSCL)			木製(OSCL)			木製(OSCL)		
附属金物		-		-			-			引手、表示錠、サムターン、戸当たり、ハンガーレール			引手、戸当たり、ハンガーレール			引手、戸当たり、ハンガーレール		
備考																		

符号・名称	WD 25	ハンガー片引き戸		WD 26	引き違い戸		WD 27	引き違い戸		WD 28	引き違い戸		WD 29	ハンガー片引き框戸		WD 30	4枚引き違い戸	
姿図																	
取付階・室名・箇所数	1F	更衣室(M)	1	1F	押入	7	1F	押入	1	2F	控室	1	2F	トイレ	1	2F	遊戯室	1
扉見込			35			35			35			35			35			35
建具材質	建具仕上	木製	ポリ合板	木製	ポリ合板		木製	ポリ合板		木製	ポリ合板		木製	OSCL		木製	既製品	
ガラス種類	ガラス厚	-	0	-	0		-	0		-	0		強化透明	5		強化透明(既製品に組込み)	0	
額縁・召摺等		木製(OSCL)		木製(OSCL)			木製(OSCL)			木製(OSCL)			木製(OSCL)			木製(既製品)		
附属金物		引手、戸当たり、ハンガーレール		引手、戸車、戸当たり			引手、戸車、戸当たり			引手、戸車、戸当たり、シリンダー錠、サムターン			戸先クッション,両側サムターン錠、引き棒、戸当たり、ハンガーレール			戸先クッション、両側サムターン錠,ソフトクローズ仕様、他標準金物一式		
備考																大建工業:おもいやりキッズドア同等品		

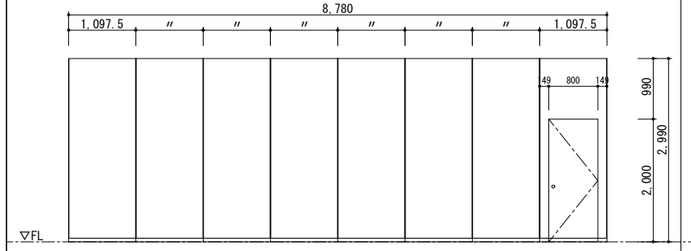
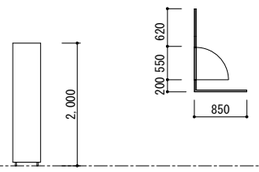
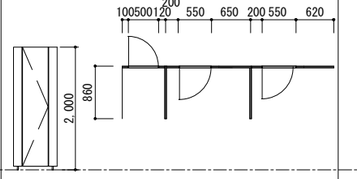
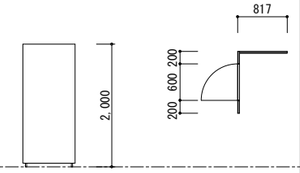
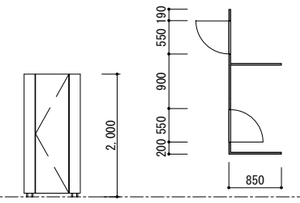
符号・名称	WD 31	親子框戸		WD 32	片開ドアー（額付）		WD 33	片開ドアー（ガラリ付）		WD 34	片開きドアー		WD 35	片開きドアー		WD 36	両開きドアー	
姿図																	
取付階・室名・箇所数	1F	事務室	1	1F	トイレ(調理)	1	1F	大人トイレ	1	1F	収納	2	1F	収納	2	1F	押入(調理)	1
扉見込			35			35			35			35			35			35
建具材質	建具仕上	木製	OSCL	木製	ポリ合板		木製	ポリ合板		木製	ポリ合板		木製	ポリ合板		木製	ポリ合板	
ガラス種類	ガラス厚	強化透明	5	F	4		-	0		-	0		-	0		-	0	
額縁・召摺等		木製(OSCL)		木製(OSCL)			木製(OSCL)			木製(OSCL)			木製(OSCL)			木製(OSCL)		
附属金物		レバーハンドル錠、サムターン、丁番、戸当たり、ＤＣ		レバーハンドル、表示錠、丁番、戸当たり			レバーハンドル、表示錠、丁番、戸当たり			レバーハンドル、丁番、戸当たり			レバーハンドル、丁番、戸当たり			握り手、丁番、マグネットキャッチ		
備考							腰部:ガラリ											

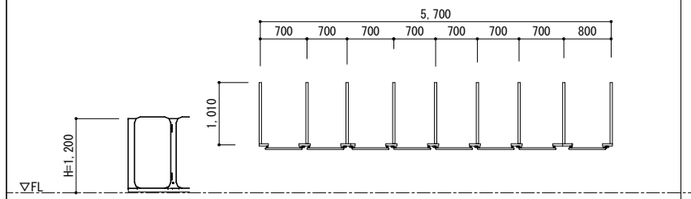
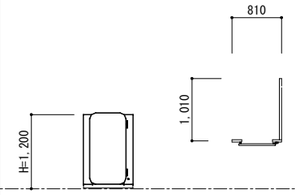
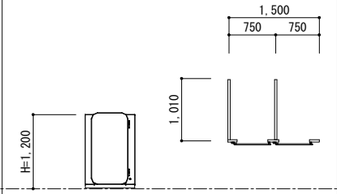
特記事項 訂正事項					承認	設計	担当		縮尺 S=1：50(A1) S=1：100(A3) 設計年月日	工事名称 石和第一保育所建設工事（建築主体）（債務） 図面名称 建具表（５）	No. A－48

符号・名称	WD 37	片開きドアー		WF 1	3方枠（木製）		WF 2	3方枠（木製）		WF 3	3方枠（木製）		WF 4	3方枠（木製）		WF 5	ステージ3方框（木製）	
姿図																	
取付階・室名・箇所数	1F	パネル収納庫	1	1F	給湯室	1	1F	調乳室	1	1F	調乳室	1	2F	ｽﾃｰｼﾞ	1	2F	ｽﾃｰｼﾞ	1
扉見込			35			–			–			–			–			–
建具材質	建具仕上	木製	ポリ合板	–		–	–		–	–		–	–		–	–		–
ガラス種類	ガラス厚	–	0	–		0	–		0	–		0	–		0	–		0
額縁・沓摺等		木製(OSCL)		木製(OSCL)			木製(OSCL)			木製(OSCL)			木製(OSCL)			木製(OSCL)		
附属金物		ケースハンドル、丁番、戸当たり		–			–			–			–			–		
備考																		

符号・名称	WW 1	ＦＩＸ窓		WW 2	引き違い框窓		WW 3	引き違い框連窓		WW 4	ＦＩＸ窓							
姿図																		
取付階・室名・箇所数	1F	調乳室	1	1F	事務室	1	1F	事務室	1	1F	1歳室、3歳室	8						
扉見込			35			35			35			35						
建具材質	建具仕上	木製	OSCL	木製		OSCL	木製		OSCL	木製		OSCL						
ガラス種類	ガラス厚	FL	3	FL		3	FL		3	FL		3						
額縁・沓摺等		木製(OSCL)		木製(OSCL)			木製(OSCL)			木製(OSCL)								
附属金物		–		引手、戸車、クレセント、戸当たり			引手、戸車、クレセント、戸当たり			–								
備考																		
符号・名称																		
姿図																		
取付階・室名・箇所数																		
扉見込																		
建具材質	建具仕上																	
ガラス種類	ガラス厚																	
額縁・沓摺等																		
附属金物																		
備考																		

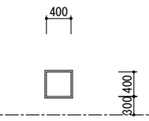
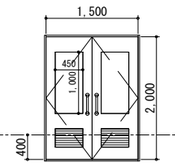
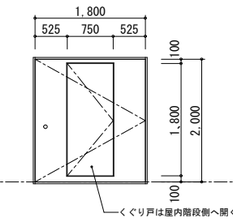
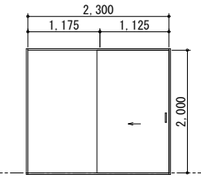
特記事項 訂正事項						承認	設計	担当		縮尺 A1 S=1：50 (A1) S=1：100 (A3) 設計年月日	工事名称 石和第一保育所建設工事（建築主体）（債務） 図面名称 建具表（６）	No. A －４９

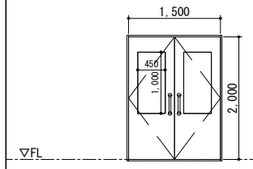
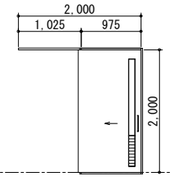
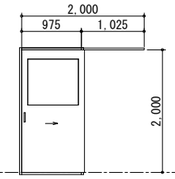
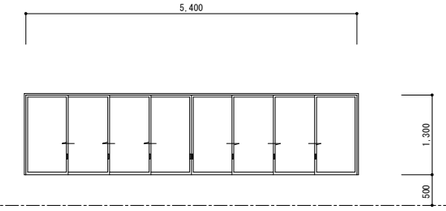
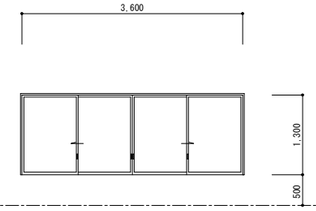
符号・名称	SLW 1 スライディングウォール	TB 1 トイレブース	TB 2 トイレブース	TB 3 ＳＫブース	TB 4 トイレ+ＳＫブース
姿図					
取付階・室名・箇所数	1F 4歳室、5歳室 1	1F トイレ(3～5歳) 1	2F トイレ 1	1F トイレ・沐浴室 1	1F トイレ(1～2歳) 1
扉見込	60	40	40	40	40
建具材質 / 建具仕上	カラー鋼板 / 焼付け塗装	ペーパーコア / メラミン化粧合板	ペーパーコア / メラミン化粧合板	ペーパーコア / メラミン化粧合板	ペーパーコア / メラミン化粧合板
ガラス種類 / ガラス厚	－ / 0	－ / 0	－ / 0	－ / 0	－ / 0
額縁・沓摺等	－	－	－	－	－
附属金物	ドア付パネル、ハンガーレール、ランナー、操作レバー、他一式	頭つなぎ,表示錠、ラバトリーヒンジ、戸当たり、他一式	頭つなぎ,表示錠、ラバトリーヒンジ、戸当たり、他一式	頭つなぎ,ラバトリーヒンジ、戸当たり、他一式	頭つなぎ,表示錠、ラバトリーヒンジ、戸当たり、他一式
備考					

符号・名称	TB 5 幼児用トイレ+ＳＫブース	TB 6 幼児用トイレブース	TB 7 幼児用トイレブース		
姿図					
取付階・室名・箇所数	1F トイレ(3～5歳) 1	1F トイレ・沐浴室 1	2F トイレ 1		
扉見込	38	38	38		
建具材質 / 建具仕上	ＬＶＬ / メラミン化粧合板	ペーパーコア / メラミン化粧合板	ペーパーコア / メラミン化粧合板		
ガラス種類 / ガラス厚	－ / 0	－ / 0	－ / 0		
額縁・沓摺等	－	－	－		
附属金物	セーフエッジ仕様、表示錠、ラバトリーヒンジ、戸当たり、他一式	セーフエッジ仕様、表示錠、ラバトリーヒンジ、戸当たり、他一式	セーフエッジ仕様、表示錠、ラバトリーヒンジ、戸当たり、他一式		
備考					

符号・名称																				
姿図																				
取付階・室名・箇所数																				
扉見込																				
建具材質 / 建具仕上																				
ガラス種類 / ガラス厚																				
額縁・沓摺等																				
附属金物																				
備考																				

特記事項 訂正事項					承認	設計	担当		縮尺 S=1：50(A1) S=1：100(A3) 設計年月日	工事名称 石和第一保育所建設工事（建築主体）（債務）	No.
										図面名称 建具表（７）	Ａ－５０

符号・名称	PW 1	ＦＩＸ窓　【特定防火設備】(EA-0132同等品)	PW 2	ＦＩＸ窓　【特定防火設備】(EA-0132同等品)			SD 1	両開きドアー（額、ガラリ付）　【防火設備】(例示仕様)	SD 2	常時開放式片開きドアー(90度)【特定防火設備(常閉)】(例示仕様)	SD 3	常時閉鎖式片引き込み戸 【特定防火設備(常閉)】(CAS-1153同等品)
姿図										
取付階・室名・箇所数	2F	遊戯室　1	2F	遊戯室　1			1F	検収室　1	2F	廊下　1	2F	会議室　1
扉見込	35		35				35		35		35	
建具材質 / 建具仕上	スチール	SOP塗装	スチール	SOP塗装			スチールt=0.8	SOP塗装	スチール	SOP塗装	スチール	SOP塗装
ガラス種類 / ガラス厚	耐熱透明	4	耐熱透明	4			PWC	6.8	-	0	-	0
額縁・召摺等	スチール(SOP塗装)		スチール(SOP塗装)				スチール(SOP塗装)		スチール(焼付塗装)		スチール(焼付塗装)	
附属金物	-		-				レバーハンドル、シリンダー錠、サムターン、戸当たり		感知器連動,ケースハンドル、くぐり戸、他一式		引き棒、戸当たり、他一式	
備考							腰部:ガラリ(FD付)				戸袋なしタイプ(面付納まり)	

符号・名称	SD 4	両開きドアー（額、ガラリ付）　【防火設備】(例示仕様)	LD 1	軽量ハンガー片引き戸	LD 2	軽量ハンガー片引き戸	LW 1	4連引き分け窓	LW 2	4連引き分け窓
姿図									
取付階・室名・箇所数	2F	廊下　1	1F	多機能トイレ　1	2F	ノンコンタクトルーム　1	1F	調理室　1	1F	調理室　1
扉見込	35		35		35		30		30	
建具材質 / 建具仕上	スチール	SOP塗装	軽量スチール	焼付塗装	軽量スチール	焼付塗装	粉体焼付塗装鋼板t=0.5(芯材:ﾍﾟｰﾊﾟｰｺｱ)	-	粉体焼付塗装鋼板t=0.5(芯材:ﾍﾟｰﾊﾟｰｺｱ)	-
ガラス種類 / ガラス厚	PWC	6.8	F	4	FL	3	FL	3	FL	3
額縁・召摺等	スチール(SOP塗装)		軽量スチール(焼付塗装)		軽量スチール(焼付塗装)		額縁：粉体焼付塗装鋼板、下枠：U型ｽﾃﾝﾚｰﾙ（SUS304）		額縁：粉体焼付塗装鋼板、下枠：U型ｽﾃﾝﾚｰﾙ（SUS304）	
附属金物	レバーハンドル、シリンダー錠、サムターン、戸当たり		引き棒、表示錠、サムターン、戸当たり、ハンガーレール		引き棒、戸当たり、ハンガーレール		指挟み防止戸先ゴム、引き残しストッパー、引手、クレセント、他一式		指挟み防止戸先ゴム、引き残しストッパー、引手、クレセント、他一式	
備考										

符号・名称												
姿図												
取付階・室名・箇所数												
扉見込												
建具材質 / 建具仕上												
ガラス種類 / ガラス厚												
額縁・召摺等												
附属金物												
備考												

特記事項
訂正事項

承認	設計	担当	

縮尺 R
S=1：50(A1)
S=1：100(A3)
設計年月日

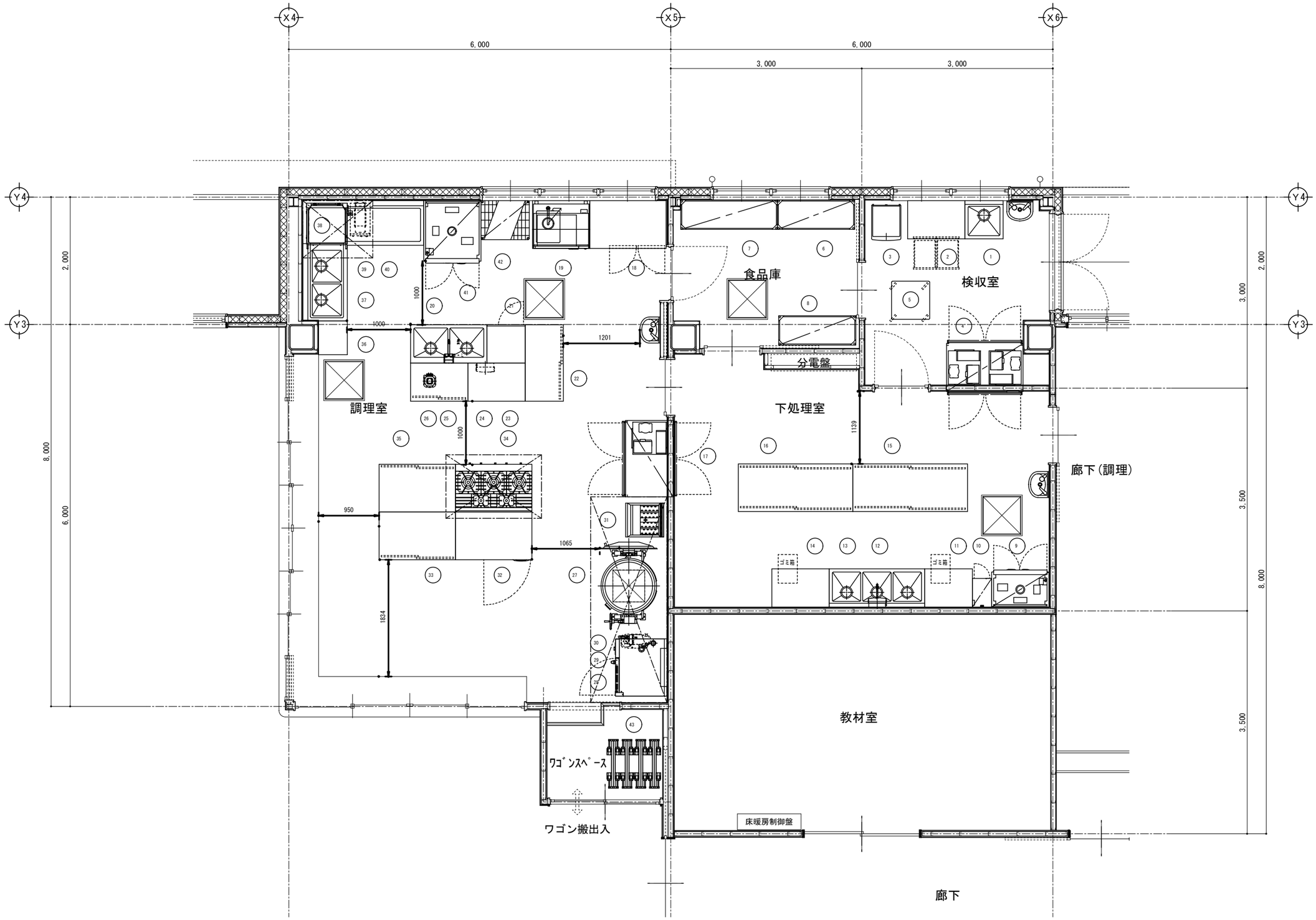
工事名称　石和第一保育所建設工事（建築主体）（債務）
図面名称　建具表（８）

No.
Ａ－５１

厨房機器リスト

No.	品名	形式	台数	寸法(mm) W	D	H	配管口径(A) 給水	給湯	排水 機器側	排水 設備側	LPG 口径 A	LPG kW	電気(50Hz,kW) 単相100V	単相200V	三相200V	フード	備考
1	一槽シンク	H1S-66B-B	1	600	600	800	15	15	40	50							
2	引出付ワークテーブル	HWT-96-2D-B	1	900	600	800											
3	検食用冷凍ストッカー	VF-K120X	1	460	585	1110							0.13				
4	冷凍冷蔵庫	HRF-120BF3-4D4D	1	1200	850	1910			φ30,φ26	50×2					0.715		定格内容積：1054L(冷蔵室527L、冷凍室527L) コネクトWi-Fi対応可
5	移動テーブル	H1T-66-4F-B	1	600	600	800											
6	430ソリッドエレクターシェルフ	MSS1220・P190O-4A	1	1213	461	1892											4段
7	430ソリッドエレクターシェルフ	MSS1520・P190O-4A	1	1519	461	1892											4段
8	430ソリッドエレクターシェルフ	MSS1220・P190O-4A	1	1213	461	1892											4段
9	器具消毒保管庫	HSB-1OSB3-K	1	900	550	1900			25	50					4.6		コネクトWi-Fi対応可
10	包丁マナ板UV殺菌庫	UVS-30A	1	300	450	1550			25	50			0.325				
11	三方枠ワークテーブル	HPT-76-B	1	750	600	800											
12	電解水生成装置WOX	WOX-5OWB	1	285	145	335	15		φ6×2	シンク			0.17				
13	三槽シンク		1	1500	600	800	15×3	15×3	40×3	50×3							SUS304仕様
14	三方枠ワークテーブル	HPT-96-B	1	900	600	800											
15	キャビネットテーブル（両面式）		1	1800	750	800											
16	キャビネットテーブル（両面式）		1	1800	750	800											
17	冷蔵庫	HR-120B3-4G4G	1	1200	850	1910			φ30	50					0.421		定格内容積：1117L コネクトWi-Fi対応可
18	テーブル型冷凍冷蔵庫	RFT-120SDJ	1	1200	750	800			φ30	50			0.333				定格内容積：290L(冷蔵室139L、冷凍室151L) コネクトWi-Fi対応可
19	システム調理台	MKU-90S	1	900	750	1700	15	15	40	50			1.4,1.1				
20	二槽シンク		1	1200	600	800	15×2	15×2	40×2	50×2							SUS304仕様
21	包丁マナ板UV殺菌庫	UVS-60TA	1	600	600	800			25	50			0.32				
22	キャビネットテーブル(引戸式)	HCT-126-B	1	1200	600	800											
23	ワークテーブル	HWT-96-B	1	900	600	800											
24	電解水生成装置WOX	WOX-5OWB-R	1	285	145	335	15		φ6×2	50			0.17				
25	キャビネットテーブル(引戸式)	HCT-96-B	1	900	600	800											
26	ドリンク＆フードブレンダー	BB300S	1	192	212	400							0.64				
27	回転釜	KIG2-20	1	1390	1060	780	15	15		ピット	20	33.0				GF	満水量11Oリットル/排水ドロー
28	スチームコンベクションオーブン	MIC-6HSC3	1	900	770	790	15		φ38	耐熱50					10.1	GF	コネクトWi-Fi対応可
29	スチームコンベクション専用架台	HMIC-6P-SC	1	900	810	725											
30	軟水機	SSH-03C	1	220	456	427	15		15,16	50			0.004				
31	ガスフライヤー	MGF-23K	1	530	600	800					15	11.6				GF	
32	ブラストチラー＆ショックフリーザー	HBC-6TB3-L-2	1	1200	750	800			φ37	50					0.87		
33	キャビネットテーブル(引戸式)	HCT-127-B	1	1200	750	800											
34	ガステーブル	RGT-1275D	1	1200	750	800					25	58.1				GF	
35	キャビネットテーブル(引戸式)	HCT-127-B	1	1200	750	800											
36	三方枠ワークテーブル		1	(530)	(450)	850											
37	ソイルドテーブル		1	(1180)	700	850	15×2	15×2	40×2	50×2							
38	食器洗浄機	JWE-680C	1	640	655	1432	ブースター接続		φ38.5	耐熱50					5.06	要	
39	ガスブースター	WB-24J	1	315	510	680	15		25	耐熱50	15	24.0	0.092			要	
40	クリーンテーブル		1	1200	700	850											
41	食器消毒保管庫	HSB-2ODB3-S	1	900	950	1900			25	50					7.3		コネクトWi-Fi対応可
42	スーパーエレクターシェルフ(Ⅰ)	LS760・P159O-4A	1	758	613	1587											4段
43	折りたたみ式ステンレスワゴン	KEAM-3	4	763	505/200	958/1060											
	合計											126.7	4.684		29.066		

特記事項 訂正事項	承認	設計	担当	縮尺 S=Non 設計年月日	工事名称 石和第一保育所建設工事（建築主体）（債務）	No.
					図面名称 厨房機器リスト	A －52



特記事項 訂正事項					承認	設計	担当		縮尺 S=1:30(A1) S=1:60(A3) 設計年月日	工事名称 石和第一保育所建設工事（建築主体）（債務） 図面名称 厨房機器レイアウト図	No. A－53

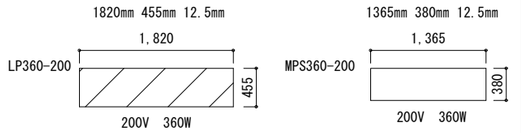
地中蓄熱床暖房工事特記仕様

ヒーター	電熱パネル　：クロム合金熱電線　ＦＥＰ被覆　（ハイフロンヒーター）
暖房対象面積 電気容量	503.4 ㎡ 電熱パネル容量　91.80　kw
制御方法	全自動運転　（床コンクリート内センサーに依るヒーターＯＮ－ＯＦＦ制御）
施工方法	地中蓄熱輻射式暖房（建物下部地中内敷設式）
受電契約	高圧業務用電力契約
電源・電圧	三相２００Ｖ　５０Ｈｚ

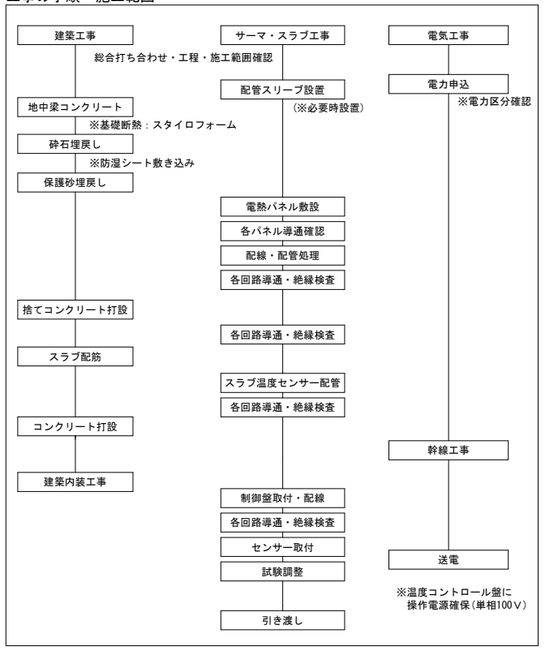
工事範囲

	内　　容	床暖房工事	建築工事	電気工事
１	床仕上げ工事		○	
２	モルタル打設工事		○	
３	コンクリート打設工事		○	
４	配筋工事		○	
５	防湿シート敷き込み工事		○	
６	整地・埋め戻し工事		○	
７	スリーブ設置工事(必要時)	○		
８	外周地中梁断熱工事（ｽﾀｲﾛﾌｫｰﾑ　ｔ＝50）		○	
９	電熱パネル敷設・結線工事・センサー取付工事	○		
１０	センサー用中継ボックス取付工事	○		
１１	一次側電源工事(幹線)			○
１２	配線工事	○		
１３	制御盤取付工事	○		

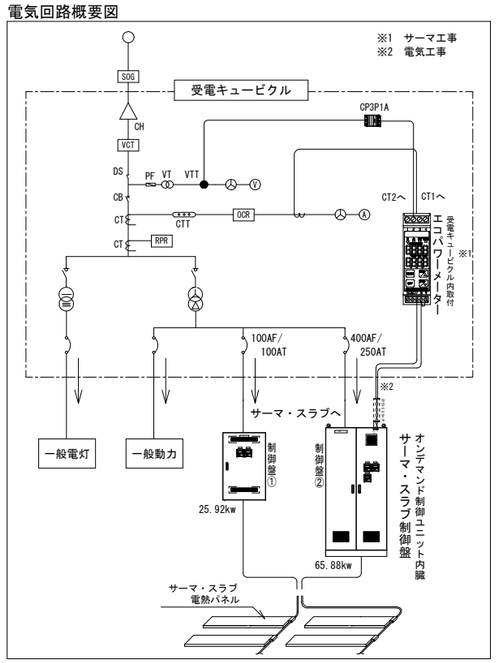
電熱パネル容量及び寸法



工事の手順・施工範囲

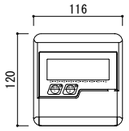


電気回路概要図



コントローラ

※５台（２台と３台）　制御盤面に設置

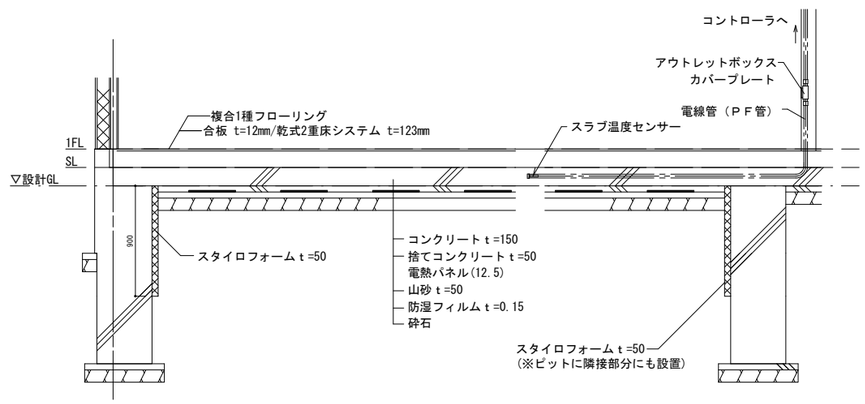


ＤＦＣＮ１５２－ＴＨ

※コントローラの
制御電源供給(100Ｖ)は
一次側電気工事

施工断面要領図(参考)

暖房範囲の外周部に地中梁断熱を施すこと（スタイロフォーム３種ｂｔ＝50相当以上）



部材一覧

	内　　容	数　量
１	電熱パネル:360W仕様（LP360-200）	４０枚
２	電熱パネル:360W仕様（MPS360-200）	２１５枚
３	エンドキャップ（PC-1）	２５５組
４	コントローラ	５面
５	制御盤	２面
６	トーメーキャップ（大）	４３６個
７	トーメーキャップ（小）	７４個
８	電線管（ＰＦ管￠１６mm：パナフレキエースＤＭ１６同等品）５０m巻	巻
９	電線管（ＰＦ管￠２２mm）　センサー用配管	９本
１０	電線：ＣＶ３．５mm²－２Ｃ	m
１１	シリコンシーラント（ＪＩＳ規格品：３３０ml入）	１５３本
１２	エンドキャップ固定用ビス（タッピングネジ：M3.5　L30mm）	１２７５本
１３	圧着リングスリーブ（中）　１００個／箱	６箱
１４	インシュロック　Ｌ－１５０Ｍ（１００本/袋）	６袋
１５	センサー用延長ケーブル：ＶＣＴＦ0.5mm²－2C	m
１６	センサー用中継ボックス：アウトレットボックス３個口(カバープレート付)	個

制御盤姿図

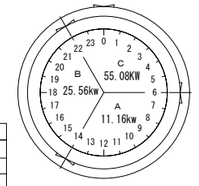
※計２台設置

制御盤①　11回路
（壁掛け型：事務室に設置）

制御盤②　26回路
（自立型：教材室に設置）

３時間帯　割り振り

サーマ・スラブ稼動可能時間（24時間）を
Ａゾーン・Ｂゾーン・Ｃゾーンに分けて
８時間づつ稼働させます。
一般負荷が稼働する時間帯はデマンドを
監視して 想定デマンド内（60kw目安）に
抑えるよう制御します。



	【稼働時間】	【系統】	【容量】
A	6：00～14：00	8	11.16 kw
B	14：00～22：00	7・9	25.56 kw
C	22：00～ 6：00	1・2・3 4・5・6	55.08 kw

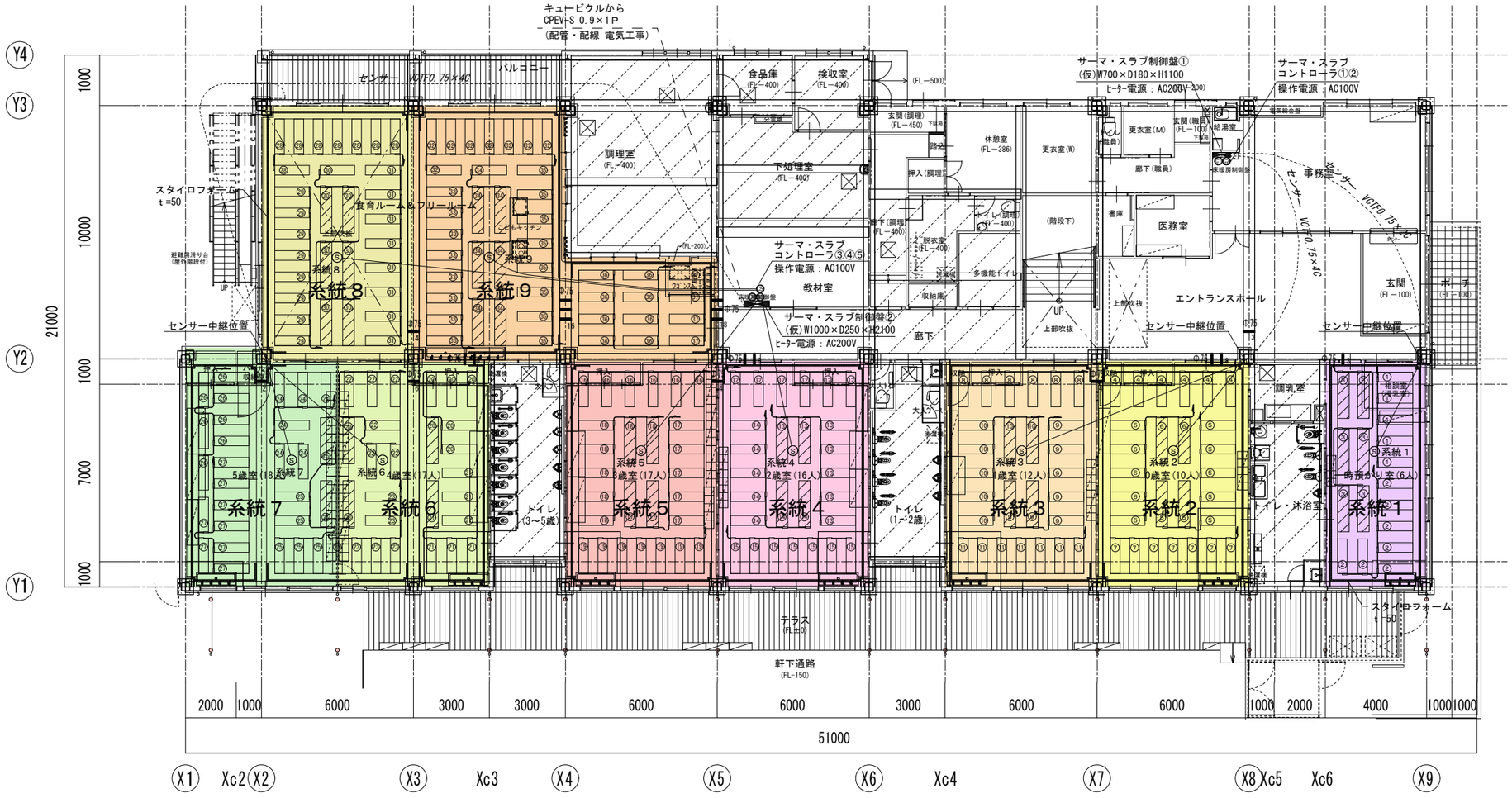
凡　例

▭	エンドキャップ（PC-1）
——	電線：CV3.5mm² -2C　PF（16）
▬	制御盤：２面
Ⓒ	コントローラ（２系統仕様）：５面
Ⓢ	スラブセンサー：床コンクリート埋設
☒	中継ボックス(位置)：センサー用(コントローラまで中継)
▬	配管スリーブ(必要時)：パネル敷設レベルに設置

回路凡例

制御		回路	容量 ▨ 360W	容量 ▭ 360W	容　量	抵抗値
制御盤①	コントローラ1	系統1 ①	—	5	1，800W	22．2Ω
		②	—	7	2，520W	15．9Ω
		③	6	—	2，160W	18．5Ω
		小計	6	12	6，480W	
	コントローラ2	系統2 ④	—	6	2，160W	18．5Ω
		⑤	2	5	2，520W	15．9Ω
		⑥	2	5	2，520W	15．9Ω
		⑦	—	7	2，520W	15．9Ω
		小計	4	23	9，720W	
		系統3 ⑧	—	6	2，160W	18．5Ω
		⑨	2	5	2，520W	15．9Ω
		⑩	2	5	2，520W	15．9Ω
		⑪	—	7	2，520W	15．9Ω
		小計	4	23	9，720W	
	制御盤①合計		14	58	25，920W	
制御盤②	コントローラ3	系統4 ⑫	—	6	2，160W	18．5Ω
		⑬	2	5	2，520W	15．9Ω
		⑭	2	5	2，520W	15．9Ω
		⑮	—	7	2，520W	15．9Ω
		小計	4	23	9，720W	
		系統5 ⑯	—	6	2，160W	18．5Ω
		⑰	2	5	2，520W	15．9Ω
		⑱	2	5	2，520W	15．9Ω
		⑲	—	7	2，520W	15．9Ω
		小計	4	23	9，720W	
	コントローラ4	系統6 ⑳	1	5	2，160W	18．5Ω
		㉑	1	6	2，520W	15．9Ω
		㉒	1	6	2，520W	15．9Ω
		㉓	1	6	2，520W	15．9Ω
		小計	4	23	9，720W	
		系統7 ㉔	—	6	2，160W	18．5Ω
		㉕	2	5	2，520W	15．9Ω
		㉖	—	7	2，520W	15．9Ω
		㉗	—	8	2，880W	13．9Ω
		小計	2	26	10，080W	
	コントローラ5	系統8 ㉘	—	8	2，880W	13．9Ω
		㉙	—	8	2，880W	13．9Ω
		㉚	6	1	2，520W	15．9Ω
		㉛	—	8	2，880W	13．9Ω
		小計	6	25	11，160W	
		系統9 ㉜	—	8	2，880W	13．9Ω
		㉝	—	8	2，880W	13．9Ω
		㉞	6	1	2，520W	15．9Ω
		㉟	—	8	2，880W	13．9Ω
		㊱	—	8	2，880W	13．9Ω
		㊲	—	4	1，440W	27．8Ω
		小計	6	37	15，480W	
	制御盤②合計		26	157	65，880W	
総　合　計			40	215	91，800W	

特記事項 訂正事項	承　認	設　計	担　当	縮　尺 S=Non 設計年月日	工事名称　石和第一保育所建設工事（建築主体）（債務）	No. A －54
					図面名称　床暖房詳細図（１）	



1Fカラー平面図 1/100

ピット

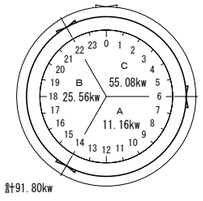
【サーマ・スラブ暖房範囲図】

制御盤	ｺﾝﾄﾛｰﾗ	凡例系統	主要室名	容量	暖房面積	電熱ﾊﾟﾈﾙ(360W)	回路数	
制御盤① 11回路 25.92kw	C1	①	一時預かり室・相談室	6.48kw	35.6㎡	18	3	デマンド制御なし
	C2	②	0歳室	9.72kw	53.4㎡	27	4	
		③	1歳室	9.72kw	53.4㎡	27	4	
制御盤② 26回路 65.88kw	C3	④	2歳室	9.72kw	53.4㎡	27	4	デマンド制御あり
		⑤	3歳室	9.72kw	53.4㎡	27	4	
	C4	⑥	4歳室	9.72kw	53.4㎡	27	4	
		⑦	5歳室	10.08kw	55.0㎡	28	4	
	C5	⑧	食育ﾙｰﾑ&ﾌﾘｰﾙｰﾑ(吹抜け側)	11.16kw	60.6㎡	31	4	
		⑨	食育ﾙｰﾑ&ﾌﾘｰﾙｰﾑ(調理室側)	15.48kw	85.2㎡	43	6	
計				91.80kw	503.4㎡	255	37	

3時間帯割り振り

サーマ・スラブ稼動可能時間（２４時間）をＡゾーン・Ｂゾーン・Ｃゾーンに分けて８時間づつ稼働させます。
一般負荷が稼働する時間帯はデマンドを監視して 想定デマンド内（６０kw目安）に抑えるよう制御します。

	【稼働時間】	【系統】	【容量】
A	6：00〜14：00	8	11.16kw
B	14：00〜22：00	7・9	25.56kw
C	22：00〜 6：00	1・2・3 4・5・6	55.08kw



サーマ・スラブ　パネル凡例

	LP360-200	360W× 40枚	14,400W
	MPS360-200	360W× 215枚	77,400W
合計		255枚	91,800W

凡例

	エンドキャップ（PC-1）
	電線：CV3.5mm²-2C PF（16）
	制御盤：２面
Ⓒ	コントローラ（２系統仕様）：５面
Ⓢ	スラブセンサー：床コンクリート埋設
☒	中継ボックス：センサー用(コントローラまで中継)
	配管スリーブ(必要時)：パネル敷設レベルに設置

工事名称	石和第一保育所　建設工事
図面名称	サーマ・スラブ　パネル敷設図
暖房面積	５０３．４㎡
電気契約	高圧業務用電力契約
敷設容量	９１．８０ｋｗ
メーカー	サーマエンジニアリング株式会社

特記事項
訂正事項

承認 | 設計 | 担当

縮尺 S=1：100(A1) S=1：200(A3)
設計年月日

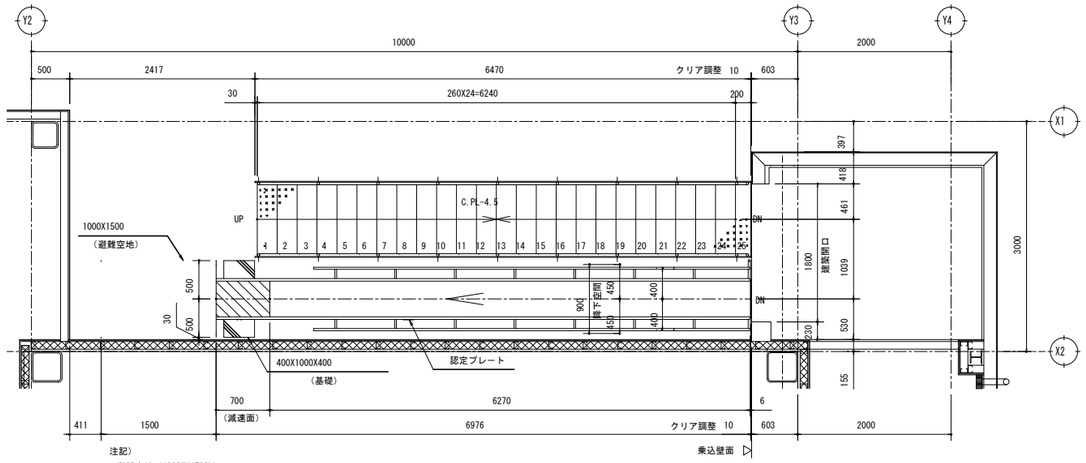
工事名称　石和第一保育所建設工事（建築主体）（債務）
図面名称　床暖房詳細図（２）

No. A－55

避難用すべり台		仕上塗装色	
（財）日本消防設備安全センター認定品　スカイフロウST-0型　たい-069号			
使用材料	ステンレス材　SUS304　H.L（ヘアーライン仕上げ）		
	一般鋼材　SS400，STK400，STKM-11A，SGHC		
塗装仕様-鉄部	防錆　溶融亜鉛メッキ（メッキ鋼板，メッキ処理パイプ，ステンレス材は除く）		
	メッキ処理後，溶接部分はローバル補修とする。		
	下地処理塗装　焼付型防錆プライマー　（ステンレス材は除く）		
	仕上塗装　粉体焼付塗装　（ポリエステル樹脂粉体塗料） （ステンレス材は除く）　一色塗り（富士産業指定色） 大型焼付炉内温度　180度　20 min		
地耐力	地耐力は50kN／m　以上，コンクリート強度FC-1.8kN／cm　以上とする。		
工事区分	基礎工事・ガセットプレート（材料・製作・取付）工事は建築工事とし、 すべり台工事に含まないこととする。		

鉄骨階段・踊場は認定外とする。

鉄骨階段・踊場		仕上塗装色	
スカイフロウKS-A1型			
使用材料	一般鋼材　SS400，STK400，STKM-11A		
塗装仕様-鉄部	防錆　溶融亜鉛メッキ（メッキ処理パイプは除く）		
	メッキ処理後，溶接部分はローバル補修とする。		
	下地処理塗装　焼付型防錆プライマー		
	仕上塗装　粉体焼付塗装　（ポリエステル樹脂粉体塗料） 一色塗り（富士産業指定色） 大型焼付炉内温度　180度　20 min		
地耐力	地耐力は50kN／m　以上，コンクリート強度FC-1.8kN／cm　以上とする。		
工事区分	基礎工事・ガセットプレート（材料・製作・取付）工事は 建築工事とし、階段工事に含まないこととする。		



注記）
・避難空地（1000WX1500L）
　段差・障害物があってはいけません。
・降下空間（900WX1000H）
　障害物があってはいけません。

平面図　1／40

立面図　1／40

階段（自重）　1000 Kg

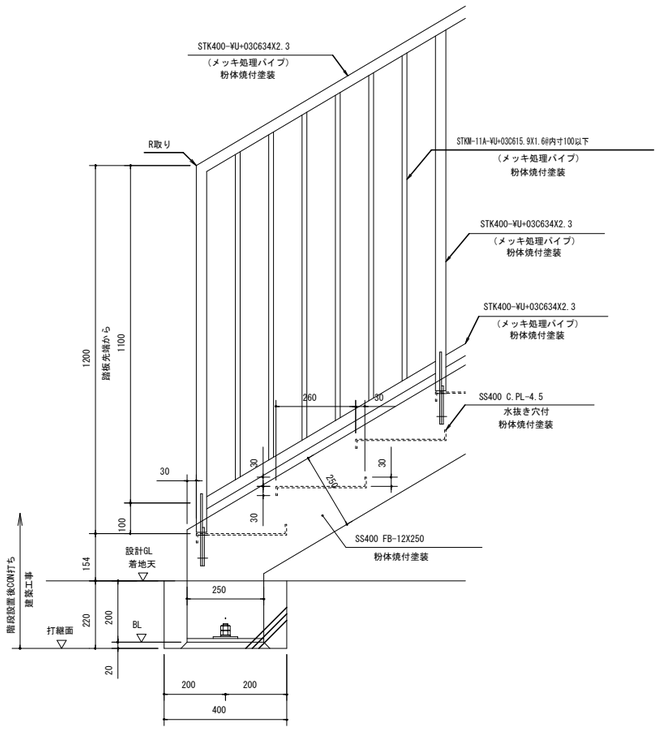
階段（積載荷重）　1950 Kg

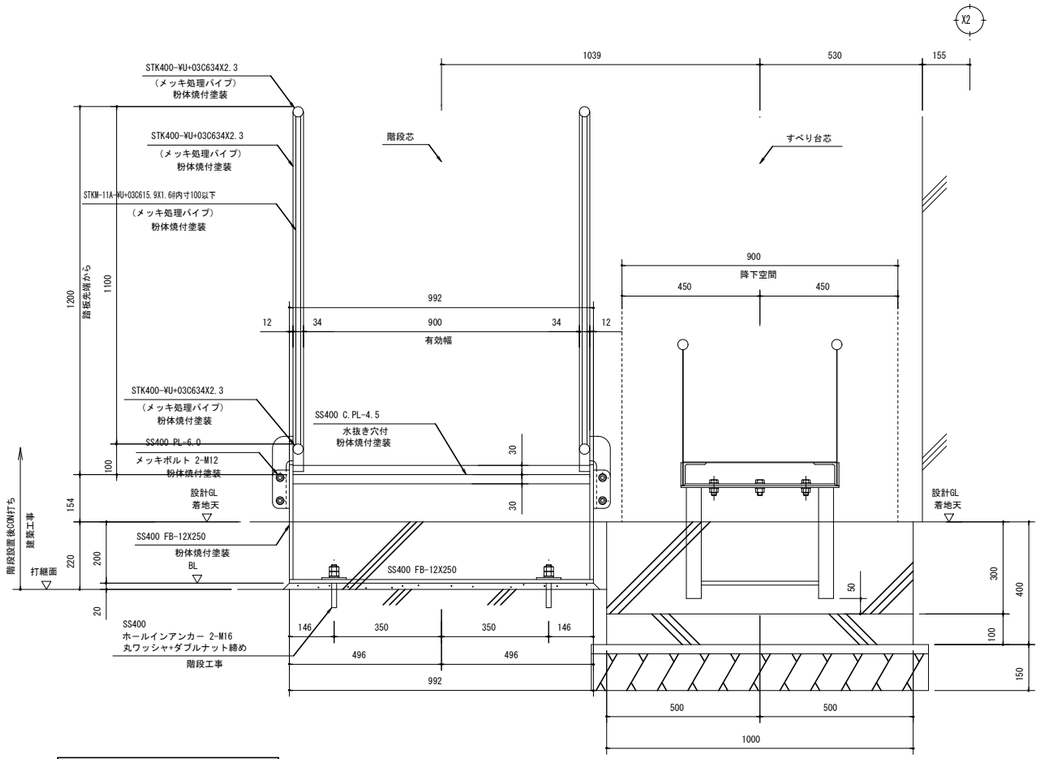
立面図　1／40

すべり台（自重）　460 Kg

すべり台（積載荷重）　1050 Kg

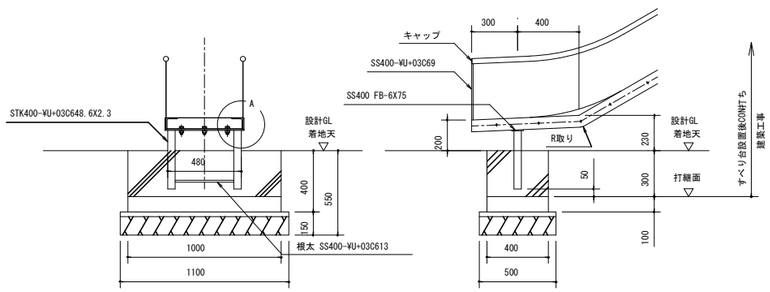
特記事項 訂正事項						承認	設計	担当		縮尺 S=1：40(A1) S=1：80(A3) 設計年月日	工事名称　石和第一保育所建設工事（建築主体）（債務） 図面名称　避難用滑り台詳細図（１）	No. A －56





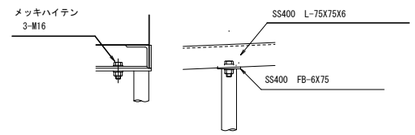
断面詳細図　1／10

階段



基礎図　1／20

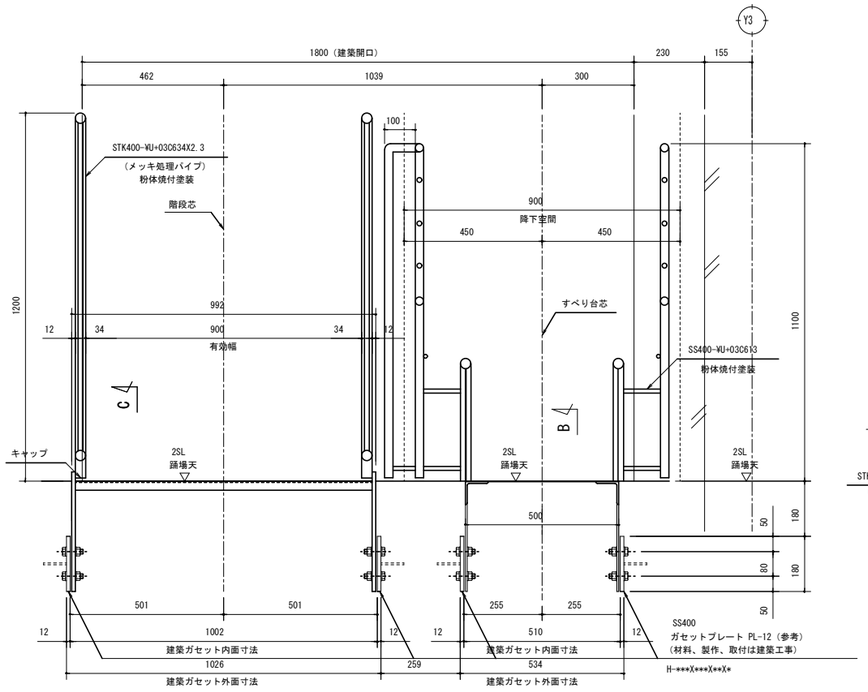
すべり台



A詳細図　1／10

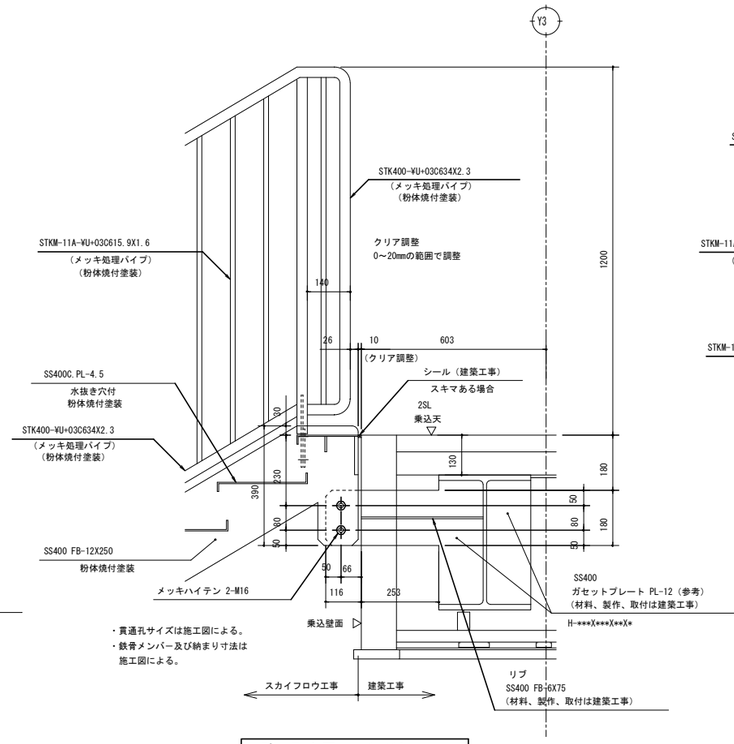
すべり台

特記事項 訂正事項					承認	設計	担当		縮尺 S=1：10、20(A1) S=1：20、40(A3) 設計年月日	工事名称 石和第一保育所建設工事（建築主体）（債務） 図面名称 避難用滑り台詳細図（２）	No. A －57



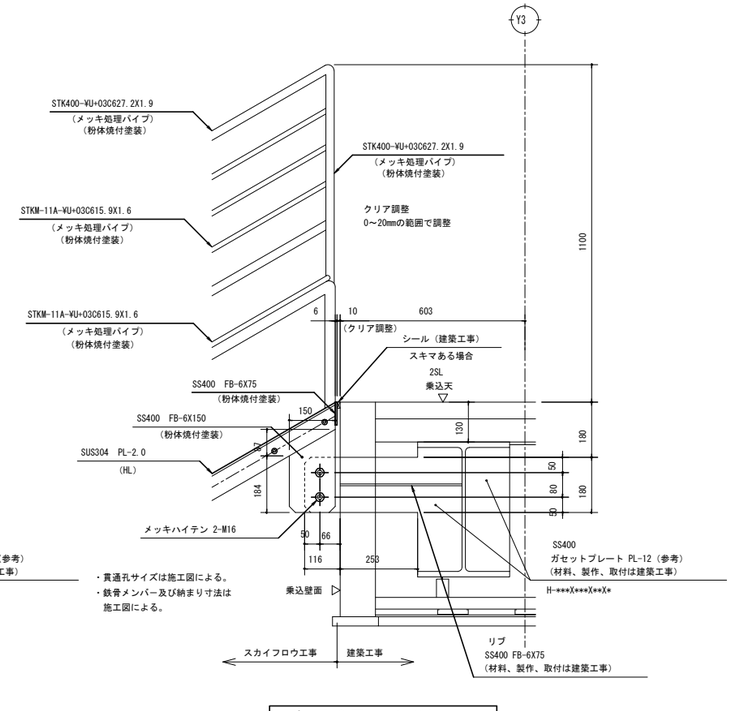
ガセットプレート位置図　1／10

階段・すべり台側から図視



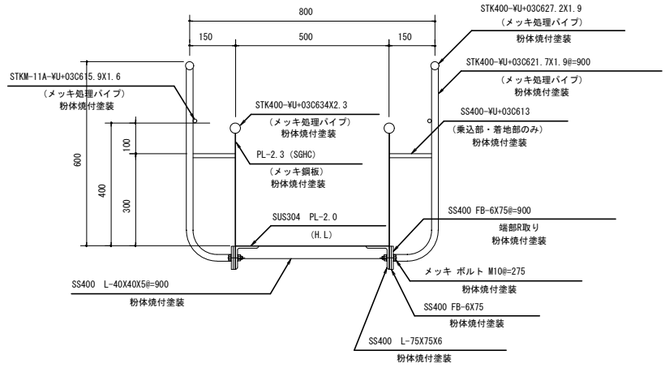
壁面取合図　1／10

階段　C矢視図



壁面取合図　1／10

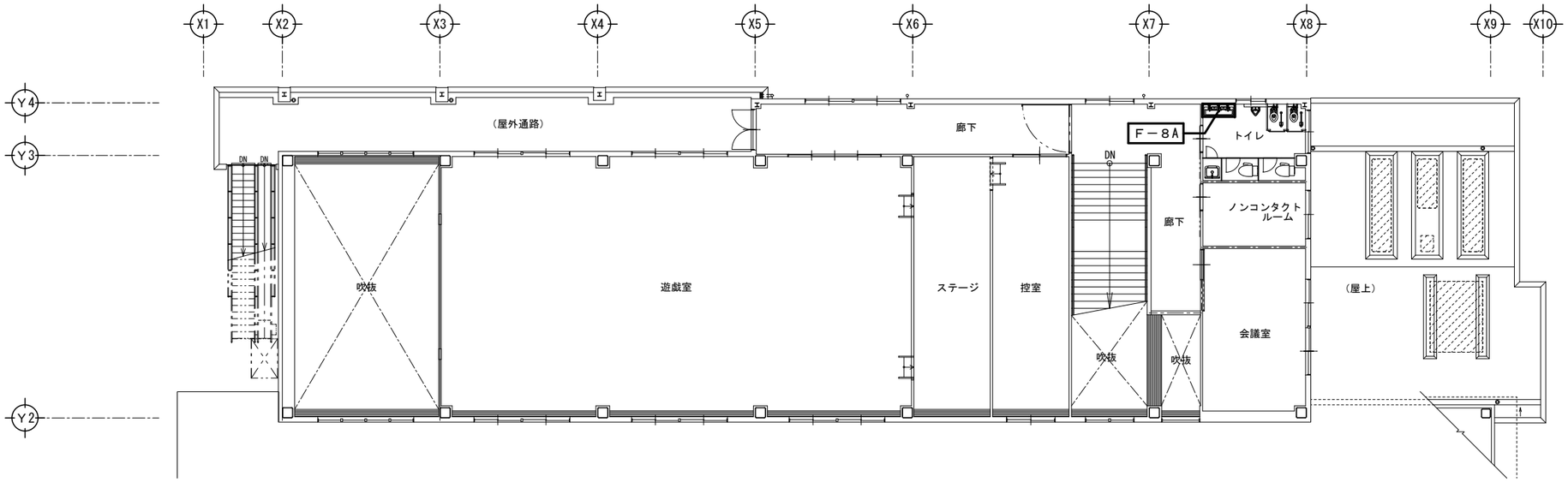
すべり台　B矢視図

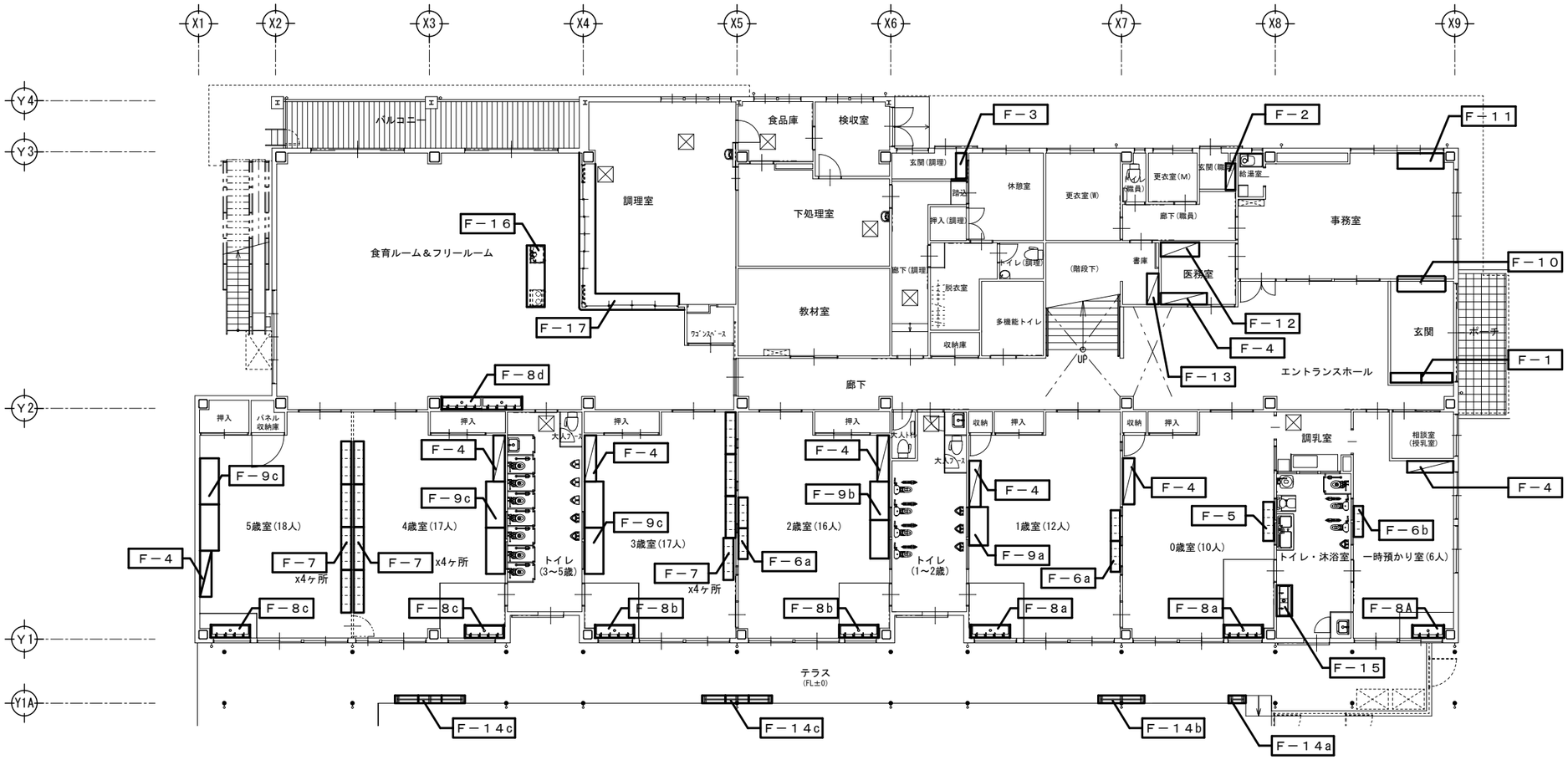


断面詳細図　1／10

すべり台

特記事項 訂正事項						承認	設計	担当		縮尺 S=1：10(A1) S=1：20(A3) 設計年月日	工事名称　石和第一保育所建設工事（建築主体）（債務） 図面名称　避難用滑り台詳細図（３）	No. A －５８



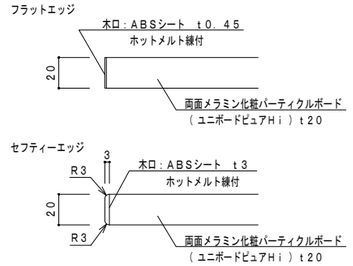


特記事項 訂正事項					承認	設計	担当		縮尺 S=1：100（A1） S=1：200（A3） 設計年月日	工事名称 石和第一保育所建設工事（建築主体）（債務） 図面名称 家具キープラン	No. A －59

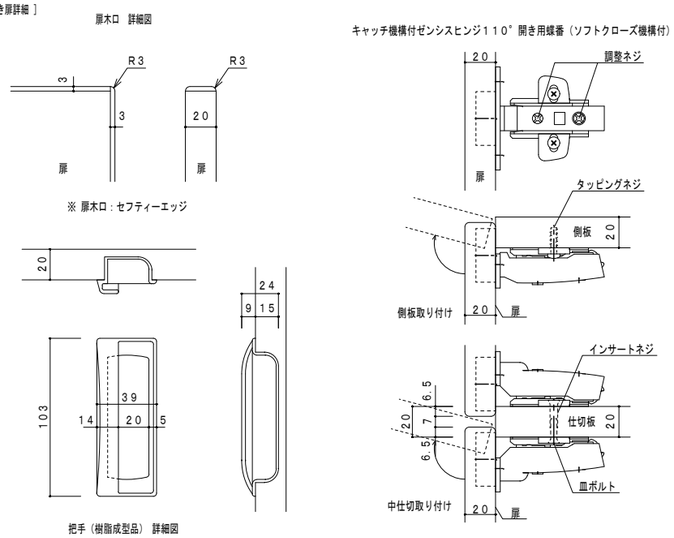
家具共通仕様「 図面中に特記なき所は下記の仕様とする。」

1	本体・棚板	室内ＶＯＣ（ ホルムアルデヒド等 ）の低減効果と抗菌機能を持った可視光増感型触媒を工業的に配合した 両面メラミン化粧パーティクルボード（ ユニボードピュアＨｉ ）厚さ２０mm、Ｆ☆☆☆☆を使用する。 上記材料は、ＪＩＳ－Ａ５９０８適合、１８タイプ（ 曲げ強さ１８Ｎ／平方ミリメートル以上 ）とし、 ＪＩＳマーク認定の国内工場での生産品、且つグリーン購入法適合品とする。
2	木口処理	躯体からの水分浸入を防ぐために、本体は背面も含めてフラットエッジ（ ＡＢＳ製樹脂をホットメルト練付 ）加工とする。 開き扉・抽斗前板はセフティーエッジ（ ＡＢＳ製　厚さ３mm　ホットメルト練付 ）加工とする。
3	表面処理	本体・棚板・建具等は使用時の擦り傷の発生を抑制するために鉛筆硬度　９Ｈ　以上の表面材を使用する。 本体色については色見本帳（ ４５色以上 ）を提出の上決定する。
4	裏板	ポリエステル化粧合板　Ｆ☆☆☆☆　厚さ４mmを使用し、 片面フラッシュ（ ４５０mm　ピッチ以内に格子状桟組構造 ）とする。
5	本体組立て	組立ては、製作工場での木製ダボ組接合とし、接合部のノックダウン金物は使用不可とする。
6	巾木・台輪	ポリエステル化粧合板仕上げ　Ｆ☆☆☆☆（ 塗装不要 ）とする。
7	建具	板戸・戸枠は、くるいやホゾ抜け防止のため、かまち組み等は不可とし１枚物とする。 戸枠付きガラス戸は、安全性のため透明強化の刻印入り　厚さ４mmを使用し メンテナンスが容易な樹脂成型（ ＡＢＳ製 ）の押縁で固定する。
8	把手・蝶番	樹脂成型品（ ＡＢＳ製 ）の把手・引手を使用する。 蝶番は、メンテナンスが容易なキャッチ機構付１１０°開きゼンシスヒンジ（ ソフトクローズ機構付 ）を使用する。
9	抽斗箱	樹脂化粧ＭＤＦ　厚さ１５mmとする。
10	棚板受け	安全で外れにくいネジ込み式で、錆びにくいステンレス製ダボ　φ８－Ｍ６を使用する。 棚板は外れ止めシャクリ加工を施す。
11	特記事項	環境配慮及び品質確保のため、取り扱いは ＩＳＯ １４００１、製作は ＩＳＯ ９００１ 取得企業とする。 製作にあたり、事前に製品の品質証明書及び材料と接着剤の安全データシートを提出し、素材・金物の承認を受ける。
12	施工	家具取付は、安全のため壁や床に耐震固定を施す。

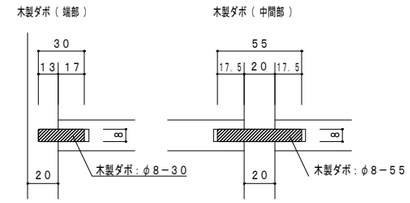
［ 木口詳細 ］



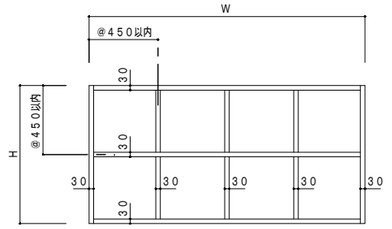
［ 開き扉詳細 ］



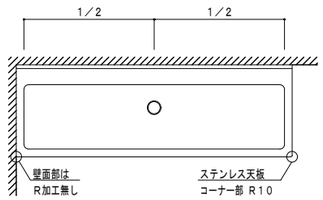
［ 接合部詳細 ］



［ 裏板枠詳細 ］

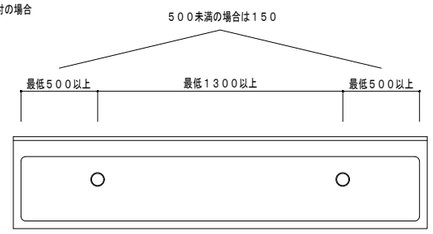


［ ステンレス納まり詳細 ］

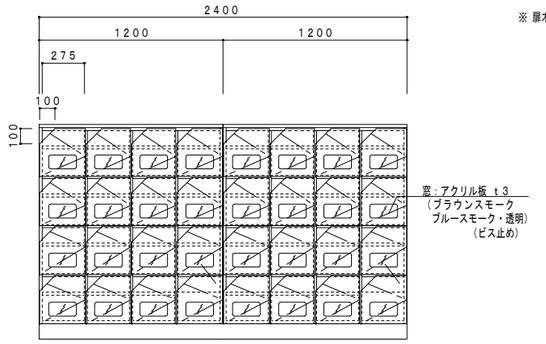


※ ステンレスシンクには結露防止処理を施す事とする。

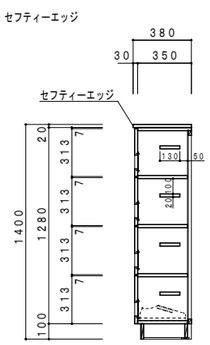
排水トラップ２ヶ取付の場合



Ｆ－１　来客用下足入れ　／　１階　昇降口　／　１ヶ所

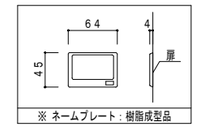


※ 扉木口：セフティーエッジ

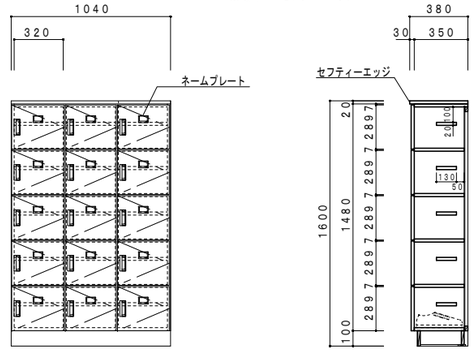


３２人用

Ｆ－２　職員用下足入れ　／　１階　玄関（職員）　／　１ヶ所

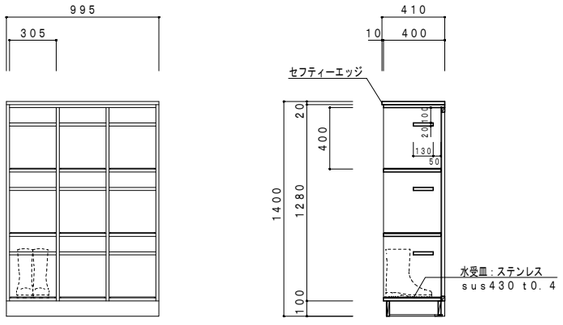


※ 扉木口：セフティーエッジ



１５人用

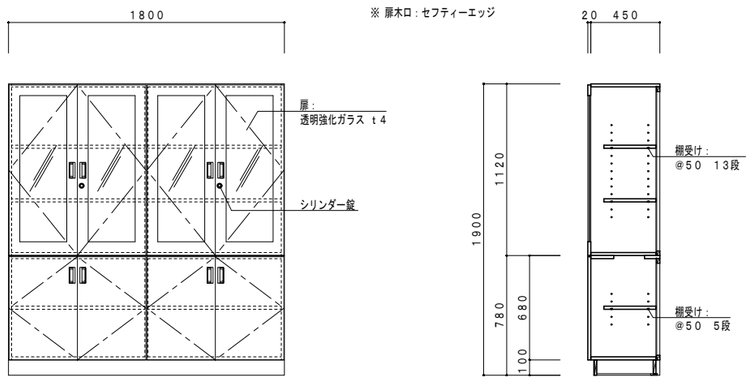
Ｆ－３　調理員用下足入れ　／　１階　玄関（調理）　／　１ヶ所



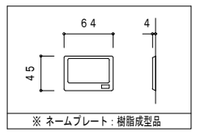
９人用

Ｆ－４　収納戸棚　／　各室　／　計８ヶ所

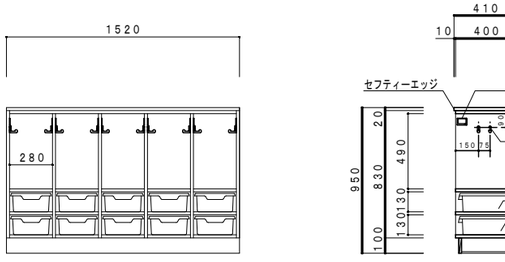
室名	
１階　０歳室	１ヶ所
１階　１歳室	１ヶ所
１階　２歳室	１ヶ所
１階　３歳室	１ヶ所
１階　４歳室	１ヶ所
１階　５歳室	１ヶ所
１階　一時預かり室	１ヶ所
１階　医務室	１ヶ所



Ｆ－５　園児用ロッカー　／　１階　０歳室　／　１ヶ所



※ 本体見付木口：セフティーエッジ



１０人用

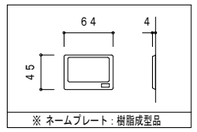
		承認	設計	担当
特記事項 訂正事項				

縮尺　S=1：20（A1）　S=1：40（A3）
設計年月日

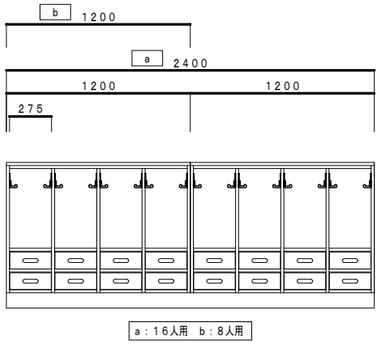
工事名称　石和第一保育所建設工事（建築主体）（債務）
図面名称　家具詳細図（１）

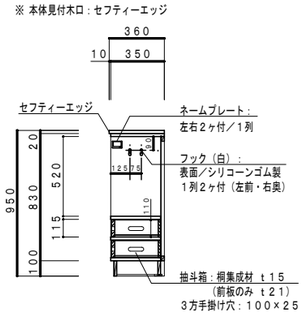
No. Ａ－６０

F－6　園児用ロッカー　／　各室　／　計３ヶ所

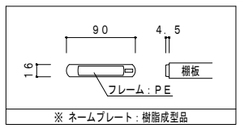


	室名	L	
a	1階　1歳室	2400	1ヶ所
a	1階　2歳室		1ヶ所
b	1階　一時預かり室	1200	1ヶ所

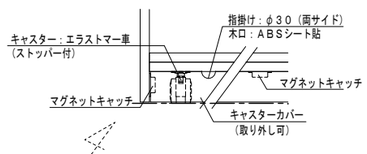


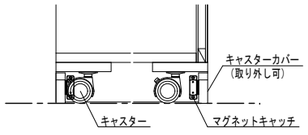


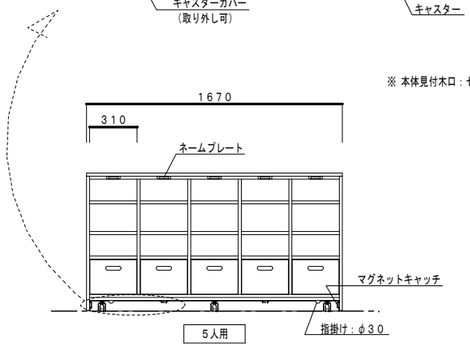
F－7　園児用ロッカー　／　各室　／　計１２ヶ所

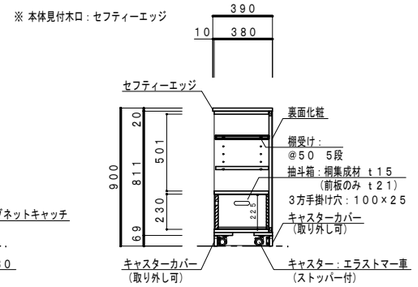


	室名	
a	1階　3歳室	4ヶ所
b	1階　4歳室	4ヶ所
*	1階　5歳室	4ヶ所

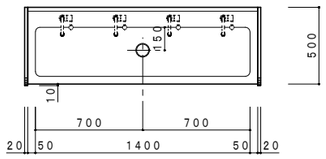




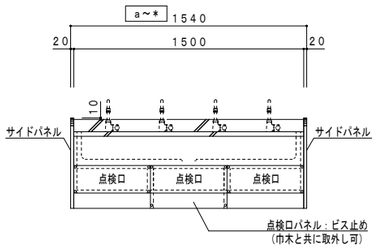


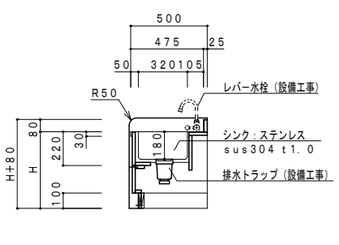


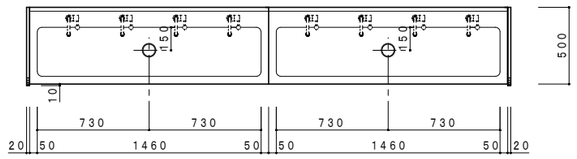
F－8　流し台　／　各室　／　計９ヶ所



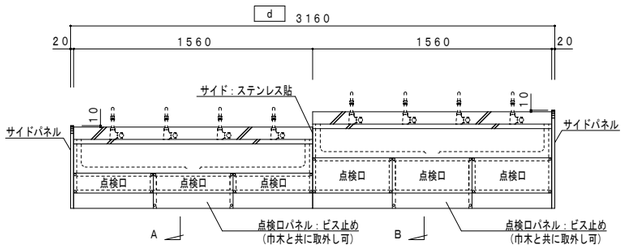
※ サイドパネル木口：セフティーエッジ

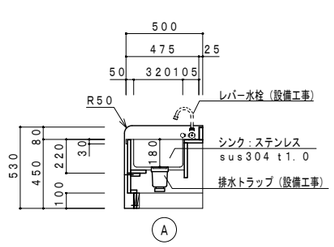


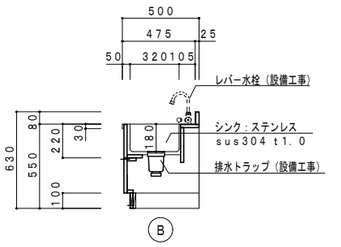




※ サイドパネル木口：セフティーエッジ

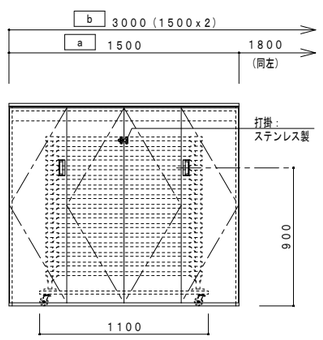


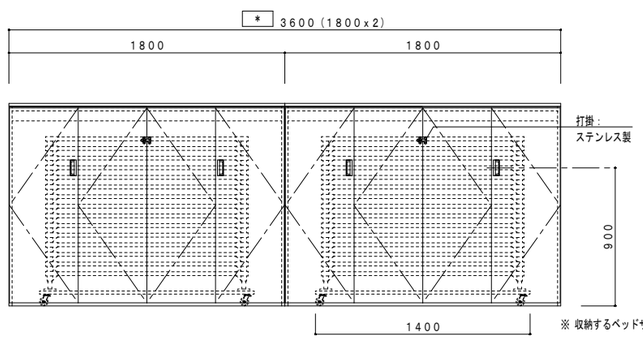




	室名	L	H	
a	1階　0歳室	1540	450	1ヶ所
a	1階　1歳室			1ヶ所
a	1階　一時預かり室			1ヶ所
a	2階　トイレ			1ヶ所
b	1階　2歳室		500	1ヶ所
b	1階　3歳室			1ヶ所
*	1階　4歳室		550	1ヶ所
*	1階　5歳室			1ヶ所
d	1階　食育ルーム&フリールーム	3160	450/550	1ヶ所

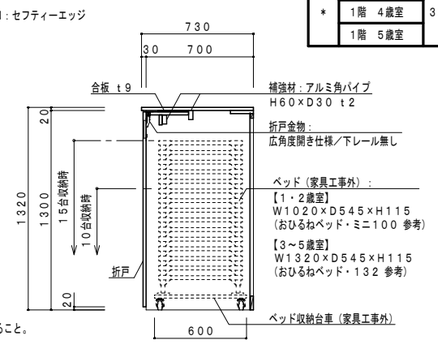
F－9　おひるねベッド収納　／　各室　／　計５ヶ所





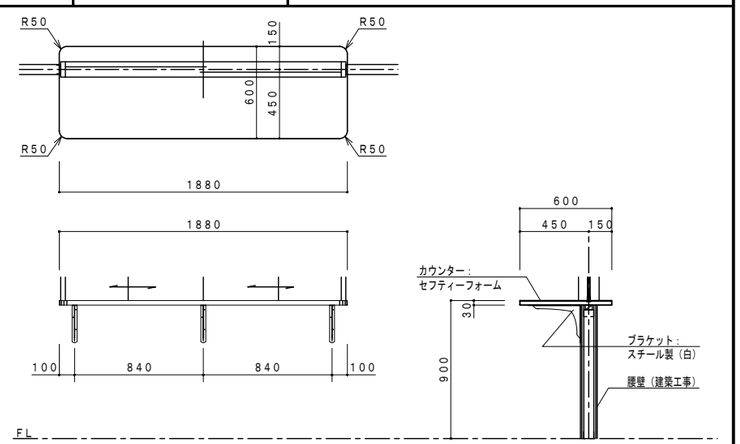
※ 収納するベッドサイズ確認の上製作すること。

※ 厚木口：セフティーエッジ



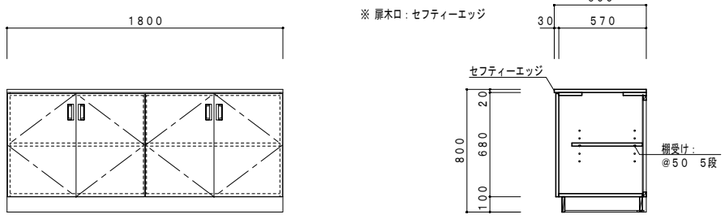
	室名	L	
a	1階　1歳室	1500	1ヶ所
b	1階　2歳室	3000	1ヶ所
*	1階　3歳室	3600	1ヶ所
*	1階　4歳室		1ヶ所
*	1階　5歳室		1ヶ所

F－10　カウンター　／　1階　事務室　／　１ヶ所

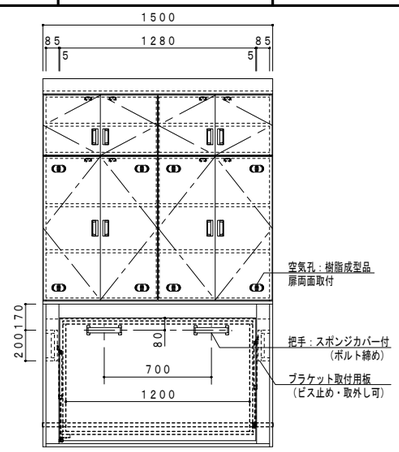


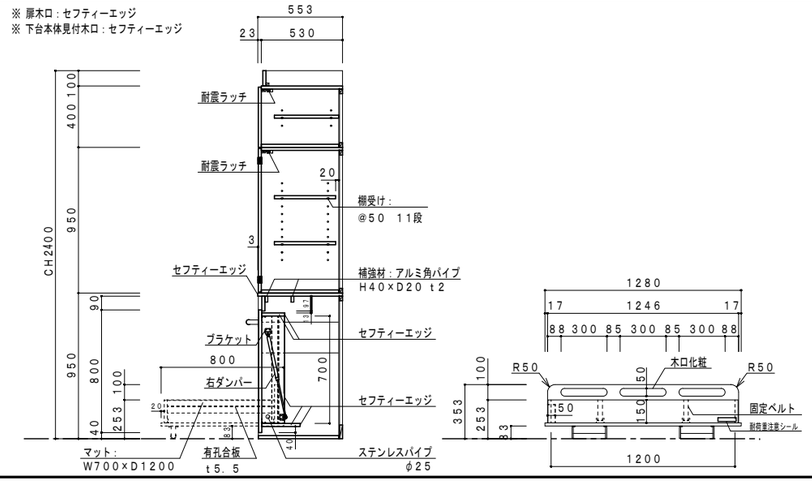
特記事項 訂正事項		承認	設計	担当		縮尺 R	S=1：20(A1) S=1：40(A3)	工事名称	石和第一保育所建設工事（建築主体）（債務）	No.
						設計年月日		図面名称	家具詳細図（２）	A－61

F－11　窓下戸棚　／　1階　事務室　／　1ヶ所

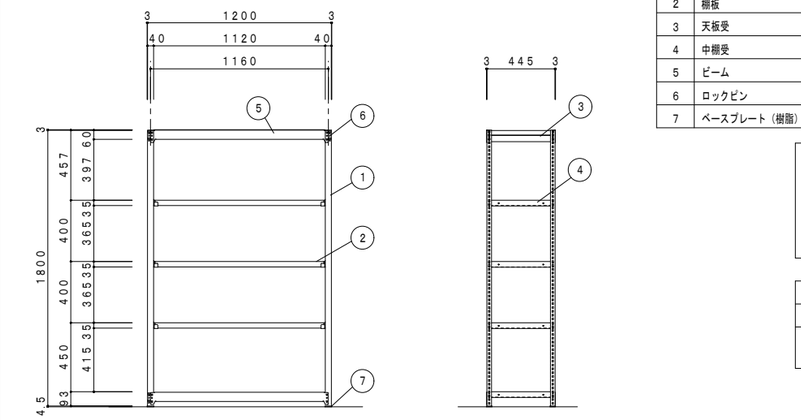


F－12　収納ベッド　／　1ヶ所





F－13　軽量棚　／　1ヶ所



品番	部品名	材質名	板厚・サイズ	表面仕上げ
1	支柱	SPHC	t1．4	粉体塗装
2	棚板	SPCC	t0．6、0．7	粉体塗装
3	天板受	SPHC	t1．4	粉体塗装
4	中棚受	SPHC	t1．4	粉体塗装
5	ビーム	SPHC	t1．4	粉体塗装
6	ロックピン	SWRM		ユニクロメッキ
7	ベースプレート（樹脂）	PP		ブラック

■仕様

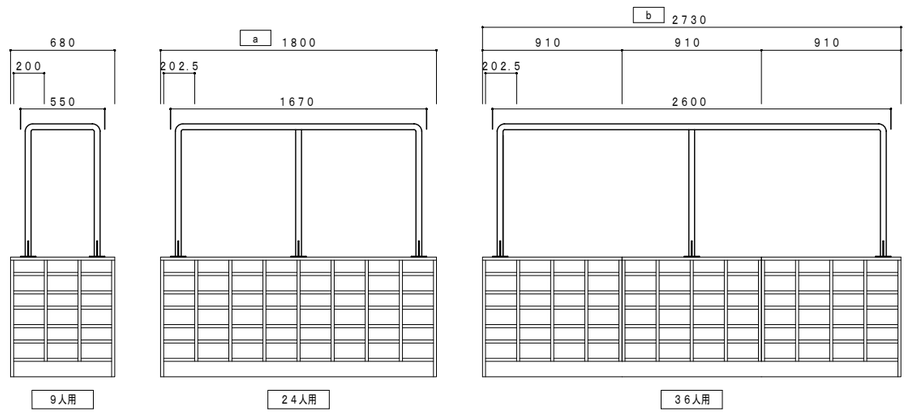
棚厚	35mm
棚ピッチ	25mm
棚板許容積載質量	150kg／段
最大積載質量	1000kg／連
柱形状	C型形状　40x30mm

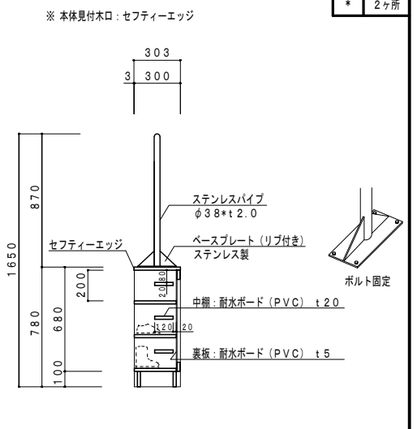
W	860、1160、1460、1760
D	295、445、595
H	1800、2100、2400 （棚5枚）（棚6枚）（棚6枚）

※ 別製寸法は原則不可とする。

F－14　屋外用下足入れ　／　1階　テラス　／　計4ヶ所

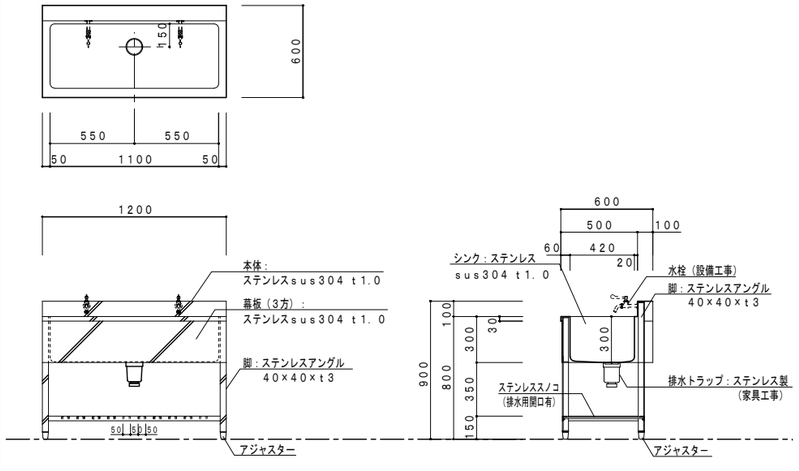
※ 本体・巾木：耐水ボード（PVC）　t20



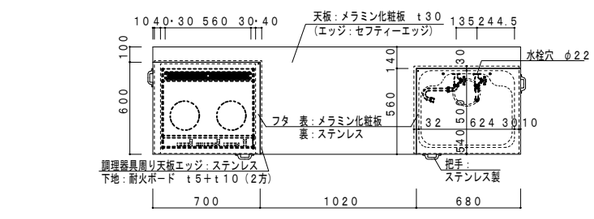


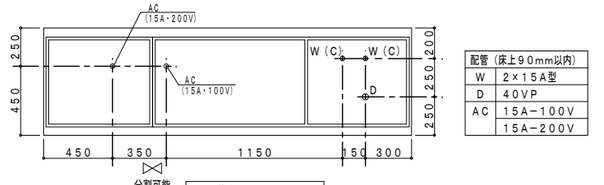
a	1ヶ所
b	1ヶ所
*	2ヶ所

F－15　オールステンレス流し台　／　1階　トイレ（0歳室）　／　1ヶ所



F－16　こどもキッチン　／　1ヶ所　食育ルーム＆フリールーム　／　1ヶ所

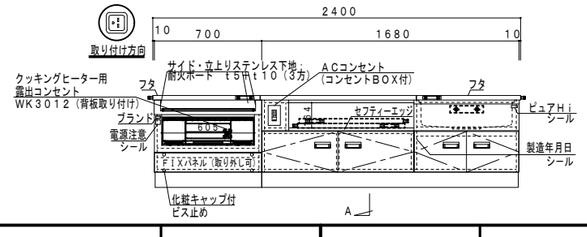


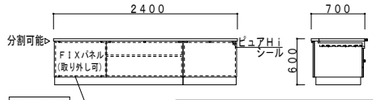


配管（床上90mm以内）	
W	2×15A型
D	40VP
AC	15A－100V
	15A－200V

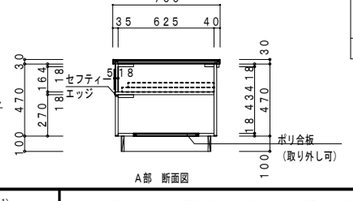
※家具Hが低いため、調理器具下部は扉の取付ができません。
FIX仕様で作図しております。

※扉Wが最大で490mm程度になっております。
設置場所・収納物のご確認、家具仕様のご検討お願いいたします。





※D寸法が小さいため、背面を扉仕様にできません。
FIX仕様で作図しております。

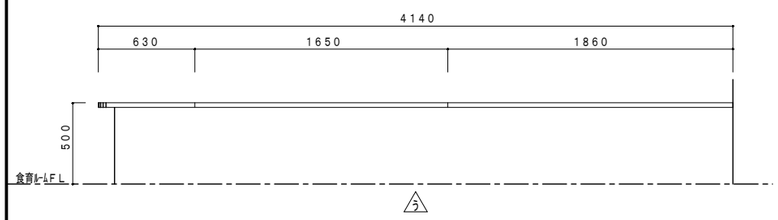


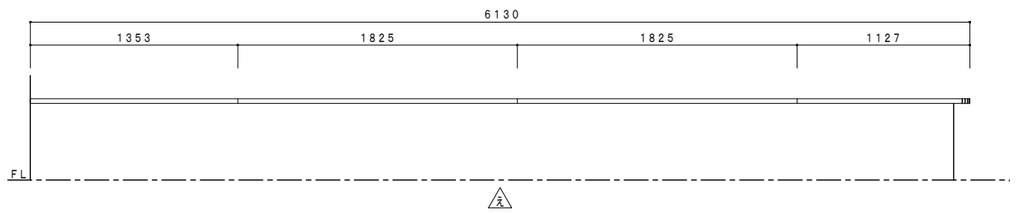
こどもキッチン		
寸法	W2400×D700×H600mm	
天板	メラミン化粧板　t1．0mm　（H－5414）	
エッジ	セフティーエッジ　t3mm　ホットメルト接着	
厚さ	t30mm	
調理器具置き台	ステンレス　sus430　t1．0mm	
シンク	ステンレス　sus304　t0．7mm　プレス成型品	
本体	ユニボード ピュアHi　t18mm　F☆☆☆☆	
	（レモンイエロー：U－262）	
エッジ	樹脂シート　t0．45mm　ホットメルト接着　F☆☆☆☆	
建具類	ユニボード ピュアHi　t18mm　F☆☆☆☆（U－262）	
エッジ	セフティーエッジ　t3mm　ホットメルト接着	
台輪	ポリ合板貼　t19mm　F☆☆☆☆　　U－262	
蝶番	ゼンシスヒンジ110°開き（ソフトクローズ機構）	
把手	樹脂成型品　B－7（色：80）	
水栓	折りたたみ自在水栓　水用　（逆止弁付）	2
排水トラップ	樹脂製ゴミ収納器付　φ180mm　40A用	1
調理器具	ビルトインIHクッキングヒーター KZ－G22CL3（パナソニック）	1
コンセント	AC：100V 2口アースターミナル付	1
	AC：クッキングヒーター用15A・200V 露出1口接地極付	1
	WK3012（パナソニック）	
床固定アングル	樹脂成型品　B－1	2

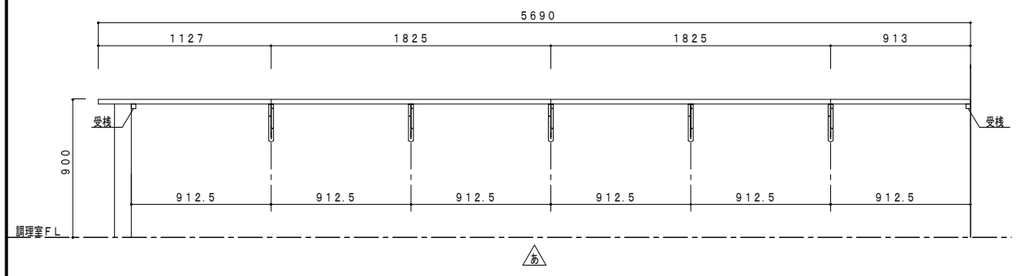
※ユニボード ピュアHi：VOC低減・抗菌機能付

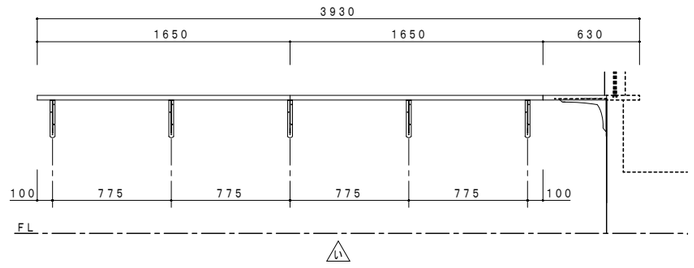
特記事項 訂正事項		承認	設計	担当	縮尺 S=1：20(A1) S=1：40(A3) 設計年月日	工事名称	石和第一保育所建設工事（建築主体）（債務）	No. A－62
						図面名称	家具詳細図（3）	

F－１７	ステンレスカウンター	１階　調理室　／　１ヶ所

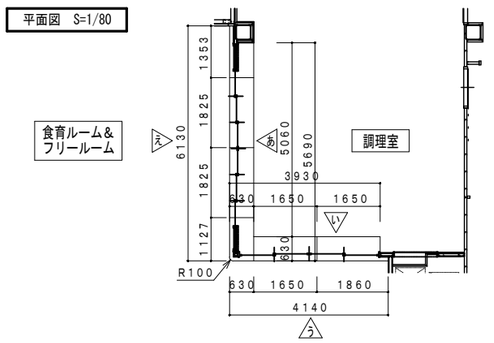


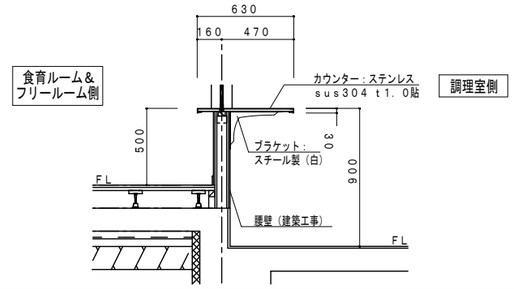






平面図　S=1/80

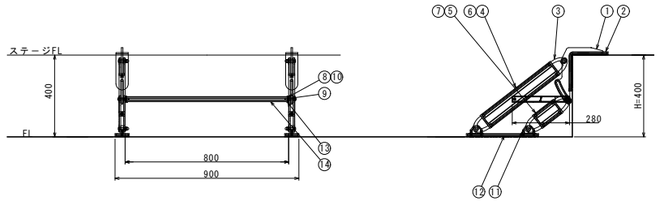




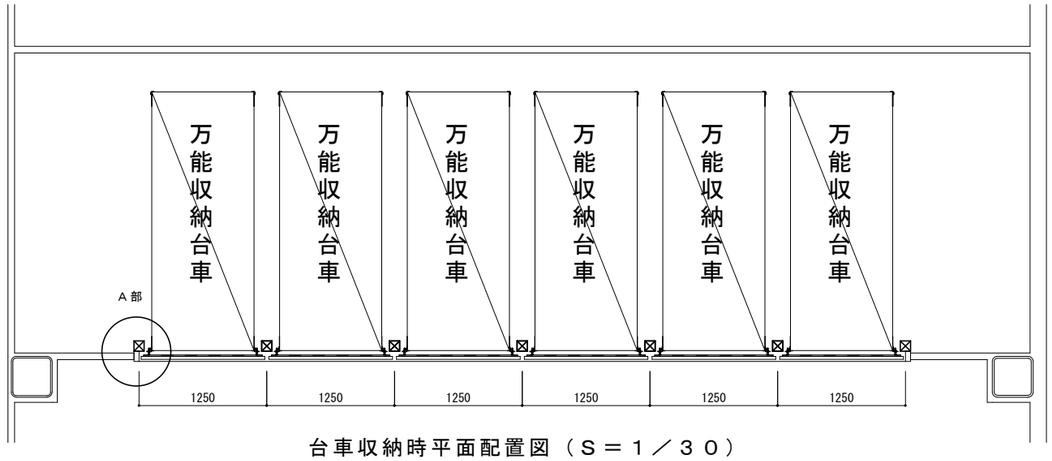
特記事項 訂正事項						承　認	設　計	担　当		縮　尺	S=1：20(A1) S=1：40(A3)	工事名称	石和第一保育所建設工事（建築主体）（債務）	No.
										設計年月日		図面名称	家具詳細図（４）	Ａ－６３

アルミ製移動階段（Ｓ＝１／１５）

ＮＳＭ－４００Ｈ　３台

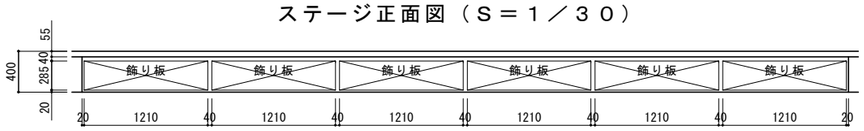


アルミ製移動階段主要構成部品仕様書			
品番	名称	材料・加工等	表面処理
1	フック	ALMダイキャスト製	粉体塗装
2	滑り止めゴム	成形品　6ミリ　差込	
3	Bkt 1	強化プラスチック製（成型）	
4	支柱材 1	ALM押し出し成形品（80×30×3t）	粉体塗装
5	支柱材 2	ALM押し出し成形品（80×30×3t）	粉体塗装
6	支柱用フタ 1	ALM押し出し成形品	粉体塗装
7	支柱用フタ 2	ALM押し出し成形品	粉体塗装
8	カラー 1	φ22×5t　穴径φ8.5	
9	カラー 2	鋼スペーサー(G0800)	
10	カラー 3	φ22×3t　穴径φ8.5	
11	Bkt 2	ALM押し出し成形品	粉体塗装
12	脚ベース	ALM押し出し成形品	粉体塗装
13	ステップカバー	ALM押し出し成形品	粉体塗装
14	ステップ材	ALM押し出し成形品	粉体塗装

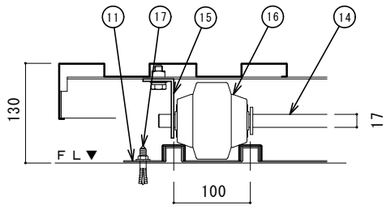


台車収納時平面配置図（Ｓ＝１／３０）

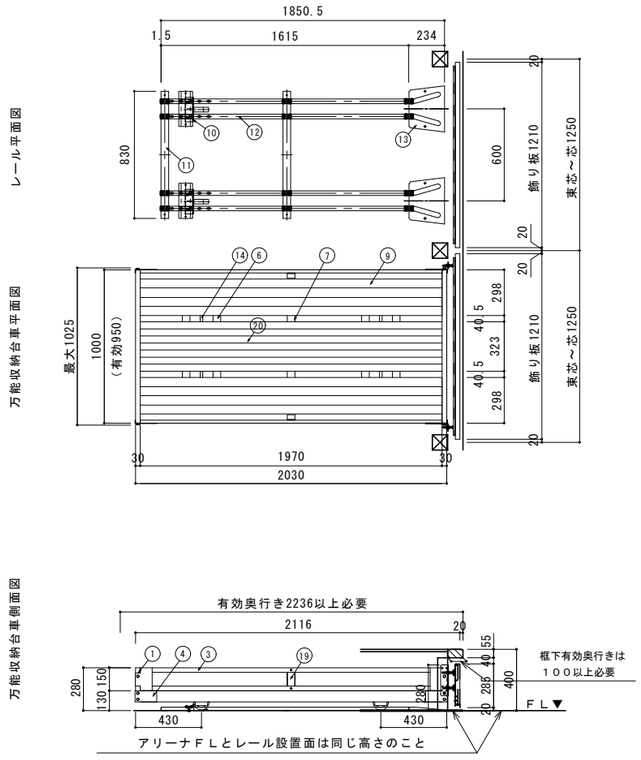
ステージ正面図（Ｓ＝１／３０）



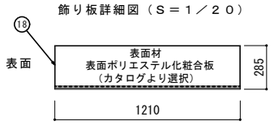
車輪部詳細（Ｓ＝１／４）

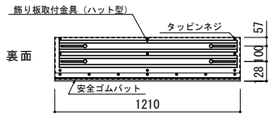


収納台車（Ｓ＝１／２０）

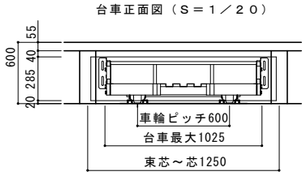


飾り板詳細図（Ｓ＝１／２０）

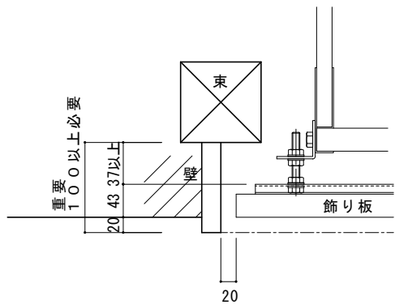




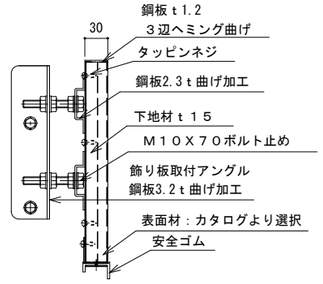
台車正面図（Ｓ＝１／２０）



Ａ部詳細図（Ｓ＝１／４）



飾り板断面図（Ｓ＝１／４）

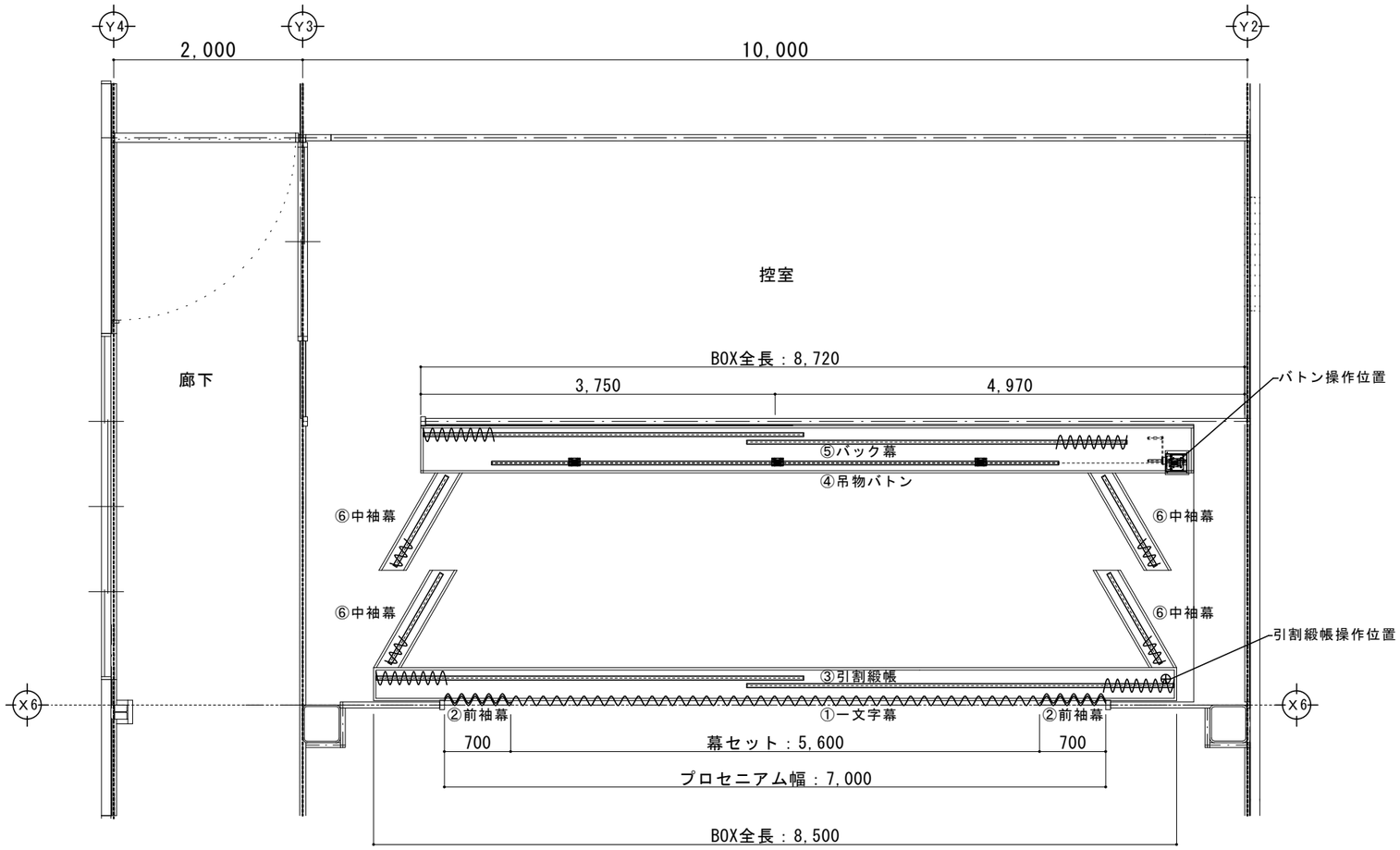


仕　様

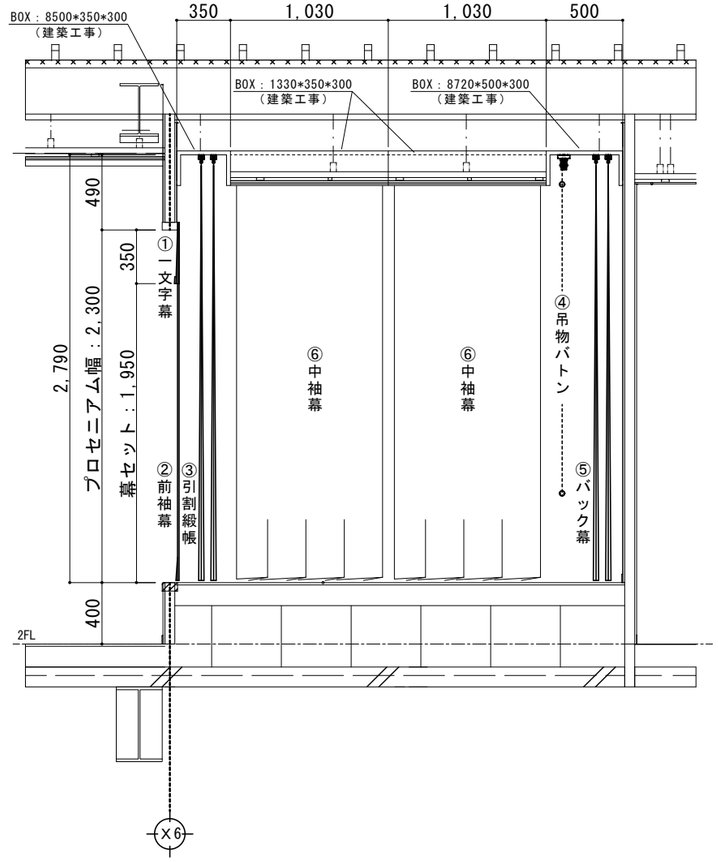
１．ＭＴトラック　万能収納台車　５ピット５台
　　寸法　Ｗ１０００×Ｌ２０００×Ｈ２８０
２．飾り板　５ピット５枚
３．アルミ製移動階段ＮＳＭ－４００Ｈ　３台
４．レール下地（モルタル金ゴテ仕上げ）は別途工事

主要構成部品仕様書			
品番	品名	材料・加工等	表面処理
1	押手	角鋼管 30*20*1.2	亜鉛メッキ
2			
3	サイド枠	角鋼管 30*20*1.2	亜鉛メッキ
4	コーナーガセット	鋼板　2.3ｔ	黒色焼付
5	連結ＰＬＴ１	鋼板　2.3ｔ	亜鉛メッキ
6	車輪サポート	鋼板　2.3ｔ	黒色焼付
7	補助サポート	鋼板　2.3ｔ	黒色焼付
8			
9	床板	亜鉛メッキ鋼板　1.0ｔ	亜鉛メッキ
１０	ストッパー	鋼材　4.5ｔ	黒色焼付
１１	レールサポート	鋼板　1.6ｔ	亜鉛メッキ
１２	ガイドレール	鋼板　1.6ｔ	亜鉛メッキ
１３	車輪ｶﾞｲﾄﾞﾍﾞｰｽ	鋼板　1.6ｔ	亜鉛メッキ
１４	車軸	丸棒　φ17	亜鉛メッキ
１５	軸受	鋼材　4.5ｔ	黒色焼付
１６	車輪	車輪外径　φ１００ ＭＴトラック専用車輪	本体は 亜鉛メッキ
１７	オールアンカー	Ｍ８×４０	亜鉛メッキ
１８	飾り板	表面ポリエステル化粧合板（カタログより選択） 下地鋼板　1.2ｔ	黒色焼付
１９	サイド枠倒れ止	鋼材　4.5ｔ	亜鉛メッキ
２０	中床板	亜鉛メッキ鋼板　1.0ｔ	亜鉛メッキ

特記事項 訂正事項	承認	設計	担当	縮尺 S=1：4,15,20,30(A1) S=1：8,30,40,60(A3) 設計年月日	工事名称　石和第一保育所建設工事（建築主体）（債務） 図面名称　収納台車詳細図	No. Ａ－６４



舞台装置配置図　S=1/30

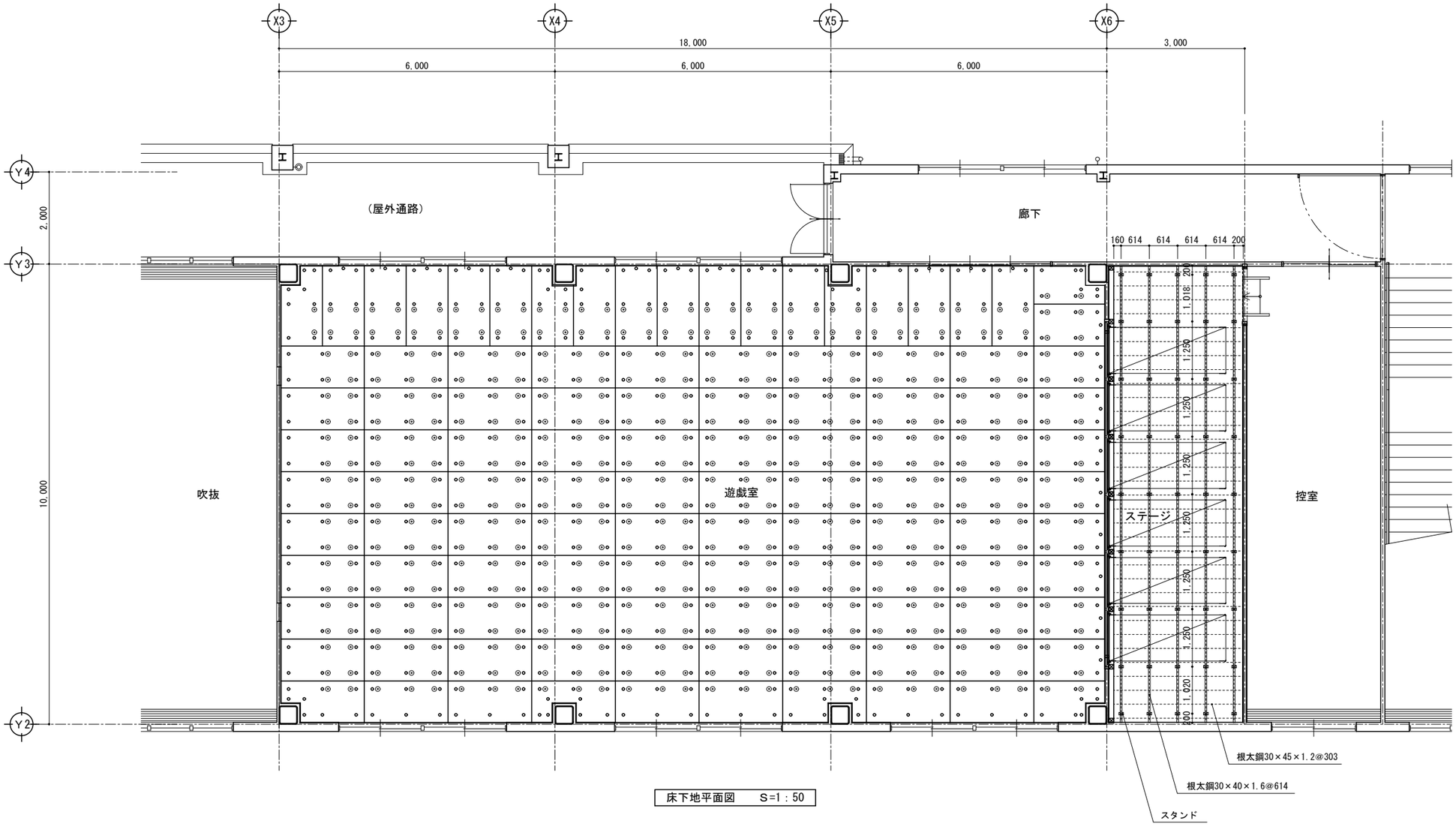


舞台装置断面図　S=1/20

舞台機構仕様

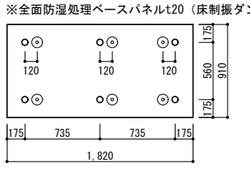
No	名　　称	数量	方　　式	幕類・寸法（W×H）	幕　　地	仕　　様	自重	積載量
1	一文字幕	1帳	釘打ち固定	W7.100×H400	舞台幕用難燃起毛生地（ナイトシティGⅡ　同等以上）　ヒダ無 裏地、フレンジ45mm	圏章φ230（アップリケ刺繍）	－	3kg
2	前袖幕	1対	釘打ち固定	W750×H2.350×2	舞台幕用難燃起毛生地（ナイトシティGⅡ　同等以上）　ヒダ無 裏地、フレンジ5寸		－	2.5kg
3	引割緞帳	1対	手動ロープ開閉	W4.600×H2.700×2	舞台幕用難燃起毛生地（ナイトシティGⅡ　同等以上）　2倍ﾋﾀﾞ フレンジ5寸	ST-40レール　L＝4550×2、開閉滑車φ50×3台 φ60滑車付き砂袋、開閉ロープφ5mm	12kg	25kg
4	吊物バトン	1吊	手動昇降 ウインチ式	バトンφ38　L=6000 SUS-HL仕上げ		φ60滑車（1車）：1台、φ60滑車（2車）：3台　　最大積載荷重：30kg ウインチPSW100（台、カバー付き）、枝ワイヤーφ3mm、親ワイヤーφ5mm	5kg	30kg
5	バック幕	1対	手動開閉 （手引）	W4.100×H2.700×2	舞台幕用難燃起毛生地（ナイトシティGⅡ　同等以上）　2倍ﾋﾀﾞ	ST-40レール　L＝4050×2	8kg	15kg
6	中袖幕	2対	手動開閉 （手引）	W1.200×H2.700×2	舞台幕用難燃起毛生地（ナイトシティGⅡ　同等以上）　2倍ﾋﾀﾞ	ST-40レール　L＝1100×2	2kg	6kg

備考
・木製ボックスは建築工事。



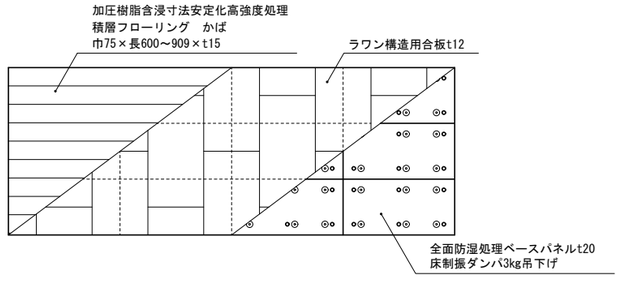
床下地平面図　S=1：50

※全面防湿処理ベースパネルt20（床制振ダンパ3kg吊下げ）



◎ は床制振ダンパ3kgを示す
○ は支持脚を示す

遊戯室 床下地パネル図　S=1：30



遊戯室 床仕上構成図　S=1：50

【遊戯室 床仕様】

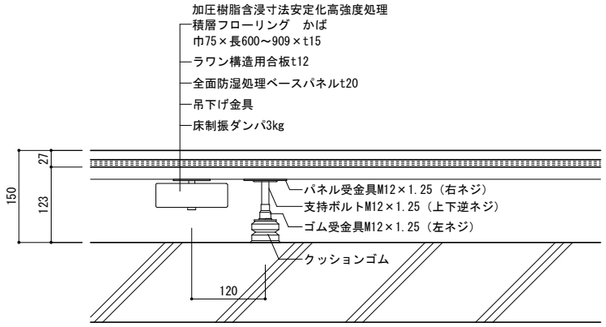
許容荷重	
積載荷重	局部荷重
長期荷重　670kgf	長期荷重　340kgf
短期荷重　1000kgf	短期荷重　510kgf
遮音改善量　9～12dB	

【特記仕様】

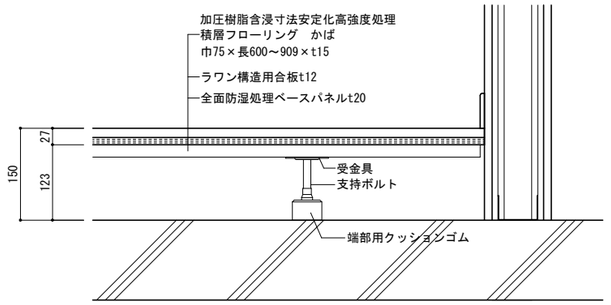
- 床の許容荷重は上記を基準とする
- フローリングは加圧樹脂含浸寸法安定化高強度処理積層フローリングとする
- パーティクルボードは全面防湿処理のものとする

特記事項 訂正事項						承認	設計	担当		縮尺 S=1：30、50(A1) S=1：60、100(A3) 設計年月日	工事名称　石和第一保育所建設工事（建築主体）（債務） 図面名称　床下地（遊戯室・ステージ）詳細図（1）	No. A －66

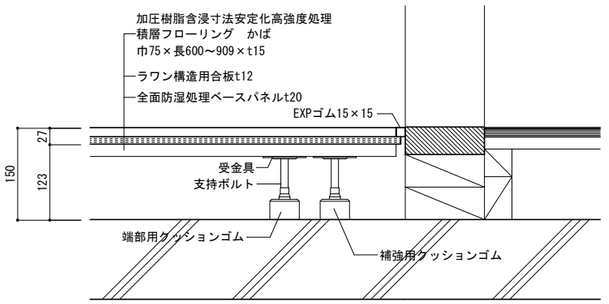
【遊戯室　床基本断面S=1/5】



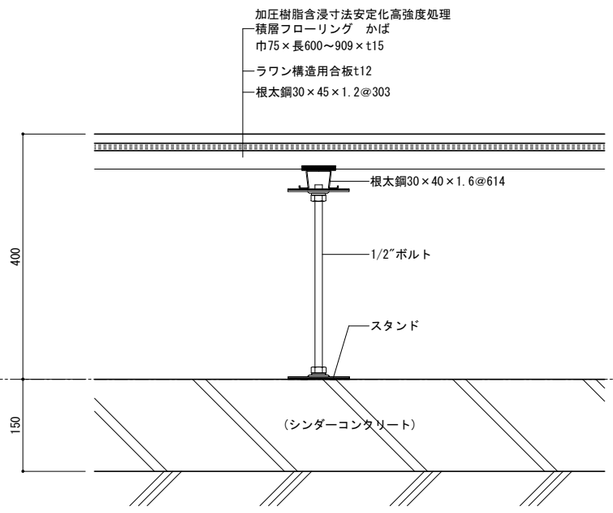
【遊戯室　壁廻り納まりS=1/5】



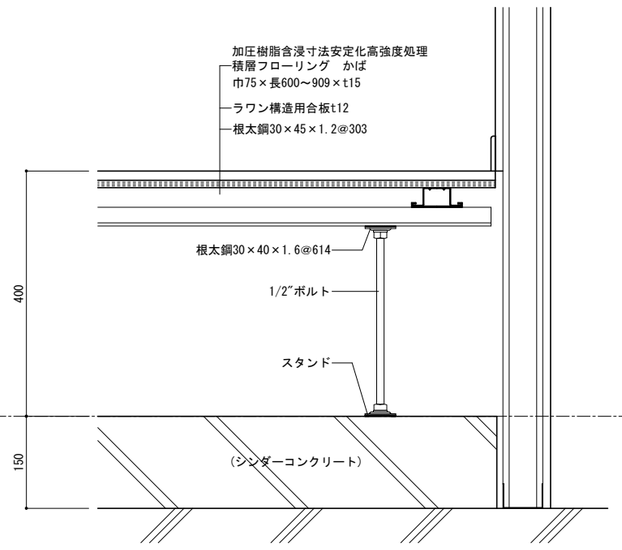
【遊戯室　出入口廻り納まりS=1/5】



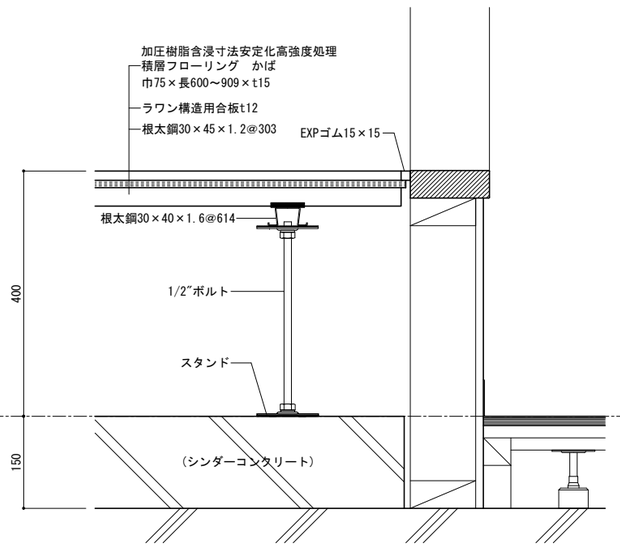
【ステージ　床基本断面S=1/5】



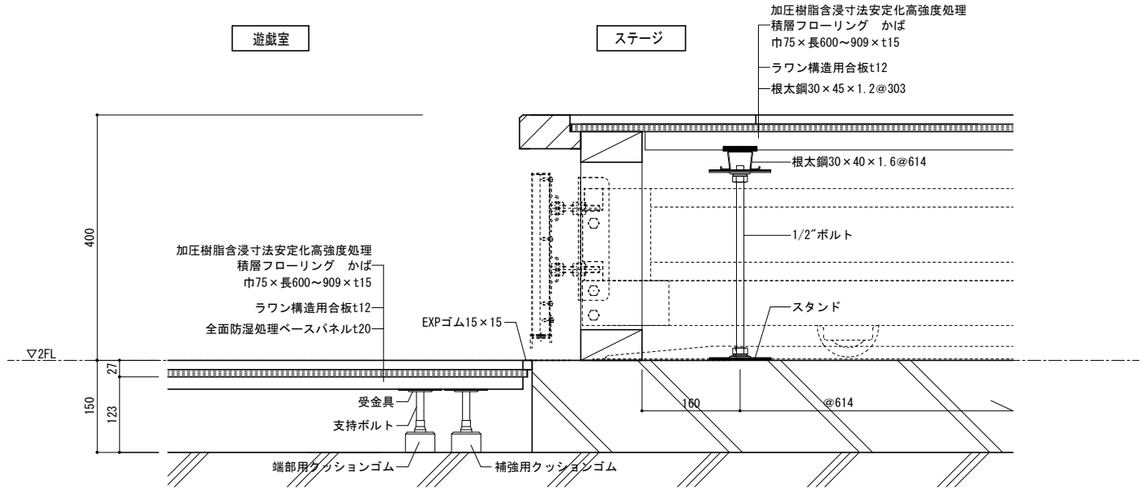
【ステージ　壁廻り納まりS=1/5】



【ステージ　出入口廻り納まりS=1/5】



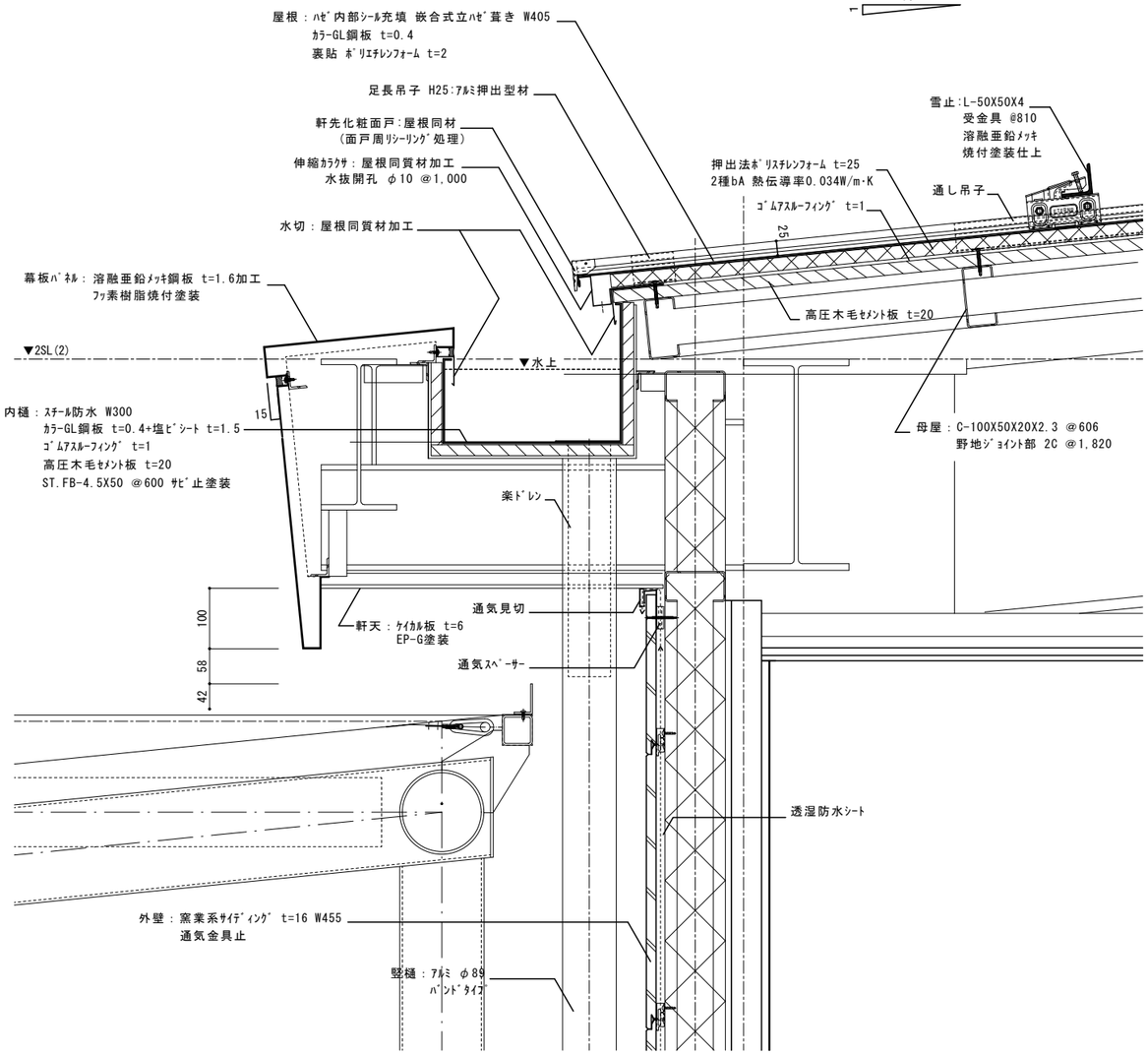
【遊戯室～ステージS=1/5】



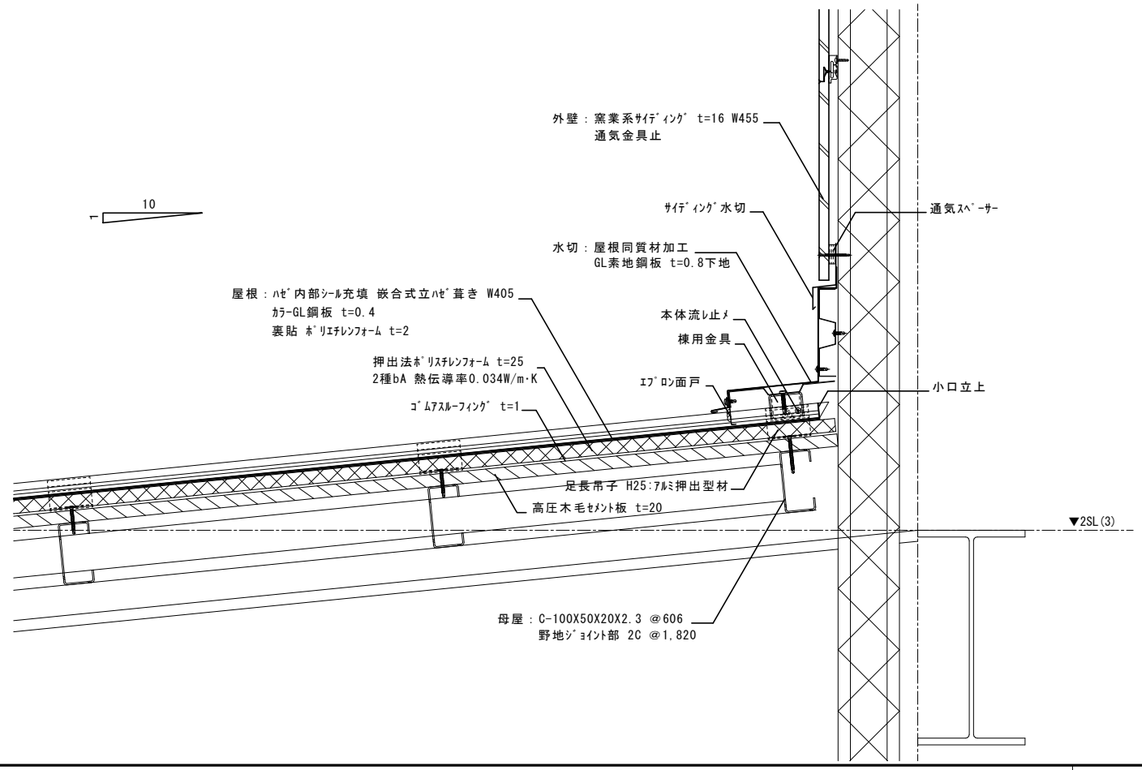
特記事項 訂正事項					承認	設計	担当		縮尺 S=1：5(A1) S=1：10(A3) 設計年月日	工事名称	石和第一保育所建設工事（建築主体）（債務）
										図面名称	床下地（遊戯室・ステージ）詳細図（２）

No. A －６７

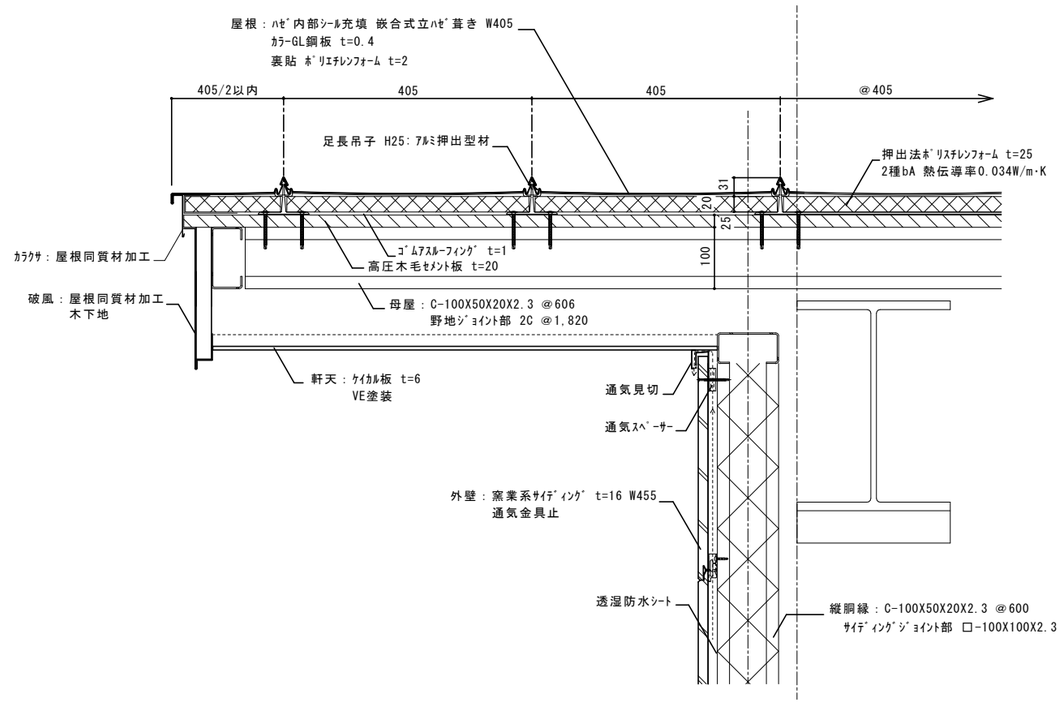
１Ｆ屋根　軒先部分　詳細図　S=1：5



１Ｆ屋根　水上 外壁取合い部分　詳細図　S=1：5

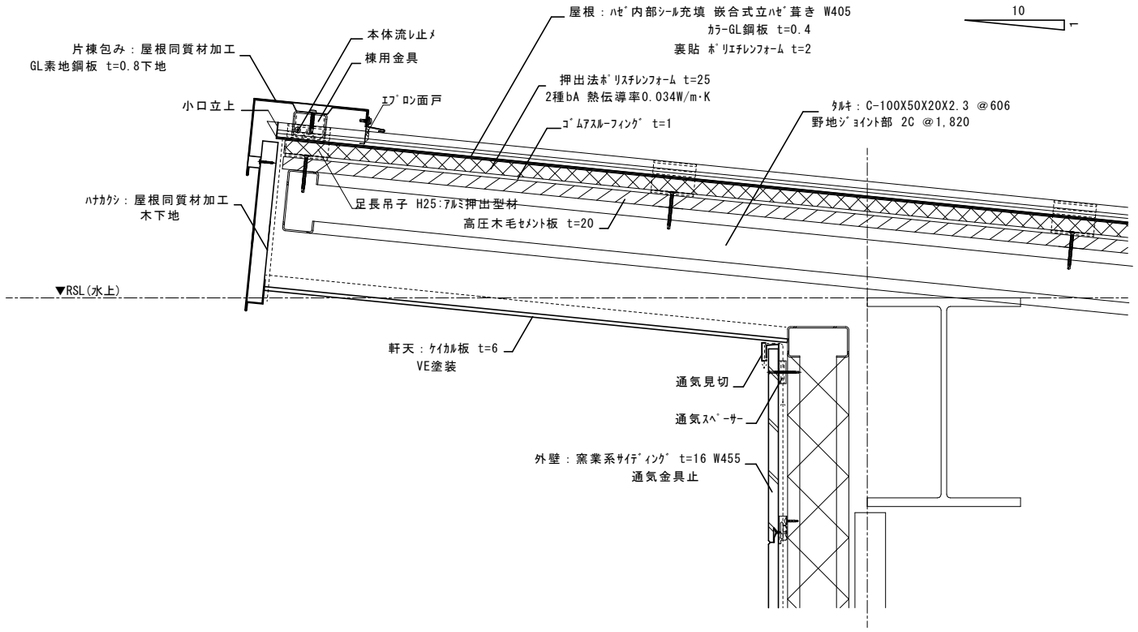


１Ｆ・２Ｆ屋根　ケラバ部分　詳細図　S=1：5

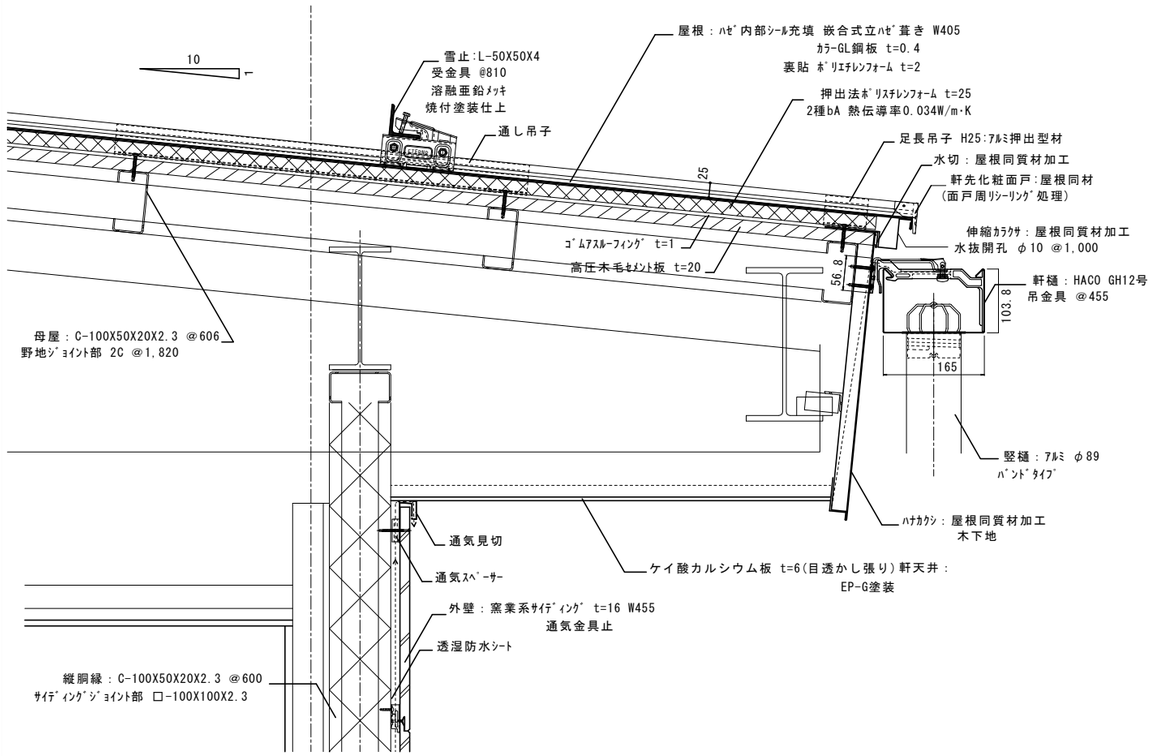


特記事項 訂正事項		承認	設計	担当	縮尺	S=1：10,25(A1) S=1：20,50(A3)	工事名称	石和第一保育所建設工事（建築主体）（債務）	No.
					設計年月日		図面名称	屋根詳細図（１）	A －68

２Ｆ屋根　片棟部分　詳細図　S=1：5



２Ｆ屋根　軒先部分　詳細図　S=1：5



特記事項 訂正事項						承認	設計	担当		縮尺 S=1：5,10(A1) S=1：10,20(A3) 設計年月日	工事名称 石和第一保育所建設工事（建築主体）（債務） 図面名称 屋根詳細図（２）	No. Ａ－６９

膜構造建築物　設計概要書

建物概要

物件名		石和第一保育所建設工事（建築主体）（債務）
建築場所		山梨県笛吹市石和町八田178番地
建築用途		通路上屋
膜構造部分用途		通路上屋
工事種別		◉新築　○増築　○改築　○移転　○その他（　　）
防火指定		○防火地域　○準防火地域　○22条地域　○その他の地域（　　）
規模	面積	膜伏面積　178.5　m 2
	階数	地上 1 階，地下 - 階，膜構造部分の階 1 階
	高さ	膜構造部分最高高さ　3.4　m
躯体構造		○コンクリート造　◉鉄骨造　○木造　○その他（　　）
膜構造形式		◉骨組膜構造　○サスペンション膜構造

設計荷重

地震荷重	標準層せん断力係数　Ci=	0.3		
積雪荷重	長期	- N/m 2	垂直積雪量	50 cm
	短期	1000 N/m 2	単位重量	20 N/(m ・cm)
風荷重	速度圧　q = 645 N/m 2 風速　Vo = 30 m/s 地表面粗度区分　Ⅰ　Ⅱ　(Ⅲ)　Ⅳ			

鉄骨工事

構造用鋼材 種類・材質

一般構造用鋼材・建築構造用鋼材

- ◉ SS400［鋼鈑・平鋼・形鋼］
- ◉ STK400
- ◉ STKR400
- ○ STK490 / STKN490B ［炭素鋼鋼管］
- ○ STKR490 ［角形鋼管］
- ○ SN400A
- ○ SN400B
- ○ SN400C
- ○ その他（　　）

高力ボルト

◉ F10T(S10T)
○ F8T(溶融亜鉛めっき高力ボルト)

※摩擦接合では鉄骨の摩擦面の処理に注意する。摩擦面のすべり係数を0.45以上(溶融亜鉛めっきされた鉄骨の場合は0.40以上)確保するため、「ブラスト処理・特殊塗料塗布、他」を行なう。

中ボルト　○ JIS規格品(SW付き)　○ その他（　　）

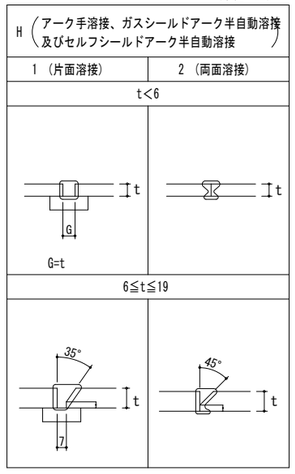
アンカーボルト　◉ SNR400B　○ SNR490B　○ SS400　(M12のみ)　○ その他（　　）

溶　接

完全溶込み溶接の開先標準

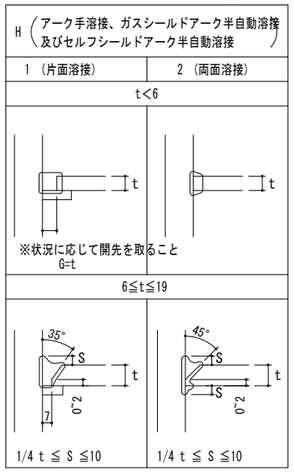
1. ルート間隔、ルート面、開先角度、開先深さの許容差は、JASS6　付則5.による。
2. 余盛高さの標準及び許容差は、JASS6　付則6.による。
3. 裏当て金はFB-9×25を標準とし、材質は母材と同材質とする。
4. 開先のある溶接の両端では、原則として鋼製エンドタブを用いる。

(単位: mm)



突合せ継手の開先標準（B）

(単位: mm)



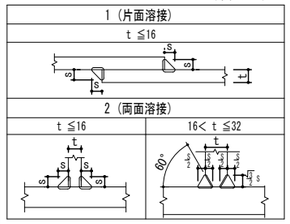
T型継手の開先標準（T）

鉄骨工事（つづき）

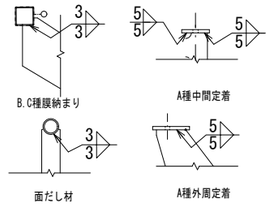
溶　接

隅肉溶接の開先標準

(単位: mm)



隅肉溶接の開先標準



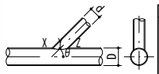
隅肉溶接のサイズ

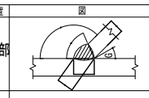
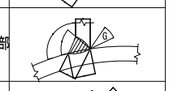
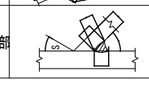
t	4	5	6	7	8	9	10	12	16	19	22
S	3	4	5	5	6	7	8	9	12	11	13

(単位: mm)

鋼管の溶接

突合せ隅肉溶接　　適用条件　交角　θ≧30°　管径比　d／D≦１(d：支管外径，D：主管外径)



位置	図	溶接姿勢	寸法	
X部		F H V O	ψ	90°≦ψ≦ 120°　120° <ψ≦ 150°
			Te	≧1.4T　≧T
			G	0≦G≦3
			α	≧45°
			S	≦2T
Y部			ψ	G ≦ψ≦　ψ>120°
			Te	≧1.4T　≧T
			G	0≦G≦3
			α	≧45°
			S	≦2T
Z部			ψ	30°≦ψ≦ 90°
			Te	≧1.4T
			G	0≦G≦3
			S	≦2T

T：支管・主管のうち薄いほうの板厚とする

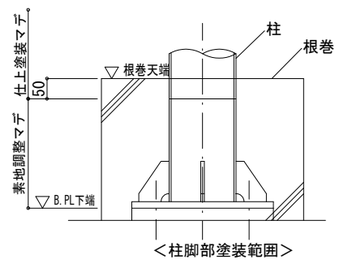
塗装工事

2液形ポリウレタンエナメル塗り

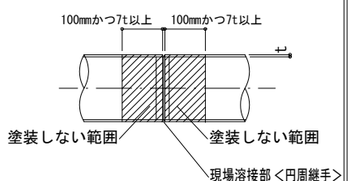
	工　程	塗　料　名	塗布量(kg/m²)	塗装方法	施工区分
1	素地調整	1種ケレン（ブラスト処理）／ ISO Sa 2・1／2			工場
2	下塗り（1回目）	ジンクリッチプライマー　JIS K 5552	0.14	吹付・はけ	
3	下塗り（2回目）	構造物用さび止めペイント　JIS K 5551 A種	0.14	吹付・はけ	
4	下塗り（3回目）	エポキシ樹脂雲母状酸化鉄塗料（MIO）	0.14	吹付・はけ	
5	中塗り	鋼構造物用耐候性塗料　JIS K 5659（中塗り塗料）	0.14	はけ・吹付	現場
6	上塗り	鋼構造物用耐候性塗料　JIS K 5659（上塗り塗料3級）	0.10	はけ・吹付	
※現場接合・損傷部素地調整 2種ケレン（サンダー等）／ ISO St 3					
	下塗り(1,2,3回)	変性エポキシ樹脂プライマー　JASS 18 M-109	0.14	(×3回)	

注意事項　上塗塗料のJIS規格は 光沢品を規定している為、艶調整を行う場合はJIS規格に該当しなくなります。

各部塗装範囲



＜柱脚部塗装範囲＞



＜現場溶接部塗装範囲＞

膜工事

膜材料

クリーンマックス220（CMX220） 酸化チタン光触媒コーティング	認定番号　MMEM-9023 不燃認定　NM-3032-1

※膜構造建築物の品質管理については、令和５年発効「膜構造の建築物・膜材料等の技術基準」に記載する「膜構造建築物品質管理規定」に従い行うこと。
※膜材料は令和５年発行「膜構造の建築物・膜材料等の技術基準」に記載する「膜材料等品質基準」に合致するものであること。
※一般社団法人日本膜構造協会第１種正会員であること。
※一般社団法人日本膜構造協会の膜体加工工場登録制度により、膜体加工工場登録簿に記載された工場（B、C種、テント倉庫用膜材料を加工する工場）で加工すること。
※膜体加工は一般社団法人日本膜構造協会の膜体加工工場登録規定に基づく膜構造に係る高度な加工技術及び高度な品質管理能力を有する膜体加工認定工場として認定を受け、同協会の（膜体加工工場認定簿（上級グレード））に記載された工場の品質管理体制で行うこと
※膜体加工は令和５年発行「膜構造の建築物・膜材料等の技術基準」に記載する「膜体加工指針（膜材料・テント倉庫膜材料）」に従い行うこと。
※膜材料を製品使用後に引き取り、リサイクルされる仕組みを整えていること。
※酸化チタン光触媒の効果は、光触媒工業会のPIAJ認証マーク取得商品、または同等以上の性能を有すること。
　光触媒工業会が定める認証基準…
　セルフクリーニング性能：分解活性指数5nmol/L/min以上　　空気浄化性能：窒素酸化物（Nox）除去量0.50μmol以上

膜材溶着部

国土交通省告示第666号第二、4、一のロまたはハに規定する接合とする

溶着巾　◉ 40mm　○ 20mm　○ その他

溶着方法

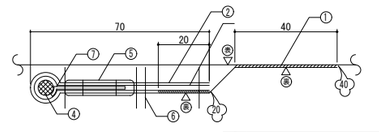
◉ ライスター　○ ウェルダー

膜定着部

国土交通省告示第666号第三に規定する定着方法とする。

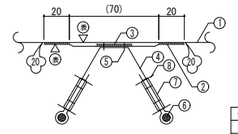
ハトメ番号　◉ 3 #　◉ 4 #　○ 5 #　○ #100　○ その他

外周膜定着部



①	本体膜	CMX200
②	引き込み布	200kg/3cm巾3
③	補強布	200kg/3cm巾3
④	縫い込みロープ	PP　6φ
⑤	ハトメ	#4 @200
⑥	4本縫い	
⑦	補強テープ	エステルテープ

中間膜定着部

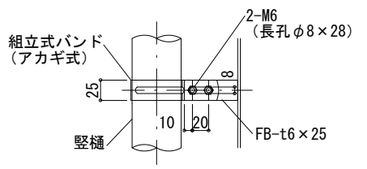


①	本体膜	CMX200
②	ベース布	CMX200
③	カスタム	200kg/3cm巾3
④	抱き込み布	CMX200
⑤	2本縫い	
⑥	縫い込みロープ	PP 6φ
⑦	ハトメ	#3 @100
⑧	2本縫い	

樋工事

	材　質	形　状
集水桝	PL-1.5t 焼付塗装仕上（アクリル） ○塩ビ竪樋　○溶融亜鉛メッキ ○アルミ　○無し ◉SUS	
竪樋	P-Φ48.6×1.5 焼付塗装仕上（アクリル） ○塩ビ竪樋　○溶融亜鉛メッキ ○アルミ　○無し ◉SUS	

竪樋支持プレート形状



※竪樋と組立式バンドの材質は同一とする

| | | | | |

鉄筋コンクリート特記仕様書

・訂正箇所は下線を引くこと
摘要は　■　印を記入する。

鉄筋コンクリート工事

（１）コンクリート工事

鉄筋コンクリート工事の施工に関しては記載無きは、JASS5 2018 による。

(a) コンクリートの仕様

本仕様書では、JASS5に規定する普通骨材を用いた一般仕様のコンクリートを「普通コンクリート」と定義し、表9.1に示す様に設計基準強度が36N/mm²以下のコンクリートについてはJASS5の3節～11節を適用し、36N/mm²を超えるコンクリートについてはJASS5の１７節（高強度コンクリート）を適用する。また、設計基準強度もしくは品質基準強度と構造体強度補正値から定める調合管理強度以上とし、発注するレディーミクスコンクリートの呼び強度が表9.2に示すJIS規格外となる場合は、法第37条の大臣認定を受けた製品を用いる必要がある。
軽量コンクリートについてはJASS5の１４節によること。

表9.1　コンクリート圧縮強度(N/mm²) に応じた仕様書の使い分け

設計基準強度 Fc	18	21	24	27	30	33	36	39	42	45	48	51	54	57	60
JASS5での区分	普通コンクリート							高強度コンクリート							

表9.2 レディーミクスコンクリートのJIS規格品

調合管理強度 (N/mm²)	21	24	27	30	33	36	39	42	45	48	51	54	57	60	60超
呼び強度（JIS規格品）	21	24	27	30	33	36	40	42	45	50	55	55	60	60	※

※印は規格外

(b) 品質と施工

■ 構造体の計画供用期間の級は特記による。特記がない場合は標準とする。
■ 標準　□ 長期　□ 超長期
（本仕様書では計画供用期間の級は、「短期」を想定していない。）

■ コンクリートは JIS A 5308 （レディミクスコンクリート）に適合するJIS認証工場の製品とする。
■ 設計基準強度が36N/mm²を超えるコンクリートを扱うレディミクスコンクリート工場は「高強度コンクリート」の製品認証をうけているか、建築基準法第37条第二号によって国土交通大臣が指定建築材料として認定した高強度コンクリートの製造工場とする。
■ レディミクスコンクリート工場及び高強度コンクリートを打設する施工現場には、コンクリート主任技術士またはコンクリート技士、あるいはこれらと同等以上の知識経験を有すると認められる技術者が常駐していなければならない。
■ 施工者は、工事に先立ち、コンクリートの調合・製造計画、品質管理計画書を作成し、工事管理者の承認を得ること。
■ フレッシュコンクリートの流動性は、スランプまたはスランプフローで表し、設計基準強度が36N/mm²以下33N/mm²以上の場合スランプ21cm以下、33/mm²未満の場合スランプ18cm以下とし、設計基準度が36N/mm²超 45N/mm²未満の場合はスランプ21cm以下またはスランプフロー50cm以下、設計基準強度が45N/mm²以上の場合はスランプ23cm以下またはスランプフロー60cm以下とし、特記による。
■ コンクリートに含まれる塩化物量は、塩化物イオン量として0.3kg/m³以下とする。
■ コンクリートの練混ぜから打込み終了までの時間は、原則として外気温が25° C未満の時は120分、25℃以上の時は90分とする。
■ コンクリートの打ち込み時の自由落下高さは、コンクリートが分離しない範囲とする。
■ 打継ぎ部は構造的に影響の少ない位置を選び打継ぎ処理を行い、打込み前に十分な水湿しを行う。
■ コンクリートの打込み中、及び、打込み後5日間はコンクリートの温度が2度を下回らないようにし、セメントの種類に応じて湿潤養生する。

(C) 調合及び構造体コンクリート強度

■ コンクリートの強度を求める強度試験は、JIS A 1108（コンクリートの圧縮強度試験方法）もしくはJIS A 1107（コンクリートからのコアの採取方法）による。

i) 高強度コンクリート

■ 調合強度を定めるための基準とする材齢は、特記による。特記のない場合は28日とする。
■ 構造体コンクリート強度を保証する材齢は、特記による。特記のない場合は91日とする。
■ 構造体コンクリート強度は、次の①または②を満足するものとする。
① 標準養生した供試体による場合、調合強度を定めるための基準とする材齢において調合管理強度以上とする。
② 構造体温度養生した供試体による場合、構造体コンクリート強度を保証する材齢において設計基準強度に3N/mm²加えた値以上とする。
■ 調合管理強度は、以下による。

$${}_{H}F_m = F_\alpha + {}_{m}S_n \quad (Nmm^2)$$

${}_{H}F_m$ ： 高強度コンクリートの調合管理強度　(N/mm²)
F_α ： コンクリートの設計基準強度　(N/mm²)
${}_{m}S_n$ ： 今日強度コンクリートの構造体強度補正値で JASS5 による。

■ 調合強度は標準養生供試体の圧縮強度で表すものとし、下記の両式を満足するように定める。

$${}_{H}F \geqq {}_{H}F_m + 1.73\sigma_H \quad (N/mm^2)$$
$${}_{H}F \geqq 0.85\,{}_{H}F_m + 3\sigma_H \quad (N/mm^2)$$

${}_{H}F$ ： 高強度コンクリートの調合強度　(N/mm²)
σ_H ： 高強度コンクリートの圧縮強度の標準偏差 (N/mm²) で、レディーミクストコンクリート工場の実績による。実績がない場合は、0.1 ($F_\alpha + {}_{m}S_n$)とする。

ii）普通コンクリート

■ 調合を定めるための基準とする材齢は、原則として28日とする。
■ 構造体コンクリート強度は表9.3を満足すれば合格とする。

表9.3 構造体コンクリートの圧縮強度の判定基準

供試体の養生方法	試験材齢 (1)	判定基準
標準養生 (2)	28日	$X \geqq F_m$
コ　ア	91日	$X \geqq F_\alpha$

ただし、X ： 1回の試験における3個の試供の圧縮強度の平均値　(N/mm²)
F_m ： コンクリートの調合管理強度 (N/mm²)
F_α ： コンクリートの品質基準強度 (N/mm²)
［注］(1) 早い材齢において試験を行い、合否判定基準を満たした場合は、合格とする。
(2) 工事監理者の承認を得て、供試体成型後、翌日までは20±10℃の日光及び風が直接当たらない箇所で、乾燥しないように養生して保管することができる。

＊ 標準養生供試体の代わりにあらかじめ準備した現場水中養生供試体によることができる。その場合の判定基準は材齢28日までの平均気温が20℃以上の場合は、3個の供試体の圧縮強度の平均値が調合管理強度以上であり、平均気温が20℃未満の場合は、3個の供試体の圧縮強度の平均値から3N/mm²を減じた値が品質基準強度以上であれば合格とする。
＊ コア供試体の代わりにあらかじめ準備した現場封かん養生供試体によることができる。その場合の判定基準は材齢28日を超え91日以内のn日において3個の供試体の圧縮強度の平均値から 3N/mm²を減じた値が品質管理強度以上であれば合格とする。

■ 調合管理強度は、いかによる。

$$F_m = F_\alpha + {}_{m}S_{\gamma_1} \quad (N/mm^2)$$

F_m ： コンクリートの調合管理強度 (N/mm²)
F_α ： コンクリートの品質基準強度 (N/mm²)
${}_{m}S_{\gamma_1}$ ： 標準養生した供試体の材齢 m 日における圧縮強度と構造体コンクリートの n 日における圧縮高度の差による構造体強度補正値 (N/mm²)

■ 調合強度は標準養生した供試体の材齢 m 日における圧縮強度であらわすものとし、下記の両式を満足するように定める。調合強度を定める材齢 m 日は、原則として28日とする。

$$F \geqq F_m + 1.73\sigma \quad (N/mm^2)$$
$$F \geqq 0.85F_m + 3\sigma \quad (N/mm^2)$$

F ： コンクリートの調合強度 (Nmm²)
σ ： 使用するコンクリートの圧縮強度の標準偏差(N/mm²)で、レディミクストコンクリート工場の実績による。実績のない場合は 2.5N/mm²、または 0.1F_mの大きい方の値とする。

(d) 検査

■ フレッシュコンクリートの塩化物測定は、原則として工事現場で（一財）国土開発技術センターの技術評価を受けた測定器を用いて行い、試験結果の記録及び測定器の表示部を一回の測定ごとに撮影した写真（カラー）を保管し、工事監理者の承認を得る。測定検査の回数は、通常の場合1日1回以上とし、1回の検査における測定試験は、同一試料から取り分けて３回行い、その平均値を試験値とする。
■ スランプ許容差は普通コンクリートの場合、スランプが8cm以上18cm以下の場合±2.5cm、21cmの場合±1.5cm（呼び強度27以上で高性能AE減水材を使用する場合は±2cm）とする。
高強度コンクリートの場合は、スランプが 18cm以下の場合±2.5cm、21cm以上の場合±2cmとし、スランプフローの許容差は、目標スランプフローが 50cm以下の時は±7.5cm、50cmを超えるときは±10cmとする。
■ 使用するコンクリートの圧縮強度試験は、普通コンクリートでは標準養生を行った供試体を用いて材齢 28日で行い、１回の試験は、打込み工区事、かつ 150cm³またはその端数ごとに 3個の試供体を用いて行う。 3回の試験で 1検査ロットを構成する。
高強度コンクリートでは、打込み日かつ 300m³ごとに検査ロットを構成して行う。 1検査ロットにおける試験回数は 3回とする。検査は適当な間隔を開けた任意の 3台のトラックアジテータから採取した合計 9個の試供体による試験結果を用いて行う。検査に用いる供試体の養生方法は標準養生とする。
■ 構造体コンクリートの圧縮強度の検査は普通コンクリートでは、打込み工区ごと、打込み日ごと、かつ 150cm³またはその端数ごとに1回行う。 1回の試験には適当な間隔をおいた 3台の運搬車から1個ずつ採取した合計 3個の供試体を用いる。
高強度コンクリートでは打込み日、打込み工区かつ 300m³ごとに行う。検査には適当な間隔をあけた任意の 3台のトラックアジテータから採取した合計 9個の供試体を用いる。検査に用いる供試体の養生方法は標準養生または構造体温度養生とする。
■ 使用するコンクリートの圧縮強度の判定は、 JASS5による。
構造体コンクリートの圧縮強度の判定は、(c)調合および構造体コンクリート強度による。
□ コンクリートの試験は、「建築部の工事における試験及び検査に関する東京都取扱要綱」第4条の試験機関で行うこと。
試験・検査機関名　（都知事登録　　号）
代行業者名　（登録番号　　号）
代行業者とは、試験・検査に伴う業務を代行するものを言う。

（２）鉄　　筋

(a) 施工

■ 鉄筋はJIS G 3112（鉄筋コンクリート用棒鋼） に適合するものを用いる。溶接金鋼I及び鉄筋格子は、JIS G 3551 （溶接金網及び鉄筋格子）に適合するものを用いる。
■ 高強度せん断補強筋は、技術評価を取得し、建築基準法第37条の材料認定を受けたものを用いる。
■ 鉄筋加工寸法、形状、鉄筋の継手位置、継手の重ね長さ、定着長さは「新 鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)～(3)」による。
■ 鉄筋の継手は重ね継手、ガス圧接継手、機械式継手又は溶接継手によることとし、鉄筋径と使用箇所を定め特記による。

表9.4 鉄筋の継手

鉄筋継手工法	継手の位置等の設計条件による仕様・等級 (1) 引張力最小部位	(2) (1)以外の部位 (注) A 級	B 級	SA級	鉄筋の径	使用箇所
■ 重ね継手	標準図による				■ D（16）以下	
□ 圧接継手	■ 告示1463号第2項各号	□			□ D（19）以上	
□ 溶接継手	■ 告示1463号第3項各号	□	□		□ D（　）以上	
□ 機械式継手	■ 告示1463号第4項各号	□	□	□	□ D（　）以上	

注）(1)以外の部位に設ける継手は、平成12年告示第1463号ただし書きに基づき、日本鉄筋継手協会、日本建築センター等の認定・評定等を取得した継手工法の等級で、構造計算にあたって『鉄筋継手使用基準（建築物の構造関係技術基準解説書2020）』によって検討した部材の条件・仕様によること。

□ 機械式継手および圧接継手および溶接継手は（公社）日本鉄筋継手協会「鉄筋継手標準仕様書」による他、所要の品質が得られるように工事計画および工事管理計画を定めて、工事監理者の承認を受ける。
□ ガス圧接の施工は、強風時または降雨時に原則として作業を行わない。ただし、風除け・覆いなどの設備をした場合には、工事監理者の承認を得て作業を行うことができる。
□ 圧接技量資格者は、（公社）日本鉄筋継手協会によって認証された技量適格性証明書を工事監理者に提出し、承認を受ける。
□ 機械鉄筋定着工法に用いる定着板には、信頼できる機関による性能証明等を取得した定着金物を用いる。

(b) 検査

i) 鉄筋の種類・径の検査
■ 鉄筋搬入時に鉄筋の種類と径をミルシート、ロールマーク、結束ごとの表示で確認し、必要に応じて径は計測する。

ii) 配筋の検査
■ 鉄筋の数量、材質、加工形状、配置、間隔、継手と定着の位置と長さ、カットオフ長さ等を目視、又は、計測で確認する。

iii) 鉄筋継手部の検査
各継手工法ごとの検査は平12建告1463号による他、具体的な検査方法は、(公社)日本鉄筋継手協会仕様書を参照のこと。

表9.5 鉄筋の継手部の検査（検査結果は工事監理者に報告すること）

鉄筋継手工法	検査の種類	検査数量	試験方法
圧接継手	■ 外観検査	全数※	目視又は計測
	■ 超音波探傷検査	抜取り1検査ロット当たり（　）箇所又は（　）%	JIS Z 3062：2014による
	■ 引張試験による検査	抜取り1検査ロット当たり（　）箇所又は（　）%	JIS Z 3120：2014による
溶接継手	■ 外観検査	全数※	目視又は計測
	■ 超音波探傷検査	抜取り1検査ロット当たり（　）箇所又は（　）%	JIS　0005：2017による
	■ 引張試験による検査	抜取り1検査ロット当たり（　）箇所又は（　）%	JIS Z 2241：2011による
機械式継手	■ 外観検査	全数※	目視又は計測
	■ 超音波探傷検査	抜取り1検査ロット当たり（　）箇所又は（　）%	JIS　0003：2017による
	■ 引張試験による検査	抜取り1検査ロット当たり（　）箇所又は（　）%	JIS Z 2241：2011による

注）1 抜取り1検査ロットは、同一作業班が同一日に作業した継手箇所で200か所程度とする。
注）2 ガス圧接部分の検査を超音波探傷検査によって行う場合、数ロットについては引張試験も併用し、1回の引張試験は超音波探傷試験に合格した部位から抜取った3本以上とする。

※外観検査の実施は次による。（必要に応じて測定器具等の検査機器を用いること）

表9.6 外観検査の要領

	自主検査	受入検査 検査機関	受入検査 施工者	工事監理者	備　考
■	全数	全数	（　）	（　）	
□	全数	超音波探傷及は超音波測定検査実施部位	検査機関による検査部位以外	（　）	
□	全数	—	全数	（　）	
□	全数	抜取り1検査ロット当たり（　）箇所又は（　）%	（　）	（　）	

□ 引張試験を行う試験機関、非破壊試験を行う検査機関は、建築主、工事監理者、または施工者が自ら契約した機関とする。
□ 試験機関は「建築物の工事における試験及び検査における東京取扱要綱」第4条の試験機関、検査期間は同要綱第8条の検査機関とする。
試験機関名　（都知事登録　　号）
検査機関名　（都知事登録　　号）

（３） かぶり厚さ

■ 最小かぶり厚さは、表9.7に規定する設計被り厚さを10mm減じた値とする。
■ 設計かぶり厚さは、コンクリート打ち込み時の変形・移動などを考慮して、最小かぶり厚さが確保されるように、部位・部材ごとに定めるものとし、表9.7以上の値とする。

表9.7 設計かぶり厚さ（単位：mm）

構造体の計画供用期間の級		標準・長期		超長期	
部材の種類		屋　内	屋　外 (2)	屋　内	屋　外 (2)
構造部材	柱・梁・耐力壁	40	50	40	50
	床スラブ・屋根スラブ	30	40	40	50
非構造部材	構造部材の同等の耐久性を要求する部材	30	40	40	50
	計画供用期間中に維持保全を行う部材(1)	30	40	(30)	(40)
直接土に接する柱・梁・壁・床および布基礎の立ち上がり部分、擁壁の壁部分		50			
基礎、擁壁の基礎・底盤		70			

注）(1) 計画供用期間の級が超長期で計画供用期間中に維持保全を行う部材では、維持保全の周期に応じて定める。
(2) 計画供用期間の級が標準、長期および超長期で、耐久性状有効な仕上げを施す場合は、屋外側では設計かぶり厚さを 10mm減じることができる。

■ 完成した構造体の各部位における最外側鉄筋のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上とする。
■ コンクリート構造体に誘発目地・施工目地などを設ける場合は、建築基準法施工令第79条に規定する数値を満足し、構造耐力上必要な断面寸法を確保し、防水上および耐久性上有効な措置を講じれば上記によらなくてもよい。

（４） 型　枠

■ 型枠および支保工の存置期間は、下表による。
表9.8 型枠存置日数　昭和46年建設省告示第110号（最終改正：令和元年国土交通省告示第203号）

種類 / 部位 / セメントの種類 / 存置期間の平均気温	せき板 基礎、梁側、柱、壁 早強ポルトランドセメント	せき板 基礎、梁側、柱、壁 普通ポルトランドセメント 高炉セメントA種 シリカセメントA種	せき板 スラブ下、梁下 早強ポルトランドセメント	せき板 スラブ下、梁下 普通ポルトランドセメント 高炉セメントA種 シリカセメントA種	支柱 スラブ下 早強ポルトランドセメント	支柱 スラブ下 普通ポルトランドセメント 高炉セメントA種 シリカセメントA種	支柱 梁下 早強ポルトランドセメント	支柱 梁下 普通ポルトランドセメント 高炉セメントA種 シリカセメントA種
コンクリートの材令（日） 15℃以上	2	3	4	6	8	17	28	
5℃～15℃	3	5	6	10	12	25	28	
5℃未満	5	8	10	16	15	28	28	
コンクリートの圧縮強度	※ 5.0N/mm²		設計基準強度の50%		設計基準強度の 85%		100%	

※ JASS 5では普通コンクリートの場合計画供用期間の級が標準にあっては 5N/mm²以上、長期及び超長期の場合は 10N/mm²以上、また高強度コンクリートの場合は 10N/mm²以上。
注）1 片持ち梁、庇、スパン 9.0m以上の梁下は、工事監理者の承認による。
注）2 大梁の支柱の盛替えは、行わない。また、その他の梁の場合も原則として行わない。
注）3 支柱の盛替えは、必ず直上階のコンクリート打ち後とする。
注）4 盛替え後の支柱頂部には、厚い受板、角材または、これに代わるものを置く。
注）5 支柱の盛替えは小梁が終わってからスラブを行う。一時に全部の支柱を取り払って盛替えをしてはならない。
注）6 直上階に著しく大きい積載荷重がある場合においては、支柱（大梁の支柱を除く）の盛替えを行わないこと。
注）7 支柱の盛替えは、養生中のコンクリートに有害な影響をもたらすおそれのある振動または衝撃を与えないように行うこと。

使用建築材料表・使用構造材料一覧表

（1） コンクリート　（レディーミクスコンクリート　JIS Q 1001, JIS Q 1011, JIS A 5308）

適用箇所 階	部位	設計基準強度 Fc=N/mm²	品質基準強度 Fq=N/mm²	スランプ cm (スランプフロー)	比重 r =KN/m³	備考（使用部位）
1	■床版 ■基礎 □地中梁	21	24	18	23	
	□					
	土間コンクリート	□				※本仕様適用外
	捨てコンクリート	■ 18				※本仕様適用外
セメントの種類		■ポルトランドセメント（■普通 □中庸熱 □低熱 □　）				（　）
		□高炉セメント（ □A種 □B種 □C種 ）				（　）
		□				（　）
細骨材の種類		■砂 □山砂 □砕砂 □				
粗骨材の種類		■砂利 □砕石 □				
水の区分		■水道水 □地下水 □工業用水				
構造体コンクリート強度を保証する材齢		材齢（ ■28日 □56日 □91日 □　）				
		養生（ □標準 □現場水中 ■現場封かん □　）				
単位水量		■185kg/m³ 以下 □175kg/m³ 以下				
単位セメント量		■270kg/m³ 以上 □				
混和剤		■AE減水剤 □高性能減水剤 □				
		□ □ □				
空気量		■4.5% □3.0% □				
塩化物量		■0.3kg/m³ 以下 □ □				
水セメント比		□65% 以下 ■50%以下 □				

特記事項 訂正事項	承認	設計	担当	縮尺 S=Non	設計年月日	工事名称	石和第一保育所建設工事（建築主体）（債務）	No.
						図面名称	テラス膜屋根　鉄筋コンクリート特記仕様書	A －71

鉄筋コンクリート構造配筋標準図

※修正箇所は下線を引くこと

1．一般事項

（1）構造図面に記載された事項は、本標準図に優先して適用する。

（2）記号

d… 異形棒鋼の呼び名に用いた数値(径)　　D… 部材の成、又は鉄筋内法直径

@… 間隔　　r… 半径　　C_L… 中心線　　?o… 部分間の内法寸法　　h o… 部分間の内法高さ

ＳＴ… あばら筋　　ＨＯＯＰ… 帯筋　　Ｓ.ＨＯＯＰ… 補強帯筋

2．鉄筋加工

（1）鉄筋の折り曲げ加工

図	折り曲げ角度	鉄筋の種類	鉄筋の径により区分	鉄筋の折り曲げ内法直径(D)
180° 余長4d以上	180° 135° 90°	SD295 SD345	D16以下	3d以上
			D19～D41	4d以上
135° 余長6d以上		SD390	D41以下	5d以上
90° 余長8d以上	90°	SD490	D25以下	
			D29～D41	6d以上

［注］（1）dは呼び名に用いた数値とする。

（2）スパイラル筋の重ね継手部に90°フックを用いる場合は、余長は12d以上とする。

（3）片持ちスラブ先端、壁筋の自由端側の先端で90°フックまたは135°フックを用いる場合は、余長は4d以上とする。

（4）スラブ筋、壁筋には、溶接金網を除いて丸鋼を使用しない。

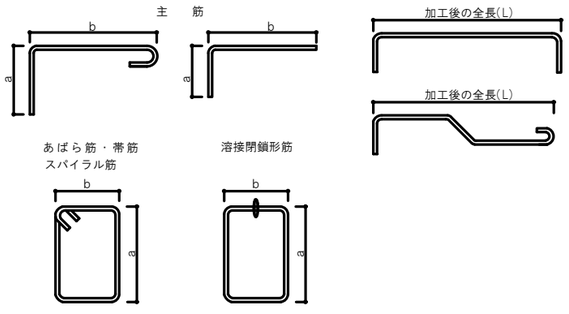
（5）折り曲げ内寸直径を上表の数値よりも小さくする場合は、事前に鉄筋の曲げ試験を行い支障ないことを確認した上で、工事監理者の承認を得る。

（6）SD490の鉄筋を90°を超える曲げ角度で折り曲げ加工する場合は、事前に鉄筋の曲げ試験を行い、支障ないことを確認した上で、工事監理者の承認を得る。

（2）加工寸法の許容差　(mm)

項目		符号	許容値
各加工寸法(1)	主筋 D25以下	a，b	± 15
	主筋 S29以上D41以下	a，b	± 20
	あばら筋・帯筋・スパイラル筋	a，b	± 5
加工後の全長		L	± 20

［注］（1） 各加工寸法及び加工後の全長の測り方の例を下図に示す。



（3）鉄筋のあき

異形鉄筋では呼び名に用いた数値1.5d以上、粗骨材の最大寸法の1.25倍以上かつ25mmのうち最も大きい値。

（4）鉄筋のフック

a～eに示す鉄筋の末端部にはフックを付ける。

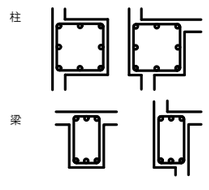
a．あばら筋、帯筋、および幅止メ筋

b．煙突の鉄筋(壁の一部となる場合を含む)

C．柱、梁(基礎梁は除く)の出すみ部分
　および下端の両端にある場合の鉄筋(右図参照)

d．単純梁の下端筋

e．その他、本配筋標準に記載する箇所



（5）定着長さ　（軽量コンクリートでは5dを加算する。）

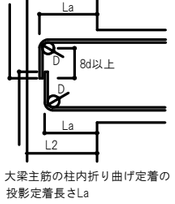
鉄筋種別	コンクリートの設計基準強度 Fc(N/mm²)	定着の長さ 一般 L2 フックなし	一般 L2h フックあり	一般 La(3)	一般 Lb	小梁下端筋 L3 フックなし	小梁下端筋 L3h フックあり	スラブ下端筋 L3 フックなし
SD295	18	40d	30d	20d	15d	20d	10d	10d かつ 150以上
	21	35d	25d	15d	15d			
	24～27	30d	20d	15d	15d			
	30～36	30d	20d	15d	15d			
	39～45	25d	15d	15d	15d			
	48～60	25d	15d	15d	15d			
SD345	18	40d	30d	20d	15d			
	21	35d	25d	20d	20d			
	24～27	35d	25d	20d	15d			
	30～36	30d	20d	15d	15d			
	39～45	30d	20d	15d	15d			
	48～60	25d	15d	15d	15d			
SD390	21	40d	30d	20d	20d			
	24～27	40d	30d	20d	20d			
	30～36	35d	25d	20d	15d			
	39～45	35d	25d	15d	15d			
	48～60	30d	20d	15d	15d			
SD490	24～27	45d	35d	25d	—	—	—	—
	30～36	40d	30d	25d	—			
	39～45	40d	30d	20d	—			
	48～60	35d	25d	20d	—			

［注］（1） フック付き鉄筋の定着長さL2hは、定着点から鉄筋の折り曲げ開始点までの距離とし、折り曲げ開始点以降のフック部は定着長さに含まない。

（2） フック部の折り曲げ内法寸法D及び余長は、「鉄筋の折り曲げ加工」の表による。

（3） 梁主筋を柱へ定着する場合、水平定着長さがL2h確保できない場合は折り曲げ定着とし、全定着長をL2以上とするとともに、水平投影長さをLa以上とし、余長を8d以上とする。
尚、Laの値は原則として柱せいの3/4倍以上とする。

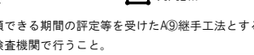
（4） 耐圧スラブの下端筋の定着長さは一般定着L2とする。

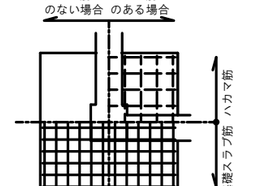


（6）継手

■重ね継手　（軽量コンクリートでは5dを加算する。）

鉄筋種別	コンクリートの設計基準強度 Fc(N/mm²)	重ね継手長さ L1 (フックなし)	重ね継手長さ L1h (フックあり)
SD295	18	45d	35d
	21	40d	30d
	24～27	35d	25d
	30～36	35d	25d
	39～45	30d	20d
	48～60	30d	20d
SD345	18	50d	35d
	21	45d	30d
	24～27	40d	30d
	30～36	35d	25d
	39～45	35d	25d
	48～60	30d	20d
SD390	21	50d	35d
	24～27	45d	35d
	30～36	40d	30d
	39～45	40d	30d
	48～60	35d	25d
SD490	24～27	55d	40d
	30～36	50d	35d
	39～45	45d	35d
	48～60	40d	30d





［注］（1） 表中のdは、異形鉄筋の呼び名の数値を表し、丸鋼には適用しない。

（2） 直径の異なる鉄筋相互の重ね継手の長さは、細い方のdによる。

（3） フック付き重ね継手の長さは、鉄筋相互の越智曲げ開始点間の距離とし、折り曲げ開始点以降のフック部は継手長さに含まない。

■継手に関する注意点

1．継手位置は、応力の小さい位置に設けることを原則とする。

2．D29以上の異形鉄筋は、原則として、重ね継手としてはならない。

3．鉄筋径dの差が7mmを超える場合は、圧接としてはならない。

4．ガス圧接継手の形状、および継手の配置は下図による。

・ガス圧接形状(平成12年建設省告示1463号下図のほか、折れ曲がり、焼き割れ、へこみ、垂れさがり及び内部欠損がないもの)

・圧接継手

・重ね継手（下図のいずれかとする）フック無しの場合はL1hはL1

5．溶接継手および機械式継手を用いる場合は、信頼できる期間の評定等を受けたA⑨継手工法とする。

6．非破壊検査は工事監理者が承認した信頼できる検査機関で行うこと。

3．杭・基礎　（配筋については地震力等の水平力等を考慮して別途検討すること）

（1）直接基礎

①独立基礎

②ベタ基礎

ハンチを付けた場合(a≧3)

1．耐圧版鉄筋の継手位置は床スラブにならう
　但し上筋と下筋を読みかえる

2．①の鉄筋はスラブ主筋の径以上とする

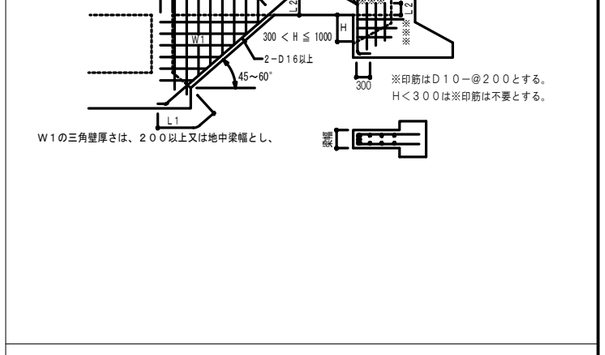
3．②の鉄筋はD13以上

4．埋戻し土のある場合は40を70とする

（2）杭基礎

①場所打ち杭

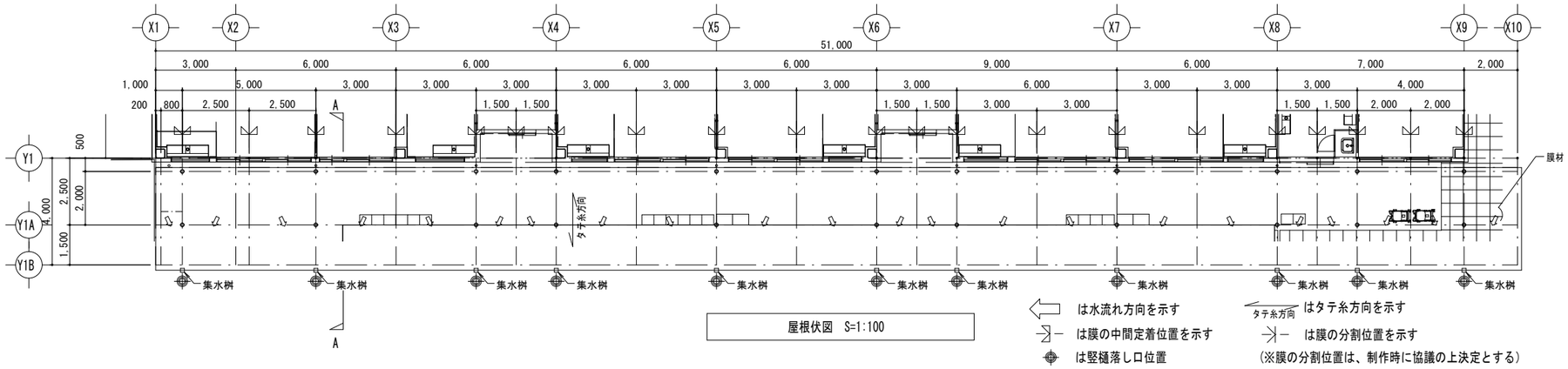
杭頭処理要領



② PHC杭

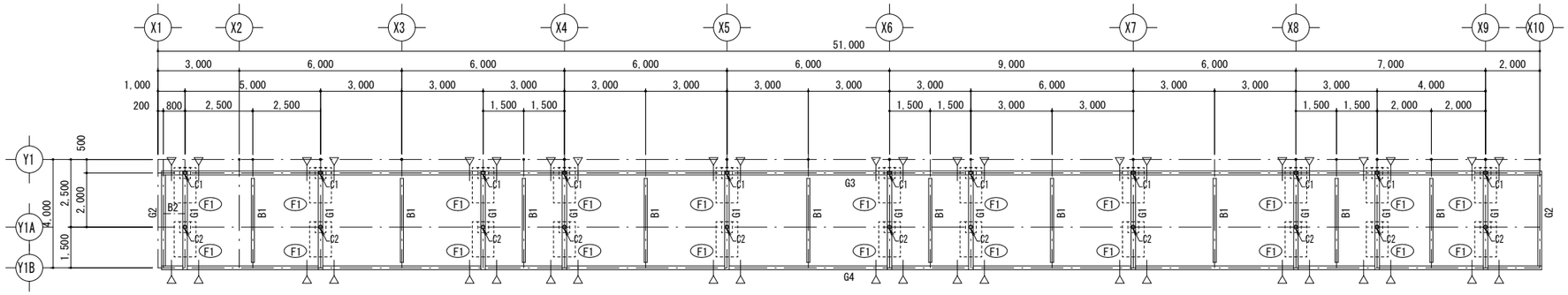
（3）基礎接合部の補強

特記事項 訂正事項	承認	設計	担当	縮尺 S=Non	設計年月日	工事名称	石和第一保育所建設工事（建築主体）（債務）	No.
						図面名称	テラス膜屋根　鉄筋コンクリート構造配筋標準図	A－72



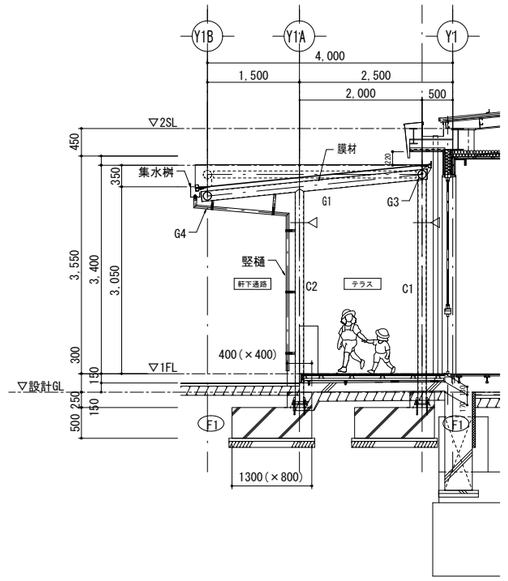
屋根伏図　S=1:100

は水流れ方向を示す
タテ糸方向 はタテ糸方向を示す
は膜の中間定着位置を示す
は膜の分割位置を示す
は竪樋落し口位置
（※膜の分割位置は、制作時に協議の上決定とする）



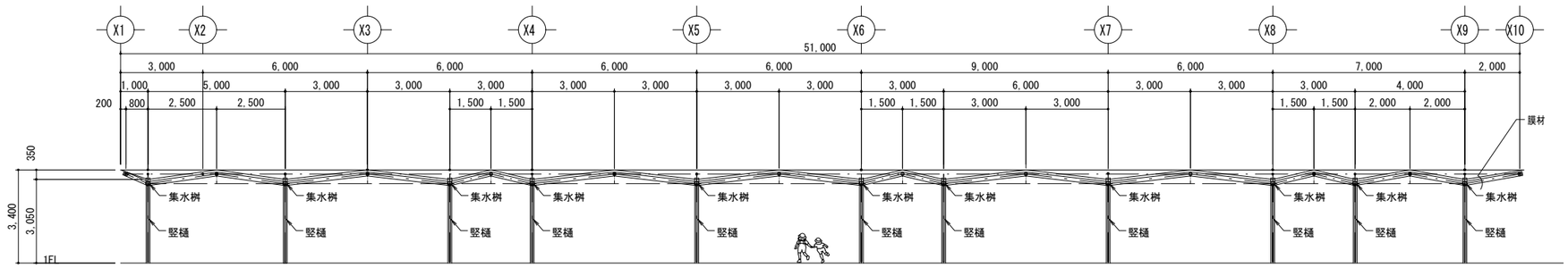
小屋伏図　S=1:100

印は、現場ジョイント位置を示す
（※現場ジョイントの位置は鉄骨製作時に協議の上決定とする）



A-A 断面図　S=1:50

印は、現場ジョイント位置を示す
（※現場ジョイントの位置は鉄骨製作時に協議の上決定とする）



立面図　S=1:100

膜材リスト

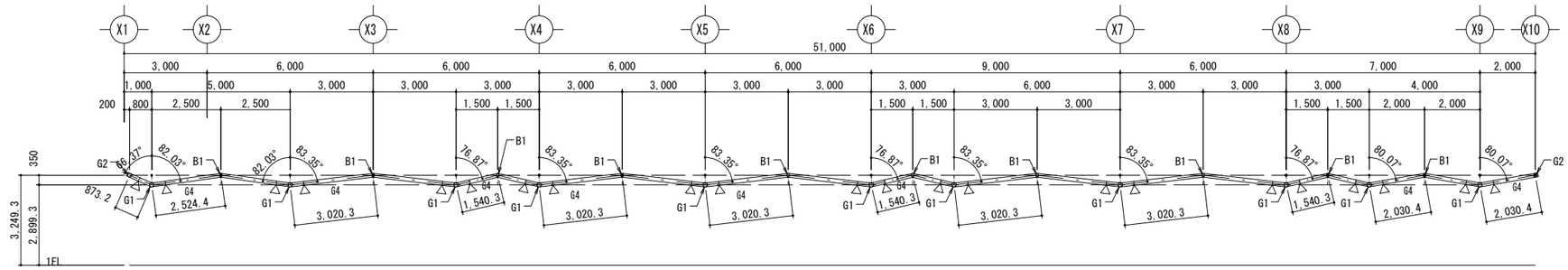
膜材料	クリーンマックス220（CMX220） 酸化チタン光触媒コーティング	認定番号　MMEM-9023 不燃認定　NM-3032-1

※膜構造建築物の品質管理については、令和５年発効「膜構造の建築物・膜材料等の技術基準」に記載する「膜構造建築物品質管理規定」に従い行うこと。
※膜材料は令和５年発行「膜構造の建築物・膜材料等の技術基準」に記載する「膜材料等品質基準」に合致するものであること。
※一般社団法人日本膜構造協会第１種正会員であること。
※一般社団法人日本膜構造協会の膜体加工工場登録制度により、膜体加工工場登録簿に記載された工場（B、C種、テント倉庫用膜材料を加工する工場）で加工すること。
※膜体加工は一般社団法人日本膜構造協会の膜体加工工場登録規定に基づく膜構造に係る高度な加工技術及び高度な品質管理能力を有する膜体加工認定工場として認定を受け、同協会の（膜体加工工場認定簿（上級グレード））に記載された工場の品質管理体制で行うこと。
※膜体加工は令和５年発行「膜構造の建築物・膜材料等の技術基準」に記載する「膜体加工指針（膜材料・テント倉庫膜材料）」に従い行うこと。
※膜材料を製品使用後に引き取り、リサイクルされる仕組みを整えていること。
※酸化チタン光触媒の効果は、光触媒工業会のPIAJ認証マーク取得商品、または同等以上の性能を有すること。
光触媒工業会が定める認証基準…
セルフクリーニング性能：分解活性指数5nmol/L/min以上　　空気浄化性能：窒素酸化物（Nox）除去量0.50μmol以上

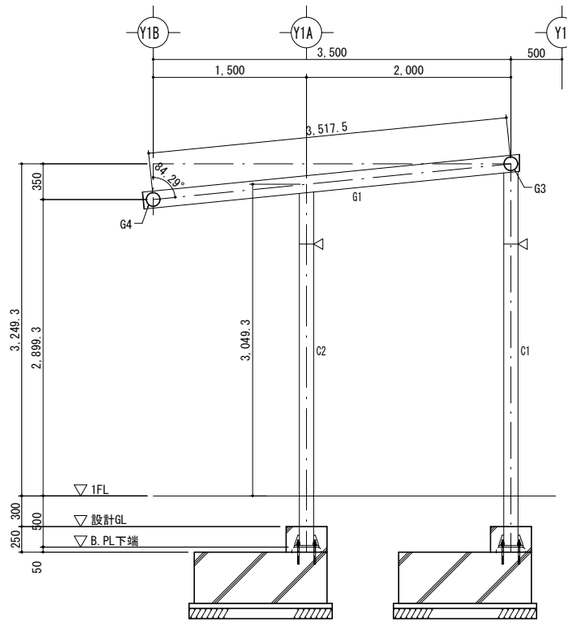
部材リスト

記号	部　材	備　考
C1	P-φ139.8×4.5	STK400
C2	P-φ139.8×4.5	STK400
G1	P-φ165.2×4.5	STK400
G2	P-φ139.8×4.5	STK400
G3	P-φ139.8×4.5	STK400
G4	P-φ139.8×4.5	STK400
B1	P-φ114.3×4.5	STK400
B2	P-φ114.3×4.5	STK400

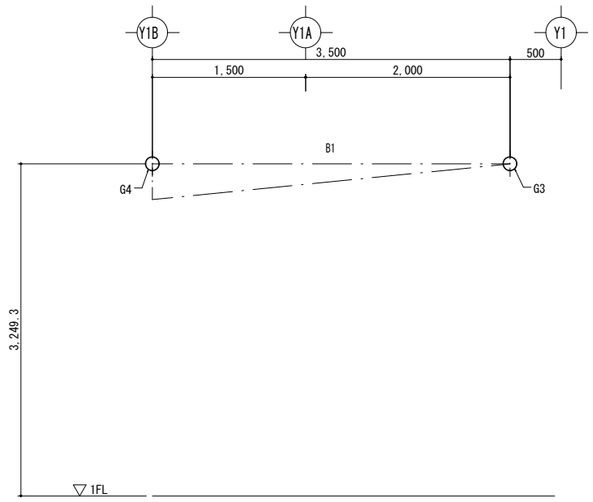
特記事項 訂正事項						承認	設計	担当		縮尺	S=1：100、50(A1) S=1：200、100(A3)	工事名称	石和第一保育所建設工事（建築主体）（債務）	No.
										設計年月日		図面名称	テラス膜屋根　屋根伏図、小屋伏図、立面図	A －７３



Y1B 通り軸組図　S=1:100



C1,C2,G1材　軸組図　S=1:30



B1材　軸組図　S=1:30

部材リスト

記号	部　材	備　考
C1	P-φ139.8×4.5	STK400
C2	P-φ139.8×4.5	STK400
G1	P-φ165.2×4.5	STK400
G2	P-φ139.8×4.5	STK400
G3	P-φ139.8×4.5	STK400
G4	P-φ139.8×4.5	STK400
B1	P-φ114.3×4.5	STK400
B2	P-φ114.3×4.5	STK400

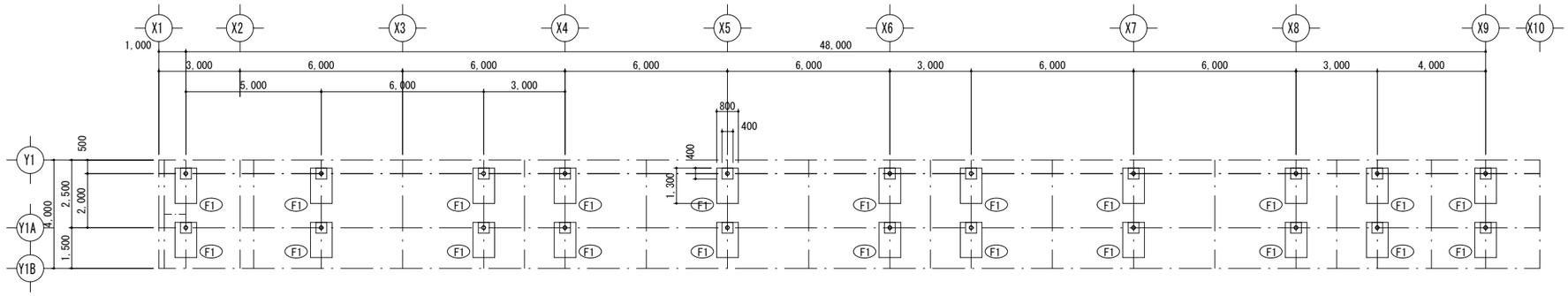
特記事項
訂正事項

承認	設計	担当

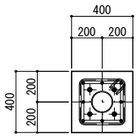
縮尺　S=1：100、30(A1)
S=1：200、60(A3)
設計年月日

工事名称　石和第一保育所建設工事（建築主体）（債務）
図面名称　テラス膜屋根　軸組図

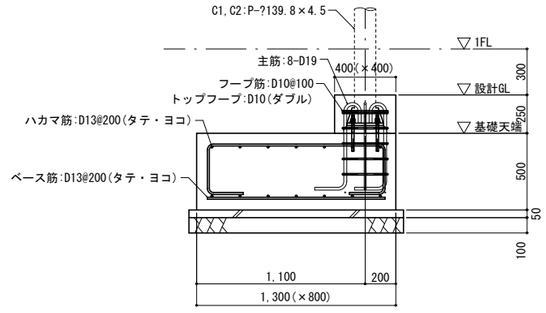
No.
A －74

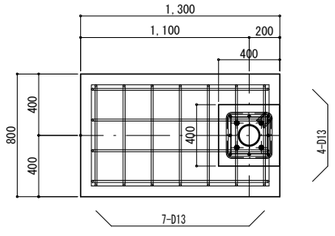


基礎伏図　S=1:100



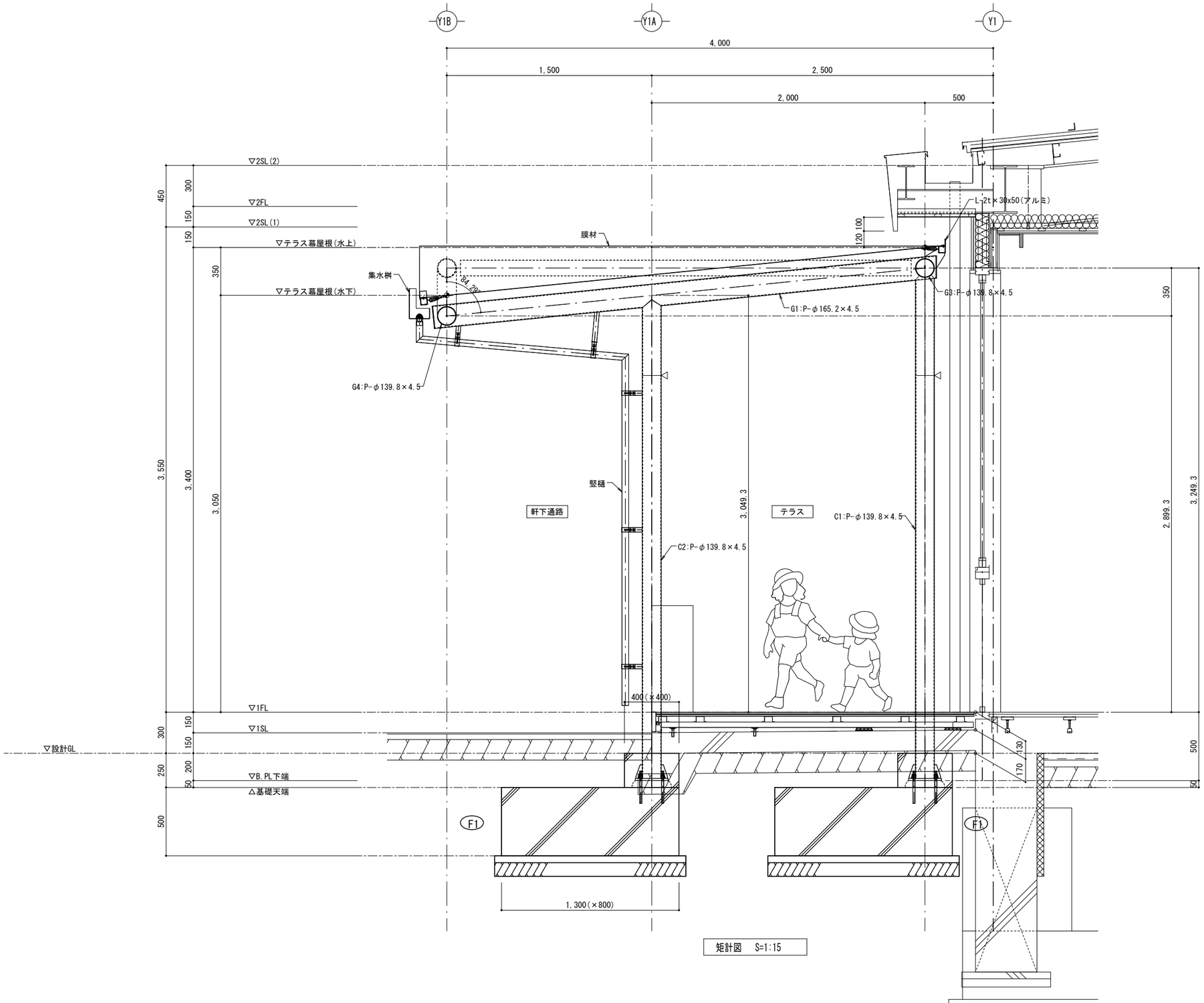
主筋:8-D19	SD345
トップフープ:2-D10	SD295A
フープ筋:D10 @100	SD295A
ハカマ筋:D13 @200	SD295A
ベース筋:D13 @200	SD295A





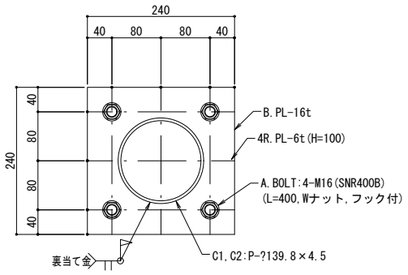
F1 基礎詳細図　S=1:20

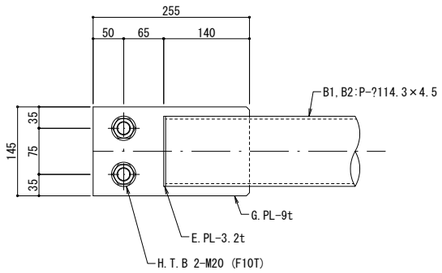
特記事項 訂正事項						承認	設計	担当		縮尺 設計年月日	工事名称　石和第一保育所建設工事（建築主体）（債務） 図面名称　テラス膜屋根　基礎伏図、基礎詳細図	No. A －75



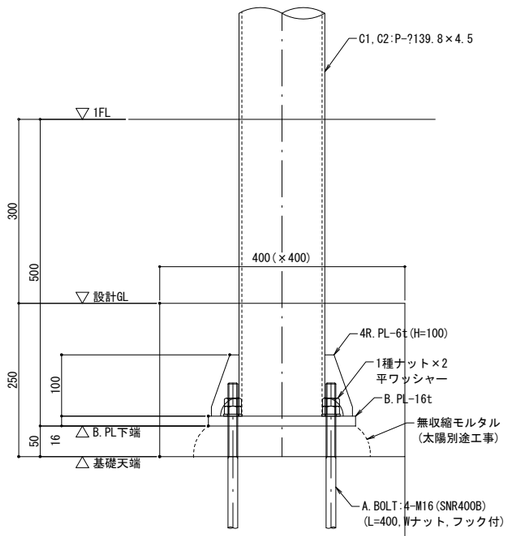
矩計図　S=1:15

特記事項 訂正事項						承認	設計	担当		縮尺 S=1:15(A1) S=1:30(A3) 設計年月日	工事名称	石和第一保育所建設工事（建築主体）（債務）	No.
											図面名称	テラス膜屋根　矩計図	A－76

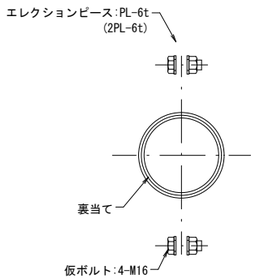


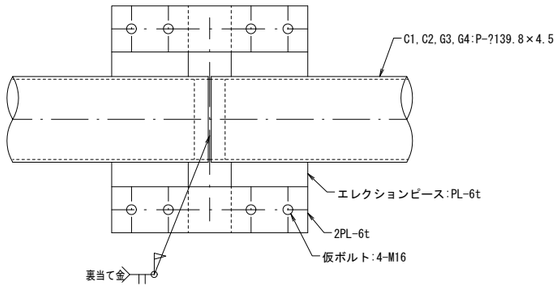


B1,B2材端部詳細図　S=1:5



柱脚詳細図　S=1:5

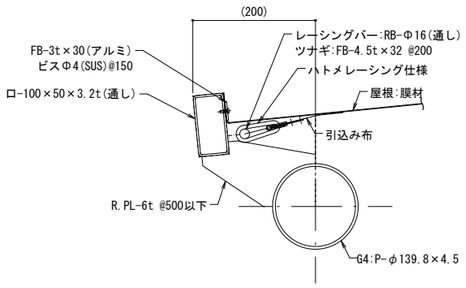




C1,C2,G3,G4材　現場溶接部詳細図　S=1:5

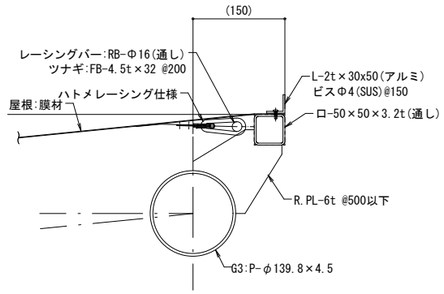
・ジョイント位置は製作時にトラック運搬 鉄骨建方等を考慮の上最終位置決定のこと。
・エレクションピースは鉄骨建て方計画に応じて枚数、配置を決定すること。
・エレクションピースは現場溶接完了後、5~10mm程度残してカットし
　グラインダー仕上げのこと。

特記事項 訂正事項						承認	設計	担当		縮尺 S=1：5(A1) S=1：10(A3) 設計年月日	工事名称　石和第一保育所建設工事（建築主体）（債務） 図面名称　テラス膜屋根　柱脚詳細図	No. A －77



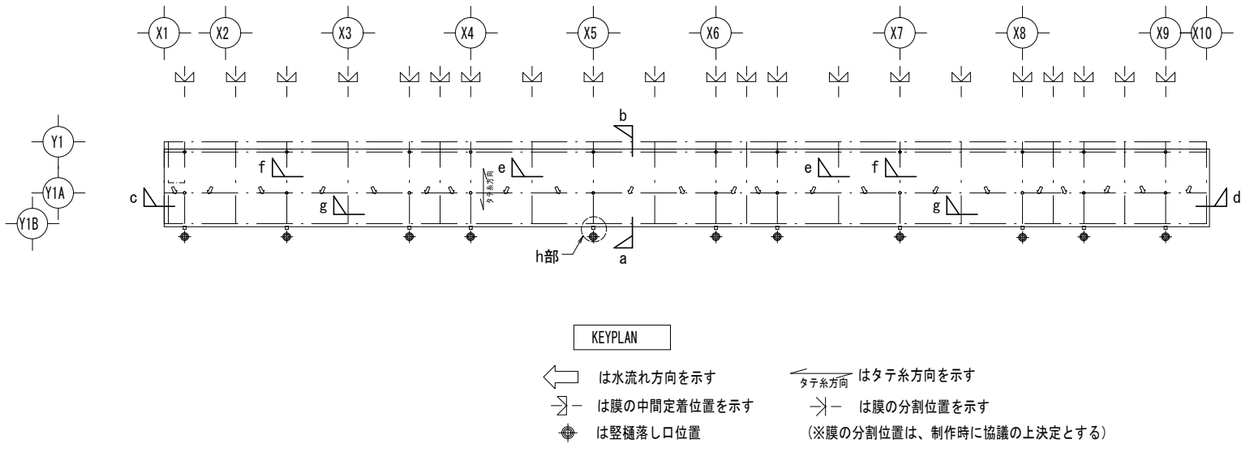
外周(水下部) 膜納まり詳細図 S=1:5

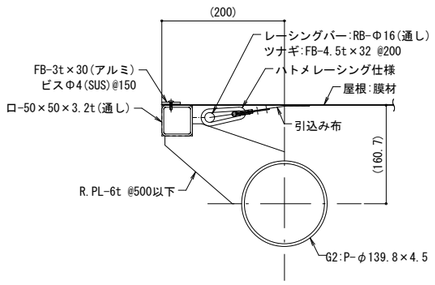
(a 断面)



外周(水上部) 膜納まり詳細図 S=1:5

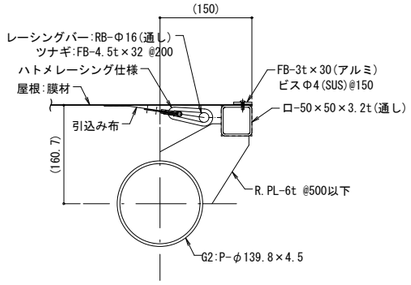
(b 断面)





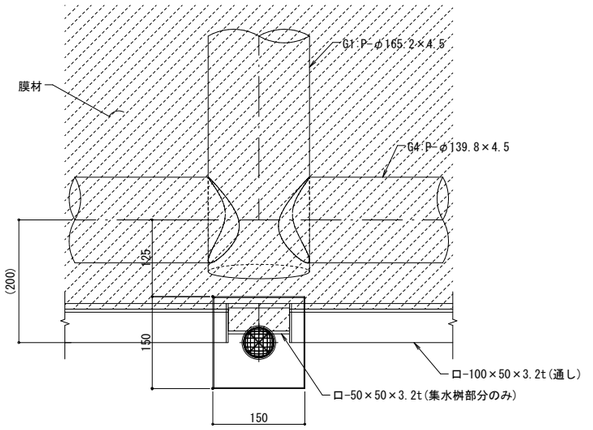
外周(妻部) 膜納まり詳細図 S=1:5

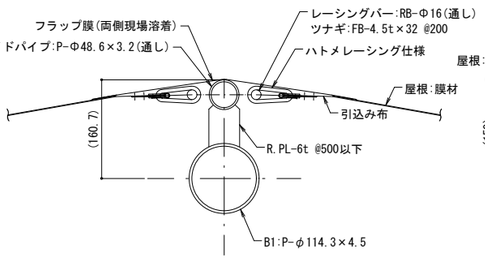
(c 断面)



外周(妻部) 膜納まり詳細図 S=1:5

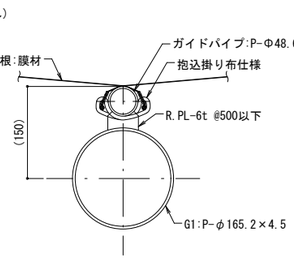
(d 断面)





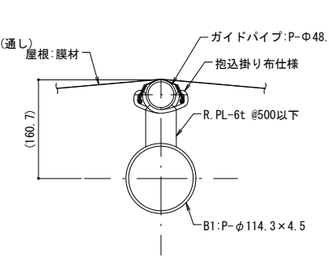
膜分割部 納まり詳細図 S=1:5

(e 断面)



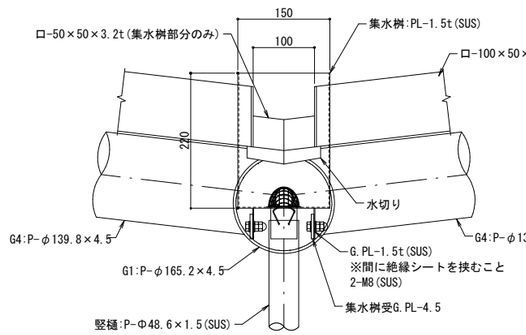
膜中間定着部 納まり詳細図 S=1:5

(f 断面)



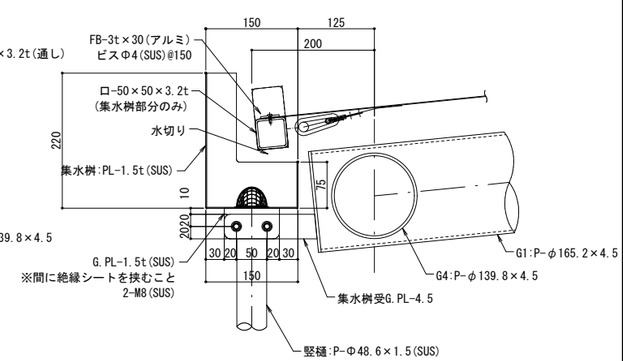
膜中間定着部 納まり詳細図 S=1:5

(g 断面)

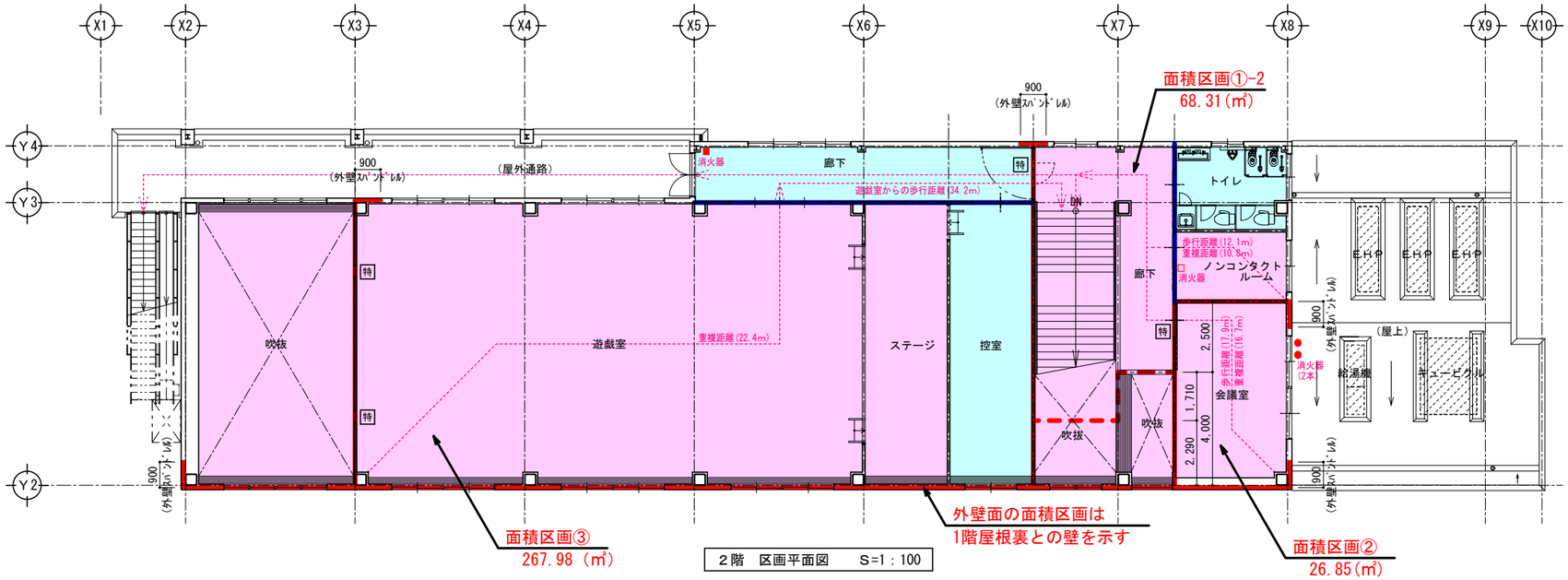


集水桝部 納まり詳細図 S=1:5

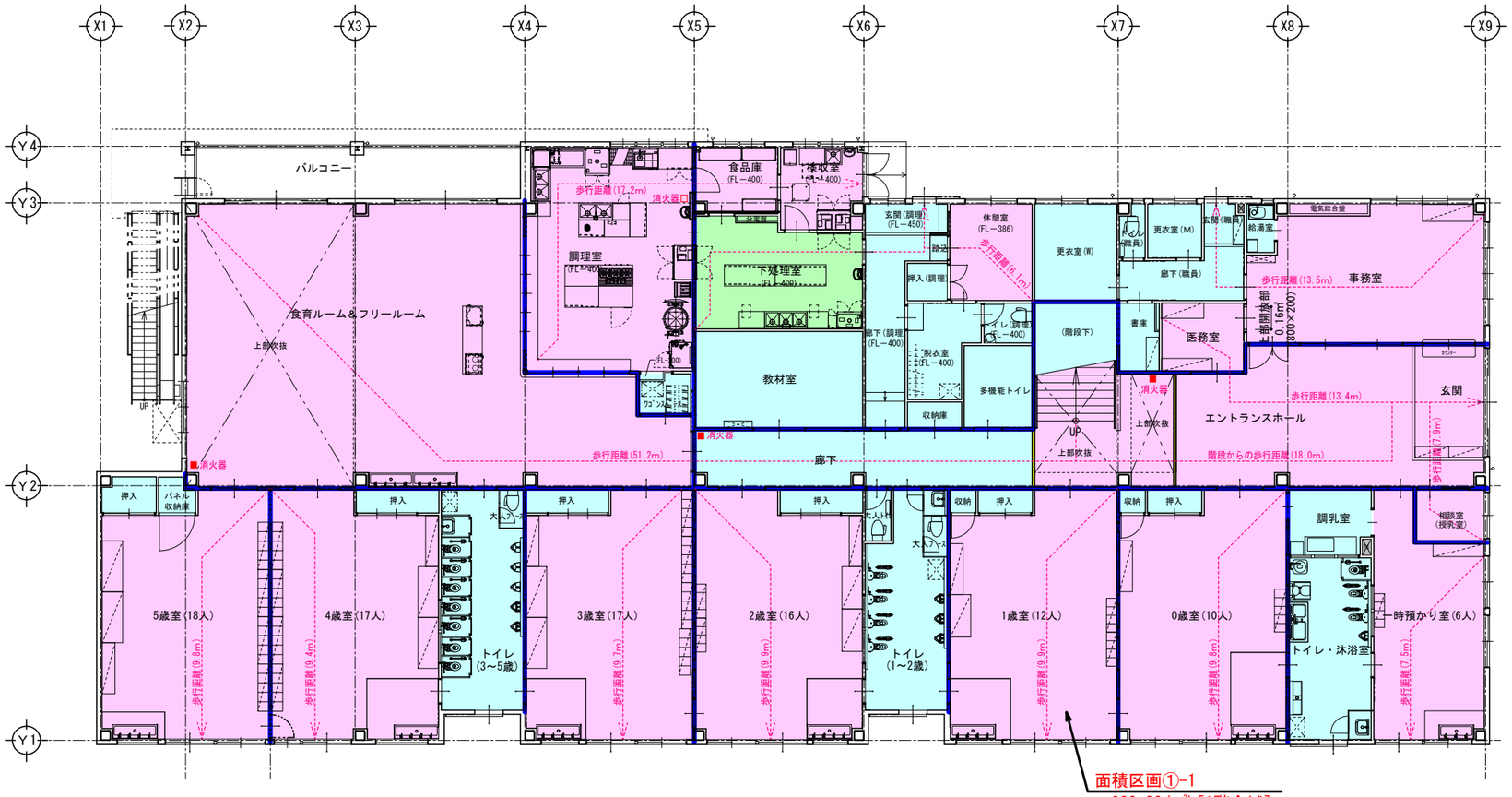
(h 部)



特記事項 訂正事項			承認	設計	担当		縮尺 S=1:5(A1) S=1:10(A3) 設計年月日	工事名称 石和第一保育所建設工事（建築主体）（債務） 図面名称 テラス膜屋根 雑詳細図	No. A－78



2階　区画平面図　　S=1：100



2階　区画平面図　　S=1：100

■面積区画

凡例	種別	備考	仕様	認定番号
━━	面積区画壁 (1,000㎡区画)	各区画面積	【間仕切壁】LGS65下地 石膏ボード12.5+12.5(両面張り)	R1国交告195
			【外壁ｽﾊﾟﾝﾄﾞﾚﾙ】窯業系ｻｲﾃﾞｨﾝｸﾞ 石膏ボード12.5+12.5(内部側)	1時間準耐火構造 QF060BE-9225
区画①		999.29（㎡）	【区画①-1】930.98㎡ + 【区画①-2】68.31㎡	
区画②		26.85（㎡）		
区画③		267.98（㎡）		
特	特定防火設備	—		

■防火上主要な間仕切壁の区画

凡例	種別	備考	仕様	認定番号
━━	114条区画壁	—	LGS65下地 石膏ボード9.5+12.5(両面張り)	H12建告1358

■排煙区画

凡例	種別		備考
	自然排煙		有効開口面積　1/50以上
	告示1436-4-へ(2) 適用	室	天井から50cm以上の防煙壁区画、周囲の壁仕上げ不燃材料
	告示1436-4-へ(5) 適用	居室	壁･天井の内装下地及び仕上げ不燃材料、開口部不燃材料(任意)
	令126の2-1-3　適用		適用除外部分(PS､EPS)
═══	防煙垂れ壁(1F階段部分)		不燃材料(LGS下地GB-R t=12.5の上ﾋﾞﾆｰﾙｸﾛｽ[両面])

■歩行距離

凡例		種別	備考
┈→	1階 (避難階)	階段から出入口までの歩行距離	50m以下(主要構造部不燃)
		居室から出入口までの歩行距離	100m以下(主要構造部不燃50m×2)
	2階	直通階段までの歩行距離	60m以下(主要構造部不燃50m+内装準不燃10m)
		直通階段(2か所)までの重複距離	30m以下(主要構造部不燃50m×1/2+内装準不燃10m×1/2)

■消火器（ボックス）

凡例	消火器		消火器ボックス	
■	ABC粉末消火器　10号	4本	埋込タイプ	4箇所
□	ABC粉末消火器　10号	2本	床置き、壁掛け兼用タイプ	2箇所
○	ABC粉末消火器　10号	2本	床置き、壁掛け兼用タイプ(屋外対応)	2箇所

特記事項 訂正事項		承認	設計	担当	縮尺 S=1：100(A1) S=1：200(A3) 設計年月日	工事名称　石和第一保育所建設工事（建築主体）（債務） 図面名称　各区画　平面図	No. A －79

２０２１年１２月１日発行　一般社団法人　東京都建築士事務所協会　監修　東京都建築構造行政連絡会

新 構造設計特記仕様 その１

・訂正箇所は下線を引くこと
摘要は ■ 印を記入する。

１．本仕様の適用範囲

（１）本仕様の適用範囲
本特記仕様および配筋標準図は、設計基準強度が 18 N/㎟以上 60 N/㎟以下のコンクリートとJIS G 3112に規定するSD295、SD345、SD390およびSD490の鉄筋コンクリート用棒鋼を用いる高さが 60 m以下の鉄筋コンクリート造、鉄骨造等建築物の設計及び工事に適用する。

（２）仕様書等の優先順位
設計図書および仕様書の優先順位は以下による。
①特記仕様
②設計図（伏図、軸組図、部材リスト、詳細図など）
③標準図（鉄筋コンクリート構造配筋標準図など）
④建築工事標準仕様書・同解説（日本建築学会）等

２．建築物の構造内容

（１）建築場所
山梨県笛吹市石和町八田178番地

（２）工事種別
■新築　□増築　□改築　□　□

（３）構造設計一級建築士の関与　■必要　□必要としない
□法第20条第二号（ □RC高さ20 m超　□S造 4 階以上　□木造高さ 13 m超　■その他 ）
□

（４）階数
地下　階　地上 2 階　塔屋　階
地下　階　地上　階　塔屋　階
地下　階　地上　階　塔屋　階

（５）構造種別

構造種別	該当階等	架構特徴等
□鉄筋コンクリート造 (RC)	基礎　階～　階	□免震建物
□鉄骨鉄筋コンクリート(SRC)	階～　階	□制震建物
■鉄骨造 (S)	1 階～ 2 階	□塔状建物
□		□
□		□
□		□

（６）主要用途
□事務所　□共同住宅　□病院　□店舗　□倉庫　■保育園　□

（７）屋上付属物
□キュービクル　KN　□高架水槽　KN　□広告塔　KN　□煙突　m
□太陽光発電設備　□　□　□

（８）設計荷重
(a)主な積載荷重

室名	床用	架構用	地震用

(b)１次設計用地地震力
Co= 0.25　Z= 1.0　Rt= 1.0　K（地下）= 0.125　用途係数 1.25
(c)風荷重
地表面粗度区分 Ⅲ　基準風速 Vo= 30　KN/㎡
(d)雪荷重
■垂直積雪量 55 cm　■設計用雪荷重 1.1 KN/㎡　□
(e)特殊の荷重及び仕上材
□エレベーター　KN　基　□受水槽　KN　□エスカレーター
□　□　□　□

（９）構造計算ルート
X方向ルート 2 －（ ）　Yルート 2 －（ ）

（10）一次設計時用層間変形角
X方向 1/ 200 rad　Y方向 1/ 200 rad

（11）付帯工事
□門扉　□擁壁　□駐輪場　□機械式駐車場　□

（12）特定天井
□有　■無

（13）屋根、床、壁

材種	型式 厚 その他	使用箇所	仕様・構法
ALC (JIS A 5416)	厚	□壁 □床版	□スライド □ボルト止め
押出し成形セメント版			□ロッキング
□ハーフPca版 □Pca版	厚	□壁 □床版	
折 版	H= 厚	□屋根 □	
特殊デッキプレート大臣認定（ ）	型式 厚	□屋根 □床版	

３．使用建築材料表・使用構造材料一覧表

（１）コンクリート （レディーミクスコンクリート JIS Q 1001, JIS Q 1011, JIS A 5308）

階	適用箇所 部位	設計基準強度 Fc=N/㎟	品質基準強度 Fq=N/㎟	スランプ cm (スランプフロー)	比重 r =KN/m³	備考 (使用部位)
	□柱 □壁 □梁 □床版 □					
	□柱 □梁 □壁 □床版 □ □					
	□柱 □梁 □壁 □床版 □ □					
	□柱 □梁 □壁 □床版 □ □					
	□柱 □梁 □壁 □床版 □ □					
	□柱 □梁 □壁 □床版 □ □					
1	■床版 □ ■基礎 ■地中梁	24	24	18	23	
	□					
	土間コンクリート	■ 24	24	18	23	※本仕様適用外
	捨てコンクリート	■ 18				※本仕様適用外
セメントの種類		■ポルトランドセメント（■普通 □中庸熱 □低熱 □ ）				（ ）
		□高炉セメント（ □A種 □B種 □C種 ）				（ ）
		□				（ ）
細骨材の種類		■砂 □山砂 □砕砂 □				
粗骨材の種類		■砂利 □砕石 □ □				
水の区分		■水道水 □地下水 □工業用水 □				
構造体コンクリート強度を保証する材齢		材齢（ ■ 28日 □ 56日 □91日 □ ）				
		養生（ □ 標準 □ 現場水中 ■現場封かん □ ）				
単位水量		■185kg/m³ 以下 □175kg/m³ 以下				
単位セメント量		■270kg/m³ 以上 □				
混和剤		■AE減水剤 □高性能減水剤 □				
		□ □ □				
空気量		■4.5% □3.0% □				
塩化物量		■0.3kg/m³ 以下 □ □				
水セメント比		□65% 以下 ■50%以下 □				

（２）コンクリートブロック （□ JIS A 5406）
□A種 □B種 □C種 厚 □100 □120 □150 □190 使用箇所（□ □ ）

（３）鉄 筋

鉄筋	種類	使用径 mm	使用箇所	備考
異形鉄筋 (JIS G 3112)	■ SD295	D10～D16	基礎地中梁床版	■重ね継手
	■ SD345	D19～D25	基礎地中梁床版	■ガス圧接継手
	□ SD390			□溶接継手
	□ SD490			□機械式継手
	□			□
	□			□機械式定着工法
高強度せん断補強筋	□ 685			□大臣認定番号 MSRB-
	□ 785			
	□ 1275			
	□			
溶接金網 (JIS G 3112)	■	6φ	デッキ床	
	□			

注1） SD490をガス圧接する場合は施工前に試験を行うこと。
注2） 各継手の使用詳細については本仕様その2の9.(2)鉄筋継手の項に■にて表示すること。

（４）鉄 骨

種類			使用箇所	現場溶接	JIS規格・認定番号等
□SN400A	■SN400B	□SN400C	大梁	□有 ■無	JIS G 3136
□SN490B	■SN490C	□	ﾀﾞｲﾔﾌﾗﾑﾊﾟｰﾌｪｰﾄ	□有 ■無	JIS G 3136
■SS400	□SS490	□	二次部材	□有 ■無	JIS G 3101
□SM400A	□SM490A	□	主柱	□有 □無	JIS G 3106
■BCR295	□TSC295	□		□有 ■無	大臣認定品 認定番号 MSTL-
□BCP235	□BCP325	□		□有 □無	大臣認定品 認定番号 MSTL-
□STKR400	□STKR490	□		□有 □無	JIS G 3466
■SSC400	□	□	胴縁他	□有 ■無	JIS G 3350
□	□	□			
溶接材料	□	□			JIS Z
□	□	□			

（５）ボルト等
■高力ボルト
■F10T（JIS B 1186 S10T 大臣認定番号（ ）（■M16, ■M20, ■M22, □M24, □ ）
□溶融亜鉛メッキ高力ボルト F8T 大臣認定番号（ ）（□M16, □M20, □M22, □M24, □ ）
□
■ボルト(JIS B 1180) M M ■4.8(4T) □ □
■アンカーボルト(構造用アンカーボルト)
■SS400 M L= mm ナット(□シングル ■ダブル)
■ABR400 M L= mm ナット(□シングル ■ダブル)（JIS B 1220）
□ M L= mm ナット(□シングル □ダブル)
□頭付スタッド(JIS B1198)
φ= L= mm 使用箇所(□柱 □大梁 □小梁)
φ= L= mm 使用箇所(□柱 □大梁 □小梁)

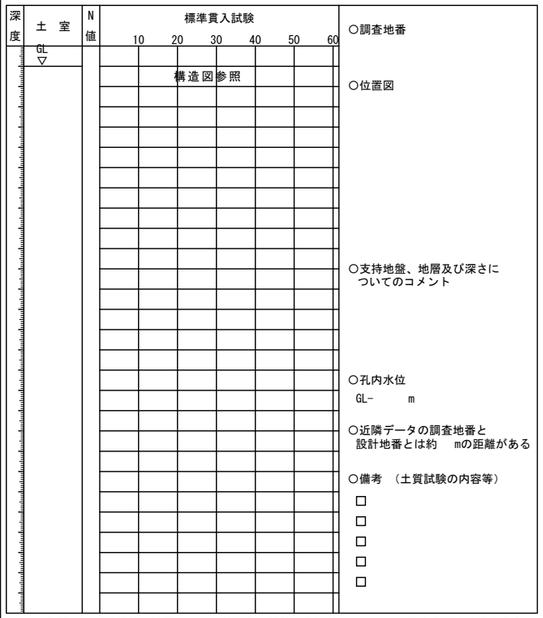
４．地　盤

（１）地盤調査資料と調査計画
■有（■敷地内 □近隣）□無（調査計画 □有 □無）

調査項目	資料あり	調査計画	調査項目	資料有り	調査計画	調査項目	資料有り	調査計画
ボーリング調査	●		静的貫入試験			標準貫入試験	●	
水平地盤反力係数の測定	●		土質試験	●		物理探査		
試験堀（ 支持層の確認 ）			平板載荷試験			液状化判定	●	
スウェーデン式サウンディング			現場透水試験			PS検層		

注） 上記表中の資料があるもの、調査計画が有るものに○を記入する。

（２）ボーリング標準貫入値、土質構成 （基礎・杭の位置を明記すること）



注）地盤調査及び試験杭の結果により、杭長さ、杭種、直接基礎の深さ、形状を変更する場合もある。

５．地業工事

（１）直接基礎 □ベタ基礎 □布基礎 ■独立基礎 試験堀 □有 ■無
深さGL- 3.00 m 支持層- 砂礫 長期許容支持力 250 KN/㎡ 載荷試験 □有 ■無
ラップルコンクリート併用

（２）地盤改良 □浅層混合処理工法 □深層混合処理工法 □
深さGL- m 長期許容支持力度 KN/㎡ 積載試験 □有 □無
注）「建築物のための改良地盤の設計及び品質管理指針：日本建築センター2018」を参考とする

（３）杭基礎 □支持層の想定深度分布図を作成し、杭と支持層の関係を確認する。
□施工計画書に施工時における試験杭と本杭の支持層の確認方法を明記する。
□支持層の確認結果を施工結果報告書にまとめる。

杭種	材料	施工法	備考
□場所打ち コンクリート杭	コンクリートFc N/mm³ スランプ m以下 セメント量 /m³ 単位水位 kg/m³	□オールケーシング □リバースサーキュレーション □アースドリル □拡底杭 □拡頭・拡底杭 □鋼管補強杭 □ □深 礎 □手堀 □機械堀	認定 第 号 年 月 日

既製杭・杭種	種類	材料	施工法	備考
□PRC	□I種 □II種 □III種	鋼材 □	□埋め込み	認定
□PHC	□A種 □B種 □C種	鋼材 □	□打ち込み	第 号
□鋼管	□	コンクリート □Fc85	□	年 月 日
□SC	□	コンクリート □Fc95	□	

杭仕様 □施工計画書承認 □杭施工結果報告書
試験杭 （ □有 □無） （ □打ち込み □載荷 □孔壁測定） 本

杭径(mm)	設計支持力(kN)	杭の先端の深さ(m)

６．鉄骨工事 （施工方法等計画書）

（１）鉄骨工事は指示のない限り下記による
■日本建築学会「JASS6 2018年版」「鉄骨精度検査基準」「鉄骨工事技術指針」
■一社）日本鋼構造協会「建築鉄骨工事施工指針」
■鉄骨制作管理技術者登録機構「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」

（２）工事管理者の承認を必要とするもの
■製作要領書 ■工作図 ■施工計画書
■認定工場（大臣認定 S H M Ⓡ J グレード）
■材料規格証明書 ※、 または試験成績書
■鋼材 ■高力ボルト ■特殊ボルト □頭付スタッド
※一社）日本鋼構造協会「建築構造用鋼材の品質証明ガイドライン」の規格証明方法、またはミルシート。
■社内検査表

（３） 工事監理者が行う検査項目
（■印以外の項目の検査結果については、工事監理者に報告すること）
□現寸検査 □組み立て・開先検査 ■製品検査 ■建方検査 □

（４） 接合部の溶接は下記によること
■平成12年建設省告示第1464号第二号 イ、ロ
■鉄骨造等の建築部の工事に関する東京都扱要綱
■日本建築学会「溶接工作基準、同解説Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、ⅥⅦ、Ⅷ、Ⅸ」
■日本建築学会「鉄骨工事技術指針 工事現場施工編」

（５）接合部の検査
□溶接部の検査（検査結果は工事監理者に報告すること）

検査箇所	検査方法	検査率又は検査数 工場自主検査	検査率又は検査数 第三者受入検査	検査率又は検査数 工事監理者	備考
■完全溶け込み溶接部（突き合わせ溶接）	外観検査（※）	100 % 個	100 % 個	（ ）	※平成12年建設省告示第1464号第二号による（目視及び計測）
	超音波探傷検査	100 % 個	30 % 個	（ ）	
	内貫検査(注) □硬さ試験	% 個	% 個	（ ）	(注)東京都の要綱に基づき必要となる建築物の場合に実施する
	内貫検査(注) □示温塗料塗布	% 個	% 個	（ ）	
	マクロ試験・その他	個	個	（ ）	
□	外観検査（※）	% 個	% 個	（ ）	
第三社検査機関名		（都知事登録 号）			

第三者検査機関とは、建築主、工事監理者又は、工事施工者が、受け入れ検査を代行させるために自ら契約した検査会社をいう。

注1）現場溶接部については原則として第三者検査機関による全数検査とし、外観検査、超音波探傷検査を100%行うこと
注2）知事が定めた重大な不具合が発生した場合は、是正前に対応策を建築主事等に報告すること

■高力ボルトの検査（検査結果は後日工事監理者に報告すること）
軸力導入試験 □要 ■否 高力ボルト滑り係数試験 □要 ■否
■一次締め後にマーキングを行い、二次締め後そのずれを見て、共回り等の異常がないことを確認する。
■トルシア形高力ボルトは二次締め後、マーキングのずれとピンテールの破断を確認する。

（６） 防錆塗装
■防錆とその範囲は、高力ボルト接合の摩擦面及びコンクリートで被覆される以外の部分とする。
錆止めペイントは、■JIS K 5621 ■JIS K 5625 ■JIS K 5674 □
（フォースター F☆☆☆☆）を使用し、2回塗を標準とするが、実状に応じて決定すること。
■現場における高力ボルト接合部および接合部の素地調整は入念に行い、塗装は工場塗装と同じ錆止めペイントを使用し、２回塗とする。
□

（7） 耐火被覆の材料
□

７．設備関係

■建築設備の構造及び構造体への緊結部分は、構造耐力上安全な構造方法を用いるものとする。
■建築設備の支持構造部および緊結金物には、錆止め等、防腐のための有効な措置を講じること。
■建築物にもおける屋上からの突出する水槽・煙突・その他これらに類するものは、風圧・地震力等に対して構造耐力上主要な部分に緊結され、安全であること。
□煙突は、鉄筋に対するコンクリートのかぶり厚さを5cm以上とした鉄筋コンクリート造とすること。
■設備配管は、地震時等の建物変形に追従できること。また、地震力に対して適切に支持されていること。
■設備機器の架台及び基礎については、風圧・地震力等に対して構造耐力上安全であること。
□エレベーター・エスカレーターの駆動装置等は構造体に安全に緊結されていること。
また、地震時の層間変形に追従できること。
□特記以外の梁貫通孔は原則として設けない。
■床スラブ内に設備配管等を埋め込む場合はスラブ厚さの1/3以下とし管の間隔を管径の3倍以上かつ5cm以上を原則とする。
□

８．その他

■諸官庁への届出書類は遅滞なく提出すること。
■各試験の供試体は公的試験機関にて試験を行い工事監理者に報告すること。
■必要に応じて記録写真を保管すること。
□

特記事項 訂正事項	承認	設計	担当	縮尺	工事名称	No.
				S=1：1(A1) S=1：1(A3) 設計年月日	石和第一保育所建設工事（建築主体）（債務）	S －01
					図面名称 新 構造設計特記仕様 その１	

新 構造設計特記仕様　その２

・訂正箇所は下線を引くこと
摘要は　■　印を記入する。

９．鉄筋コンクリート工事

（１）コンクリート工事

鉄筋コンクリート工事の施工に関しては記載無きは、JASS5 2018 による。

(a) コンクリートの仕様

本仕様書では、JASS5に規定する普通骨材を用いた一般仕様のコンクリートを「普通コンクリート」と定義し、表9.1に示す様に設計基準強度が36N/mm²以下のコンクリートについてはJASS5の3節～11節を適用し、36N/mm²を超えるコンクリートについてはJASS5の１７節（高強度コンクリート）を適用する。また、設計基準強度もしくは品質基準強度と構造体強度補正値から定める調合管理強度以上とし、発注するレディーミクスコンクリートの呼び強度が表9.2に示すJIS規格外となる場合は、法第37条の大臣認定を受けた製品を用いる必要がある。
軽量コンクリートについてはJASS5の１４節によること。

表9.1　コンクリート圧縮強度(N/mm²) に応じた仕様書の使い分け

設計基準強度 Fc	18	21	24	27	30	33	36	39	42	45	48	51	54	57	60
JASS5での区分	普通コンクリート							高強度コンクリート							

表9.2 レディーミクスコンクリートのJIS規格品

調合管理強度 (N/mm²)	21	24	27	30	33	36	39	42	45	48	51	54	57	60	60超

呼び強度（JIS規格品）	21	24	27	30	33	36	40	42	45	50	55	55	60	60	※

※印は規格外

(b) 品質と施工

■ 構造体の計画供用期間の級は特記による。特記がない場合は標準とする。
■ 標準　□ 長期　□ 超長期
（本仕様書では計画供用期間の級は、「短期」を想定していない。）
■ コンクリートは JIS A 5308 （レディミクスコンクリート）に適合するJIS認証工場の製品とする。
■ 設計基準強度が36N/mm²を超えるコンクリートを扱うレディミクスコンクリート工場は「高強度コンクリート」の製品認証をうけているか、建築基準法第37条第二号によって国土交通大臣が指定建築材料として認定した高強度コンクリートの製造工場とする。
■ レディミクスコンクリート工場及び高強度コンクリートを打設する施工現場には、コンクリート主任技術士またはコンクリート技士、あるいはこれらと同等以上の知識経験を有すると認められる技術者が常駐していなければならない。
■ 施工者は、工事に先立ち、コンクリートの調合・製造計画、品質管理計画書を作成し、工事管理者の承認を得ること。
■ フレッシュコンクリートの流動性は、スランプまたはスランプフローで表し、設計基準強度が36N/mm²以下33N/mm²以上の場合スランプ21cm以下、33/mm²未満の場合スランプ18cm以下とし、設計基準度が36N/mm²超 45N/mm²未満の場合はスランプ21cm以下またはスランプフロー50cm以下、設計基準強度が45N/mm²以上の場合はスランプ23cm以下またはスランプフロー60cm以下とし、特記による。
■ コンクリートに含まれる塩化物量は、塩化物イオン量として0.3kg/m³以下とする。
■ コンクリートの練混ぜから打込み終了までの時間は、原則として外気温が25° C未満の時は120分、25°C以上の時は90分とする。
■ コンクリートの打ち込み時の自由落下高さは、コンクリートが分離しない範囲とする。
■ 打継ぎ部は構造的に影響の少ない位置を選び打継ぎ処理を行い、打込み前に十分な水湿しを行う。
■ コンクリートの打込み中、及び、打込み後5日間はコンクリートの温度が2度を下回らないようにし、セメントの種類に応じて湿潤養生する。

(C) 調合及び構造体コンクリート強度

■ コンクリートの強度を求める強度試験は、JIS A 1108（コンクリートの圧縮強度試験方法）もしくはJIS A 1107（コンクリートからのコアの採取方法）による。

i）高強度コンクリート

□ 調合強度を定めるための基準とする材齢は、特記による。特記のない場合は28日とする。
□ 構造体コンクリート強度を保証する材齢は、特記による。特記のない場合は91日とする。
□ 構造体コンクリート強度は、次の①または②を満足するものとする。
① 標準養生した供試体による場合、調合強度を定めるための基準とする材齢において調合管理強度以上とする。
② 構造体温度養生した供試体による場合、構造体コンクリート強度を保証する材齢において設計基準強度に3N/mm²加えた値以上とする。
□ 調合管理強度は、以下による。

$${}_{H}F_m = F_c + {}_{m}S_n \quad (N/mm^2)$$

${}_{H}F_m$ ： 高強度コンクリートの調合管理強度　(N/mm²)
F_c ： コンクリートの設計基準強度　(N/mm²)
${}_{m}S_n$ ： 今日強度コンクリートの構造体強度補正値で JASS5 による。

□ 調合強度は標準養生供試体の圧縮強度で表すものとし、下記の両式を満足するように定める。

$${}_{H}F \geqq {}_{H}F_m + 1.73\sigma_H \quad (N/mm^2)$$
$${}_{H}F \geqq 0.85\,{}_{H}F_m + 3\sigma_H \quad (N/mm^2)$$

${}_{H}F$ ： 高強度コンクリートの調合強度　(N/mm²)
σ_H ： 高強度コンクリートの圧縮強度の標準偏差 (N/mm²) で、レディーミクストコンクリート工場の実績による。実績がない場合は、0.1 (F_c + ${}_{m}S_n$)とする。

ii）普通コンクリート

■ 調合を定めるための基準とする材齢は、原則として28日とする。
■ 構造体コンクリート強度は表9.3を満足すれば合格とする。

表9.3 構造体コンクリートの圧縮強度の判定基準

供試体の養生方法	試験材齢 (1)	判定基準
標準養生 (2)	28日	X ≧ F_m
コ　ア	91日	X ≧ F_{cq}

ただし、X ： 1回の試験における3個の試供の圧縮強度の平均値 (N/mm²)
F_m ： コンクリートの調合管理強度 (N/mm²)
F_{cq} ： コンクリートの品質基準強度 (N/mm²)
[注] (1) 早い材齢において試験を行い、合否判定基準を満たした場合は、合格とする。
(2) 工事監理者の承認を得て、供試体成型後、翌日までは20±10℃の日光及び風が直接当たらない箇所で、乾燥しないように養生して保管することができる。

＊ 標準養生供試体の代わりにあらかじめ準備した現場水中養生供試体によることができる。その場合の判定基準は材齢28日までの平均気温が20℃以上の場合は、3個の供試体の圧縮強度の平均値が調合管理強度以上であり、平均気温が20℃未満の場合は、3個の供試体の圧縮強度の平均値から3N/mm²を減じた値が品質基準強度以上であれば合格とする。
＊ コア供試体の代わりにあらかじめ準備した現場封かん養生供試体によることができる。その場合の判定基準は材齢28日を超え91日以内のn日において3個の供試体の圧縮強度の平均値から 3N/mm²を減じた値が品質管理強度以上であれば合格とする。
■ 調合管理強度は、いかによる。

$$F_m = F_{cq} + {}_{m}S_n \quad (N/mm^2)$$

F_m ： コンクリートの調合管理強度 (N/mm²)
F_{cq} ： コンクリートの品質基準強度 (N/mm²)
${}_{m}S_n$ ： 標準養生した供試体の材齢 m 日における圧縮強度と構造体コンクリートの n 日における圧縮高度の差による構造体強度補正値 (N/mm²)

■ 調合強度は標準養生した供試体の材齢 m 日における圧縮強度であらわすものとし、下記の両式を満足するように定める。調合強度を定める材齢 m 日は、原則として28日とする。

$$F \geqq F_m + 1.73\sigma \quad (N/mm^2)$$
$$F \geqq 0.85F_m + 3\sigma \quad (N/mm^2)$$

F ： コンクリートの調合強度 (Nmm²)
σ ： 使用するコンクリートの圧縮強度の標準偏差(N/mm²)で、レディミクストコンクリート工場の実績による。実績のない場合は 2.5N/mm²、または 0.1F_mの大きい方の値とする。

(d) 検査

■ フレッシュコンクリートの塩化物測定は、原則として工事現場で（一財）国土開発技術センターの技術評価を受けた測定器を用いて行い、試験結果の記録及び測定器の表示部を一回の測定ごとに撮影した写真（カラー）を保管し、工事監理者の承認を得る。測定検査の回数は、通常の場合1日1回以上とし、１回の検査における測定試験は、同一試料から取り分けて３回行い、その平均値を試験値とする。
■ スランプ許容差は普通コンクリートの場合、スランプが8cm以上18cm以下の場合±2.5cm、21cmの場合±1.5cm（呼び強度27以上で高性能AE減水材を使用する場合は±2cm）とする。
高強度コンクリートの場合は、スランプが 18cm以下の場合±2.5cm、21cm以上の場合±2cmとし、スランプフローの許容差は、目標スランプフローが 50cm以下の時は±7.5cm、50cmを超えるときは±10cmとする。
■ 使用するコンクリートの圧縮強度試験は、普通コンクリートでは標準養生を行った供試体を用いて材齢 28日で行い、１回の試験は、打込み工区事、かつ 150cm³またはその端数ごとに 3個の試供体を用いて行う。 3回の試験で 1検査ロットを構成する。
高強度コンクリートでは、打込み日かつ 300m³ごとに検査ロットを構成して行う。 1検査ロットにおける試験回数は 3回とする。検査は適当な間隔を開けた任意の 3台のトラックアジテータから採取した合計 9個の試供体による試験結果を用いて行う。検査に用いる供試体の養生方法は標準養生とする。
■ 構造体コンクリートの圧縮強度の検査は普通コンクリートでは、打込み工区ごと、打込み日ごと、かつ 150cm³またはその端数ごとに1回行う。 1回の試験には適当な間隔をおいた 3台の運搬車から 1個ずつ採取した合計 3個の供試体を用いる。
高強度コンクリートでは打込み日、打込み工区かつ 300m³ごとに行う。検査には適当な間隔をあけた任意の 3台のトラックアジテータから採取した合計 9個の供試体を用いる。検査に用いる供試体の養生方法は標準養生または構造体温度養生とする。
■ 使用するコンクリートの圧縮強度の判定は、 JASS5による。
構造体コンクリートの圧縮強度の判定は、(c)調合および構造体コンクリート強度による。
□ コンクリートの試験は、「建築部の工事における試験及び検査に関する東京都取扱要綱」第4条の試験機関で行うこと。
試験・検査機関名　（都知事登録　　号）
代行業者名　（登録番号　　号）
代行業者とは、試験・検査に伴う業務を代行するものを言う。

（２）鉄　　筋

(a) 施工

■ 鉄筋はJIS G 3112（鉄筋コンクリート用棒鋼） に適合するものを用いる。溶接金鋼I及び鉄筋格子は、JIS G 3551 （溶接金網及び鉄筋格子）に適合するものを用いる。
■ 高強度せん断補強筋は、技術評価を取得し、建築基準法第37条の材料認定を受けたものを用いる。
■ 鉄筋加工寸法、形状、鉄筋の継手位置、継手の重ね長さ、定着長さは「新 鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)～(3)」による。
■ 鉄筋の継手は重ね継手、ガス圧接継手、機械式継手又は溶接継手によることとし、鉄筋径と使用箇所を定め特記による。

表9.4 鉄筋の継手

鉄筋継手工法	継手の位置等の設計条件による仕様・等級 (1) 引張力最小部位	(2) (1)以外の部位 (注) A級	B級	SA級	鉄筋の径	使用箇所
■ 重ね継手	標準図による				■ D（16）以下	
■ 圧接継手	■ 告示1463号第2項各号	■			■ D（19）以上	
□ 溶接継手	□ 告示1463号第3項各号	□	□		□ D（　）以上	
□ 機械式継手	□ 告示1463号第4項各号	□	□	□	□ D（　）以上	

注）(1)以外の部位に設ける継手は、平成12年告示第1463号ただし書きに基づき、日本鉄筋継手協会、日本建築センター等の認定・評定等を取得した継手工法の等級で、構造計算にあたって『鉄筋継手使用基準（建築物の構造関係技術基準解説書2020）』によって検討した部材の条件・仕様によること。

□ 機械式継手および圧接継手および溶接継手は（公社）日本鉄筋継手協会「鉄筋継手標準仕様書」による他、所要の品質が得られるように工事計画および工事管理計画を定めて、工事監理者の承認を受ける。
■ ガス圧接の施工は、強風時または降雨時に原則として作業を行わない。ただし、風除け・覆いなどの設備をした場合には、工事監理者の承認を得て作業を行うことができる。
■ 圧接技量資格者は、（公社）日本鉄筋継手協会によって認証された技量適格性証明書を工事監理者に提出し、承認を受ける。
□ 機械鉄筋定着工法に用いる定着板には、信頼できる機関による性能証明等を取得した定着金物を用いる。

(b) 検査

i ）鉄筋の種類・径の検査
■ 鉄筋搬入時に鉄筋の種類と径をミルシート、ロールマーク、結束ごとの表示で確認し、必要に応じて径は計測する。
ii ）配筋の検査
■ 鉄筋の数量、材質、加工形状、配置、間隔、継手と定着の位置と長さ、カットオフ長さ等を目視、又は、計測で確認する。
iii ）鉄筋継手部の検査
各継手工法ごとの検査は平12建告1463号による他、具体的な検査方法は、(公社)日本鉄筋継手協会仕様書を参照のこと。

表9.5 鉄筋の継手部の検査（検査結果は工事監理者に報告すること）

鉄筋継手工法	検査の種類	検査数量	試験方法
圧接継手	■ 外観検査	全数※	目視又は計測
	■ 超音波探傷検査	抜取り1検査ロット当たり（　）箇所又は（　）%	JIS Z 3062：2014による
	□ 引張試験による検査	抜取り1検査ロット当たり（　）箇所又は（　）%	JIS Z 3120：2014による
溶接継手	□ 外観検査	全数※	目視又は計測
	□ 超音波探傷検査	抜取り1検査ロット当たり（　）箇所又は（　）%	JIJS　0005：2017による
	□ 引張試験による検査	抜取り1検査ロット当たり（　）箇所又は（　）%	JIS Z 2241：2011による
機械式継手	□ 外観検査	全数※	目視又は計測
	□ 超音波探傷検査	抜取り1検査ロット当たり（　）箇所又は（　）%	JIJS　0003：2017による
	□ 引張試験による検査	抜取り1検査ロット当たり（　）箇所又は（　）%	JIS Z 2241：2011による

注）1 抜取り1検査ロットは、同一作業班が同一日に作業した継手箇所で200か所程度とする。
注）2 ガス圧接部分の検査を超音波探傷検査によって行う場合、数ロットについては引張試験も併用し、1回の引張試験は超音波探傷試験に合格した部位から抜取った3本以上とする。

※外観検査の実施は次による。（必要に応じて測定器具等の検査機器を用いること）

表9.6 外観検査の要領

	自主検査	受入検査 検査機関	受入検査 施工者	工事監理者	備　考
■	全数	全数	（　）	（　）	
□	全数	超音波探傷又は超音波測定検査実施部位	検査機関による検査部位以外	（　）	
□	全数	—	全数	（　）	
□	全数	抜取り1検査ロット当たり（　）箇所又は（　）%		（　）	（　）

□ 引張試験を行う試験機関、非破壊試験を行う検査機関は、建築主、工事監理者、または施工者が自ら契約した機関とする。
□ 試験機関は「建築物の工事における試験及び検査における東京取扱要綱」第4条の試験機関、検査期間は同要綱第8条の検査機関とする。
試験機関名　（都知事登録　　号）
検査機関名　（都知事登録　　号）

（３）　かぶり厚さ

■ 最小かぶり厚さは、表9.7に規定する設計被り厚さを10mm減じた値とする。
■ 設計かぶり厚さは、コンクリート打ち込み時の変形・移動などを考慮して、最小かぶり厚さが確保されるように、部位・部材ごとに定めるものとし、表9.7以上の値とする。

表9.7 設計かぶり厚さ（単位：mm）

構造体の計画供用期間の級		標準・長期		超長期	
部材の種類		屋　内	屋　外 (2)	屋　内	屋　外 (2)
構造部材	柱・梁・耐力壁	40	50	40	50
	床スラブ・屋根スラブ	30	40	40	50
非構造部材	構造部材の同等の耐久性を要求する部材	30	40	40	50
	計画供用期間中に維持保全を行う部材(1)	30	40	(30)	(40)
直接土に接する柱・梁・壁・床および布基礎の立ち上がり部分、擁壁の壁部分		50			
基礎、擁壁の基礎・底盤		70			

注）(1) 計画供用期間の級が超長期で計画供用期間中に維持保全を行う部材では、維持保全の周期に応じて定める。
(2) 計画供用期間の級が標準、長期および超長期で、耐久性状有効な仕上げを施す場合は、屋外側では設計かぶり厚さを 10mm減じることができる。

■ 完成した構造体の各部位における最外側鉄筋のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上とする。
■ コンクリート構造体に誘発目地・施工目地などを設ける場合は、建築基準法施工令第79条に規定する数値を満足し、構造耐力上必要な断面寸法を確保し、防水上および耐久性上有効な措置を講じれば上記によらなくてもよい。

（４）　型　枠

■ 型枠および支保工の存置期間は、下表による。

表9.8 型枠存置日数　昭和46年建設省告示第110号（最終改正：令和元年国土交通省告示第203号）

種類 / 部位 / セメントの種類 / 存置期間の平均気温	せき板 基礎、梁側、柱、壁 早強ポルトランドセメント	せき板 基礎、梁側、柱、壁 普通ポルトランドセメント 高炉セメントA種 シリカセメントA種	せき板 スラブ下、梁下 早強ポルトランドセメント	せき板 スラブ下、梁下 普通ポルトランドセメント 高炉セメントA種 シリカセメントA種	支柱 スラブ下 早強ポルトランドセメント	支柱 スラブ下 普通ポルトランドセメント 高炉セメントA種 シリカセメントA種	支柱 梁下 早強ポルトランドセメント 普通ポルトランドセメント 高炉セメントA種 シリカセメントA種
コンクリートの材令（日） 15℃以上	2	3	4	6	8	17	28
5℃～15℃	3	5	6	10	12	25	28
5℃未満	5	8	10	16	15	28	28
コンクリートの圧縮強度	※ 5.0N/mm²		設計基準強度の50%		設計基準強度の		
					85%		100%

※ JASS 5では普通コンクリートの場合計画供用期間の級が標準にあっては 5N/mm²以上、長期及び超長期の場合は 10N/mm²以上、また高強度コンクリートの場合は 10N/mm²以上。
注）1 片持ち梁、庇、スパン 9.0m以上の梁下は、工事監理者の承認による。
注）2 大梁の支柱の盛替えは、行わない。また、その他の梁の場合も原則として行わない。
注）3 支柱の盛替えは、必ず直上階のコンクリート打ち後とする。
注）4 盛替え後の支柱頂部には、厚い受板、角材または、これに代わるものを置く。
注）5 支柱の盛替えは小梁が終わってからスラブを行う。一時に全部の支柱を取り払って盛替えをしてはならない。
注）6 直上階に著しく大きい積載荷重がある場合においては、支柱（大梁の支柱を除く）の盛替えを行わないこと。
注）7 支柱の盛替えは、養生中のコンクリートに有害な影響をもたらすおそれのある振動または衝撃を与えないように行うこと。

特記事項 訂正事項		承認	設計	担当	縮尺 S=1：1(A1) S=1：1(A3) 設計年月日	工事名称	石和第一保育所建設工事（建築主体）（債務）	No.
						図面名称	新 構造設計特記仕様　その２	S －02

新 鉄筋コンクリート構造配筋標準図 （１）

※修正箇所は下線を引くこと

１．一般事項

（１）構造図面に記載された事項は、本標準図に優先して適用する。

（２）記号

d… 異形棒鋼の呼び名に用いた数値(径)　　D… 部材の成、又は鉄筋内法直径

@… 間隔　　r… 半径　　C_L… 中心線　　?o… 部分間の内法寸法　　ｈｏ… 部分間の内法高さ

ＳＴ… あばら筋　　ＨＯＯＰ… 帯筋　　Ｓ.ＨＯＯＰ… 補強帯筋

２．鉄筋加工

（１）鉄筋の折り曲げ加工

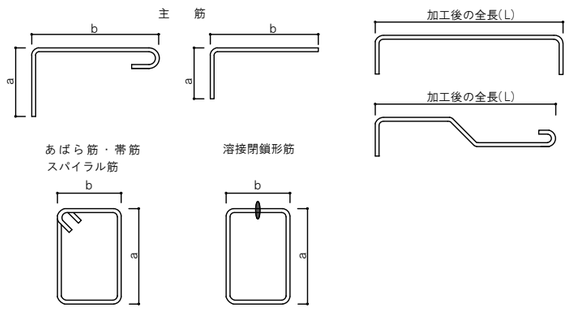
図	折り曲げ角度	鉄筋の種類	鉄筋の径により区分	鉄筋の折り曲げ内法直径(D)
180° 余長4d以上	180° 135° 90°	SD295 SD345	D16以下	3d以上
			D19～D41	4d以上
135° 余長6d以上		SD390	D41以下	5d以上
90° 余長8d以上	90°	SD490	D25以下	
			D29～D41	6d以上

［注］（１）ｄは呼び名に用いた数値とする。
（２）スパイラル筋の重ね継手部に90°フックを用いる場合は、余長は12ｄ以上とする。
（３）片持ちスラブ先端、壁筋の自由端側の先端で90°フックまたは135°フックを用いる場合は、余長は4ｄ以上とする。
（４）スラブ筋、壁筋には、溶接金網を除いて丸鋼を使用しない。
（５）折り曲げ内寸直径を上表の数値よりも小さくする場合は、事前に鉄筋の曲げ試験を行い支障ないことを確認した上で、工事監理者の承認を得る。
（６）SD490の鉄筋を90°を超える曲げ角度で折り曲げ加工する場合は、事前に鉄筋の曲げ試験を行い、支障ないことを確認した上で、工事監理者の承認を得る。

（２）加工寸法の許容差　（mm）

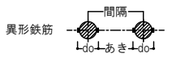
項目		符号	許容値
各加工寸法(１) 主筋	D25以下	a，b	± 15
	S29以上D41以下	a，b	± 20
あばら筋・帯筋・スパイラル筋		a，b	± 5
加工後の全長		L	± 20

［注］（１） 各加工寸法及び加工後の全長の測り方の例を下図に示す。



（３）鉄筋のあき

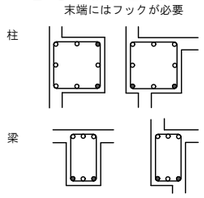
異形鉄筋では呼び名に用いた数値1.5ｄ以上、粗骨材の最大寸法の1.25倍以上かつ25mmのうち最も大きい値。



（４）鉄筋のフック

a～eに示す鉄筋の末端部にはフックを付ける。

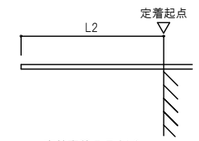
ａ．あばら筋、帯筋、および幅止メ筋
ｂ．煙突の鉄筋(壁の一部となる場合を含む)
Ｃ．柱、梁(基礎梁は除く)の出すみ部分
　および下端の両端にある場合の鉄筋(右図参照)
ｄ．単純梁の下端筋
ｅ．その他、本配筋標準に記載する箇所

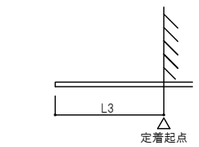


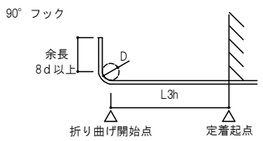
（５）定着長さ　（軽量コンクリートでは5ｄを加算する。）

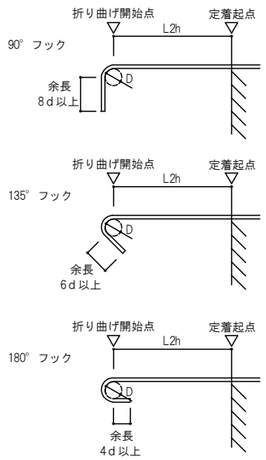
鉄筋種別	コンクリートの設計基準強度 Fc(N/mm²)	定着の長さ 一般 L2（フックなし）	一般 L2h（フックあり）	一般 La(3)	一般 Lb	小梁下端筋 L3（フックなし）	小梁下端筋 L3h（フックあり）	スラブ下端筋 L3（フックなし）
SD295	18	40d	30d	20d	15d	20d	10d	10d かつ 150以上
	21	35d	25d	15d	15d			
	24～27	30d	20d	15d	15d			
	30～36	30d	20d	15d	15d			
	39～45	25d	15d	15d	15d			
	48～60	25d	15d	15d	15d			
SD345	18	40d	30d	20d	15d			
	21	35d	25d	20d	20d			
	24～27	35d	25d	20d	15d			
	30～36	30d	20d	15d	15d			
	39～45	30d	20d	15d	15d			
	48～60	25d	15d	15d	15d			
SD390	21	40d	30d	20d	20d			
	24～27	40d	30d	20d	20d			
	30～36	35d	25d	20d	15d			
	39～45	35d	25d	15d	15d			
	48～60	30d	20d	15d	15d			
SD490	24～27	45d	35d	25d	―	―	―	―
	30～36	40d	30d	25d	―			
	39～45	40d	30d	20d	―			
	48～60	35d	25d	20d	―			

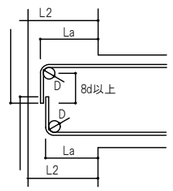
［注］（１） フック付き鉄筋の定着長さL2hは、定着点から鉄筋の折り曲げ開始点までの距離とし、折り曲げ開始点以降のフック部は定着長さに含まない。
（２） フック部の折り曲げ内寸法Dおよび余長は、「鉄筋の折り曲げ加工」の表による。
（３） 梁主筋を柱へ定着する場合、水平定着長さがL2h確保できない場合は折り曲げ定着とし、全定着長をL2以上とするとともに、水平投影長さをLa以上とし、余長を8d以上とする。
尚、Laの値は原則として柱せいの3/4倍以上とする。
（４） 耐圧スラブの下端筋の定着長さは一般定着L2とする。

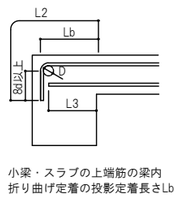








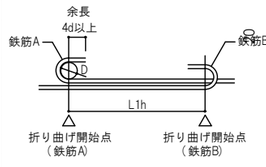




（６）継手

■重ね継手　（軽量コンクリートでは5dを加算する。）

鉄筋種別	コンクリートの設計基準強度 Fc(N/mm²)	重ね継手長さ L1（フックなし）	重ね継手長さ L1h（フックあり）
SD295	18	45d	35d
	21	40d	30d
	24～27	35d	25d
	30～36	35d	25d
	39～45	30d	20d
	48～60	30d	20d
SD345	18	50d	35d
	21	45d	30d
	24～27	40d	30d
	30～36	35d	25d
	39～45	35d	25d
	48～60	30d	20d
SD390	21	50d	35d
	24～27	45d	35d
	30～36	40d	30d
	39～45	40d	30d
	48～60	35d	25d
SD490	24～27	55d	40d
	30～36	50d	35d
	39～45	45d	35d
	48～60	40d	30d

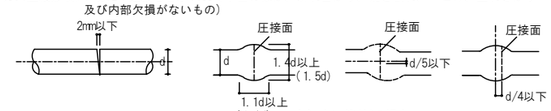


［注］（１） 表中のdは、異形鉄筋の呼び名の数値を表し、丸鋼には適用しない。
（２） 直径の異なる鉄筋相互の重ね継手の長さは、細い方のdによる。
（３） フック付き重ね継手の長さは、鉄筋相互の越智曲げ開始点間の距離とし、折り曲げ開始点以降のフック部は継手長さに含まない。

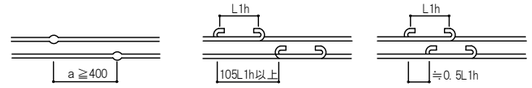
■継手に関する注意点

1．継手位置は、応力の小さい位置に設けることを原則とする。
2．D29以上の異形鉄筋は、原則として、重ね継手としてはならない。
3．鉄筋径dの差が7mmを超える場合は、圧接としてはならない。
4．ガス圧接継手の形状、および継手の配置は下図による。

・ガス圧接形状（平成12年建設省告示1463号下図のほか、折れ曲がり、焼き割れ、へこみ、垂れさがり及び内部欠損がないもの）



・圧接継手　　・重ね継手（下図のいずれかとする）フック無しの場合はL1hはL1

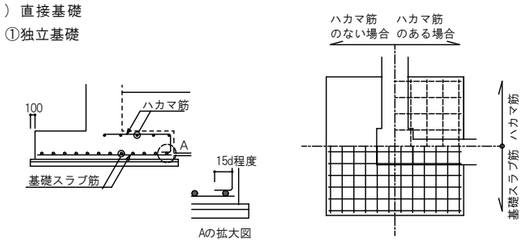


5．溶接継手および機械式継手を用いる場合は、信頼できる期間の評定等を受けたA③継手工法とする。
6．非破壊検査は工事監理者が承認した信頼できる検査機関で行うこと。

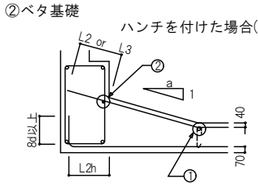
３．杭・基礎　（配筋については地震力等の水平力等を考慮して別途検討すること）

（１）直接基礎

①独立基礎



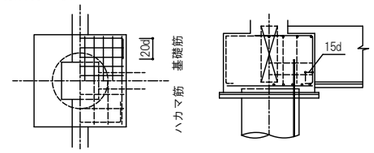
②ベタ基礎



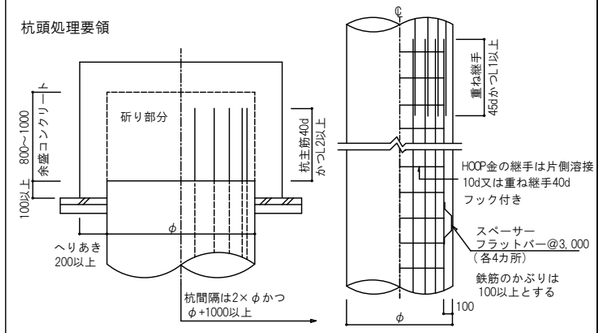
1．耐圧版鉄筋の継手位置は床スラブにならう
　但し上筋と下筋を読みかえる
2．①の鉄筋はスラブ主筋の径以上とする
3．②の鉄筋はＤ13以上
4．埋戻し土のある場合は40を70とする

（２）杭基礎

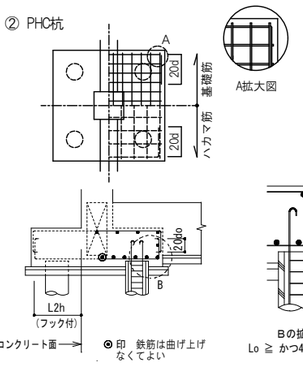
①場所打ち杭



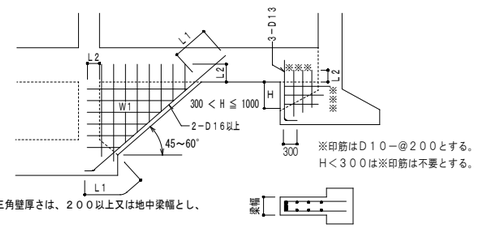
杭頭処理要領



② PHC杭



（３）基礎接合部の補強



特記事項 訂正事項	承認	設計	担当	縮尺 S=1：1(A1) S=1：1(A3) 設計年月日	工事名称 石和第一保育所建設工事（建築主体）（債務）	No. S －03
					図面名称 鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)	

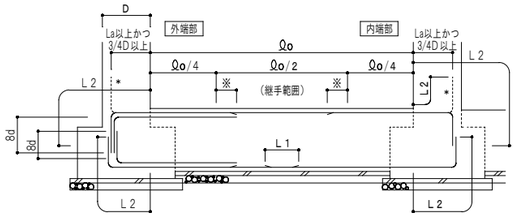
新 鉄筋コンクリート構造配筋標準図 （ 2 ）

※修正箇所は下線を引くこと

4．地中梁

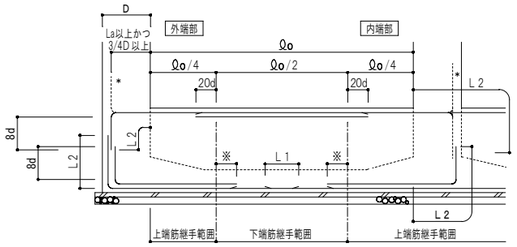
（1）独立基礎、杭基礎の場合（定着、継手）

（長期荷重が支配的な場合の継手は 6.(2)大梁継手位置とする） ＊上端主筋の定着は、やむをえない場合、上向きとすることができる。



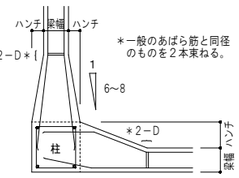
※主筋のカットオフ長さは Lo /4 ＋ 15ｄ を基本とし、特別な長さを要する部分は6.大梁の項の表6-1による。

（2）布基礎、ベタ基礎の場合（定着、継手）



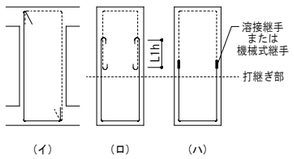
※主筋のカットオフ長さは Lo /4 ＋ 15ｄ を基本とし、特別な長さを要する部分は6.大梁の項の表6-1による。

（3）水平ハンチの場合のあばら筋加工要領　（4）せいの高い梁のあばら筋加工要領図



＊一般のあばら筋と同径のものを２本束ねる。

＊一般のあばら筋と同径のものを２本束ねる。

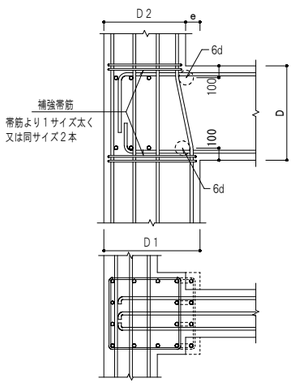


〔注〕（イ）で、 使用してよいが、
は使用してはいけない。

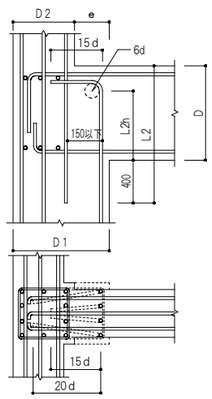
（ロ）では、あばら筋の継手は
180° フック付きとする。

（6）絞　り

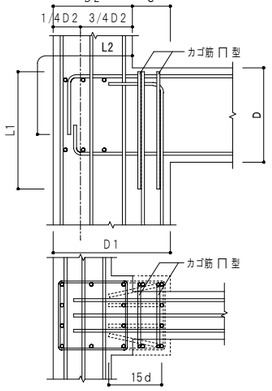
（a）e ≦ D/6かつ150



（b）150≧ e ＞ D/6

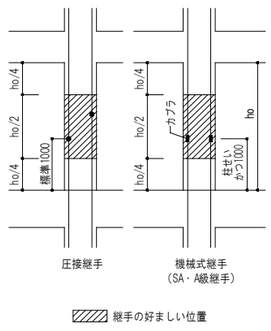


（c）e ＝ 150以上（下図を参考に設計図書に追記する。）



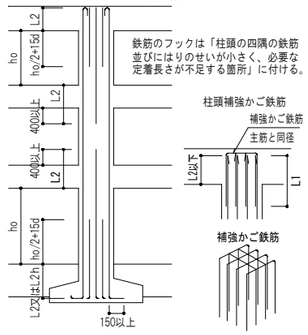
5．柱

（1）柱主筋の継手位置

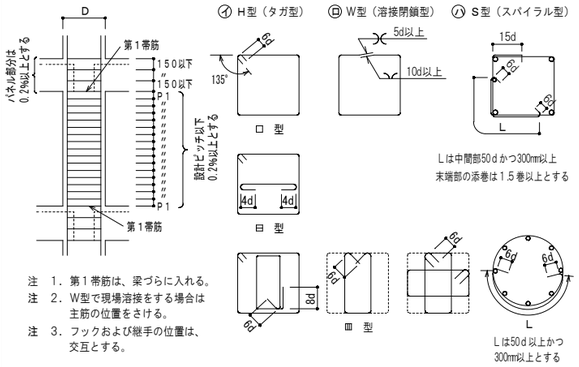


（2）柱主筋の定着

柱、梁の定着L2以上が確保されない場合はかご鉄筋で補強、または特記により補強する。

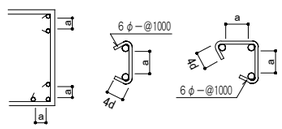


（3）帯　筋

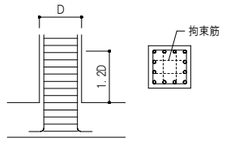


注 1．第１帯筋は、梁づらに入れる。
注 2．W型で現場溶接をする場合は主筋の位置をさげる。
注 3．フックおよび継手の位置は、交互とする。

（4）寄せ筋の保持　a＝1.5×（呼び名の数値）



（5）柱脚部の補強

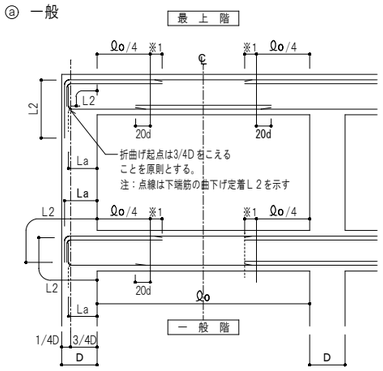


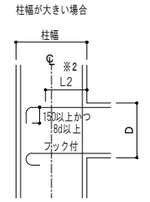
1階柱脚の主筋は梁上から柱せいの1.2倍の範囲を拘束筋で拘束する。
拘束筋は以下による。
□ 筋と同径・同ピッチ、X・Y２巻づつ
□ 図示による

6．大　梁

（1）定　着

ⓐ 一般





※2 柱幅が大きくて、直線部だけでＬ２がとれる場合でも柱中心線をこえて中間折曲げテール長150以上又は180°フック付とする

※1　主筋のカットオフ長さは Lo /4 ＋15dを基本とし、特別な長さを要する部分は表6−1による。

ⓑ ハンチがある場合

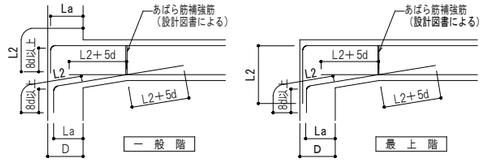
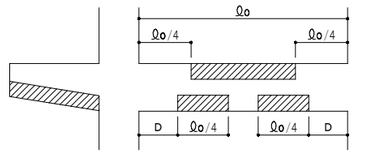


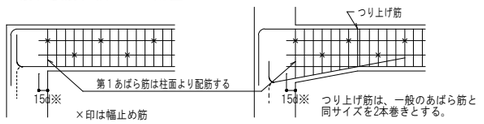
表6−1　特別なカットオフ長さを要する部材

部　材　名	Lo /4　に加える長さ	部　材　名	Lo /4　に加える長さ

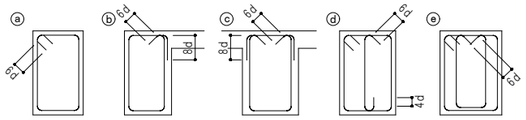
（2）大梁主筋の継手 （ ＳＡ級、Ａ級継手を使用する場合の継手位置は特記による ）



（3）あばら筋、腹筋、幅止めの配置

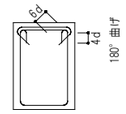


（4）あばら筋の型 （ 注　床版がない場合は１３５° 以上のフックとする ）



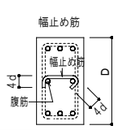
（イ）原則として ⓐ のフック先曲げとする。片側床版付（Ｌ型）梁で ⓑ 、両側床版付（Ｔ型）梁で ⓒ 又は ⓑ とすることができる。
（ロ）フックの位置は ⓐ にあっては交互、 ⓑ にあってはスラブ側とする。

ⓕ 梁成の大きい場合やSRC造のあばら筋の納まりに使用する事ができる。



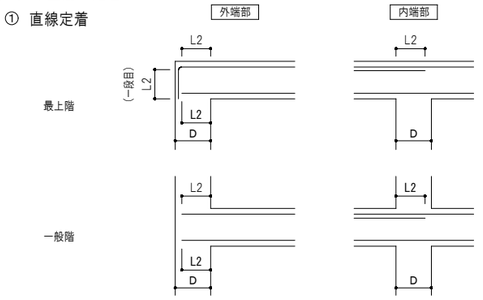
（5）幅止め筋の本数、加工

腹　筋	D ＜ 600　不要	
	600 ≦ D ＜ 900	2−D10　1段
	900 ≦ D ＜ 1200	4−D10　2段
	1200 ≦ D	D10@300以内
	1200以上	D13@300以内
幅止め筋	D10@1000以内で割り付ける	

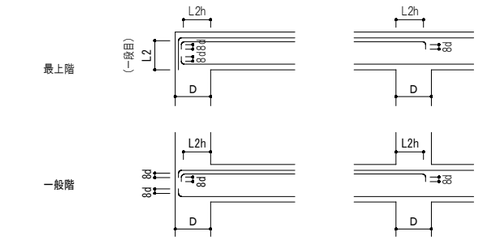


（6）梁主筋の定着

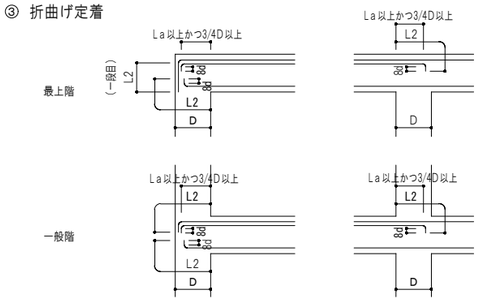
① 直線定着



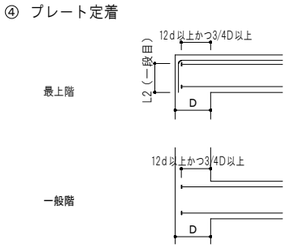
② 90° フック付直線定着



③ 折曲げ定着



④ プレート定着



※ 最上階Ｌ型接合部における上端筋の一段目の定着にプレート定着を用いてはならない。

※ プレート定着には性能証明書等を取得した材料を用い、その工法の適用範囲と仕様を確認する。

特記事項 訂正事項		承認	設計	担当	縮尺 S=1：1(A1) S=1：1(A3) 設計年月日	工事名称	石和第一保育所建設工事（建築主体）（債務）	No. S −04
						図面名称	鉄筋コンクリート構造配筋標準図(2)	

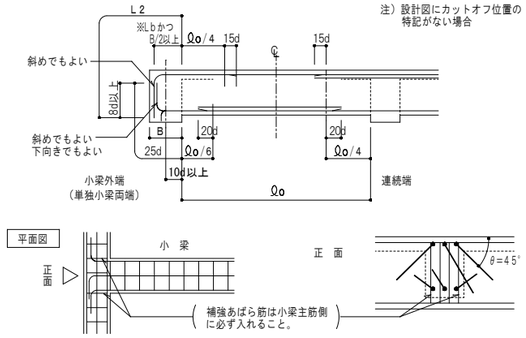
新　鉄筋コンクリート構造配筋標準図 （ ３ ）

※修正箇所は下線を引くこと

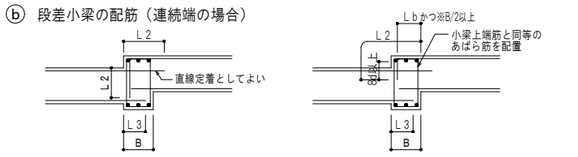
7．小梁・片持梁

（1）定着

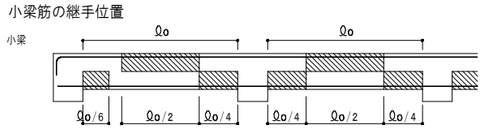
ⓐ 小梁の定着



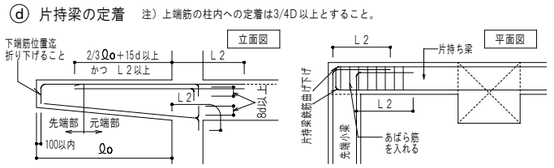
ⓑ 段差小梁の配筋（連続端の場合）



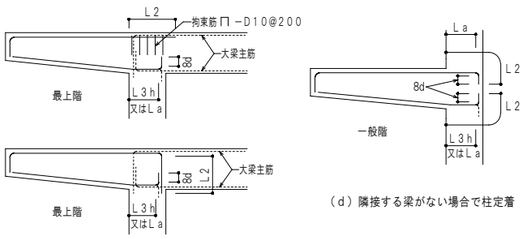
ⓒ 小梁筋の継手位置



ⓓ 片持梁の定着　注）上端筋の柱内への定着は3/4D以上とすること。



（a）先端部の範囲とカットオフ位置　　（b）先端小梁の定着

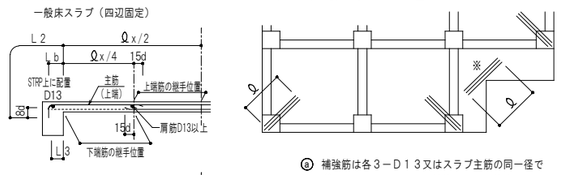


（c）隣接する梁がある場合で柱定着
又は、隣接する梁へ定着する場合

（d）隣接する梁がない場合で柱定着

8．床　版

（1）定着および継手　　（2）屋根スラブの補強



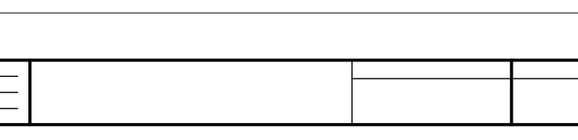
ⓐ 補強筋は各3－D13又はスラブ主筋の同一径で Q ＝1500とし、上端筋の上に配筋する。配筋の際かぶり厚に注意すること。

Ⓑ※の個所（入隅）は各階補強する。

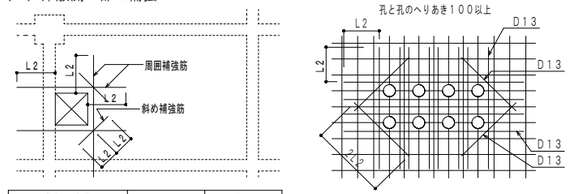
（3）片持床スラブ定着及び出隅部補強

ⓐ 片持床スラブ定着

ⓑ 片持スラブ出隅部補強　注）出隅部の補強筋は、計算により算出する。



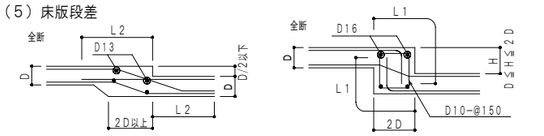
（4）床版開口部の補強　（開口の径 500以下程度の場合）



床版厚さD	周囲	斜め
D ≦ 150	各2－D13	各1－D13
150 ＜ D ≦ 300	各2－D13	各2－D13
300 ＜ D ≦ 500	各2－D19	各2－D16

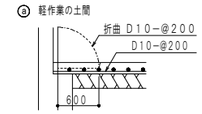
注）設備の小開口が連続してあく場合は縦、横、斜補強筋とは別に開口によって切断される鉄筋と同じ鉄筋を開口をさけて補強する。

（5）床版段差

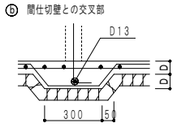


（6）土間コンクリート

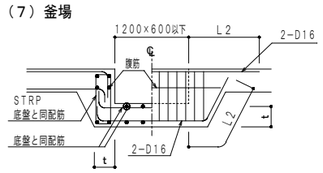
ⓐ 軽作業の土間



ⓑ 間仕切壁との交叉部



（7）釜場



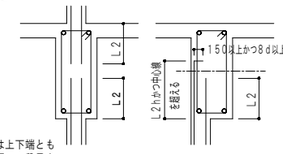
（8）打継ぎ補強　（ダメ穴打断面について）

・設計配筋間隔の 1/2 ピッチ 長さ 2L1 以上
・無筋部分 D10－@200 長さ 800 以上

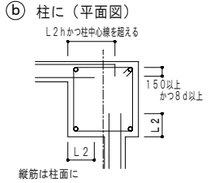
9．壁

（1）定着

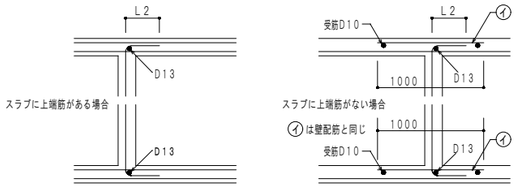
ⓐ 梁に



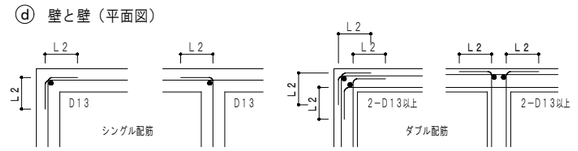
ⓑ 柱に（平面図）



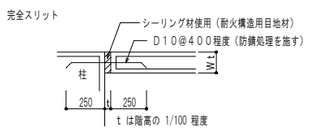
ⓒ 床に （非耐力壁とスラブが取り合う場合）



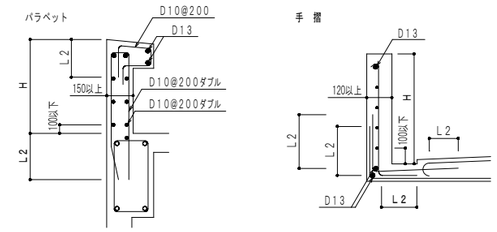
ⓓ 壁と壁（平面図）



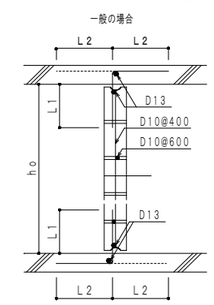
（2）スリット部　（設計図に記入のあるとき）



（3）手摺、パラペット

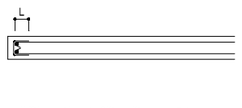


（4）コンクリートブロック帳壁

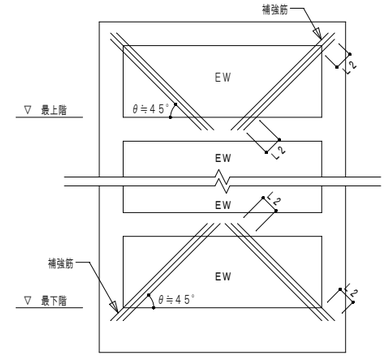


注）ｈｏ≦25ｔかつ 3500以下とする。但し直交方向25ｔ以内に壁、又は柱がある場合は除く
注）ｈはコンクリートブロック段数調節寸法とする。但し、200 ≦ h≦400
注）継手部は必ずモルタルを充填すること

（5）耐震壁端部の納まり



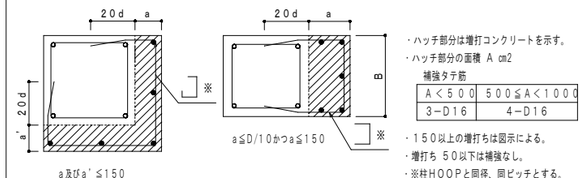
（6）連層耐震壁乾燥収縮の補強筋



注）補強筋は EW150の場合 3－D13@100シングル
EW180～200場合 4－D13@100シングル
EW250以上の場合 4－D16@100ダブルとする。

10．柱、梁増打コンクリート補強 （ 増打するときは事前に設計者、及び工事監理者と打合わせのこと ）

（1）柱

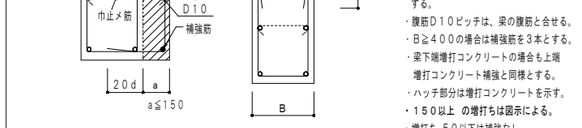


・ハッチ部分は増打コンクリートを示す。
・ハッチ部分の面積 A cm2

補強タテ筋	
A＜500	500≦A＜1000
3－D16	4－D16

・150以上の増打ちは図示による。
・増打ち 50以下は補強なし。
・※柱HOOPと同径、同ピッチとする。

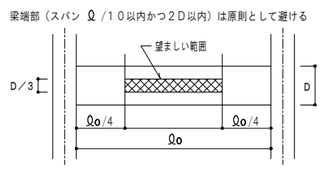
（2）梁



・補強筋は、梁主筋の1段落し径（D16以上）とする。
・あばら補強筋は、梁と同径、同ピッチとする。
・腹筋Ｄ10ピッチは、梁の腹筋と合せる。
・Ｂ≧400の場合は補強筋を3本とする。
・梁下端増打コンクリートの場合も上端増打コンクリート補強と同様とする。
・ハッチ部分は増打コンクリートを示す。
・150以上 の増打ちは図示による。
・増打ち 50以下は補強なし。

11．梁貫通孔補強 （ 開口補強筋については計算により確認すること ）

（1）設置可能範囲



貫通孔が連続して間隔等が取れない場合は設計者又は工事監理者と打合せのこと。

（2）既製品 （指定条件と異なる場合は、設計者又は工事監理者と打合わせのこと）

□製品名

施工前に計算書を提出し、承認を得ること。
設計時に使用する評価取得品については計算書を提出する事。

特記事項 訂正事項		承認	設計	担当	縮尺	S=1：1(A1) S=1：1(A3)	工事名称	石和第一保育所建設工事（建築主体）（債務）	No.
					設計年月日		図面名称	鉄筋コンクリート構造配筋標準図(3)	S －05

鉄骨構造標準図(1)

※訂正箇所は下線をひくこと

1．一般事項

(1)材料及び検査

(a)新構造設計仕様その1による。
(b)本標準図はベースプレートを除き鋼材の厚さが40mm以下の工事に適用する。
　但し、ベースプレートの厚さは除く。
(C)社内検査結果の検査報告書には、鉄骨の寸法、精度及びその他の結果を添付する.

(2)工作一般

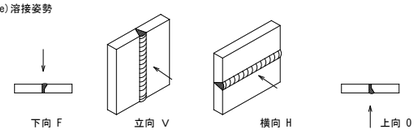
(a)鉄骨製作及び施工に先立って「鉄骨工事施工要領書」を提出し工事監理者の承認を得る。
(b)鋼管部材の分岐継手部の相貫切断は、鋼管自動切断機による。
(C)高張力鋼の歪み矯正は、冷間矯正とする。

(3)高力ボルト接合

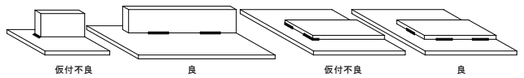
(a)本締めに使用するボルトと、仮締めボルトの併用はしてはならない。
(b)高力ボルト摩擦面の処理は黒皮などを座金外径2倍以上の範囲でショットブラスト、グラインダー掛け等用いて除去した後、一様にさびを発生させた状態とする。但しショットブラスト、グリットブラストによる処理で表面荒さが50μmR2以上である場合は、さびの発生は要しない。
(C)高力ボルトの締付けに使用する機器はよく整備されたものを使用し、締め付けの順序は部材が十分に密着するよう注意して行う。

(4)溶接接合

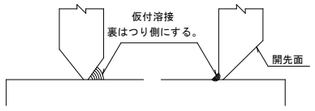
(a)平成12年建設告示第1464号第二号イ、ロによる、溶接部の性能溶着金属の性能を満足すること。
(b)溶接技能者
　溶接技能者は施工する溶接に適応するJISZ3801(手溶接)又はJISZ3841(半自動溶接)の溶接術検定試験に合格し引続き、半年以上溶接に従事している者とする。
(c)溶接機器
　(イ)交流アーク溶接機 300A～500A　　(ニ)炭酸ガスアーク半自動溶接機
　(ロ)アークエアーガウジング機（直流）　(ホ)溶接電流を測定する電流計
　(ハ)サブマージアーク溶接機1式　　(ヘ)溶接棒乾燥器
(d)溶接方法
　アーク手溶接（MC）　　ガスシールドアーク半自動溶接（GC）
　セルフ（ノンガス）シールドアーク半自動溶接（NGC）　　アークエアーガウジング（AAG）
(e)溶接姿勢



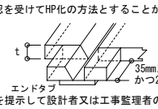
(f)組立溶接技能者は、原則として本工事に従事するものが行う。
　(イ)仮付位置
　仮付溶接は溶接の始、終端、隅角部など強度上、工作上、問題となり易い箇所は避ける。



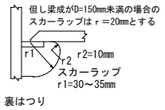
　(ロ)突合わせ溶接部の仮付溶接は必ず裏はつり側に施工する



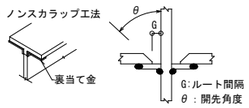
(g)仮接施工
　(イ)エンドタブ
　・突合せ溶接、部分溶込み溶接の両端部に母材と同厚で同開先形状のエンドタブを取り付ける
　・エンドタブの材質は、母材と同質とする。但し、鉄骨製作に十分な実績があり、かつ溶接部の品品質が十分確保できると判断されるばあには監理者の承認を受けてHP化の方法とすることができる。
　・エンドタブの長さは、MC:35mm以上
　　NGC、GC:40mm以上とし特記のない場合は、溶接終了後、母材より10mm程度残し切断して、グラインダー仕上げとする



　・ブレス鋼板タブ、固形タブ使用については、資料を提示して設計者又は工事監理者の承認を得る。
　(ロ)裏あて金
　材質は母材と同質材料とし厚さは手溶接で6mm、半自動溶接で9mm以上、巾は25mm以上を原則とする。
　但し、溶接性能が確認できれば 監理者の承認を得て変更することができる。
　(ハ)スカーラップ半径はr1=30～35mmとr2=10mmのダブルアールとする。



　(ニ)ノンスカラップ工法



　(ホ)裏はつり
　規準図の溶接においてAAGと記載のある部分は全て、アークエアガウンジングを行った上で、部材に確認マークをつける
　(ヘ)現場溶接の開先面には、溶接に支障のない防錆材を塗付する。又、開先部をいためない様に、養生を行なう。

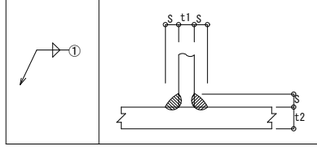
(5)塗装

コンクリートに埋め込まれる部分及びコンクリートとの接触面で、コンクリートと一体とする設計仕様になっている部分は、塗装をしない

2．溶接規準図

（注）f:余盛 G:ルート間隔 R:フェース S:脚長　　(単位mm)

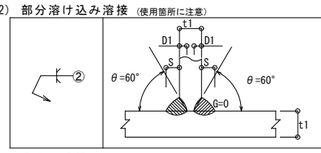
(1)隅肉溶接



	t≦16mm			
t	7以下	8～10	11～13	14～16
S	6	7	10	12

・但し片面溶接の場合はS=tとする
・tはt1,t2の小なる方とする
　余盛は（1+0.1S）mm以下とする
・軸力が加わる場合のSは母材と同厚とすることが望ましい

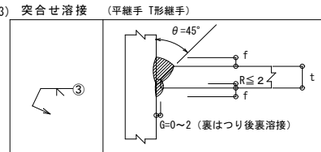
(2) 部分溶け込み溶接 （使用箇所に注意）



R≦2
t/4≦ f ≦10
t≦t1

t	16<t≦40
溶接姿勢	F,V

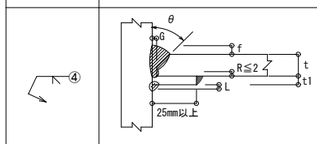
(3) 突合せ溶接 （平継手 T形継手）



・AAG

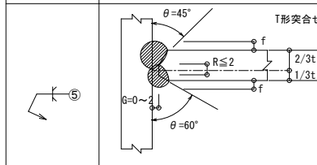
t/4≦ f ≦10

t	6<t≦40
溶接姿勢	F,V



t/4≦ f ≦10

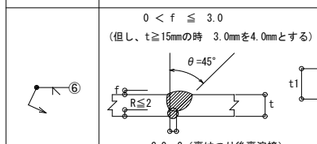
	MC NGC				GC			
tmm	θ	G	t1	L	θ	G	t1	L
6≦t<12	45	6	6	5	45	6	6	5
12≦t<16	35	9	9	8	45	6	9	8
16≦t	35	9	9	8	35	9	9	8
溶接姿勢	F,V							



T形突合せ継手余盛　t/4≦ f ≦10

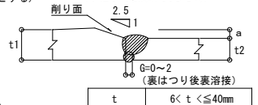
のど厚tmm	余盛の高さmm
t≦4	1
4<t≦12	2
12<t≦19	3
t>9	4
溶接姿勢	F,V

・AAG

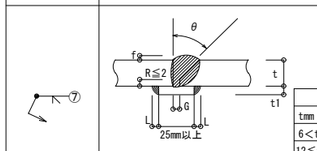


0 < f ≦ 3.0
（但し、t≧15mmの時　3.0mmを4.0mmとする）

t2/4≦ f ≦10
（平継手で板厚が異なる時）



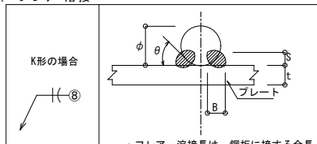
t	6< t ≦40mm
溶接姿勢	F,V



0 < f ≦ 3.0
（但し、t≧15mmの時　3.0mmを4.0mmとする）

	MC NGC				GC			
tmm	θ	G	t1	L	θ	G	t1	L
6<t<12	45	6	6	5	45	6	6	5
12≦t≦19	35	9	9	5	45	6	9	5
t>19	35	9	9	8	35	9	9	8
溶接姿勢	F,V							

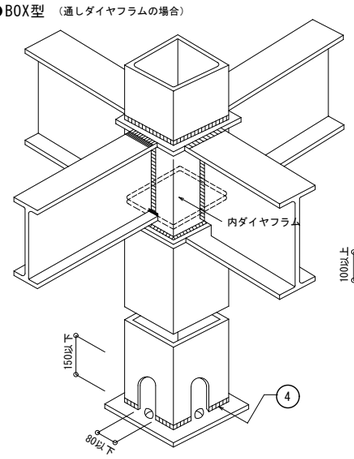
(4) フレア-溶接

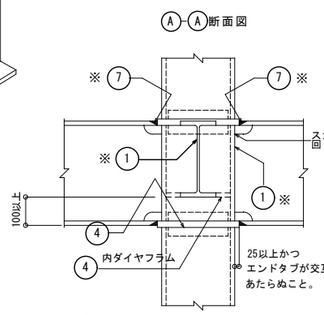


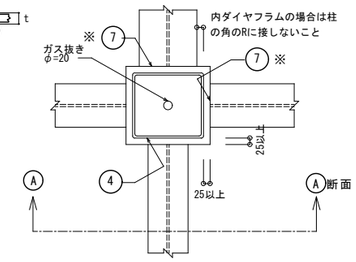
・フレアー溶接長は、鋼板に接する全長とする
・9mm～16mmは1パス以上、19mmは2パス以上とする
　溶接棒角度θは30° ～40° とする

寸法mm		
φ	B	S
9	7	4
13	8	4.5
16	9	5
19	10	6
22	11	7
25	12	8

●BOX型 （通しダイヤフラムの場合）







⑦ ※ はりフランジは、通しダイアフラムの厚み(t)の内部で溶接すること。

1 ※ t＞16 mm 場合の溶接は 2 又は 3 ～ 5 とする。

ダイヤフラム厚は、接合する梁の最大厚の２サイズアップ以上とする。
〈柱材料:BCR295.BCR325を使用する場合〉
ダイヤフラムは、柱フランジ厚 16mm未満の場合 SN490C SN490B
　　柱フランジ厚 16mm以上の場合 SN490C を使用する。

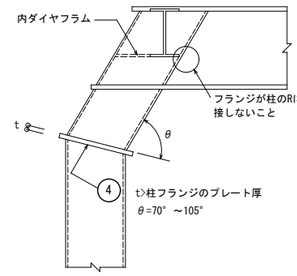
●鋼材種別による溶接条件

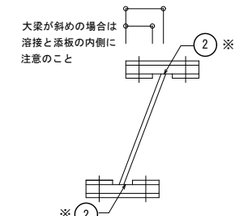
溶接材料と入熱量・パス間温度

鋼材の種類		規格	溶接材料	入熱(KJ/cm)	パス間温度(° C)
一般鋼材	400N級炭素鋼	JIS Z 3312	YGW11, YGW15	40以下	350以下
			YGW18, YGW19	30 〃	450 〃
		JIS Z 3313	T490Tx-yCA-U T490Tx-yMA-U	40 〃	350 〃
			T550Tx-yCA-U T550Tx-yMA-U	30 〃	450 〃
		JIS Z 3211	E43xx, E49xx	40 〃	350 〃
	490N級炭素鋼	JIS Z 3312	YGW11, YGW15	30 〃	250 〃
			YGW18, YGW19	40 〃	350 〃
		JIS Z 3313	T490Tx-yCA-U T490Tx-yMA-U	30 〃	350 〃
			T550Tx-yCA-U T550Tx-yMA-U	40 〃	350 〃
		JIS Z 3211	E49xx	40 〃	350 〃
冷間成型角形鋼管	400N級炭素鋼 BCR295、BCP235 STKR400	JIS Z 3312	YGW11, YGW15	30 〃	250 〃
			YGW18, YGW19	40 〃	350 〃
		JIS Z 3313	T550Tx-yCA-U T550Tx-yMA-U	40 〃	350 〃
	490N級炭素鋼 BCP325 STKR490	JIS Z 3312	YGW18, YGW19	30 〃	250 〃
		JIS Z 3313	T550Tx-yCA-U T550Tx-yMA-U		

注）ロボット溶接の場合(一社)日本ロボット工業会による建築ロボットの型式認証条件に従うこと。
　490N/mm²を超える部材は適合する溶着金属を使用すること。
　ガスシールドアーク溶接法による完全溶込み溶接部に適用する。

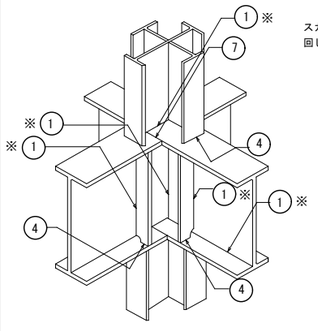
●柱が途中で折れる場合 及 梁成が異なる場合

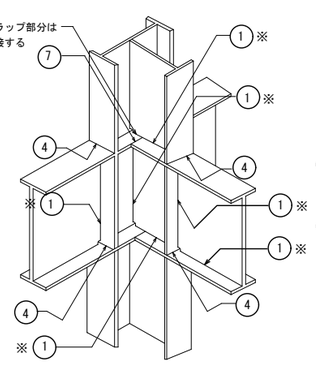


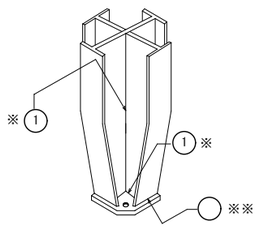


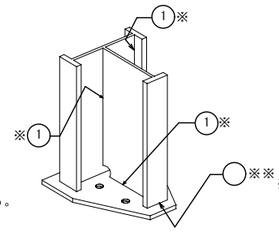
2 ※ t＞16 mm 場合の溶接は 3 ～ 5 とする。

●⊣、⊢、H型

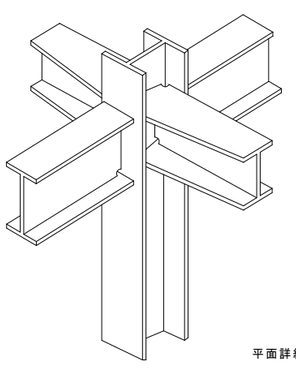


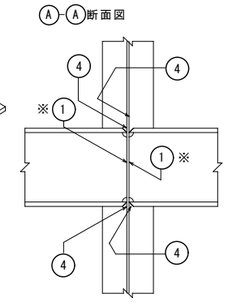


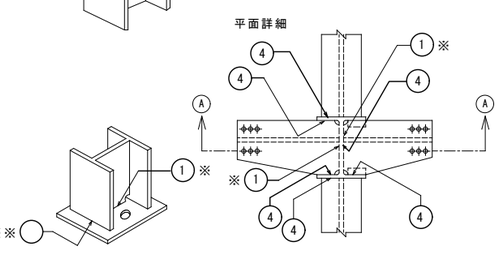




●B.H方式







1 ※ t＞16 mm 場合の溶接は 3 ～ 5 とする。

○※※ 印は設計者が記入すること。

特記事項 訂正事項		承認	設計	担当	縮尺 S=1：1(A1) S=1：1(A3) 設計年月日	工事名称	石和第一保育所建設工事（建築主体）（債務）	No. S－06
						図面名称	新 構造設計特記仕様　その2	

鉄骨構造標準図(2)

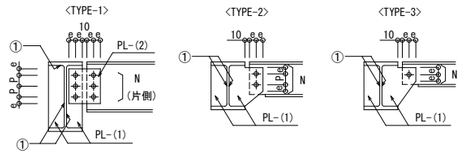
3. 継手基準図、その他

(1) 高力ボルト、ボルト、アンカーボルトのピッチ (P)　ボルト穴径・最小縁端距離 (mm)

呼び径 d		ボルト穴 径	最小縁端距離(e)				ピッチ(P)	
			(1)	(2)	(3)	(2)(3)の標準	最小	標準
高力ボルト	M16	18.0	40	28	22	40	40	60
	M20	22.0	50	34	26	40	50	60
	M22	24.0	55	38	28	40	55	60
	M24	26.0	60	44	30	45	60	70
アンカーボルト・ボルト（）内はボルトを示す	M16	21(16.5)		28	22	(40)	(40)	(60)
	M20	25(20.5)		34	26	(40)	(50)	(60)
	M22	27(22.5)		38	28	(40)	(55)	(60)
	M24	29(24.5)		44	32	(45)	(60)	(70)
	M27	32		49	36			
	M30	35		54	40			
	M30を超える	呼び径+5		9d/5	4d/3			

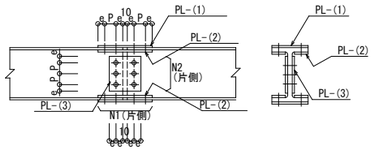
〔注〕 (1)引張材の接合部で応力方向にボルトが3本以上並ばない場合の応力方向の縁端距離。
(2)せん断縁・手動ガス切断縁の場合の縁端距離。
(3)圧延縁・自動ガス切断縁・のこ引き縁・機械仕上げ縁の場合の縁端距離。

(2) ピン接合梁継手リスト



符号	タイプ	部　材	PL-(1)	PL-(2)	N-径
	3	H－125×60×6×8	6		2－M16
	3	H－150×75×5×7	6		2－M16
	2	H－175×90×5×8	6		2－M16
	2	H－200×100×5.5×8	6		2－M16
	2	H－250×125×6×9	6		3－M16
	2	H－300×150×6.5×9	9		3－M20
	2	H－350×175×7×11	9		4－M20
	1	H－350×175×7×11	9	6	4－M20
	2	H－400×200×8×13	9		5－M20
	1	H－400×200×8×13	9	9	4－M20

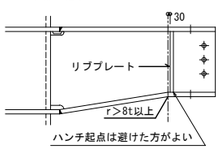
(3) 剛接合継手リスト (SCSS-H97による)



注)端部をBHとする場合の部材は設計図による.

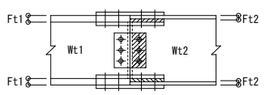
符号	部　材	フランジ			ウエブ	
		PL-(1)	PL-(2)	N1－径	PL-(3)	N2－径

(4) ハンチ部の継手



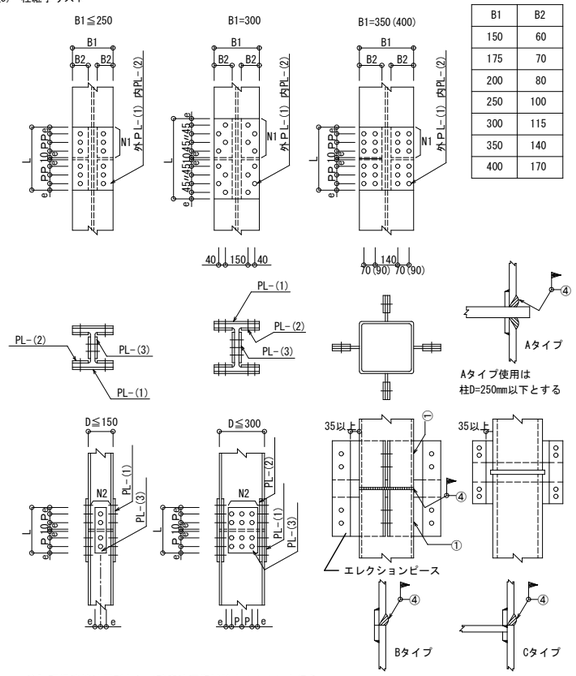
ハンチ勾配は普通1:4程度であるが構造図による
r：半径　t：板厚

フランジ及ウエブ厚の差がある場合



Ft1-Ft2
Wt1-Wt2　≧1mmフィラープレート併用の事

(5) 柱継手リスト



B1	B2
150	60
175	70
200	80
250	100
300	115
350	140
400	170

注] 現場溶接は原則として聴音波深傷試験を１００%を行う

符号	部　材	フランジ			ウエブ	
		PL-(1)	PL-(2)	N1－径	PL-(3)	N2－径

(6) ターンバックルブレース (JIS規格品とする･･･JISA5540･･･2008 / 5541･･･2008)

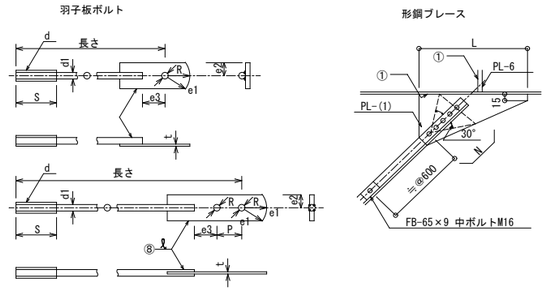
(a)羽子板ボルト

ねじの呼び(d)		M12	M14	M16	M18	M20	M22	M24
軸径d1	最大	10.81	12.65	14.65	16.33	18.33	20.33	21.99
	最小	10.64	12.46	14.46	16.11	18.11	20.11	21.77
調整ねじの長さ　S		100	115	125	140	150	165	175
取付ボルト穴径許容差+0、-0.5mm　R		13	17	18	20	22	24	26
はしあき(最小)　(2)　e1		35	40	45	50	50	55	50
切板製	へりあき(最小)　(1)　e2	22	28	28	34	34	38	38
	板厚　t	4.5	6	6	9	9	9	9
平鋼製	へりあき(最小)　(1)　e2	19	25	25	32.5	32.5	37.5	37.5
	板厚　t	4.5	6	6	9	9	9	9
ボルト端から取付ボルト穴心のあきe(最小)　M7		52	59	66	66	73	70	
溶接長さ(最小)　L		40	50	55	60	60	85	85
取付ボルト (2)	種類	JIS B 1186 2種高力ボルト (F10T)又は JIS B 1180 中8g10.9						
	ねじの呼び	M12	M16	M16	M20	M20	M22	M20
	本数	1	1	1	1	1	1	2

〔注〕 (1)e1、e2が確保されていれば形状は自由でよい。
(2)羽子板とガセットプレートの接合は表に示す取付ボルトを使用し、一面せん断(支圧)接合とする。
(3)溶融亜鉛めっき製品では、JIS B 1186 に規定する 1種　F8TAに準ずるものを使用する。

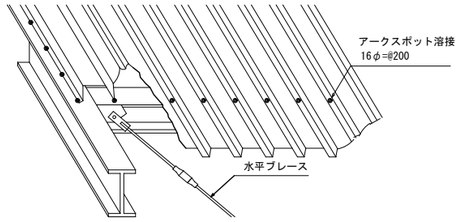
(b)形鋼ブレース

符号	部　材	PL-(1)	PL-(2)	L

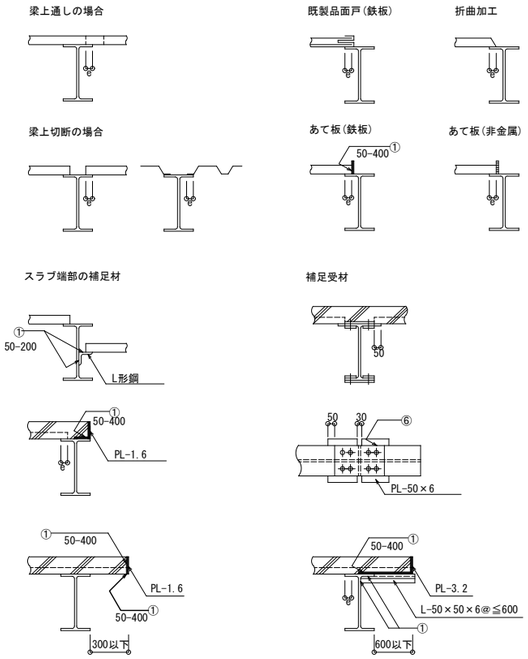


(7) デッキプレート (床剛性を考慮する合板床、合成梁のときは構造図参照)

梁との溶接およびコネクター

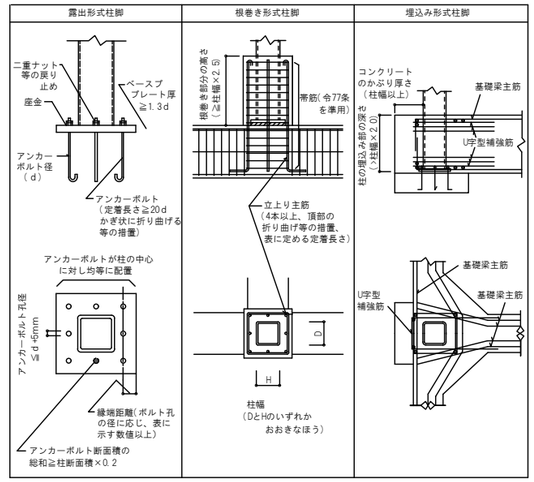


受梁へのかかり寸法および端部処理　　e：長手方向で50mm以上、軸方向で30mm以上とする。
且つ、各メーカーの仕様とする。



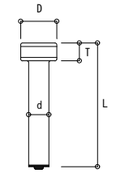
(8) 柱脚

注)許容応力度計算を行わなかった場合の構造形式



(9) 頭付きスタッド (JIS B 1198 - 2011)

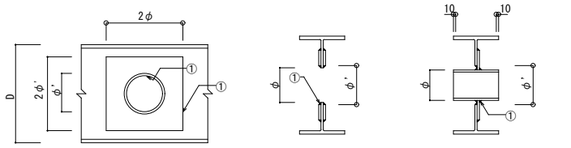
スタッド材の標準形状･寸法



形状	スタッド材				
	呼び名	軸径d mm	頭径D mm	頭高さT mm	呼び長さ L mm
	φ13mm	13	25	8	□80 □100 □120 □
	φ16mm	16	29	8	□80 □100 □120 □
	φ19mm	19	32	10	□80 □100 □120 □150 □
	φ22mm	22	35	10	□80 □100 □120 □150 □
	φ22mm	25	41	12	□80 □100 □120 □

(10) 梁貫通補強

・計算で確認された場合は下記の位置、寸法及び補強方法にによらなくて良い。
・梁端部（スパンのL/10以内かつ2D以内）は避ける。
・φ≦0.4D
・φ'は補強板の穴径を示す。

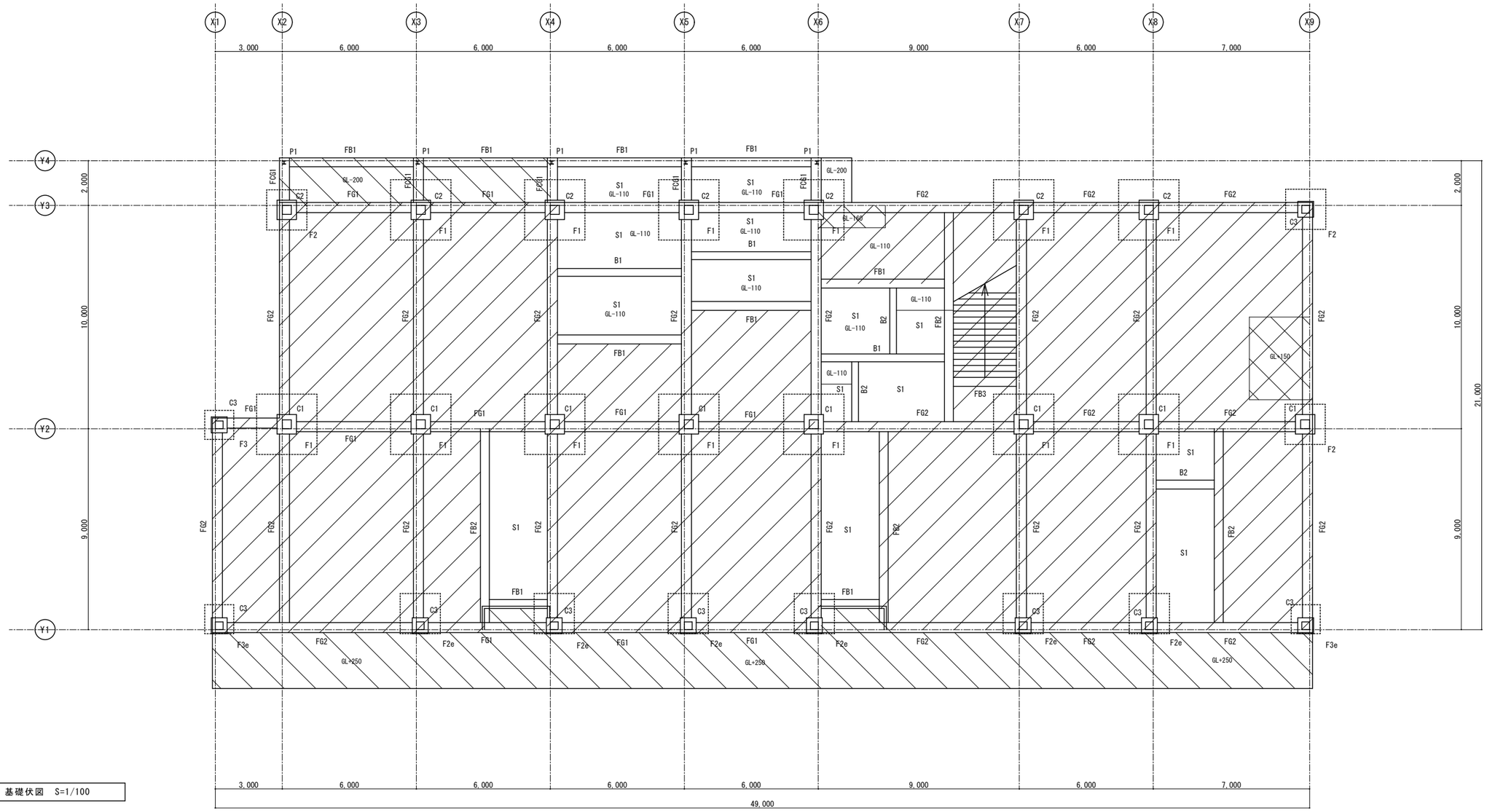


プレート補強の板厚

スリーブ径	補 強 板
φ≦ 0.15D	補強板不要
φ≦ D/4	Web板厚以上 （片面）
φ≦ D/3	Web板厚×1.2倍以上 （片面）
φ≦ 0.4D	Web板厚以上 （両面）

・既製品(指定条件と異なる場合は、設計者又は工事監理者と打合せのこと)
□製品名
施工前に計算書を提出し、承認を得ること。

特記事項 訂正事項	承認	設計	担当	縮尺	工事名称	No.
				S=1：1(A1) S=1：1(A3) 設計年月日	石和第一保育所建設工事（建築主体）（債務）	S－07
					図面名称　新 構造設計特記仕様　その２	



基礎伏図　S=1/100

・設計GL(SGL) = 270.24 とする。
・1FL = SGL+300mm　とする。
・特記なきポスト天端・地中梁天端は　GL-400mm とする。

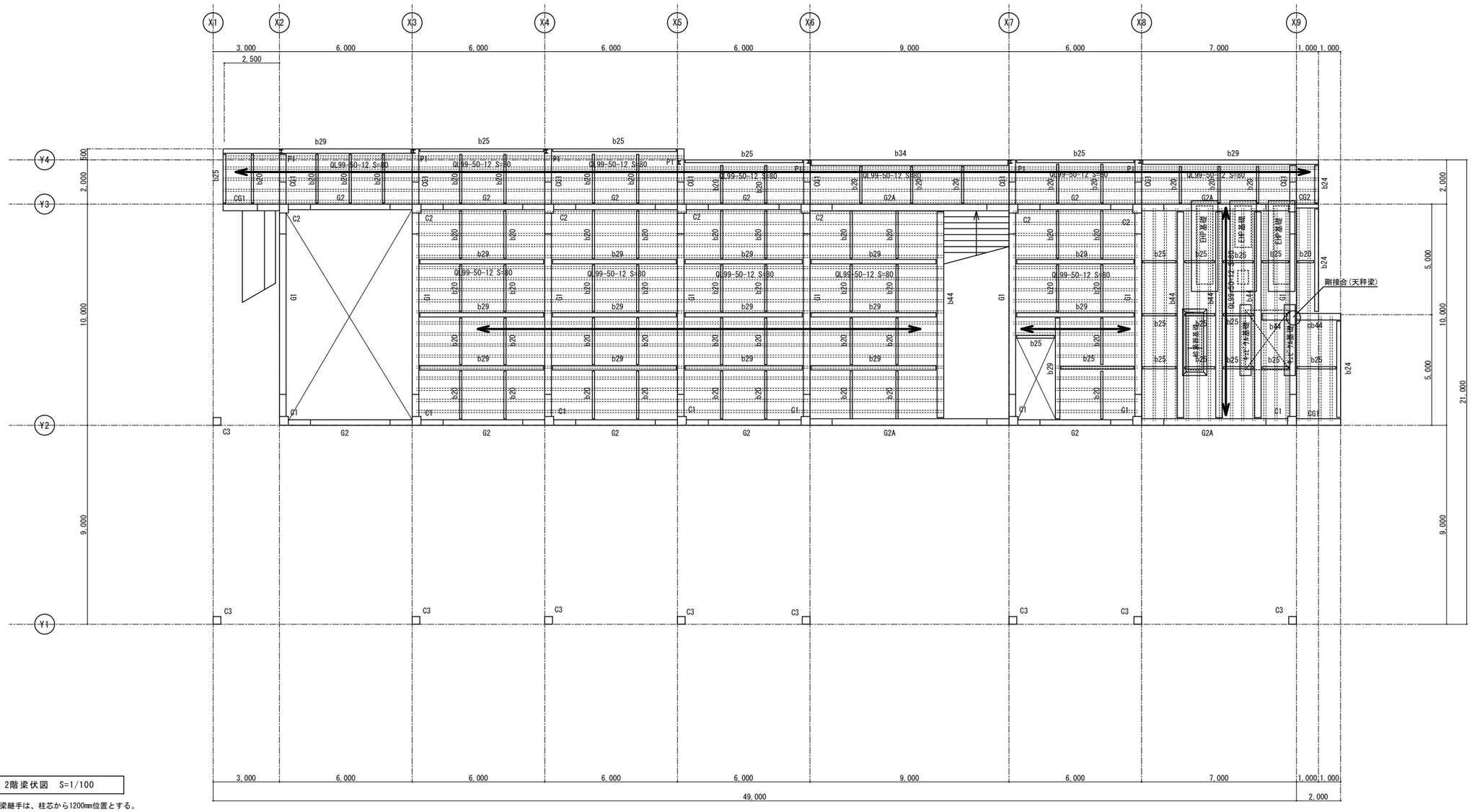
土間コンクリートを示す

特記なき天端は
ピニルシート部　SGL+290mm
二重床部　SGL+150mm
とする。

鉄骨リスト

記号	部材	材種	接合部
C1	□ - 400×400×19	BCR295	BASEPACK 40-19R
C2	□ - 400×400×19	BCR295	BASEPACK 40-19R
C3	□ - 350×350×19	BCR295	BASEPACK 35-19R
P1	H - 150×150×7×10	SS400	BASE.PL-22(SN490C) 4-M20(ARB400) L=600

特記事項 訂正事項					承認	設計	担当		縮尺 S=1：100(A1) S=1：200(A3) 設計年月日	工事名称　石和第一保育所建設工事（建築主体）（債務） 図面名称　基礎伏図	No. S －08



2階梁伏図　S=1/100

特記なき梁継手は、柱芯から1200mm位置とする。

鉄骨リスト

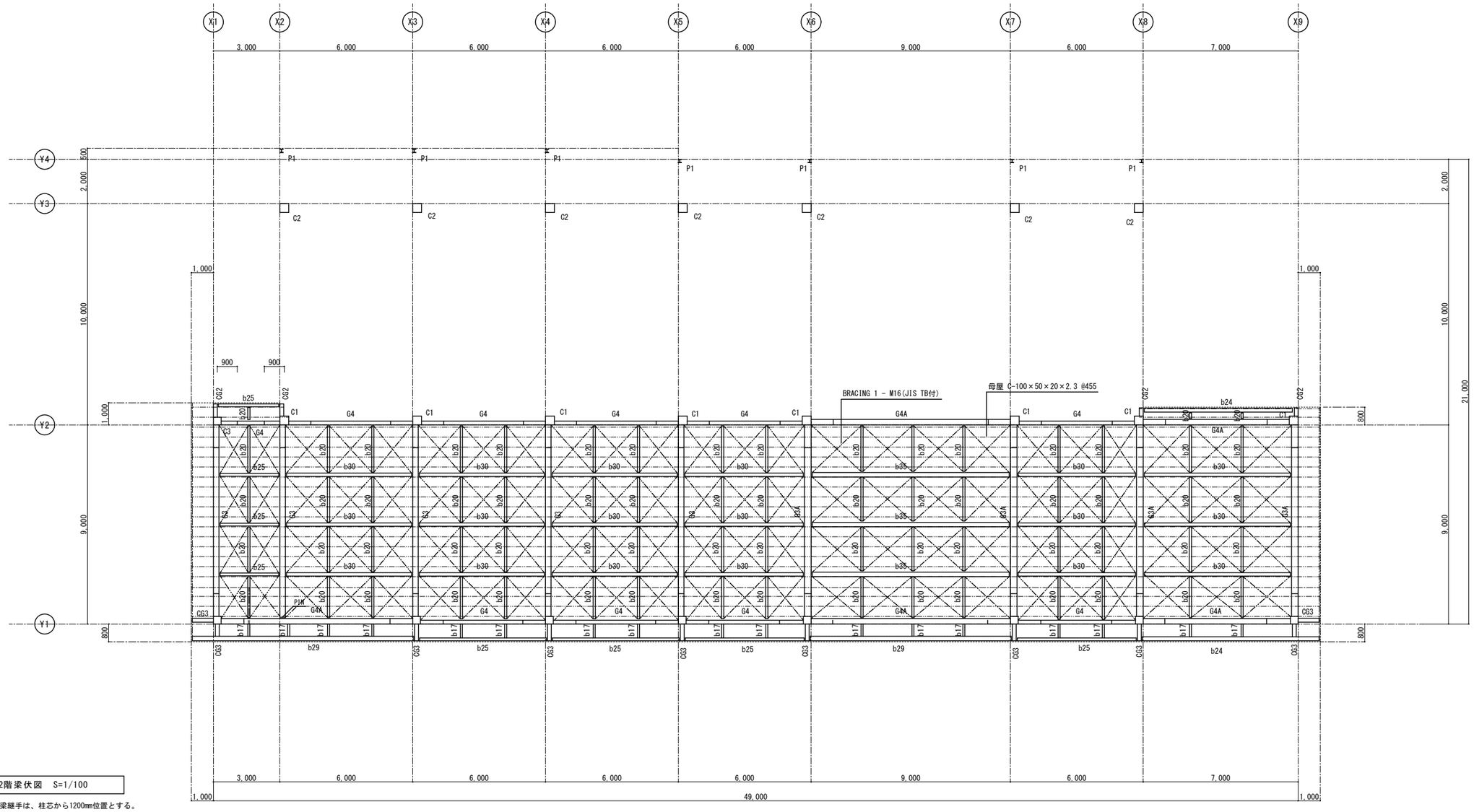
記号	部材	材種	接合部
C1	□ - 400×400×19	BCR295	
C2	□ - 400×400×19	BCR295	
C3	□ - 350×350×19	BCR295	
P1	H - 150×150×7×10	SS400	GPL-9 1×2-M20 @60

(Y方向 BH)

記号	部材	材種	接合部	
G1	H - 488×300×11×18	SN400B	GGF-4X-J5030･1219-20	SCSS97
G2	H - 340×250×9×14	SN400B	GGF-4X-J3525･0916-20	SCSS97
G2A	H - 488×300×11×18	SN400B	GGF-4X-J5030･1219-20	SCSS97
CG1	H - 440×300×11×18 (一部 BH: FLPL-300×19 WEBPL-12)	SN400B	GGF-4X-J4530･1219-20	SCSS97
CG2	H - 244×175×7×11	SN400B		

記号	部材	材種	接合部
b20	H - 200×100×5.5×8	SS400	GPL-6 2×2-M16 @60
b25	H - 250×125×6×9	SS400	GPL-6 2×2-M20 @90
b24	H - 244×175×7×11	SS400	GPL-9 2×2-M20 @90
b29	H - 294×200×8×12	SS400	GPL-9 2×2-M20 @120
b34	H - 340×250×9×14	SS400	GPL-9 4-M20 @60
b44	H - 440×300×11×18	SS400	GPL-12 WPL-12 4-M20 @60
cb44	H - 440×300×11×18	SS400	

特記事項 訂正事項		承認	設計	担当		縮尺 S=1：100(A1) S=1：200(A3) 設計年月日	工事名称	石和第一保育所建設工事（建築主体）（債務）	No.
							図面名称	2階梁伏図	S －09



M2階梁伏図　S=1/100

特記なき梁継手は、柱芯から1200mm位置とする。

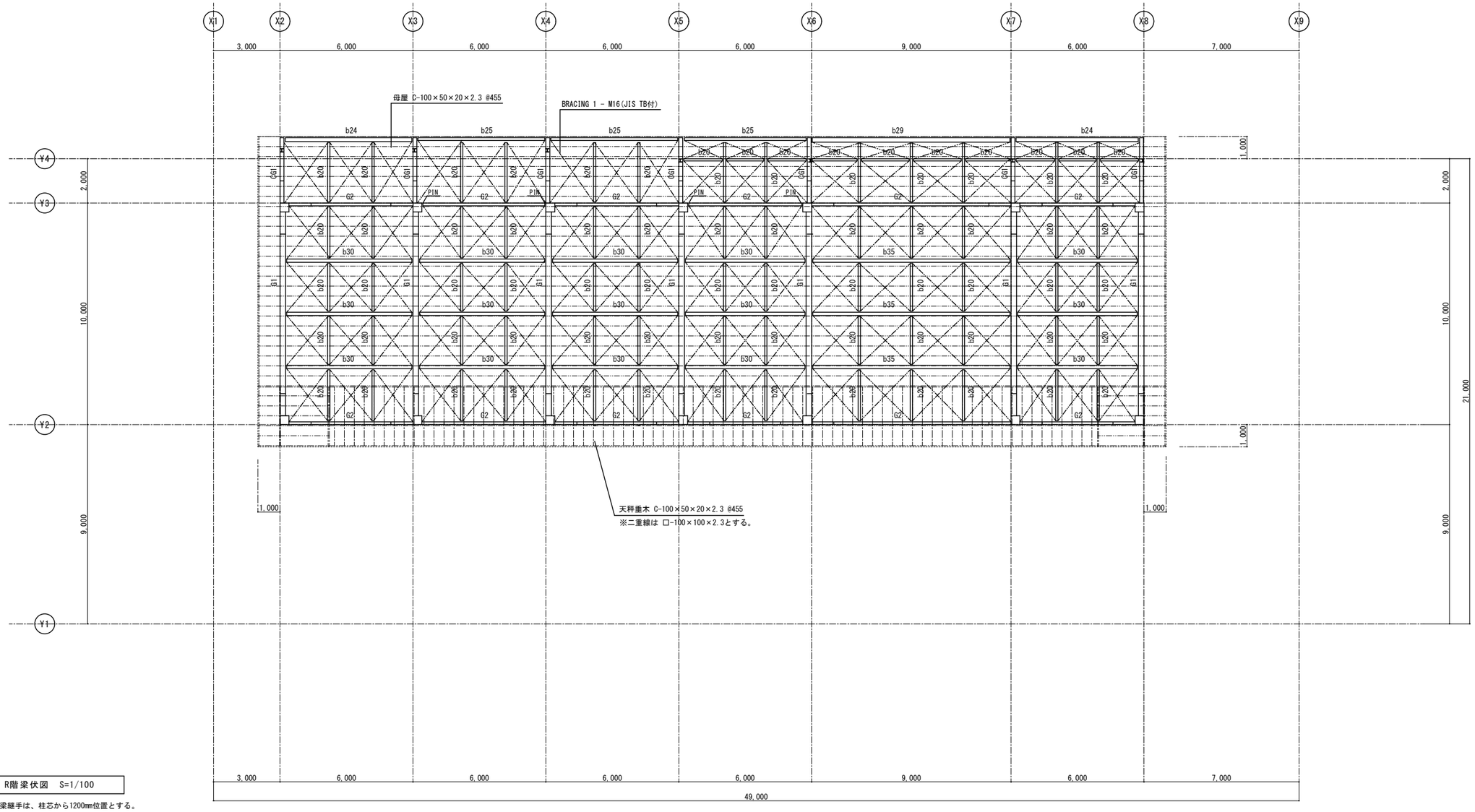
鉄骨リスト

記号	部材	材種	接合部
C1	□ - 400×400×19	BCR295	
C2	□ - 400×400×19	BCR295	
P1	H - 150×150×7×10	SS400	GPL-9 1×2-M20 @60

記号	部材	材種	接合部	
G3	H - 340×250×9×14	SN400B	GGF-4X-J3525･0916-20	SCSS97
G3A	H - 440×300×11×18	SN400B	GGF-4X-J4530･1219-20	SCSS97
G4	H - 350×175×7×11	SN400B	GGF-4X-J3517･0612-16	SCSS97
G4A	H - 340×250×9×14	SN400B	GGF-4X-J3525･0916-20	SCSS97
CG2	H - 250×125×6×9	SN400B	GGF-4X-J2512･0609-16	SCSS97
CG3	H - 175×175×7.5×11	SN400B		

記号	部材	材種	接合部
b17	H - 175×90×5×8	SS400	GPL-6 2-M16 @60
b20	H - 200×100×5.5×8	SS400	GPL-6 2×2-M16 @60
b25	H - 250×125×6×9	SS400	GPL-6 2×2-M20 @90
b24	H - 244×175×7×11	SS400	GPL-9 2×2-M20 @90
b30	H - 300×150×6.5×9	SS400	GPL-9 3-M20 @90
b35	H - 350×175×7×11	SS400	GPL-9 4-M20 @60

特記事項 訂正事項		承認	設計	担当	縮尺 S=1：100(A1) S=1：200(A3) 設計年月日	工事名称	石和第一保育所建設工事（建築主体）（債務）	No.
						図面名称	M2階梁伏図	S －10



R階梁伏図　S=1/100

特記なき梁継手は、柱芯から1200mm位置とする。

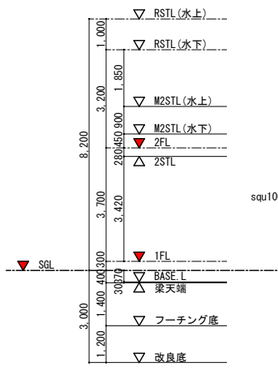
鉄骨リスト

記号	部材	材種	接合部	
G1	H - 340×250×9×14	SN400B	GGF-4X-J3525･0916-20	SCSS97
G2	H - 340×250×9×14	SN400B	GGF-4X-J3525･0916-20	SCSS97
CG1	H - 350×175×7×11	SN400B	GGF-4X-J3517･0612-16	SCSS97
	(先端 BH: FLPL-175×12 WEBPL-9)			

記号	部材	材種	接合部
b20	H - 200×100×5.5×8	SS400	GPL-6 2×2-M16 @60
b25	H - 250×125×6×9	SS400	GPL-6 2×2-M20 @90
b24	H - 244×175×7×11	SS400	GPL-9 2×2-M20 @90
b29	H - 294×200×8×12	SS400	GPL-9 2×2-M20 @120
b30	H - 300×150×6.5×9	SS400	GPL-9 3-M20 @90
b35	H - 350×175×7×11	SS400	GPL-9 4-M20 @60

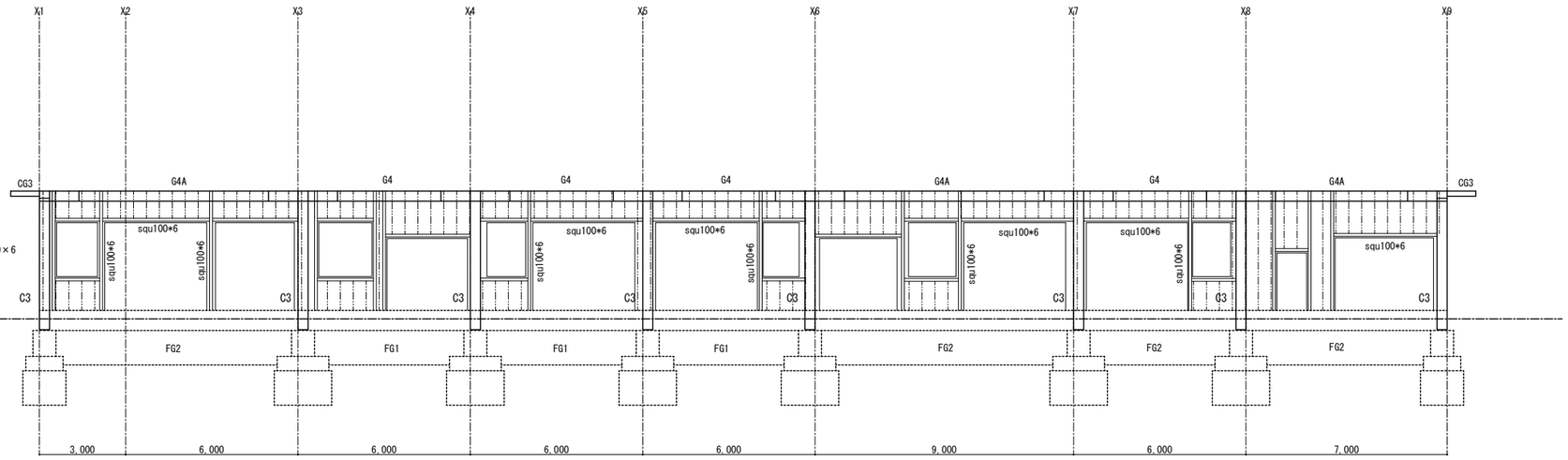
特記事項 訂正事項					承認	設計	担当		縮尺 S=1：100(A1) S=1：200(A3) 設計年月日	工事名称 石和第一保育所建設工事（建築主体）（債務） 図面名称 R階梁伏図	No. S －11

特記なき梁継手は、柱芯から1200mm位置とする。
特記なき胴縁は C-100×50×20×2.3 @455とする。
特記なき二重線は □-100×100×3.2とする。

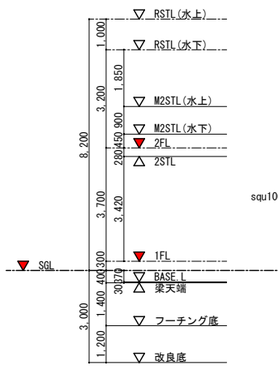


squ100*6 ： □-100×100×6

Y1通 軸組図 S=1/100

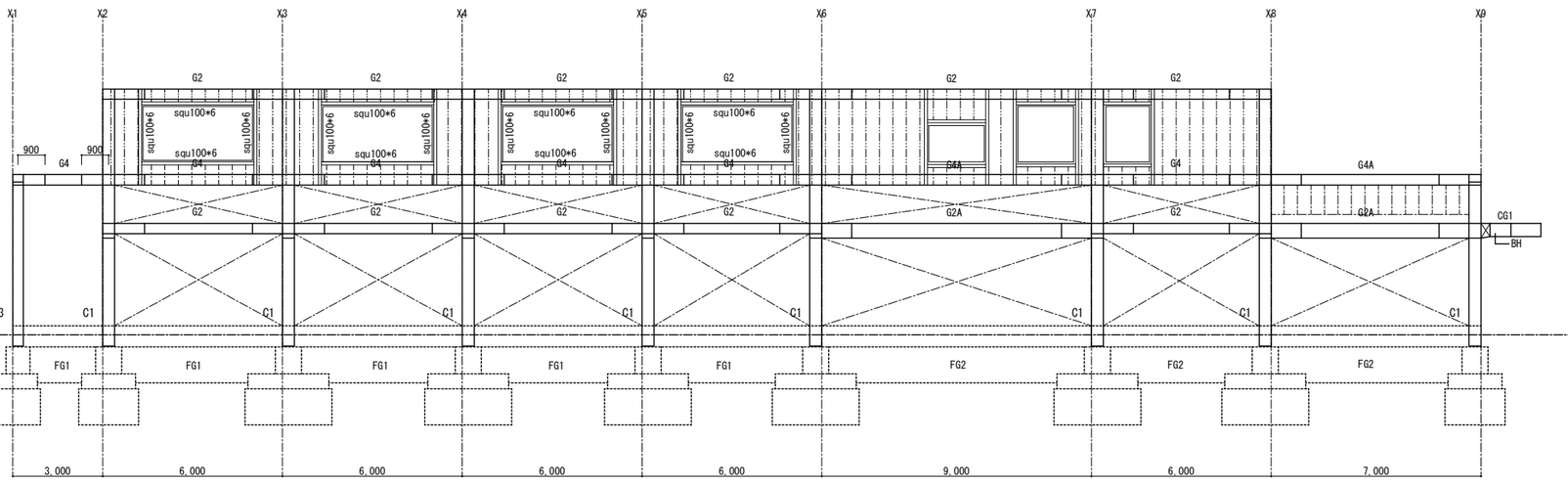


特記なき梁継手は、柱芯から1200mm位置とする。
特記なき胴縁は C-100×50×20×2.3 @455とする。
特記なき二重線は □-100×100×3.2とする。

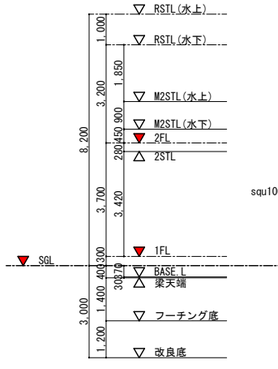


squ100*6 ： □-100×100×6

Y2通 軸組図 S=1/100

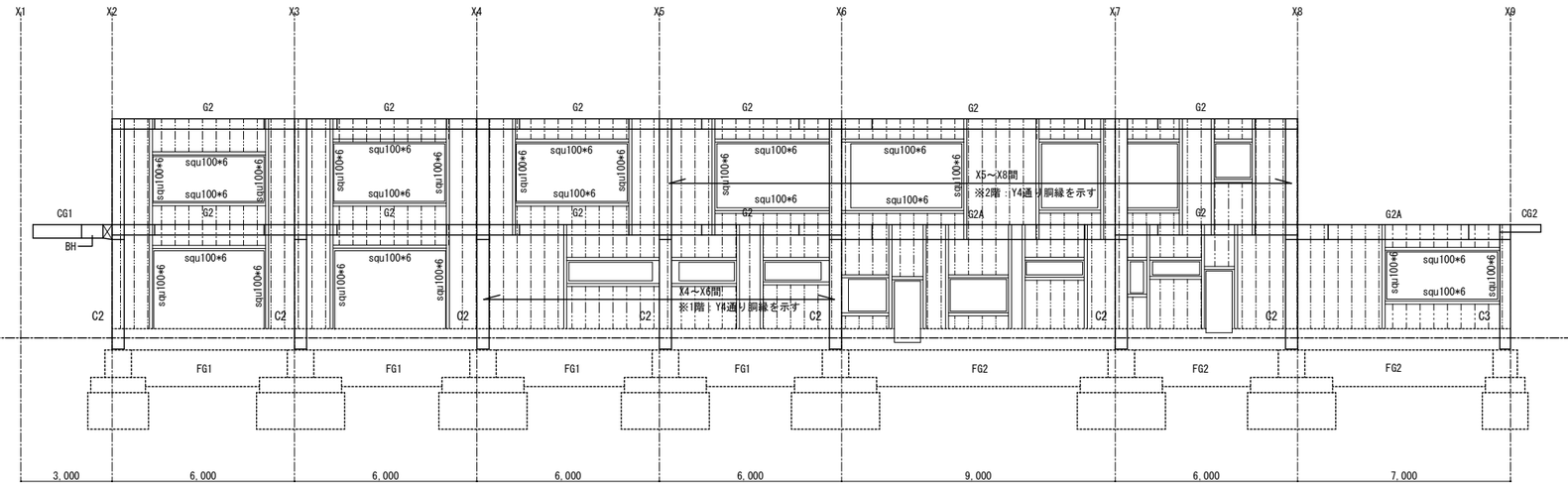


特記なき梁継手は、柱芯から1200mm位置とする。
特記なき胴縁は C-100×50×20×2.3 @455とする。
特記なき二重線は □-100×100×3.2とする。



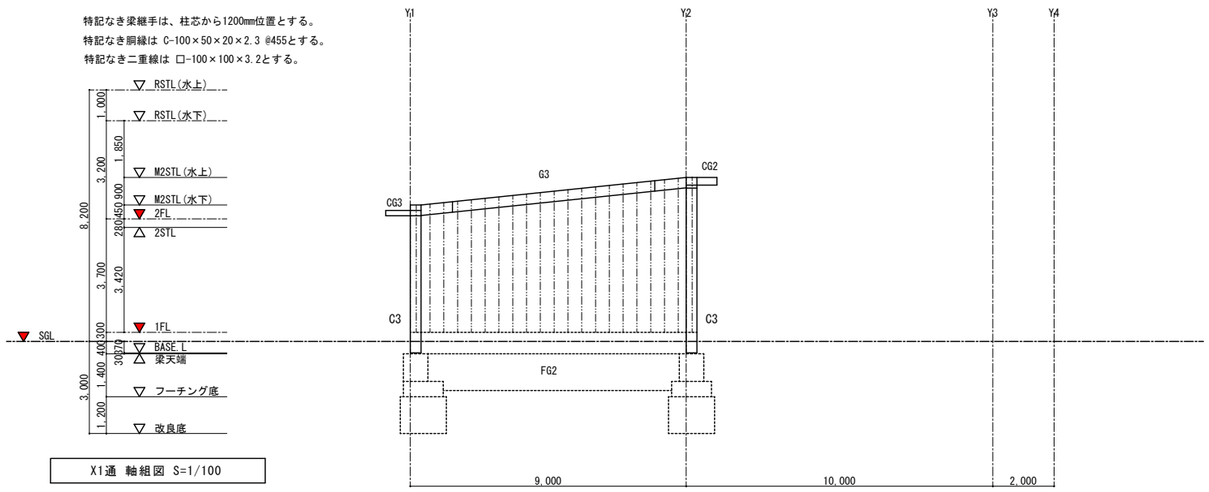
squ100*6 ： □-100×100×6

Y3通 軸組図 S=1/100



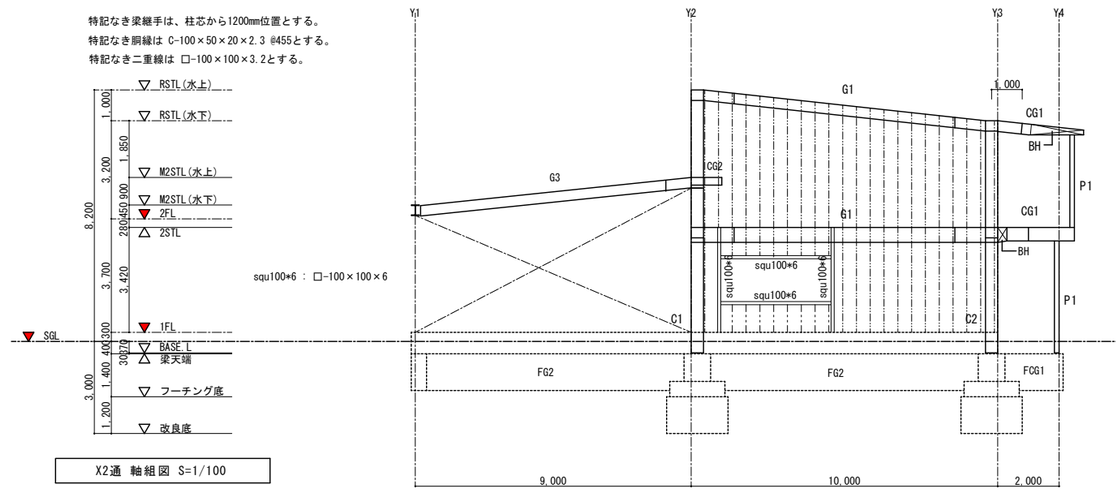
特記事項 訂正事項			承認	設計	担当		縮尺	S=1：100(A1) S=1：200(A3)	工事名称	石和第一保育所建設工事（建築主体）（債務）	No.
							設計年月日		図面名称	軸組図(1)	S－12

特記なき梁継手は、柱芯から1200mm位置とする。
特記なき胴縁は C-100×50×20×2.3 @455とする。
特記なき二重線は □-100×100×3.2とする。



X1通 軸組図 S=1/100

特記なき梁継手は、柱芯から1200mm位置とする。
特記なき胴縁は C-100×50×20×2.3 @455とする。
特記なき二重線は □-100×100×3.2とする。

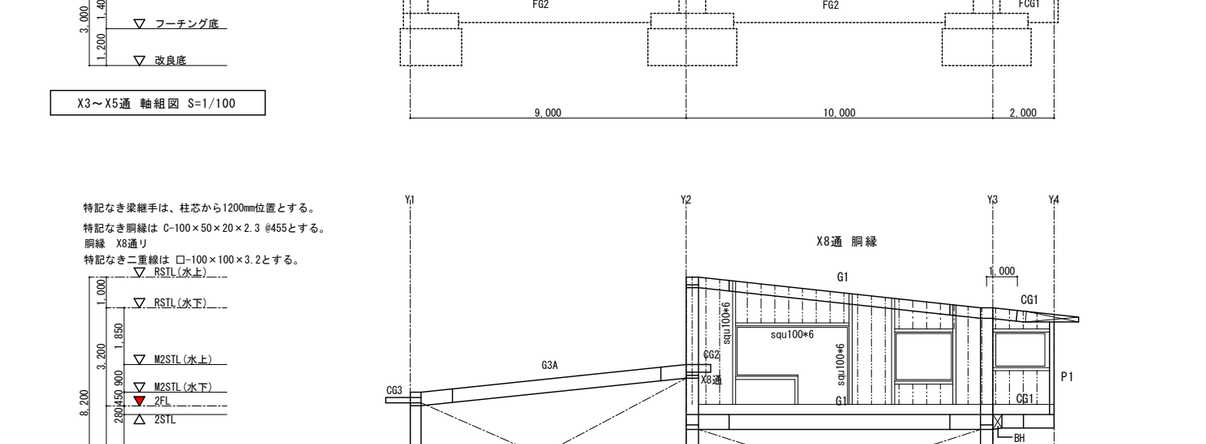


squ100*6 ： □-100×100×6

X2通 軸組図 S=1/100

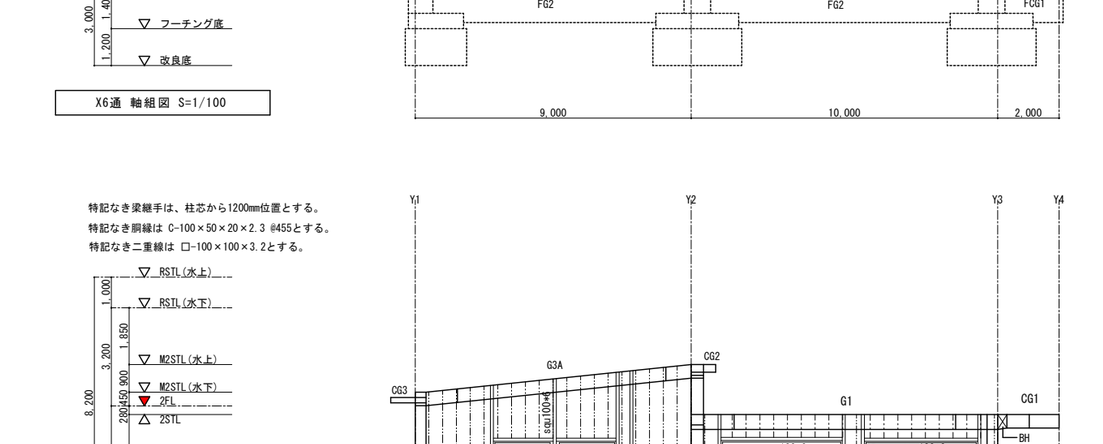
特記なき梁継手は、柱芯から1200mm位置とする。

特記なき二重線は □-100×100×3.2とする。



X3～X5通 軸組図 S=1/100

特記なき梁継手は、柱芯から1200mm位置とする。
特記なき胴縁は C-100×50×20×2.3 @455とする。
特記なき二重線は □-100×100×3.2とする。



X6通 軸組図 S=1/100

特記なき梁継手は、柱芯から1200mm位置とする。
特記なき胴縁は C-100×50×20×2.3 @455とする。
胴縁　X8通り
特記なき二重線は □-100×100×3.2とする。

squ100*6 ： □-100×100×6

X7・X8通 軸組図 S=1/100

特記なき梁継手は、柱芯から1200mm位置とする。
特記なき胴縁は C-100×50×20×2.3 @455とする。
特記なき二重線は □-100×100×3.2とする。

squ100*6 ： □-100×100×6

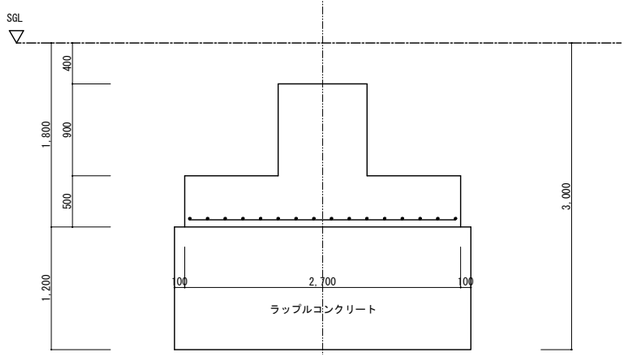
X9通 軸組図 S=1/100

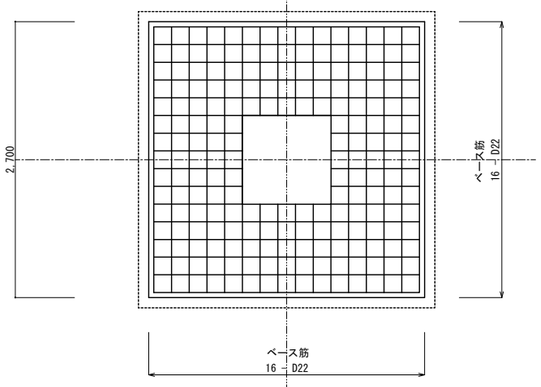
特記事項 訂正事項			承認	設計	担当	縮尺	S=1：100(A1) S=1：200(A3)	工事名称	石和第一保育所建設工事（建築主体）（債務）	No.
						設計年月日		図面名称	軸組図(2)	S －13

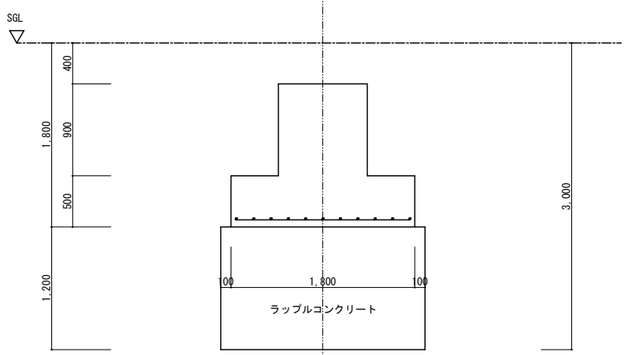
基礎地中梁断面リスト　S=1/30

記　号	F 1	F 2　F 2 e	F 3　F 3 e

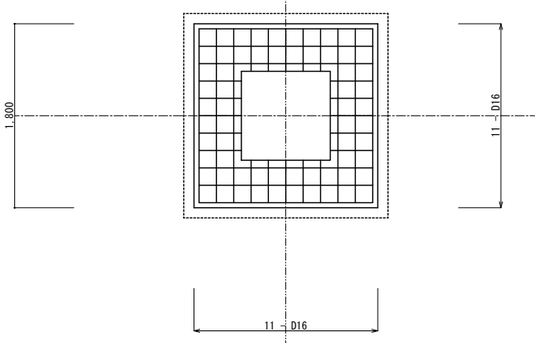
断　面



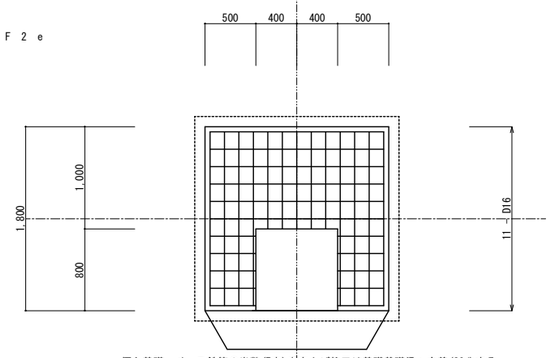




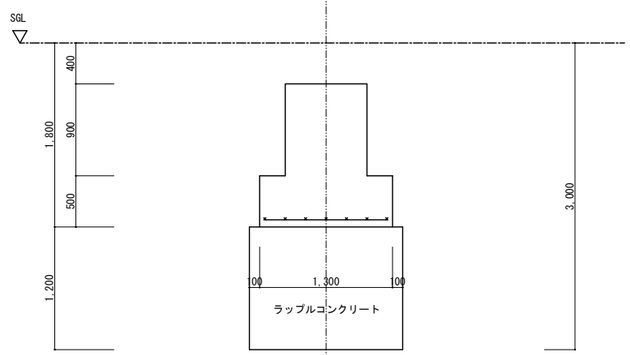
F 2



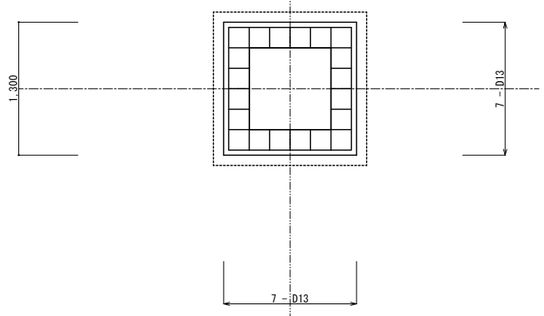
F 2 e



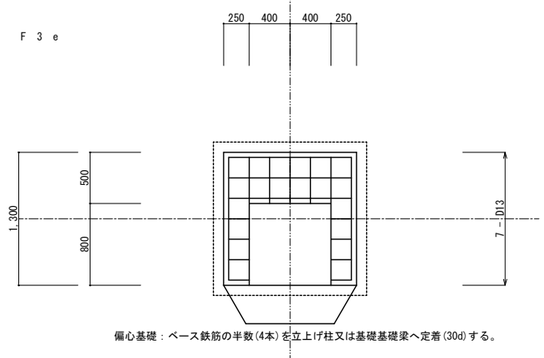
偏心基礎：ベース鉄筋の半数(7本)を立上げ柱又は基礎基礎梁へ定着(30d)する。



F 3



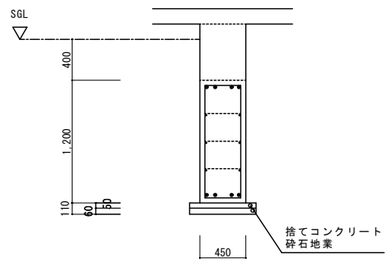
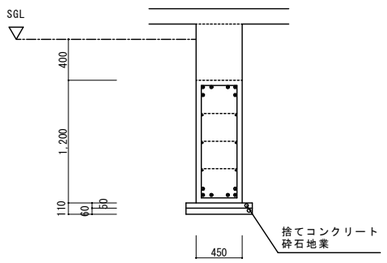
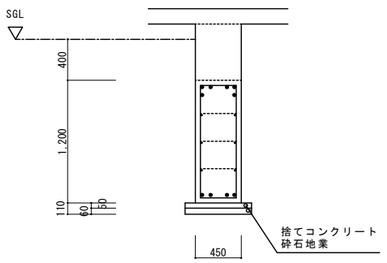
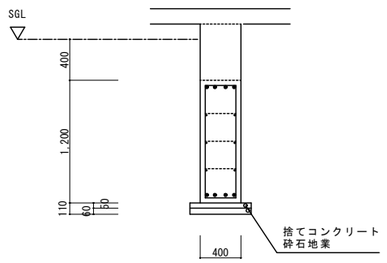
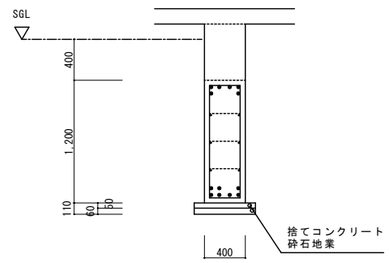
F 3 e

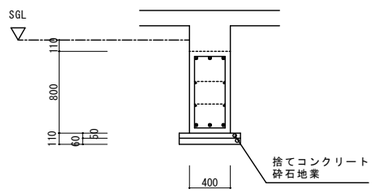
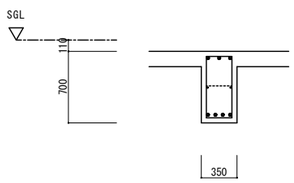
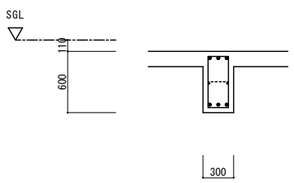
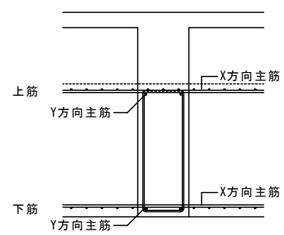
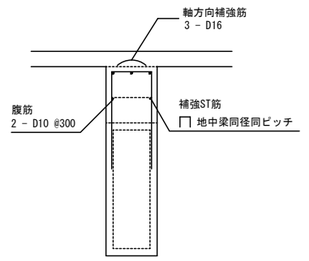


偏心基礎：ベース鉄筋の半数(4本)を立上げ柱又は基礎基礎梁へ定着(30d)する。

特記事項 訂正事項		承　認	設　計	担　当	縮　尺 S=1：30(A1) S=1：60(A3) 設計年月日	工事名称　石和第一保育所建設工事（建築主体）（債務） 図面名称　基礎断面リスト	No. S － 14

地中梁断面リスト　S=1/30

記　号	ＦＧ１	ＦＧ２	ＦＣＧ１	ＦＢ１	ＦＢ２
位　置	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面
断　面					
上　筋	4 － D 25	6 － D 25	6 － D 25	4 － D 19	6 － D 22
下　筋	4 － D 25	6 － D 25	4 － D 25	4 － D 19	7 － D 22
ＳＴＰ	D 13 － 200 @	D 13 － 200 @	D 13 － 200 @	D 13 － 200 @	D 13 － 200 @
腹　筋	6 － D 10	6 － D 10	6 － D 10	6 － D 10	6 － D 10
巾止筋	D 10 － 1000 @	D 10 － 1000 @	D 10 － 1000 @	D 10 － 1000 @	D 10 － 1000 @

記　号	ＦＢ３	Ｂ　1	Ｂ　2	方向別主筋位置	上端増打ち補強筋
位　置	全断面	全断面	全断面		
断　面					
上　筋	3 － D 19	3 － D 19	3 － D 16		
下　筋	3 － D 19	4 － D 19	3 － D 16		
ＳＴＰ	D 13 － 200 @	D 10 － 200 @	D 10 － 200 @		
腹　筋	4 － D 10	2 － D 10	2 － D 10		
巾止筋	D 10 － 1000 @	D 10 － 1000 @	D 10 － 1000 @		

特記事項
訂正事項

承認	設計	担当

縮尺　S=1：30(A1)
S=1：60(A3)
設計年月日

工事名称　石和第一保育所建設工事（建築主体）（債務）
図面名称　地中梁断面リスト

No.
Ｓ －１５

床版リスト　機械基礎リスト　S=1/30

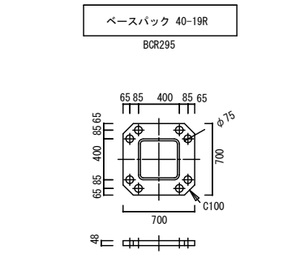
記　号	S 1 ／ ピット土間	土間コンクリート	外部犬走りコンクリート	キュービクル設備基礎
断　面	S 1 D13 － 200@ D13 － 200@ D13 － 200@ 150 ピット土間 D10 － 250@ (S) 150 100 砕石地業	D13 － 200@ (S) L2 シアコネクター D13 － 200@ 150 150 地中梁上端打増 (補強筋有) L2 砕石地業	D13 － 200@ (S) D13 100 D10 － 200@ シアコネクター D13 － 200@ 110 150 150 300 60 50 150 捨てコンクリート 砕石地業	主筋 D13 － 200@ スラブへ 35d定着 D13 － 200@ D16 腹筋 D13 D10 － 200@ 150 350 500 D13 100 300 100

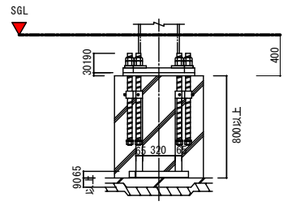
記　号	EHP設備基礎	階段詳細図　S=1/30
断　面	主筋 D13 － 200@ スラブへ 35d定着 D13 － 200@ D16 腹筋 D13 D10 － 200@ 350 150 500 D13 100 1,000 100	GPL － 22 6 － M20(HTB) 350 150 ササラ桁　PL－ 28 × 350 38 無収縮モルタル 脚部 150 400 BPL-32 400×150 ANCHOR 3 － M20　L=600 D.N フック付

特記事項 訂正事項	承　認	設　計	担　当	縮　尺	工事名称	石和第一保育所建設工事（建築主体）（債務）	No.
				S=1：30(A1) S=1：60(A3)	図面名称	床版リスト　機械基礎リスト　階段詳細図	S －16
				設計年月日			

柱脚詳細図リスト　S=1/30

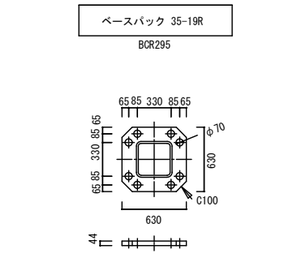
C1　C2

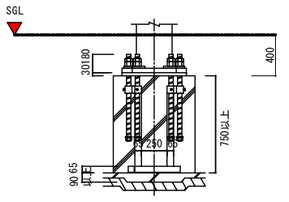




柱部材	□-400×400×19
ベースプレート	700×700×48
アンカーボルト	8-D41(BPD-SD390)
コンクリート柱断面	870×870(850×850)
立上り筋	16-D22(SD345)
フープ筋	D13@100(SD295)
ｺﾝｸﾘｰﾄ設計基準強度	21N/mm² 以上

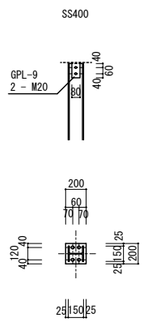
C3





柱部材	□-350×350×19
ベースプレート	630×630×44
アンカーボルト	8-D38(BPD-SD390)
コンクリート柱断面	800×800
立上り筋	12-D25(SD345)
フープ筋	D13@100(SD295)
ｺﾝｸﾘｰﾄ設計基準強度	21N/mm² 以上

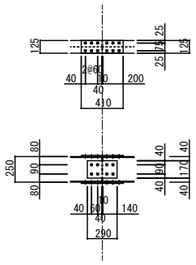
P1

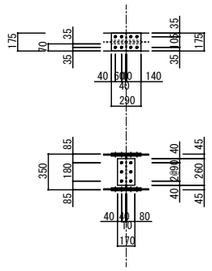


柱部材	H-150×150×7×10 (SS400)
ベースプレート	200×200×22 (SN490C)
アンカーボルト	4-M20(ABR400) L=600 定着版(SS400)

剛接合リスト(SCSS-H97)　S=1/30

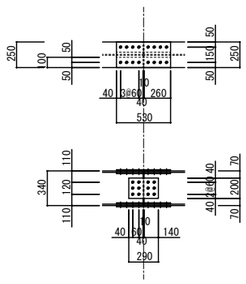
GGF-4X-J2512-0609-16	H-250x125x6x9	GGF-4X-J3517-0612-20	H-350x175x7x11

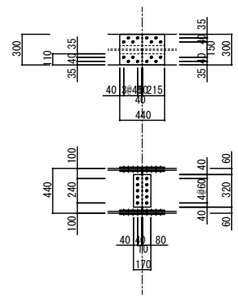




FLG	2 SPL-12x125x410	トルシアHTB 24-M16x45	FLG	2 SPL-9x175x290 4 SPL-9x70x290	トルシアHTB 16-M20x60
WEB	2 SPL-6x170x290	8-M16x45	WEB	2 SPL-6x260x170	6-M20x50

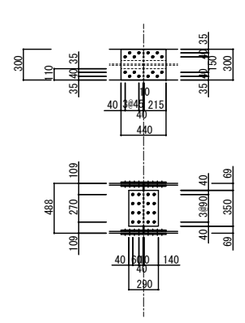
GGF-4X-J3525-0916-20	H-340x250x9x14	GGF-4X-J4530-1219-20	H-440x300x11x18

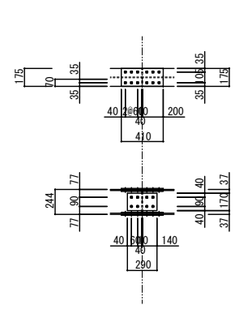




FLG	2 SPL-12x250x530	トルシアHTB 32-M20x70	FLG	2 SPL-12x300x440 4 SPL-12x110x440	トルシアHTB 32-M20x70
WEB	2 SPL-9x200x290	12-M20x55	WEB	2 SPL-9x320x170	10-M20x60

GGF-4X-J5030-1219-20	H-488x300x11x18	GGF-4X-J2517-0612-16	H-244x175x7x11

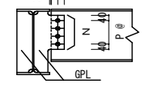
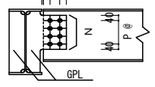
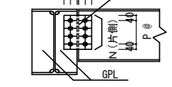
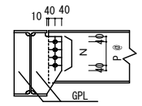
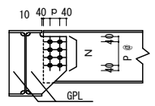




FLG	2 SPL-12x300x440 4 SPL-12x110x440	トルシアHTB 32-M20x70	FLG	2 SPL-9x175x410 4 SPL-9x70x410	トルシアHTB 24-M16x55
WEB	2 SPL-12x350x290	16-M20x65	WEB	2 SPL-6x170x290	8-M16x45

ピン接合部リスト

部　材	JOINT	
	TYPE	GPL BOLT
H－150×150×7×10	B	GPL-9 1×2-M20 bolt ﾖｺp=60 端ﾌﾁ=40
H－175×90×5×8	A	GPL-6 2-M16 bolt ﾀﾃp=60 端ﾌﾁ=40
H－200×100×5.5×8	B	GPL-6 2×2-M16 bolt ﾀﾃp=60 端ﾌﾁ=40
H－250×125×6×9	B	GPL-6 2×2-M20 bolt ﾀﾃp=90 端ﾌﾁ=40
H－244×175×7×11	B	GPL-9 2×2-M20 bolt ﾀﾃp=90 端ﾌﾁ=40
H－300×150×6.5×9	A	GPL-9 3-M20 bolt ﾀﾃp=90 端ﾌﾁ=40
H－294×200×8×12	B	GPL-9 2×2-M20 bolt ﾀﾃp=120 端ﾌﾁ=40
H－350×175×7×11	A	GPL-9 4-M20 bolt ﾀﾃp=60 端ﾌﾁ=40
H－340×250×9×14	A	GPL-9 4-M20 bolt ﾀﾃp=60 端ﾌﾁ=40
H－440×300×11×18	C	GPL-12 2WPL-12 4-M20 bolt ﾀﾃp=60 端ﾌﾁ=40

TYPE－A	TYPE－B	TYPE－C
		
TYPE－D	TYPE－E	
		

特記事項 訂正事項	承認	設計	担当	縮尺 S=1:30(A1) S=1:60(A3) 設計年月日	工事名称	石和第一保育所建設工事（建築主体）（債務）	No. S－17
					図面名称	柱脚詳細図リスト　剛接合リスト(SCSSH-97)　ピン接合部リスト	

ＱＬデッキ合成スラブ設計・施工標準　耐火仕様①
合成スラブ工業会仕様

JFE 建材 株式会社

［耐火認定FP60FL-9095, 9101, FP120FL-9107, 9113用］

ＱＬデッキ合成スラブの設計・施工は、(社)日本建築学会「各種合成構造設計指針・同解説」「鉄骨工事技術指針」「建築工事標準仕様書・同解説 JASS5鉄筋コンクリート工事及びJASS6鉄骨工事」、(一社)日本鋼構造協会「デッキプレート床構造設計・施工規準 2018」、合成スラブ工業会「合成スラブの設計・施工マニュアル」、ＱＬデッキ設計マニュアル・同施工マニュアルによる。

設　　計

材料／デッキプレート　［ISO 9001認証取得］

デッキプレート種類		板厚(mm)	表　面　処　理
☑ＱＬ９９－５０ □ＱＬ９９－７５	端部加工 ☑エンボ有り □無し	------	----------
		☑1.2 □1.6	□表面防錆処理(一次塗装) ＱＬプライマー(P)*1 ☑亜鉛めっき　［ ☑Z12　□Z27 ］ □JFEｴｺｶﾞﾙ(高耐食溶融めっき鋼板)［ □Y18　□Y27 ］ □その他(　　)　□無し
材　質	ＪＩＳ Ｇ ３３５２に定めるSDP1T、SDP2、SDP2G		

*1 現場搬入までの一次防錆（ＪＩＳ Ｋ ５６２１ ２種または3種相当）

材料／コンクリート

種　　類	☑普通コンクリート	□軽量コンクリート［ □１種　□２種 ］
設計基準強度	□１８　☑２１　□２４　□(　　) N／mm²	
厚さ(ＱＬデッキ山上)	□６０　□７０　☑８０　□８５　□９０　□９５　□１００　□(　　)mm	

材料／溶接金網・異形鉄筋

☑溶接金網	ＪＩＳ Ｇ ３５５１	□φ６－７５×７５ □φ６－１００×１００	☑φ６－１５０×１５０ □(　　)*2
□異形鉄筋	ＪＩＳ Ｇ ３１１２、３１１７	□Ｄ１０－１５０×１５０ □Ｄ１０－２００×２００	□(　　)
耐火補強筋	ＪＩＳ Ｇ ３１１２、３１１７	Ｄ１３－@３００	

*2 線形6mm以上を用いたもの

接　　合

梁との接合	□頭付きスタッド	JIS B 1198 □φ１３　□φ１６　□φ１９　□φ２２ (各長さ・ピッチは特記による*3)
	☑焼抜き栓溶接	下記焼抜き栓溶接の項による
	□打込み鋲	接合箇所は特記による
	□その他	

*3 最小長さはデッキ高さ＋30mm以上とする

耐　　火

ﾃﾞｯｷﾌﾟﾚｰﾄ	耐火区分	支持条件	ｺﾝｸﾘｰﾄ種別	耐火補強筋	認定番号
QL99-50 QL99-75	床１時間	単純	普通/軽量	要	□FP060FL－9101
		連続		不要	☑FP060FL－9095
	床２時間	単純		要	□FP120FL－9113
		連続		不要	□FP120FL－9107

注）床２時間は床１時間耐火を含む

その他	□指定なし　□(　　)　□(　　)

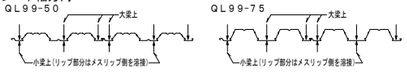
特　　記

支保工有無	その他：
☑無　□有	

上欄内の採用項目に☑を記して下さい。

焼抜き栓溶接

デッキプレート幅方向



デッキプレートスパン方向

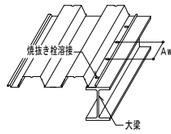
「ＱＬデッキ設計マニュアル」に基づいて決定する。

$Aw = \frac{1.5Qa}{Qb} \times 1000mm$ かつ600mm 以下

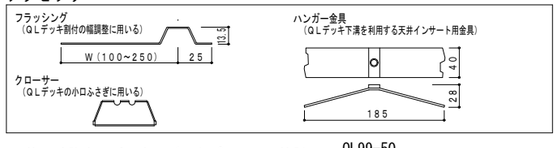
Qa：焼抜き栓溶接１個当たりの長期許容せん断力（N）
Qb：設計最大せん断力(N/m)
Aw：焼抜き栓溶接ピッチ

板厚	Qa (N)
1.2	4,900
1.6	7,350(SPW)、6,860(A.P.W)

Aw ＝（ 400 ）mm
（注）接合に頭付きスタッドを用いる場合、焼抜き栓溶接は不要



アクセサリー

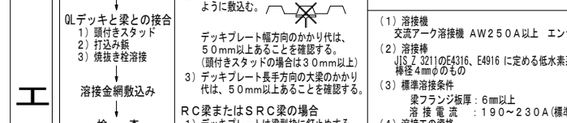


耐　火　仕　様

【連続支持合成スラブ】

支　持　梁　：鉄骨(S)梁 及び 大梁：鉄筋コンクリート(RC)梁又は鉄骨鉄筋コンクリート(SRC)梁、小梁：鉄骨(S)梁
コンクリート：設計基準強度１８Ｎ/㎟以上の普通コンクリート、及び、軽量コンクリート（１種・２種）

耐火時間	コンクリート種類	品　名	支持スパン	コンクリート厚さ	溶接金網又は異形鉄筋（Ｄ１０－@２００）	許容積載荷重
床、１時間耐火 FP060FL-9095	普通コンクリート	ＱＬ９９－５０	3.0m 以下	80mm 以上	φ6－150x150	算出式 注5)A 参照
		ＱＬ９９－７５	3.4m 以下			算出式 注5)B 参照
			3.6m 以下	90mm 以上	φ6－100x100	4,400N/m²以下 注2)
	軽量コンクリート	ＱＬ９９－５０	3.0m 以下	80mm 以上	φ6－150x150	算出式 注5)A 参照
		ＱＬ９９－７５	3.4m 以下			算出式 注5)B 参照
床、２時間耐火 FP120FL-9107	普通コンクリート	ＱＬ９９－５０	2.7m 以下	95mm 以上	φ6－100x100	算出式 注5)A 参照
		ＱＬ９９－７５	3.4m 以下	90mm 以上		算出式 注5)B 参照
			3.6m 以下	95mm 以上	Ｄ10－@200	5,400N/m²以下 注2)
	軽量コンクリート	ＱＬ９９－５０	2.7m 以下	85mm 以上	φ6－100x100	算出式 注5)A 参照
		ＱＬ９９－７５	3.4m 以下	90mm 以上	Ｄ10－@200	5,400N/m²以下 注2)



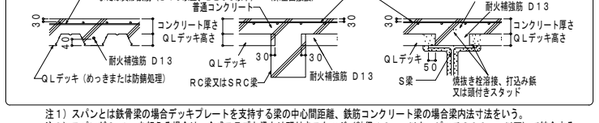
【単純支持合成スラブ】

支　持　梁　：鉄骨(S)梁　　コンクリート：設計基準強度１８Ｎ/㎟ 以上の普通コンクリート、及び、軽量コンクリート（１種・２種）
耐火補強筋　：Ｄ１３（デッキプレート各溝@３００）

耐火時間	コンクリート種類	品　名	支持スパン	コンクリート厚さ	溶接金網又は異形鉄筋（Ｄ１０－@２００）	許容積載荷重
床、１時間耐火 FP060FL-9101	普通コンクリート	ＱＬ９９－５０	2.7m 以下	80mm 以上	φ6－150x150	算出式 注5)A 参照
		ＱＬ９９－７５	3.4m 以下			算出式 注5)B 参照
	軽量コンクリート	ＱＬ９９－５０	2.7m 以下			算出式 注5)A 参照
		ＱＬ９９－７５	3.4m 以下			算出式 注5)B 参照
床、２時間耐火 FP120FL-9113	普通コンクリート	ＱＬ９９－５０	2.7m 以下	95mm 以上	φ6－100x100	算出式 注5)A 参照
		ＱＬ９９－７５	3.4m 以下	90mm 以上		算出式 注5)B 参照
	軽量コンクリート	ＱＬ９９－５０	2.7m 以下	85mm 以上		算出式 注5)A 参照
		ＱＬ９９－７５	3.4m 以下	90mm 以上		算出式 注5)B 参照

支持梁：鉄筋コンクリート(RC)梁又は鉄骨鉄筋コンクリート(SRC)梁の場合　　コンクリート：設計基準強度１８Ｎ/㎟ 以上の普通コンクリート
耐火補強筋：Ｄ１３（デッキプレート各溝@３００）

耐火時間	コンクリート種類	品　名	支持スパン	コンクリート厚さ	溶接金網又は異形鉄筋（Ｄ１０－@２００）	許容積載荷重
床、１時間耐火 FP060FL-9101	普通コンクリート	ＱＬ９９－５０	2.7m 以下	80mm 以上	φ6－150x150	算出式 注5)A 参照
		ＱＬ９９－７５	3.4m 以下			算出式 注5)B 参照
床、２時間耐火 FP120FL-9113	普通コンクリート	ＱＬ９９－５０	2.7m 以下	95mm 以上	φ6－100x100	算出式 注5)A 参照
		ＱＬ９９－７５	3.4m 以下	90mm 以上		算出式 注5)B 参照



注１）スパンとは鉄骨梁の場合デッキプレートを支持する梁の中心間距離、鉄筋コンクリート梁の場合梁内法寸法をいう。
注２）スパンが３.４ｍを超える場合は、合成スラブと梁とは頭付きスタッド（軸径１６mm以上、ピッチ３００mm以下）で結合する。
注３）鉄骨梁の場合、梁との接合は焼抜き栓溶接、打込み鋲、または頭付きスタッドを用いる。
注４）梁の耐火被覆　梁に１、２または３時間の耐火性能が要求される場合は、それらに応じ耐火被覆を施す。
注５）許容積載荷重Ｗ　算出式　　Ｌ：支持スパン（m）

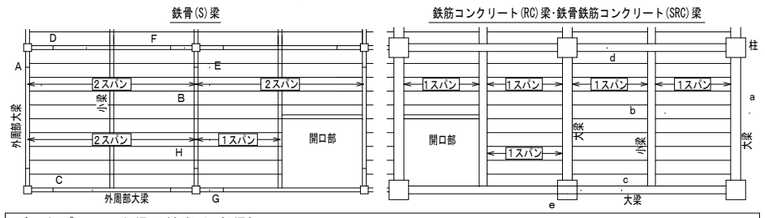
[A] ＱＬ９９－５０	[B] ＱＬ９９－７５
$W=5,400x\left(\frac{2.7}{L}\right)^2$ かつ9,800 N/m² 以下	$W=5,400x\left(\frac{3.4}{L}\right)^2$ かつ9,800 N/m² 以下

※許容積載荷重は、床にかかる全荷重(仕上げ荷重も含む)から床荷重(デッキプレートとコンクリートの自重)を差し引いた値を示します。

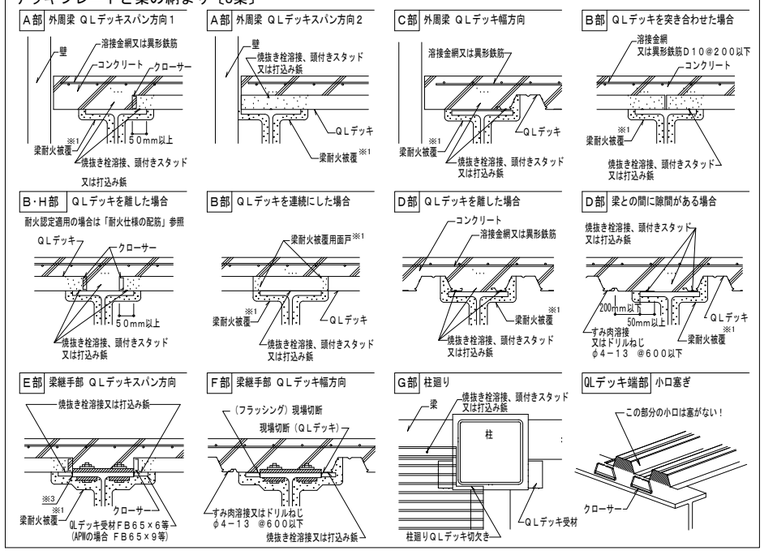
付帯条件
連続支持合成スラブの場合、デッキプレートは２スパン以上にわたって連続的に小げり等によって、ほぼ等間隔(スパン比３：２を超えない程度※)に支持されるものとする。
※合成スラブ工業会発行「合成スラブの設計・施工マニュアル」参照

標　　準　　納　　ま　　り

図中※１は、梁に１、２または３時間の耐火性能が要求される場合のみ適用。　※２はＱＬデッキ耐火認定を適用する場合に必要。
※３ 溶接方法等は別途検討が必要。（合成スラブ工業会Ｑ＆Ａ参照）

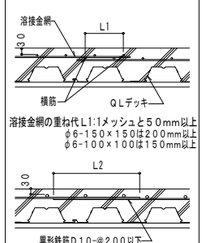


デッキプレートと梁の納まり〔S梁〕



スラブの配筋

コンクリート表面よりのかぶり厚さが３０mmになるようレベル保持し、全面に配筋する。

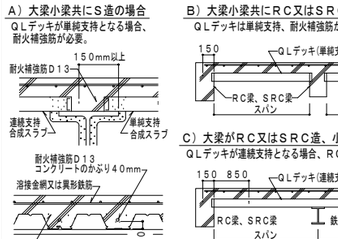


耐火仕様の配筋

・ＱＬデッキが単純支持となる場合、耐火補強筋を配筋する。配筋はＪＡＳＳ５鉄筋コンクリート工事による。
・耐火補強筋・端部補強筋が必要な場合、ＱＬデッキの各溝中央部にかぶり４０mmで配筋する。
・耐火補強筋、端部補強筋共、及び１５０mm以上定着させる。梁上で定着が１５０mmとれない場合は、Ｌ型に曲げて１５０mm以上を確保する。

Ａ）大梁小梁共にＳ造の場合

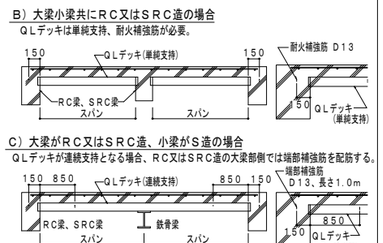
ＱＬデッキが単純支持となる場合、耐火補強筋が必要。



※配筋のスペーサーはφ4．0mm以上鉄線またはセメントブロックを用いて間隔は１．０m以下とする。

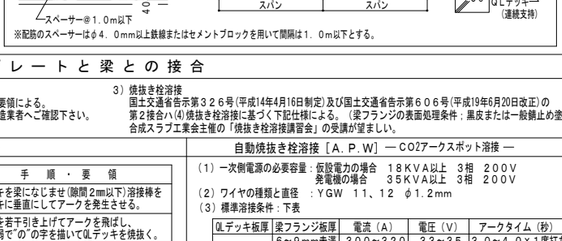
Ｂ）大梁小梁共にＲＣ又はＳＲＣ造の場合

ＱＬデッキは単純支持、耐火補強筋が必要。

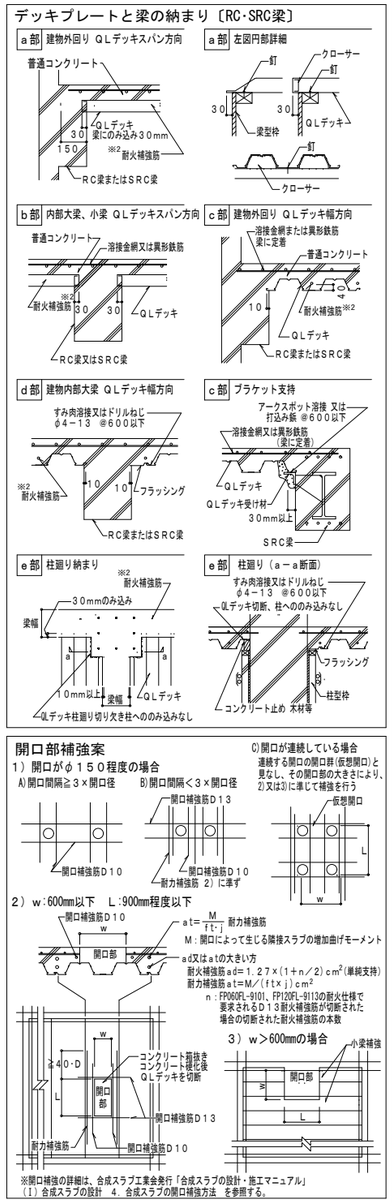


Ｃ）大梁がＲＣ又はＳＲＣ造、小梁がＳ造の場合

ＱＬデッキが連続支持となる場合、ＲＣ又はＳＲＣ造の大梁部側では端部補強筋を配筋する。



デッキプレートと梁の納まり〔RC・SRC梁〕



開口部補強案

1）開口がφ１５０程度の場合

A）開口間隔≧３×開口径

B）開口間隔＜３×開口径

C）開口が連続している場合

連続する開口の開口群(仮想開口)と見なし、その開口部の大きさにより、2)又は3)に準じて補強を行う

2）w：600mm以下　L：900mm程度以下

※開口補強の詳細は、合成スラブ工業会発行「合成スラブの設計・施工マニュアル」（１）合成スラブの設計　４．合成スラブの開口補強方法　を参照下さい。

施工

施工順序

墨　出　し
↓
敷込仮止め溶接
↓
ＱＬデッキと梁との接合
1）頭付きスタッド
2）打込み鋲
3）焼抜き栓溶接
↓
溶接金網敷込み
↓
検　　査
↓
コンクリート打設

敷　込　み

鉄骨梁の場合
1）墨出し線に合わせて１枚目のデッキプレートを仮止め溶接した後、順次適当な枚数(５～１０枚)ごとに仮止め溶接する。
2）各大梁上にデッキプレートの溝筋が乗るように敷込む。

デッキプレート幅方向のかかり代は、５０mm以上あることを確認する。
(頭付きスタッドの場合は３０mm以上)
3）デッキプレート長手方向の大梁のかかり代は、５０mm以上あることを確認する。

ＲＣ梁またはＳＲＣ梁の場合
1）デッキプレートは梁型枠に釘止めする。
2）デッキプレートの梁型枠へののみ込み代が幅方向１０mm以上、長手方向が３０mmあることを確認する。

デッキプレートと梁との接合

1）頭付きスタッド
施工は、JASS6「鉄骨工事」による。
デッキプレートと梁とはアークスポット溶接等で接合する。

2）打込み鋲
施工は打込み鋲製造業者の施工要領による。
施工の仕様等については別途製造業者へご確認下さい。
日本ヒルティ(株)

3）焼抜き栓溶接
国土交通省告示第３２６号(平成14年4月16日制定)及び国土交通省告示第６０６号(平成19年6月20日改正)の第２接合ハ(4)焼抜き栓溶接に基づく下記仕様による。（梁フランジの表面処理条件；黒皮または一般鋼止め塗装）
合成スラブ工業会主催の「焼抜き栓溶接講習会」の受講が望ましい。

焼抜き栓溶接［ＳＰＷ］ ―アーク手溶接―

（１）溶接機
交流アーク溶接機 ＡＷ２５０Ａ以上　エンジン溶接機 ２３０Ａ以上
（２）溶接棒
ＪＩＳ Ｚ ３２１１のＥ４３１６、Ｅ４９１６ に定める低水素系被覆アーク溶接棒で棒径４mmのもの
（３）標準溶接条件

工程	手順・要領
1	アーク発生
2	ＱＬデッキ焼抜き
3	押し込み・溶着
4	整　形

梁フランジ板厚：６mm以上
溶 接 電 流　：１９０～２３０Ａ(標準２１０Ａ)
（４）溶接工の資格
ＪＩＳ Ｚ ３８０１、ＪＩＳ Ｚ ３８４１ における基本級の有資格者
（５）手順・要領
右の１～４の順に行う。

梁フランジ板厚	電流（Ａ）	電圧（Ｖ）	アークタイム（秒）
1.2mm	300～320	33～35	3.0～4.0×1度打ち
9mm以上	300～320	33～35	3.0～4.0×2度打ち
1.6mm	300～320	34～36	3.5～4.5×1度打ち
9mm以上	300～320	34～36	4.0～4.5×2度打ち

注1. デッキプレート　板厚1．2、1．6mm　表面条件：Ｚ１２、Ｚ２７、裏面塗装
2. CO2ガス流量：２０ℓ/分以上

溶接時間の目安；電流値２１０Ａ(標準)の場合８秒程度

自動焼抜き栓溶接［Ａ．Ｐ．Ｗ］ ― CO2アークスポット溶接 ―

（１）一次側電源の必要容量：仮設電力の場合　１８ＫＶＡ以上　３相　２００Ｖ
発電機の場合　３５ＫＶＡ以上　３相　２００Ｖ
（２）ワイヤの種類と直径　：ＹＧＷ　１１、１２　φ1．2mm
（３）標準溶接条件：下表

検　　査

【焼抜き栓溶接（ＳＰＷ）及び自動焼抜き栓溶接（Ａ．Ｐ．Ｗ）】
□事前検査
ＳＰＷ：適正な溶接を行うため下記1)または2)の方法で電流値をチェックする。
1) 検流計での計測
2) 溶接棒の消費長さによる確認 ―― 未使用の規定の溶接棒を用いて、アーク長さを約3mmに保持し、１０mm程度の円を描いて１０秒間溶接した時の溶接棒の消費長さが４５～５３mmであること。
Ａ．Ｐ．Ｗ：試し溶接を行って溶接性を確認する。
□溶接後の外観検査
1) 溶接箇所の確認　2) 焼き切れ、余盛り不足の有無
3) 標準余盛り径　SPW；18mm以上　A.P.W；25mm±3
□不良部の補修
ＳＰＷ　の場合：スラグ除去後、梁にデッキプレートを密着させて再溶接する。
不具合箇所に溶接金属を流し込む要領で補修。
Ａ．Ｐ．Ｗの場合：盛り溶接して補修する。
【そ　の　他】
(1)ＱＬデッキ相互の嵌合状況　(2)ひび割れ拡大防止筋の敷込み状況　(3)開口部の補強状況

施工時許容スパン表（デッキプレートの検討）

注１：普通コンクリート（単位体積重量24.0kN/m³）、
表面処理が亜鉛めっきの場合
注２：（）数値は表面処理がめっきなしまたは塗装品の許容スパンを示す。
注３：表を超える場合は、別途支保工が必要です。

QL99-50　（単位：m）

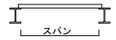
コンクリート厚(mm)		60		70		80		90		100	
板厚(mm)		1.2	1.6	1.2	1.6	1.2	1.6	1.2	1.6	1.2	1.6
支持条件	単純(内法)	2.52 (2.52)	2.75 (2.75)	2.47 (2.47)	2.69 (2.69)	2.42 (2.42)	2.64 (2.64)	2.37 (2.37)	2.59 (2.59)	2.33 (2.33)	2.54 (2.54)
	2連続	3.38 (3.38)	3.67 (3.67)	3.31 (3.31)	3.61 (3.61)	3.24 (3.24)	3.54 (3.54)	3.18 (3.15)	3.47 (3.47)	3.12 (3.07)	3.41 (3.41)
	3連続	3.12 (3.12)	3.40 (3.40)	3.05 (3.05)	3.33 (3.33)	2.99 (2.99)	3.26 (3.26)	2.93 (2.93)	3.20 (3.20)	2.88 (2.88)	3.15 (3.15)

QL99-75　（単位：m）

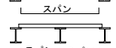
コンクリート厚(mm)		60		70		80		90		100	
板厚(mm)		1.2	1.6	1.2	1.6	1.2	1.6	1.2	1.6	1.2	1.6
支持条件	単純(内法)	3.31 (3.31)	3.61 (3.61)	3.24 (3.24)	3.55 (3.55)	3.18 (3.18)	3.48 (3.48)	3.13 (3.13)	3.42 (3.42)	3.07 (3.07)	3.37 (3.37)
	2連続	4.02 (3.89)	4.30 (4.30)	3.96 (3.78)	4.24 (4.24)	3.91 (3.67)	4.18 (4.18)	3.83 (3.58)	4.13 (4.13)	3.73 (3.49)	4.07 (4.07)
	3連続	3.78 (3.78)	4.05 (4.05)	3.73 (3.73)	3.99 (3.99)	3.68 (3.68)	3.93 (3.93)	3.63 (3.63)	3.88 (3.88)	3.58 (3.58)	3.83 (3.83)

S造・施工時のスパンの取り方

【単純支持】



【連続支持】



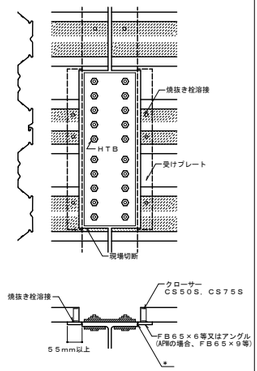
その他の納まり・参考例等については、ＱＬデッキ施工マニュアルまたは別途『納まり図』（技術資料CADデータ収録）を参照下さい。

2021／7／01

特記事項 訂正事項		承認	設計	担当	縮尺 S=1：1(A1) S=1：1(A3) 設計年月日	工事名称	石和第一保育所建設工事（建築主体）（債務）	No. S－18
						図面名称	ＱＬデッキ合成スラブ設計・施工標準(参考図)	

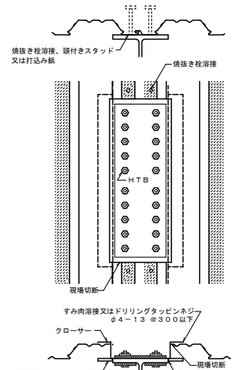
梁ボルト接合部納まり　S:1/10

(A)プレートで受けを設ける場合



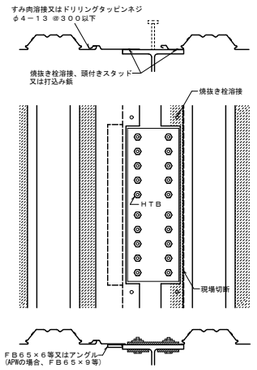
＊溶接方法等、別途検討が必要。（合成スラブ工業会Q&A参照）

(B)クローサー利用の場合



＊溶接方法等、別途検討が必要。（合成スラブ工業会Q&A参照）

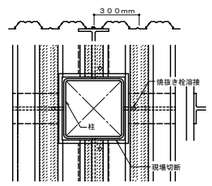
(C)デッキプレート溝部が梁上に架かる場合



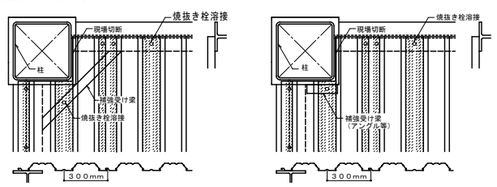
フラッシングで接合部分にノリシロ（55mm以上）が確保できない場合受けプレートを設ける。

柱廻り納まり　S:1/20

(A)デッキ受け梁が不要の場合

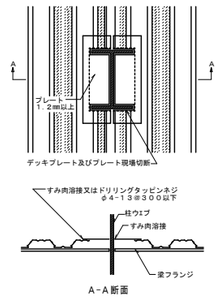


(B)補強受け梁を設ける場合



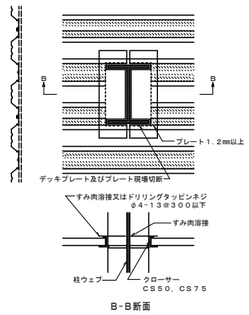
柱廻りの開口ふさぎ　S:1/20

(A)デッキ平行配置



A-A断面

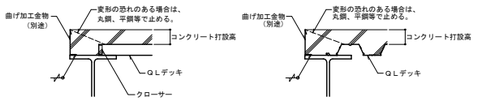
(B)デッキ直交配置



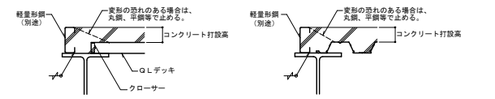
B-B断面

梁縁端部コンクリート漏れ止め

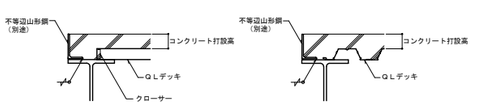
曲げ加工金物利用の場合



軽量形鋼利用の場合



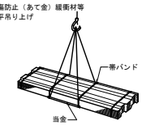
不等辺山形鋼利用の場合



揚重・仮置き

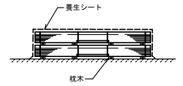
揚重について

1)二点吊りを実行
2)デッキプレートの損傷防止（あて金）緩衝材等
3)デッキプレートの水平吊り上げ



仮置きについて

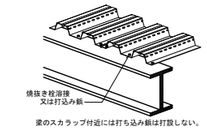
保管が長期になる場合には、平坦で乾燥した場所を選び、適当な間隔に枕木を並べ、養生シートをかけるなど雨露に対しての対処を行う。



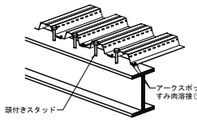
デッキ両端部の結束用帯バンドはデッキプレート長さが7m以上の場合の仕様。

合成スラブと梁との接合

A.焼抜き栓溶接又は打込み鋲での接合

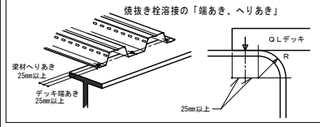


B.頭付きスタッドでの接合

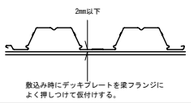


注1）頭付きスタッドを用いる場合は、頭付きスタッドの施工前に、デッキと鉄骨梁とをすみ肉溶接又はアークスポット溶接で接合する。
注2）デッキプレートと梁フランジとのすき間は2mm以下とする。
注3）焼抜き栓溶接の場合、梁材のへりあき・デッキ端あきは施工誤差等を考慮し、通常「25mm」以上とする。

焼抜き栓溶接の「端あき、へりあき」

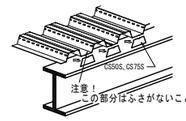


デッキプレートと梁フランジとのすき間



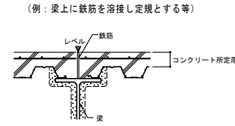
その　他

梁フランジ上の小口ふさぎ

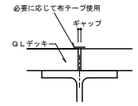


コンクリート厚さの確保

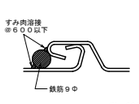
（例：梁上に鉄筋を溶接し定規とする等）



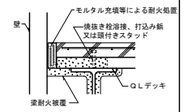
デッキ突き合わせ接合部の処置



デッキのかみ合わせが
不十分な場合の処置



他の部位との接続



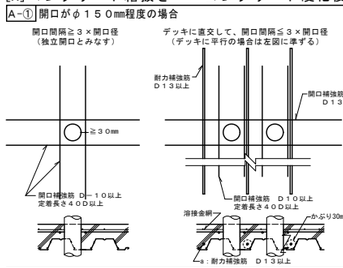
(NonSCALE)

ＱＬデッキ合成スラブの開口部補強方法

ＱＬデッキに開口部を設ける場合、開口部の大きさ・位置・数や、建物床の用途・スパン・施工方法等、個々の条件に合わせて適切な納まり補強が必要です。
ここでは開口部の大きさ別に、事務所・店舗等に使用される合成スラブの開口補強を例示しています。
フォークリフトが走行する床や倉庫・工場等のように大荷重が作用する床は対象外ですので、別途設計者と打ち合わせて下さい。

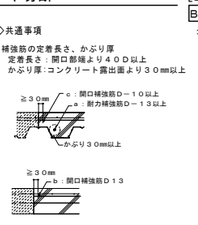
[A]コンクリート箱抜き → コンクリート硬化後デッキ切断

A-① 開口が≦１５０mm程度の場合



◇共通事項

補強筋の定着長さ、かぶり厚
定着長さ：開口部端より40D以上
かぶり厚：コンクリート露出面より30mm以上

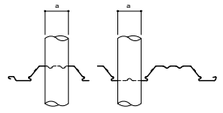


[B]コンクリート打設前にデッキプレートを切断

B-① 開口が１１０mm程度の場合

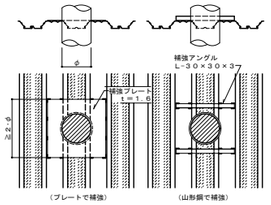
コンクリートの開口補強（D10以上）は行って下さい。

開口部がデッキプレートの上フランジ又は下フランジにあり、ウェブにかからない場合、プレート等での補強は要りません。

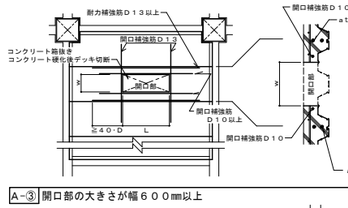


注）a：１１０mm程度

開口部がデッキプレートのウェブにかかる場合



A-② 開口の大きさが幅６００mm以下、奥行き９００mm程度以下の場合



上端耐力補強筋：$at=\frac{M}{ft \cdot j}$

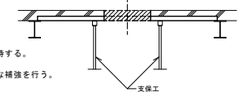
M：開口によって生じる隣接スラブの増加曲げモーメント

下端耐力補強筋：ad又はatの大きい方

耐力補強筋 $at=M/(ft \times j)$ cm²
耐火補強筋 $ad=1.27\times(1+n/2)$ cm²（単純支持）

n：FP060FL-9101、FP120FL-9113の耐火仕様で要求されるD13耐火補強筋が切断された場合の切断された耐火補強筋の本数

B-② 開口の大きさが幅６００mm以下、奥行き９００mm程度の場合

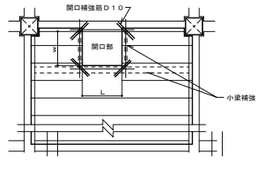


・コンクリート打設部は、支保工を設けてデッキプレートを支持する。
支保工の設置に際しては、支圧の検討を行う。
・コンクリート硬化後の合成スラブの補強は、左図A-②と同様な補強を行う。

A-③ 開口部の大きさが幅６００mm以上

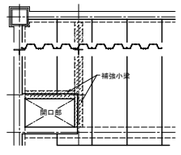
小梁で補強し、開口周辺にはコンクリートの開口補強筋を配して下さい。

開口補強筋D10以上
定着長：40D以上
かぶり厚：開口部端より30mm以上



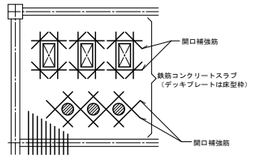
B-③ 大きい開口部の場合（開口幅が６００mm以上）

・補強小梁を設置してデッキプレートを支持する。
・開口部周辺のコンクリートは鉄筋で補強する。（A-③参照）



B-④ 開口部が多数ある場合

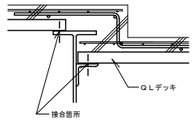
・スラブ構造は合成スラブでなく、デッキプレートを床型枠とした「鉄筋コンクリートスラブ」とする。
・この場合の施工方法は下記のいずれかとする。
1)開口部は箱抜きとし、コンクリートの硬化後にデッキを切断。
2)支保工を用いる。



床スラブに段差がある場合の支持部接合法の参考例

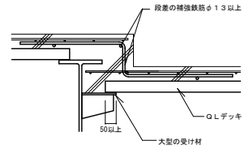
・段差がある場合、梁等の躯体側デッキ支持部において「焼抜き栓溶接」または「頭付きスタッド」の施工が可能かどうかを考慮して下さい。
（下図例の場合、梁ウェブ位置アングル部での施工不可。）

・使用する受け材やステフナーの板厚・支持間隔・溶接方法等については強度面から実際の設計に応じて別途の検討が必要です。

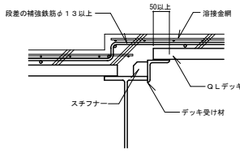


※デッキ受け材については施工時並びに設計時を考慮し、使用コンクリート重量や施工時荷重・設計時積載荷重等から、使用部材並びに納まりの詳細（溶接サイズ等）を検討して下さい。

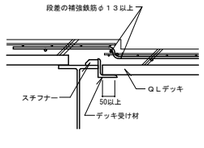
A　受け材を大型にして、梁ウェブに受け材を設ける。



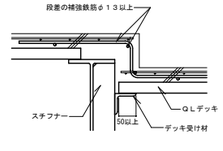
B　床面をかさ上げする場合
小型の受けアングルあるいはZ形鋼を梁フランジ面に溶接する。



C　床面を少し段落させる場合
小型の受けアングルあるいはZ形鋼を梁フランジ面に溶接する。



D　床面をかなり段落させる場合
梁スチフナーに受けアングルを溶接する。



特記事項 訂正事項				承認	設計	担当		縮尺 S=1：1(A1) S=1：1(A3) 設計年月日	工事名称　石和第一保育所建設工事（建築主体）（債務） 図面名称　QLデッキ納まり詳細図(参考)	No. S－19

ベースパックⅡ 型

角形鋼管
F値295N/mm²以下
□-350×350 ～ □-550×550 用

（一財）日本建築センターによる一般評定「BCJ評定-ST0093-19」（令和6年6月21日付）

ベースパック柱脚工法 設計施工標準図

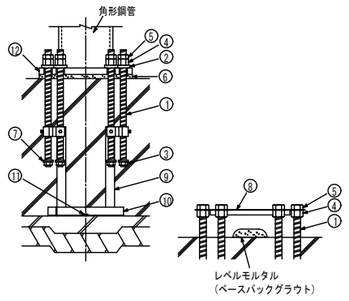
●ベースパック柱脚工法の設計は「ベースパック柱脚工法設計ハンドブック」による。

岡部株式会社 TEL03（3624）5336
旭化成建材株式会社 TEL03（3296）3515

2024年10月作成

1．工法概要

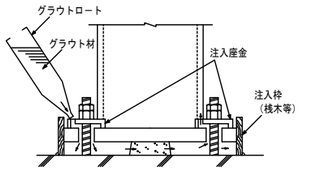
1．1 構成部材



①アンカーボルト
②注入座金
③Mナット
④Dナット
⑤Dナット(S)
⑥ベースパックグラウト(グラウト材)
⑦定着座金
⑧テンプレート
⑨フレームポスト
⑩フレームベース
⑪ステコンアンカー（コンクリートアンカー）
⑫ベースプレート

（注）上記①～⑫の構成部材はベースパック構成部品として供給される。
（注）上記⑧～⑪は現場状況により仕様が異なる場合がある。
（注）アンカーボルト12本の場合はつなぎプレートが取り付く。

1．2 柱脚の定着方法概要



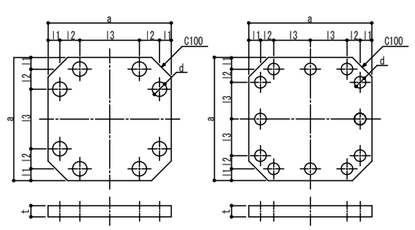
2．柱

F値(N/mm²)	鋼種	採用
235	BCP235	
	STKR400	
295	BCR295	
	JBCR295	
	TSC295	

3．構成部材・寸法

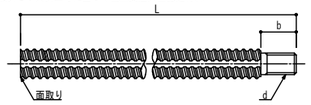
3．1 ベースプレート

●材質
SN490B 【JIS G 3136】
BT-HT440B-SP 【建築基準法第３７条第二号に基づく国土交通大臣認定材料】
（建築構造用高溶接性高性能５９０N/mm² 鋼材）



3．2 アンカーボルト（Dアンカーボルト）

【建築基準法第３７条第二号に基づく国土交通大臣認定材料】

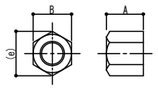


単位 mm

呼び	L	b	端部ねじd	基準強度(N/mm²)
D38	850	46	M33	390
D41	900	49	M36	390
D41H	995	49	M36	490
D51	1110	57	M45	390
D51H	1215	57	M45	490

3．3 Mナット・Dナット

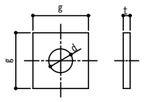
【建築基準法第３７条第二号に基づく国土交通大臣認定材料】



単位 mm

	呼び	A	B	(e)
Mナット	M33	26	50	58
	M36	29	55	64
	M45	36	70	81
Dナット	D38	45	65	75
	D41	48	70	80
	D51	60	80	92
Dナット(S)	D38	30	65	75
	D41	32	70	80
	D51	40	80	92

3．4 定着座金

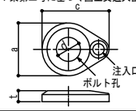


単位 mm

適用アンカーボルト	g	t	d	材質
D38	65	12	37	SS400
D41,D41H	70	12	37	SS490
D51,D51H	85	12	46	

3．5 注入座金

【建築基準法第３７条第二号に基づく国土交通大臣認定材料,SS490】

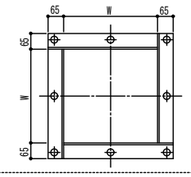


単位 mm

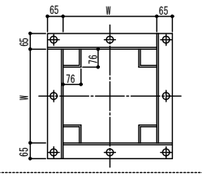
記号	適用アンカーボルト	a	c	t	d
PD38	D38	96	122	20	43
PD41	D41,D41H	100	127	20	46
PD51	D51,D51H	110	140	20	58

3．6 フレームベース

i）Cタイプ



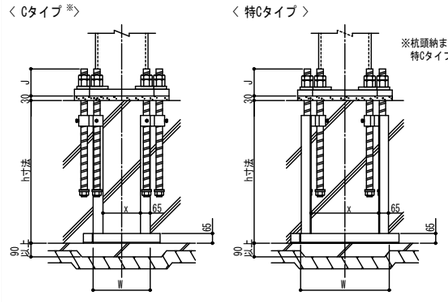
ii）特Cタイプ



3．7 アンカーフレーム形状および据付け時請寸法

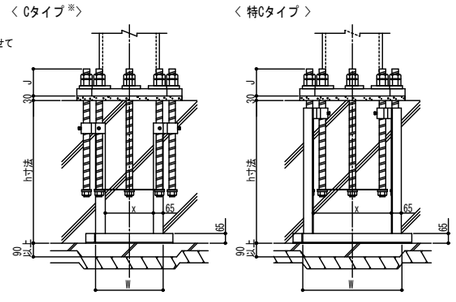
●ベースパックの据付け高さ（h寸法）はフレームベース下端からコンクリート柱型天端までを示す。据付けに最低限必要な高さ（最低h寸法）は下表に記載の値とする。

〈 Cタイプ ※〉 〈 特Cタイプ 〉



（アンカーボルト8本）

〈 Cタイプ ※〉 〈 特Cタイプ 〉



（アンカーボルト12本）

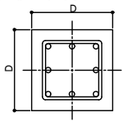
単位 mm

採用	ベースパック記号	柱 外径(mm)	柱 板厚(mm)	ベースプレート 材質	形状	寸法(mm) a	t	l1	l2	l3	d	アンカーボルト 本数-呼び	基準強度(N/mm²)	標準アンカーフレームタイプ	コンクリート柱型 寸法D(mm) 標準フレーム	特C	配筋 立上り筋	フープ筋	設計基準強度(N/mm²)	フレームベース 寸法W(mm) 標準フレーム	特C	フレームポスト間 寸法x(mm) 標準フレーム	特C	最低h寸法(mm)	J寸法(mm)
	35-16R	□-350×350	t≦16	SN490B	(ハ)	630	45	65	85	330	φ70	8-D38	390	C	800	840	12-D25	D13@100	21以上	380	590	250	450	750	180
●	35-19R	□-350×350	t≦19	BT-HT440B-SP	(ハ)	630	44	65	85	330	φ70	8-D38	390	C	800	840	12-D25	D13@100	21以上	380	590	250	450	750	180
	35-22R	□-350×350	t≦22	BT-HT440B-SP	(ハ)	630	44	65	85	330	φ75	8-D41	390	C	800	830	16-D22	D13@100	21以上	380	590	250	450	800	190
	35-25R	□-350×350	t≦25	BT-HT440B-SP	(ニ)	650	48	75	85	165	φ70	12-D38	390	C	850	–	16-D25	D13@100	21以上	380	–	250	–	800	180
	40-16R	□-400×400	t≦16	BT-HT440B-SP	(ハ)	700	44	65	85	400	φ75	8-D41	390	C	870	910	12-D25	D13@100	21以上	450	660	320	520	800	190
●	40-19R	□-400×400	t≦19	BT-HT440B-SP	(ハ)	700	48	65	85	400	φ75	8-D41	390	C	870	900	16-D22	D13@100	21以上	450	660	320	520	800	190
	40-22R	□-400×400	t≦22	BT-HT440B-SP	(ニ)	700	48	65	85	200	φ70	12-D38	390	C	900	910	16-D25	D13@100	21以上	450	660	320	520	800	180
	40-25R	□-400×400	t≦25	BT-HT440B-SP	(ニ)	710	48	70	85	200	φ75	12-D41	390	C	900	910	16-D25	D13@100	21以上	450	660	320	520	800	190
	45-19R	□-450×450	t≦19	BT-HT440B-SP	(ニ)	750	48	65	85	225	φ70	12-D38	390	C	950	960	16-D25	D13@100	21以上	500	710	370	570	800	180
	45-22R	□-450×450	t≦22	BT-HT440B-SP	(ニ)	750	52	65	85	225	φ75	12-D41	390	C	1000	1000	20-D25	D13@100	21以上	500	710	370	570	800	190
	45-25R	□-450×450	t≦25	BT-HT440B-SP	(ニ)	750	52	65	85	225	φ75	12-D41H	490	C	1000	1000	24-D25	D13@100	24以上	500	710	370	570	850	200
	45-28R	□-450×450	t≦28	BT-HT440B-SP	(ニ)	770	60	75	110	200	φ75	12-D51	390	C	1000	–	24-D25	D13@100	24以上	460	–	330	–	950	230
	50-19R	□-500×500	t≦19	BT-HT440B-SP	(ニ)	820	52	65	85	260	φ75	12-D41	390	C	1000	1030	20-D25	D13@100	21以上	570	780	440	640	800	190
	50-22R	□-500×500	t≦22	BT-HT440B-SP	(ニ)	820	60	65	85	260	φ75	12-D41H	490	C	1050	1050	24-D25	D16@100	21以上	570	780	440	640	850	200
	50-25R	□-500×500	t≦25	BT-HT440B-SP	(ニ)	820	60	75	110	225	φ75	12-D51	390	C	1050	1050	24-D25	D16@100	24以上	510	750	380	610	950	230
	50-28R	□-500×500	t≦28	BT-HT440B-SP	(ニ)	820	60	75	110	225	φ75	12-D51H	490	C	1140	–	32-D25	D16@100	24以上	510	–	380	–	1050	235
	55-19R	□-550×550	t≦19	BT-HT440B-SP	(ニ)	840	52	65	85	270	φ75	12-D41H	490	C	1100	1100	24-D25	D16@100	24以上	590	800	460	660	850	200
	55-22R	□-550×550	t≦22	BT-HT440B-SP	(ニ)	900	60	65	85	300	φ75	12-D41H	490	C	1100	1120	24-D25	D16@100	24以上	650	860	520	720	850	200
	55-25R	□-550×550	t≦25	BT-HT440B-SP	(ニ)	900	60	75	110	265	φ75	12-D51	390	C	1100	1100	32-D25	D16@100	24以上	590	830	460	690	950	230
	55-28R	□-550×550	t≦28	BT-HT440B-SP	(ニ)	900	65	75	110	265	φ75	12-D51H	490	C	1150	–	36-D25	D16@100	24以上	590	–	460	–	1050	235

4．コンクリート柱型

4．1 形状・材質

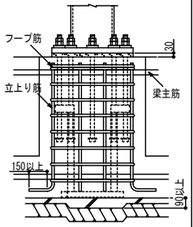
●形状
形状は正方形とし、寸法は下表に記載の値とする。



●コンクリート
普通コンクリートとし、設計基準強度は下表に記載の値とする。
●鉄筋
SD295(D13,D16)
SD345(D22,D25)

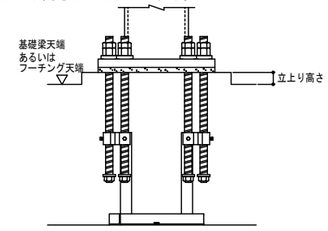
4．2 配筋

配筋仕様は下表による。



4．3 基礎立上がり

●基礎立上がり高さは50mm以下とする。



4．4 特記事項 上記内容によらない場合は下記による。

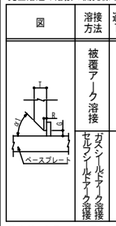
採用
□ 下表標準柱型寸法からの変更あり（「柱型寸法最大・最小値一覧」による）
□ 下表標準配筋仕様からの変更あり
□ 立上り筋に頂部フックが必要

5．工場製作（溶接）

■組立
●ベースプレートの中心線（ｹｶﾞｷ線）に柱材軸心を合わせる。

■溶接方法（完全溶込み溶接）
●完全溶込み溶接とする。(JASS 6 鉄骨工事による)

完全溶込み溶接の開先標準（JASS 6 鉄骨工事 2018年版より）

図	溶接方法	適用板厚T(mm)	ルート間隔G(mm) 標準値	ルート間隔G(mm) 許容差	ルート面R(mm) 標準値	ルート面R(mm) 許容差	開先角度α1(°) 標準値	開先角度α1(°) 許容差	溶接姿勢
	被覆アーク溶接	6～	7	-2,+∞ (-3,+∞)	2	-2,+1 (-2,+2)	α1：45	-2.5,+∞ (-5,+∞)	下向き
			9	-2,+∞ (-3,+∞)	2	-2,+1 (-2,+2)	α1：35		
	ガスシールドアーク溶接 セルフシールドアーク溶接	6～	6	-2,+∞ (-3,+∞)	2	-2,+1 (-2,+2)	α1：45	-2.5,+∞ (-5,+∞)	下向き
			7	-2,+∞ (-3,+∞)	2	-2,+1 (-2,+2)	α1：35		

許容差・記号+∞は制限無しを示す。
・2段書きは「鉄骨精度検査基準」に規定する許容差（上段：管理許容差、下段括弧内：限界許容差）を示す。

■ベースプレートの予熱
●気温（鋼材表面温度）が5°C以上でのベースプレートの予熱は次に示す予熱温度標準により行う。その他必要に応じて適切な予熱をする。

溶接方法	鋼種	板厚(mm) 40≦t≦50	板厚(mm) 50<t≦75
低水素系被覆アーク溶接	SN490B	50 ℃	
	BT-HT440B-SP	予熱なし	予熱なし
CO₂ガスシールドアーク溶接	SN490B	予熱なし	
	BT-HT440B-SP	予熱なし	予熱なし

※フラックス入りワイヤによるCO₂ガスシールドアーク溶接の予熱温度は、低水素系被覆アーク溶接に準じる。

■検査方法：溶接部の検査は超音波探傷検査により行う。
■施工管理：７．本工法の施工及び施工管理参照。

6．工事場施工

6．1 基礎工事

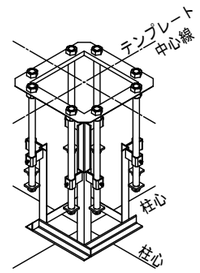
●柱脚部の捨コンの厚さは90mm以上とし、表面は平滑に仕上げる。

6．2 アンカーボルト据付け

●アンカーボルト（フレーム）の組立ては、4隅のアンカーボルト4本(8本)で組立てを行う。

●フレームベースはステコンアンカーにより水平に固定する。

●位置決めは、テンプレートの中心線と地墨等の柱心を合致させることにより行い、標準許容差は下図による。



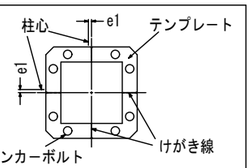


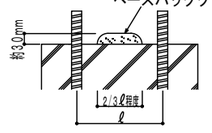
図	e1：柱心とテンプレートのけがき線との許容差
標準許容差	-2≦e1≦2 基準高さより誤差は -3≦e≦10

6．3 配筋およびコンクリート打設

●配筋はアンカーボルト（フレーム）との取り合いを考慮する。
●コンクリート打設前にテンプレート位置精度を確認する。

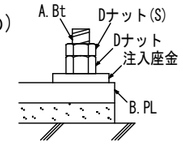
6．4 建方

●レベルモルタルはベースパックグラウト（グラウト材）を使用し大きさは右図による。



6．5 アンカーボルトの本締め（弛み止め）

●本締めはグラウト材の充填前に行い、ダブルナットを標準とする。
●Dナット(S)による弛み止めは右図による。



6．6 ベースパックグラウト(グラウト材)の注入

●グラウト材のカクハンは、グラウト材１袋(6kg)に対して、計量カップで1.0～1.1ℓの水を加え、電動カクハン機で混練することにより行う。
●グラウト材の注入は、グラウトロートを注入座金にセットし、グラウト材の自重圧により他の注入座金からグラウト材が噴き出るまで行う。

7．本工法の施工及び施工管理

●本工法は、管理者又は施工者（元請）の管理のもとで実施するものとする。
●本工法のうち６．２アンカーボルト据付け及び６．６ベースパックグラウトの注入は、ベースパック・セレクトベース施工技術委員会によって認定された有資格者（ベースパック施工管理技術者・施工技能者）が施工を実施し、チェックシート等により施工管理を行うものとする。
●ベースプレート溶接部の施工管理は、鉄骨製作業者に属する鉄骨製作管理技術者等による。

特記事項
訂正事項

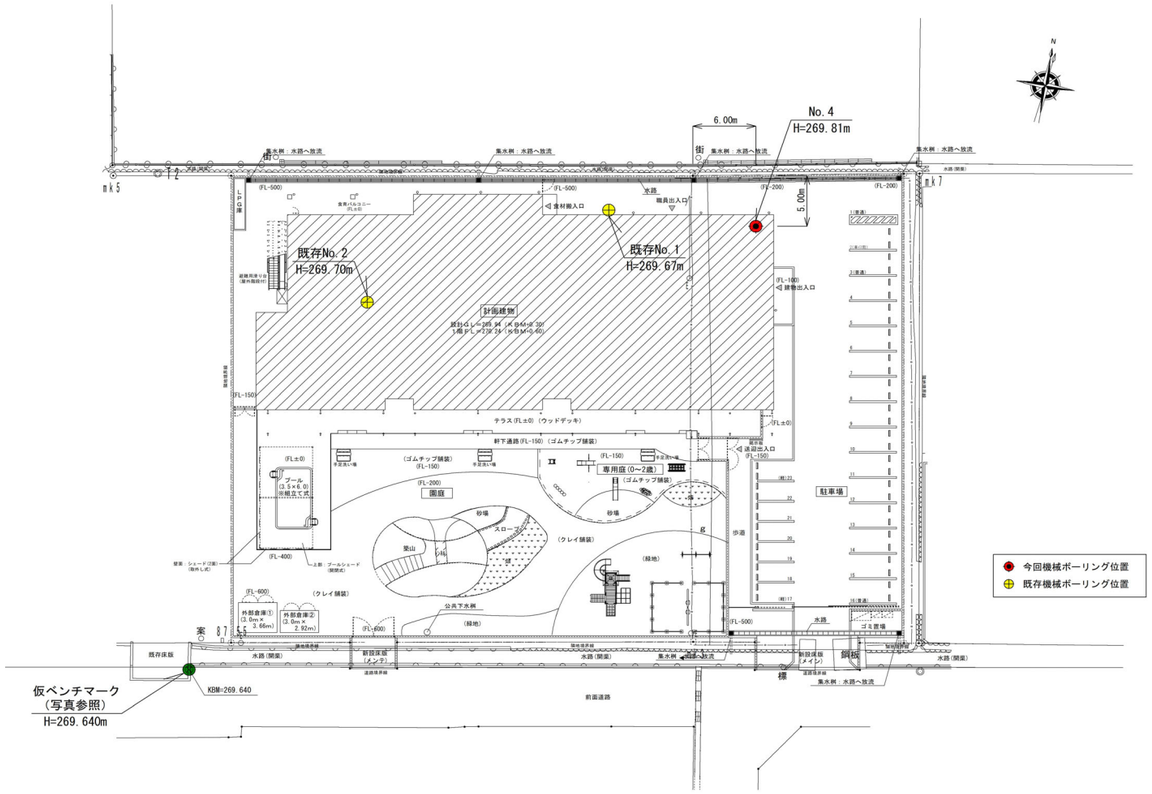
承認	設計	担当

尺 R　S=1：1(A1)　S=1：1(A3)
設計年月日

工事名称　石和第一保育所建設工事（建築主体）（債務）
図面名称　ベースパック柱脚工法　設計施工標準図

No. S－20

地盤調査位置図

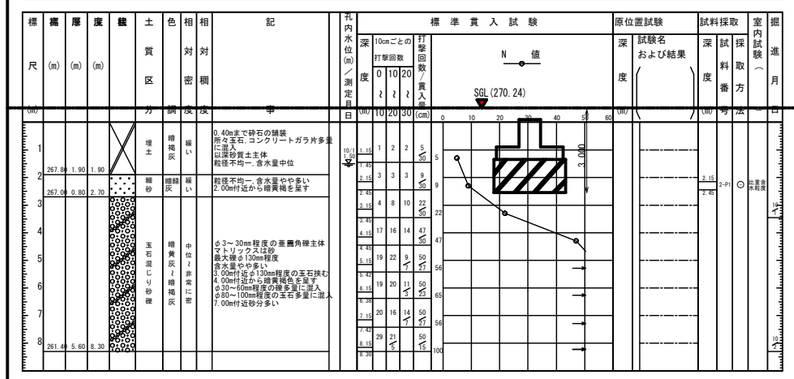


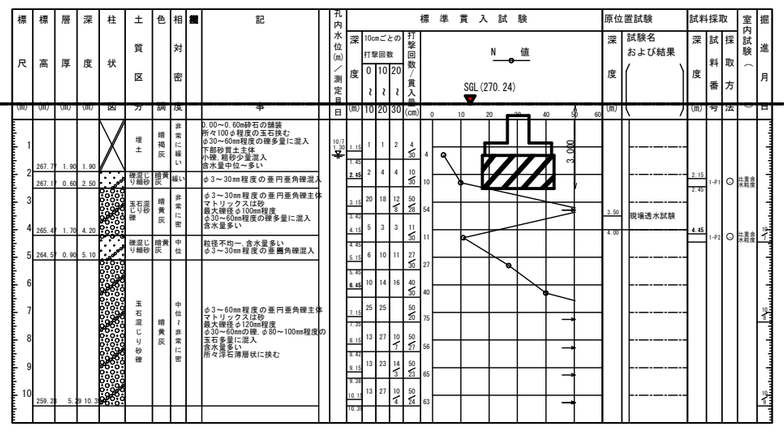
ボーリング名	No. 2	調査位置	笛吹市石和町八田178番地		北緯	35° 39′ 10.93″
発注機関	笛吹市　子供すこやか部　保育課	調査期間	令和 6年 10月 1日 ～ 6年 10月 2日		東経	138° 38′ 21.12″
調査業者名	光貴基礎コンサルタント株式会社 電話 (03-3577-8251)	主任技師	山田　泰祐	現場代理人	大山　斉	責任者 山田　泰祐	責任厄ノウ	五十嵐　健
孔口標高	H= 269.70m	角度	上 90° 下 0°	方向	北 0° 西 270° 東 90° 南 180°	地盤勾配	鉛直 水平 0° 90°	使用機種	試錐機	DO-C	ハンマー落下用具	半自動落下
総掘進長	8.30m								エンジン	TF90V-E	ポンプ	V6-B

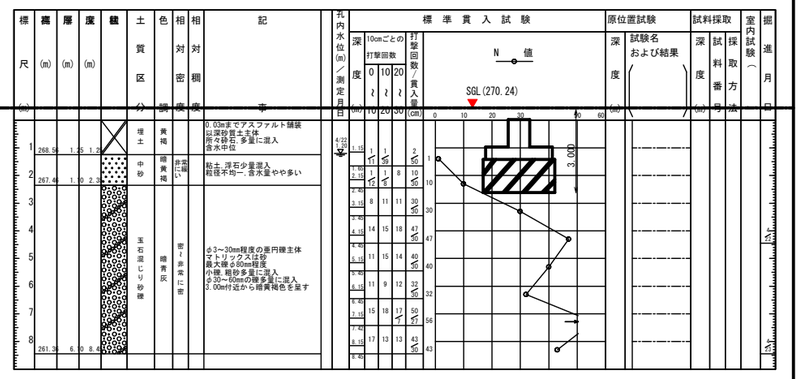
ボーリング名	No. 1	調査位置	笛吹市石和町八田178番地		北緯	35° 39′ 11.47″
発注機関	笛吹市　子供すこやか部　保育課	調査期間	令和 6年 10月 7日 ～ 6年 10月 9日		東経	138° 39′ 22.22″
調査業者名	光貴基礎コンサルタント株式会社 電話 (03-3577-8251)	主任技師	山田　泰祐	現場代理人	大山　斉	責任者 山田　泰祐	責任厄ノウ	五十嵐　健
孔口標高	H= 269.67m	角度	上 90° 下 0°	方向	北 0° 西 270° 東 90° 南 180°	地盤勾配	鉛直 水平 0° 90°	使用機種	試錐機	DO-C	ハンマー落下用具	半自動落下
総掘進長	10.39m								エンジン	TF90V-E	ポンプ	V6-B

シートNo

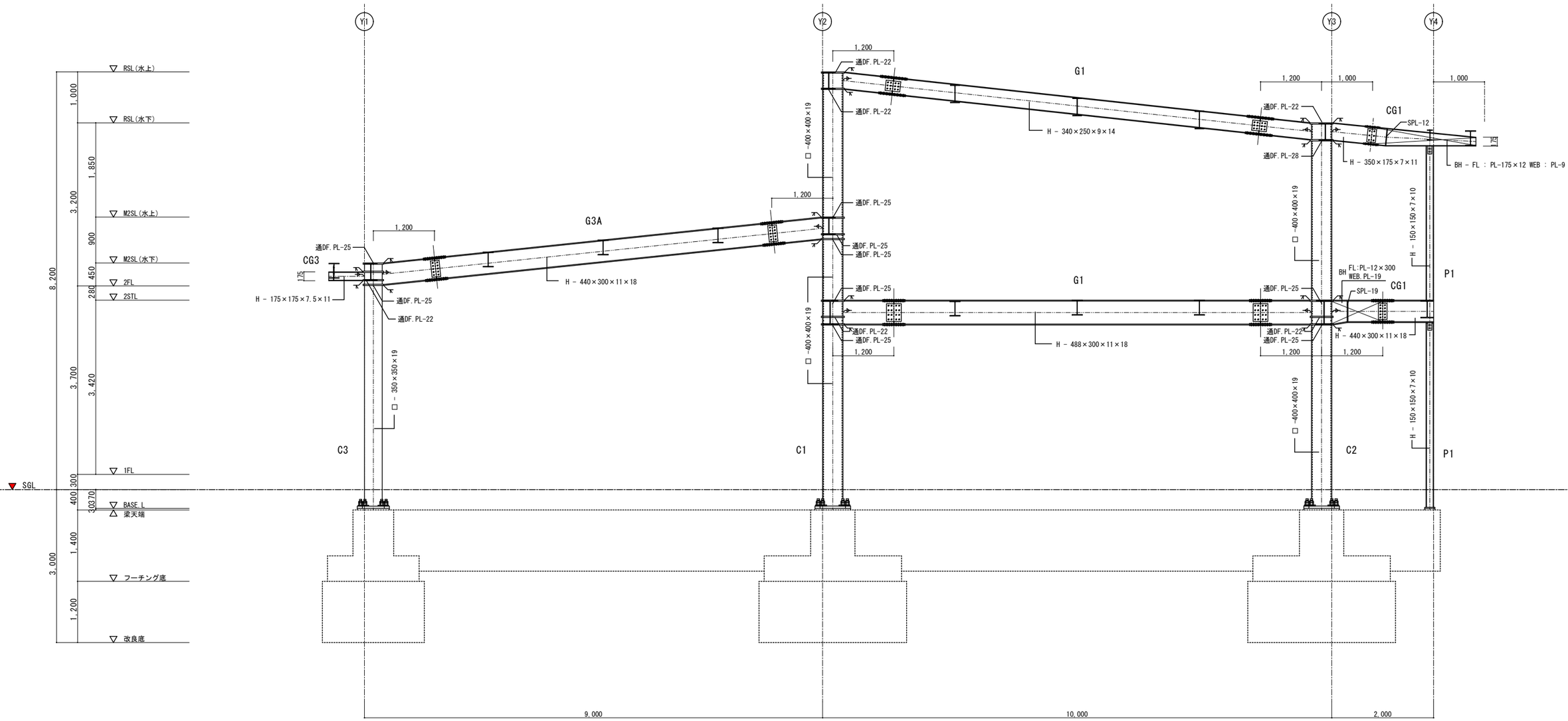
ボーリング名	No. 4	調査位置	笛吹市石和町八田地内		北緯	35° 39′ 11.52″
発注機関	笛吹市　子供すこやか部　保育課	調査期間	令和 7年 4月 22日 ～ 7年 4月 23日		東経	138° 38′ 22.47″
調査業者名	光貴基礎コンサルタント株式会社 電話 (03-3577-8251)	主任技師	山田　泰祐	現場代理人	大山　斉	責任者 山田　泰祐	責任厄ノウ	五十嵐　健
孔口標高	H= 269.81m	角度	上 90° 下 0°	方向	北 0° 西 270° 東 90° 南 180°	地盤勾配	鉛直 水平 0° 90°	使用機種	試錐機	DO-C	ハンマー落下用具	半自動落下
総掘進長	8.45m								エンジン	TF90V-E	ポンプ	V6-B







特記事項 訂正事項			承認	設計	担当	縮尺 A1 S=1：1(A1) S=1：1(A3)	工事名称	石和第一保育所建設工事（建築主体）（債務）	No.
						設計年月日	図面名称	地盤調査図	S －21



X6通 鉄骨詳細図 S=1/40

特記事項 訂正事項					承認	設計	担当		縮尺 S=1:40(A1) S=1:80(A3) 設計年月日	工事名称 石和第一保育所建設工事（建築主体）（債務） 図面名称 X6通 鉄骨詳細図	No. S－22

日鉄建材株式会社

(財)ベターリビング評定　CBL SS008-19(令和7年3月31日付)

角形鋼管柱･H形鋼はり接合工法 NDコア設計･施工標準仕様書【基本仕様編】

･本仕様書は別紙「NDコア設計･施工標準仕様書【柱･はり組合せ編】」と合わせて使用すること。
･本仕様書に記載の無い事項は、「NDコアカタログ」の他、日本建築学会「建築工事標準書･同解説　JASS6鉄骨工事」(一財)日本建築センター「2018年版冷間成形角形鋼管設計･施工マニュアル」および関連規基準に従うこと。

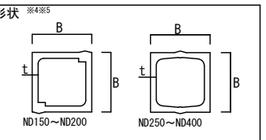
1.NDコア仕様

部材記号	長さ(mm)	設計記号 ※1	数量(個)	斜め切断(勾配)
□ND150　□ND175　□ND200　□ND250　□ND300　□ND350　□ND400				□斜め切断　(　　)度,寸
□ND150　□ND175　□ND200　□ND250　□ND300　□ND350　□ND400				□斜め切断　(　　)度,寸
□ND150　□ND175　□ND200　□ND250　□ND300　□ND350　□ND400				□斜め切断　(　　)度,寸
□ND150　□ND175　□ND200　□ND250　□ND300　□ND350　□ND400				□斜め切断　(　　)度,寸
□ND150　□ND175　□ND200　□ND250　□ND300　□ND350　□ND400				□斜め切断　(　　)度,寸
□ND150　□ND175　□ND200　□ND250　□ND300　□ND350　□ND400				□斜め切断　(　　)度,寸
□ND150　□ND175　□ND200　□ND250　□ND300　□ND350　□ND400				□斜め切断　(　　)度,寸
□ND150　□ND175　□ND200　□ND250　□ND300　□ND350　□ND400				□斜め切断　(　　)度,寸

※1　設計記号は、部材記号-長さ(mm)で記入する。　(例)ND300-600､ND200-550

(1)NDコアの形状寸法および重量

部材記号	外径B ※2 (mm)	外径B ※2 公差	板厚t (mm)	単位質量 (kg/m)	長さ範囲 ※3 (mm)		材質	断面形状 ※4※5
ND150	152	+2.0 -2.0	16.5	69.8	150～	+3.0 -0	SN490B-ND ※6	
ND175	177		17.0	85.1				
ND200	202		22.0	124				
ND250	252		24.0	184				
ND300	302		29.0	265				
ND350	352		33.8	360				
ND400	402		38.6	470				



※2　コラムとの食い違い防止のため､NDコアの外径Bを基準寸法としている。
※3　NDコアの長さは1.0mmピッチで対応。
※4　NDコア側面には溶接ビードの盛り上がりがあるため､はり取付時はグラインダで仕上げをするかもしくははりウェブを切り欠くなど適切に処置すること
※5　NDコアの角部に突起が生じてはりと干渉する場合､はり取付時にグラインダで仕上げをするなど適切に処置すること。
※6　SN490B-ND 日本産業規格JIS G 3136(建築構造用圧延鋼材)2012の9形状､寸法､質量およびその許容差には 適合していないが､当該JISに
示されるSN490Bの4化学成分､6炭素当量及び溶接割れ感受性組成､7機械的性質 10外観､11試験､12検査､13再検査の各規定に適合している。
※7　NDコアの表面に錆が発生していることがあります。はりとの溶接時に支障となる錆は除去して下さい。

(2)適用する柱およびはり材

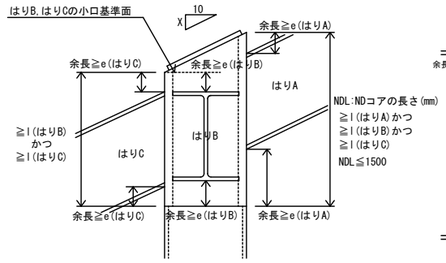
a)適用する柱材の材質および規格
･建築構造用冷間成形角形鋼管　BCR295
･一般構造用角形鋼管(JIS G 3466) STKR400

b)適用するはり材の材質および規格:下記規格のH形鋼
･建築構造用圧延鋼材(JIS G 3136) SN400B,C
･一般構造用圧延鋼材(JIS G 3101) SS400
･溶接構造用圧延鋼材(JIS G 3106) SM400A,B

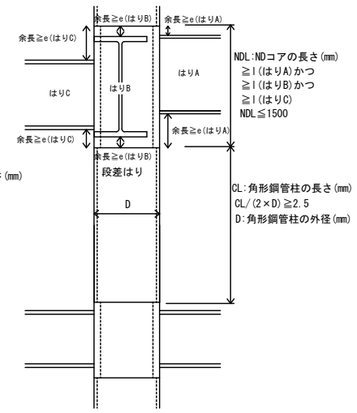
2.NDコア仕様の決め方

(1)NDコア長さLの設定方法と注意点

a)NDコアの長さLは、取付く各はり(最大で4方向)全てに対して、最小余長eを確保し、かつ最小長さl以上となるようにする。
　最小余長e､最小長さlは柱はりの組合わせで決まっている寸法であり「設計・施工標準仕様書【柱はり組合せ編】」を参照する。
b)はりに傾斜がある場合には、はり取り付き部の長さの増加を加えてNDコア長さを設定すること。
c)柱頭部上部を斜め切断仕様とする場合は、それぞれの接合面に対応する小口において、最小余長e､最小長さlを確保する。
　小口が傾斜している面では、低い位置を基準として最小余長e､最小長さlを確保する。
d)柱頭部の斜め切断の勾配は45°(10寸勾配)以下とする。(斜め切断は一方向のみとし、部分切断は不可)
e)NDコアは厚肉鋼管のため角形鋼管柱より剛性が大きい特徴があります。層に占めるNDコア全長の割合が大きい場合､曲げとせん断力の比率に応じ､柱の変形性能が変わります。そのため評定CBLSS08-19の適用範囲において柱せん断スパン比は2.5以上､NDコアの長さは1500mm以下となっております。

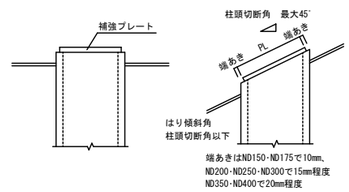


傾斜はり･斜め切断



(2)柱頭部仕様

a)柱頭部では､NDコア小口面に下表に示す補強プレートを取り付けること。
b)柱頭部を斜め切断する場合は、片流れの切断とし、切断角度は45°以下とする。
　(斜め切断は一方向のみとし、部分切断は不可)
c)どぶ付けめっきのため補強プレートに開口を設ける場合は、断面欠損を考慮し、板厚を割増すことが望ましい。

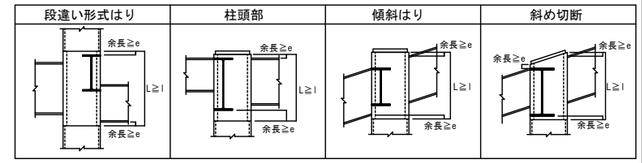


補強プレート仕様

NDコア部材記号	斜め切断無し 寸法(mm)	斜め切断無し 板厚(mm)	斜め切断有り 寸法(mm)	斜め切断有り 板厚(mm)
ND150	130×130	≧6	130×PL	≧6
ND175	155×155		155×PL	
ND200	170×170	≧9	170×PL	≧9
ND250	220×220		220×PL	
ND300	270×270	≧12	270×PL	≧12
ND350	310×310		310×PL	
ND400	360×360	≧16	360×PL	≧16

材質:SN400A,B,C､SS400､SM400A,B,C

【NDコア長さLの採り方例】



3.鉄骨躯体の設計方法

a)NDコアは柱･はり組合せ表の範囲において柱､はりに対して､許容応力度設計､保有耐力接合条件を満足しており、あらためて接合部の検討は不要である(【柱はり組合せ編】参照)。
b)NDコアを用いた柱はり接合部では､通しダイアフラム形式の架構と同様に節点を剛とし､柱およびはりを線材置換して､鉄骨フレームの設計を行うことができる。
c)NDコアを用いた柱およびはり等の鉄骨フレームの設計については､下記の規基準等によるものとし､通常の設計フローに従って､部材の設計､架構解析､耐力の確認等を行う。ただし､ルート3を用いて設計をする場合､NDコアは適用範囲においてパネル崩壊とならないため､柱はり耐力比から崩壊形を判定して保有耐力の検討を行う。
　･平成20年5月23日施行改正建築基準法
　･平成19年国土交通省告示第593号､第594号､第595号､第596号
　･(一財)日本建築センター「2020年版建築物の構造関係技術基準解説書」
　･同「2018年版冷間成形角形鋼管設計･施工マニュアル」

ルート1-1	通しダイアフラム形式のBCR295と同様にフレーム設計が可能。
ルート1-2	
ルート2	
ルート3	通しダイアフラム形式のBCR295と同様にフレーム設計が可能。 ただし､NDコア使用部においてパネル崩壊が生じないため､柱･はり耐力から崩壊形を判定して、フレーム設計を行う。 崩壊形の判定に影響しない､柱頭部については、特別な検討は不要である。

4.NDコア鉄骨製作要領

(1)鉄骨製作方法

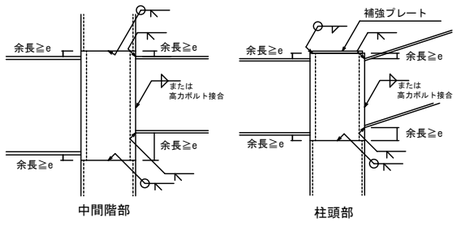
a)NDコアと柱およびはりとの接合は鉄骨製作業者が行い､施工管理は鉄骨製作業者に属する鉄骨製作管理技術者が行う。鉄骨製作に関し特に確認すべき事項については「NDコア鉄骨加工要領書」に示す。
b)記載なき事項については､(一社)日本建築学会「建築工事標準仕様書･同解説　JASS6鉄骨工事」､同「鉄骨工事技術指針」､および(一財)日本建築センター「2018年版冷間成形角形鋼管設計･施工マニュアル」による。

(2)接合方法

a)NDコアと柱およびはりフランジとの接合は完全溶け込み溶接とし､NDコアとはりウェブとの接合は隅肉溶接または高力ボルト接合とする。
b)NDコアとはりの接合はNDコア小口面から余長e以上を確保して接合する。余長eは別紙「柱はり対応表」にて特記の無い限りは25mmとする。
c)NDコアは､NDコア小口面から余長eを除いた全ての部分ではりの取り付けが可能だが､はり外面合せの場合、NDコアの角部分と裏当て金に隙間が生じたときは､隙間を溶接で埋めて本溶接を行う等適切に処置する。
d)NDコアとはりとの接合の際､NDコア製作時の溶接余盛とはりが接触する場合は､グラインダで平滑に仕上る等適切に処置する。

(3)柱頭部補強プレート取り付け方法

a)柱頭部は､NDコア小口面に右表に示す仕様の補強プレートを全周隅肉溶接により取り付ける。
b)全周隅肉溶接は右表に示す溶接サイズで､490N級の溶接ワイヤを用いて行う。
c)柱頭部を斜め切断すると､NDコア小口面の長さが増加するため､右図を参考に､実状に合わせて補強プレートを準備する。



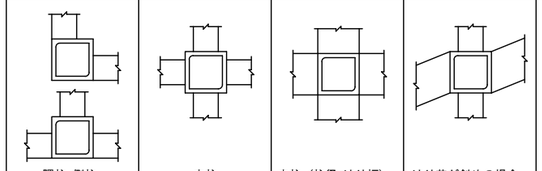
補強プレート取り付け仕様

NDコア部材記号	斜め切断無し 寸法(mm)	斜め切断無し 板厚※(mm)	斜め切断有り 寸法(mm)	斜め切断有り 板厚※(mm)	隅肉溶接仕様 溶接サイズ(mm)
ND150	130×130	≧6	130×PL	≧6	≧6
ND175	155×155		155×PL		
ND200	170×170	≧9	170×PL	≧9	≧9
ND250	220×220		220×PL		
ND300	270×270	≧12	270×PL	≧12	≧12
ND350	310×310		310×PL		
ND400	360×360	≧16	360×PL	≧16	≧16

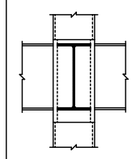
材質:SN400A,B,C､SS400､SM400A,B,C
※　角落ち防止のため､板厚は1サイズアップを推奨する。

5.NDコア納まり例

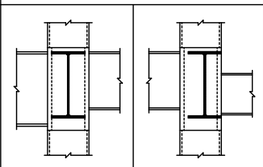
(1)はり取り付け位置



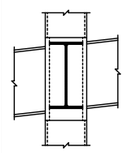
(2)一般部



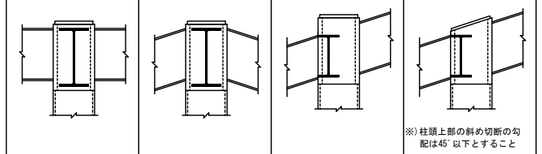
(3)段違い形式はり



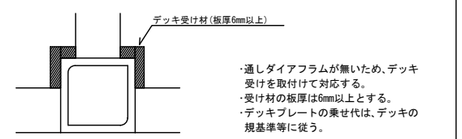
(4)スロープ



(5)柱頭部

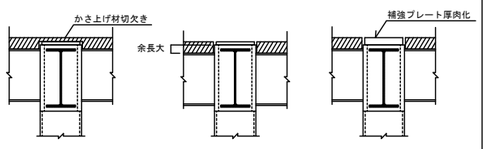


(6)デッキプレート納まり

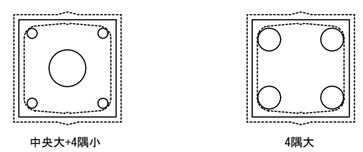


･通しダイアフラムが無いため､デッキ受けを取付けて対応する。
･受け材の板厚は6mm以上とする。
･デッキプレートの乗せ代は、デッキの規基準等に従う。

(7)NDコアと屋根用かさ上げ材の納まり



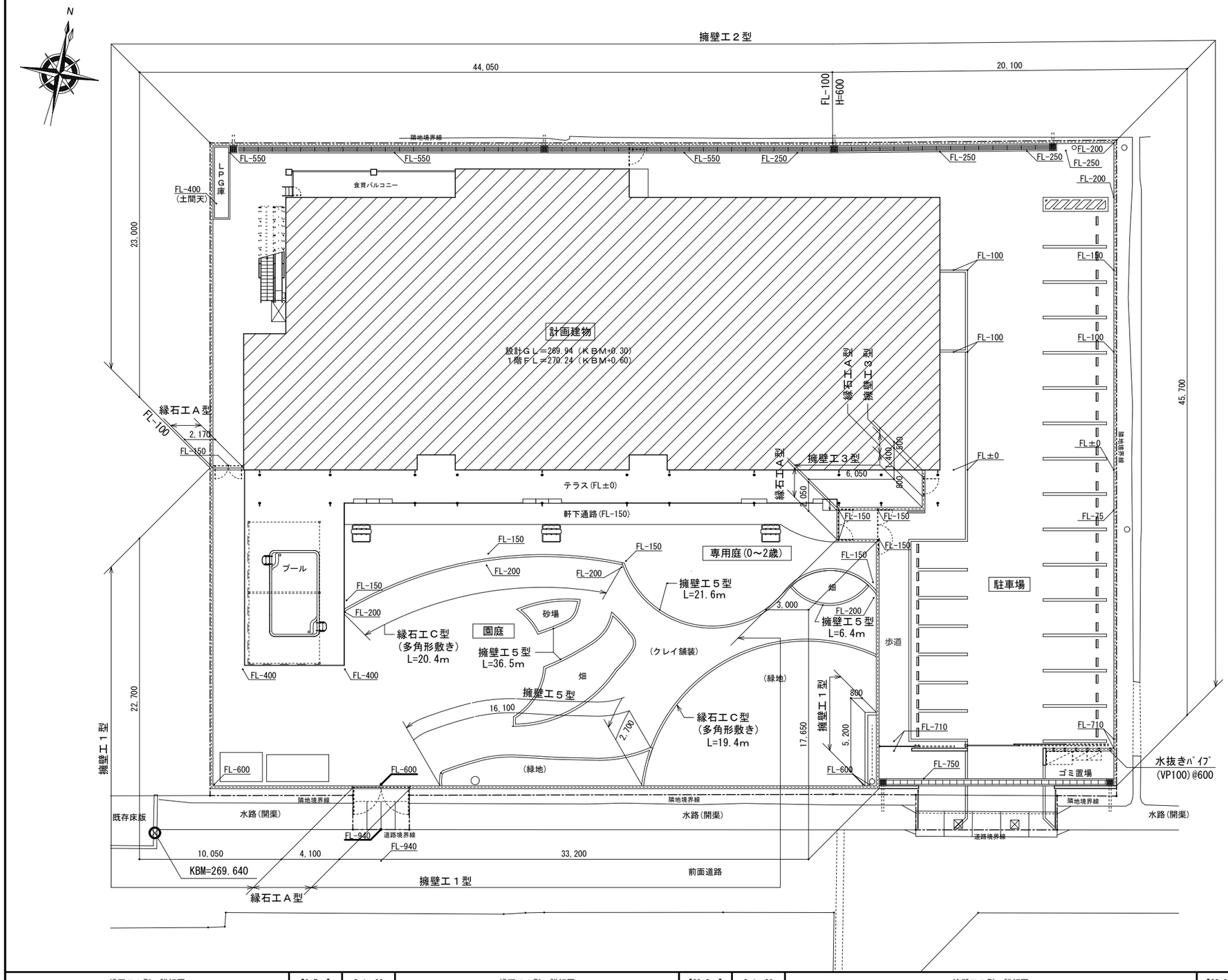
(8)補強プレートどぶ付けめっき用開口



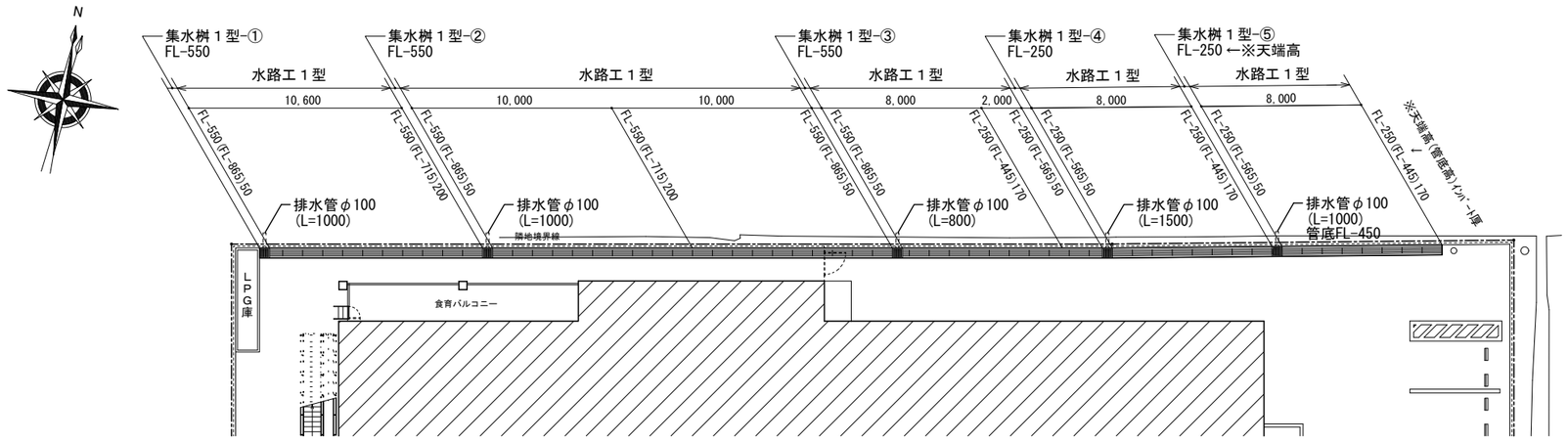
※開口位置･大きさについては、どぶ付けめっきメーカーと相談して決めることが望ましい。
※開口を設ける場合は、断面欠損を考慮し、板厚を割増すことが望ましい。

2025.04

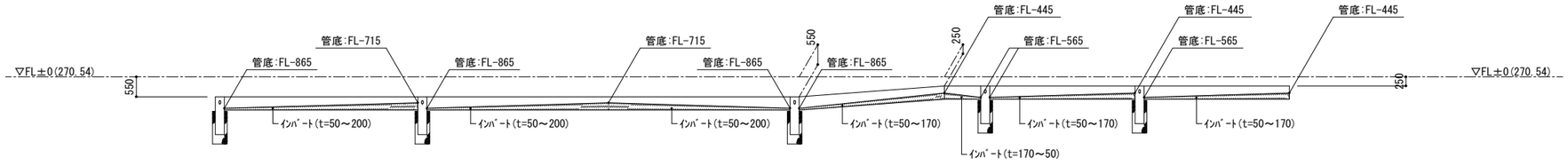
特記事項 訂正事項	承認	設計	担当	縮尺	工事名称	No.
				S=1:1(A1) S=1:1(A3) 設計年月日	石和第一保育所建設工事（建築主体）（債務）	S－23
					図面名称 角形鋼管柱･H形鋼はり接合工法 NDコア設計･施工標準仕様書	


N
擁壁工２型
44,050
20,100
FL-100
H=600
隣地境界線
FL-550
FL-550
FL-550
FL-250
FL-250
FL-250
FL-200
FL-250
FL-200
FL-400
（土間天）
LPG庫
23,000
食育バルコニー
計画建物
設計GL＝269.94（KBM+0.30）
1階FL＝270.24（KBM+0.60）
FL-100
FL-100
FL-100
FL-100
FL-150
FL-150
FL-150

水路工　平面計画図　S=1：150



水路工　展開図　S(X)=1：150　S(Y)=1：75

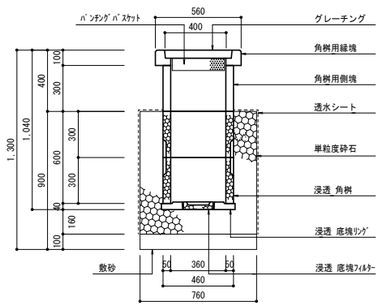


水路工１型　詳細図　【56.6m】　S=1：20

10.0m当り

名　称	規　格	数 量
本　体	360×360×600 C種	16.70 本
均しｺﾝｸﾘｰﾄ	18-8-25	0.09 m3
型　枠		1.60 m2
ｲﾝﾊﾞｰﾄ	18-8-25	0.36 m3
基礎砕石	C-40～0	0.46 m3
ｸﾞﾚｰﾁﾝｸﾞ	鋳鉄製U字溝用 360用 T-2 L=1.00m	10.00 枚
掘　削		6.41 m3
埋戻し		3.63 m3
残　土		2.78 m3

集水桝１型（浸透桝）　詳細図　【5か所】　S=1：20

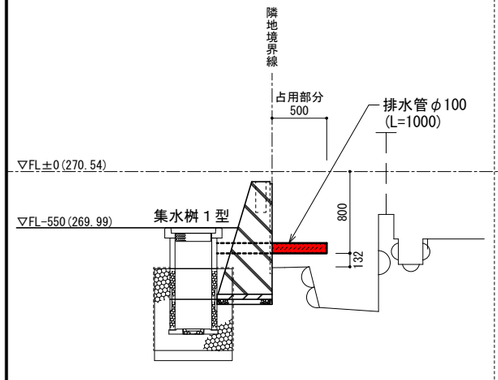


1基当り

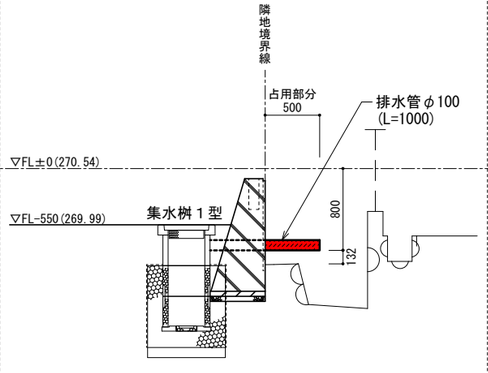
名　称	規　格	数 量
本　体	浸透ポラコン 角桝 360×360×900	1.00 基
ｸﾞﾚｰﾁﾝｸﾞ蓋	360用	1.00 枚
敷　砂		0.06 m3
砕　石	C-40～0	0.38 m3
透水シート	#300	3.10 m2
掘　削		1.50 m3
埋戻し		1.04 m3
残　土		0.46 m3

集水桝（排水管放流先）廻り　詳細図　S=1：30

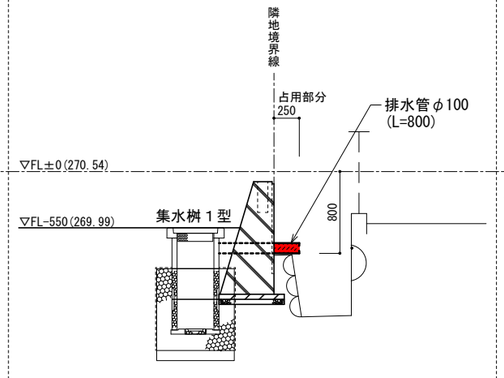
集水桝１型-①



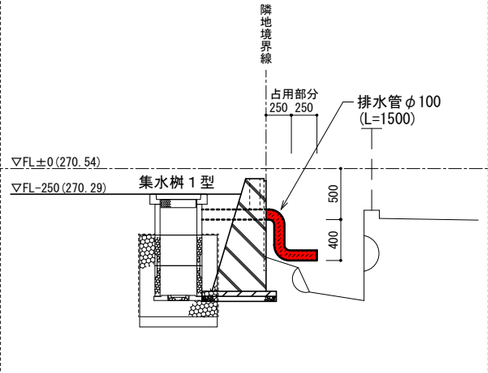
集水桝１型-②



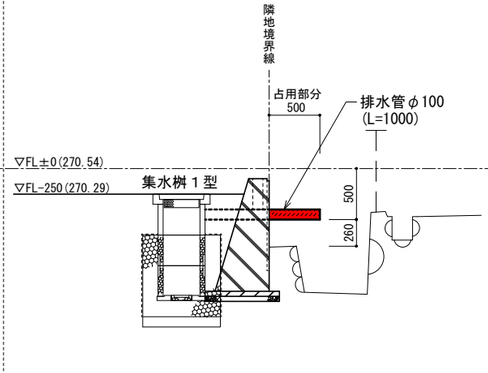
集水桝１型-③



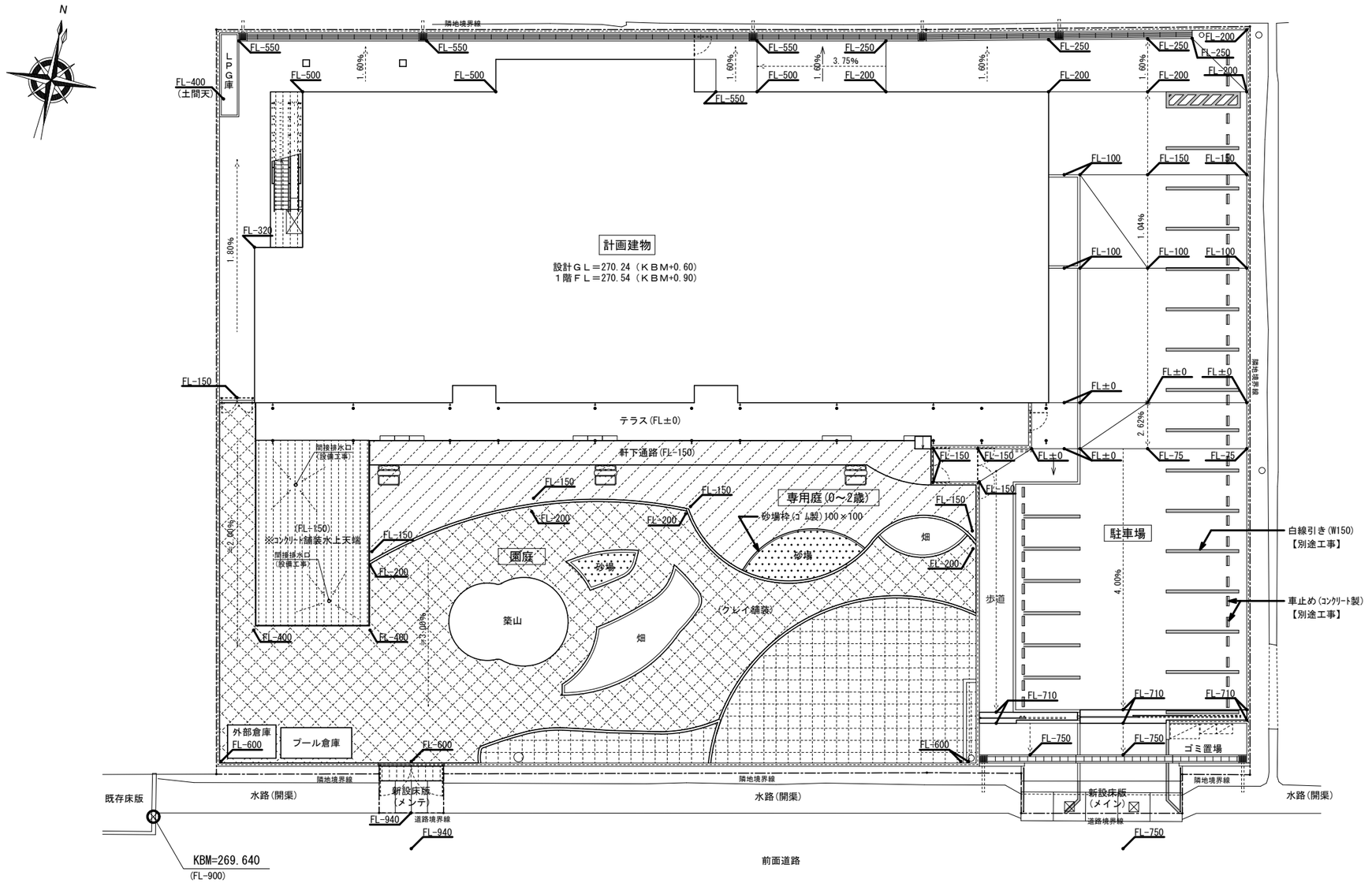
集水桝１型-④



集水桝１型-⑤

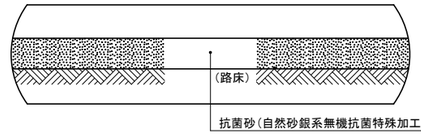


特記事項 訂正事項		承認	設計	担当		縮尺 S=1：20,150 (A1) S=1：40,300 (A3) 設計年月日	工事名称	石和第一保育所建設工事（建築主体）（債務）	No.
							図面名称	水路工　詳細図	F －02

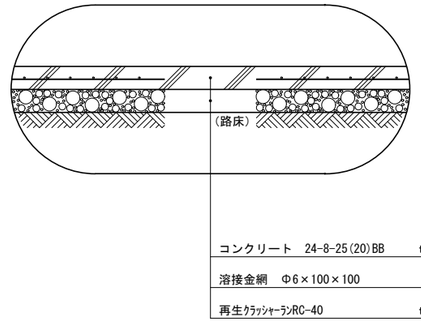


砂場　抗菌砂　20.8㎡

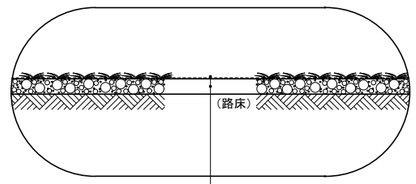
※21.3㎥/面積×0.2m/厚み×1.6g/比重×0.02/割増率＝0.13632t⇒【140kg】



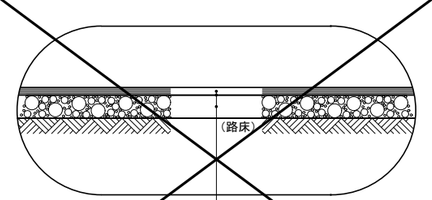
コンクリート舗装　104.0㎡



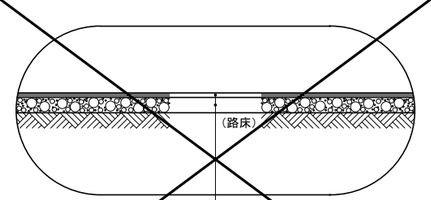
芝張り工(ｵｰｶﾞｽﾁﾝ)　165.0㎡



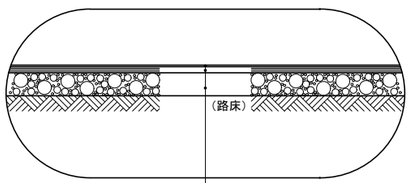
アスファルト舗装　713.0㎡



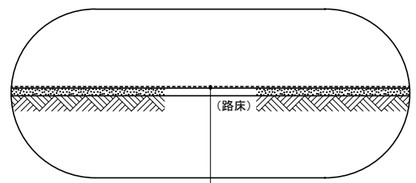
カラーアスファルト舗装（浸透性）　85.8㎡



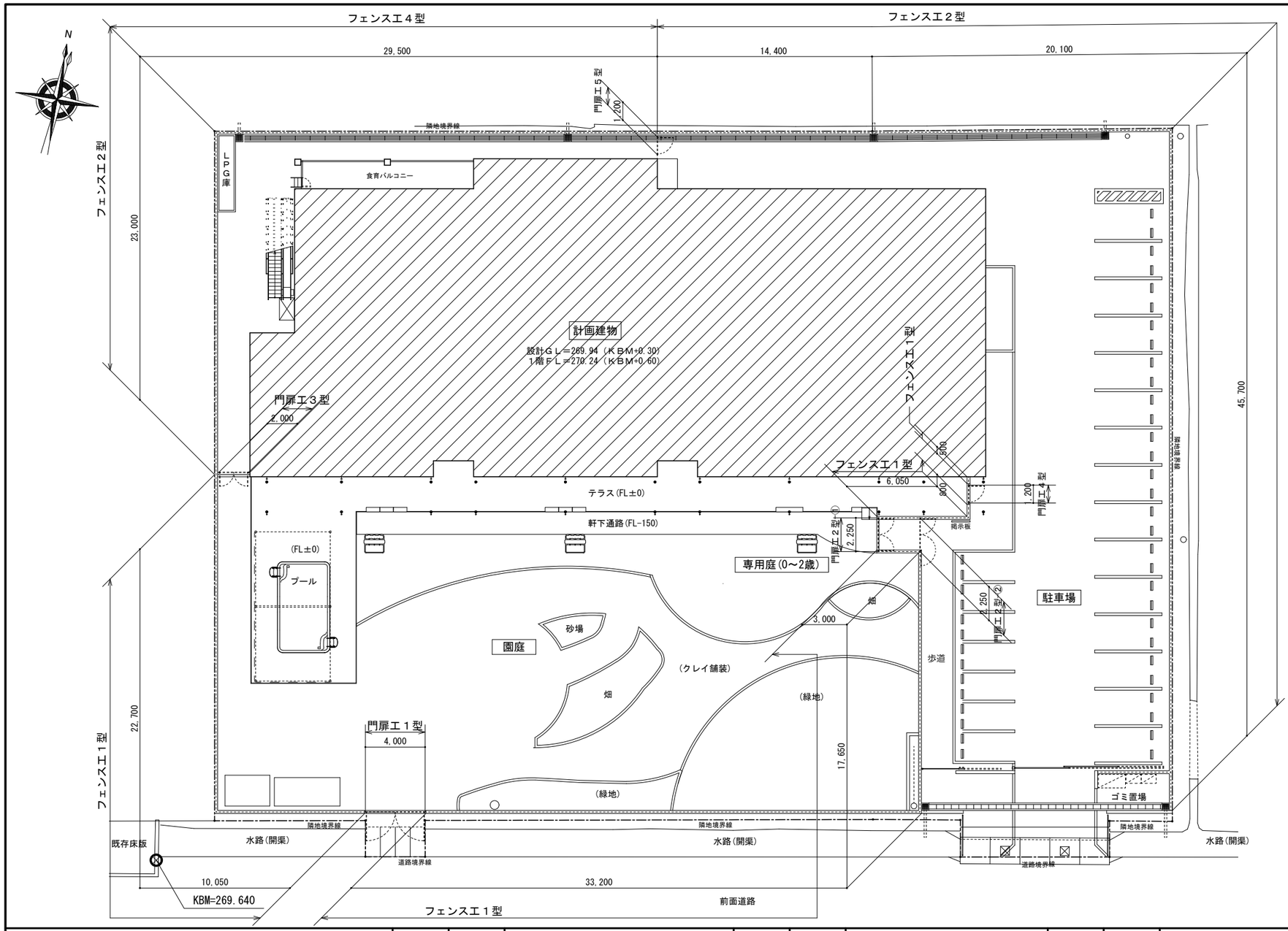
ゴムチップ舗装（浸透性）　187.0㎡



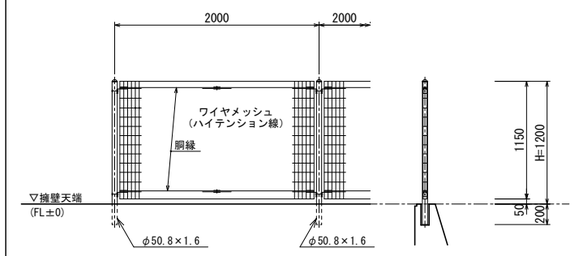
クレイ舗装　380.0㎡



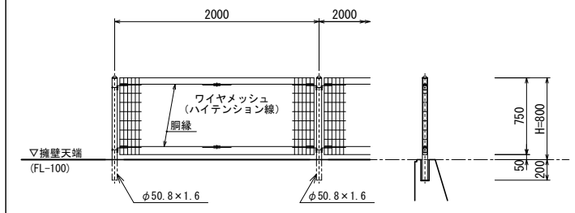
特記事項 訂正事項	承認	設計	担当	縮尺 S=1：20,150(A1) S=1：40,300(A3) 設計年月日	工事名称	石和第一保育所建設工事（建築主体）（債務）	No.
					図面名称	舗装工　詳細図	F −03



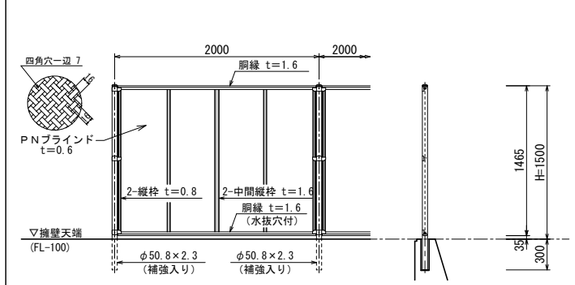
フェンスエ１型　詳細図　【86.6m】　S=1：30



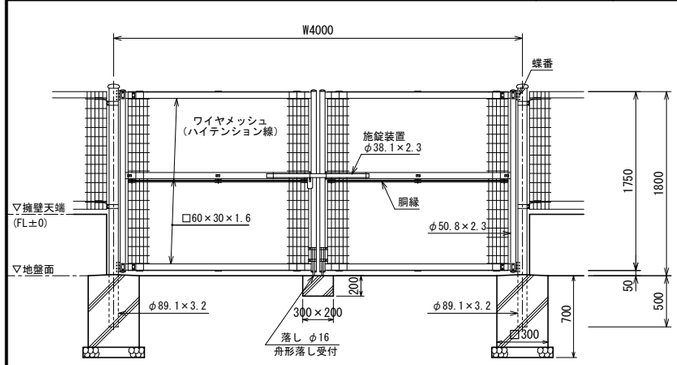
フェンスエ２型　詳細図　【103m】　S=1：30



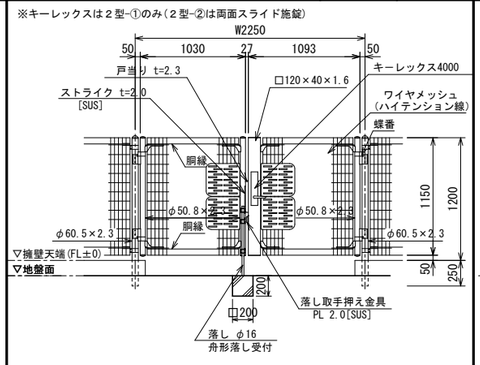
フェンスエ４型(目隠し)　詳細図　【29.5m】　S=1：30



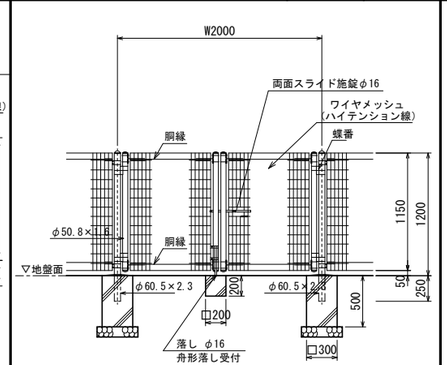
門扉エ１型　詳細図　【1.0箇所】　S=1：30



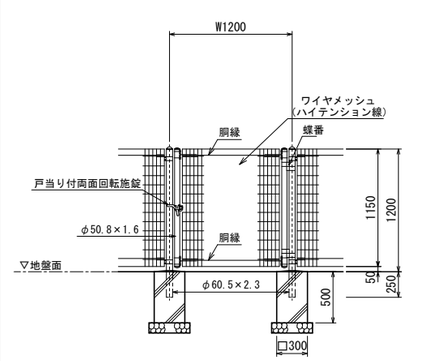
門扉エ２型　詳細図　【2.0箇所】　S=1：30



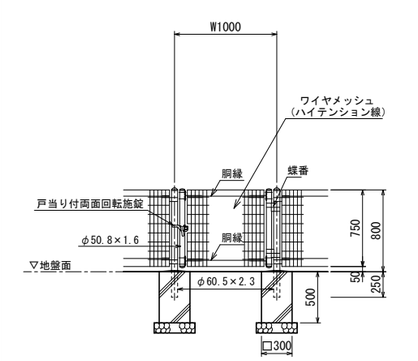
門扉エ３型　詳細図　【1.0箇所】　S=1：30



門扉エ４型　詳細図　【1.0箇所】　S=1：30



門扉エ５型　詳細図　【1.0箇所】　S=1：30



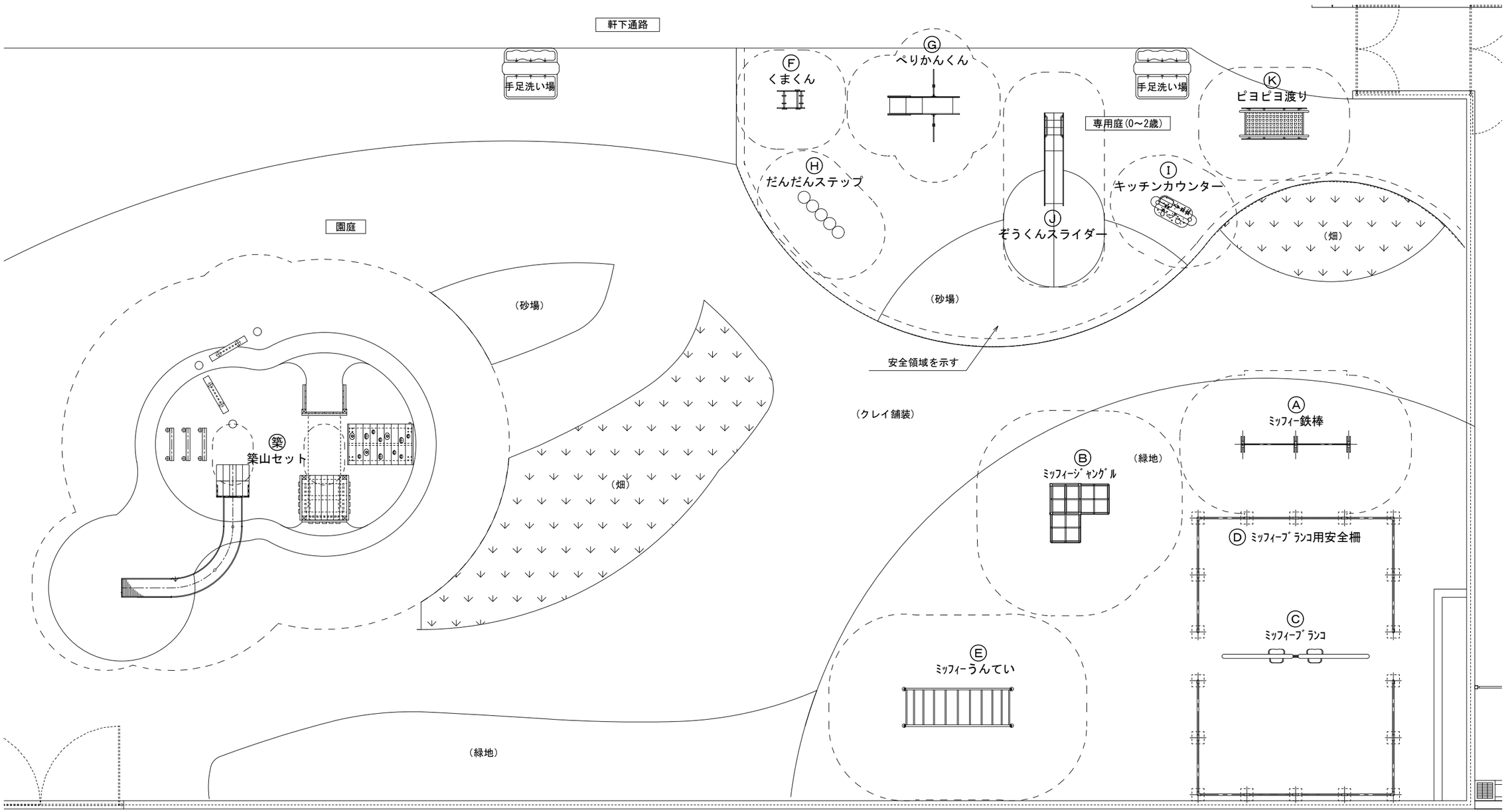
特記事項
訂正事項

承認	設計	担当

縮尺 S=1：30,150(A1)
S=1：60,300(A3)
設計年月日

工事名称　石和第一保育所建設工事（建築主体）（債務）
図面名称　フェンスエ　詳細図

No. F －04



遊具リスト【園庭】

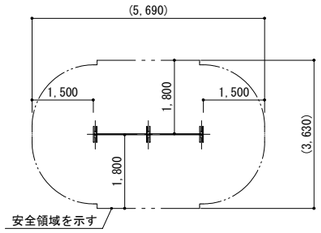
記号	品　名	仕　様	数量
Ⓐ	ミッフィー鉄棒（２連）	高1,050×幅400×長2,600㎜ バー高750、900㎜	１基
Ⓑ	ミッフィージャングル	高1,140×幅1,400×長1,400㎜	１基
Ⓒ	ミッフィーブランコ（２人乗用）	高2,250×幅3,520㎜ 指詰め防止機能付SUSﾁｪｰﾝ　座面FRP成型品	１基
Ⓓ	ミッフィーブランコ用安全柵	高685×幅4,800×長6,800㎜ 前後２台１組	１基
Ⓔ	ミッフィーうんてい	高1,000×幅900×長2,650㎜	１基
築	築山セット	高2,040×幅6,610×長7,730㎜	１基

遊具リスト【専用庭(0～2歳)】

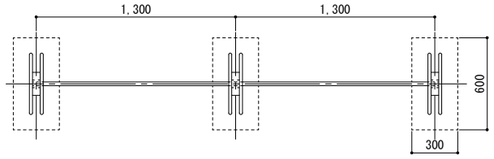
記号	品　名	仕　様	数量
Ⓕ	くまくん	高490×幅438×長675㎜	１基
Ⓖ	ぺりかんくん	高590×幅1,780×長1,760㎜	１基
Ⓗ	だんだんステップ	５本１組	１基
Ⓘ	キッチンカウンター	高1,510×幅1, 240×長521㎜	１基
Ⓙ	ぞうくんスライダー	高1,170×幅478×長2,280㎜	１基
Ⓚ	ピヨピヨわたり	高680×幅775×長1,665㎜	１基

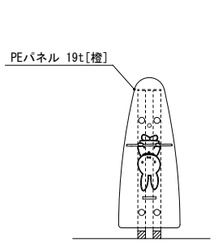
特記事項 訂正事項		承認	設計	担当		縮尺 S=1：50(A1) S=1：100(A3) 設計年月日	工事名称 石和第一保育所建設工事（建築主体）（債務） 図面名称 遊具　レイアウト図	No. Ｆ－０５

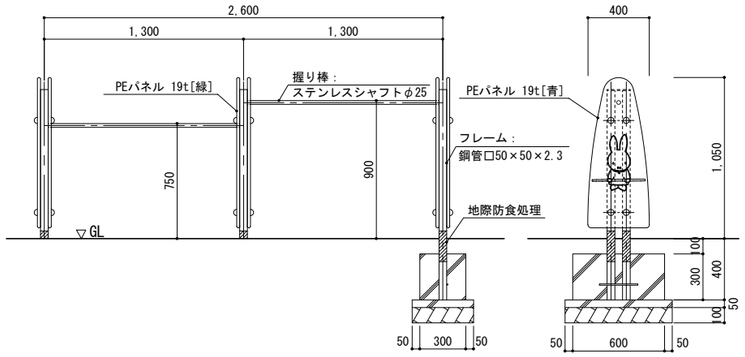
A　ミッフィー鉄棒（２連）　S=1：20



安全領域平面図





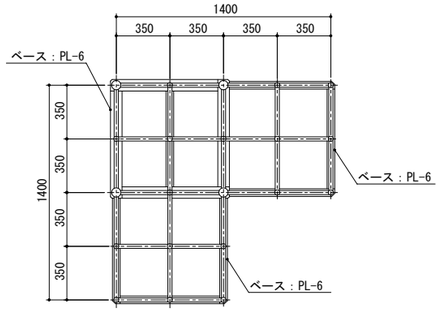


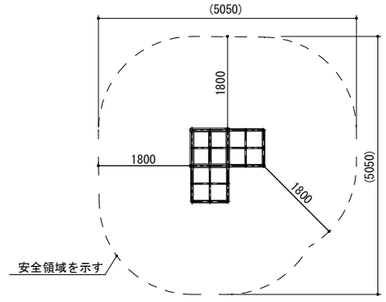
特記事項
スチール部：亜鉛メッキ下地、ウレタン塗装仕上
ボルト類：ステンレス品使用
対象年齢：３歳～６歳

（一社）日本公園施設業協会会員企業製品、同協会団体賠償責任保険適用製品。
品質向上のため、仕様変更を行う場合がありますのでご了承下さい。
※製品に付加されるキャラクターの種類・ロゴタイプ等は変更となる場合があります。

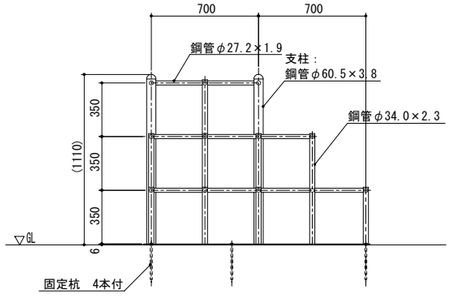
ツムラ標準塗装色	
部　位	塗　装　色
フレーム	ミッフィー<赤>
フレーム	グリーン
フレーム	ブルー
※バーはｽﾚﾝﾚｽ材のため、塗装無です	

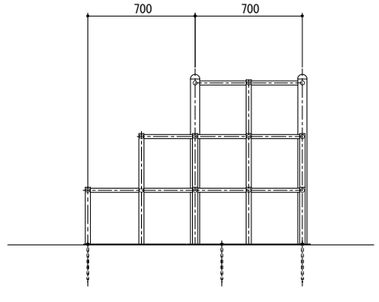
B　ミッフィージャングル　S=1：40





安全領域平面図



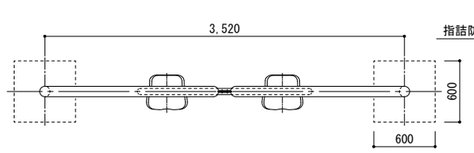


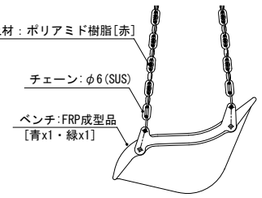
特記事項
スチール部：亜鉛メッキ下地、ウレタン塗装仕上
対象年齢：３歳～６歳

（一社）日本公園施設業協会会員企業製品、同協会団体賠償責任保険適用製品。
品質向上のため、仕様変更を行う場合がありますのでご了承下さい。

ツムラ標準塗装色	
部　位	塗　装　色
支柱：ベース	ミッフィー<赤>
ｼﾞｬﾝｸﾞﾙｼﾞﾑ(ｾﾝﾀｰ)	イエロー
ｼﾞｬﾝｸﾞﾙｼﾞﾑ(袖部)	ブルー
支柱：ベース	グリーン

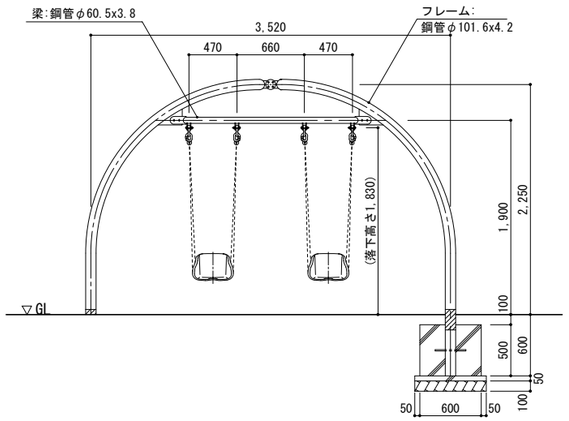
C　ミッフィーブランコ（２人乗用）　S=1：30

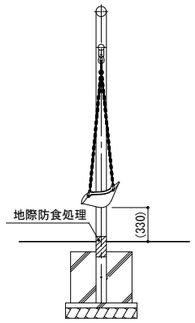


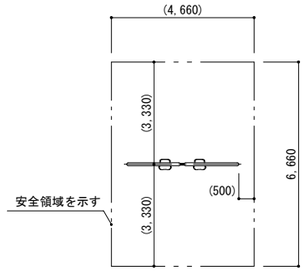


ベンチ・チェーン詳細図

ボリス［緑ベンチ/ベーバラ［青ベンチ］







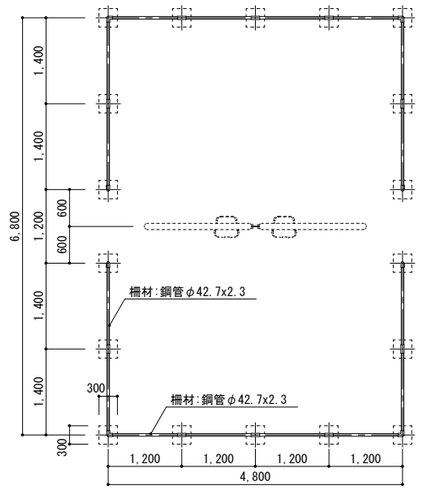
安全領域平面図

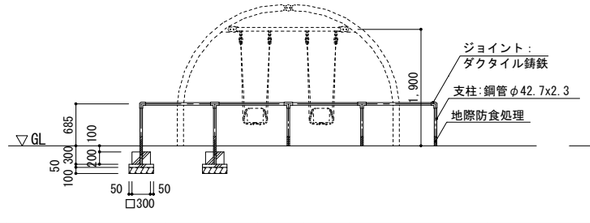
特記事項
スチール部：亜鉛メッキ下地、ウレタン塗装仕上
ボルト類：ステンレス品使用
対象年齢：３歳～６歳

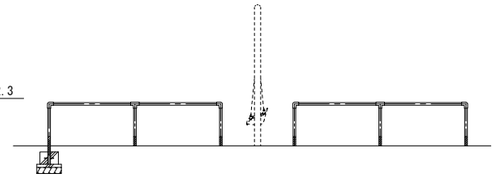
（一社）日本公園施設業協会会員企業製品、同協会団体賠償責任保険適用製品。
品質向上のため、仕様変更を行う場合がありますのでご了承下さい。
※製品に付加されるキャラクターの種類・ロゴタイプ等は変更となる場合があります。

ツムラ標準塗装色	
部　位	塗　装　色
フレーム	ミッフィー<赤>
梁	イエロー

D　ミッフィーブランコ用安全柵　S=1：50







特記事項
スチール部：亜鉛メッキ下地、ウレタン塗装仕上
ボルト類：ステンレス品使用

（一社）日本公園施設業協会会員企業製品、同協会団体賠償責任保険適用製品。
品質向上のため、仕様変更を行う場合がありますのでご了承下さい。

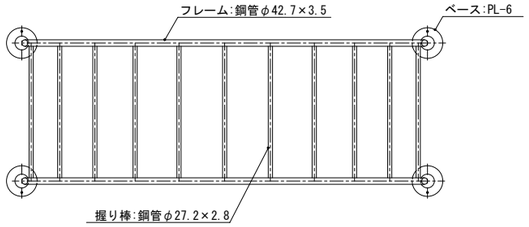
ツムラ標準塗装色	
部　位	塗　装　色
支柱・柵材	ブルー
ジョイント	イエロー

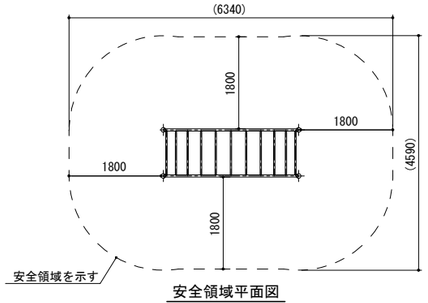
特記事項 訂正事項	承認	設計	担当	縮尺	S=1：20,30,40,50(A1) S=1：40,60,80,100(A3)	工事名称	石和第一保育所建設工事（建築主体）（債務）	No.
				設計年月日		図面名称	遊具　詳細図（１）	Ｆ－０６

E ミッフィーうんてい　S=1：20

特記事項
スチール部：亜鉛メッキ下地、ウレタン塗装仕上
対象年齢：３歳～６歳

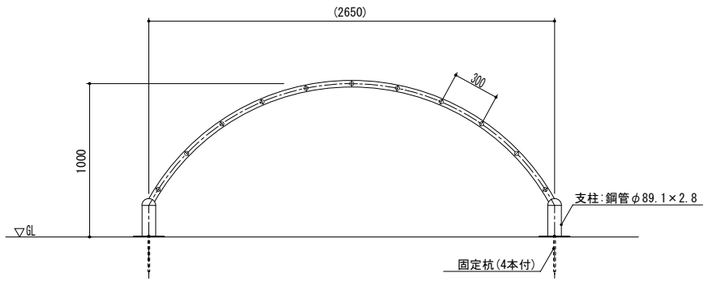
（一社）日本公園施設業協会会員企業製品、同協会団体賠償責任保険適用製品。
品質向上のため、仕様変更を行う場合がありますのでご了承下さい。

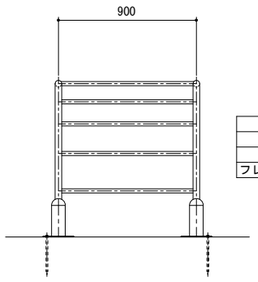




安全領域平面図

※本製品は乳幼児を対象とした遊具です。
※記載の安全領域寸法は、年齢制限エリア内へ設置した場合の寸法です。





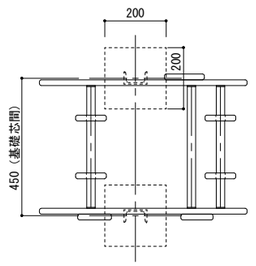
ツムラ標準塗装色	
部　位	塗　装　色
支柱	ミッフィー＜赤＞
フレーム・握り棒	イエロー

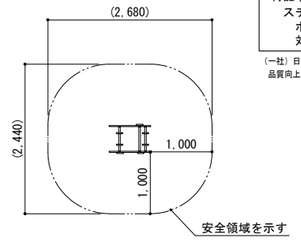
F くまくん　S=1：30

特記事項
スチール部：亜鉛メッキ下地、ウレタン塗装仕上
ボルト類：ステンレス品使用
対象年齢：１～３歳

（一社）日本公園施設業協会会員企業製品、同協会団体賠償責任保険適用製品。
品質向上のため、仕様変更を行う場合がありますのでご了承下さい。

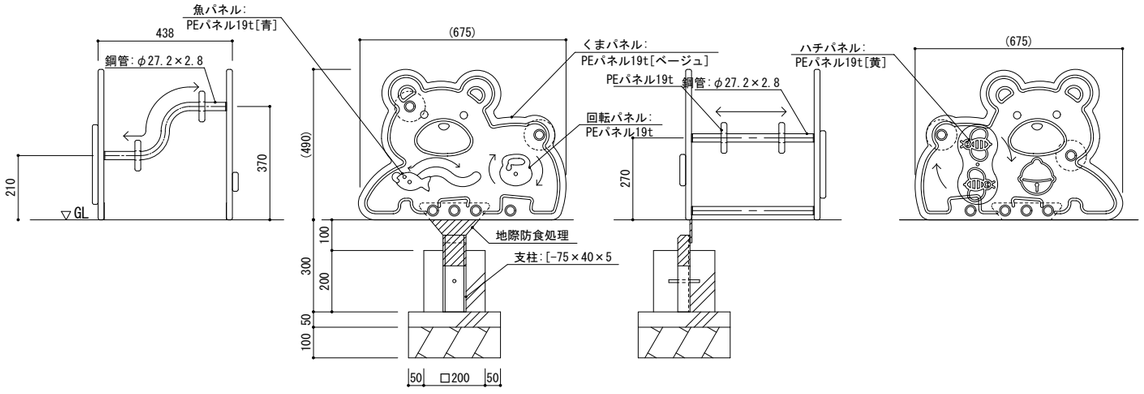
ツムラ標準塗装色	
部　位	塗　装　色
支柱・フレーム	ヤンググリーン





安全領域平面図

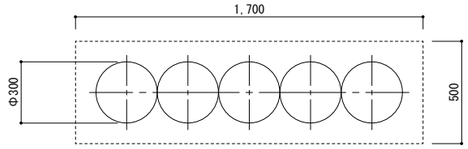
※本製品は乳幼児を対象とした遊具です。
※記載の安全領域寸法は、年齢制限エリア内へ設置した場合の寸法です。

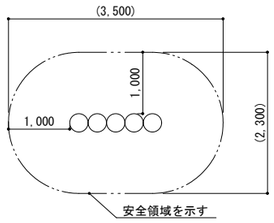


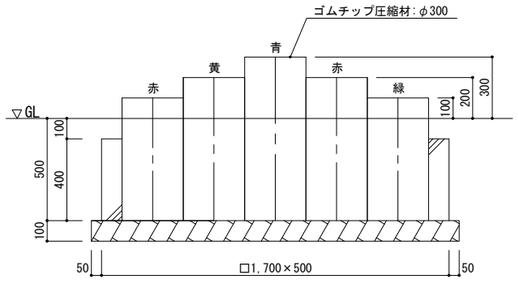
H だんだんステップ　S=1：15

特記事項
ゴム部：リサイクルゴムチップ成型品
対象年齢：１歳～３歳

（一社）日本公園施設業協会会員企業製品、同協会団体賠償責任保険適用製品。
品質向上のため、仕様変更を行う場合がありますのでご了承下さい。







安全領域平面図

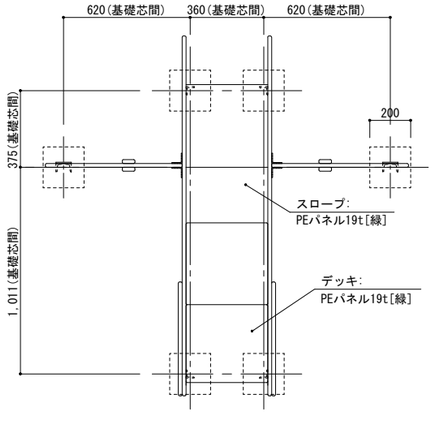
※本製品は乳幼児を対象とした遊具です。
※記載の安全領域寸法は、年齢制限エリア内へ設置した場合の寸法です。

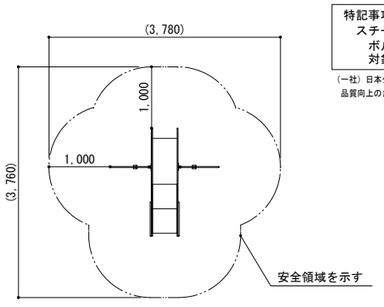
G ぺりかんくん　S=1：15

特記事項
スチール部：亜鉛メッキ下地、ウレタン塗装仕上
ボルト類：ステンレス品使用
対象年齢：１～３歳

（一社）日本公園施設業協会会員企業製品、同協会団体賠償責任保険適用製品。
品質向上のため、仕様変更を行う場合がありますのでご了承下さい。

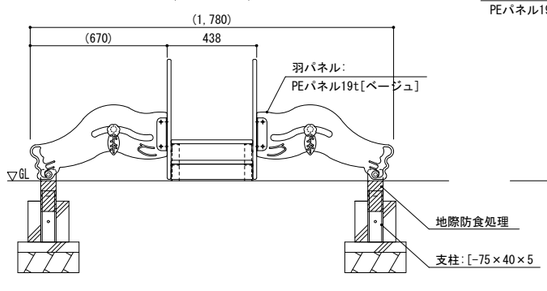
ツムラ標準塗装色	
部　位	塗　装　色
支柱	ヤンググリーン

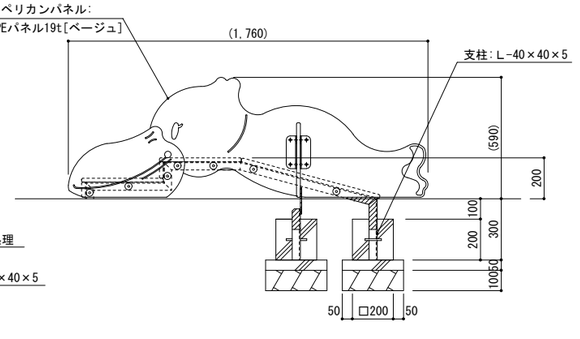




安全領域平面図

※本製品は乳幼児を対象とした遊具です。
※記載の安全領域寸法は、年齢制限エリア内へ設置した場合の寸法です。





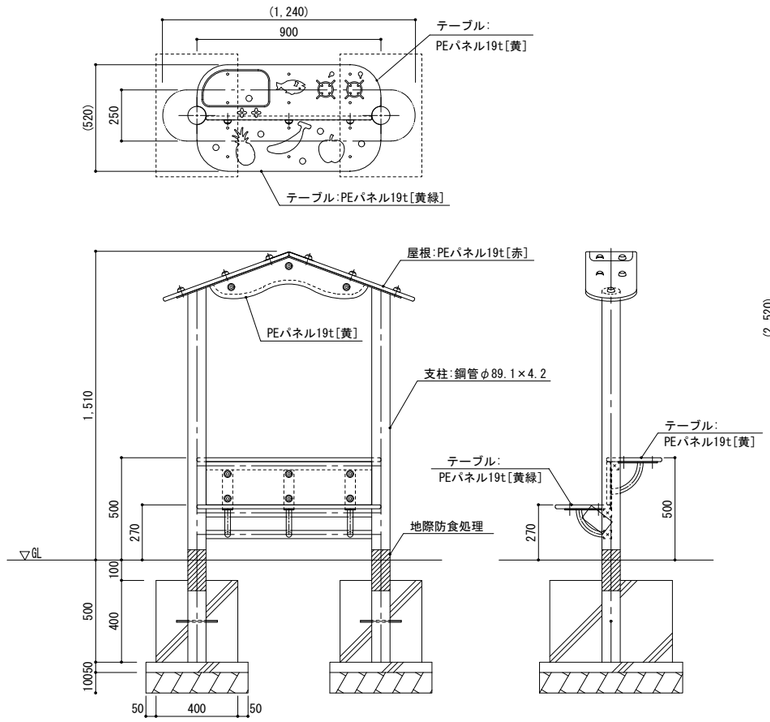
特記事項 訂正事項						承　認	設　計	担　当		縮　尺	S=1：15,20,30(A1) S=1：30,40,60(A3)	工事名称	石和第一保育所建設工事（建築主体）（債務）	No.
										設計年月日		図面名称	遊具　詳細図（２）	Ｆ －０７

I キッチンカウンター　S=1：15

特記事項
スチール部：亜鉛メッキ下地、ウレタン塗装仕上
ボルト類：ステンレス品使用
対象年齢：１～３歳

（一社）日本公園施設業協会会員企業製品、同協会団体賠償責任保険適用製品。
品質向上のため、仕様変更を行う場合がありますのでご了承下さい。

ツムラ標準塗装色	
部　位	塗　装　色
支柱・フレーム	スカイブルー



安全領域平面図

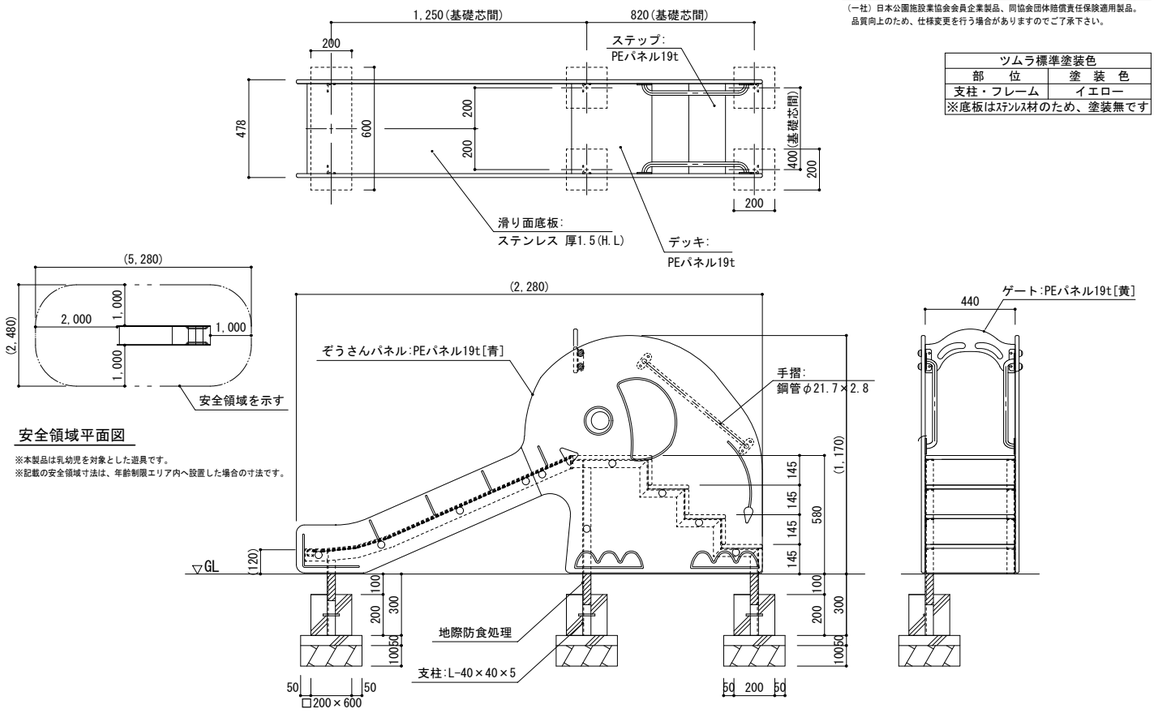
※本製品は乳幼児を対象とした遊具です。
※記載の安全領域寸法は、年齢制限エリア内へ設置した場合の寸法です。

J ぞうくんスライダー　S=1：15

特記事項
スチール部：亜鉛メッキ下地、ウレタン塗装仕上
ボルト類：ステンレス品使用
対象年齢：１～３歳

（一社）日本公園施設業協会会員企業製品、同協会団体賠償責任保険適用製品。
品質向上のため、仕様変更を行う場合がありますのでご了承下さい。

ツムラ標準塗装色	
部　位	塗　装　色
支柱・フレーム	イエロー
※底板はｽﾃﾝﾚｽ材のため、塗装無です	



安全領域平面図

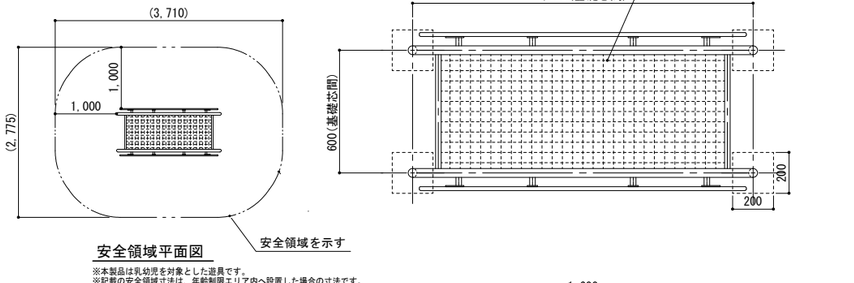
※本製品は乳幼児を対象とした遊具です。
※記載の安全領域寸法は、年齢制限エリア内へ設置した場合の寸法です。

K ピヨピヨわたり　S=1：15

特記事項
スチール部：亜鉛メッキ下地、ウレタン塗装仕上
ボルト類：ステンレス品使用
対象年齢：１～３歳

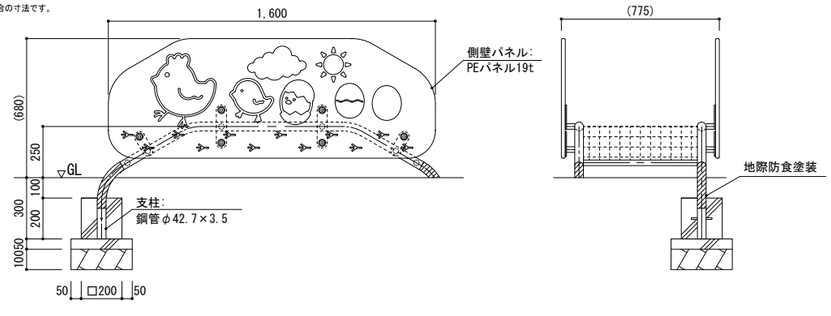
（一社）日本公園施設業協会会員企業製品、同協会団体賠償責任保険適用製品。
品質向上のため、仕様変更を行う場合がありますのでご了承下さい。

ツムラ標準塗装色	
部　位	塗　装　色
支柱・フレーム	イエロー



安全領域平面図

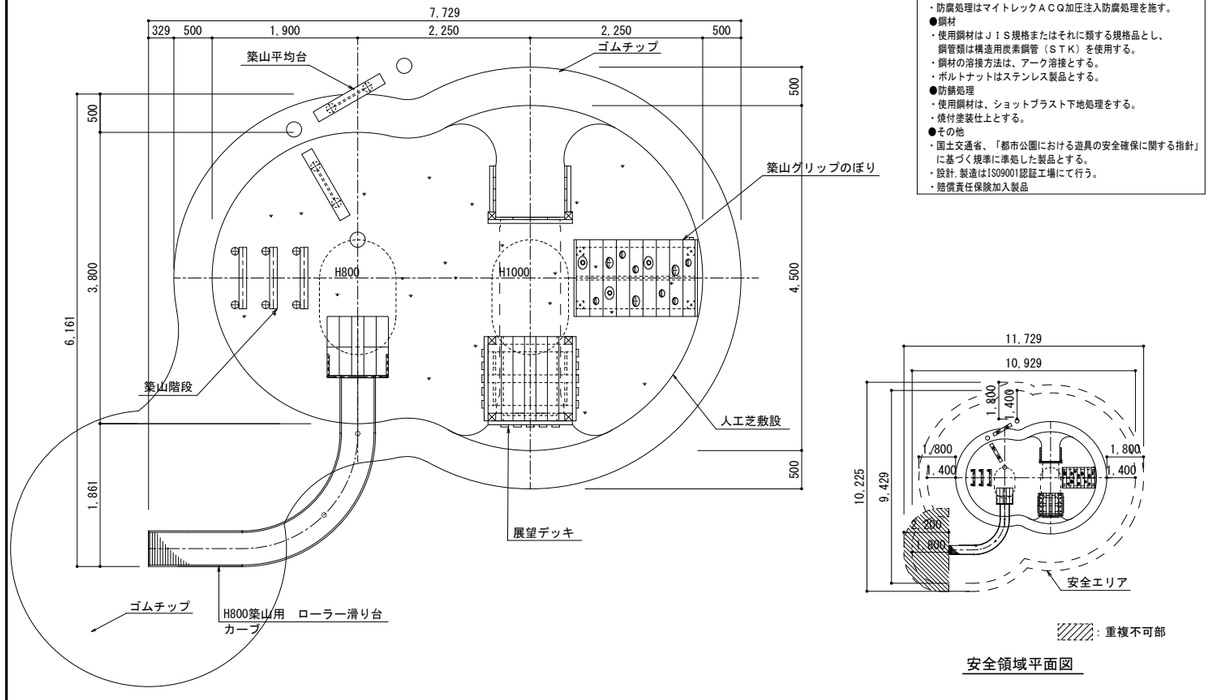
※本製品は乳幼児を対象とした遊具です。
※記載の安全領域寸法は、年齢制限エリア内へ設置した場合の寸法です。



築 築山セット　S=1：40

対象年齢：３～６歳

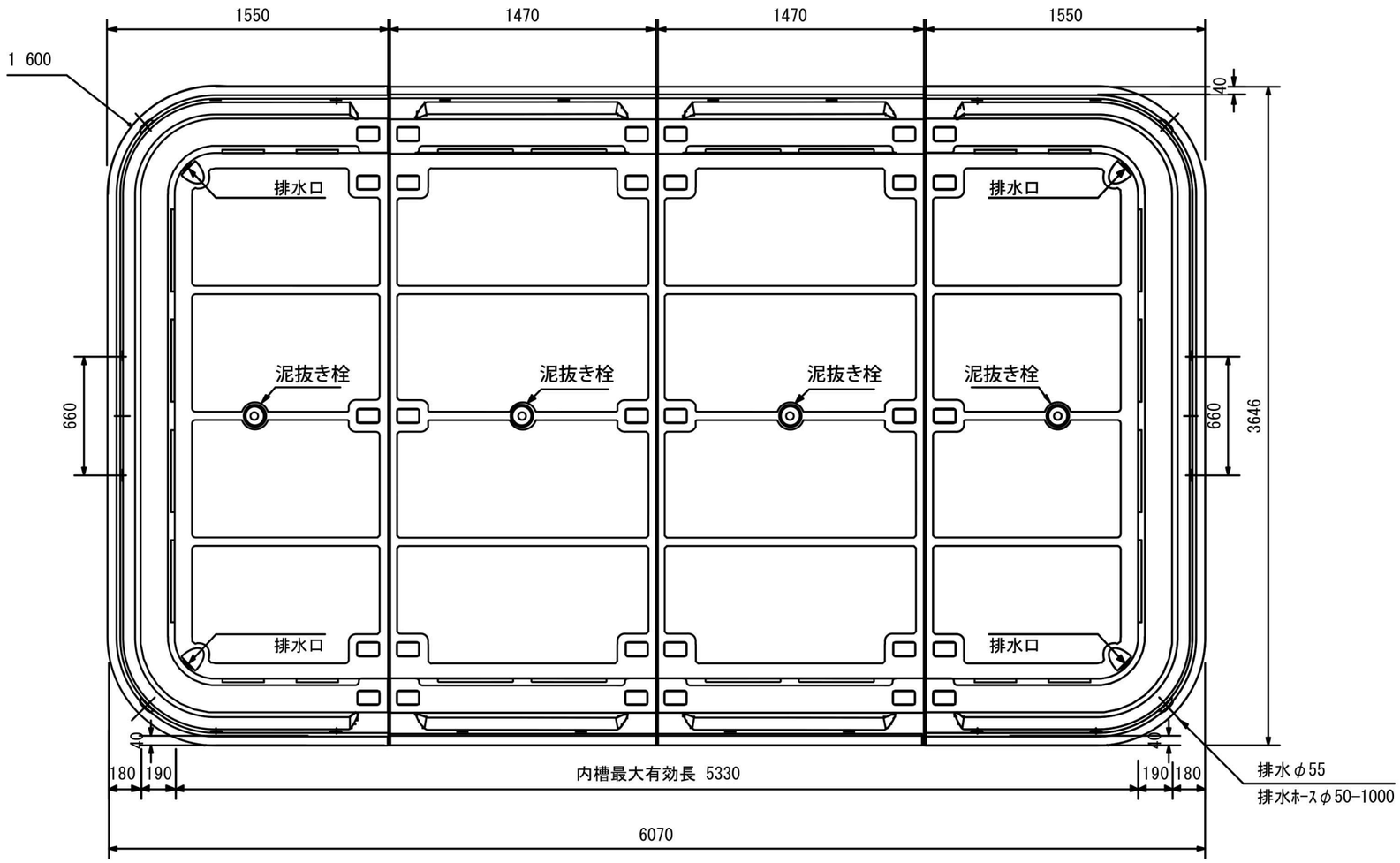
■特記仕様
●木部
・使用木材は杉材とする。
・防腐処理はマイトレックＡＣＱ加圧注入防腐処理を施す。
●鋼材
・使用鋼材はＪＩＳ規格またはそれに類する規格品とし、鋼管類は構造用炭素鋼管（ＳＴＫ）を使用する。
・鋼材の溶接方法は、アーク溶接とする。
・ボルトナットはステンレス製品とする。
●防錆処理
・使用鋼材は、ショットブラスト下地処理をする。
・焼付塗装仕上とする。
●その他
・国土交通省、「都市公園における遊具の安全確保に関する指針」に基づく規準に準処した製品とする。
・設計、製造はISO9001認証工場にて行う。
・賠償責任保険加入製品

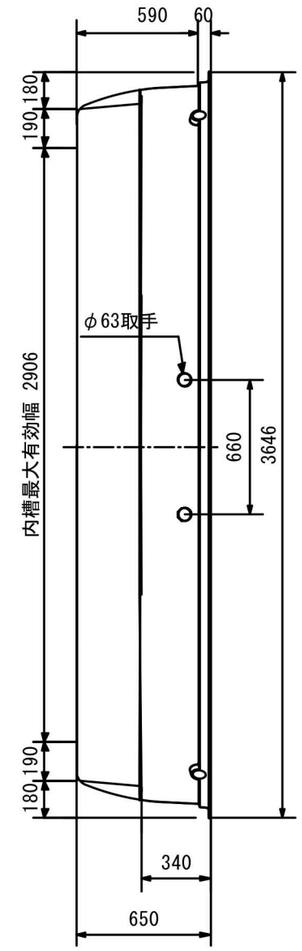


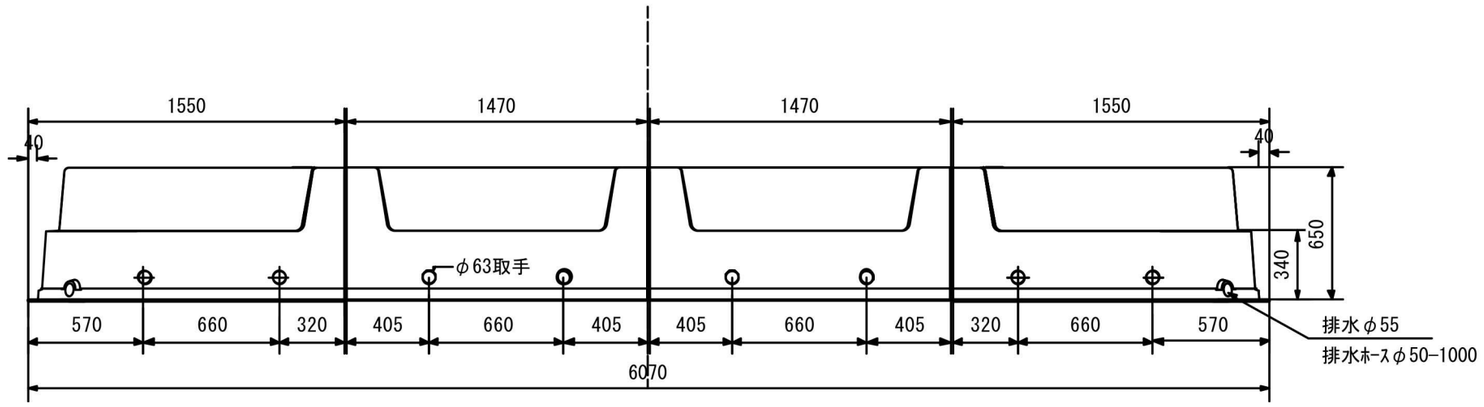
安全領域平面図

特記事項 訂正事項		承　認	設　計	担　当	縮　尺	S=1：15.40(A1) S=1：30.80(A3)	工事名称	石和第一保育所建設工事（建築主体）（債務）	No.
					設計年月日		図面名称	遊具　詳細図（３）	Ｆ－０８

名　称	全　幅	全　長	全　高	内槽最大有効幅	内槽最大有効長	内槽最大有効深さ	内槽水容量(㎥)		本体質量(kg)
							水深50cm	水深59cm	
スクエア・3型	3646	6070	650	2906	5330	590	7.54	9.03	≒380







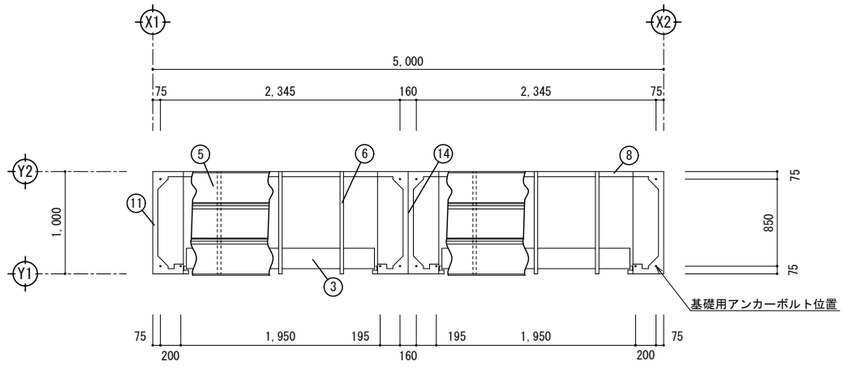
特記事項 訂正事項						承　認	設　計	担　当		縮　尺	S=1：15(A1) S=1：30(A3)	工事名称	石和第一保育所建設工事（建築主体）（債務）	No.
										設計年月日		図面名称	プール　詳細図	F －09

■仕様リスト

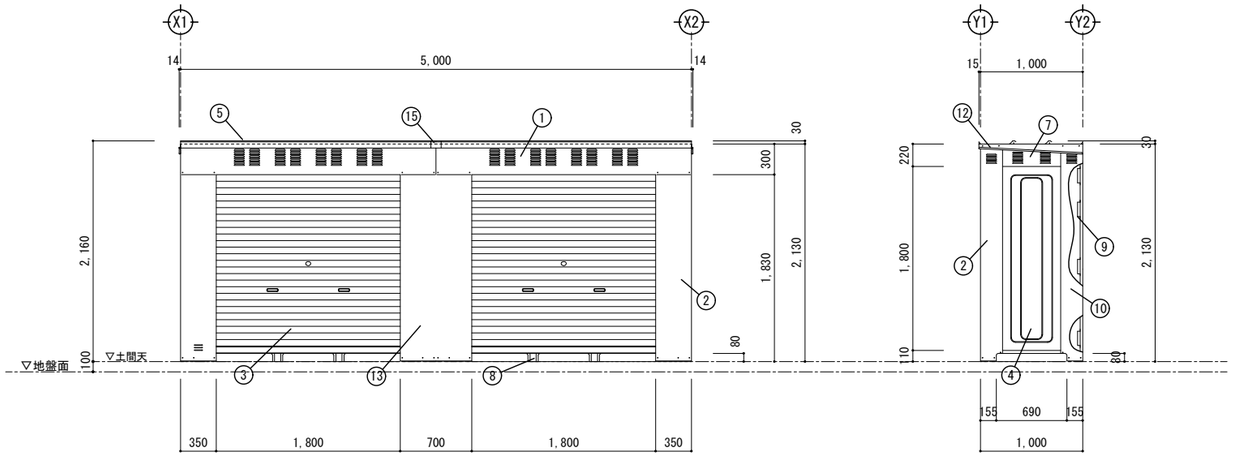
番号	部材名	数量	材料	番号	部材名	数量	材料
1	前梁	2	めっき鋼板	16	後パネル	6	高耐食めっき鋼板
2	前柱	右1左1	めっき鋼板	17	間柱	4	めっき鋼板
3	シャッター	2	めっき鋼板　t0.4	18	後土台	2	高耐食めっき鋼板
4	側パネル	2	高耐食めっき鋼板	19	後柱	右1左1	めっき鋼板
5	屋根	前2中2後2	高耐食めっき鋼板	20	後梁	2	めっき鋼板
6	母屋	6	めっき鋼板	21	屋根	6	高耐食めっき鋼板
7	側梁	2	めっき鋼板	22	中後柱	1	めっき鋼板
8	後土台	2	高耐食めっき鋼板				
9	横桟	8	めっき鋼板				
10	後柱	右1左1	めっき鋼板				
11	左右土台	2	高耐食めっき鋼板				
12	屋根受け雨樋	右1左1	高耐食めっき鋼板				
13	中前柱	1	めっき鋼板				
14	中土台	2	高耐食めっき鋼板				
15	屋根繋ぎ	前1中1後1	高耐食めっき鋼板				

■建物面積表

計算式	計
5.00　×　1.00	5.00
延床面積	5.00（㎡）
建築面積	5.00（㎡）

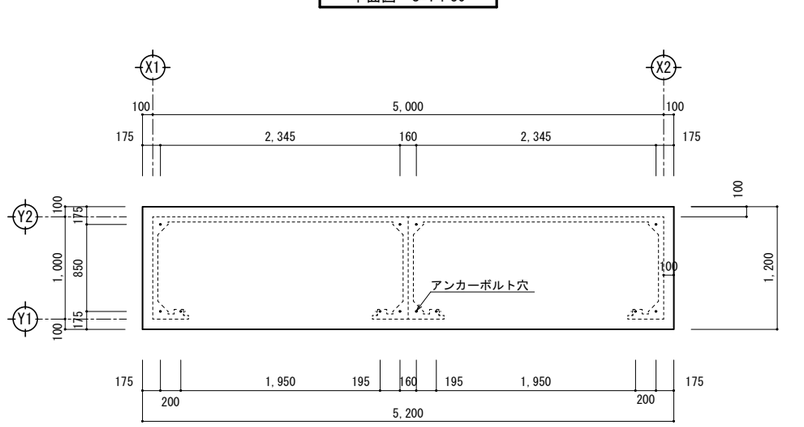


平面図　S=1：30

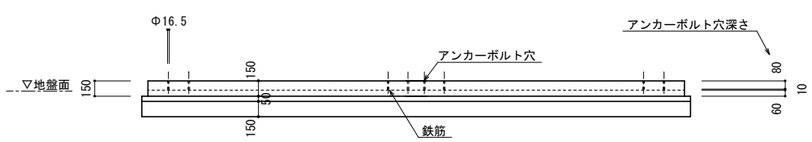


東側立面図　S=1：30

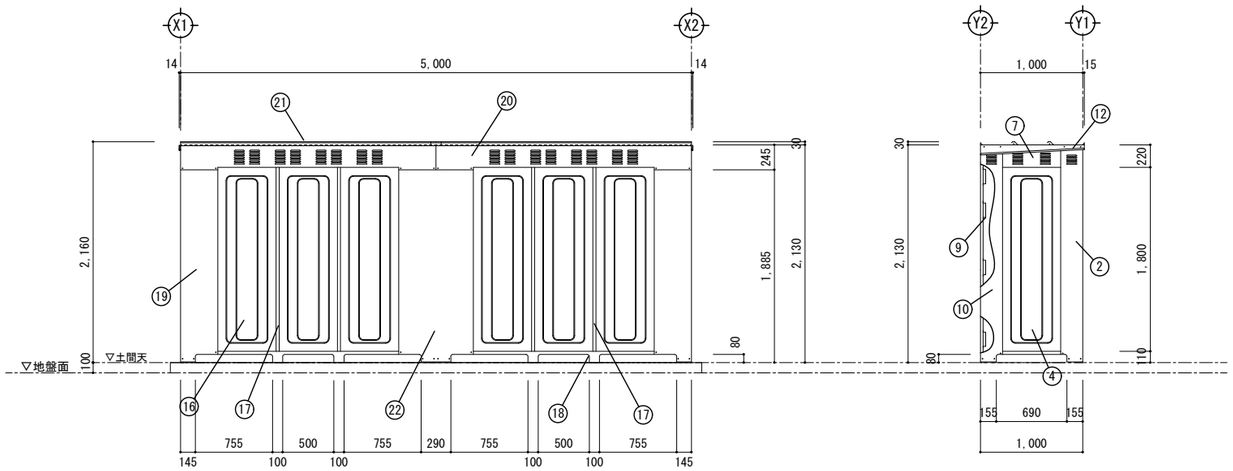
北側立面図　S=1：30



基礎平面図　S=1：30



基礎断面図　S=1：30

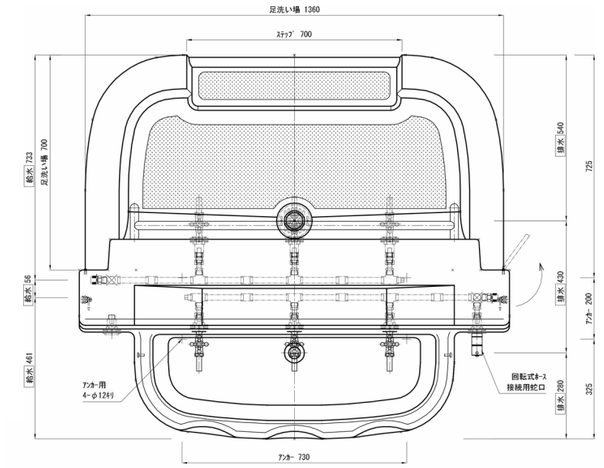


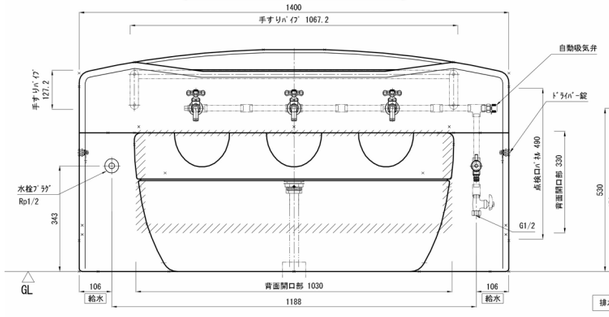
西側立面図　S=1：30

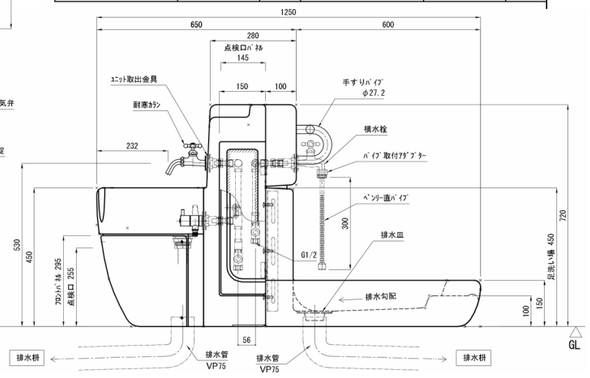
南側立面図　S=1：30

特記事項 訂正事項						承認	設計	担当		縮尺 S=1：30(A1) S=1：60(A3) 設計年月日	工事名称　石和第一保育所建設工事（建築主体）（債務） 図面名称　ＬＰＧ収納庫　詳細図	No. Ｆ－１０

手足洗い場　詳細図　S=1：10







水栓部品　セット内容	品番	数量	水栓部品　セット内容	品番	数量
耐寒カラン	KTL-10A	3	ﾍﾞﾝﾄﾞ直ﾊｲﾌﾞ	PA286A-76×3-16	3
回転式ホース接続用蛇口	K-5CP	1	ﾊﾟｲﾌﾟ取付ｱﾀﾞﾌﾟﾀｰ	791-405	3
横水栓	701-022-13	3	調整ﾊﾟｯｷﾝ		6
排水ホース（1m）		1			

現場手配ﾊﾟｰﾂ
※給水管との接続部品
※ｼｰﾙﾃｰﾌﾟ

開口部

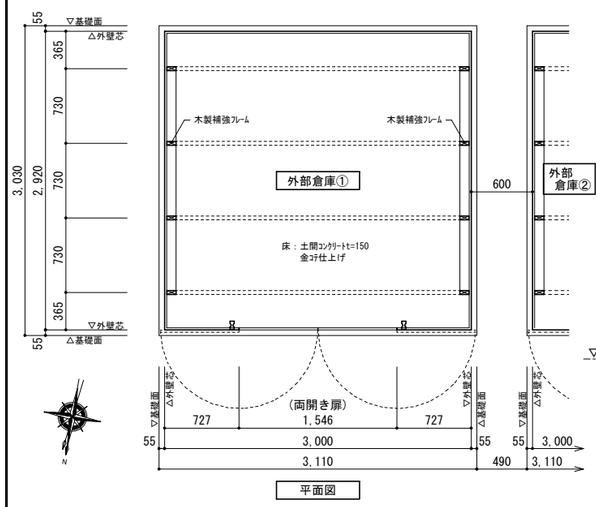
ﾉﾝｽﾘｯﾌﾟ

〈事前施工情報〉
- ●あらかじめ所定の位置に排水管・給水管を設置してください。
- ●手洗いと足洗い用の給水管は別々の給水管から接続してください。水圧が低いと、同時に使用した際に本来の性能が得られない可能性があります。
- ●あらかじめ所定の位置に排水管（Ｖ Ｐ75）を立ち上げておいてください。
- ●近くに排水弁を設けてください。
- ●設置地盤が弱い場合はコンクリート基礎などで固定してください。
- ●多雪地域・凍結が予想される地域では、各自治体の設備設計要領に基づき凍結防止対策を行ってください。

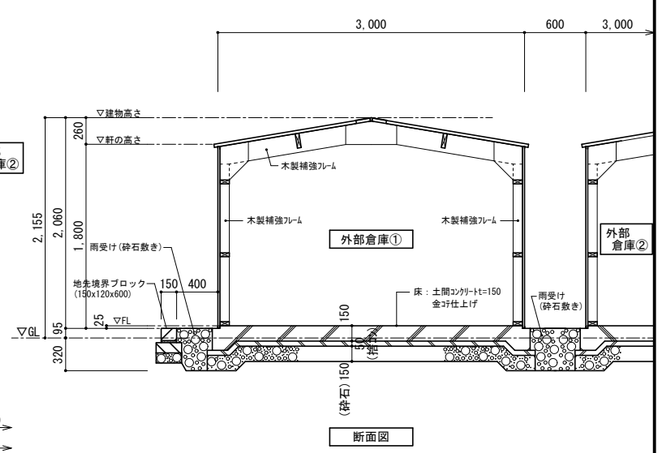
金具類	品番	数量	金具類	品番	数量
グリップアンカー	M10	4	SUS六角ボルト	M8×25	4
六角ボルト　SS	M10×20	4	SUS ｽﾌﾟﾘﾝｸﾞﾜｯｼｬｰ	M8	4
ﾜｯｼｬｰ　SS	M10	4	SUS ﾜｯｼｬｰ	M8	4
SUS六角ボルト	M6×25	6	手すりパイプ		1
SUS ｽﾌﾟﾘﾝｸﾞﾜｯｼｬｰ	M6	6	給水管保温ﾁｭｰﾌﾞ	STQ-13	1
SUS ﾜｯｼｬｰ	M6	6	施工説明書		1

屋外倉庫①、②　詳細図　S=1：30

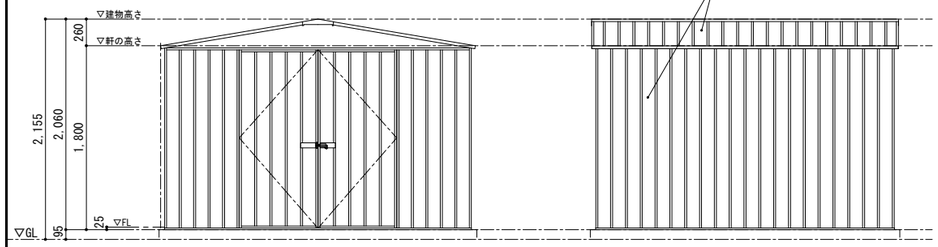
※ユーロ物置３０２９Ｆ２同等品



平面図



断面図



北側立面図　西側立面図

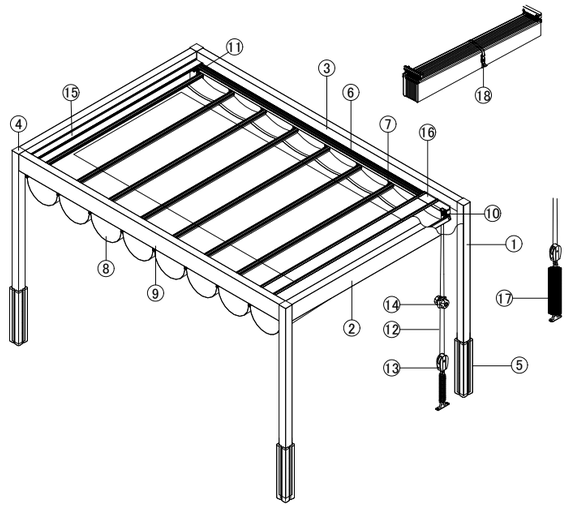
建物面積表（1棟当り）	
3.00×2.92	8.76
延床面積	8.76（㎡）
建築面積	8.76（㎡）

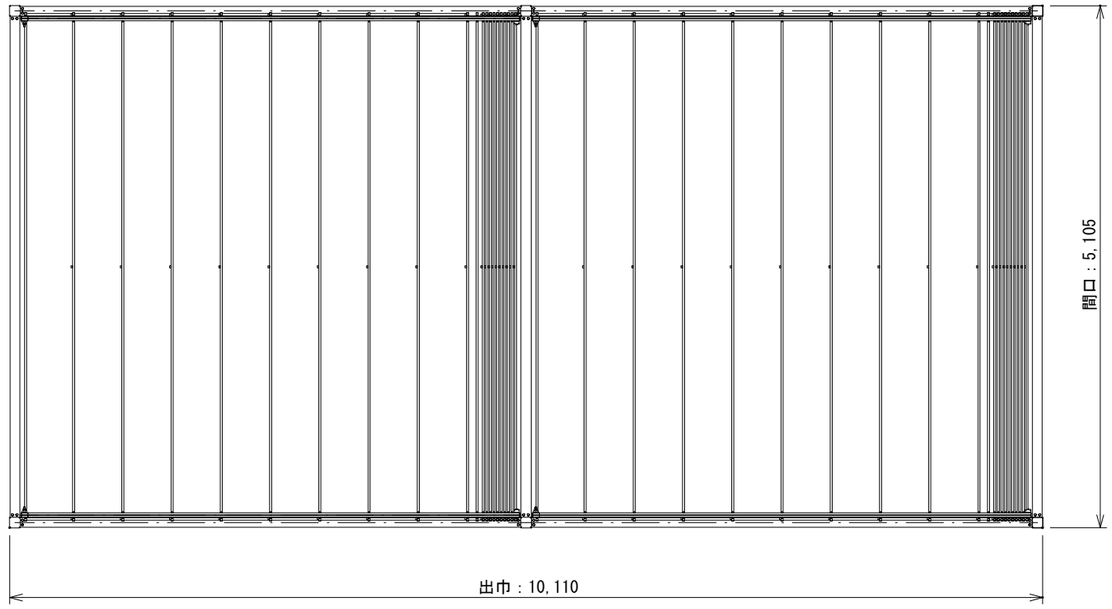
特記事項 訂正事項						承認	設計	担当		縮尺 S=1：10、30(A1) S=1：20、60(A3) 設計年月日	No. Ｆ－１１
										工事名称	石和第一保育所建設工事（建築主体）（債務）
										図面名称	各詳細図

①	柱
②	桁（ 間口方向）
③	桁（ 出巾方向）
④	柱キャップ
⑤	保護カバー
⑥	レール
⑦	キャンバスバー
⑧	キャンバス（ポリエステル）防炎
⑨	スライダー（ レール内）
⑩	レール取付滑車
⑪	リード金具
⑫	操作ロープ
⑬	ロープテンションセット
⑭	ロープストッパー
⑮	見切り材
⑯	カバー
⑰	ロープテンションセットカバー
⑱	バタつき防止ベルト

主 要 部 材 名 称

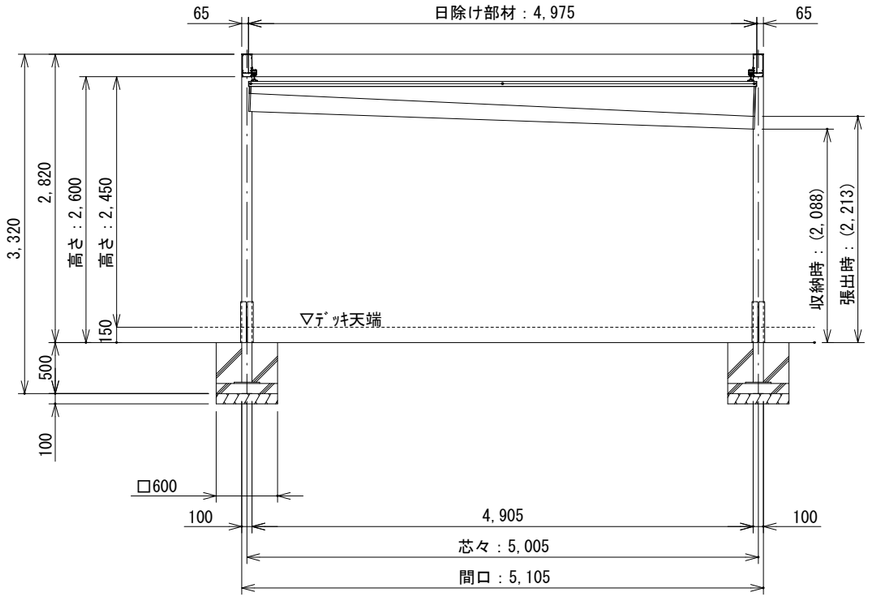
※アルミフレーム製（ 木目調）
※手動滑車型





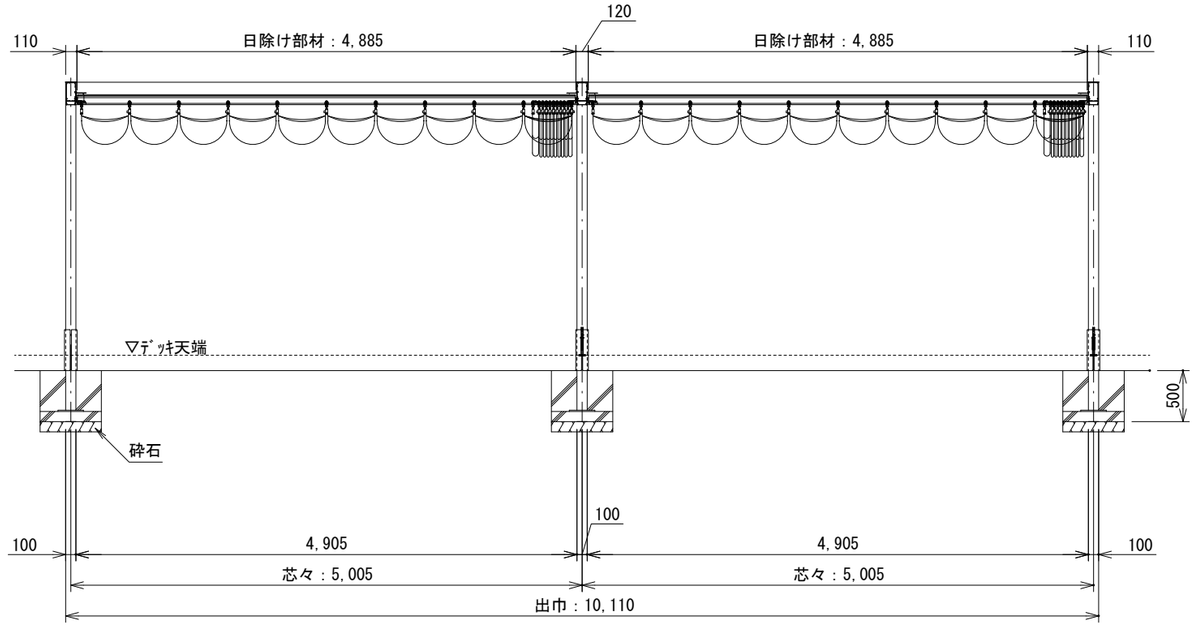
平面図　S=1：30

張出側 〈可動方向〉 収納側



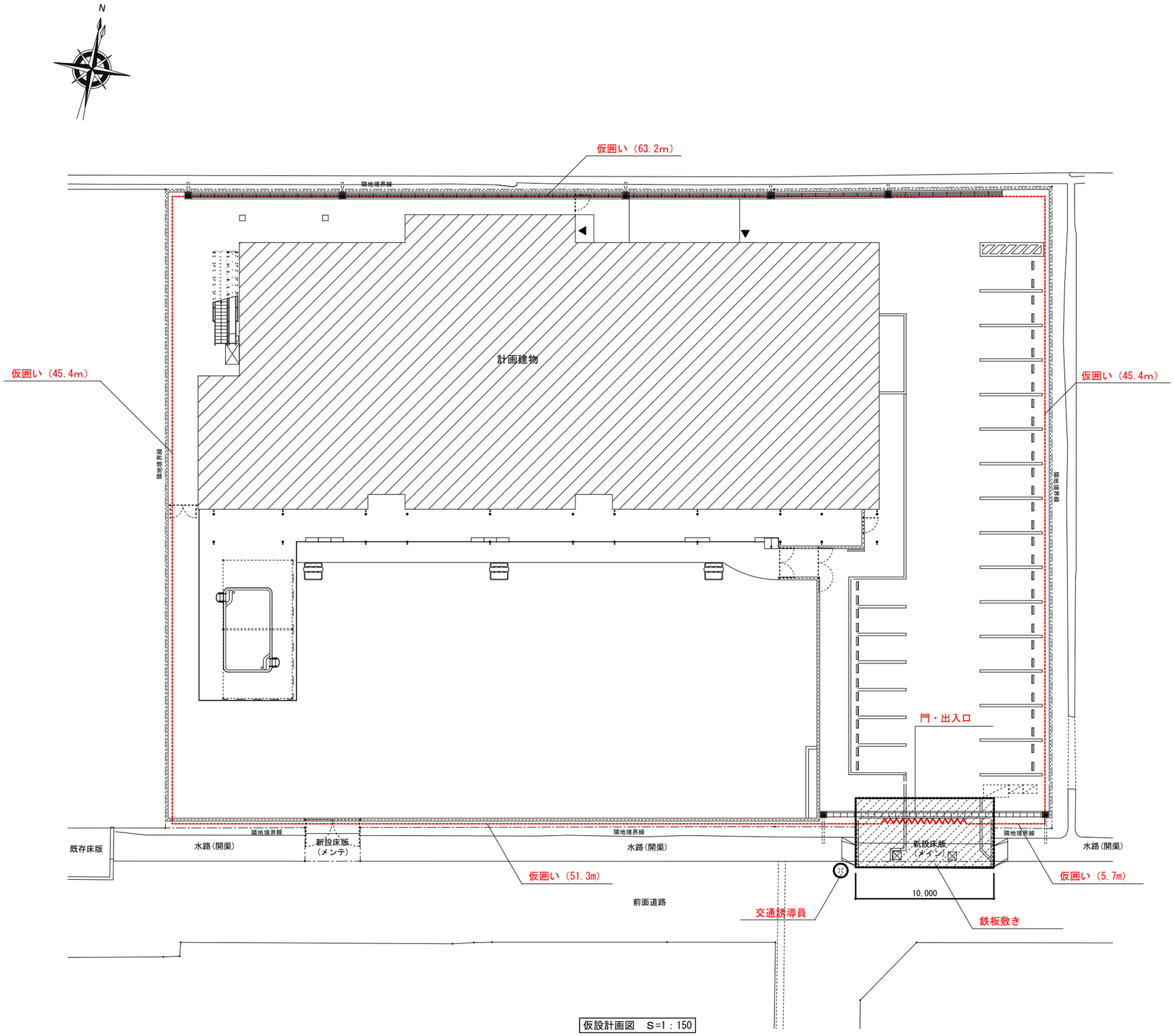
正面図　S=1：30

張出側 〈可動方向〉 収納側



側面図　S=1：30

特記事項 訂正事項		承認	設計	担当	縮尺 S=1：10,25(A1) S=1：20,50(A3) 設計年月日	工事名称 石和第一保育所建設工事（建築主体）（債務） 図面名称 プールシェード　詳細図	No. F －12



仮設計画図　S=1：150

仮設リスト

項　目	摘　要	数　量
仮囲い	波板亜鉛鉄板(支柱単管組) H=1.8m	211.0　(m)
門・出入口	シートゲート W=6.0m、H=4.5m	1.0　(ヶ所)
	鉄板敷き t＝22mm	50.0　(㎡)
誘導員	交通誘導警備員Ｂ	200.0　(人)

特記事項 訂正事項	承認	設計	担当	縮尺 S=1：150(A1) S=1：300(A3) 設計年月日	工事名称　石和第一保育所建設工事（建築主体）（債務） 図面名称　仮設計画図	No. K －01